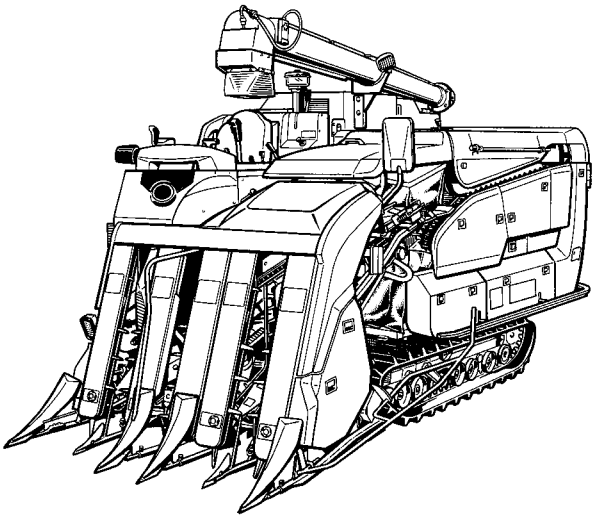
クボタコンバイン

取扱説明書

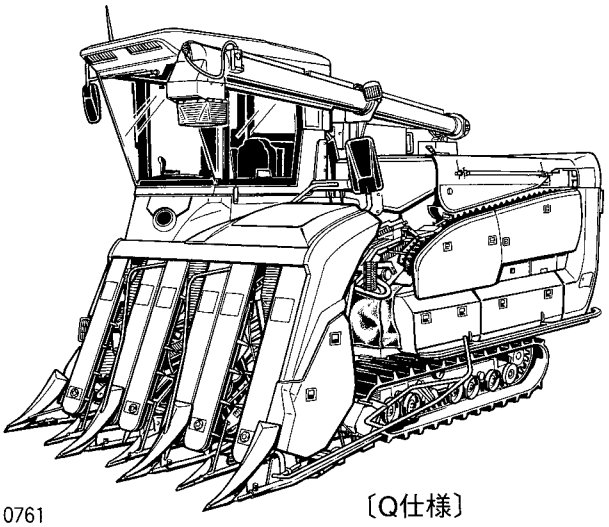
エアロ★スター

AR 60·70



M-9899

AR 80·90
AR 98



M-10761

〔Q仕様〕

ご使用前に必ずお読みください
いつまでも大切に保管してください

操作装置のシンボルマーク

運転操作及び保守管理のために，操作装置のシンボルマークが使用されています。シンボルマークの意味は下記のとおりですのでよく理解して戴き誤操作のないようご注意ください。

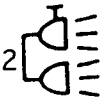
ホーン

エンジン回転数**“低回転”**

エンジン回転数**“高回転”**

ウインカランプ

ヘッドランプ



ヘッドランプと作業灯

エンジン停止

駐車ブレーキ

燃料

水温

エンジン油圧

バッテリ充電

専門用語の説明

- グロー …… エンジンの始動を容易にするための予熱
- パワーステアリングレバー …… 油圧式の操向操作レバーと刈取部昇降レバー
- ブレーキターン …… 左右どちらかのクローラを停止させて方向を変える旋回
- スピンターン …… 左右のクローラが互いに反対方向に駆動される旋回
- ソフトターン …… 左右のクローラの回転差で方向を変える旋回
- 超音波センサ …… 非接触で刈取部の高さを検出するセンサ
- デバイダ …… こくかんを分けすくい上げる部分
- ドレーン(プラグ) …… エンジンオイル・トランスミッションオイルの排油栓，ラジエータの水を抜く栓
- 刈取一方クラッチ …… 前進のときに刈取部を駆動し，後進のとき刈取部の駆動を断つ部品
- ＨＳＴ …… 油圧式の無段変速装置
- アジャスト …… 調節を意味する
- 主変速レバー …… **“前進”** **“後進”**の切換え及びそのスピードをコントロールするレバー
- １番スクリュ …… 精選されたこく粒を横搬送するスクリュコンベア
- ２番スクリュ …… 粗選されたこく粒やわらくずを横搬送するスクリュコンベア
- チャフシーブ …… こく粒を粗選する桟状の板
- トウミ …… 選別風を発生させるファン
- グレンシーブ …… こく粒を精選するあみ体
- 送じん調節レバー …… こぎ胴内の作物移動速度を調節するレバー
- 排じん調節 …… 選別されたわらくずの排出に抵抗をかける板
- こぎ胴 …… 脱こくするドラム
- フィードチェーン …… 稲を挟持搬送するチェーンコンベア
- 縦スクリュ …… 精選されたこく粒を縦搬送するスクリュコンベア
- こぎ胴オープン …… こぎ胴を上に上げる機構
- 揺動板(シーブケース) …… 揺動運動してこく粒を選別する装置
- アンローダ …… グレンタンクからもみを排出する筒

はじめに

このたびはクボタ製品をお買上げいただきありがとうございました。
この取扱説明書は本製品の正しい取扱い方法，簡単な点検及び手入れについて説明しています。ご使用前によくお読みいただいてじゅうぶん理解され，お買上げの製品がすぐれた性能を発揮し，かつ安全で快適な作業をするためこの冊子をご活用ください。また，お読みになったあとも製品に近接して保存し，わからないことがあったときには取出してお読みください。なお，品質・性能向上あるいは安全上，使用部品の変更を行なうことがあります。その際には，お買上げの製品とこの説明書の内容が一致しない場合がありますので，あらかじめご了承ください。

⚠ 安全第一

本書に記載した注意事項や機械に貼られた⚠の表示があるラベルは，人身事故の危険が考えられる重要な項目です。よく読んで必ず守ってください。
なお，⚠表示ラベルが汚損したり，はがれた場合はお買上げの購入先に注文し，必ず所定の位置に貼ってください。

5H601-8552-5

■注意表示について

本取扱説明書では，特に重要と考えられる取扱い上の注意事項について，次のように表示しています。

⚠ **危険**：注意事項を守らないと，死亡又は重傷を負うことになるものを示します。

⚠ **警告**：注意事項を守らないと，死亡又は重傷を負う危険性があるものを示します。

⚠ **注意**：注意事項を守らないと，ケガを負うおそれのあるものを示します。

重要：注意事項を守らないと，機械の損傷や故障のおそれのあるものを示します。

補足：その他，使用上役立つ補足説明を示します。

本製品の使用目的について

本製品は，稲・麦の刈取り・収穫用の作業機としてご使用ください。
使用目的以外の作業や改造はしないでください。
使用目的以外の作業や改造をした場合は，保証の対象になりませんのでご注意ください。（詳細はサービスブックをご覧ください。）

仕様について

この取扱説明書では，仕様の異なる製品を下記のように表示していますので，お買上げの製品の仕様をお確かめのうえ，お間違いのないようお願いいたします。
なお，説明は**“AR90SD仕様”**を基本とし，**“AR90SD仕様”**と取扱いが異なる場合はそのつど追加説明してあります。
従って，機種及び仕様区分によっては付いていない装置の説明もあります。

【例】　AR90　SD　M　T　SQ－H
①　②　③　④　⑤　⑥

①エンジン出力（刈取条数）によって……
- “AR60”（5条）
- “AR70”（5条）
- “AR80”（6条）
- “AR90”（6条）
- “AR98”（6条）

②諸装置の仕様によって（別表参照）……
- “DX仕様”（デラックス）
- “HD仕様”（ハイデラックス）
- “SD仕様”（スーパーデラックス）

③自動車体水平制御装置付き（ニューマジカルモンロー）…… “M仕様”

④走行部の旋回方式によって
- ●ブレーキ・スピン・ソフトターン…… “T仕様”
- ●ブレーキターン……表示なし

⑤キャビン付き…… “SQ仕様”（本文中表記はQ仕様）

⑥作物適応範囲（草丈の全長）によって
- ●550～1300（mm）……表示なし
- ●500～1200（mm）…… “H仕様”

諸装置＼仕様		DX	HD	SD	備考
自動化装置	自動車速制御	—	○	○	
	自動方向制御	—	△	○	
	自動刈高さ制御	—	—	○	
	自動こぎ深さ制御	○	○	○	
	自動レール制御	—	—	○	
	自動脱こく制御	—	○	○	
	アンローダ自動旋回制御	○	○	○	
	自動エンジン停止	○	○	○	
	エンジン正逆転ファン	○	○	○	**【90・98】**
	刈取オートクラッチ［刈取部上昇時搬送駆動停止機能］	—	○	○	
ポジピタ［刈取部ワンタッチ昇降機能］		—	○	○	
方向微調整		—	○	○	
こぎ胴パワーオープン		—	○	○	電動・油圧併用
グレンタンク張出し開閉		○	○	○	**【80・90・98】** 電動
バイブロシャッタ		—	○	○	もみ排出時連動
アンローダリモコン		—	△	○	
パワークラッチ［脱こく・刈取・もみ排出］		—	○	○	電動
集中注油		○	○	○	電動
刈取防じんカバー		—	△	○	Q仕様除く
プレクリーナ		—	○	○	
シュータ式拡散		○	○	○	

○：標準装備　—：非装備（後付け不可）　△：オプション（後付け可）

コンバインを安全にしかも上手にご使用していただくため，この取扱説明書は次の手順で構成されていますので，基本操作から刈取作業まで順番に理解体得してください。

まずは安全確保をしましょう

1．**⚠安全作業をするために：**安全作業をしていただくために基本的注意事項や警告ラベル・注意ラベルの機械への貼付け位置と警告・注意事項を解説していますのでよく読んで理解し，必ず守ってください。

動かす前に各装置を理解しましょう

2．**装置の名称と取扱い：**各装置のはたらきをまず理解し，基本操作を体得してください。

自動化装置でコンバインの性能を最大に発揮させましょう

3．**自動化装置の名称と取扱い：**自動化装置のはたらきと基本操作を体得してください。

動かす前にキャビン装置を理解しましょう

4．**キャビン装置【Q仕様】の名称と取扱い：**キャビン装置のはたらきと操作を体得してください。

動かす前に機械の健康診断をしましょう

5．**運転前の点検：**作業中のトラブル防止のため，毎作業前の点検内容を理解し，必ず実施してください。

エンジンの安全基本操作・コンバインの安全走行のための基本操作を体得しましょう

6．**移動走行と輸送：**

(1)機体の急発進を防止するため，エンジンの始動と停止の手順を体得してください。

(2)機体の前・後進や停車の基本操作を体得してください。

(3)コンバインをほ場へ安全に移動させるため，安全装置の取付けや各装置の脱着や固定作業，トラックへの安全な積込み・積降しと輸送方法を理解し，必ず守ってください。

では実際にほ場で刈取作業を始めてみましょう

7．**収穫作業のしかた：**作業前の各装置の取付け，作物とほ場条件に合わせた調整，安全で正しい刈取作業を体得してください。

よく働いた機械をいたわりましょう

8．**メンテナンス：**機械を長持ちさせるために，刈取シーズン前・後及び長期格納時の注意事項や定期点検の要領を理解・実施し，来シーズンに備えてください。

コンバインがもしもの不調のときは

9．**コンバインの不調と処置：**異常や故障かな？と思われたとき，現象に応じて，処置をしてください。

目　次

⚠安全に作業するために　… ⚠-1

サービスと保証について …… 1
ご相談窓口 …… 1
補修用部品の供給年限について …… 2

小型特殊自動車について …… 3
小型特殊自動車取得の届出と
標識(ナンバプレート)の取付け …… 3
運転免許証の携帯 …… 3

装置の名称と取扱い …… 4
機体方向説明 …… 4
装置の名称と各部のはたらき …… 5
メインスイッチ …… 10
アクセルレバー …… 10
非常エンジン停止レバー …… 10
主変速レバー …… 11
副変速レバー …… 11
旋回切換えレバー【HD・SD仕様】…… 11
ブレーキペダル(駐車ブレーキ) …… 12
パワーステアリングレバー …… 12
方向微調整スイッチ …… 12
運転席(シート) …… 13
フットレスト …… 13
刈取下降ロック装置 …… 13
脱こくクラッチレバー【DX仕様】 …… 14
刈取クラッチレバー【DX仕様】 …… 14
脱こく・刈取クラッチレバー
【HD・SD仕様】 …… 14
引起し変速レバー …… 14
刈取りかき込みペダル …… 15
ポジピタスイッチ【HD・SD仕様】…… 15
パワーアップこぎ胴スイッチ
【HD・SD仕様】…… 15
エンジン停止スイッチ …… 16
トウミ調整レバー【DX仕様】 …… 16
チャフ調整レバー【DX仕様】 …… 16
もみ排出クラッチレバー【DX仕様】 …… 17
もみ排出スイッチ【HD・SD仕様】…… 17
グレンタンク張出し開閉スイッチ
【80・90・98】 …… 17
メータユニット【DX仕様】 …… 18
エアロナビ【HD・SD仕様】…… 19
コンビネーションスイッチ …… 21
ホーンスイッチ …… 21

自動化装置の名称と取扱い …… 22
装置の名称と各部のはたらき …… 22
自動車速制御装置【HD・SD仕様】…… 24
自動方向制御装置【SD仕様】 …… 25
自動車体水平制御装置(モンロー) …… 26
水平操作レバー …… 28
自動こぎ深さ制御装置 …… 28
手動こぎ深さスイッチ …… 29
自動刈高さ制御装置【SD仕様】 …… 31
自動レール制御装置【SD仕様】 …… 32
刈取オートクラッチ【HD・SD仕様】…… 33
自動脱こく制御装置【HD・SD仕様】…… 34
アンローダ自動旋回制御装置 …… 35
アンローダレバー …… 36
アンローダリモコンスイッチ【SD仕様】… 37

キャビン装置の名称と取扱い【Q仕様】…… 38
装置の名称 …… 38
各装置の取扱い …… 39
ドアの開閉・ロックのしかた …… 39
各ウインドの開閉のしかた …… 39
ワイパの使いかた …… 40
作業灯スイッチ …… 40
ルームランプの使いかた …… 41
エアコンの取扱い …… 41
コントロールパネル …… 41
内外気切換えツマミ …… 43
エアコン冷暖房のしかた …… 43
AM/FMラジオ付きカセットプレーヤ
の取扱い …… 44
スイッチ・ツマミの取扱い …… 44
ラジオ操作 …… 45
カセット操作方法 …… 46
取扱上の注意 …… 47

運転前の点検 …… 48
日常点検項目 …… 49

移動走行と輸送 …… 50
新車時の扱いかた …… 50
ならし運転について …… 50
エンジンの始動と停止のしかた …… 50
始動のしかた …… 50
停止のしかた …… 52
移動走行について …… 53
走行前の準備 …… 53
発進のしかた …… 55
旋回のしかた …… 57
停車・駐車のしかた …… 58
道路走行について …… 58
輸送について …… 59
トラックとあゆみ板の準備 …… 59
コンバインの準備 …… 59
コンバインの積込み・積降しのしかた … 60
トラック上での処置 …… 61

収穫作業のしかた …… 62
作物とほ場の条件 …… 62
作物の条件 …… 62
ほ場の条件 …… 62
ほ場の準備 …… 63
ほ場の準備 …… 63
コンバインの準備 …… 63
準備のしかた …… 63
刈取作業のしかた …… 68
ほ場の出入りのしかた …… 68
刈取作業の手順 …… 69
ほ場の刈りかたと旋回のしかた …… 74
作物に合わせた変速の選びかた …… 74
もみの排出のしかた …… 75
手刈り(枕刈り)脱こくのしかた …… 80
作業に合わせた各部の調節・調整のしかた …… 82
メータユニットによる異常と処置【DX仕様】…… 86
エアロナビによる異常と処置【HD・SD仕様】…… 91
エアロナビによる故障と処置【HD・SD仕様】…… 96

メンテナンス …… 100
各部のオープン(開閉)と脱着のしかた … 100
防じんカバーオープン …… 100
こぎ胴オープン …… 100
カッタオープン …… 103
シーブケースの脱着 …… 104
受あみの脱着 …… 107
引起しサイドカバー右・左の脱着 … 108
引起しカバーの脱着 …… 108
カッタ左サイドカバーの脱着 …… 109
運転席下カバー及び運転席下側板の脱着 …… 109
カッタ切換えカバーのオープン …… 110
グレンタンクオープン …… 110
各部の掃除と注油のしかた …… 112
各部の掃除 …… 113
各部の注油 …… 117
定期点検 …… 126
オイル・フィルタ類の交換とチェーン・ベルト・クローラの張り調整 … 126
廃棄物の処理について …… 126
使用者が行なってはいけない修理 … 126
定期点検一覧表 …… 127
給・注油(水)点検一覧表 …… 132
燃料・オイル・グリースの点検・補給・交換 …… 133
ラジエータ冷却水の点検・交換 …… 140
プレクリーナの点検・掃除【HD・SD仕様】…… 141
エアクリーナの点検・掃除・交換 … 142
パイプ・ホース類の点検・交換 …… 143
防じんあみ，ラジエータフィンの掃除 … 144
オイルクーラフィンの掃除 …… 144
コンデンサフィンの掃除【Q仕様】…… 144
油水分離器(セパレータ)の点検・排水 …… 145
フューエルフィルタカートリッジの交換 …… 145
エンジンオイルフィルタカートリッジの交換 …… 146
HSTオイルフィルタカートリッジ・油圧オイルタンクフィルタカートリッジの交換，HST吸入フィルタの洗浄・交換 …… 147

各部ワイヤの点検・調整 …… 148
各部ベルトの点検・調整 …… 152
各部チェーンの点検・調整 …… 163
刈刃の点検・調整 …… 170
こぎ歯の点検・交換 …… 173
わら切刃の点検・組換え・交換 …… 173
カッタ部の点検・調整 …… 175
カッタ刃の交換 …… 180
排わらチェーン押えの点検・調整・交換 …… 182
フィルタの掃除・交換【Q仕様】…… 182
冷媒(ガス)量の点検【Q仕様】…… 183
吐出口ブーツの点検・交換 …… 184
バッテリの点検・交換 …… 184
電気の各配線コード・各ヒューズの点検・交換 …… 188
ランプ(電球)の点検・交換 …… 190
ホーンスイッチの点検 …… 190
反射器の点検・交換 …… 191
クローラの点検・調整 …… 192
トラッククローラ(転輪)の点検 …… 193
ドライブローラの交換 …… 193
刈取作業後の手入れ …… 194
毎日の作業後 …… 194
長期格納時 …… 194

コンバインの不調と処置 …… 196

付 表 …… 201
主要諸元 …… 201
付属部品 …… 207
オプション(別売品) …… 207
消耗部品 …… 208
型式検査(国検)成績表 …… 220
クボタ純オイル …… 221

⚠ 安全に作業するために

必ず読んでください。

この黄色ページは，安全に作業していただくため，ぜひ守っていただきたい注意事項と⚠表示ラベルの内容・貼付位置を記載しています。また， 本文中でも取扱い上の注意事項をそのつど⚠危険・⚠警告・⚠注意・重要・補足 として取上げていますので本機をご使用になる前に， これらの注意事項をよく読んで理解してください。

目　　次

1．安全作業するための注意事項

ページ

◆一般的な注意事項 …… ⚠-2 ～ ⚠-3

◆作業前の注意事項 …… ⚠-4 ～ ⚠-5

◆移動走行・ほ場の出入り・駐車時の注意事項 …… ⚠-6 ～ ⚠-7

◆作業時の注意事項 …… ⚠-8 ～ ⚠-9

◆作業後・格納時の注意事項 …… ⚠-10 ～ ⚠-11

◆点検整備時の注意事項 …… ⚠-12 ～ ⚠-15

◆運搬時の注意事項 …… ⚠-16 ～ ⚠-17

2．安全作業するための⚠表示ラベル

◆⚠表示ラベルの内容・貼付位置 …… ⚠-18 ～ ⚠-30

◆⚠表示ラベルの手入れ …… ⚠-30

⚠ 安全に作業するために

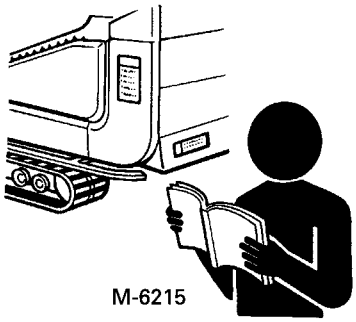
1．安全作業するための注意事項

◆一般的な注意事項

⚠取扱説明書及び機械に貼付けている⚠表示ラベルをよく読み，正しい運転，作業方法を覚える。

- 本書記載事項以外についても，安全には細心の注意を払ってください。

【守らないと】
死亡又は傷害を負うおそれがあります。


M-6215

⚠体の状態が悪いときには運転操作をしない。

- 運転操作には的確な判断が必要です。下記状態の方は，機械の運転操作を行わないでください。
  - お酒を飲んでる方
  - 睡眠不足の方
  - 妊娠中のご婦人
  - 過労，病気の方
  - １６歳未満の方

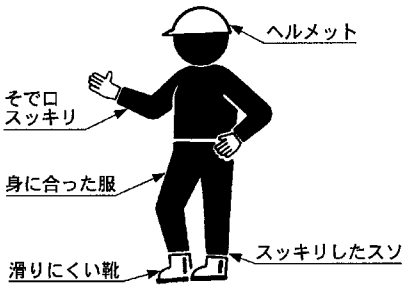
【守らないと】
思わぬ事故の原因になります。

M-6215

⚠運転者，補助者とも作業に適した服を着用する。

- だぶついた服は着用しない。
- そで口はきっちりと止める。
- はち巻き，首巻き，腰タオルは着用しない。
- サンダル，スリッパなどの履物は着用しない。

【守らないと】
レバーや作動部に引っかかったり，滑ったりして，傷害を負うおそれがあります。



M-6219

⚠取扱説明書及び⚠表示ラベルの内容が理解できない人や子供には絶対運転させない。

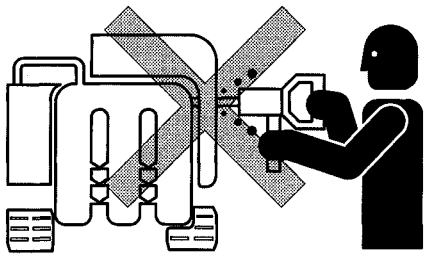
- 機械を他人に貸すとき，運転させるときは，取扱説明書を読ませるとともに，取扱方法や安全な使いかたを説明して，安全な作業ができるよう指導する。

【守らないと】
死亡又は傷害をまねくおそれがあります。

F-8822

⚠機械を改造しない。

【守らないと】
安全性をそこない，思わぬ事故の原因になります。


M-8657

⚠運転者以外は機械に乗らない。

- 動いている機械に飛び乗ったり，飛び降りたりしない。

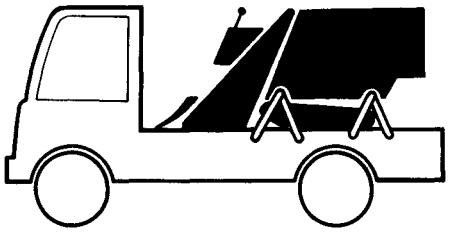
【守らないと】
振り落とされたり，ひかれたりして，死亡又は傷害を負うおそれがあります。

M-6231

⚠公道を走行するときは交通法規や安全ルールを守る。

- 公道を走行する場合は，所定の手続きと運転免許証が必要です。
- 公道を走行できない機械は，トラックで運搬する。

【守らないと】
交通事故をまねき，死亡又は傷害を負うおそれがあります。


M-6218

⚠夜間の作業や移動走行は避ける。

- やむをえず夜間作業を行なうときは，ヘッドランプや作業灯を必ず点灯する。
- やむをえず夜間に移動走行するときは，必ずヘッドランプを点灯し，作業灯は消灯させる。

【守らないと】
交通事故や転倒・転落をまねき，死亡又は傷害を負うおそれがあります。

M-8658

⚠ 安全に作業するために [redacted]

◆作業前の注意事項

⚠屋内で運転するときは，排気ガスに注意して適切な換気をする。

- 排気管を屋外に延長するか，ドアや窓を開け外気がじゅうぶん入るようにする。

【守らないと】
エンジンの排気ガスは有毒です。中毒を起こし死亡事故にいたるおそれがあります。

F-8842

⚠燃料補給中は火気厳禁。くわえタバコや裸火照明は近づけない。

- 燃料補給するときはエンジンを必ず止めて，キーを抜く。
- 燃料やオイルをこぼしたときは，きれいにふきとる。

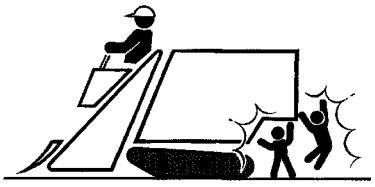
【守らないと】
火災の原因になります。

B-1499

⚠機械を動かすときは周囲の安全に気をつける。

■エンジンを始動するときは，運転席に座って，主変速レバーを“停止”位置，副変速レバーを“N”(中立) 以外の位置にし，脱こく・刈取クラッチレバーを“切”位置にして，ホーンを鳴らすなどの合図をする。
■機械を発進するときや脱こく・刈取クラッチレバーを入れるときは，ホーンを鳴らすなど合図してから行なう。

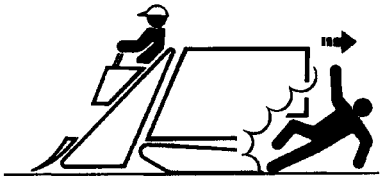
【守らないと】
回転物に巻込まれたり，挟まれて重大な傷害を負うおそれがあります。



M-6217

■初めて運転する人は，操作になれるまで低速で運転する。

【守らないと】
思わぬ事故の原因となります。



M-6236

▲作業前点検（日常点検）を実施する。

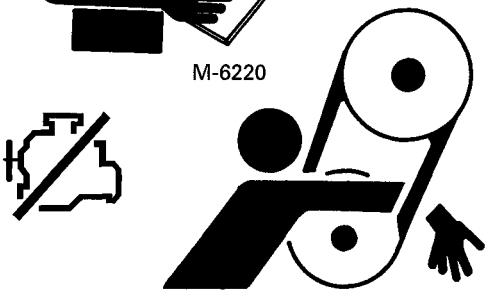
■運転の前には点検項目（48ページ参照）の点検を行なう。異常があれば整備してから運転する。

【守らないと】
整備不良による事故で傷害を負うおそれがあります。

M-6220

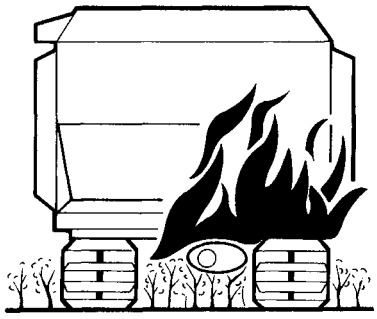
■点検・整備・掃除・給油するときは，エンジンを必ず止めて，キーを抜く。
■取外した安全カバー，保護カバーは必ずもとどおりに取付けて作業する。

【守らないと】
回動部に巻込まれて傷害を負うおそれがあります。


N-0676

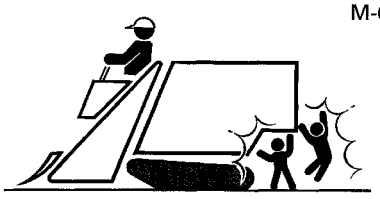
■マフラ周辺部，ベルトカバー内，バッテリ周辺にたまっているわらくずはきれいに取除く。

【守らないと】
火災の原因になります。


M-6238

■点検整備中及び作業中は機械に子供を近づけない。

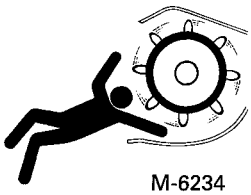
【守らないと】
回転物に巻込まれたり，挟まれて重大な傷害を負うおそれがあります。

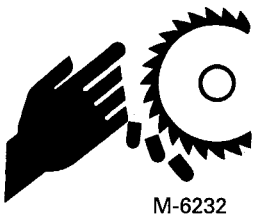

M-6217

▲こぎ胴，カッタ，結束機，防じんカバー，グレンタンクをオープンするときは，エンジンを必ず止める。

- オープンは平たんな場所で行なう。
- こぎ胴【DX仕様】，カッタ，結束機をオープンしたときは，ストッパを掛ける。
- オープンしたままエンジンを始動しない。

【守らないと】
内部の回転物に接触したり，巻込まれて重大な傷害を負うおそれがあります。


M-6234


M-6232

B-1505

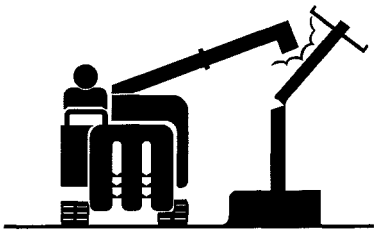
B-1506

⚠ 安全に作業するために

◆移動走行・ほ場の出入り・駐車時の注意事項

⚠移動走行するときは，次の事項を守る。

- 各作業クラッチ（脱こく・刈取クラッチ，もみ排出）を**“切”**位置にし，運転者以外に人を乗せない。
- もみはすべて排出する。
- 副変速レバーを切換えるときは，平たんな場所で主変速レバーを**“停止”**位置にし，機体を止めてから行なう。
- 刈取部の先にデバイダカバーを取付ける。
- 左補助デッキ，左分草かん，補助ステップを収納して，機体幅をせまくする。
- アンローダを下げ，アンローダ支えに収納してバンドを掛ける。
- グレンタンクの張出し部を収納する。**【80・90・98】**
- 自動車体水平制御は，機体を一番下げた状態にする。
- 旋回切換えレバー**【HD・SD仕様】**を，**“ソフトターン”**位置に入れる。



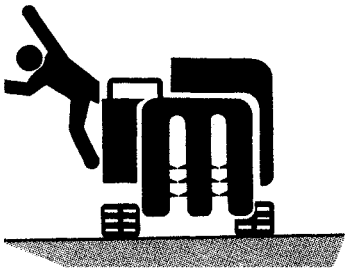
M-8660

【守らないと】

人や物を傷つけたり，機体のバランスをくずして転倒するおそれがあります。

⚠高速走行時は急旋回をしない。

- 方向を変えるときは，走行速度を落として（低速にして），パワーステアリングレバーをゆっくり倒して旋回する。



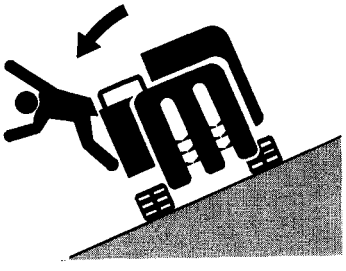
M-6228改

【守らないと】

機械から振り落とされたり，転倒するおそれがあります。

⚠坂道（傾斜地）では走行速度を落とす。

- 坂道（傾斜地）では，パワーステアリングレバー，副変速レバー，ブレーキペダル，かき込みペダル，旋回切換えレバー**【HD・SD仕様】**を操作しない。
- 坂道（傾斜地）では，斜め走行や旋回はしない。



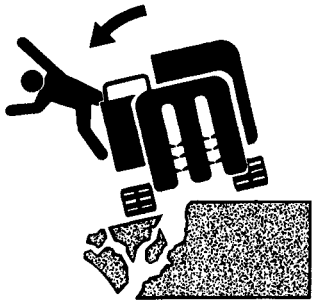
M-6228

【守らないと】

暴走したり，転倒するおそれがあります。

⚠道幅に余裕がなく高所にある道路（土手）は，走行しない。

- 溝のある農道や，両側が傾斜している農道は路肩に注意する。
- 溝，穴，土手の近くは走行しない。
- 水溜まりや草のおい茂ったところなど，地面のよく見えないときは，事前に降車してよく確かめる。



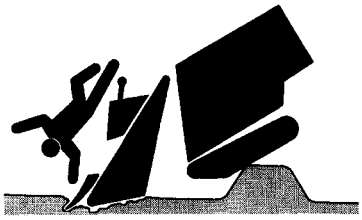
M-6227

【守らないと】

機体のバランスをくずして転倒・転落するおそれがあります。

⚠ほ場の出入りで，段差のあるところではあゆみ板を使う。

- 10cm以上の段差のあるところでは，段差の４倍以上の長さで基準に合ったあゆみ板を使う。
- あゆみ板は段差に直角に置く。
- もみはすべて排出する。



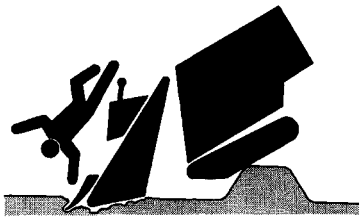
M-6229

【守らないと】

機体のバランスをくずして転倒するおそれがあります。

⚠あぜの乗り越えは低速で直角に進入する。

- 10cm以上のあぜ，又はコンクリートのあぜは，段差の４倍以上の長さで基準に合ったあゆみ板を使う。
- もみはすべて排出する。



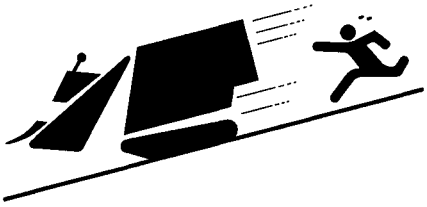
M-6229

【守らないと】

機体のバランスをくずして転倒するおそれがあります。

⚠駐車するときや運転席を離れるときは，平たんな場所に止め，副変速レバーを“標準”又は“倒伏”位置にし，駐車ブレーキを掛け，刈取部を地面に当たるまで降ろして，エンジンを必ず止めて，キーを抜く。

- やむをえず坂道（傾斜地）で駐車するときは，さらに木片などで確実に車止めをする。



M-8661

【守らないと】

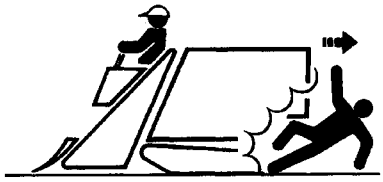
機械が暴走し，思わぬ事故のおそれがあります。

⚠ 安全に作業するために

◆作業時の注意事項

⚠共同作業するときは，ホーンなどで合図を行なう。

- エンジン始動時，及び各作業のクラッチやスイッチを入れるときは，ホーンなどで合図し，補助者のＯＫをもらう。
- 補助者が機械に近づくときは，運転者に知らせることを徹底させる。



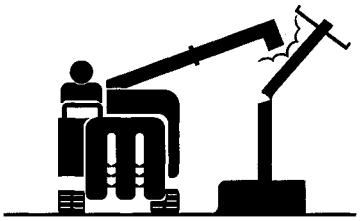
M-6236

【守らないと】

補助者は運転席からみえにくい位置にいることがあり，思わぬ事故を起こすおそれがあります。

⚠アンローダを動かすときは，旋回範囲に人や障害物がないことを確認する。

- 旋回範囲に人がいたり，障害物があるときは，アンローダを動かさない。
- アンローダは，アンローダ支えに収納した状態で作業を行なう。



M-8660

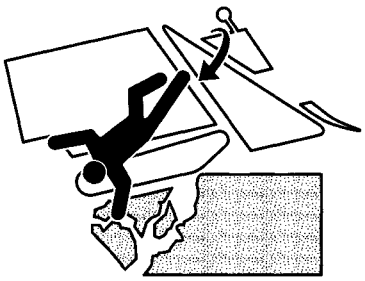
【守らないと】

人や物を傷つけたり，機体のバランスをくずして転倒するおそれがあります。

⚠すみ刈りを行なうときは後方をじゅうぶん確認する。

【守らないと】

後退し過ぎると，転倒・転落するおそれがあります。



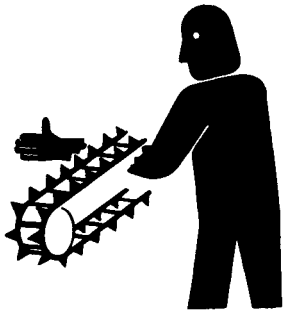
M-8662

⚠手こぎ作業するときは，手や腕の位置を必ずチェーンの外側にして，少量ずつ供給する。

- 機械は平たんな場所に止めて，刈取部を止め，駐車ブレーキをかける。
- そで口はきっちり止めて，手袋・はち巻き・首巻き・腰タオルは着用しない。
- 自動車体水平制御は，機体を一番下げた状態にする。
- 刈取防じんカバー付きの機械は，刈取防じんカバーを開ける。

【守らないと】

チェーンに巻込まれて重大な傷害を負うおそれがあります。



M-6235

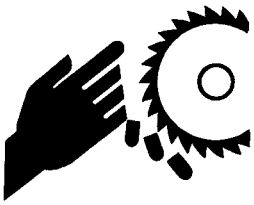
⚠異常に気づいたら，すぐエンジンを必ず止めて，キーを抜く。

- わらの巻付きや詰まりを取除くときや，もみの点検・掃除をするときは，各作業クラッチ（脱こく・刈取，もみ排出）を**“切”**位置にし，エンジンを必ず止めて処置する。
- カッタに詰まったわらなどを取除くときは，厚手の手袋を着用して少しずつ取除く。
- 素手で刃先には触らない。

【守らないと】

カッタ刃やチェーンなどの作動部に接触したり，巻込まれて重大な傷害を負うおそれがあります。

B-1506



M-6232

⚠点検や掃除で外したカバーは，必ず取付けること。

- ベルトやチェーンのカバー，及び掃除口や点検窓のカバーなどを外したままで運転しない。

【守らないと】

内部の回転物に接触したり，巻込まれて重大な傷害を負うおそれがあります。

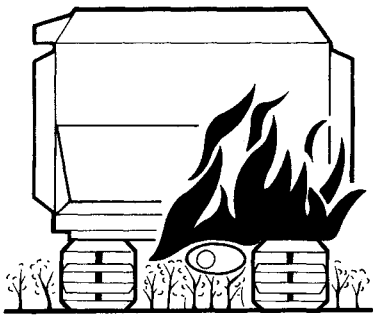
B-1506

⚠ 安全に作業するために

◆作業後・格納時の注意事項

⚠わらくずや枯れた雑草の上に機械を止めない。

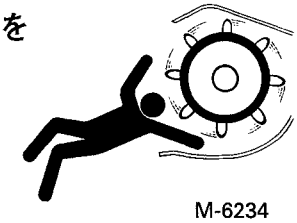
【守らないと】
わらくずや枯れた雑草は燃えやすく，火災が発生するおそれがあります。



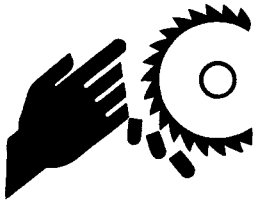
M-6238

⚠点検・掃除する前に，エンジンを必ず止めて，キーを抜く。

【守らないと】
機械に巻込まれて重大な傷害を負うおそれがあります。



M-6234



M-6232

B-1505

B-1506

⚠点検・掃除は，エンジン停止後，各部が冷えてから行なう。

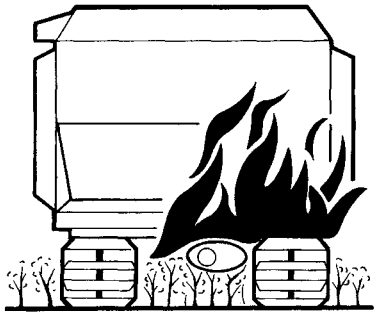
- エンジン本体，マフラ，排気管は，停止直後は触れない。

【守らないと】
やけどを負うおそれがあります。

B-1502

⚠エンジン本体，マフラ周辺，ベルトカバー内配線部，バッテリ周辺のわらくずを点検し，きれいに取除く。

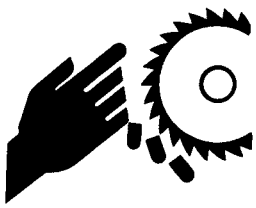
【守らないと】
火災が発生するおそれがあります。



M-6238

⚠ 掃除するときは，刈刃やカッタの刃先に触らない。

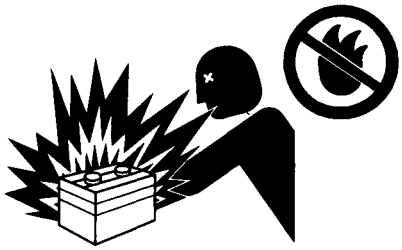
【守らないと】
刃先で傷害を負うおそれがあります。



M-6232

⚠ バッテリの近くに裸火（マッチ，ライタ，タバコの火など）を近づけたり，バッテリケーブルのショートによるスパークをさせない。

【守らないと】
バッテリからは水素ガスの発生があり，引火爆発のおそれがあります。



F-8836

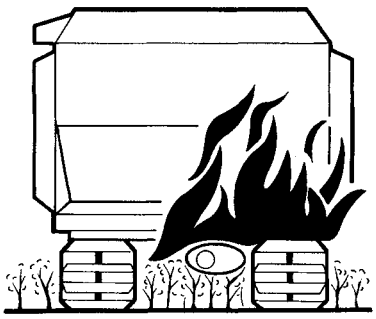
⚠ ワイヤハーネスやバッテリコードなど電気配線に被覆の破れや，挟み込みがないか点検する。

【守らないと】
ショートによる火災発生のおそれがあります。

B-1500

⚠ 機体にカバー（おおい）をかけるときは，エンジン，マフラが冷えてから掛ける。

【守らないと】
火災が発生するおそれがあります。



M-6238

▲ 安全に作業するために

◆点検整備時の注意事項

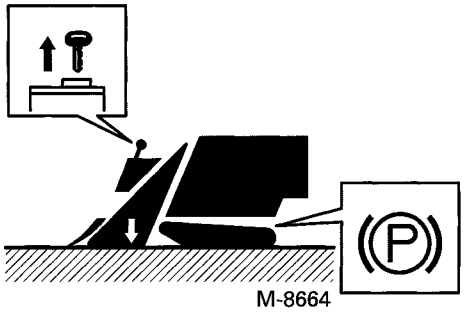
▲定期点検整備を行ない，各部の保守をする。

【守らないと】
整備不良による事故で傷害を負うおそれがあります。

M-6220

▲各部の点検・整備・交換・掃除を行なうときは，平たんな場所で，エンジンを必ず止めて，キーを抜き，各クラッチレバーを“切”位置にして，駐車ブレーキを掛ける。

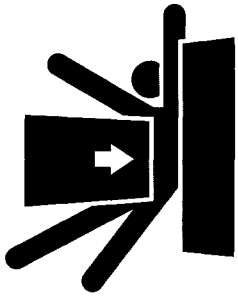
【守らないと】
機械に挟まれたり，巻込まれて傷害を負うおそれがあります。



M-8664

▲こぎ胴【DX仕様】，カッタ，結束機，グレンタンクをオープンしたときは，ストッパで固定する。

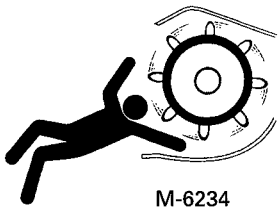
【守らないと】
機械に挟まれて傷害を負うおそれがあります。



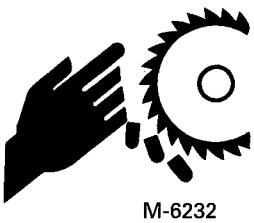
M-8676

▲こぎ胴，カッタ，結束機，グレンタンクをオープンしたままエンジンを回さない。

【守らないと】
内部の回転物に接触したり，巻込まれて重大な傷害を負うおそれがあります。



M-6234



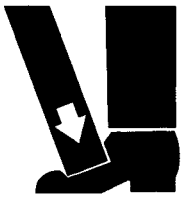
M-6232

B-1505

B-1506

⚠ シーブケースやカッタ，結束機など重量物の脱着作業は，２人以上で行なう。

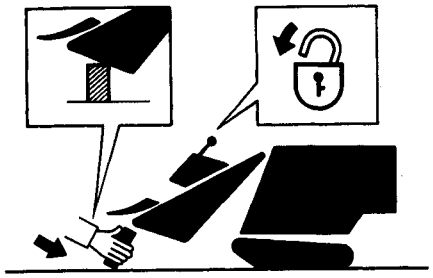
【守らないと】
不意の落下により，傷害を負うおそれがあります。

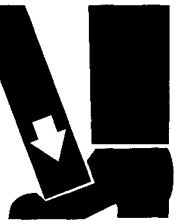

M-8659

⚠ 刈取部を上げて点検・整備・掃除するときは，刈取部をロックするとともに，落下防止の歯止めをする。

- 作業前に，エンジンを必ず止めて，駐車ブレーキを掛ける。
- 刈取部の下へもぐったり，足や手をつっこんだりしない。

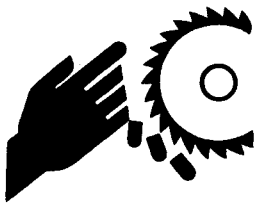
【守らないと】
機械にはさまれて，傷害を負うおそれがあります。


M-6237


M-8659

⚠ 刈刃，カッタ刃，わら切刃を調整・交換するときは，手袋を着用し，直接刃先に触らない。

【守らないと】
刃先で傷害を負うおそれがあります。


M-6232

⚠ 取外したカバー類は，必ず取付ける。

【守らないと】
内部の回転物に接触したり，巻込まれて重大な傷害を負うおそれがあります。

B-1506

⚠ 安全に作業するために

⚠バッテリを取外すときは，最初にマイナス⊖側のケーブルを取外す。

- バッテリの近くに裸火（マッチ，ライタ，タバコの火など）を近づけたり，バッテリケーブルのショートによるスパークをさせない。
- バッテリを取付けるときは，最初にプラス⊕側のバッテリケーブルをプラス⊕側の端子に取付ける。

F-8836

【守らないと】
ヤケドや発火爆発のおそれがあります。

⚠バッテリは液面がLOWER（最低液面線）以下になったままで使用や充電をしない。【補水タイプ】

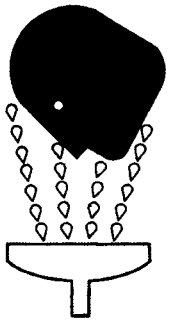
- バッテリ液が不足していれば，すぐにUPPER LEVEL（上限）とLOWER LEVEL（下限）の間に補水する。
- 充電は機械から取外して行なう。
- 充電は風通しのよい所で行なう。
- 放電したバッテリにブースタケーブルなどを接続して始動するときは，取扱方法をよく読みそれに従う。

F-8836

【守らないと】
LOWER（下限）以下で使用や充電を続けると，バッテリの寿命を縮めるばかりでなく，爆発の原因となることがあります。

⚠バッテリ液（希硫酸）を体に付着させない。

- 目に入ったときや飲込んだときは，すぐ水でよく洗った後，医師の治療を受ける。
- 皮ふ，衣服についたときは，すぐ水でよく洗う。

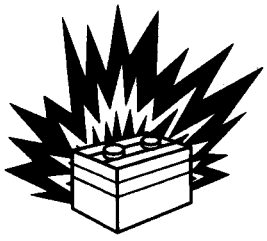


F-8837

【守らないと】
失明やヤケドのおそれがあります。

⚠指定外のバッテリは使わない。

- 取扱説明書で指定しているバッテリを使用する。



F-8836改

M-6465

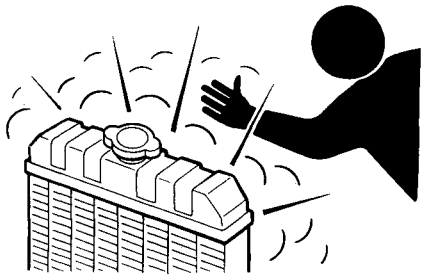
【守らないと】
思わぬ事故が発生するおそれがあります。

⚠ ラジエータの圧力キャップやリザーブタンクは，エンジンが冷えてから開ける。

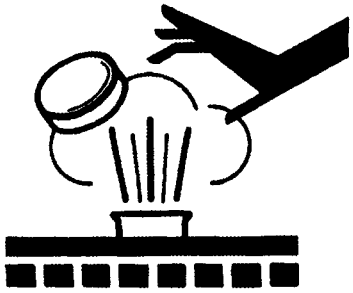
- エンジン停止後，30分以上経過してからラジエータの圧力キャップを 徐々にゆるめて蒸気の圧力を抜いてから開ける。

【守らないと】

熱湯や蒸気が吹き出して，ヤケドや傷害を負うおそれがあります。



B-1503



F-8846

⚠ フューエルパイプ，ラジエータホース，オイルドレーンホースは，２年ごとに交換する。

- ゴム類は時間がたつと劣化するので，定期的に交換する。

【守らないと】

燃料や熱湯がもれて，火災やヤケドを負うおそれがあります。

M-8665

M-8666

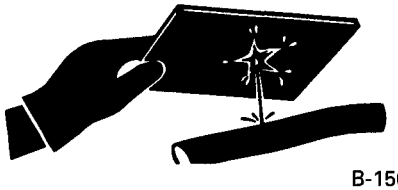
⚠ 燃料噴射管や油圧パイプなどからの高圧油のもれは，厚紙や板などを使って点検する。

- 高圧噴油に直接手を触れない。もし，触れた場合は，直ちに医者の診断を受ける。

【守らないと】

油が皮ふに侵入して，えそにかかるおそれがあります。

F-8847



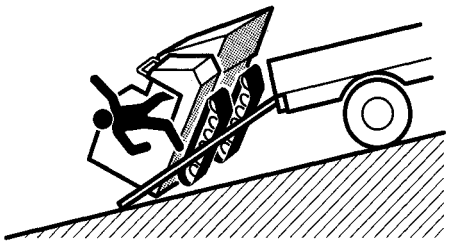
B-1504

⚠ 安全に作業するために

◆運搬時の注意事項

⚠ トラックへの積込み・積降しは平たん地で行なう。

- 機械の重量であゆみ板が傾いたりしない場所を選ぶ。
- トラックの駐車ブレーキをしっかり掛ける。
- できるだけ助手の立ち会い誘導のもとに行なう。
- 周囲に人を近づけない。



M-8667

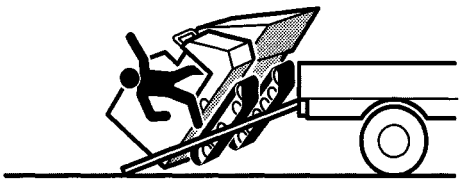
【守らないと】

あゆみ板がずれたり，トラックが動いたりして機械が落下するおそれがあります。

⚠ 積込み・積降しには基準に合ったあゆみ板を使う。

- あゆみ板の基準

長　　さ	トラックの荷台の高さの４倍以上
幅	70cm以上
数　　量	２枚
強　　度	１枚が3100kg以上に耐えうる



M-8668

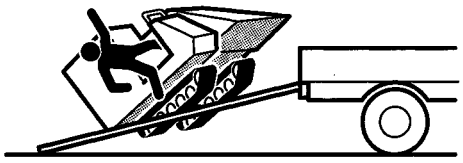
- あゆみ板はフック，すべり止めがついているものを使う。
- あゆみ板はトラックの荷台に平行に確実に掛ける。

【守らないと】

あゆみ板がずれたり，外れたりして機械が落下するおそれがあります。

⚠ 積込み・積降し前に，もみはすべて排出する。

- アンローダを下げ，アンローダ支えに収納してバンドを掛ける。
- 自動車体水平制御は，機体を一番下げた状態にする。



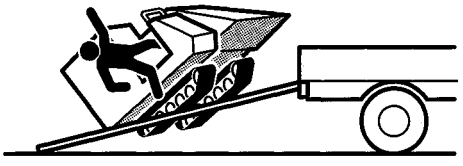
M-8681

【守らないと】

バランスがくずれて，転倒・転落するおそれがあります。

⚠ トラックへの積込み・積降しは最低速で行なう。

- 積込みは前進で，積降しは後進で行なう。



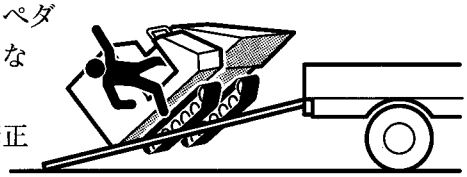
M-8681

【守らないと】

バランスがくずれて，転倒・転落するおそれがあります。

⚠ あゆみ板の上では方向修正しない。

- あゆみ板の上では，パワーステアリング・副変速レバー・ブレーキペダル・かき込みペダル・旋回切換えレバー【HD・SD仕様】は操作しない。
- 方向を変えるときは，いったん地上，又は荷台にもどって方向を修正し，再度やり直す。



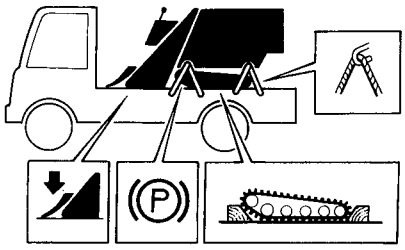
M-8681

【守らないと】

急旋回したり，暴走して落下するおそれがあります。

⚠ トラックの上では，刈取部を床に当たるまで降ろして，駐車ブレーキを掛ける。

- 自動車体水平制御は，機体を一番下げた状態にする。
- 副変速レバーを“標準”位置又は“倒伏”位置にし，駐車ブレーキを掛ける。
- 所定の“ロープ掛けフック（4カ所）”にロープを掛けてしっかり床に固定する。
- 車止めをする。



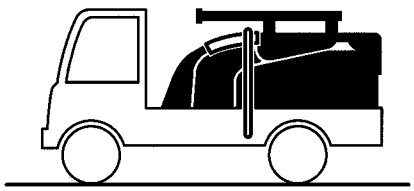
M-6224

【守らないと】

機械が動き，思わぬ事故のおそれがあります。

⚠ トラックに積んだときは，機体の各カバーを固定する。

- 樹脂カバー，着脱の簡単なカバー，折りたたみ部品などは，ロープで確実に固定するか，外して荷台に置く。
- 刈取防じんカバーは閉じる。【刈取防じんカバー付き】



M-8671

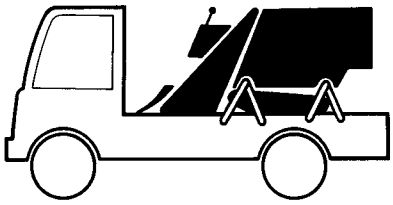
【守らないと】

輸送中に風圧で破損，脱落のおそれがあります。

⚠ 輸送中の急発進，急ブレーキ，急旋回は避ける。

【守らないと】

輸送中に機械が動き，思わぬ事故のおそれがあります。



M-6218

⚠ 安全に作業するために

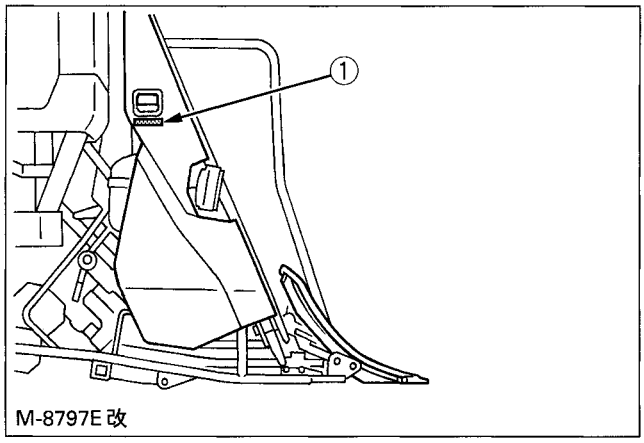
2. 安全作業するための⚠表示ラベル

◆⚠表示ラベルの内容・貼付位置

①品番　5K190-6432-1

⚠ 注　　意

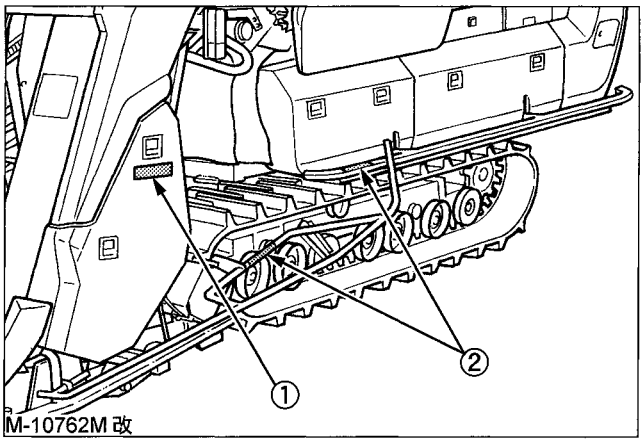
中に回転物がありケガをするので、
点検・調整時はエンジンを必ず止めること。
点検・調整後はカバーを必ず取付けること。



M-8797E 改

②品番　5H601-4344-1

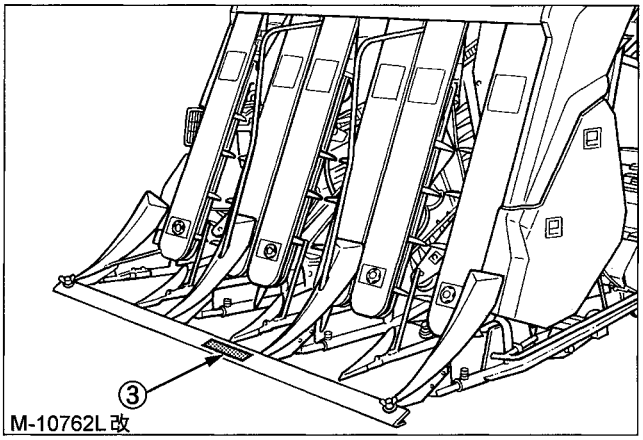
⚠注意	**人に当たりケガをさせるおそれがあるので、移動するときは必ず収納すること。**



M-10762M 改

③品番　59700-4332-2

⚠注意	デバイダ先端に当たるとけがをするおそれがあるので、移動するときは必ず本品を取り付けること。



M-10762L 改

①品番　5H601-4348-1

⚠ 注　意

作業前
1.安全に作業するために，取扱説明書を読んで，機械の使い方を覚えること。
2.エンジンを始動するときは，主変速レバーを「停止」にし，駐車ブレーキペダルを踏み込み，各作業クラッチを「切」にすること。
3.屋内は排気ガスが溜まり易く，ガス中毒の危険があるので換気すること。
4.ケガをするおそれがあるので，掃除・点検・調整のときは，各クラッチを切りエンジンを必ず停止すること。

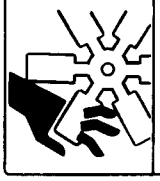
移動・作業中
1.発進するときや脱こく部・刈取部を作動するときは，周囲の安全を確かめ合図して，機械に人を近付けないこと。
2.転落・転倒事故の危険があるので，傾斜地・路肩の軟弱な道路・ガケ際などは走行しないこと。
3.走行を停止するときは，主変速レバーを操作して「停止」の位置にすること。
※主変速レバーのノブを握ると「停止」の位置がわかりにくくなるので，ノブを握らないこと。
4.道路交通法規定により，トラック運搬時（特にキャビン付）は，地上高3.8 m以下で運行すること。
5.刈取作業時以外（あぜ乗越時，移動走行時，運搬時，格納時）は，「もみ」をすべて排出または降ろして，各作業クラッチを"切"にし，M仕様（車体水平制御）は，機体を一番下げた状態にすること。

積込 ・積降ろし
1.転倒・転落事故の危険があるので，車への積み込みおよびあぜ越えは以下を守ること。
1 積み込むときは前進で，降ろすときは後進にすること。
2 副変速を倒伏にし，エンジンの回転を落として（2000rpm 以上），低速にすること。
3 あゆみの上ではパワーステアリングレバーを操作しないこと。方向を変えるときは，いったん地上または荷台に戻って向きを正し，再度やり直すこと。
4 あゆみ板は段差の 4 倍以上の長さで，すべり止めがあり，基準に合ったものを使用すること。

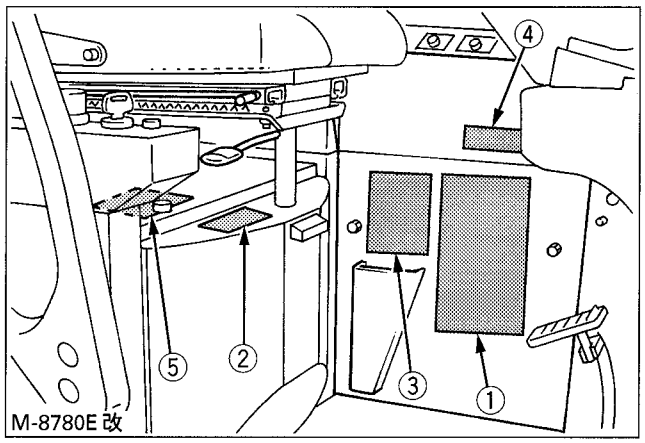
駐・停車
1.火災の危険があるので，機械を停止するときは，切りワラや雑草の上に止めないこと。
2.急発進・暴走の危険があるので，副変速レバーを切り換えるときは，平坦な場所で主変速レバーを「停止」の位置にし，駐車ブレーキペダルをいっぱい踏むこと。
3.機械から離れるときは，エンジンを止めて始動キーを抜き，駐車ブレーキを必ずロックすること。また，坂道で駐車するときは車止めをして暴走を防ぐこと。

②品番　5H601-4342-1

⚠ 注　意



エンジンを回転したままエンジンルームを開けると、ファンやベルトでケガをするおそれがあるので、エンジンルームを開けるときは、エンジンを必ず止めること。



M-8780E 改

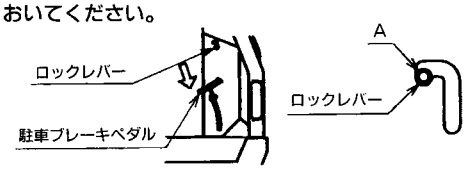
③品番　5H601-4331-1

⚠ 注　意

1．トラックへの積み降ろし中および、走行中に駐車ブレーキペダルを踏むと、急に機体の向きが変わり、転倒・衝突のおそれがあるので踏まないこと。
2．駐車ブレーキをかけるときは、副変速レバーを必ず「N」以外の位置に入れること。
※副変速レバーが「N」では、油圧ロックが作動しないため、坂道で駐車ブレーキを解除すると暴走し危険です。
3．坂道で駐車するときは、暴走を防ぐため、必ず車止めをすること。

駐車ブレーキの取り扱い

主変速レバーを完全に停止位置に戻してから、駐車ブレーキペダルをロックがかかるまで、強くいっぱいに踏んでください。駐車ブレーキペダルを踏みながらレバーを上に上げると駐車ブレーキが解除されます。
路上走行時はロックレバーはAの位置に引上げておいてください。



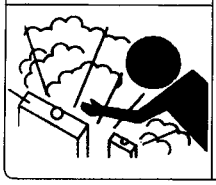
④品番　5H601-4354-1

⚠ 注　意

坂道で副変速レバーを操作すると機械が、暴走するおそれがあるので、絶対に操作しないこと

⑤品番　5H601-4343-1

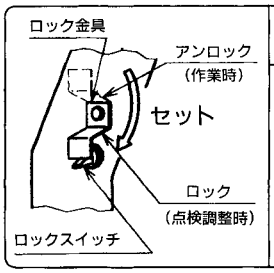
⚠ 注　意



オーバーヒートでエンジンルームを開けて点検、整備するときは、次の手順を守ること。
1．エンジンを止める。
2．必ず停止後３０分以上経過してからエンジンルームを開けること。
エンジンが冷えていないときは、ラジエータ部・リザーブタンク部より熱湯が吹き出し、ヤケドをするおそれがあります。

▲ 安全に作業するために

①品番　5H601-4322-1



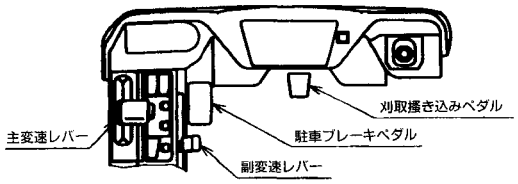
▲ 注　意

刈取部を上昇して、点検調整を行うときには、必ずロックスイッチを下げてロック金具をセットすること。

②品番　5H601-4323-1

▲ 注　意

1.主変速レバーが「停止位置にない」ときに刈取掻き込みペダルをはなすと、急発進してケガをするおそれがあるので主変速レバーを必ず「停止」にすること。
2.刈取掻き込みペダルを傾斜地やあゆみ板の上で踏むと暴走するので踏まないこと。
3.傾斜やあゆみ板の上で副変速レバーを操作すると機械が、暴走するおそれがあるので、絶対に操作しないこと。



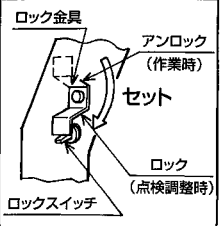
移動時の操作について

1.移動時は、エンジン回転を２０００ｒｐｍ以上で使用してください。
2.副変速「高速」での刈取作業は機械のトラブルの原因になりますので使用しないでください。

③品番　5H690-4322-1

▲ 注　意

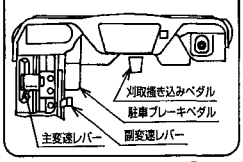
刈取部を上昇して、点検調整を行うときには、必ずロックスイッチを下げてロック金具をセットすること。



④品番　5H690-4323-1

▲ 注　意

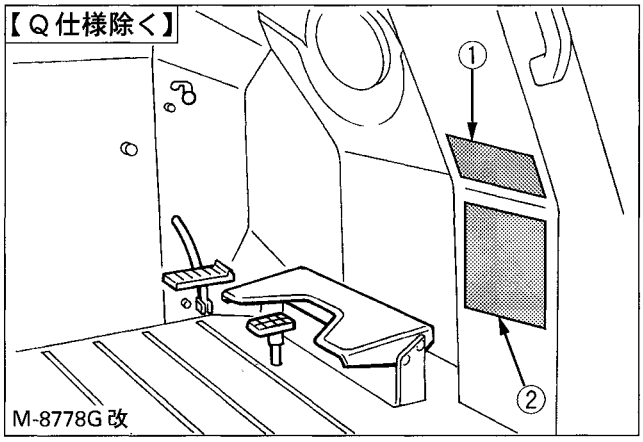
1.主変速レバーが「停止位置にない」ときに刈取掻き込みペダルをはなすと、急発進してケガをするおそれがあるので主変速レバーを必ず「停止」にすること。
2.刈取掻き込みペダルを傾斜地やあゆみ板の上で踏むと暴走するので踏まないこと。
3.傾斜やあゆみ板の上で副変速レバーを操作すると機械が、暴走するおそれがあるので、絶対に操作しないこと。



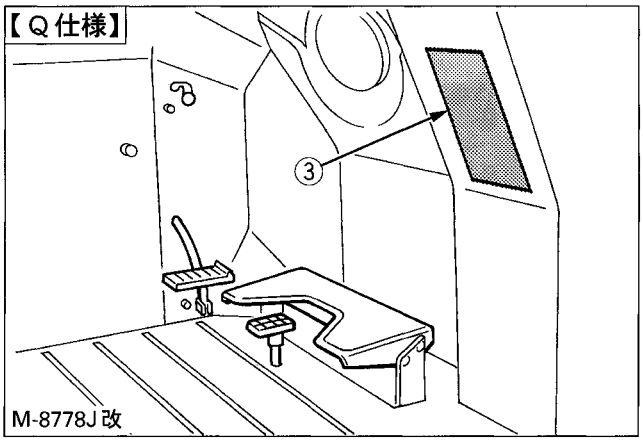
移動時の操作について

1.移動時は、エンジン回転を2000rpm以上で使用してください。
2.副変速「高速」での刈取作業は機械のトラブルの原因になりますので使用しないでください。

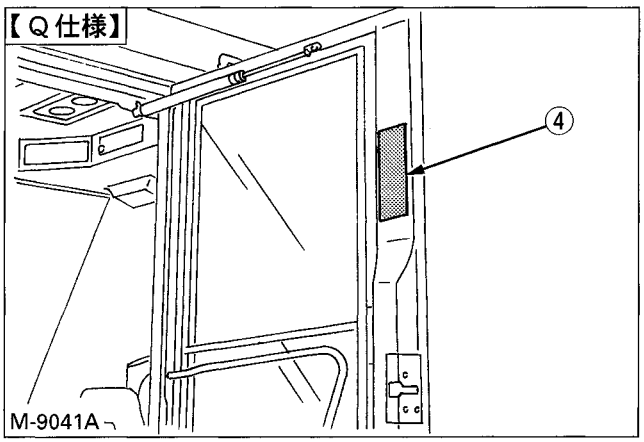
【Ｑ仕様除く】



【Ｑ仕様】

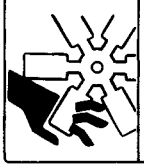


【Ｑ仕様】

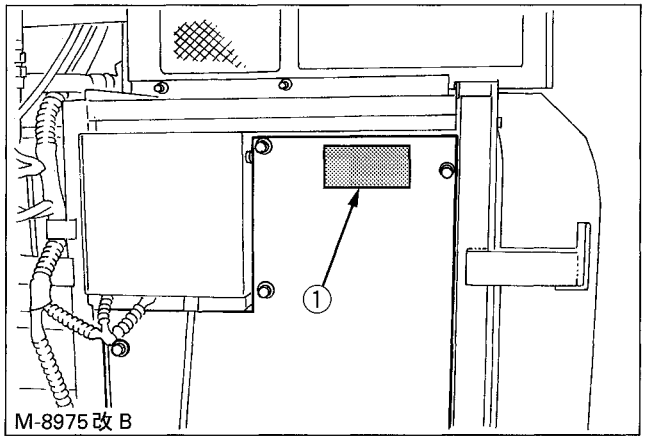


①品番　5H601-4342-1

⚠ 注　意



エンジンを回転したままエンジンルームを開けると、ファンやベルトでケガをするおそれがあるので、エンジンルームを開けるときは、エンジンを必ず止めること。

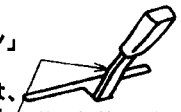


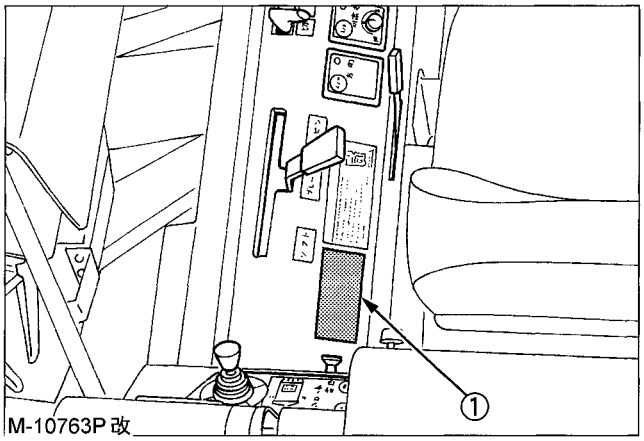
M-8975改 B

①品番　5H601-4333-2【HD・SD仕様】

⚠ 注　意

1．運転開始時は、旋回切換レバーを「ソフトターン」「ブレーキターン」「スピンターン」のどちらに確実に入れること。
※旋回切換レバーが確実に入っていないときは、ステアリングが効きません。また、発進すると自動的にエンジンが止まります。


旋回切換レバー



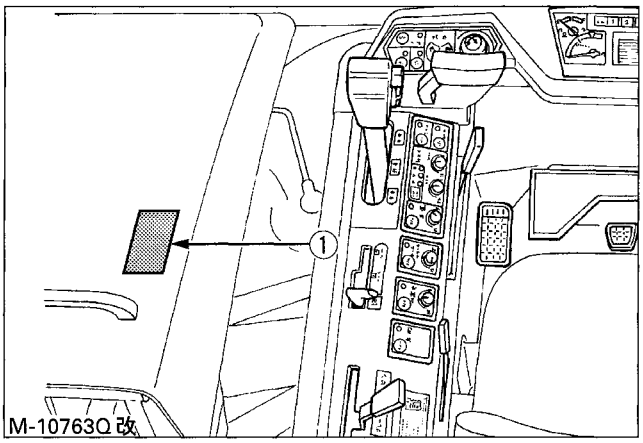
M-10763P 改

▲ 安全に作業するために

①品番　52000-7917-2【SD仕様（Q仕様除く）】

▲ 注　意

トラックで輸送するときは、風圧でカバーが浮き破損・脱落し、ケガをさせるおそれがあるので、刈取部を下げて、ボウジンカバーを閉じ、ロープ等で浮き上がりを防ぐこと。



M-10763Q改

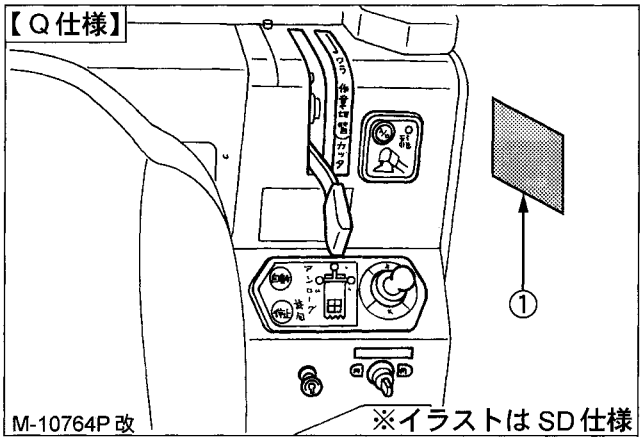
①品番　58071-8173-1

▲ 注 意

1.手をはさみ，ケガをするおそれがあるので，アンローダササエの上に手を置かないこと。

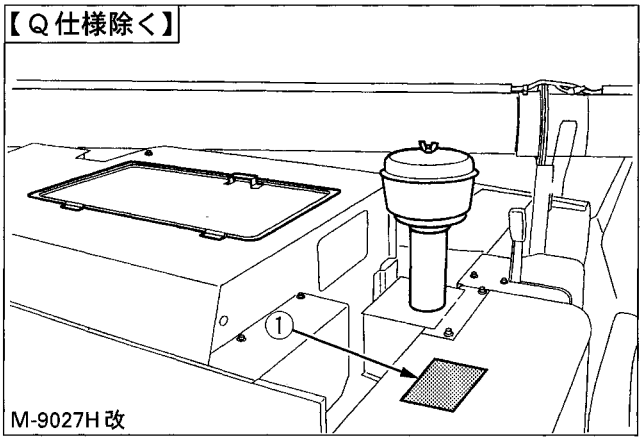
2.アンローダ先端が大きく動き，ケガをするおそれがあるので，アンローダの作用範囲に人がいるときは，アンローダを動かさないこと。

【Q仕様】



M-10764P改　※イラストはSD仕様

【Q仕様除く】

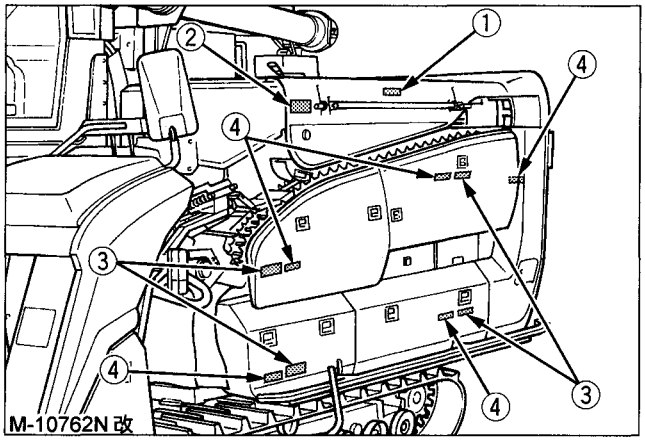


M-9027H改

①品番　53982-6431-1

⚠ 警　告

中で扱歯が高速で回転しているので、接触するとケガをします。扱胴オープンするときにはエンジンを必ず止めること。



M-10762N 改

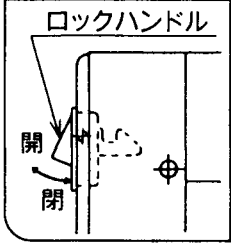
②品番　53649-6435-1

⚠ 警　告

1．わら等の巻付き・詰まり除去のときは、エンジンを必ず止めること。
2．手こぎ作業で、手・腕をチェーンにはさまれてけがをするおそれがあるので、下記を守ること。
・平坦な所で走行部・刈取部を止めること。
・自動車体水平制御は必ず機体を一番下まで下げること。【M仕様】
・防じんカバーを開くこと。【防じんカバー付き】
・手・腕をチェーンの外側に位置させ、わらを少しずつ送り込むこと。

③品番　5K190-6433-1

⚠ 注意



1.このカバーを閉じる場合、ロックハンドルを必ず閉位置にすること。
2.ロックが確実にされていないと、落下し危険です。

④品番　5K190-6432-1

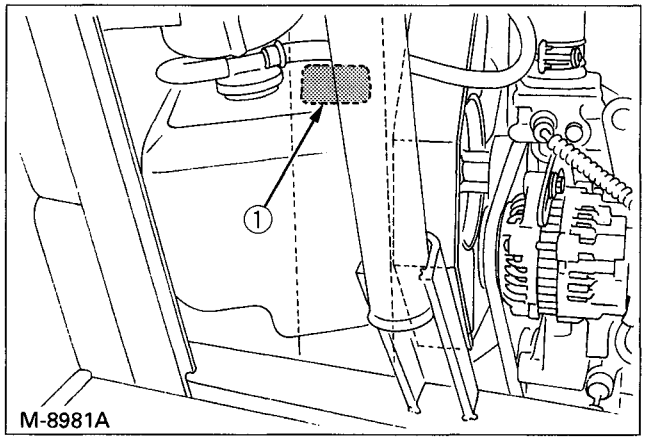
⚠ 注　意

中に回転物がありケガをするので、
点検・調整時はエンジンを必ず止めること。
点検・調整後はカバーを必ず取付けること。

①品番　52320-3159-1

⚠ 注　意

マフラ・ハイキカン・エンジンなどの高温部に触れるとヤケドをするので、高温部に絶対に触れないこと。



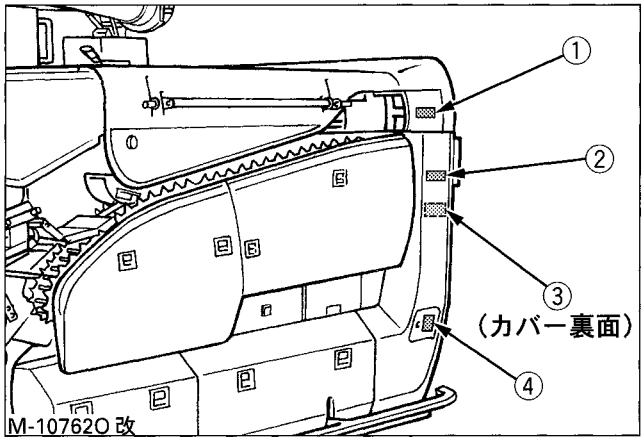
M-8981A

▲ 安全に作業するために

①品番　53981-6188-2

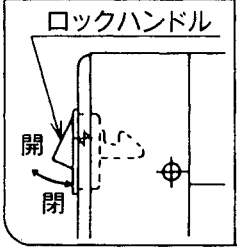
▲ 警告

1. カバーの中に回転物がありケガをするので手を絶対に入れないこと。
2. ワラ・雑草などの巻付や詰りを取除くときは、エンジンを必ず止めること。

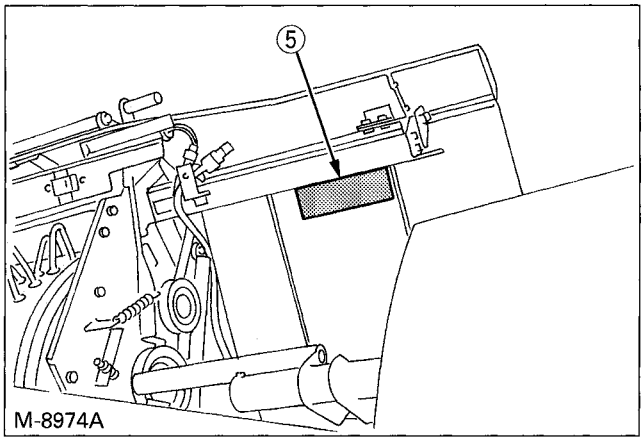


②品番　5K190-6433-1

▲ 注意



1. このカバーを閉じる場合、ロックハンドルを必ず閉位置にすること。
2. ロックが確実にされていないと、落下し危険です。



③品番　5K190-6442-1

▲ 警告

1. カッタの刃に接触すると手・指を切断するおそれがあるので，手を絶対に入れないこと。
2. チェーン・ベルトに接触すると，手をケガするので，手を絶対に入れないこと。
3. カッタ開閉時はエンジンを必ず止めること。
4. カッタをオープンしたまま運転しないこと。
5. 点検・調整，ワラ・雑草などの巻付きや詰りを取除くときはエンジンを必ず止めること。
6. 点検・調整などが終わったら，カバーを元通りに必ず取り付けること。

④品番　52166-2575-1

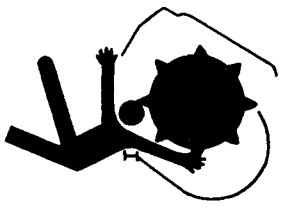
▲ 注　意

火気厳禁

・火災のおそれがあるので給油するときはエンジンを止めること。

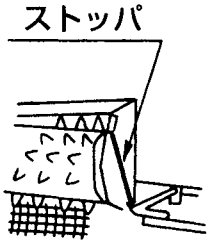
ディーゼル軽油

⑤品番　53981-6416-2



▲ 警　告

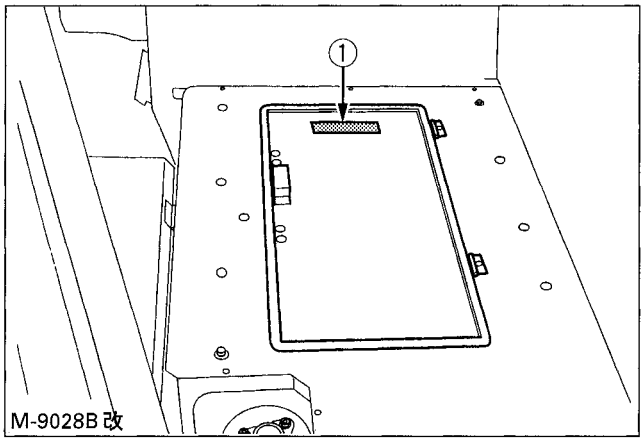
1. 扱胴オープンした状態で脱こく機を回転させると非常に危険です。エンジンは、絶対に始動しないこと。
2. 扱胴をオープンして、受網の脱着や扱室の掃除をするときは扱胴が落下して身体がはさまれることがあるので、ストッパで必ず固定すること。



①品番　53690-3129-2

⚠ 注　意

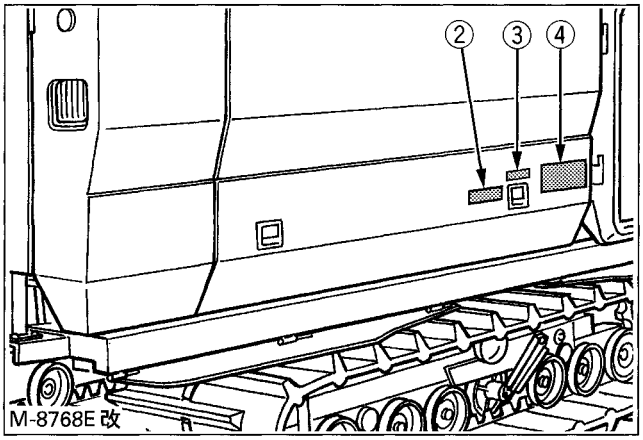
中に回転物がありケガをするおそれがあるので、運転中は絶対に手を入れないこと。



②品番　5K190-6432-1

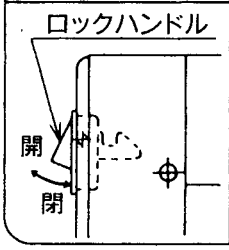
⚠ 注　意

中に回転物がありケガをするので、
点検・調整時はエンジンを必ず止めること。
点検・調整後はカバーを必ず取付けること。



③品番　5K190-6433-1

⚠注意



1.このカバーを閉じる場合、ロックハンドルを必ず閉位置にすること。
2.ロックが確実にされていないと、落下し危険です。

④品番　5G200-6314-1

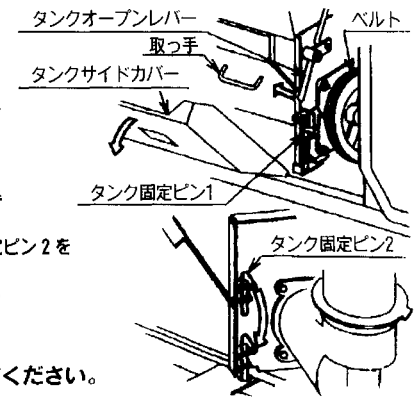
⚠ 注　意

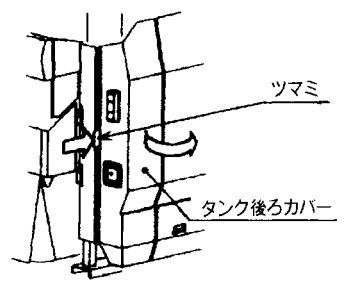
グレンタンクをオープンするときは、ベルトに手をはさまれたりタンクに身体がはさまれるおそれがあるので、平坦な場所で、内部の「もみ」を排出し、エンジンを停止してからオープンすること。

◆タンクオープンのしかた

1（タンク内を空にしてエンジンを停止してください。
2）張り出しを閉じてください。（張り出し付のみ）
3）タンクサイドカバーを外し、ベルトを外してタンク固定ピン１を解除してください。
4）タンク後ろカバーを開けてください。
5）タンクオープンレバーを持って手前に引き、取っ手を持ってタンクを開いてください。
開いた後はタンク後方に取り付けてあるタンク固定ピン２を右図の様に差し換えてタンクを固定してください。
6）タンクを閉じる時は上記の逆の順番で確実にタンクを固定しベルトをかけ忘れないでください。

◆タンクをオープンする時は、カッタを閉じてください。





◆タンク後ろカバーを開く時は、ツマミを矢印方向に押してください。
閉じる時はタンク後ろカバーを押し込んでください。

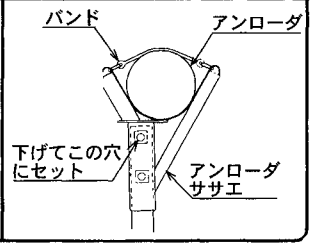
▲ 安全に作業するために

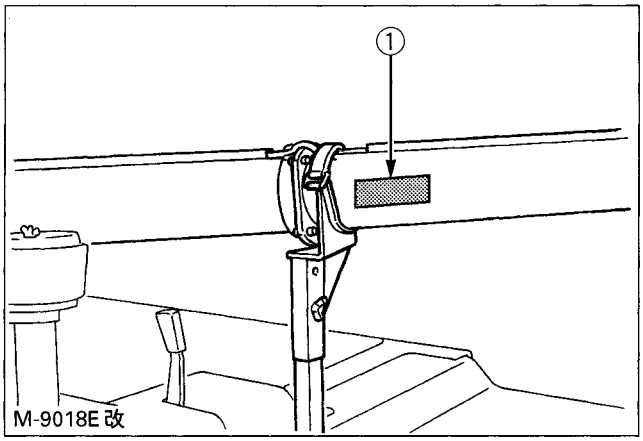
①品番　58062-7113-3

▲ 注　意

あぜ越え，移動走行時及びトラック等で輸送する場合，アンローダがササエから外れると人や物に当たり，ケガや損傷のおそれがあるのでアンローダは必ず，次の通りに収納固定すること。

1.アンローダササエを下げてセットする。
2.アンローダを収納する。
3.アンローダが浮き上がらないようバンドで確実に固定する。



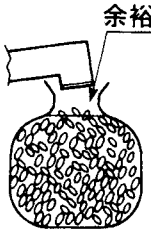


M-9018E 改

②品番　5G200-6425-1

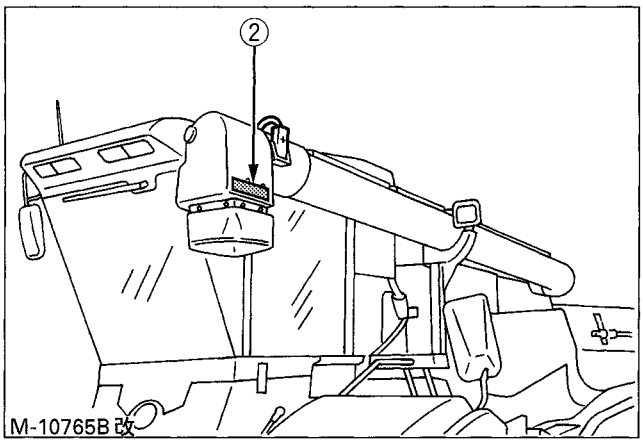
▲ 注　意

中に回転物がありケガをするおそれがあるので、運転中は絶対に手を入れないこと。



袋詰め時、余裕を持って排出クラッチを切ること。

アンローダが詰まると、駆動系統の故障の原因になります。



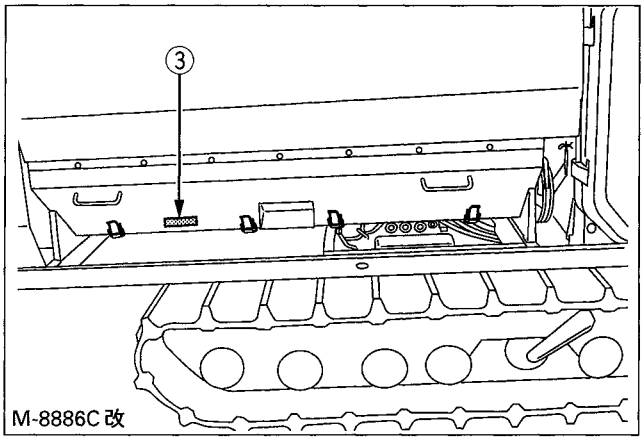
M-10765B 改

③品番　53981-6434-1

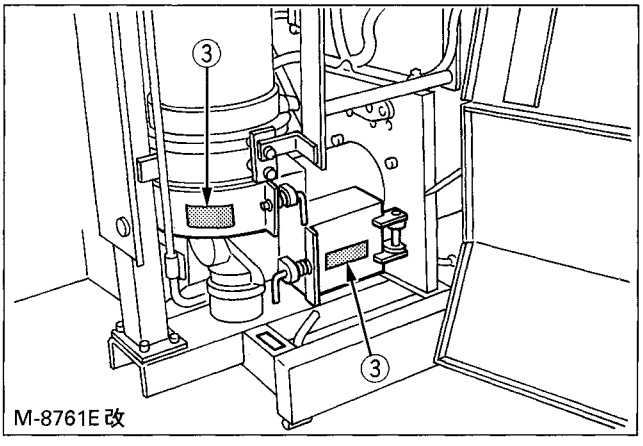
▲ 注意

掃　除　口

中に回転物がありケガをするので、清掃時はエンジンを必ず止めること。
清掃後はフタを必ず閉じること。



M-8886C 改



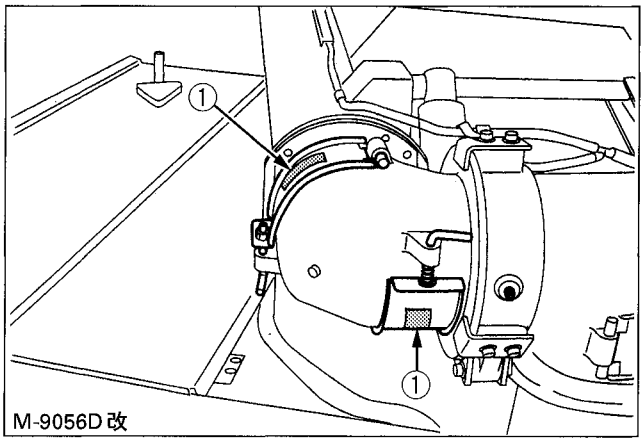
M-8761E 改

①品番　58071-8174-1

⚠ 注 意

掃 除 口

中に回転物がありケガをするので，清掃時はエンジンを必ず止めること。清掃後はフタを必ず閉じること。



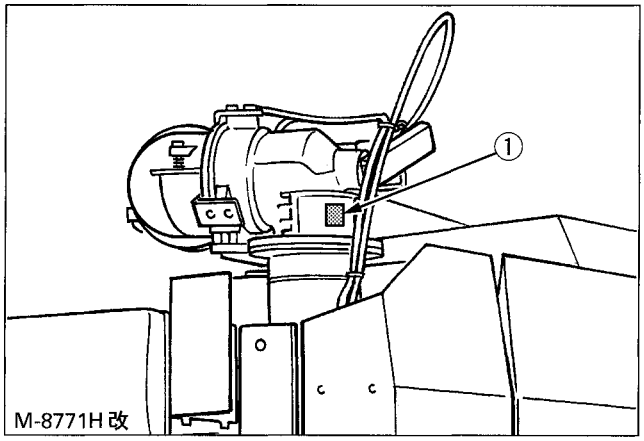
M-9056D 改

②品番　5K190-6461-1

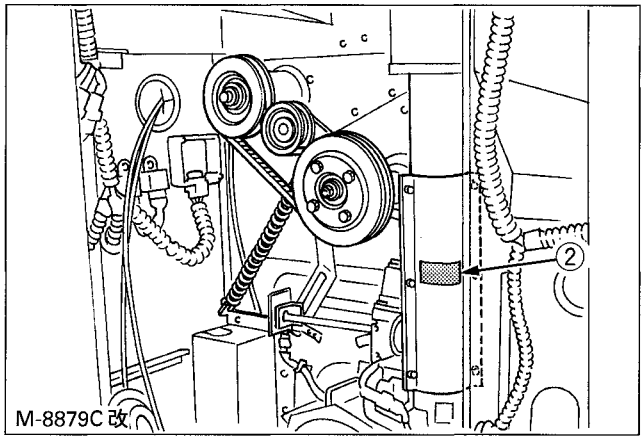
⚠ 注意

掃 除 口

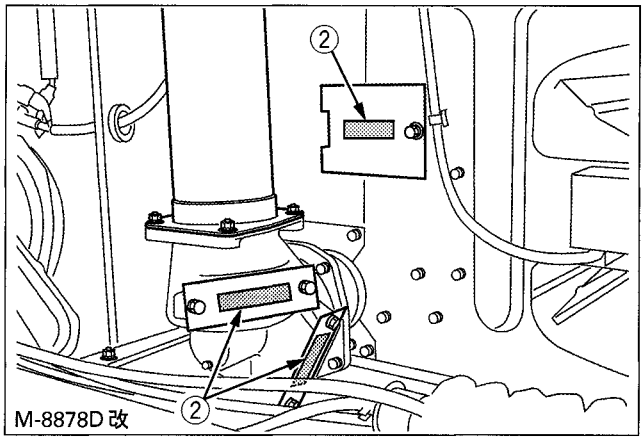
中に回転物がありケガをするので、
清掃時はエンジンを必ず止めること。
清掃後はフタを必ず閉じること。



M-8771H 改



M-8879C 改



M-8878D 改

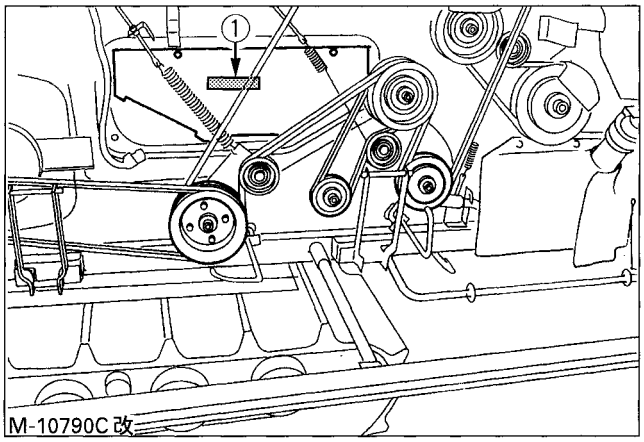
⚠ 安全に作業するために

①品番　5K190-6461-1

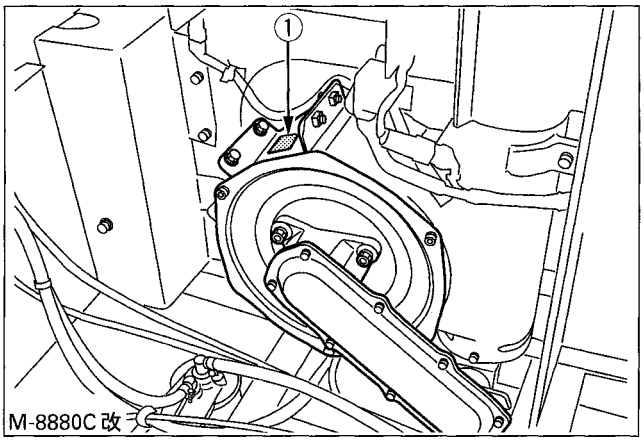
⚠ 注意

掃　除　口

中に回転物がありケガをするので、
清掃時はエンジンを必ず止めること。
清掃後はフタを必ず閉じること。



M-10790C改

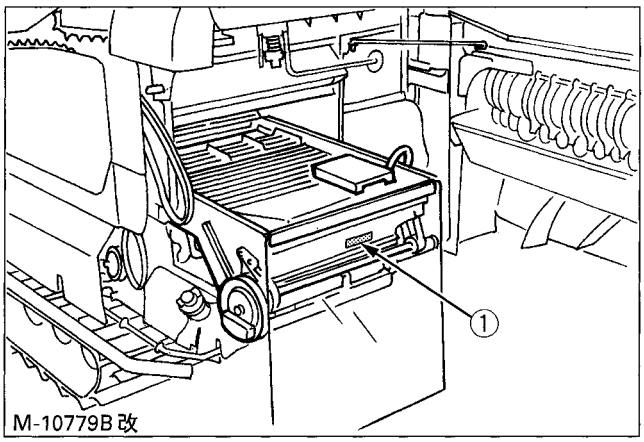


M-8880C改

①品番　5K190-6422-1

⚠ 注　意

シーブケースは重いので脱着
作業は2人で行うこと。

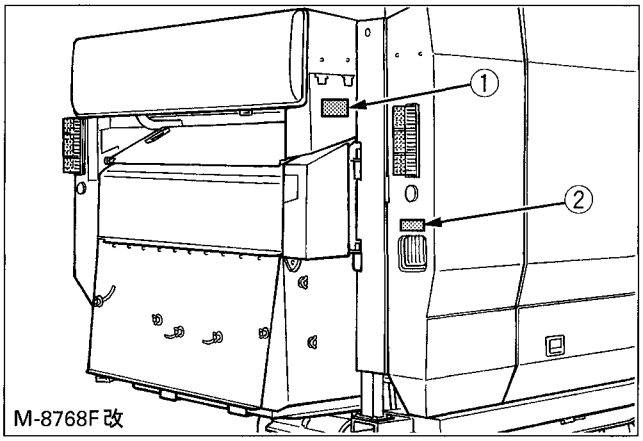


M-10779B改

①品番　5K190-6446-1

⚠警告

1. カッタの刃に接触すると手・指を切断するおそれがあるので、手を絶対に入れないこと。
2. ワラ・雑草などの巻付きや詰りを取除くときは、エンジンを必ず止めること。
3. カッタ作業時は、カバーを必ず閉じること。

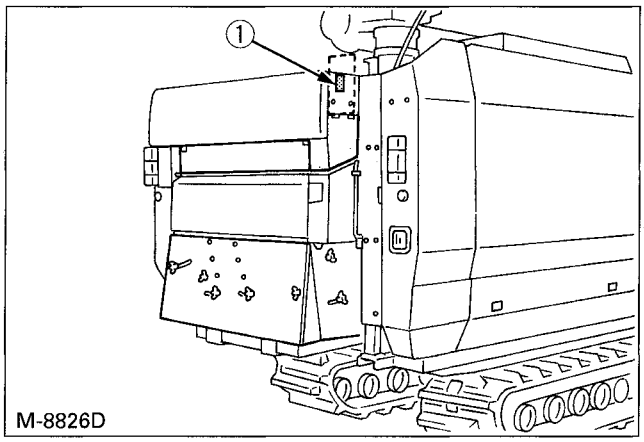


M-8768F改

②品番　5K190-6432-1

⚠注　　意

中に回転物がありケガをするので、
点検・調整時はエンジンを必ず止めること。
点検・調整後はカバーを必ず取付けること。

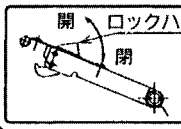


M-8826D

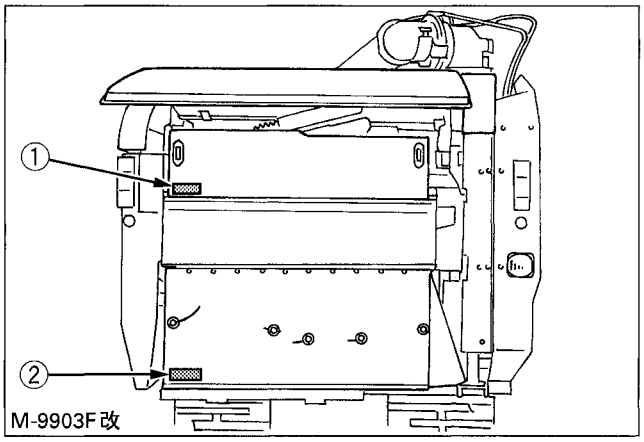
①品番　57691-5166-1

⚠警告

1. **このカバーの中は刃物が回転しており危険なので、手を絶対に入れないこと。**
2. **点検・調整、わら・雑草などの巻付きや詰りを取除くときはエンジンを必ず止めること。**
3. **点検・調整などが終わったら、危険ですのでカバーを元通りに必ず戻すこと。**



1. このカバーを閉じる場合、ロックハンドルを必ず「閉」位置にすること。
2. ロックが確実にされていないと、エンジンをかけ脱こくクラッチを入れるとエンジンが停止します。



M-9903F改

②品番　57691-5315-1

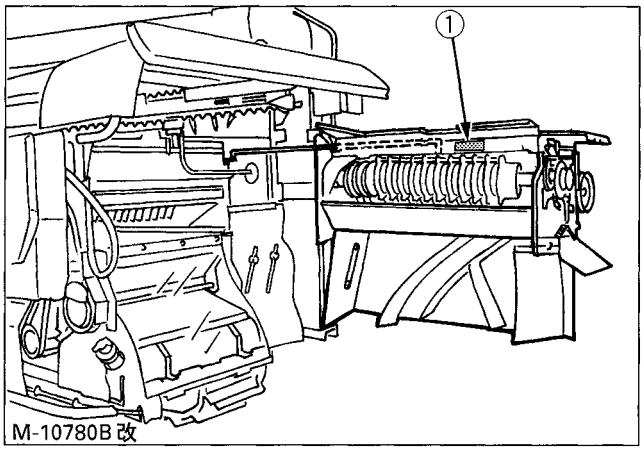
⚠警告

1. このカバーの中は刃物が回転しており危険なので、手を絶対に入れないこと。
2. ワラ・雑草などの巻付きや詰りを取除くときは、エンジンを必ず止めること。

▲ 安全に作業するために

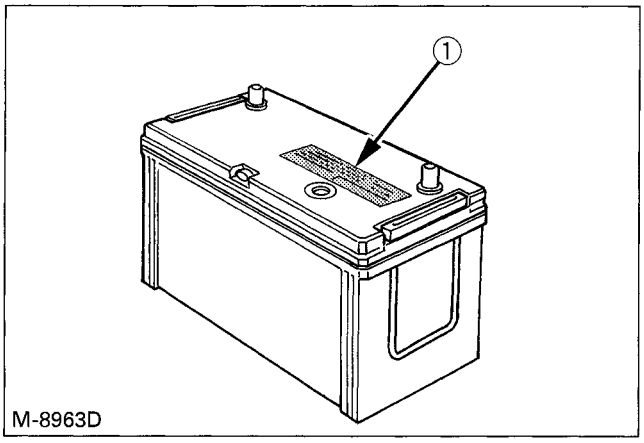
①品番　57745-5124-1

▲注意
1. カッタをオープンしたら、不用意な動きを防ぐため規制金具で確実にロックすること。
2. カッタの刃に触れると手・指を切るので、巻付きや詰りを取除くとき刃に絶対触れないこと。



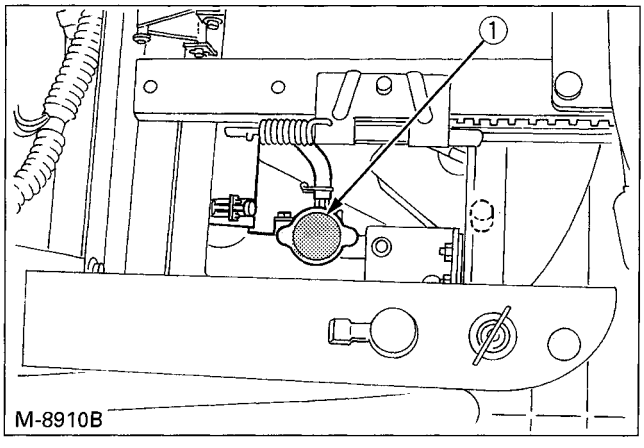
M-10780B 改

①品番　5H601-4353-0



M-8963D

①品番　16667-8724-1



M-8910B

◆⚠表示ラベルの手入れ

⚠表示ラベルをよく読み理解して，安全注意事項を守る

- ラベルは，いつもきれいにして傷つけないようにする。
- ⚠表示ラベルがよごれた場合は，石鹸水で洗い，やわらかい布でふく。
  シンナーやアセトンなどの溶剤を使うと，文字や絵が消えることがあります。
- 高圧洗浄機で洗車すると，高圧水によりラベルが剝がれるおそれがあるので，高圧水を直接ラベルにかけない。
- 破損や紛失したラベルは，製品購入先に注文し，新しいラベルに張り替える。
- 新しいラベルを貼る場合は，貼付面の汚れを完全にふき取り，乾いた後，もとの位置に貼る。
- ラベルが貼付けされている部品を新部品と交換するときは，ラベルも同時に交換する。

サービスと保証について

この製品には，サービスブックが添付してありますのでご使用前によくご覧ください。

■ご相談窓口

ご使用中の故障やご不審な点及びサービスについてのご用命は，お買上げいただいたご購入先にそれぞれ**“ご相談窓口”**を設けておりますのでお気軽にご相談ください。

その際　(1)商品名・区分と車台番号

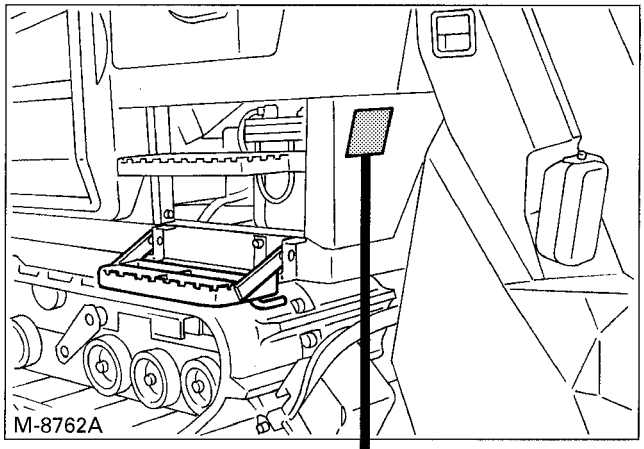
　　(2)とう載機関(エンジン)の型式名と機関番号

をあわせてご連絡ください。

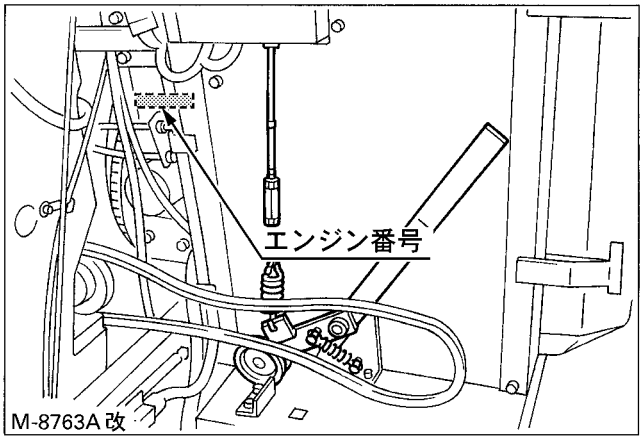
なお，部品ご注文の際は，ご購入先に純正部品表を準備しておりますので，そちらでご相談ください。

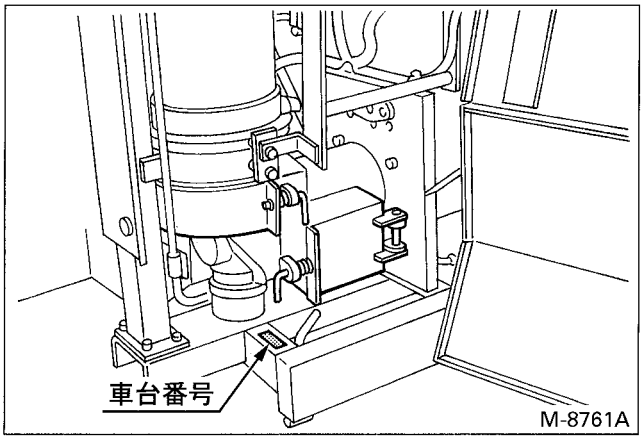
警　告

＊機械の改造は危険ですので，改造しないでください。改造した場合や取扱説明書に述べられた正しい使用目的と異なる場合は，メーカ保証の対象外になるのでご注意ください。



農業機械の種類	コンバイン（自脱型）	
農機型式名	クボタ	
商品名		
区分		
車両型式名	クボタ	
車台番号		
刈取条数		条
とう載機関 型式名	クボタ	
とう載機関 機関番号		
とう載機関 最大出力	kW/	rpm
とう載機関 無負荷最高回転速度		rpm
製造元	株式会社クボタ	





◆認定番号

安全鑑定・型式検査（国検）の農機型式名及び認定番号が必要な場合は，下記の型式名及び番号をご使用ください。

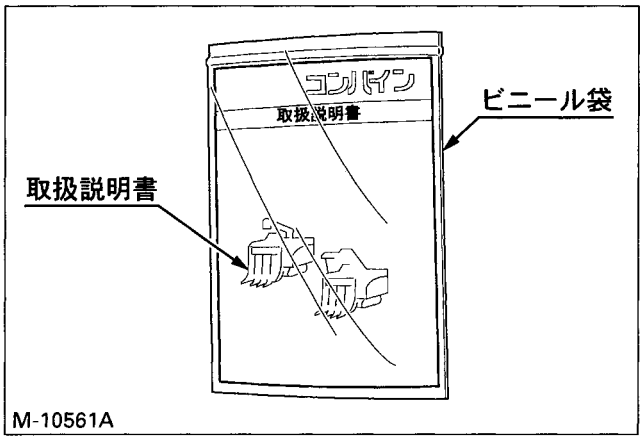
商品名	農機型式名	安全鑑定番号	型式検査（国検）合格番号	小型特殊自動車	
				車両型式名	型式認定番号
AR60	クボタR0004	25068	—	クボタ C505	農2207号
AR70	クボタR0003	25067	—	クボタ C505	農2207号
AR80	クボタR0002	25066	—	クボタ C602	農2208号
AR90	クボタR0001	25065	200032	クボタ C602	農2208号
AR98	クボタR0302	28112	—	クボタ SB-C604	申請中

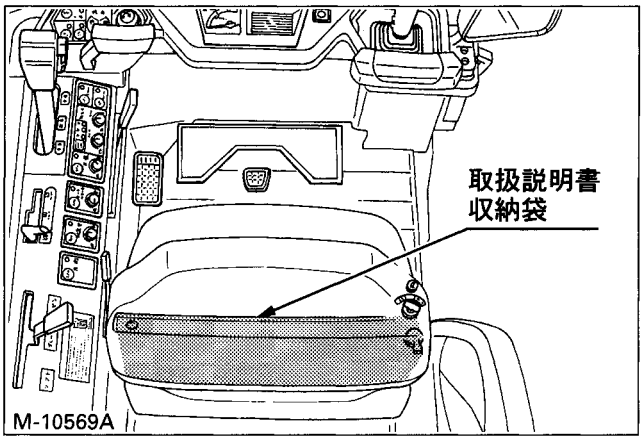
■補修用部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限(期限)は製造打ち切り後９年といたします。
ただし，供給年限内であっても特殊部品につきましては，納期などについてご相談させていただく場合もあります。
補修用部品の供給は原則的に上記の供給年限で終了いたしますが，供給年限経過後であっても部品供給のご要請があった場合には，納期及び価格についてご相談させていただきます。

◆ 取扱説明書の収納場所について

本冊子を付属部品のビニール袋にいれたあと，運転席（シート）裏側にある収納袋に本冊子を収納して，常時携帯してください。（出荷時は取扱説明書がビニール袋に入っています。）





小型特殊自動車について

このコンバインは，道路運送車両法の農耕作業用小型特殊自動車に該当します。

警 告

＊道路を走行するときは，小型特殊自動車の法規を守り安全運転をしてください。

注 意

＊作業灯は“道路運送車両の保安基準”第42条(灯火の色等の制限)において，“走行中に使用しない灯火”とされ，点灯したまま道路走行すると他の交通車両の妨害となることから道路走行中の点灯は禁止されております。

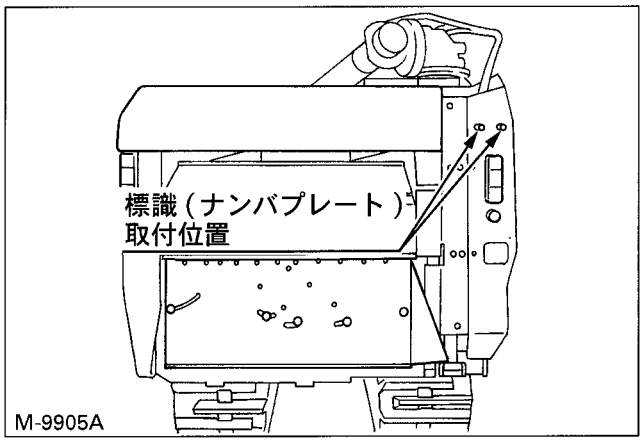
＊このコンバインは，小型特殊自動車で道路運送車両の保安基準が適用されます。下記のうち一つでも条件を満足しないと保安基準に適合しませんので特にご留意してください。

1. 認定を受けたエンジン以外は搭載して走行することはできません。
2. エンジン及び本機で封印されているところはさわらないでください。封印が外されたと認められる場合は，一切の保証はいたしません。
3. 認定時の構造を変更した状態では，道路走行することはできません。
4. オプション部品の結束機，ドロッパ，スイスイデバイダなどを装着した場合は公道を走ることができません。装着した状態で移動するときは，トラック輸送(59ページ参照)してください。(カッタは，装着したままで走行できます。)

■小型特殊自動車取得の届出と標識(ナンバプレート)の取付け

新たに小型特殊自動車の所有者となった者は，市町村条例により，その取得を市町村役所に届け，標識(ナンバプレート)の交付を受けなければなりません。
手続きは市町村により多少異なりますので詳細は，購入先にご相談ください。

❶小型特殊自動車取得の証明書など(購入先で発行)に，軽自動車税を添えて市町村役所に届出ます。
❷届出が済むと標識(ナンバプレート)が交付されます。
❸標識(ナンバプレート)を車体の取付け位置に取付けてください。



◆損害賠償保険について

万一の交通事故補償に備え，任意保険に加入されることをお勧めします。

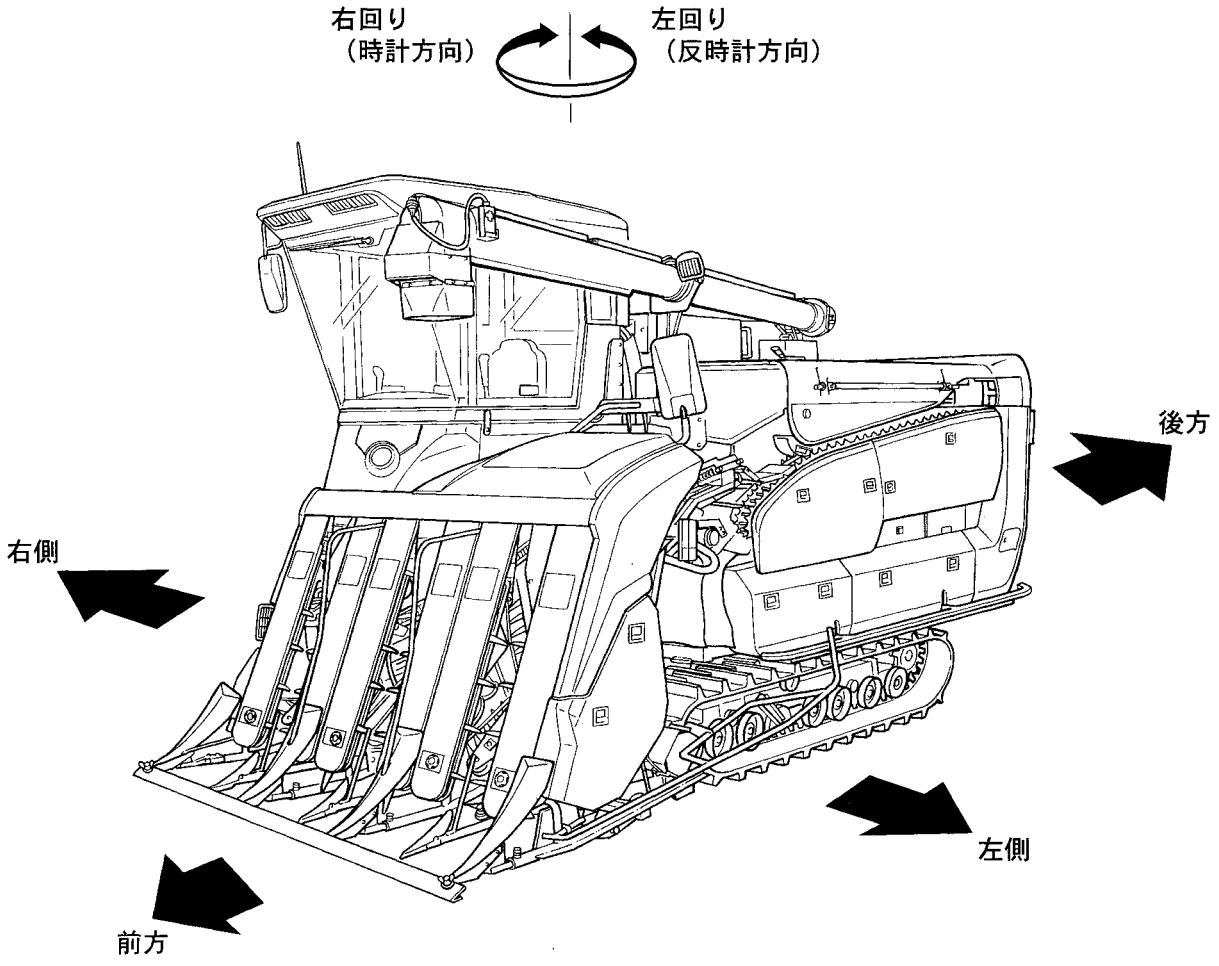
■運転免許証の携帯

公道走行時は，大型特殊自動車の運転可能な運転免許証が必要です。必ず所持してください。

装置の名称と取扱い

機体方向説明

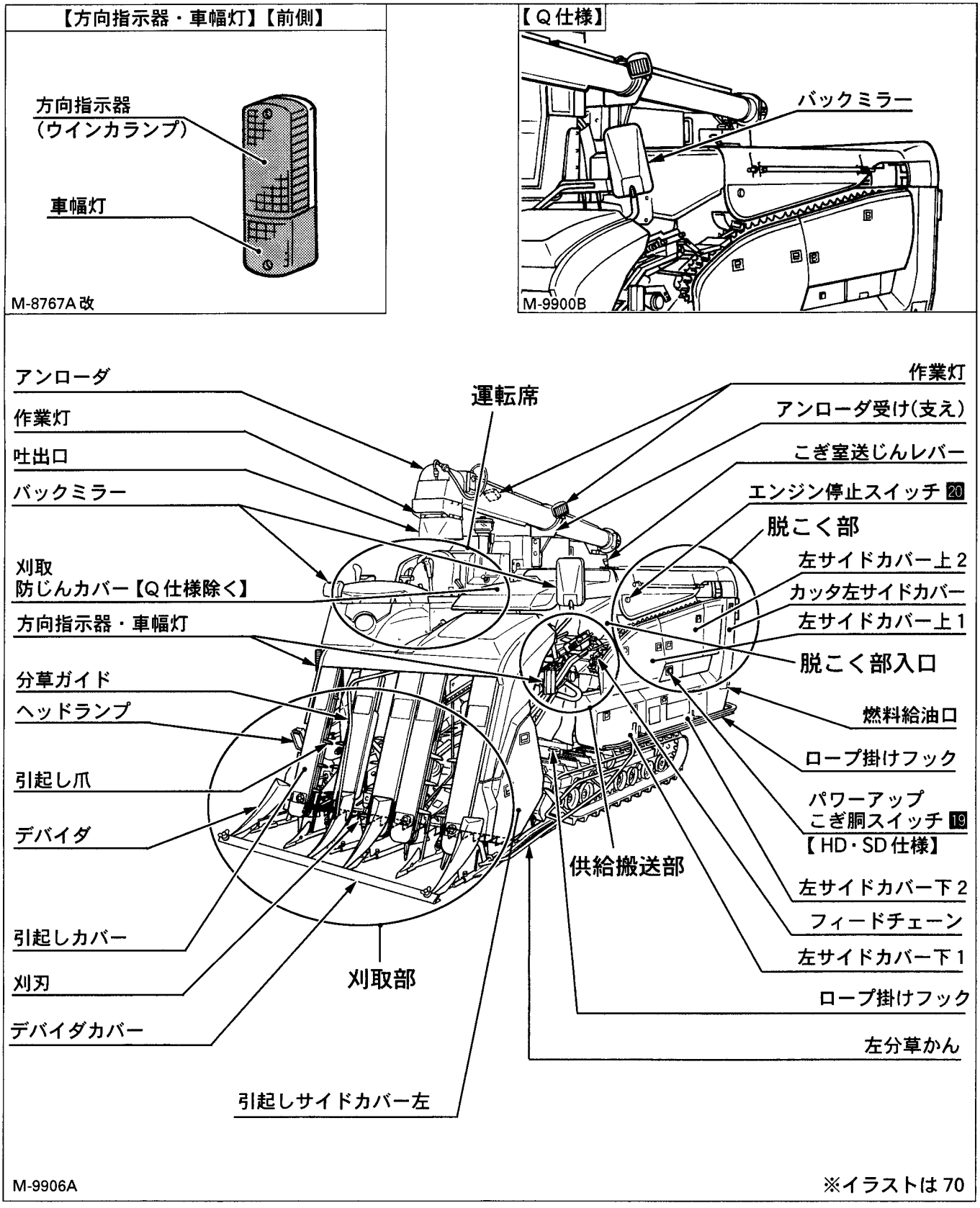
この取扱説明書で使用している**前後・左右・左回り・右回り**などの方向は，図示の通りです。



M-10762A

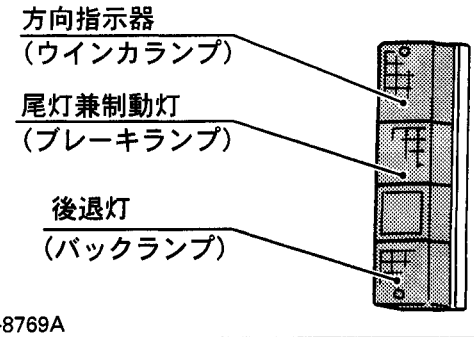
※イラストは 90Q 仕様

装置の名称と各部のはたらき

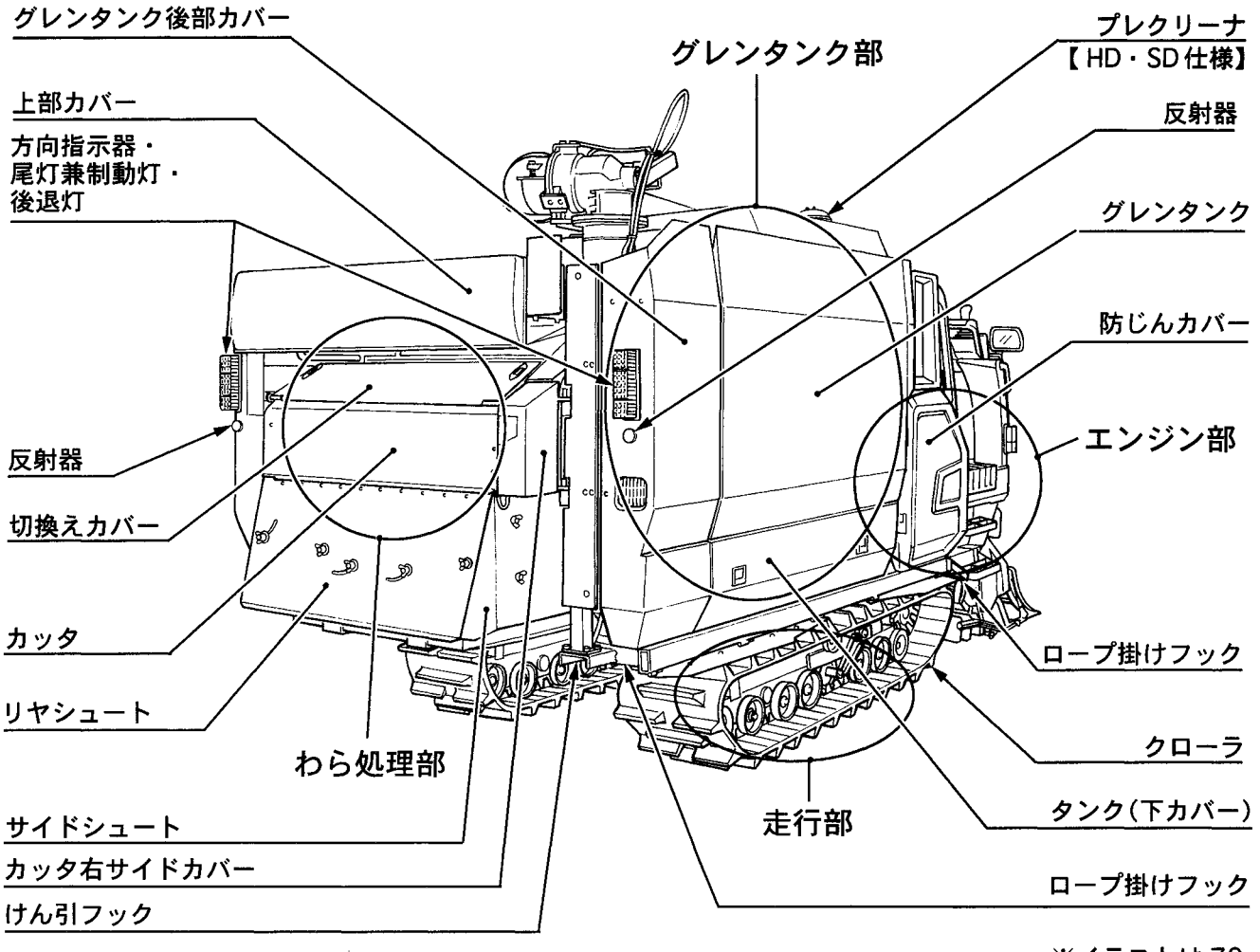


- **運転操作部**……エンジンの始動・停止や移動走行・刈取作業の運転操作を行なうところ
- **刈取部**……作物の引起しと刈取を行なうところ
- **供給搬送部**……刈取った作物を脱こく部へ搬送するところ
- **脱こく部**……作物の脱こくを行なうところ
- **アンローダ**……グレンタンクからもみを排出する筒

【方向指示器・尾灯兼制動灯・後退灯】【後方】



M-8769A

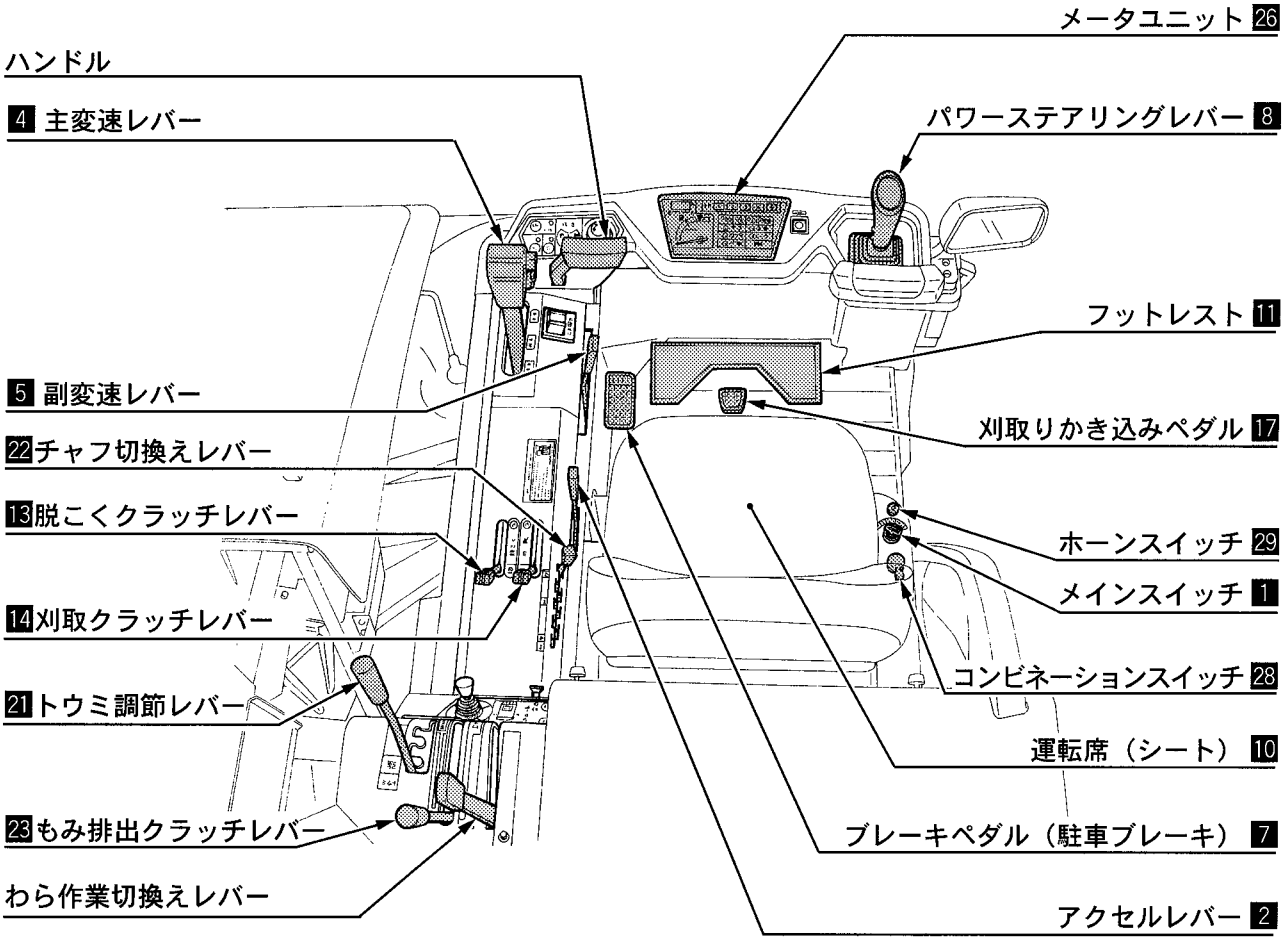


M-8771F

※イラストは70

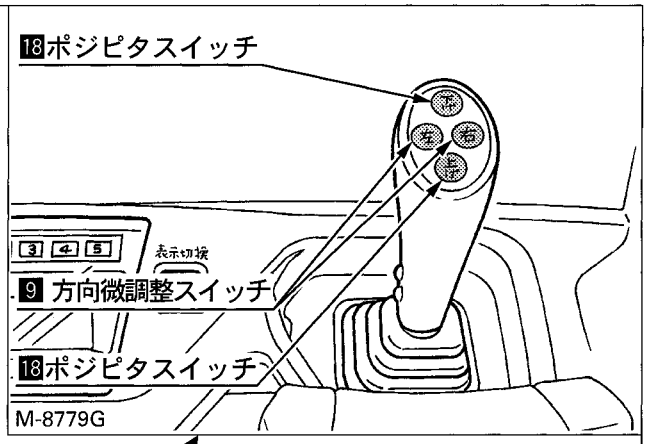
- **エンジン部**……運転席下部にある動力装置
- **走行部**……クローラにより走行を行なうところ
- **グレンタンク部**……脱こくで精選されたもみを一時貯蔵したあとアンローダで排出を行なうところ
- **わら処理部**……わらの切断やばら落としなどわらの処理を行なうところ

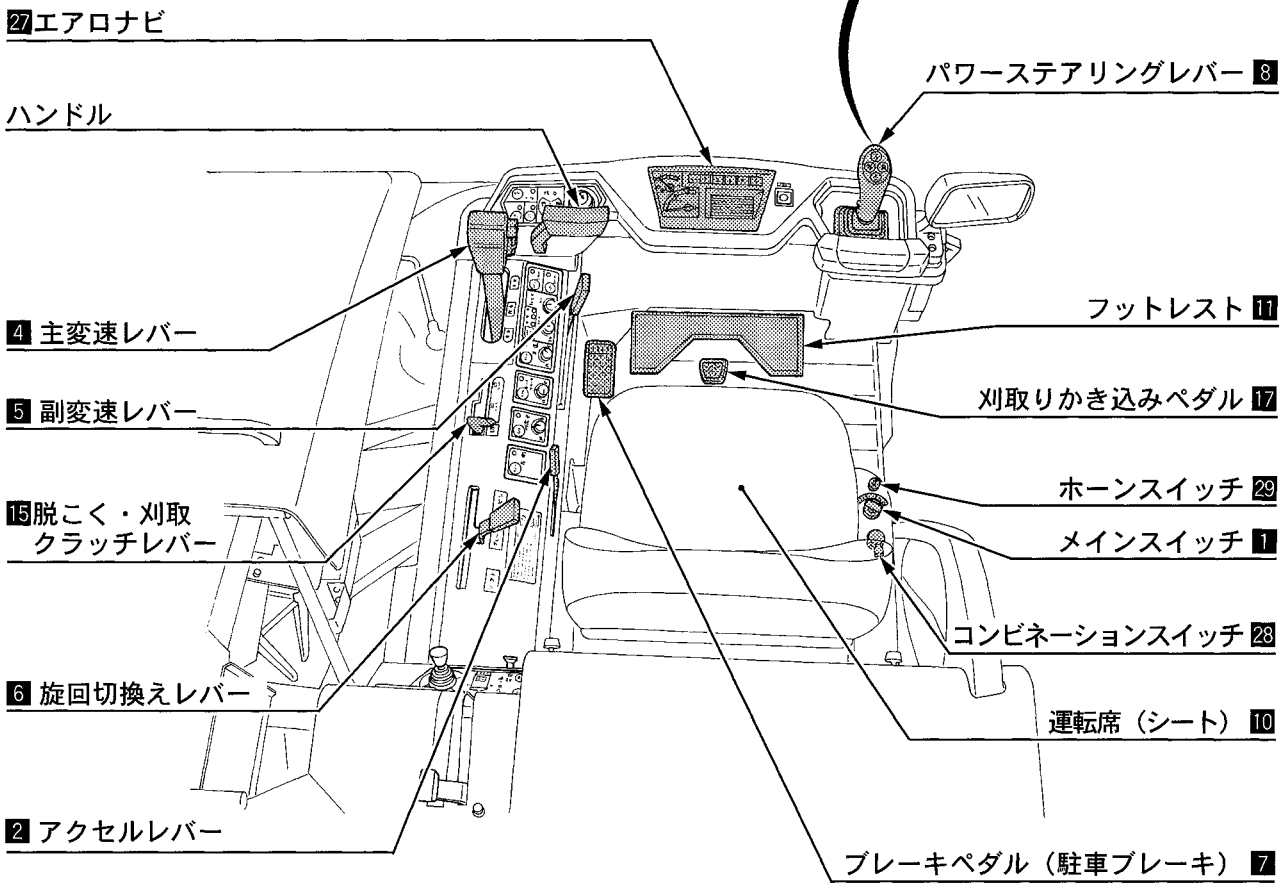
【DX仕様】



M-10766W

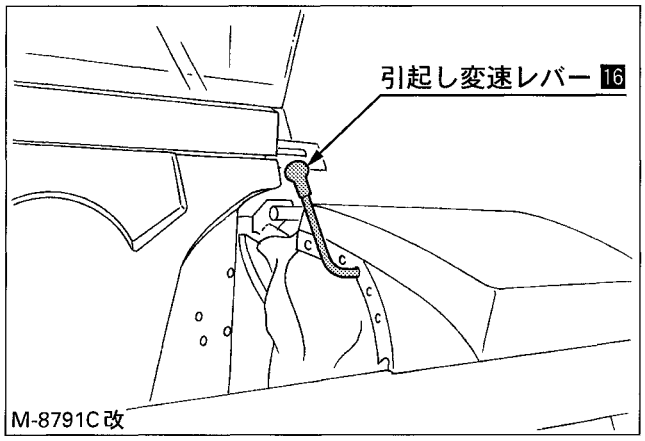
【HD・SD仕様】

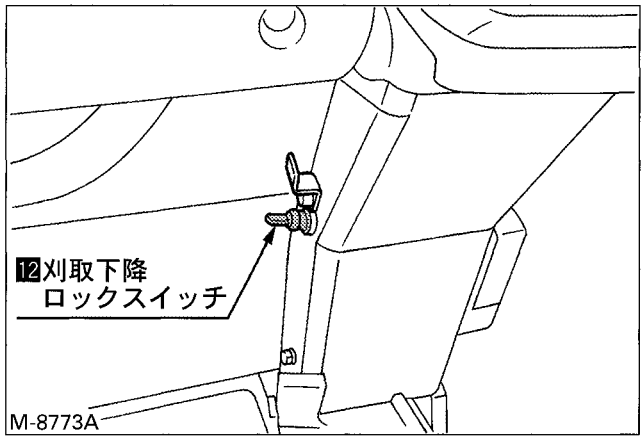


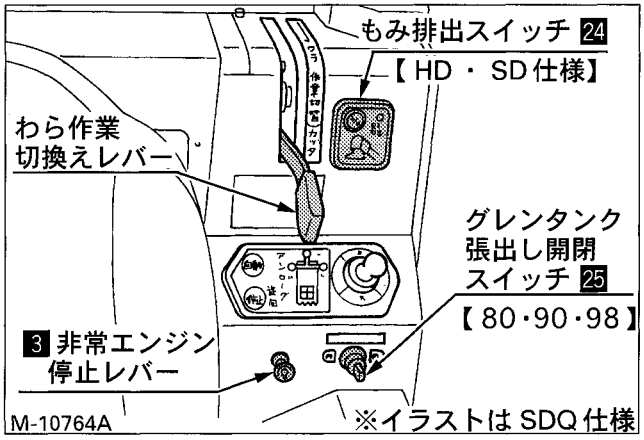


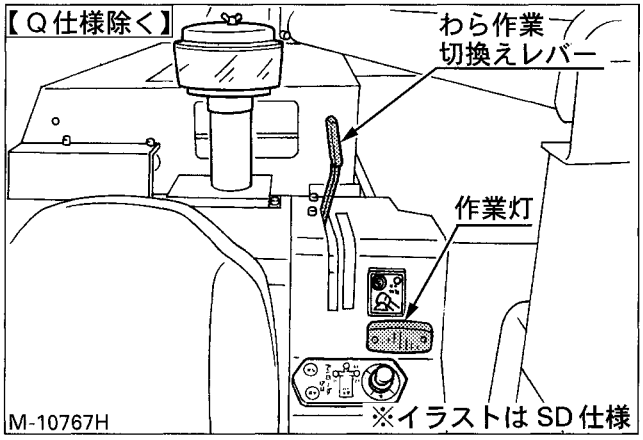
M-10763W

※イラストはSD仕様


引起し変速レバー 16
M-8791C改


12刈取下降
ロックスイッチ
M-8773A

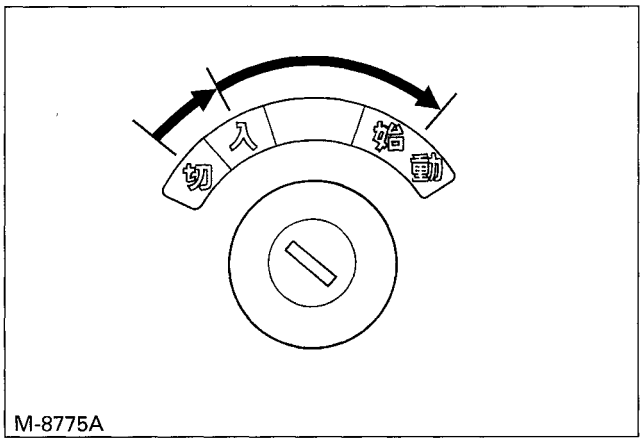

もみ排出スイッチ 24
【HD・SD仕様】
わら作業
切換えレバー
グレンタンク
張出し開閉
スイッチ 25
【80・90・98】
3 非常エンジン
停止レバー
M-10764A
※イラストはSDQ仕様


【Q仕様除く】
わら作業
切換えレバー
作業灯
M-10767H
※イラストはSD仕様

◆エンジン操作関係

1メインスイッチ

コンバインの電源の**入・切**，及びエンジンの**始動・停止**を行なうスイッチです。



M-8775A

"切"……スイッチキーが抜き差しできるエンジン停止中の位置。

"入"……電気(電装)装置がはたらく位置。

"始動"……セルモータが回転し，エンジンが始動する位置。

補　足

＊エンジン始動後，スイッチキーから手を離すとスイッチキーは，**"入"**の位置に戻ります。

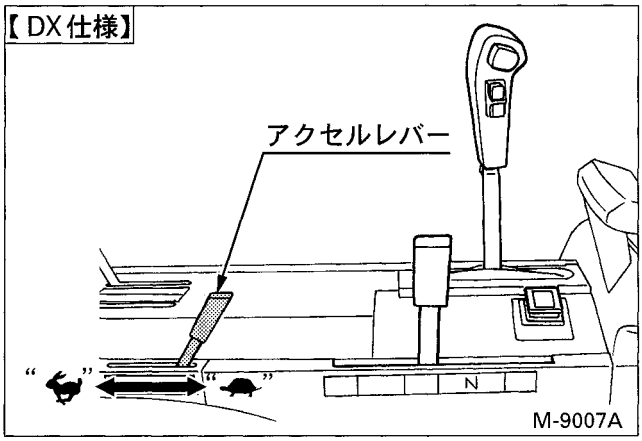
2アクセルレバー

エンジン回転をコントロールするレバーです。レバーを後方に引くと回転数が上がります。

"🐢"……エンジン回転数**低回転**の位置。

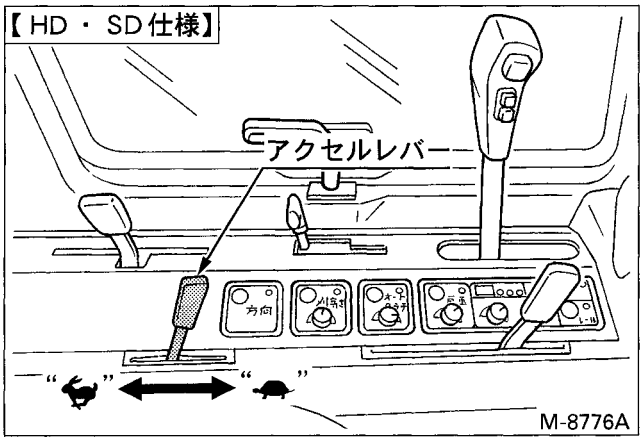
"🐇"……エンジン回転数**高回転**の位置。

【DX仕様】



M-9007A

【HD・SD仕様】



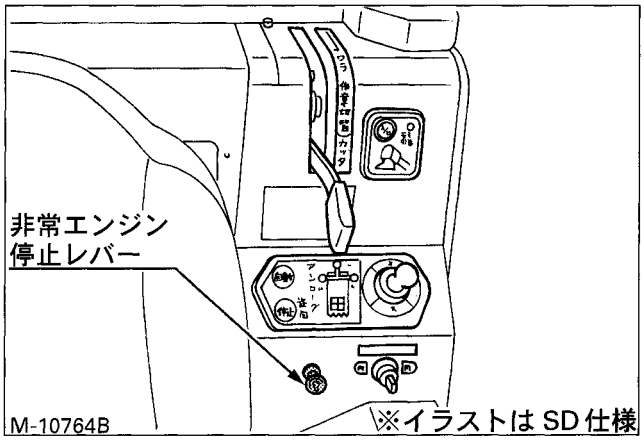
M-8776A

補　足

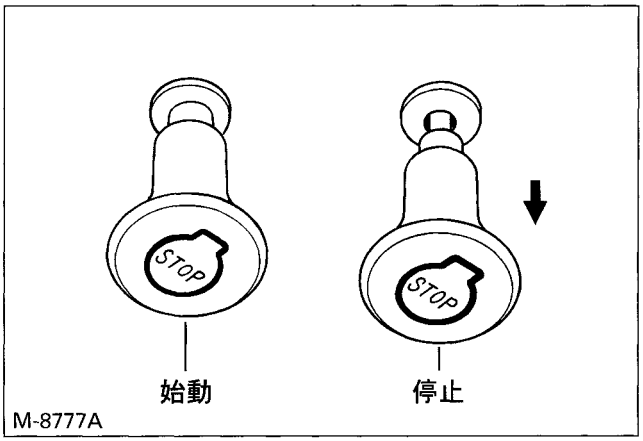
＊エンジン回転計は，18，19ページを参照してください。

3非常エンジン停止レバー

スイッチキーを**"切"**位置にしてもエンジンが止まらないときなど**非常時**に，エンジンを停止させるレバーです。



M-10764B　※イラストはSD仕様



M-8777A

補　足

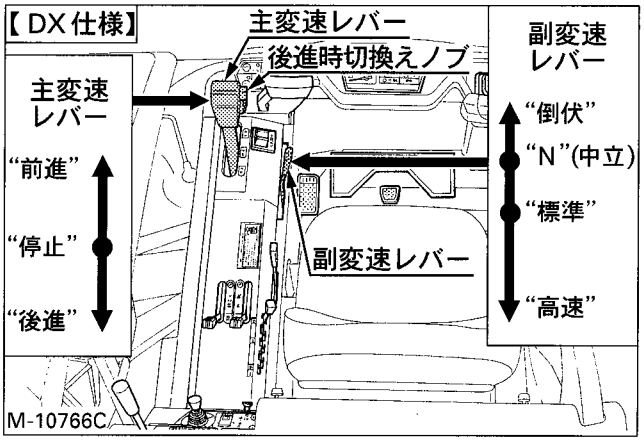
＊レバーが停止状態では，エンジンは始動しません。

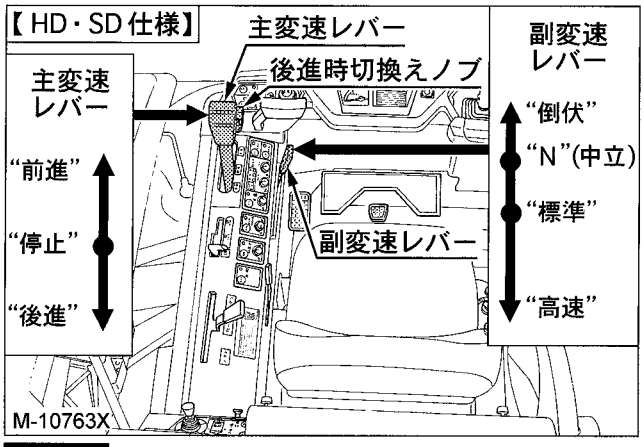
◆走行操作関係

4主変速レバー

5副変速レバー

移動走行時や刈取作業時に変速をするレバーです。
主変速レバーで，機体の**前進・後進を無段階**で操作します。
副変速レバーは**“倒伏”・“標準”・“高速”**の３段階です。





重　要

＊駐車ブレーキが掛かっているときは，主変速レバーを動かさないでください。無理に動かすと故障の原因となります。

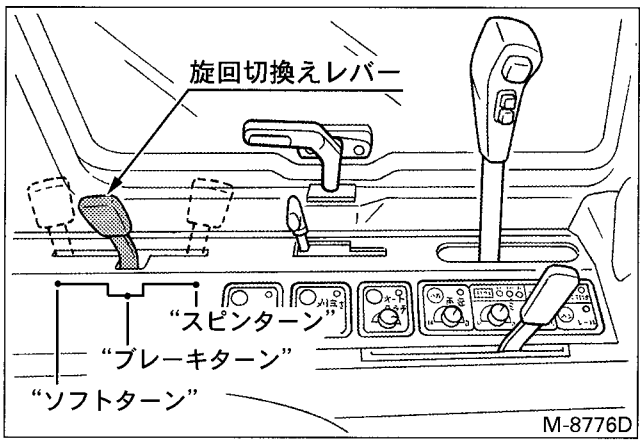
補　足

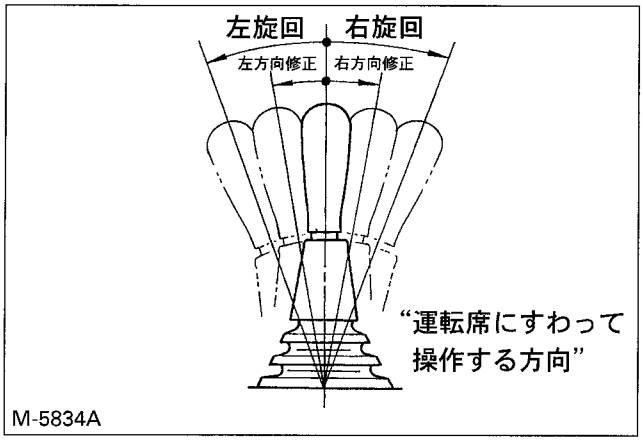
＊駐車ブレーキを掛けると主変速レバーは，**“停止”**位置に固定され，主変速レバーを操作しても動きません。

＊後進するときは，主変速レバーの後進切換えノブを押しながら**“後進”**側に引いてください。**“後進”**位置にするとバックブザーが鳴り，後退灯（バックランプ）が点灯します。

6旋回切換えレバー　【HD・SD仕様】

旋回方式を選択するレバーです。作業条件に応じて切換えてください。





“スピンターン”……
パワーステアリングレバーの倒し量に応じて左右のクローラが逆転します。**“ブレーキターン”**よりもさらに小回りが必要なときや能率を上げて作業する場合に使用してください。

“ソフトターン”……
左右のクローラに回転差をつけ両輪で前進駆動しながら旋回します。旋回半径は，やや大きくなりますが湿田やほ場の荒れを少なく作業する場合，また移動走行時に使用してください。

“ブレーキターン”…
パワーステアリングレバーを右又は，左に倒すと，倒した方向のクローラの駆動が停止した状態で旋回します。小回りが必要なときに使用してください。

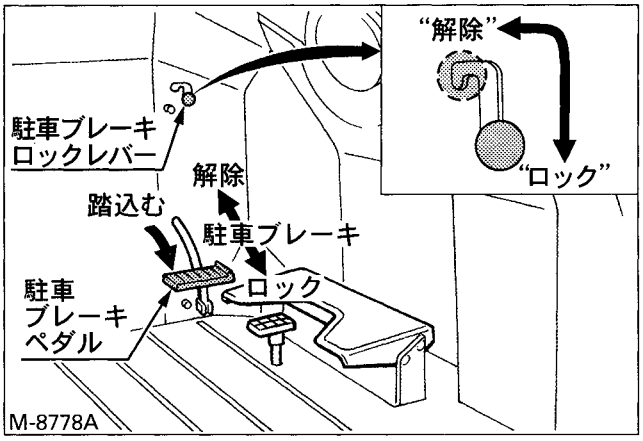
補　足

＊副変速レバーが**“高速”**位置のときは，旋回切換えレバーを**“スピンターン”**に切換えられません。また旋回切換えレバーが**“スピンターン”**のとき，副変速レバーは**“高速”**位置には切換えられません。

＊旋回切換えレバーが**“ソフトターン”**のとき，湿田ではパワーステアリングレバーを左右に一杯，倒した状態で使用してください。
倒す量が小さいと，**“ソフトターン”**の効果が発揮できない場合があります。

7 ブレーキペダル(駐車ブレーキ)

ブレーキペダルを踏込むとブレーキが掛かります。また，駐車ブレーキロックレバーを**“解除”**位置から**“ロック”**位置にしたあと，ブレーキペダルを踏込むと，駐車ブレーキが掛かります。駐車ブレーキを解除するときは，ブレーキペダルを少し踏込みながら駐車ブレーキロックレバーを**“解除”**位置に引上げてください。



補　足

＊駐車ブレーキを掛けると主変速レバーは，**“停止”**位置に固定され，主変速レバーを操作しても動きません。

＊移動(路上含む)走行時は，駐車ブレーキレバーを**“解除”**位置にしてください。

8 パワーステアリングレバー
9 方向微調整スイッチ【HD・SD仕様】

パワーステアリングレバーは，機体走行時の進路変更と刈取部の昇降の操作を行なうレバーです。また，方向微調整スイッチは，方向修正を行なうスイッチです。

補　足 **【HD・SD仕様】**

＊方向修正を行なうときは，パワーステアリングレバーと方向微調整スイッチを同時に操作することはできません。操作するときは，レバー又は，スイッチのどとらかを操作してください。

＊方向微調整スイッチは，方向修正を行なうスイッチです。旋回など機体を大きく方向転回するときは，パワーステアリングレバーを操作してください。

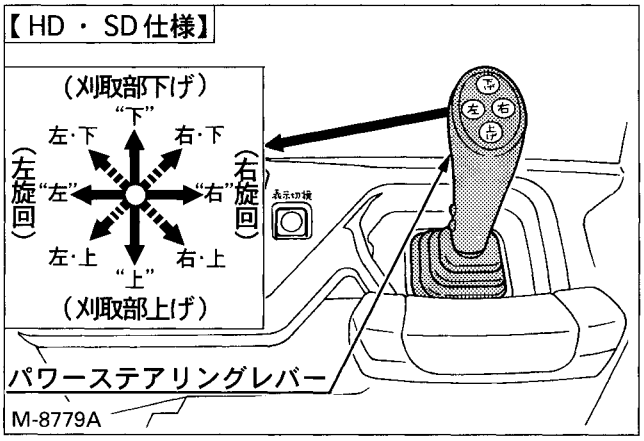
●パワーステアリングレバー

“左”⟷“右”……レバーを倒した方向に機体の進路が変わります。倒す角度に応じて進路の方向修正から旋回を行ないます。

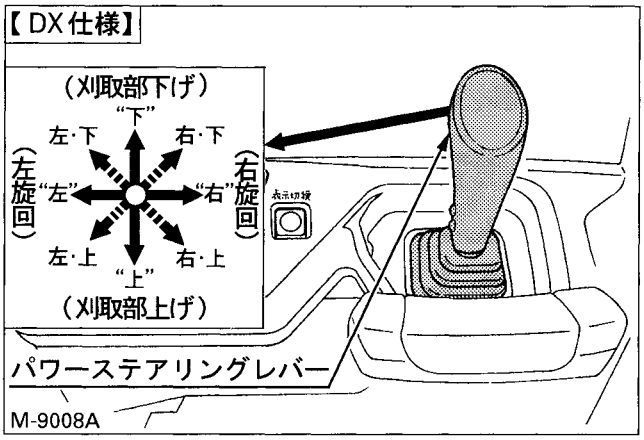
“下げ”
⬍
“上げ”
……レバーを倒した方向に刈取部が上下に動きます。

左・下　右・下
左・上　右・上
……レバーを倒した方向に機体の進路が変わると同時に，刈取部が上下に動きます。

【HD・SD仕様】

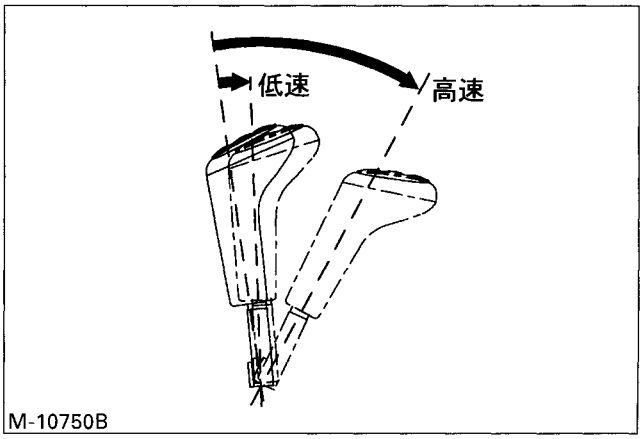


【DX仕様】



補　足 **【HD・SD仕様】**

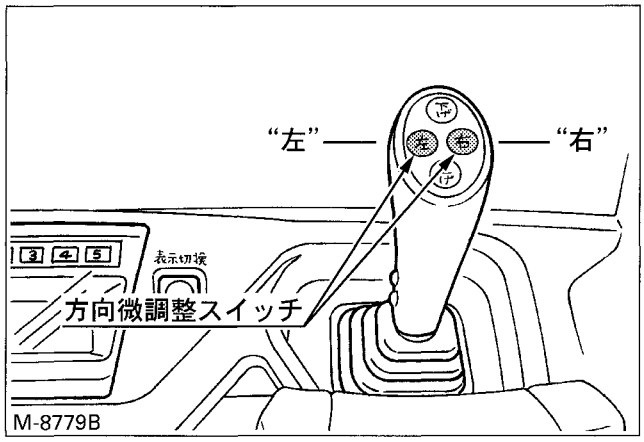
＊刈取部の**上昇⟷下降**操作を行なうとき，レバーを倒す量に応じて昇降速度が変化します。昇降速度は，レバーを倒す量が大きいほど早くなります。



＊エンジンが停止中で，刈取部が上がっているときにパワーステアリングレバーを前方(**“下”**方向)に倒しても刈取部は下がりません。

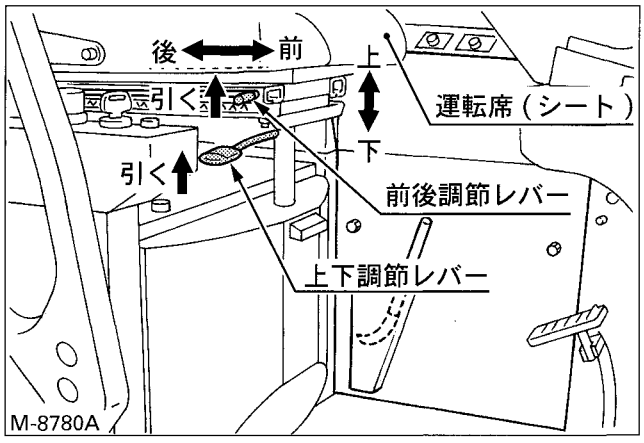
●方向微調整スイッチ【 HD・SD仕様】

“左”⟷“右”……スイッチを押した方向に機体の進路が変わります。



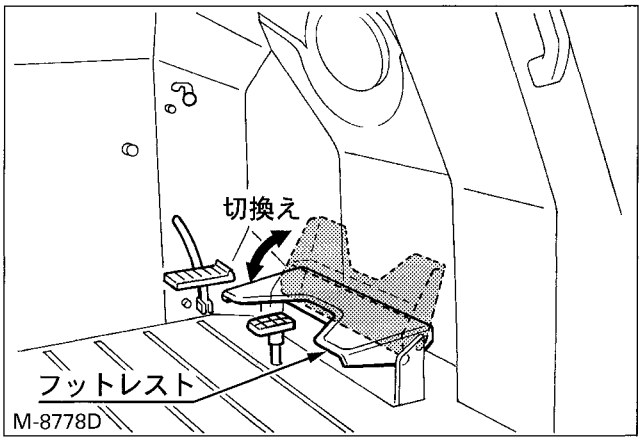
10運転席(シート)

運転席は，**前，後**方向及び，**上，下**方向に調節が行なえます。調節は，前後調節レバー及び，上下調節レバーを引いて行なってください。



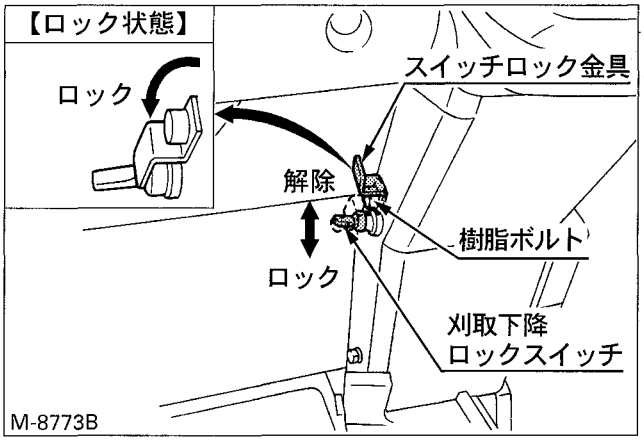
11フットレスト

必要に応じて切換えてください。



12刈取下降ロック装置

刈取部の下降防止を行なうロックスイッチです。ロックスイッチを下げる(**“ロック”**位置)とパワーステアリングレバーを操作しても刈取部は下降しません。解除するときは，ロックスイッチを上げて(**“解除”**位置)ください。



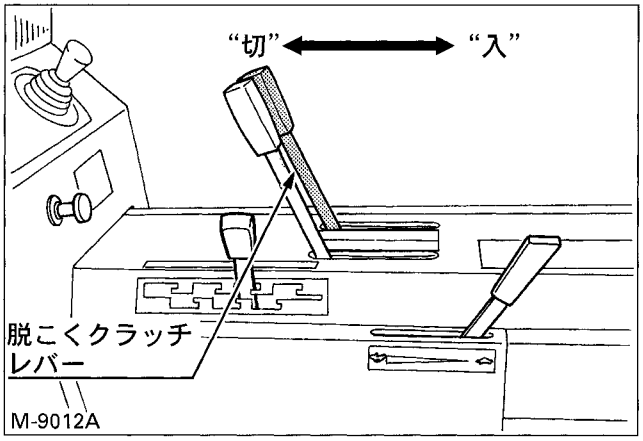
補　足

＊ロックスイッチを下げたときは，必ずスイッチロック金具でロックスイッチを固定し解除防止を行なってください。スイッチロック金具は樹脂ボルトをゆるめて動かしてください。

◆刈取・脱こく関係

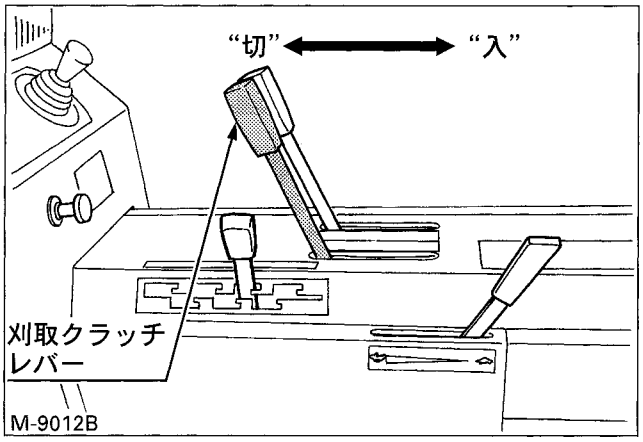
13脱こくクラッチレバー【DX仕様】

脱こく部の動力を**入・切**するクラッチレバーです。
“入”……脱こく部が作動します。
“切”……脱こく部が停止します。



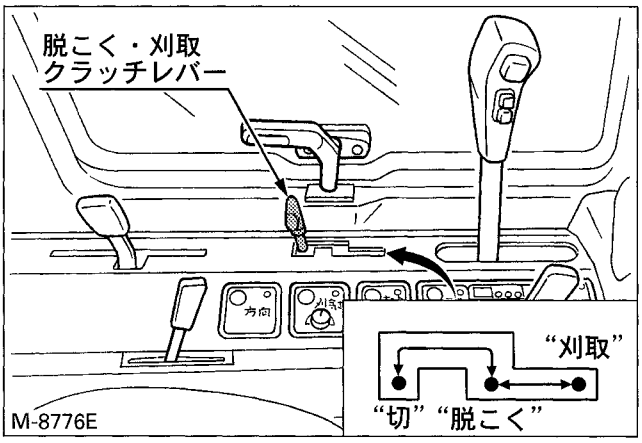
14刈取クラッチレバー【DX仕様】

刈取部の動力を**入・切**するクラッチレバーです。
“入”……刈取部が作動します。
“切”……刈取部が停止します。



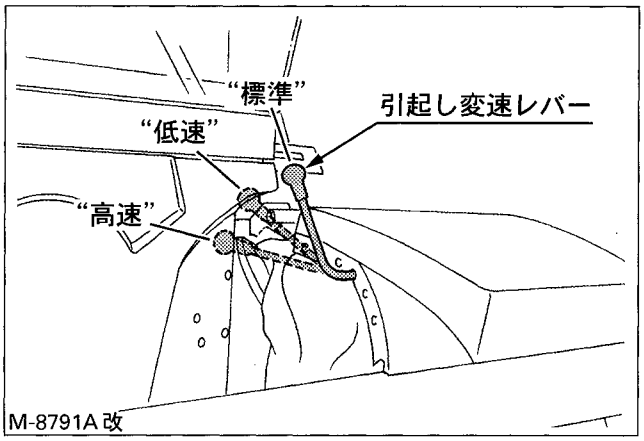
15脱こく・刈取クラッチレバー【HD・SD仕様】

脱こく部と刈取部の動力を**入・切**するクラッチレバーです。
“切”……脱こく部と刈取部が停止します。
“脱こく”……脱こく部が作動します。
（刈取部は停止状態）
“刈取”……刈取部が作動状態になります。
（脱こく部は作動状態）



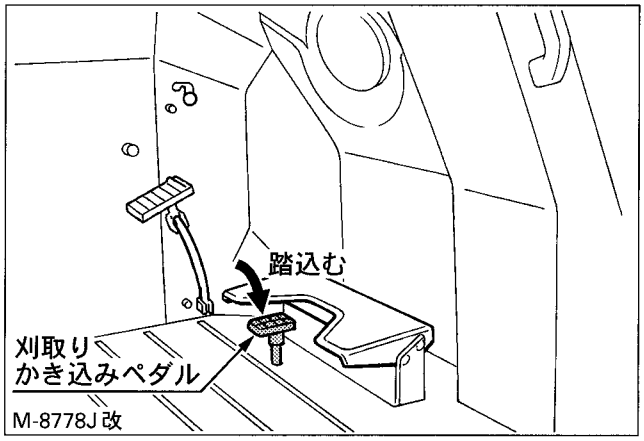
16 引起し変速レバー

刈取部の速度を変えるレバーです。作物や作業の状態に合わせて，**“標準”**・**“低速”**・**“高速”**の３段階に変速できます。



⑰刈取りかき込みペダル

あぜぎわで機体を停止したままこくかんをかき込むときに，ペダルを踏み，主変速レバーを前進側に倒すと機体は停止したままで，刈取部・搬送部が回転します。



補　足

＊副変速レバーや旋回切換えレバーが切換えにくいときに，ペダルを踏んで切換えてください。

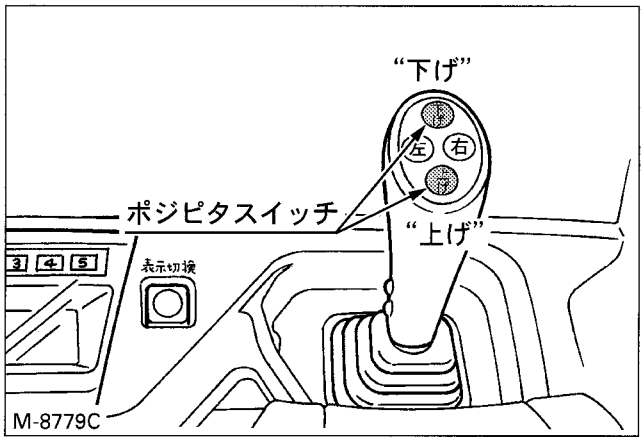
＊駐車ブレーキが掛かっているときは，刈取りかき込みペダルは踏めません。

⑱ポジピタスイッチ【HD・SD仕様】

刈取作業中に，ポジピタスイッチを押すと刈取部が**上昇⟷下降**します。

“上げ”……刈取部が最上昇します。

“下げ”……刈取部が一定の高さまで下降します。

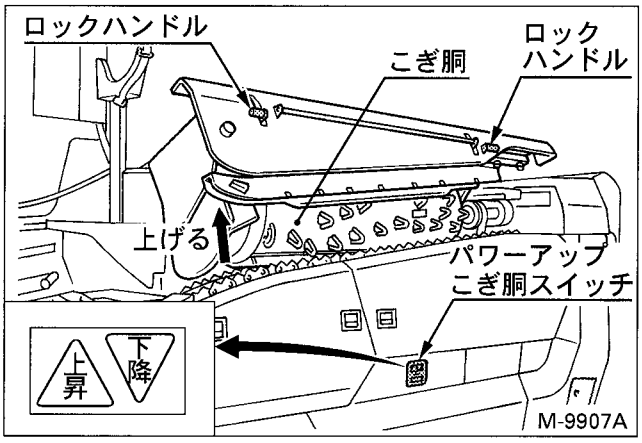


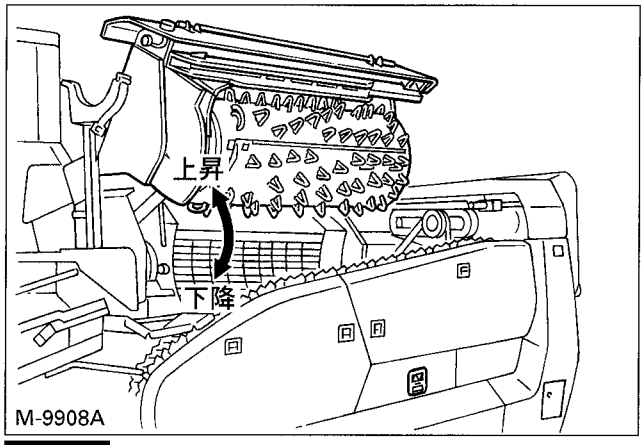
⑲パワーアップこぎ胴スイッチ【HD・SD仕様】

こぎ胴の**上昇**，**下降**(開，閉)を行なうスイッチです。

“上昇”……押している間こぎ胴が上昇し(開き)ます。

“下降”……押している間こぎ胴が下降し(閉じ)ます。





重　要

＊開く(オープンする)ときは，前後2箇所のロックハンドルのロックを必ず解除し，少し上げた状態にしてください。モータの故障の原因となります。
(100ページ参照)

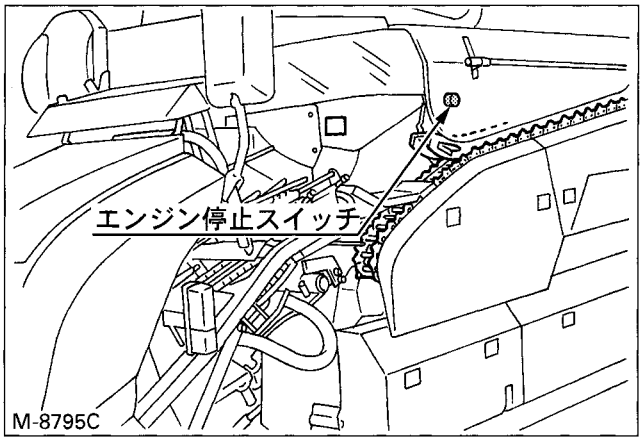
＊こぎ胴が開閉後もスイッチを押し続けるとシューと音が鳴ります。そのあともスイッチを押し続けるとモータの故障の原因となります。

補　足

＊エンジン停止状態で，スイッチキーを**“入”**位置にして操作してください。

20エンジン停止スイッチ

エンジンを停止するスイッチです。エンジンが停止すると同時にブザーが鳴ります。



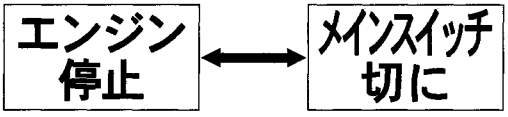
補　足

＊スイッチキーを**"切"**位置にするとブザーは止まります。

＊スイッチキーを**"切"**位置に戻してからエンジンを再始動してください。

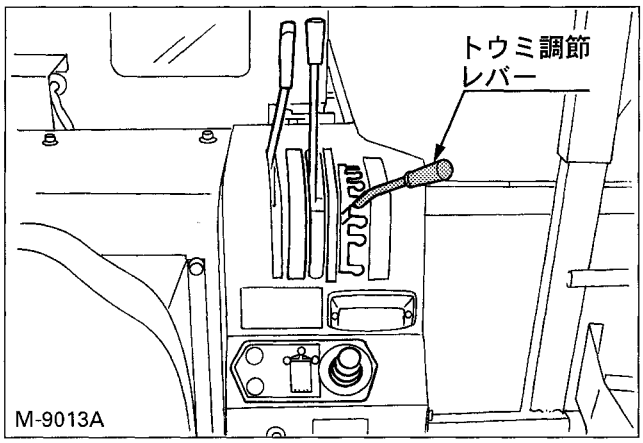
＊エンジン停止スイッチを押すと，液晶ディスプレイに下記内容を一定時間交互に表示します。

【HD・SD仕様】



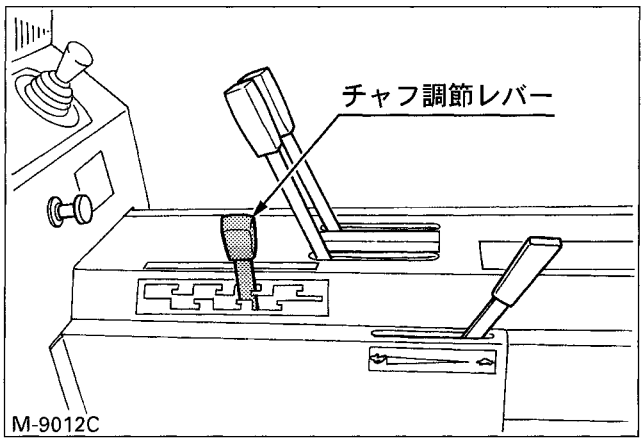
21トウミ調節レバー【DX仕様】

トウミの風力調節を行なうレバーです。選別状態に合わせて７段階の調節が行なえます。



22チャフ調節レバー【DX仕様】

シーブケースにある選別板のすき間(開度)の調節を行なうレバーです。作物や選別状態に合わせて８段階の調節が行なえます。



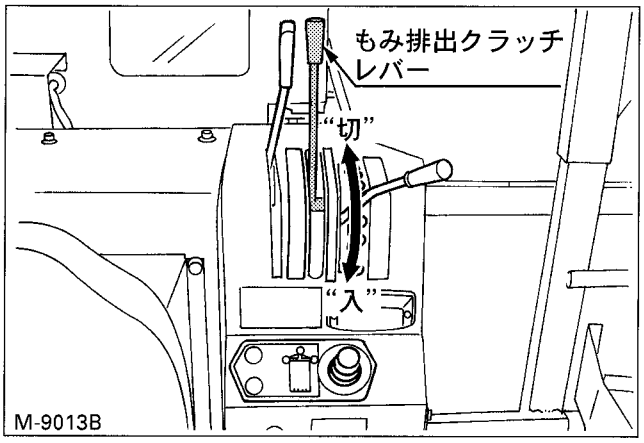
◆グレンタンク関係

23もみ排出クラッチレバー【DX仕様】

グレンタンク内のもみの排出操作を行なうレバーです。

“入”……アンローダからもみを排出します。

“切”……もみの排出を停止します。



補　足

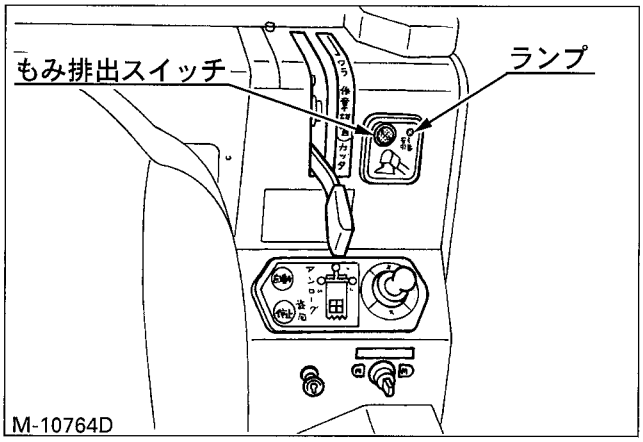
＊もみ排出クラッチレバーを**“切”**位置にしないと，エンジンは始動しません。

24もみ排出スイッチ【HD・SD仕様】

グレンタンク内のもみの排出操作を行なうスイッチです。

“入”……ランプが点滅し，アンローダからもみを排出します。

“切”……ランプが消灯し，もみの排出を停止します。



補　足

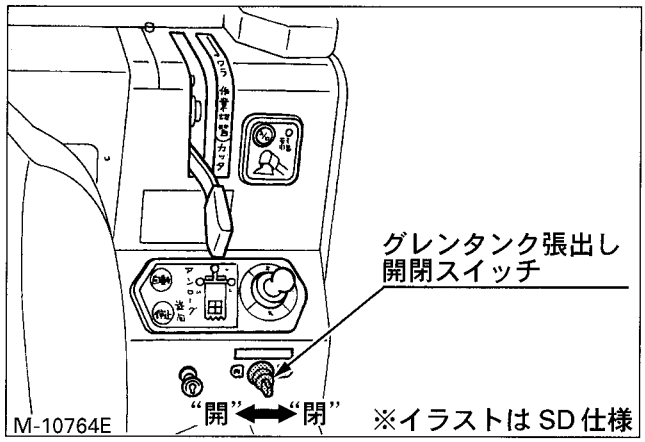
＊エンジン始動後にアンローダが収納状態では，もみ排出スイッチを操作しても，もみは排出しません。

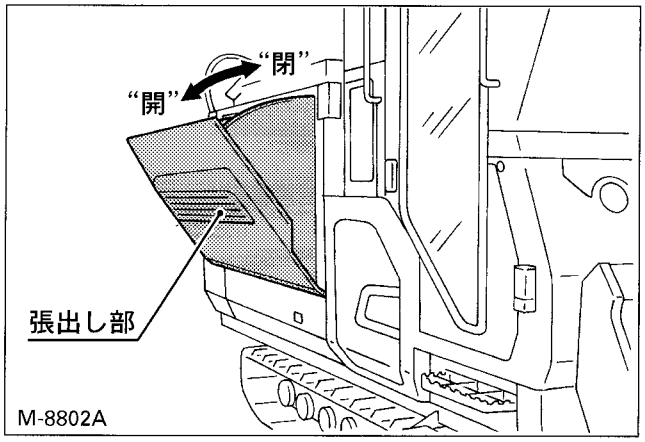
25グレンタンク張出し開閉スイッチ【80・90・98】

グレンタンク張出し部を開閉するスイッチです。

“開”……張出し部が開きます。

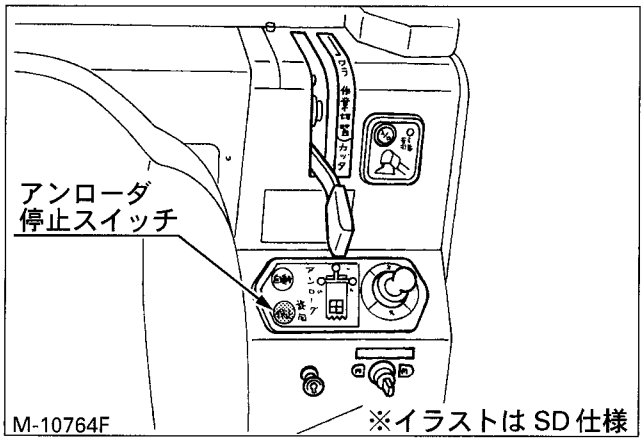
“閉”……張出し部が閉じます。





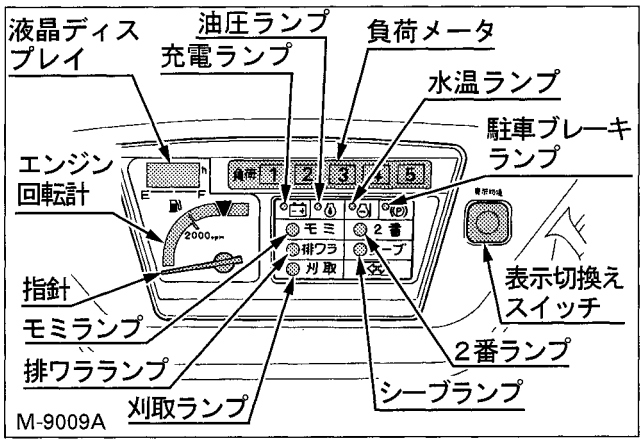
補　足

＊張出し部が開閉途中にアンローダ停止スイッチを押すと開閉が停止します。そのあと，もう一度張出し開閉スイッチを押すと張出し部が開閉します。



◆電装関係

26メータユニット【DX仕様】



◆各メータ

●エンジン回転計(単位：rpm)

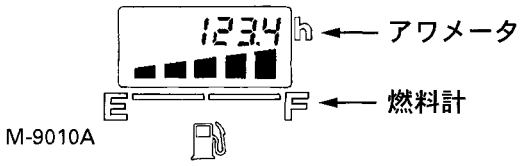
1分間のエンジン回転数を指針で表示します。

●燃料表示

燃料の残量を液晶の目盛り(5段階)で表示します。

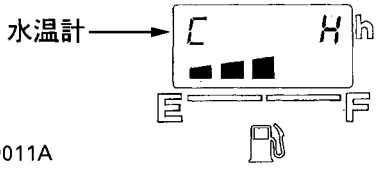
●アワメータ表示 (単位：h〔時間〕)

エンジン運転時間の積算使用時間を表示します。



●水温表示

エンジンの冷却水温を液晶の目盛（5段階）で表示します。



補　足

＊表示切換えスイッチを押すと，燃料計・アワメータと水温計を交互に表示します。

＊機械に異常が発生すると，アワメータ表示部にエラーメッセージ(例：E-012)を表示します。エラーメッセージが表示されたときは，購入先に連絡してください。また，エラーメッセージが表示されているとき表示切換えスイッチを押すと燃料・アワメータ又は，水温表示に換わります。

●負荷メータ

刈取り作業中にエンジンにかかる負荷の大きさに応じて順番にランプが点灯します。

◆各ランプ

補　足

＊処置については，86ページを参照してください。

●充電ランプ

充電系統に異常が発生すると表示します。

●油圧ランプ

エンジンオイルの圧力が，異常に低下すると表示します。

●水温ランプ

エンジンの冷却水温が高温になると表示します。

●駐車ブレーキランプ

駐車ブレーキを掛けると点灯します。

●モミランプ

グレンタンク内のもみが満杯になると表示します。

●2番ランプ

2番処理ケース内又は，1番・2番縦スクリュケース内が詰まると表示します。

●シーブランプ

脱こく機の選別板上のもみの量が異常に多くなったとき点灯します。

●刈取ランプ

供給搬送部にわらが詰まり，エンジンが自動停止（**エンジン自動停止装置**）すると表示します。

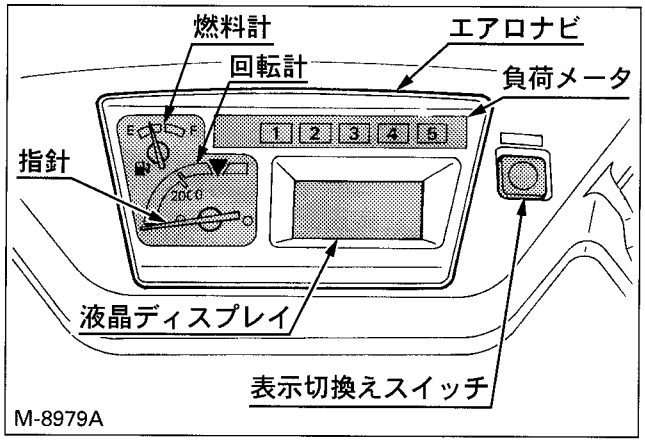
●排ワラランプ

フィードチェーン終端部及びわら処理（カッタ）部にわらが詰まり，エンジンが自動停止（**エンジン自動停止装置**）すると表示します。

補　足

＊排ワラランプ表示は，**【結束機付き仕様】**の場合，わら詰まり・ひも切れ・ひも詰まりでも点灯します。

27エアロナビ【HD・SD仕様】



◆各メータ

●エンジン回転計(単位：rpm)

1分間のエンジン回転数を指針で表示します。

●燃料計

燃料の残量を表示(**"E"**〔空〕⟷**"F"**〔満タン〕)します。

●負荷メータ

刈取り作業中にエンジンにかかる負荷の大きさに応じて順番にランプが点灯します。

◆液晶ディスプレイ・表示切換えスイッチ

液晶ディスプレイは機械の状態や状況（通常作業時，異常発生時，誤操作時など）に応じて，必要な情報を表示します。また，表示切換えスイッチを押すと液晶ディスプレイの表示内容が切換わります。

1.移動走行・通常作業時

(1) アワーメータ・オイル・充電 表示

スイッチキーを**"切"**位置から**"入"**位置にすると表示します。（エンジンは停止状態）

●アワメータ表示 (単位：h〔時間〕)

エンジン運転時間の積算使用時間を表示します。

●オイル・充電表示

オイルの圧力と充電状態に異常が発生したとき，警報を出す準備状態にあることを表示します。

補 足

＊エンジンは停止状態でオイル又は，充電の表示が消えているときは，オイルの油圧異常又は，充電異常が発生しても警報が出ないため，購入先に連絡してください。

(2) マルチ表示

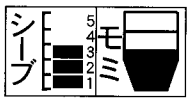
エンジンを始動すると下記の基本表示のいずれかを表示しますので，必要に応じて表示切換えスイッチを押して切換えてください。

● アワメータ 表示

補 足

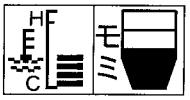
＊エンジン始動中は，オイル・充電表示はされません。

● シーブ／モミ 表示



脱こく機の選別板（シーブ）上のもみ量とグレンタンク内のもみ量を表示します。

● 水温／モミ 表示



エンジンの水温とグレンタンク内のもみ量を表示します。

● エンジン回転 表示

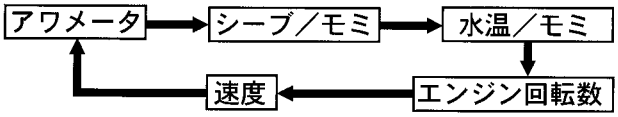
1分間のエンジン回転数をデジタル表示します。

● 速度 表示

1秒間に進む速度をデジタル表示します。

補 足

＊通常表示は表示切換えスイッチを1回押すごとに下記➡の順で表示が切換わります。



＊シーブ／モミ表示と水温／モミ表示は，単体(シングル)表示をすることができますので，必要な場合は，購入先に連絡してください。

● もみシングル表示 ● シーブシングル表示 ● 水温シングル表示

＊エンジンを停止したときの表示内容が，次にエンジンを始動したときに最初に表示されます。

＊ 速 度 表示は，ほ場条件により実際の速度と異なる場合があります。

2.異常発生時

補　足

＊処置については91ページを参照してください。

● **燃料を給油** 表示

燃料の残量が少なくなると表示します。

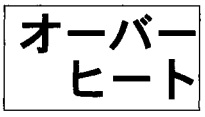
● **充電系異常** 表示

充電系統に異常が発生すると表示します。

● **エンジン油圧異常** 表示

エンジンオイルの圧力が，異常に低下すると表示します。

● **オーバーヒート** 表示



エンジンの冷却水温が高温になると表示します。

● **負荷** 表示

刈取作業中にエンジンに大きな負荷がかかると表示します。

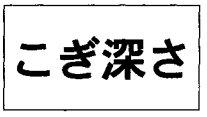
● **モミ満杯** 表示

グレンタンク内のもみが満杯になると表示します。

● **2番** 表示

２番処理ケース内又は，１番，２番縦スクリュケース内が詰まると，表示します。

● **こぎ深さ** 表示



自動こぎ深さ制御がはたらいている状態で，穂先センサにわらの引掛かりなどの異常が発生すると表示します。

● **シーブ** 表示

脱こく機の選別板上のもみの量が異常に多くなったとき表示します。

● **刈高** 表示

自動刈高さ制御がはたらいている状態で，刈高さセンサに泥などの異物が付着してセンサがはたらかなくなると，表示します。

● **刈取** 表示

供給搬送部にわらが詰まり，エンジンが自動停止（**エンジン自動停止装置**）すると表示します。

● **排ワラ** 表示

フィードチェーン終端部にわらが詰まり，エンジンが自動停止（**エンジン自動停止装置**）すると表示します。

● **カッタ** 表示

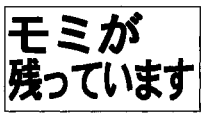
わら処理（カッタ）部にわらが詰まり，エンジンが自動停止（**エンジン自動停止装置**）すると表示します。

補　足

＊カッタ表示は，**【結束機付き仕様】**の場合，わら詰まり・ひも切れ・ひも詰まりでも表示します。

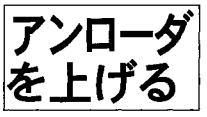
3.誤操作時

● **モミが残っています。** 表示**【80・90・98】**



グレンタンクの張出し部が開いているとき，グレンタンク内にもみが残っている状態で張出し開閉スイッチを**“閉”**位置にすると表示します。

● **アンローダを上げる** 表示

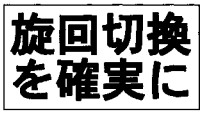


アンローダ**下降不可範囲**内で，誤まったアンローダレバー操作をすると表示します。

補　足

＊**下降不可範囲**については，78ページを参照してください。

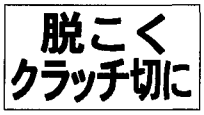
● **旋回切換えを確実に** 表示



旋回切換えレバーが**“ブレーキ”**/**“スピン”**/**“ソフト”**各位置のどこにも入っていない状態で走行し，エンジンが自動停止すると表示します。

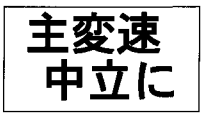
エンジン始動時にスイッチキーを**“始動”**位置にしたとき，各レバーやペダルが始動条件に合っていない場合，その内容を表示します。

● 脱こくクラッチ切に 表示



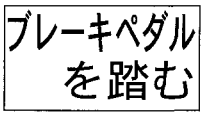
脱こく・刈取クラッチレバーが**“脱こく”**又は，**“刈取”**位置のときに表示します。

● 主変速を中立に 表示



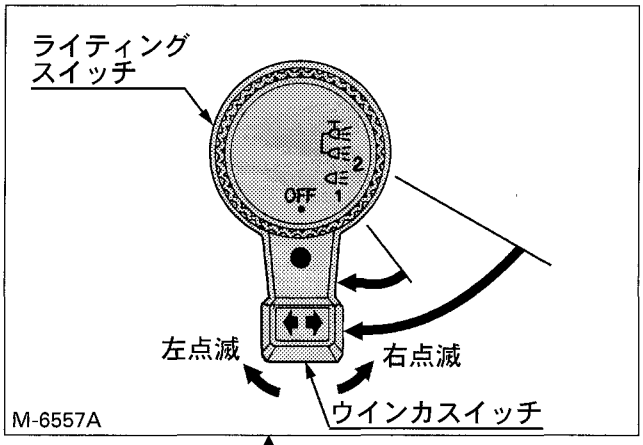
主変速レバーが**“停止”**（中立）位置以外のときに表示します。

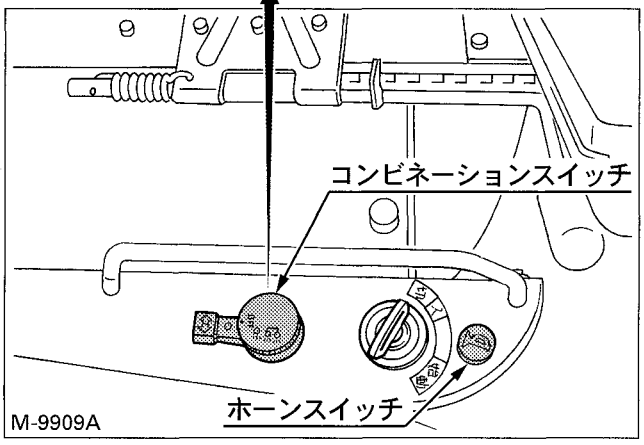
● ブレーキペダルを踏む 表示【98】



駐車ブレーキペダルを踏んでいないときに表示します。

28コンビネーションスイッチ
29ホーンスイッチ





● ライティングスイッチ

スイッチを操作するとランプが点灯します。

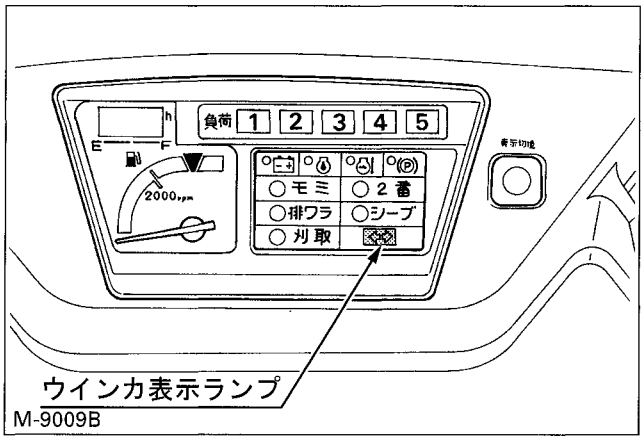
OFF …… ヘッドランプ・作業灯消灯位置。

1 …… ヘッドランプ点灯位置。

2 …… ヘッドランプ・作業灯点灯位置。

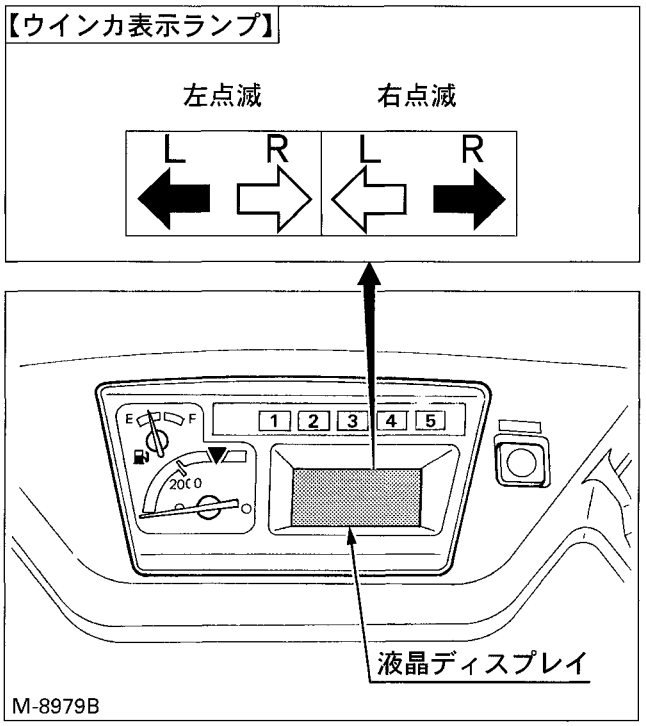
● ウインカスイッチ【DX仕様】

旋回方向に操作すると，ウインカランプが点滅すると同時にメータユニットのウインカ表示ランプが点滅します。



● ウインカスイッチ【HD・SD仕様】

旋回方向に操作すると，ウインカランプが点滅すると同時にエアロナビの液晶ディスプレイにウィンカ表示が点滅します。



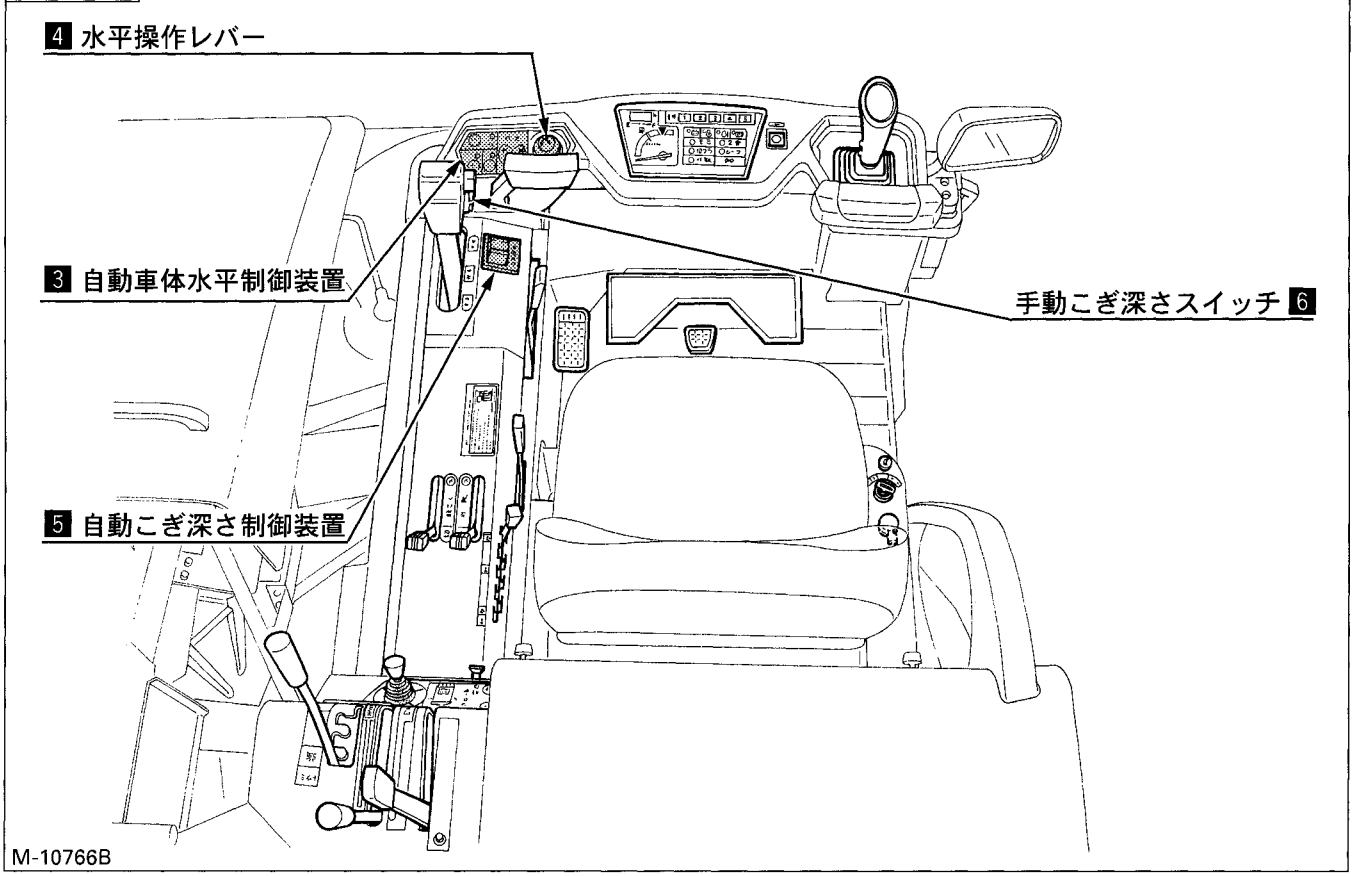
● ホーンスイッチ

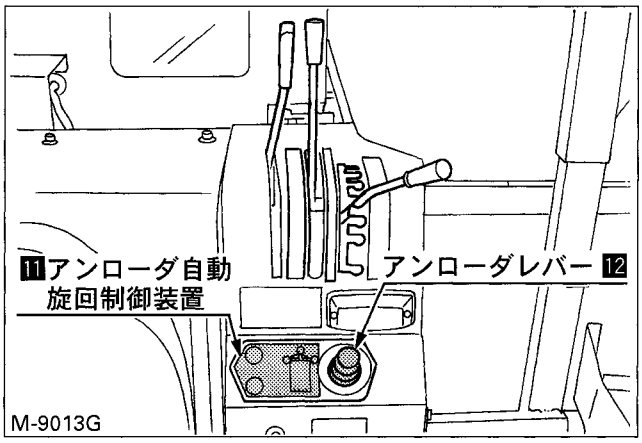
ホーンスイッチを押すとホーンが鳴ります。

自動化装置の名称と取扱い

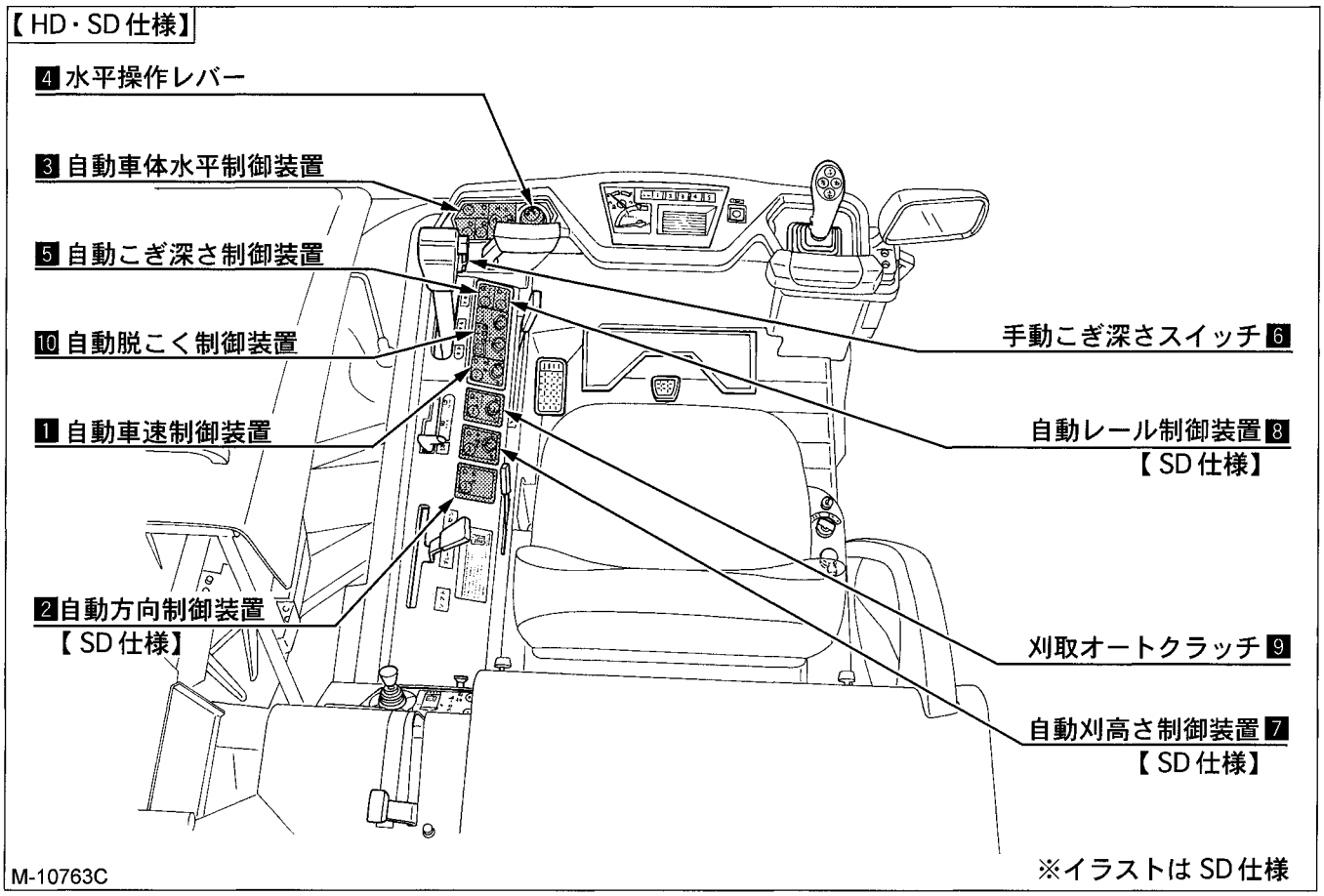
装置の名称と各部のはたらき

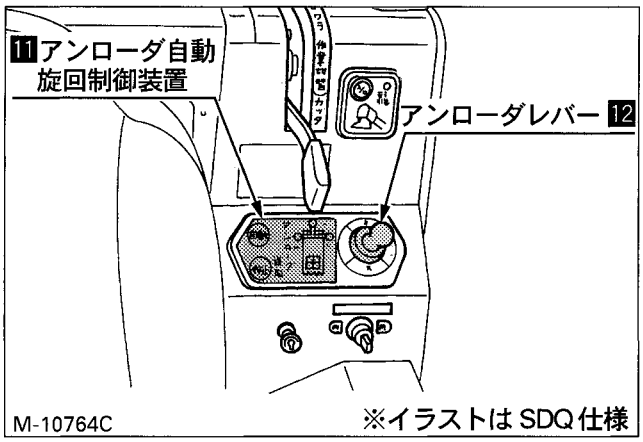
【DX仕様】

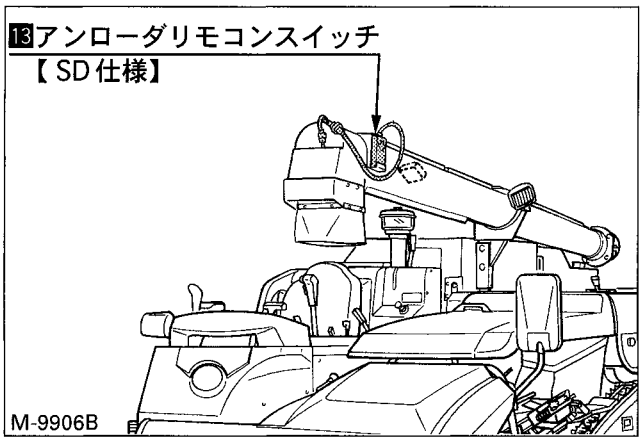




【HD・SD仕様】


4 水平操作レバー
3 自動車体水平制御装置
5 自動こぎ深さ制御装置
10 自動脱こく制御装置
1 自動車速制御装置
2 自動方向制御装置
【SD仕様】
手動こぎ深さスイッチ 6
自動レール制御装置 8
【SD仕様】
刈取オートクラッチ 9
自動刈高さ制御装置 7
【SD仕様】
M-10763C
※イラストはSD仕様


11 アンローダ自動
旋回制御装置
アンローダレバー 12
M-10764C
※イラストはSDQ仕様


13 アンローダリモコンスイッチ
【SD仕様】
M-9906B

◆走行操作関係

1自動車速制御装置【HD・SD仕様】

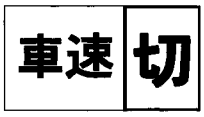
自動車速制御装置は，刈取作業中の速度を制御する装置です。エンジンの負荷に応じて自動的に最適な刈取速度に変速(増・減速)します。

●車速自動スイッチ

自動車速制御の**入／切**をするスイッチです。スイッチを操作すると，液晶ディスプレイに**車速"入"／"切"**を一定時間表示します。

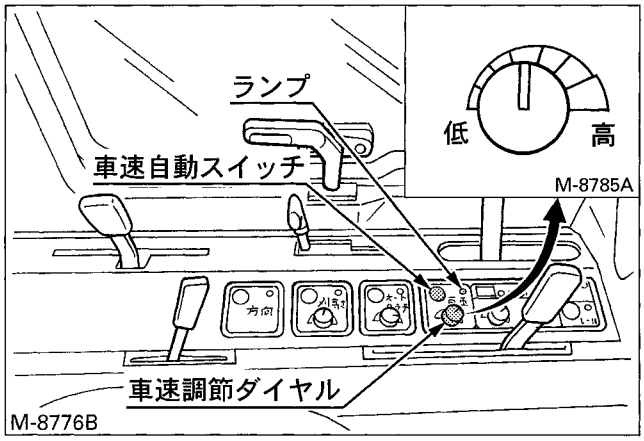
自動車速制御"入"……ランプが点灯し，自動車速制御が作動します。

自動車速制御"切"……ランプが消灯し，自動車速制御が解除されます。

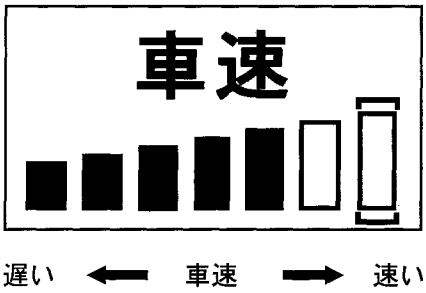


●車速調節ダイヤル

自動車速制御で増速する**最高速度**の変更を行なうダイヤルです。作業速度を速くしたいときや遅くしたいときに変更してください。ダイヤルを**右方向**に回すと**速く**なり，**左方向**に回すと**遅く**なります。また，調節ダイヤルを回すと，液晶ディスプレイに７段階の目盛で表示します。



【液晶表示】



補　足

＊自動制御がはたらいているときでも，主変速レバーによる操作が優先されます。

2 自動方向制御装置【SD仕様】

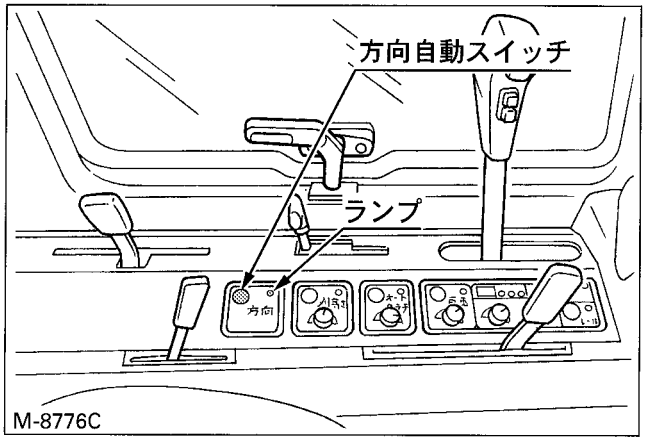
自動方向制御装置は，刈取作業中に方向センサ(右，左)が作物に接触すると，自動的に方向を修正する装置です。

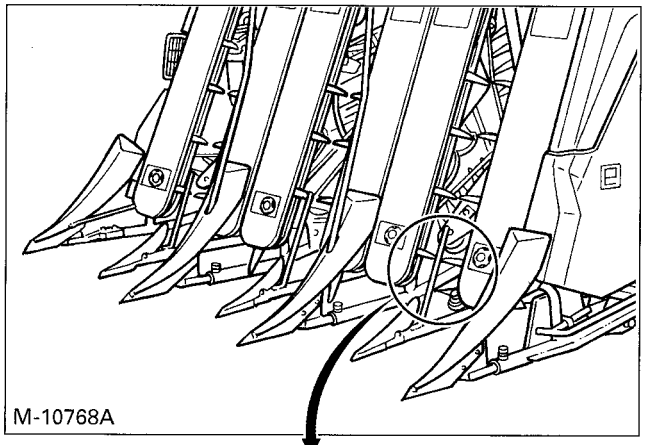
●方向自動スイッチ

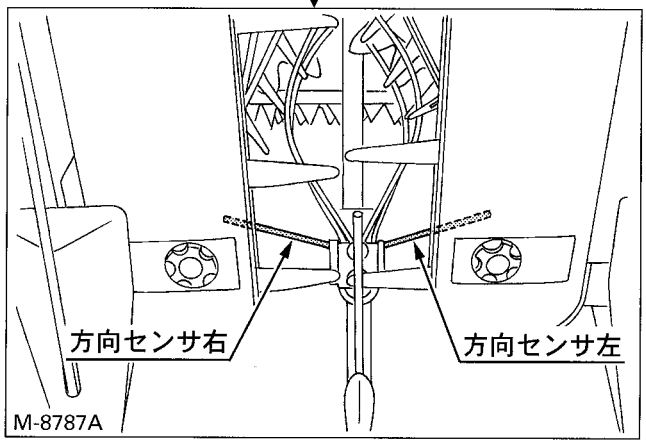
自動方向制御の**入／切**をするスイッチです。スイッチを操作すると，液晶ディスプレイに**方向“入”／“切”**を一定時間表示します。

自動方向制御“入”……ランプが点灯し，自動方向制御が作動します。

自動方向制御“切”……ランプが消灯し，自動方向制御が解除されます。







補　足

＊自動制御がはたらいているときでも，パワーステアリングレバー又は，方向微調整スイッチによる操作が優先されます。

＊下記のようなほ場条件や刈取作業を行なうときは，自動制御がうまくはたらかない又は，はたらかずに条外れを起こす場合があります。

- 条間が広いとき
- 条の曲がりが大きいとき
- 欠株の多いほ場
- 方向修正を行なってもクローラがスリップしてしまう湿田やほ場表面
- 刈取速度が速すぎるとき
- 横刈り(条刈りの直角方向)作業を行なうとき

＊自動制御は刈取作業中以外はたらきません。また，1条分多く刈取るときや斜めに刈るときは，自動制御がはたらかないときがあります。

＊刈始めの条合せは手動で行なってください。

＊自動方向制御で中割作業を行なうと，植幅によって，デバイダが株に割込むことがあります。植幅が合わないときは，手動で行なってください。

3 自動車体水平制御装置(モンロー)

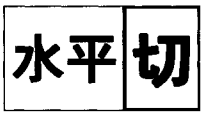
自動車体水平制御装置は，機体が左・右に傾くと，自動的に機体を水平状態に修正・保持する装置です。

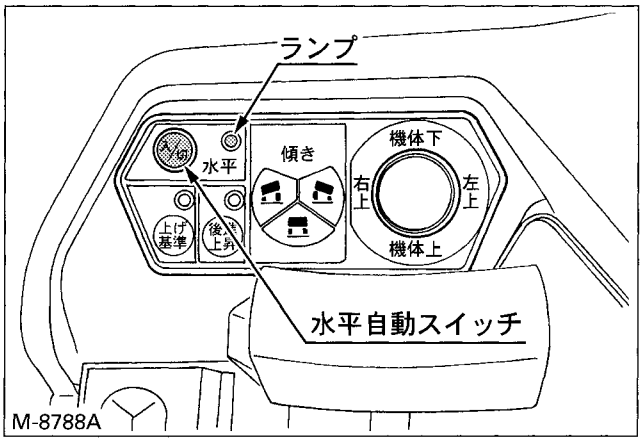
●水平自動スイッチ

自動車体水平制御の**入／切**をするスイッチです。
【HD・SD仕様】は，スイッチを操作すると，液晶ディスプレイに**水平"入"／"切"**を一定時間表示します。

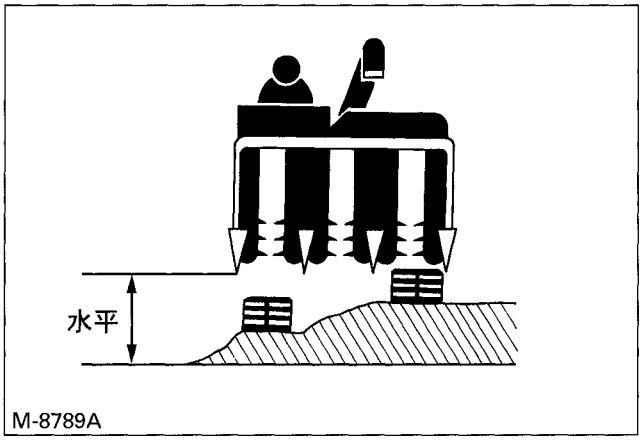
自動車体水平制御"入"……ランプが点灯し，自動制御が作動します。

自動車体水平制御"切"……ランプが消灯し，自動車体水平制御が解除されます。





M-8788A



M-8789A

補　足

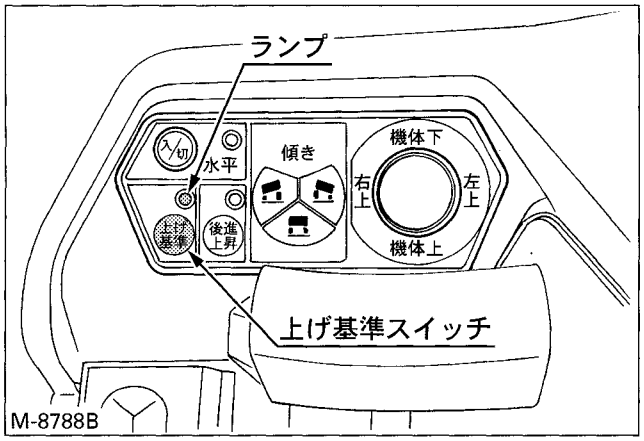
＊自動で作業した後，脱こく・刈取クラッチレバーを**"切"**位置にするか，又は水平自動スイッチを**"切"**位置にすると，機体は左右共にいったん一番下まで下がります。また，下降中に，水平操作レバーを操作すると下降が停止します。

●上げ基準スイッチ

自動車体水平制御がはたらいているとき，水平制御を行なう基準の高さを切換えるスイッチです。
【HD・SD仕様】は，スイッチを操作すると，液晶ディスプレイに**上げ基準"入"／"切"**を一定時間表示します。

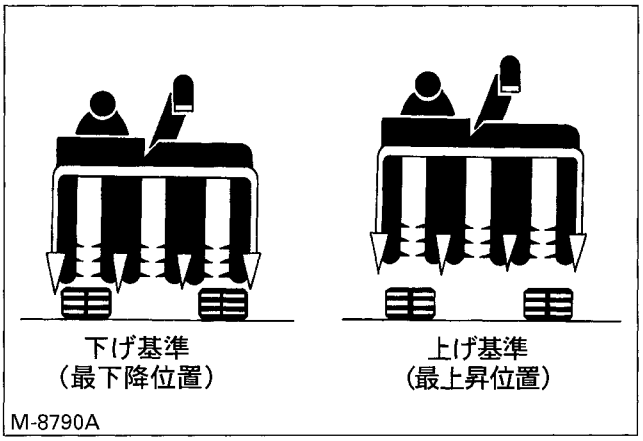
上げ基準"入"……ランプが点灯し，上げ基準で作動します。

上げ基準"切"……ランプが消灯し，下げ基準で作動します。



M-8788B

補　足



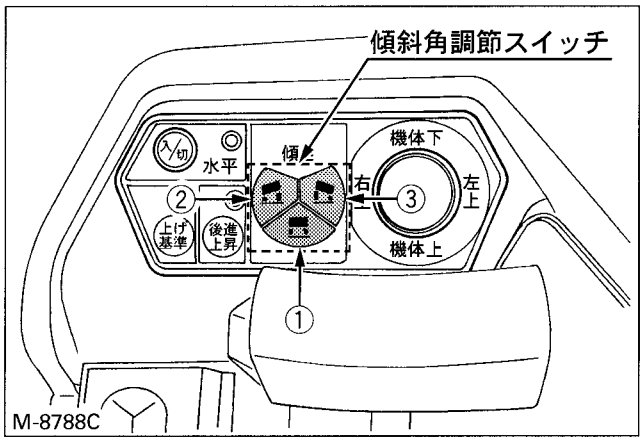
M-8790A

＊通常は**"下げ基準"(ランプ消灯)**にて，作業してください。深い湿田での刈終り時に，旋回が困難な場合にスイッチを押して**"上げ基準"(ランプ点灯)**状態にさせることにより，旋回が容易になります。直進刈取状態になれば，再びスイッチを押して**"下げ基準"(ランプ消灯)**にしてください。

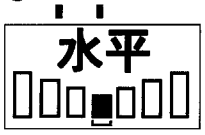
＊超湿田で**"上げ基準"**を選択したまま刈取作業を行なうと，車体が深みにはまった場合，脱出不能となることがあります。超湿田の刈取作業は**"下げ基準"**で行なってください。

●傾斜角調節スイッチ

自動車体水平制御がはたらいているとき，左又は，右に機体を傾けた状態で制御をはたらかせるスイッチです。**【HD・SD仕様】**は，スイッチを操作すると，液晶ディスプレイに傾きを一定時間表示します。

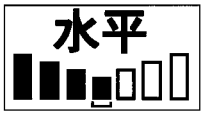


①“ ”……スイッチを押すと，水平制御に戻ります。



②“ ”……スイッチを押すと，右上がり気味に制御します。

③“ ”……スイッチを押すと，左上がり気味に制御します。



補　足

＊機体傾斜は3段階調節が行なえます。

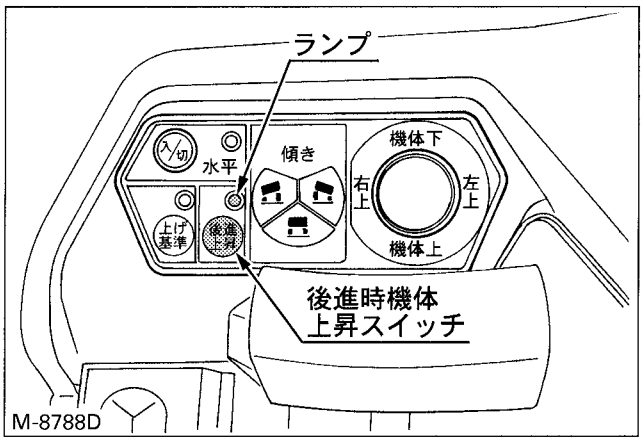
●後進時機体上昇スイッチ

自動車体水平制御が**下げ基準**で制御されているとき，機体が後進時のみ，**上げ基準**に切換えるスイッチです。

【HD・SD仕様】は，スイッチを操作すると同時に，液晶ディスプレイに**後進時上昇“入”／“切”**の表示をします。

後進時上昇“入”……ランプが点灯し，後進時**上げ基準**で作動します。

後進時上昇“切”……ランプが消灯し，**下げ基準**で作動します。



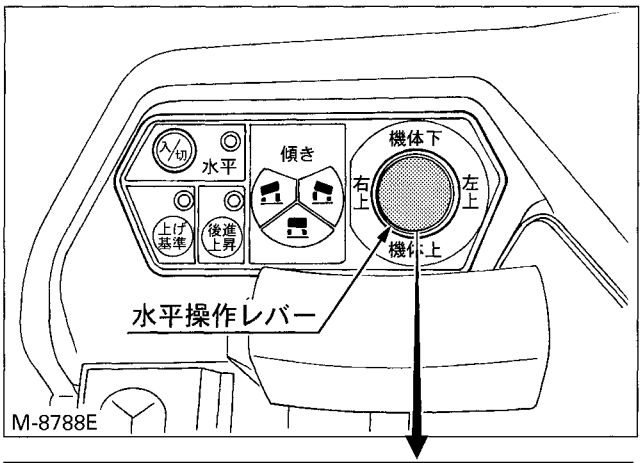
補　足

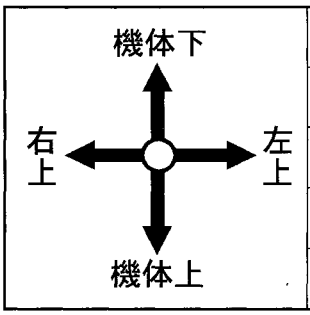
＊乾田では**“切”**位置にしてください。

＊湿田で後進時に機体が後上りになり後進しにくいときは，後進時機体上昇スイッチを**“入”**位置にしてください。

4 水平操作レバー

車体の**上昇⟷下降**を行なう手動操作レバーです。





レバーの操作方向	機体の動き
機体上	上昇
機体下	下降
右上	右上がり
左上	左上がり

補　足

＊機体の動く方向は，運転席に座って見たときです。
＊自動車体水平制御がはたらいているときでも，水平操作レバーによる操作が優先されます。
＊傾斜地では操作しないでください。

5 自動こぎ深さ制御装置

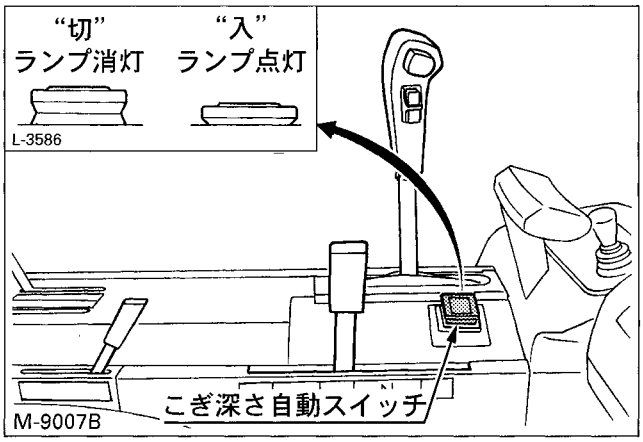
こぎ深さ自動制御装置は，作物の長さに応じて，適正なこぎ深さを保つ装置です。

【DX仕様】

● こぎ深さ自動スイッチ

自動入り……ランプが点灯し，自動こぎ深さ制御が作動します。

自動切り……ランプが消灯し，自動こぎ深さ制御が解除されます。



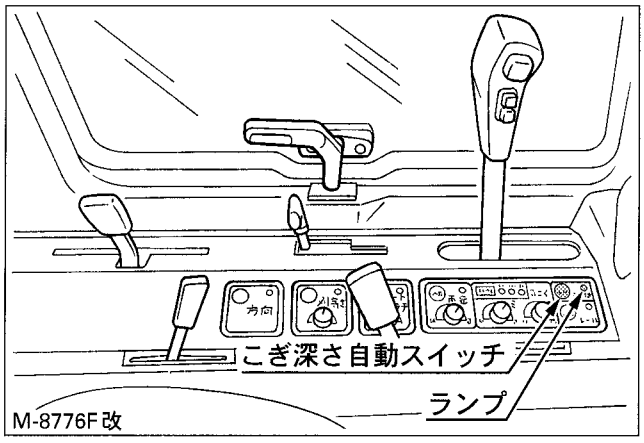
【HD・SD仕様】

●こぎ深さ自動スイッチ

自動こぎ深さ制御の**入／切**をするスイッチです。スイッチを操作すると，液晶ディスプレイに**こぎ深さ “入” ／ “切”** を一定時間表示します。

自動こぎ深さ制御“入”……ランプが点灯し，自動こぎ深さ制御が作動します。

自動こぎ深さ制御“切”……ランプが消灯し，自動こぎ深さ制御が解除されます。



補　足

＊穂先センサ(株元側，穂先側)に浮わらや雑草が引っ掛かると，正常な自動制御ができませんので取除いてください。

＊下記のときは，手動で操作してください。

・長かん作物(約130cm以上)を刈取るとき
・遅れ穂が多く，こぎ残しの出るとき
・極端に作物の長さが不揃いのとき
・雑草が多いとき
・倒伏作物を低速で刈取るとき

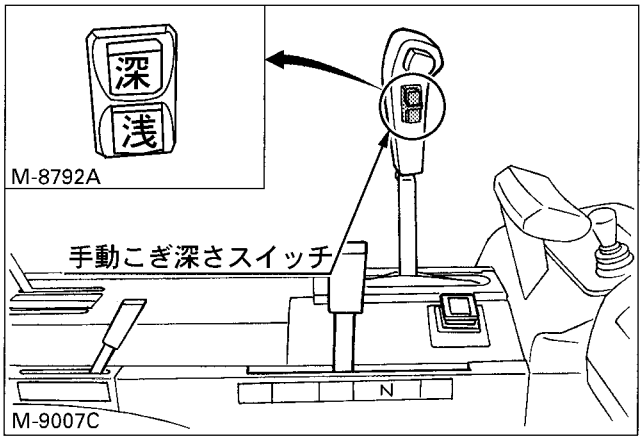
6 手動こぎ深さスイッチ

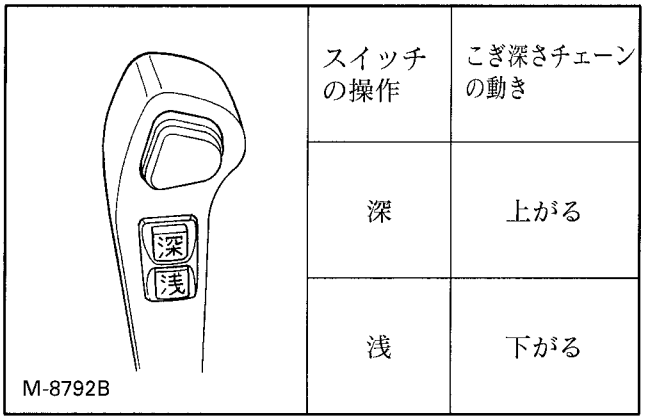
【DX仕様】

●手動こぎ深さスイッチ

こぎ深さの調節を手動で行なうスイッチです。

“深”(深こぎ)を押すとこぎ深さチェーンが上がり，**“浅”**(浅こぎ)を押すとこぎ深さチェーンが下がります。





スイッチの操作	こぎ深さチェーンの動き
深	上がる
浅	下がる

補　足

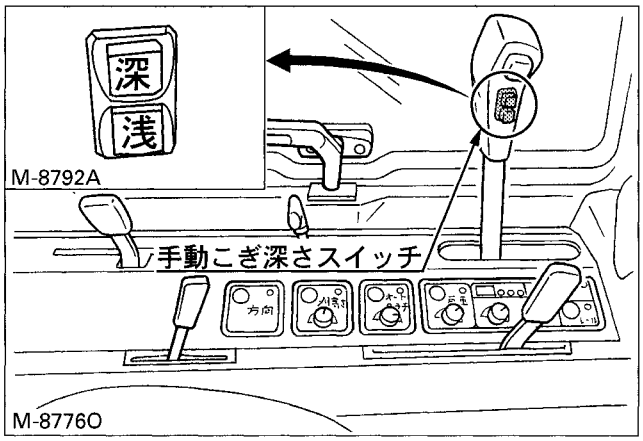
＊自動制御が，はたらいているときでも手動スイッチによる操作が優先されます。

【HD・SD仕様】

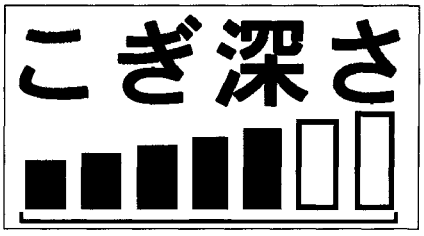
●手動こぎ深さスイッチ

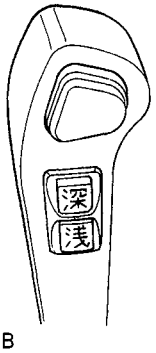
こぎ深さの調節を手動で行なうスイッチです。スイッチを操作すると同時に，液晶ディスプレイに7段階の目盛でこぎ深さチェーンの位置を表示します。

"深"(深こぎ)を押すとこぎ深さチェーンが上がり，**"浅"**(浅こぎ)を押すとこぎ深さチェーンが下がります。



【液晶表示】

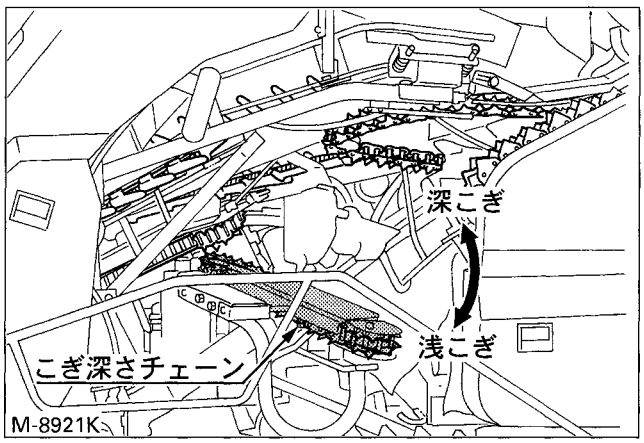




スイッチの操作	こぎ深さチェーンの動き
深	上がる
浅	下がる

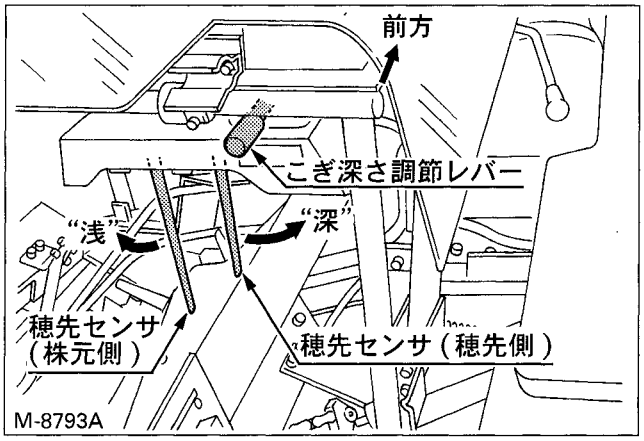
補　足

＊自動制御が，はたらいているときでも手動スイッチによる操作が優先されます。



●穂先センサの位置調節について

通常は**"ほぼ中央"**に合せてください。調節は，レバーを**"深"**の方向に倒すと，深こぎ気味に保持され，レバーを**"浅"**の方向に倒すと，浅こぎ気味に保持されます。



7自動刈高さ制御装置【SD仕様】

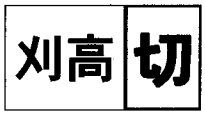
自動刈高さ制御装置は，刈取作業中に刈取部の高さを地面に対して，一定の高さに修正・保持する装置です。

●刈高さ自動スイッチ

自動刈高さ制御の**入／切**をするスイッチです。スイッチを操作すると，液晶ディスプレイに**刈高“入”／“切”**を一定時間表示します。

自動刈高さ制御“入”……ランプが点灯し，自動刈高さ制御が作動します。

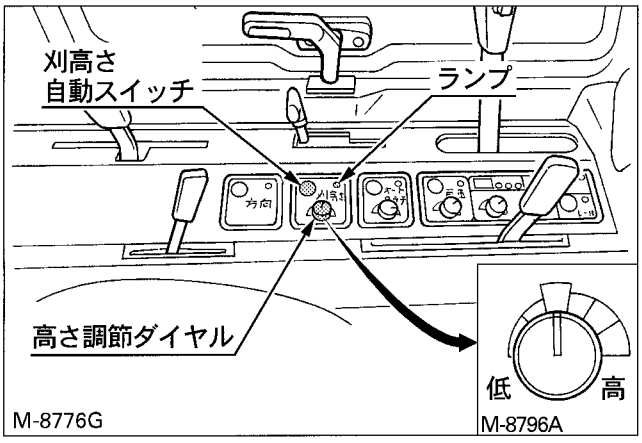
自動刈高さ制御“切”……ランプが消灯し，自動刈高さ制御が解除されます。



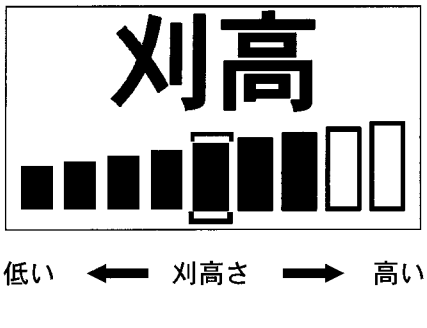
●高さ調節ダイヤル

ほ場条件に応じて刈取部の高さ調節を行なうダイヤルです。

ダイヤルを**右方向**に回すと**高い側**，**左方向**に回すと**低い側**になります。また，調節ダイヤルを回すと，液晶ディスプレイに９段階の目盛で刈取部の高さを表示します。



【液晶表示】



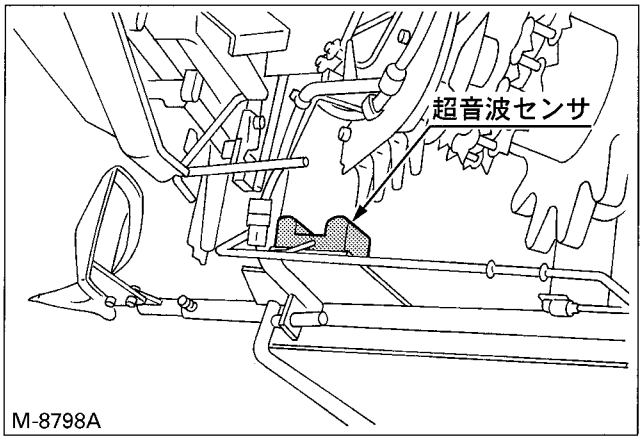
補　足

＊自動制御がはたらいているときでも，パワーステアリングレバーによる操作が優先されます。

＊高さ調節ダイヤルを低い側に調整すると，地面の状態により，デバイダの突込みを生じる場合があります。

＊刈始めに，切わらや土の盛上りを超音波センサが検知して刈取部が上昇する場合は，前進しながらパワーステアリングレバーで，適正な高さに修正してください。

＊超音波センサの下部に，泥やわらが付着すると，誤動作することがありますので，エンジンを必ず止めてから泥やわらを取除いてください。



8 自動レール制御装置【SD仕様】

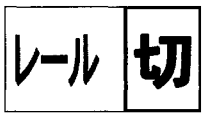
自動レール制御装置は，あぜぎわなどの作物を刈上げながら刈取る(高刈り)ときに，こぎ残しが発生するような短い作物の場合に，フィードチェーンレールが自動的に上がり脱こく部へ引込んで，こぎ残しの発生を防止する装置です。

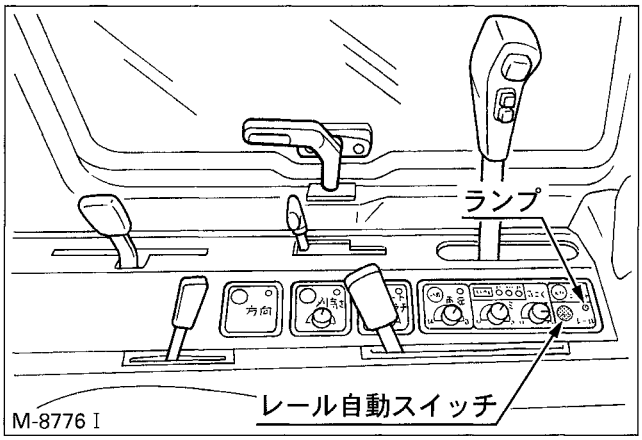
●レール自動スイッチ

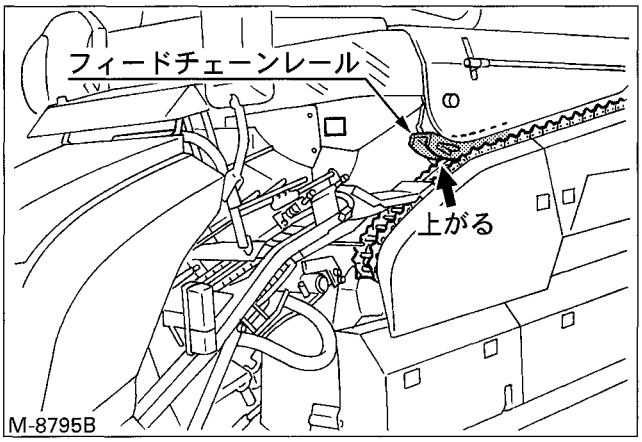
自動レール制御の**入／切**をするスイッチです。スイッチを操作すると，液晶ディスプレイに**レール"入"／"切"**を一定時間表示します。

レール"入"……ランプが点灯し，自動レール制御が作動します。

レール"切"……ランプが消灯し，自動レール制御が解除されます。

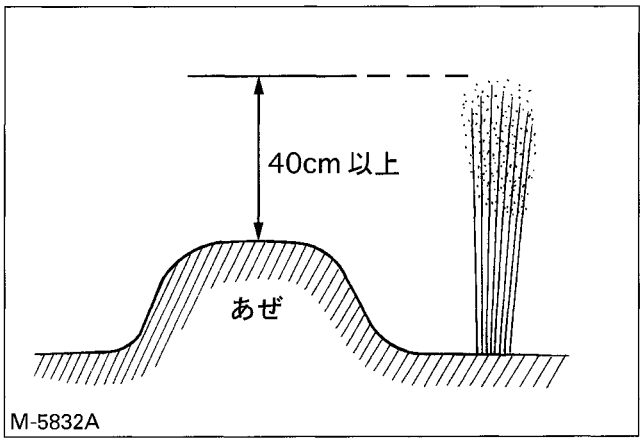






補　足

＊作物の全長とあぜ高さの差が40cm以上必要です。



＊あぜぎわなど高刈りをするときだけに使用してください。

＊自動レール制御は，自動こぎ深さ制御と連動しています。

＊湿田では，レール自動スイッチを**"切"**にしてください。

9刈取オートクラッチ【HD・SD仕様】

刈取オートクラッチは，刈取部及び脱こく部が作動中にパワーステアリングレバーやポジピタスイッチを操作したとき，刈取部が地面から一定の高さまで上昇すると刈取搬送部及び，フィードチェーンが停止し，一定の高さまで下降すると再度動き出す自動クラッチです。

●オートクラッチ切換えスイッチ

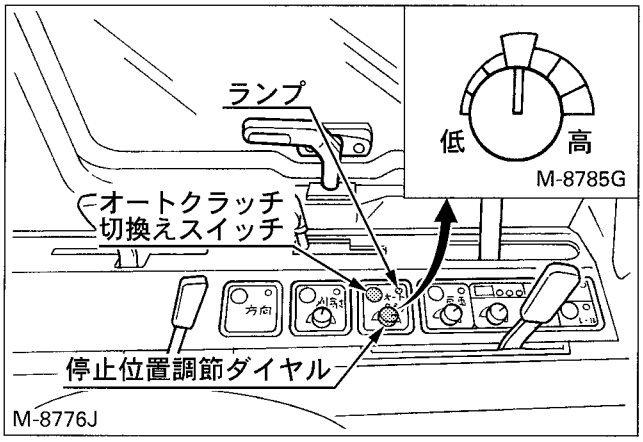
刈取オートクラッチの**入／切**をするスイッチです。スイッチを操作すると，液晶ディスプレイに**オートクラッチ“入”／“切”**を一定時間表示します。

オートクラッチ“入”……ランプが点灯し，刈取オートクラッチが作動します。

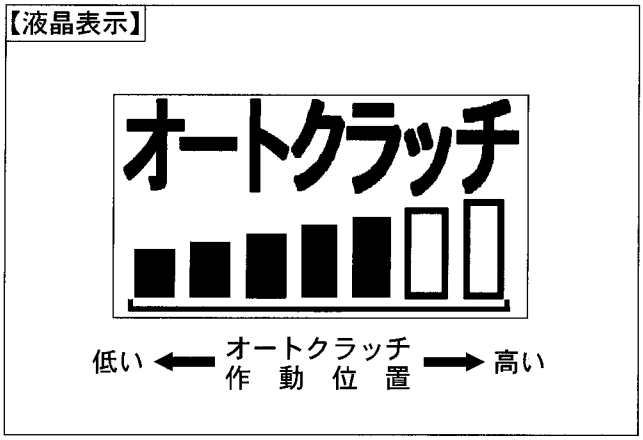
オートクラッチ“切”……ランプが消灯し，刈取オートクラッチが解除されます。

●停止位置調節ダイヤル

オートクラッチが**入／切**する刈取部の高さ位置の調節を行なうダイヤルです。ダイヤルを**右方向**に回すと**高く**なり，**左方向**に回すと**低く**なります。また，調節ダイヤルを回すと，液晶ディスプレイに７段階の目盛でオートクラッチが**入／切**する位置を表示しますので，目標の高さに調節を行なってください。



【液晶表示】



⑩自動脱こく制御装置【HD・SD仕様】

自動脱こく制御装置は，もみの量や刈取速度の変化に対応してチャフ開度とトウミ風力を自動的に調節し，安定した選別作業を行なう装置です。

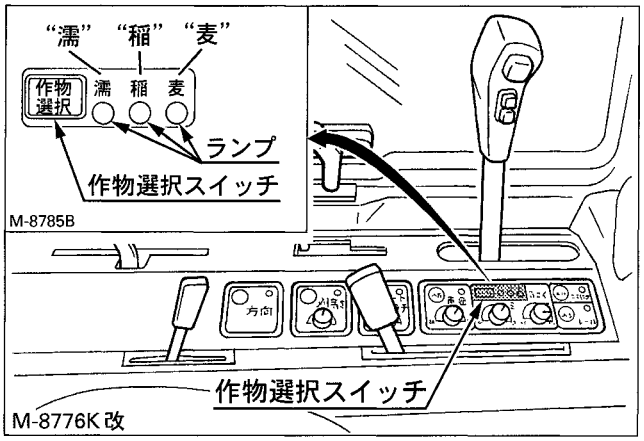
●作物(濡／麦／稲)選択スイッチ

作物の種類や濡れ状態に合わせて選択を行なうスイッチです。作物選択スイッチを押すと**“濡”➡“麦”➡“稲”**の順に切換わります。また，ランプが点灯し，液晶ディスプレイに**濡／麦／稲**の表示をします。

選択スイッチ“濡”……濡れた作物のときに選択します。

選択スイッチ“麦”……作物が麦のときに選択します。

選択スイッチ“稲”……作物が稲のときに選択します。

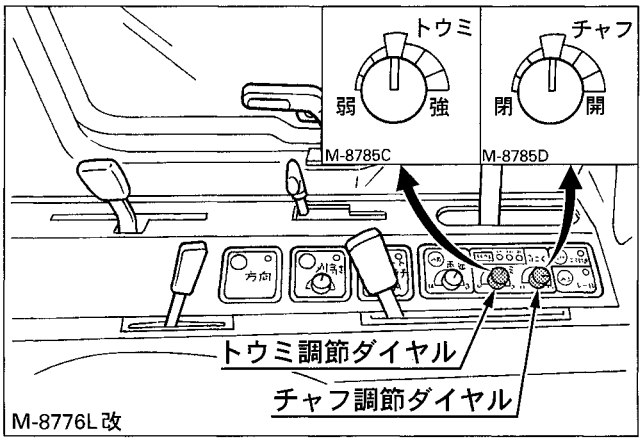


●トウミ調節ダイヤル

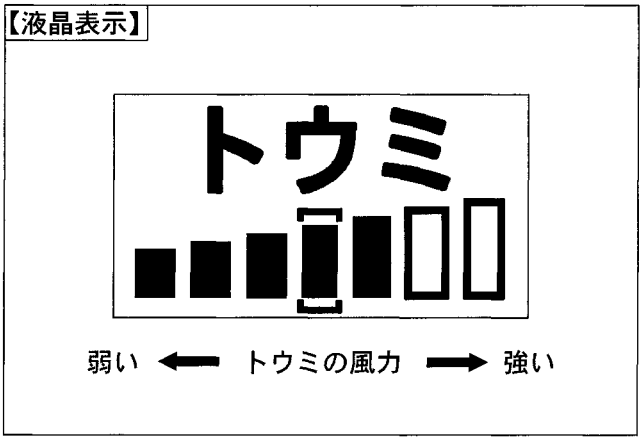
トウミの風力調節を行なうダイヤルです。風力は，ダイヤルを**右方向**に回すと**強く**なり，**左方向**に回すと**弱く**なります。また，調節ダイヤルを回すと同時に，液晶ディスプレイに７段階の目盛でトウミの風力を表示します。

●チャフ調節ダイヤル

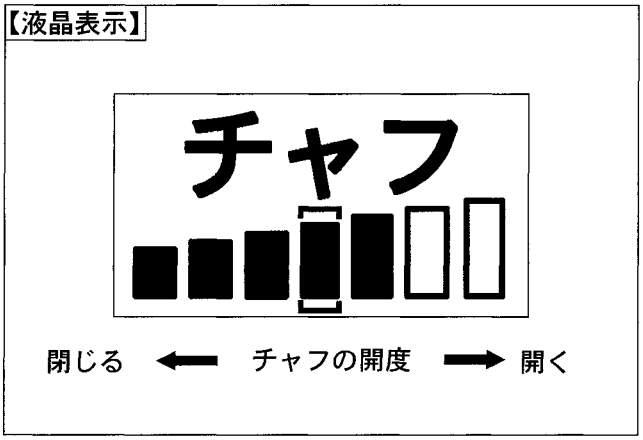
シーブケースのチャフの開度の調節を行なうダイヤルです。ダイヤルを**右方向**に回すと**開き**，**左方向**に回すと**閉じ**ます。また，調節ダイヤルを回すと，液晶ディスプレイに７段階の目盛で開度を表示します。



【液晶表示】

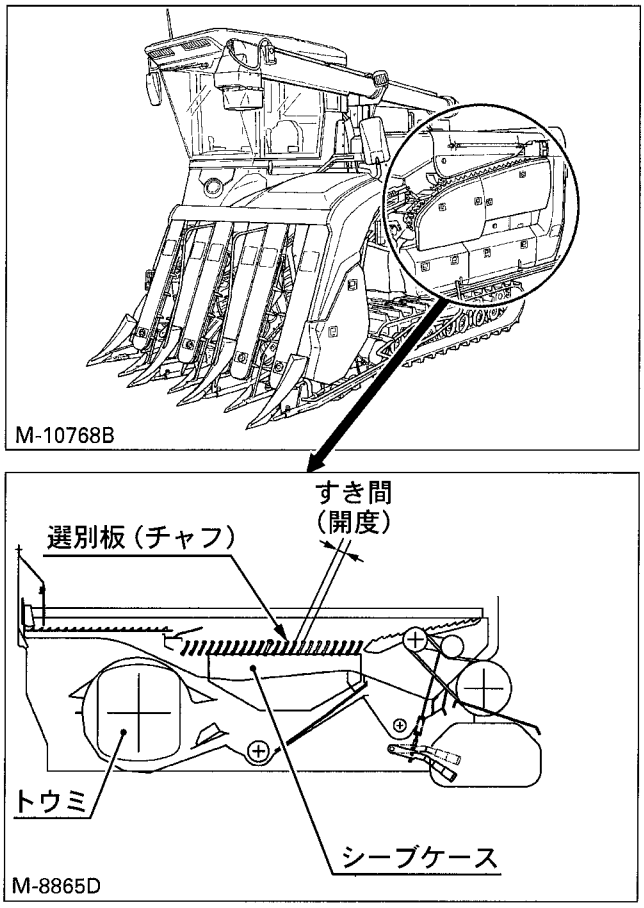


【液晶表示】



補　足

＊作物選択スイッチで**“濡”**を選択するとチャフの開度が全開位置で固定され，ダイヤルによるチャフの調節はできません。



11 アンローダ自動旋回制御装置

アンローダ自動旋回制御装置は，スイッチの操作により，アンローダが**収納位置⟷排出位置**に自動旋回する装置です。

●アンローダ自動スイッチ

自動スイッチを押すと，アンローダが排出位置又は，収納位置まで自動旋回します。

補　足

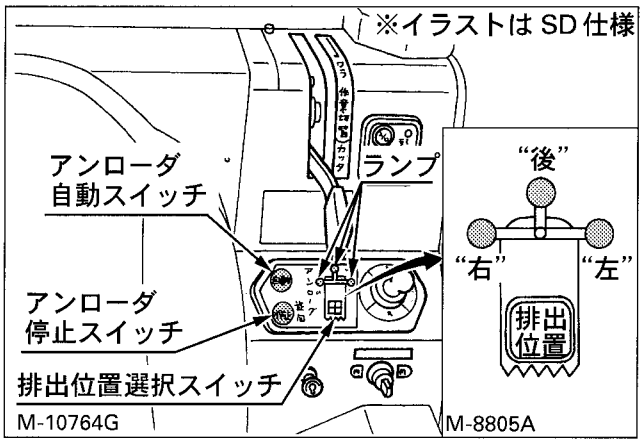
＊アンローダが動作開始範囲内で停止しているときに自動スイッチを押すと，アンローダは排出位置まで上昇及び自動旋回をします。

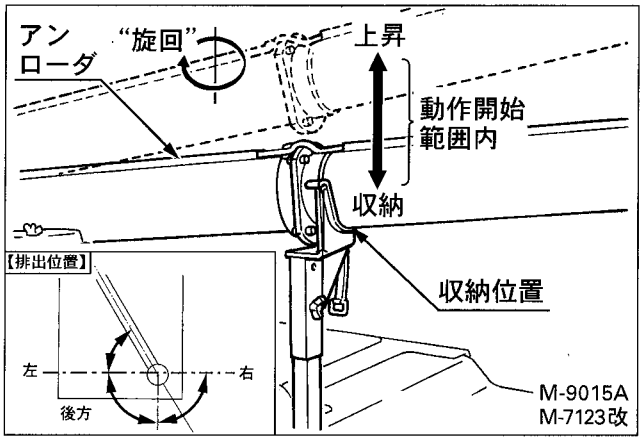
●アンローダ停止スイッチ

自動上昇・旋回・下降途中で停止スイッチを押すと，その位置でアンローダが停止します。

●排出位置選択スイッチ

自動スイッチを押すとアンローダが自動旋回し，停止する排出位置（**“右”・“後”・“左”**の3方向）の選択を行なうスイッチです。排出位置選択スイッチを押すと**“右”➡“後”➡“左”**の順に切換わり，ランプが点灯します。





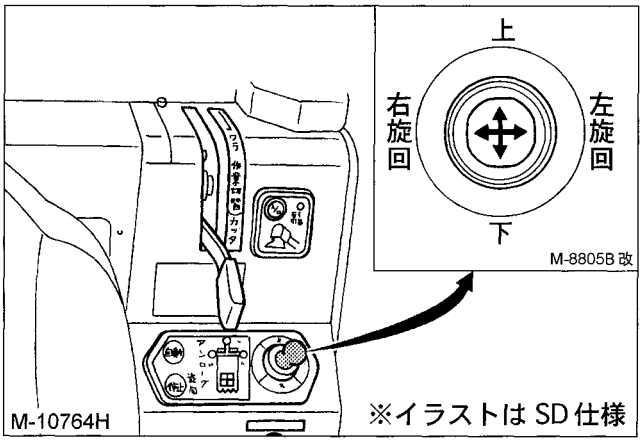
補　足

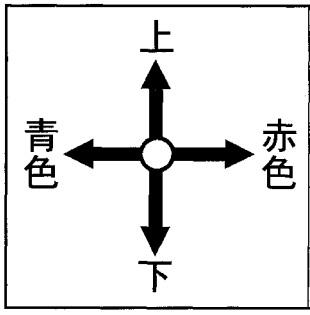
＊自動制御装置作動中でもアンローダレバーの操作が優先され，その後の自動旋回は停止します。

＊自動制御でアンローダが収納位置に戻った直後に，自動スイッチを押しても自動旋回は作動しません。10秒程度待ってから自動スイッチを押す又は，停止スイッチを1度押してから自動スイッチを押してください。

⓬アンローダレバー

アンローダの旋回及び上昇・下降の操作を行なう手動操作レバーです。

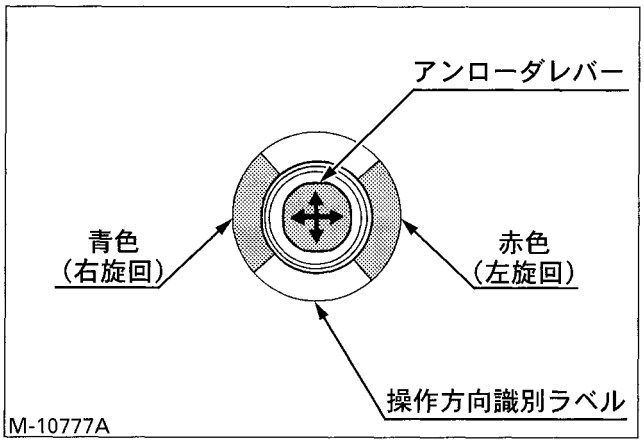


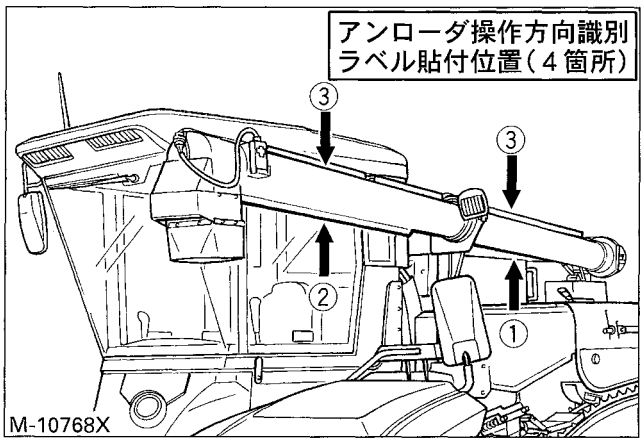


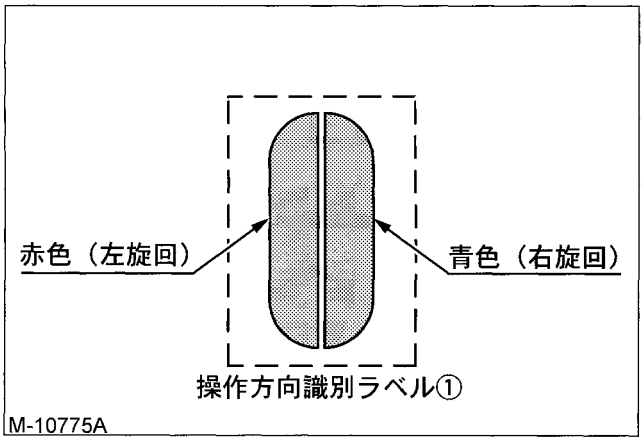
レバーの操作方向	アンローダの動き
上	上昇
下	下降
赤色	左回り(反時計方向)に旋回
青色	右回り(時計方向)に旋回

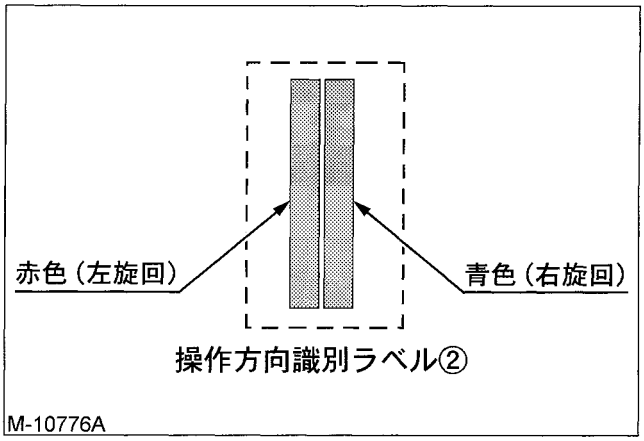
補　足

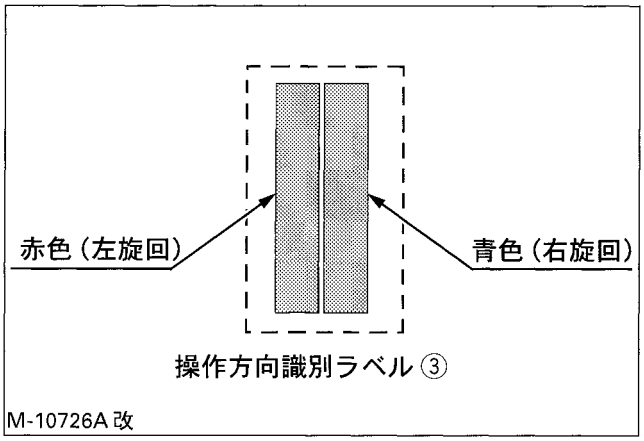
＊アンローダレバーとアンローダに貼付している操作方向識別ラベルを確認し，アンローダレバーを操作してください。アンローダレバーを**赤色**方向に操作するとアンローダは左旋回(ラベル赤色方向)し，アンローダレバーを**青色**方向に操作するとアンローダ右旋回(ラベル青色方向)します。











⓭アンローダリモコンスイッチ【SD仕様】

アンローダの吐出口(先端)側からアンローダの上昇・下降および旋回とグレンタンク内のもみの排出操作を行なうスイッチです。

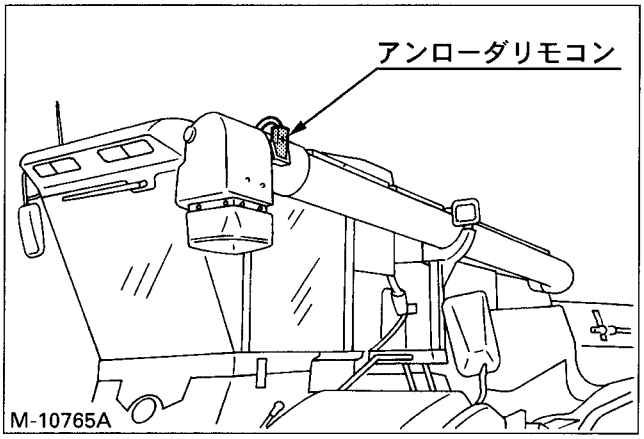
●上昇・下降及び旋回操作

"上昇"……アンローダが上昇します。

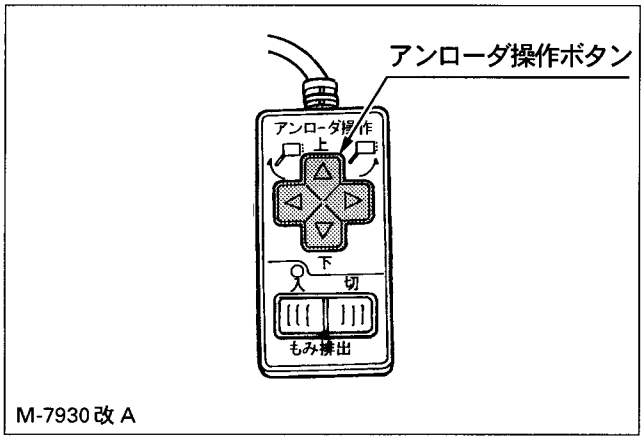
"下降"……アンローダが下降します。

" "……アンローダが左方向に動き(旋回)ます。

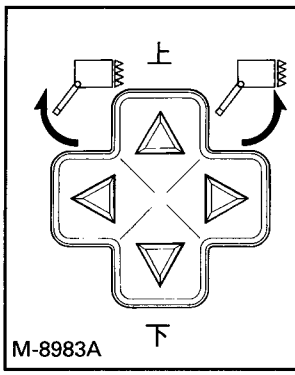
" "……アンローダが右方向に動き(旋回)ます。



M-10765A



M-7930改A



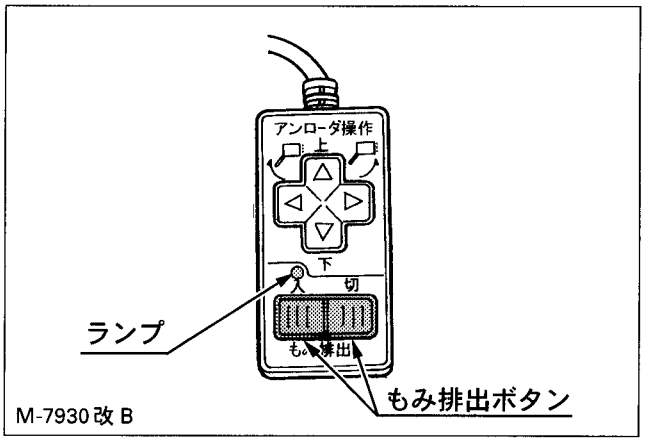
M-8983A

操作方向	アンローダの動き
上	上昇
下	下降
	左回り(反時計方向)に旋回
	右回り(時計方向)に旋回

●もみの排出操作

"入"……もみ排出ボタンの**"入"**を押すとランプが点滅し，アンローダからもみを排出します。

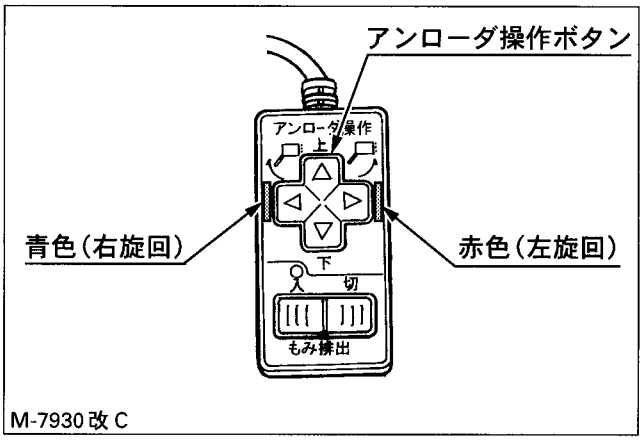
"切"……もみ排出ボタンの**"切"**を押すとランプが消灯し，もみの排出を停止します。



M-7930改B

補　足

＊アンローダ操作ボタンとアンローダに貼付している操作方向識別ラベルを確認し，アンローダ操作ボタンを操作してください。アンローダ操作ボタンを**赤色**方向に操作するとアンローダは左旋回(ラベル赤色方向)し，アンローダ操作ボタンを**青色**方向に操作するとアンローダ右旋回(ラベル青色方向)します。

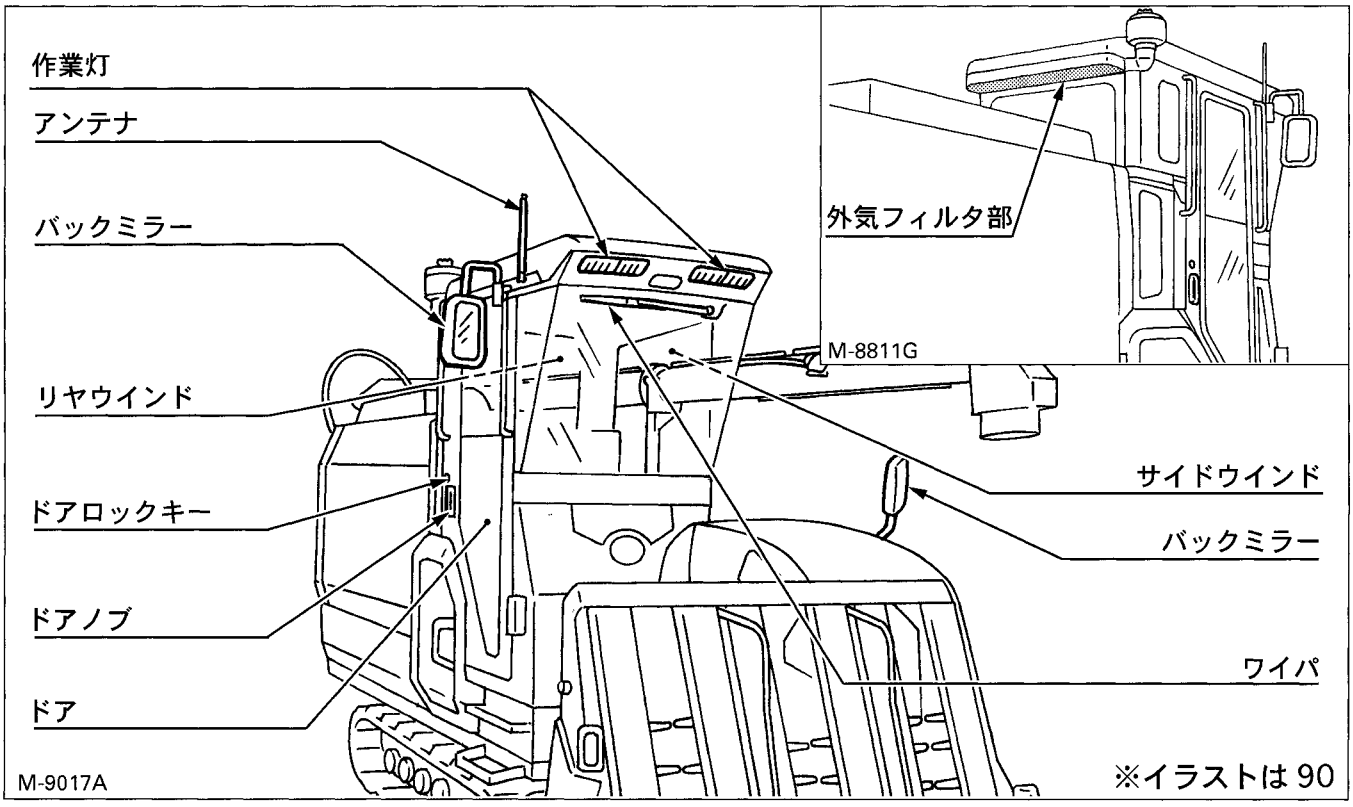


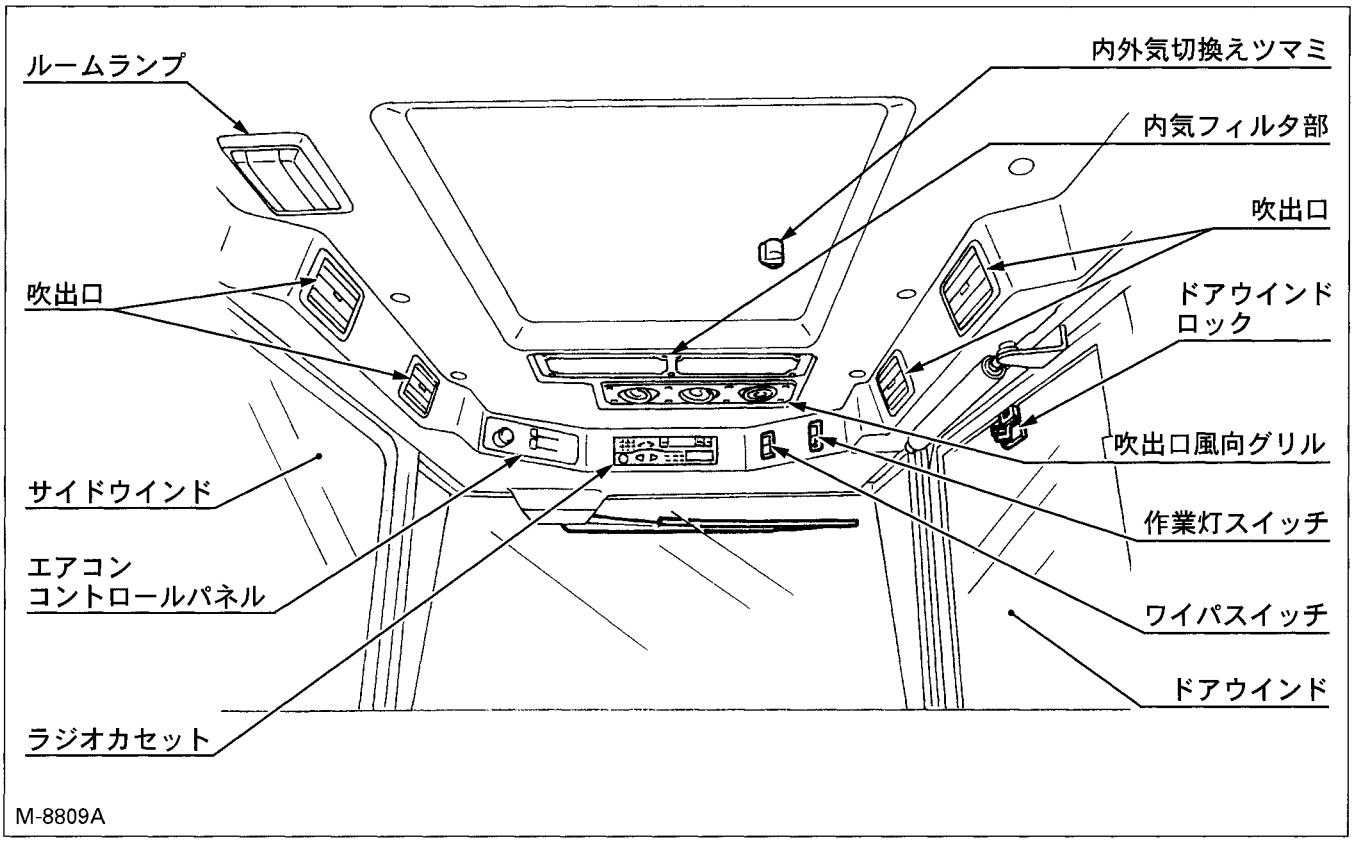
M-7930改C

＊アンローダ受けにアンローダが収納状態のとき，もみ排出ボタンの**"入"**を押してももみは排出されません。

キャビン装置の名称と取扱い【Q仕様】

装置の名称





各装置の取扱い

■ドアの開閉・ロックのしかた

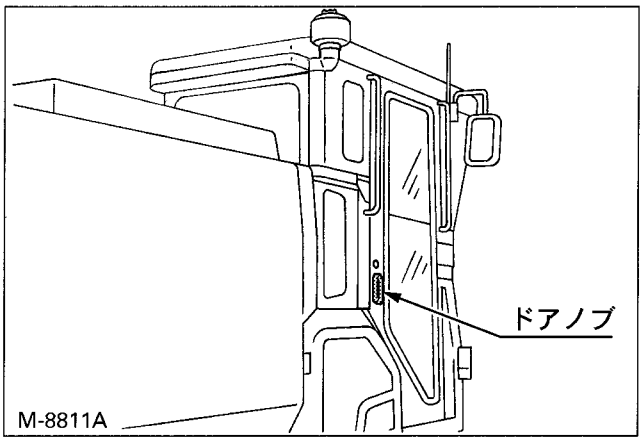
注 意

＊ドアの開閉時は，周囲に人を近づけないでください。手を挟んだり，ドアにあたってケガをするおそれがあります。
＊ドアは確実に閉じてください。不意にドアが開いてケガをするおそれがあります。

◆ドアの開閉のしかた

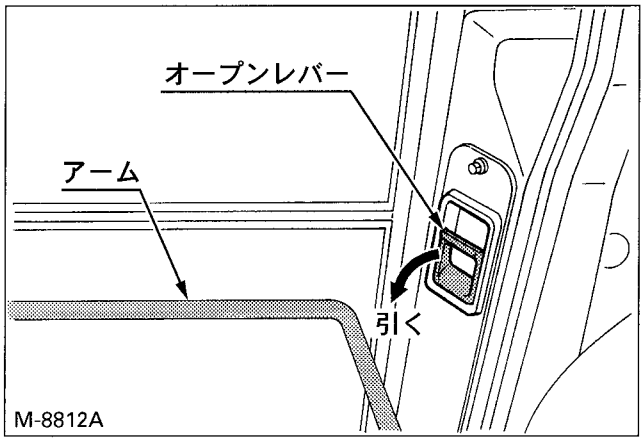
●室外から

ドアノブを**“カチッ”**と音がするまで引くと開きます。閉じるときはドアノブを操作せずにドアを押してください。



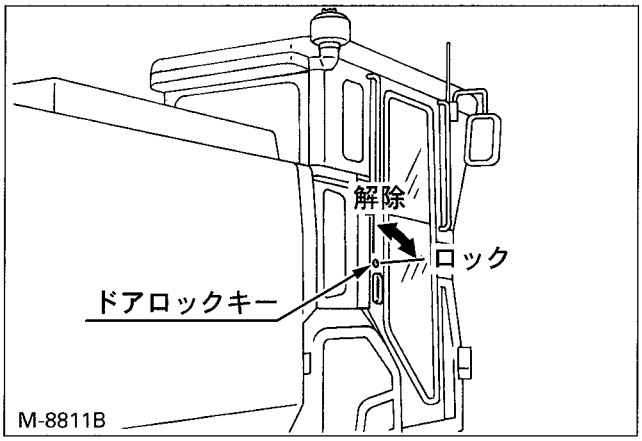
●室内から

オープンレバーを引くと開きます。閉じるときはアームを引いてください。



◆ドアのロック・解除のしかた

ドアが閉じている状態で，ドアロックキーにキャビン用キーを差込み，**右**に回すと**ロック**，**左**に回すと**解除**されます。



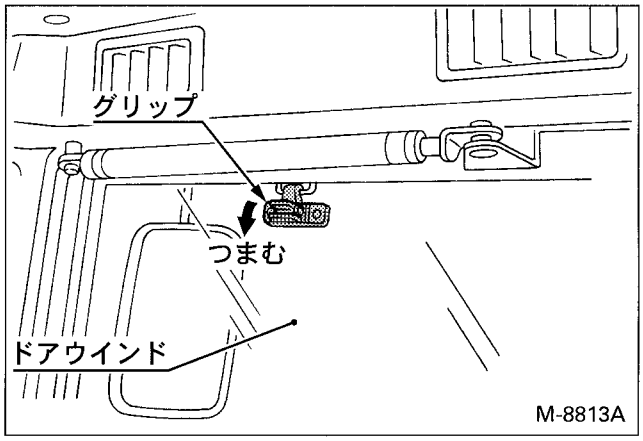
重 要

＊長時間コンバインから離れるときは，必ずドアのロックをしてください。

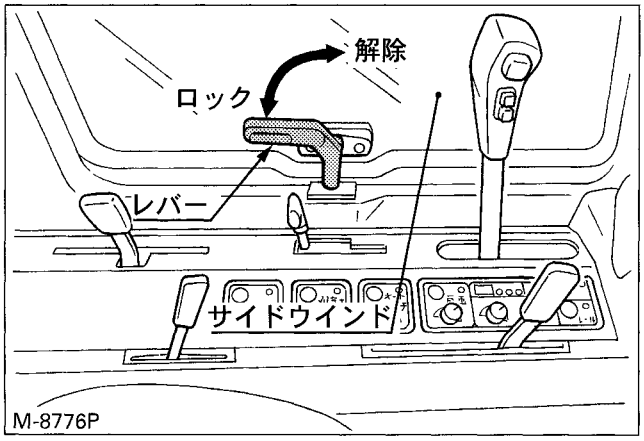
■各ウインドの開閉のしかた

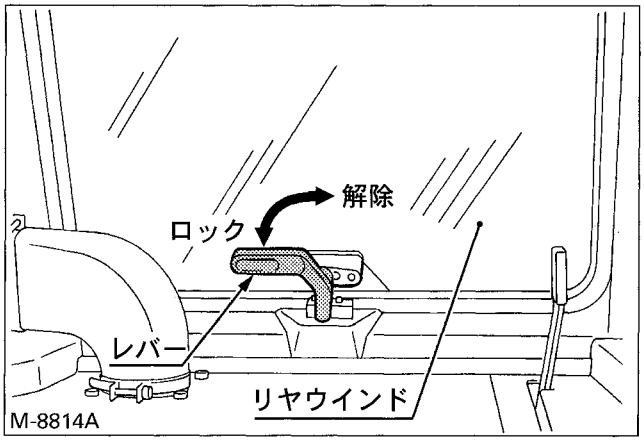
◆ドアウインド

ドアウインドを開けるときはグリップをつまんで下げてください。閉じるときはグリップ全体を押上げてください。

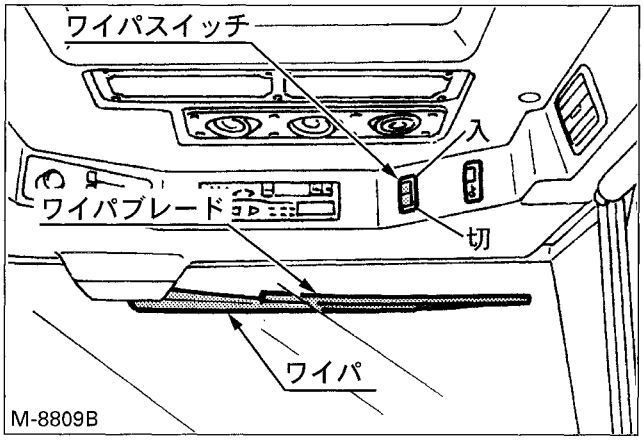


◆サイドウインド
◆リヤウインド
開くときはレバーを90度上側に回すと（解除）開きます。閉じるときは，レバーを引いてウインドを閉じたあと，レバーをロック位置に回してください。



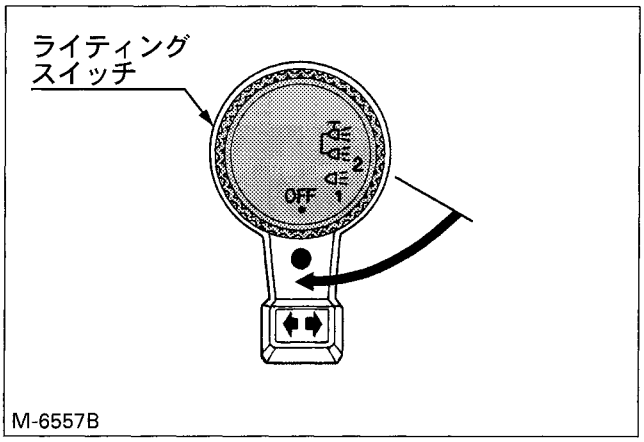


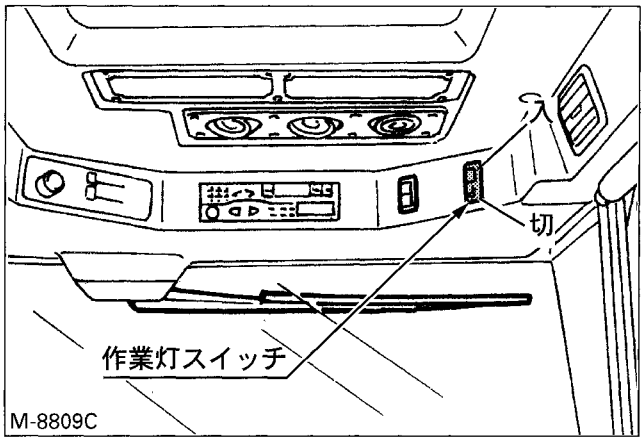
■ワイパの使いかた
メインスイッチのキーが**“入”**位置のとき，ワイパスイッチの上側を押すと作動（**入**）し，下側を押すと停止（**切**）します。



重　要
＊ガラス表面に泥などが付着している場合は，濡れタオルなどでふき取ってください。泥などが付着したまま作動させると，ガラスのキズ付やワイパブレード(ゴム部)の損傷の原因になります。
＊長期使用しなかったときや寒冷時に動かすときは，ワイパブレード(ゴム部)がガラス面に接着していることがありますので注意してください。
＊エンジンを停止して長時間使用するとバッテリが上がるおそれがあります。

■作業灯スイッチ
メインスイッチのキーが**“入”**位置のとき，コンビネーションスイッチのライティングスイッチを**“2”**位置（**ヘッドランプ・作業灯点灯**）にしたあと，作業灯スイッチの上側を押す（**入**）と作業灯が点灯し，下側に押す（**切**）と作業灯が消灯します。

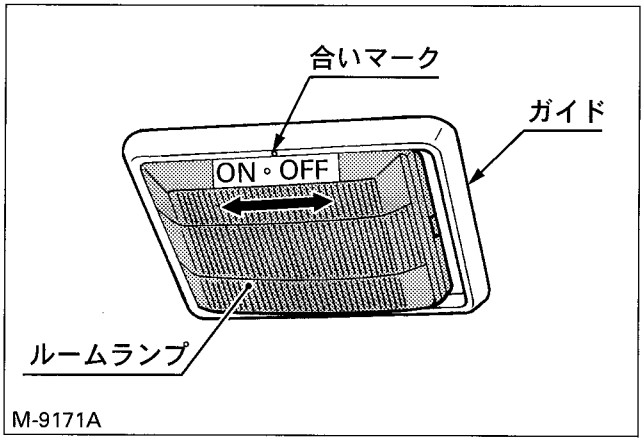




■ルームランプの使いかた

メインスイッチのキーが**“入”**位置のとき，ルームランプをスライドさせてガイドの**合いマーク**に合わせてください。

ON（入）…… ランプ**点灯**
○ …… ランプ**点灯**
OFF（切）…… ランプ**消灯**

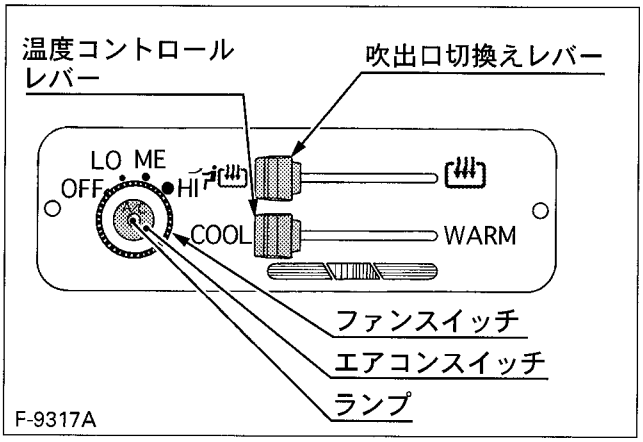


重 要

＊エンジンを停止して長時間点灯するとバッテリが上がるおそれがあります。

エアコンの取扱い

■コントロールパネル



◆エアコンスイッチ

エアコンの電源を**入・切**するスイッチです。

重 要

＊1週間以上又は，長期放置後にエアコンを使うときは，エンジン回転をアイドリングしてエアコンスイッチを**“入”**にしてください。
エンジン回転が高いままで，エアコンスイッチを**“入”**にするとコンプレッサが故障するおそれがあります。

補 足

＊エアコンスイッチを押して**入**の状態で，ファンスイッチが**“OFF”**位置以外（送風状態）のときに，中央のランプ（青色）が点灯します。

◆ファンスイッチ

風量を調節するスイッチです。スイッチを回すことにより3段階（**LO(弱)⟷ME(中)⟷HI(強)**）の調節が行なえます。

補 足

＊ファンスイッチが**“OFF”**位置のとき，送風が停止すると同時にエアコンの電源も切れます。（ランプ消灯）

◆温度コントロールレバー

温度を調整するレバーです。レバーを**“COOL”**（左側）に操作すると温度は低くなり，**“WARM”**（右側）に操作すると温度が上がります。

◆吹出口切換えレバー

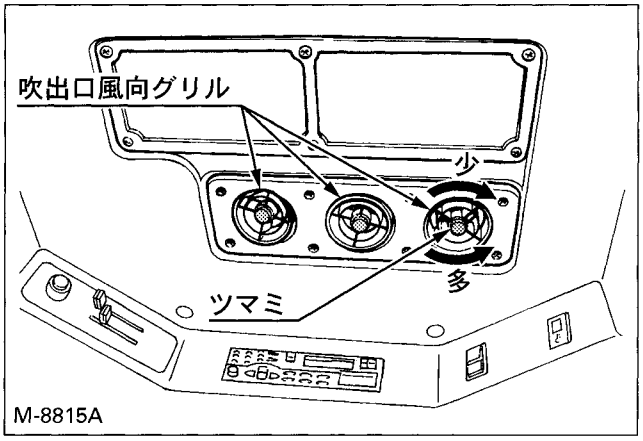
送風の吹出口を切換えるレバーです。

……吹出口風向グリル(上部)と吹出口(上部両横)より吹出します。

……吹出口風向グリル(上部)より吹出します。

●吹出口風向グリルの調整のしかた

吹出口の風向グリルで風量の調整を行なうとき，風量はツマミを右に回すと**少**なくなり，左に回すと，**多**くなります。また，グリルの角度を変えて，風向きを調整してください。また，上部両横の吹出口からの風量を多くしたいときは，上部の吹出口からの風量を少なくしてください。



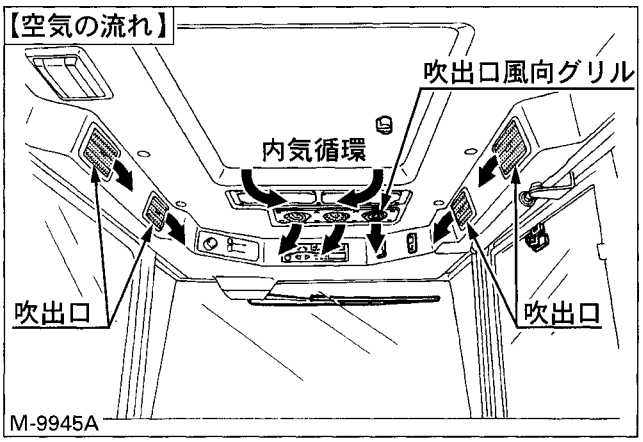
重　要

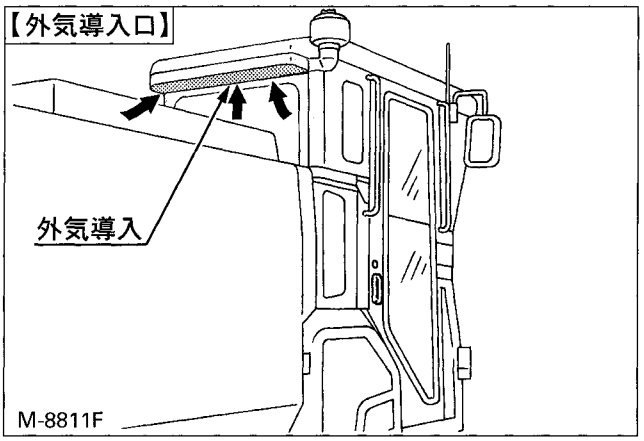
＊洗車を行なうとき，外気導入口に水をかけないでください。故障の原因になります。

補　足

＊フロントガラスの曇りを除去するときは，グリルをフロントガラスに向けてください。

＊キャビン内の空気の流れを参照して，吹出口の風量や風力を調整してください。また，外気導入口は，キャビン後部の天井下側にあります。



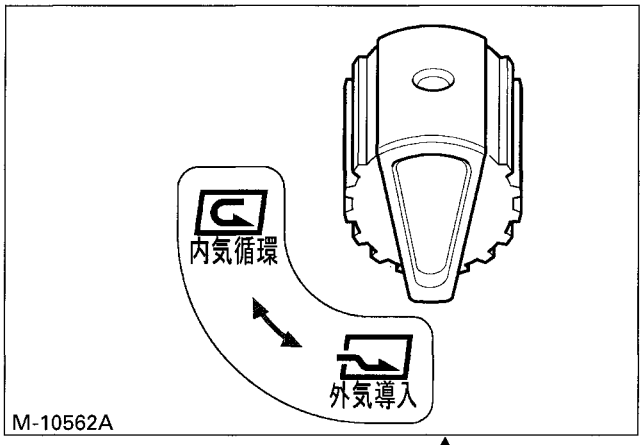


■内外気切換えツマミ

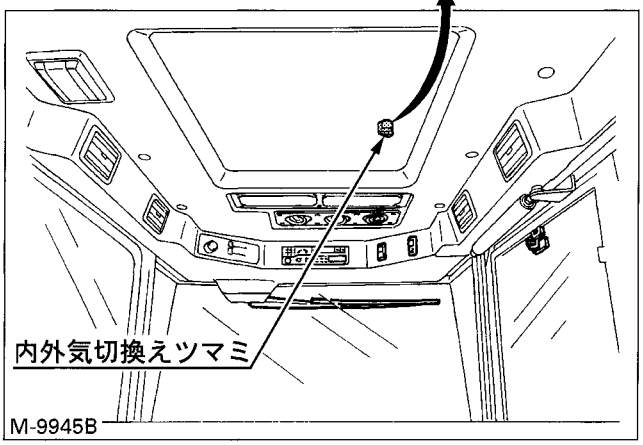
キャビン室内の空気の状態を切換えるツマミです。

(内気循環)…切換えると内気のみの循環を行います。

(外気導入)…切換えると外気を取入れます。



M-10562A



M-9945B

補　足

＊キャビン室内の温度を下げたいときは，**“内気循環”**位置にしてください。

＊作業中にほこりが多いときは，**“外気導入”**位置にしてキャビン内に新鮮な空気を入れてください。

■エアコン冷暖房のしかた

❶エンジンを始動します。

❷ファンスイッチを希望の位置に回します。

❸温度コントロールレバーを希望の位置にします。

レバーが

- 暖房(**WARM**)位置のときは，エアコンスイッチを**切**位置にします。
- 冷房(**COOL**)位置のときは，エアコンスイッチを押して**入**位置(ランプ点灯)にします。

補　足

＊湿度が高く窓ガラスが曇りやすいときは，レバーを中間位置にし，エアコンスイッチを押して**入**位置にして，除湿を行なってください。

＊健康上，冷房はやや弱い目に効かせてください。また，冷風は身体１箇所に集中して当てるのはさけてください。

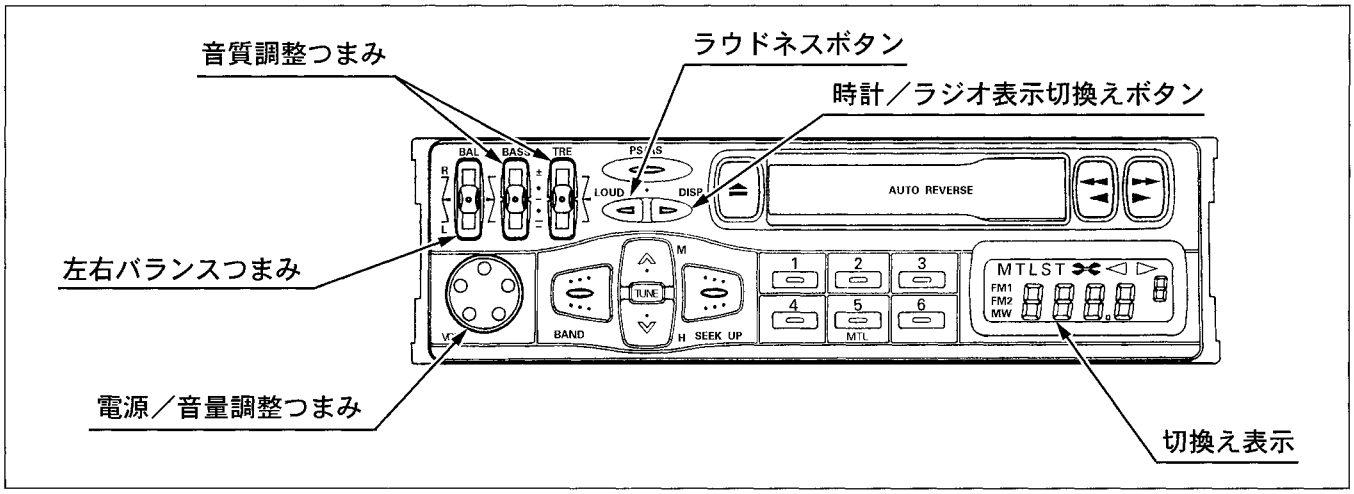
＊ゴミの多い条件で使用するときは，風量調節レバーで風量を強くしてください。

＊連続10分以上本機を前傾して冷房を使用すると，冷気吹出し口より水滴が飛散することがあります。このような運転はさけてください。

＊エンジンの冷却水の水温が高くなるまでは暖房ができません。

AM/FMラジオ付きカセットプレーヤの取扱い

■スイッチ・ツマミの取扱い



◆電源／音量調整つまみ

右に回すと電源がONします。更に右へ回すと音量が大きくなります。カセットテープが入っているときはテープ動作，入っていないときはラジオの状態になります。

◆左右バランスつまみ

バランスつまみを利用して左右の音量調整をします。L表示側につまみをスライドすると右側の音量が減衰し，R表示側につまみをスライドすると左側の音量が減衰します。

◆音質調整つまみ

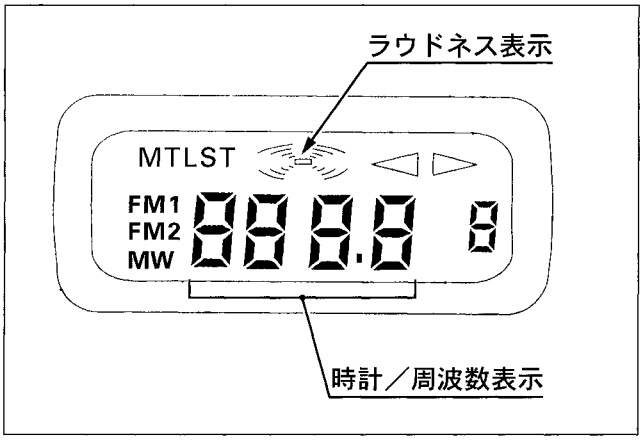
●BASS(低音)調整

低音調整つまみで低音部をお好みの音質に調整します。通常は中央の位置にしておきます。⊕にスライドすると増強，⊖にスライドすると減衰します。

●TRE(高音)調整

高音調整つまみで高音部をお好みの音質に調整します。通常は中央の位置にしておきます。⊕にスライドすると増強，⊖にスライドすると減衰します。

◆切換え表示



◆ラウドネスボタン

小音量で音楽を聞くと，低音が弱く感じます。ラウドネスボタンを押すと低音が強調されて，聞きやすい音質になります。解除するときはもう一度ボタンを押してください。

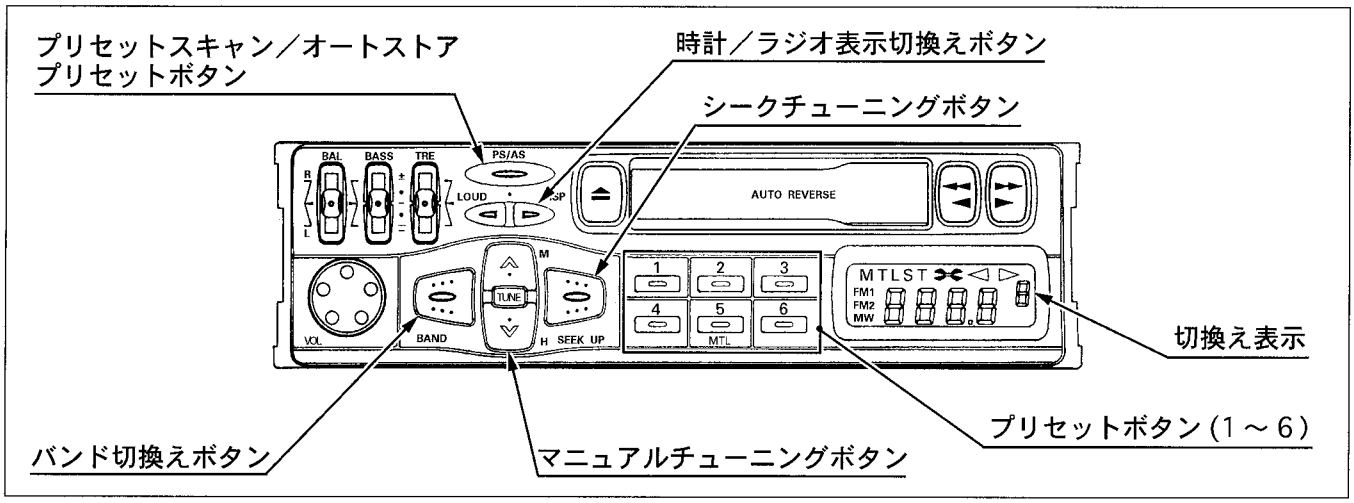
◆時計／ラジオ表示切換えボタン

DISPボタンを押すとラジオ／時刻表示の切換えを行ないます。

◆時計セット

時刻修正は時刻表示の状態で行なえます。DISPボタンを押しながらTUNINGボタンの下側（H）を押すと時間，上側（M）を押すと分の時刻修正が行なえます。

■ラジオ操作



◆バンド切換え

受信周波数帯を変更するときに押します。

＊FM1/FM2/MW(AM 放送バンド)

◆マニュアルチューニング

手動にて選曲を行ないます。

上側ボタンを押すと受信周波数が高く，下側を押すと低くなります。

ボタンを押し続けていると速いペースで周波数が変化します。

◆シークチューニング

このボタンを押すと自動的に周波数が高いほうに変化して放送をさがします。受信可能な放送があると，その周波数で停止して継続受信します。

◆プリセットボタン （1～6）

オートストアでメモリされた放送周波数を，1-6のボタンで単独に呼び出し，受信することができます。

1-6のボタンはFM及びAM共用で18局（FM12局，AM 6局）の放送をセットできます。

◆マニュアルメモリ

メモリしたい放送局をマニュアルチューニングボタンかシークチューニングボタンで選局します。周波数表示中にメモリしたい番号（1～6）を約2秒間押しつづけます。周波数表示が一回フラッシュして登録が終了します。

◆プリセットスキャン／オートストア

●プリセットスキャン

ラジオ受信中にこのボタンを押すと，現在受信中のバンドにプリセットされている放送局を，1番から6番まで5秒間づつ放送します。（その際ボタンを押す時間は2秒内です）

お聞きしたい局が受信したところで，もう一度このボタンを押してください。プリセットスキャンの作業を終了して，通常の放送に切換わります。

●オートストア

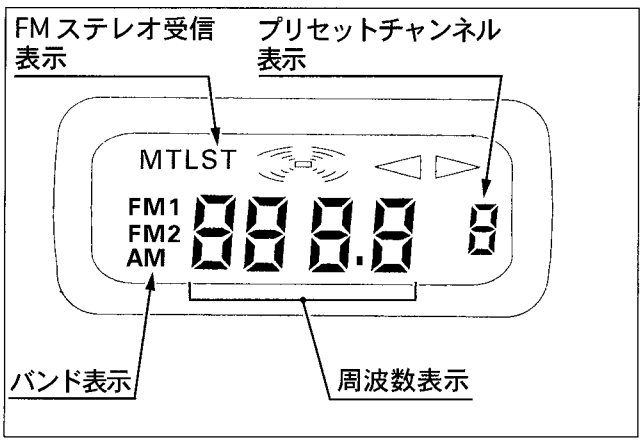
ラジオ受信中にこのボタンを2秒以上押すと，現在受信中のバンド内の放送を自動的に探して，その周波数をプリセットメモリに記憶します。この動作中，表示部の右側のチャンネル表示が変化します。

これは各メモリチャンネルに記録中を表わします。

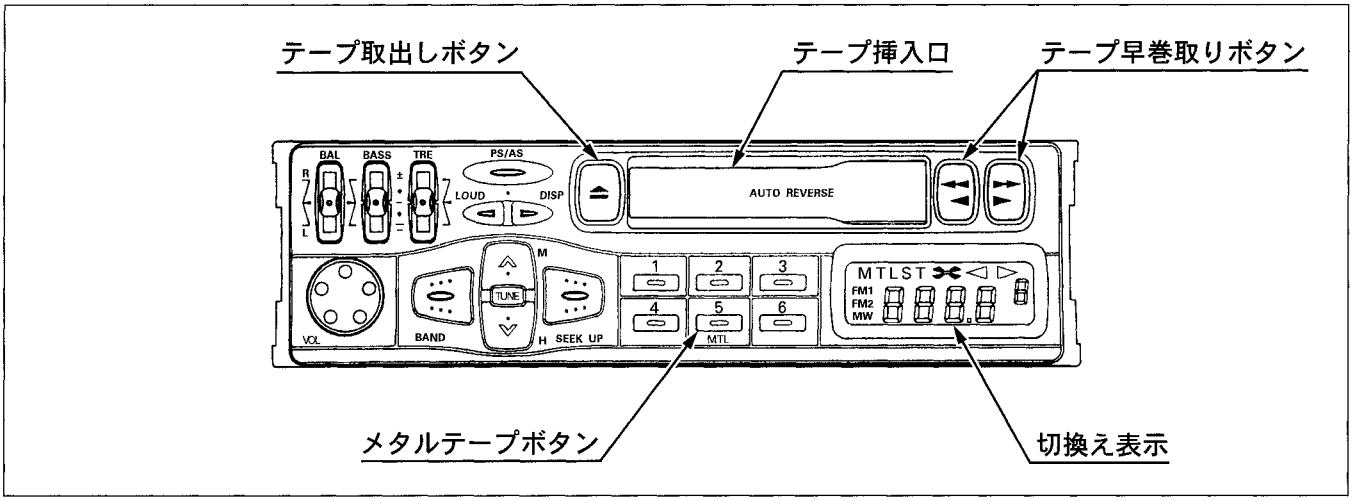
補 足

＊チャンネル表示がフラッシング中は，オートストア機能は使用出来ません。（フラッシング中はプリセットスキャン中です。）

◆切換え表示



■カセット操作方法



◆テープ取出しボタン

テープ演奏を停止する際に奥まで押してください。カセットがイジェクトされラジオの状態になります。

◆メタルテープボタン
（プリセットボタン5番と共通です）

使用するテープの種類によって使分けてください。メタル／クロームテープ使用時は，ボタンを押してください。表示部にMTLが表示されます。
解除するときはもう一度ボタンを押してください。

◆テープ早巻取りボタン（基本操作）

●早送り

テープ走行方向表示が点灯している方の矢印と同じ方向のボタンをロックするまで押します。

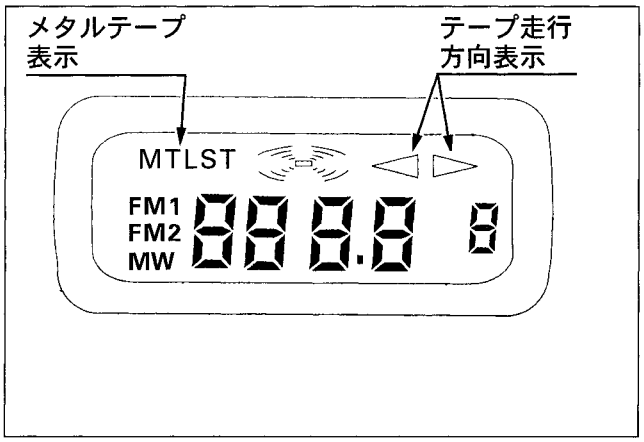
●巻戻し

テープ走行方向表示が点灯している方の矢印と逆方向のボタンをロックするまで押します。

（早送り）（巻戻し）を中止するには，押込まれているボタンと逆のボタンを軽く押します。

演奏面を変えるときは，2つのボタンを同時に押してください。演奏面が変わると同時にテープ走行表示の点灯もかわります。本機はオートリバースメカを使用していますので，テープ再生あるいは早巻取りでテープが終端まで巻取られると，自動的にテープ走行が変わり，反対面のプログラムが再生されます。テープをいれたままにしておきますと，A面B面を繰返し演奏を続けます。

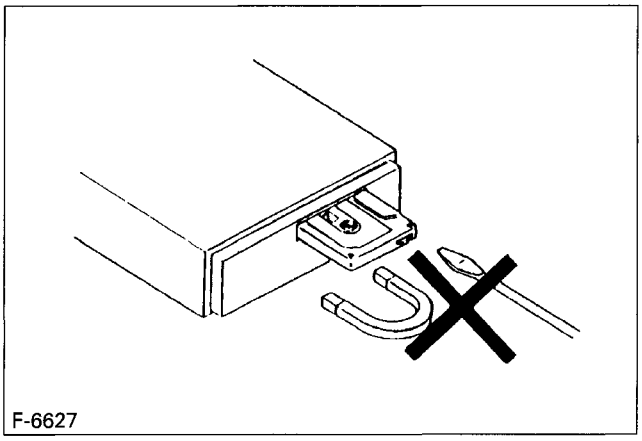
◆切換え表示



■取扱上の注意

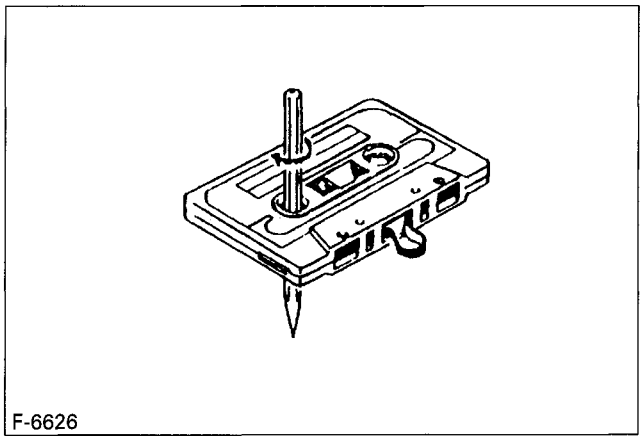
(1)ラジオカセットは，水分や高温，多湿を嫌いますので，キャビン内清掃や換気に十分ご注意ください。

(2)ヘッド及びカセットテープに磁石やドライバなどを絶対に近付けないでください。



F-6627

(3)カセットテープ挿入時にテープがたるんでいますと誤動作を起こす場合がありますので，テープのたるみを直してからご使用ください。



F-6626

(4)カセットテープは，水平にし，カセットテープの中央を押し挿入してください。

(5)C-120タイプのカセットテープは，テープ自身が非常に薄く，伸びたり，切れたりしますので，ご使用は避けてください。

(6)ラベルのはがれかかったカセットテープ，またケースが変形しているカセットテープは，メカニズムの故障の原因となりますので，ご使用は避けてください。

(7)ヘッドが汚れると高音域が低下します。いつも良い音質でお聞きいただくため，ヘッド表面を時々クリーニングしてください。市販のクリーニングテープを使用すると便利です。なお，クリーニングにはシンナやベンジンは絶対に使用しないでください。

(8)キャビン内の温度に気をつけてください。
極寒や酷暑のとき，とくに夏期はキャビン内の温度が大変高くなることがありますので，キャビン内の換気に注意し，適温で使用してください。また，コンバインを降りられるときには，必ずカセットテープを本体から抜いてケースに入れて保管してください。

(9) ラジオカセット操作は，安全性の面からできるだけ停車中に行なってください。また，運転中の音量は事故防止のため，車外の音が聞える程度でお楽しみください。

(10)ラジオカセットのお手入れは，乾いた柔らかい布で拭いてください。固い布や，ベンジン・シンナ・アルコールなどは絶対に使用しないでください。また，汚れがひどい場合には柔らかい布を水またはぬるま湯に浸し，固くしぼってからご使用ください。

(11)カセットテープを直射日光に長時間あてないでください。高音，多湿の場所(シートの上など)への長時間放置もさけてください。

(12)カセットテープ挿入口より多量のホコリが侵入しますと，テープやテープヘッドを傷め不具合となりますので，長時間ドアやウインドを開けた状態での運転はさけてください。

運転前の点検

故障を未然に防ぐには，機械の状態をいつもよく知っておくことが大切です。日常点検は一日一回，運転前に欠かさず行なってください。（点検・調整方法の詳細は，100ページを参照。）

警 告

＊平たんな安全な場所で，エンジンを止めて駐車ブレーキを必ず掛けてから行なってください。
＊バッテリの点検・充電・交換中は火気厳禁です。
＊取外した回転部のカバー類は，衣服などが巻込み危険ですので，必ず取付けてから作業をしてください。

注 意

＊燃料やオイル補給中は火気厳禁です。
＊運転前にブレーキ・クラッチや安全装置などの日常点検を行ない，摩耗や損傷している部品があれば交換してください。また，定期的にボルトやナットがゆるんでいないか点検してください。
＊使用前にはオイル，燃料が規定量入っているか必ず点検してください。
＊燃料，オイルがこぼれた場合は，きれいにふき取ってください。
＊バッテリ，マフラやエンジン・燃料タンク・ベルトカバー内・配線部周辺にごみや燃料の付着，泥の堆積などがあると火災の原因になることがあります。日常点検をして取除いてください。
＊刈刃やカッタの掃除や注油時は，手袋を着用し刃部に注意しながら行なってください。

重 要

各部への給油と交換
＊点検するときは機体を水平な場所において行なってください。傾いていると正確な量を示しません。
＊使用するエンジンオイル，ミッションオイル，グリースは，指定の**“クボタ純オイル・スペアグリース”**を必ず使用してください。
＊燃料補給の際は，ゴミや水が混入しないようにしてください。

◆前日の異常箇所

前日の作業中に異常を感じたところがあれば，使用前に支障がないか点検してください。

◆コンバインの回りを歩いて

(1)ボルトやナットのゆるみや脱落がないか点検します。
(2)車体各部の変形や損傷がないか点検します。
(3)油もれや水もれなどないか点検します。
(4)機体各部にわらくずがたまっていないか点検します。

日常点検項目

〈ここを〉		〈点検し異常があれば〉	〈こうする（処置）〉	参照ページ
機体の周りを歩いて	機体各部	1. 損傷や変形はないか。 2. ボルトやナットのゆるみや脱落はないか。 3. 油もれや水もれはないか。 4. わらくずがたまっていないか。 5. 安全ラベル（⚠表示ラベル）の損傷やはがれはないか。	1. 修理又は，交換する。 2. 補充や増締めをする。 3. ホースやパイプの取付部の締付け又は，部品交換をする。 4. 掃除する。 5. 新しいラベルに貼換える。	— — 143 113,197 ⚠-18
	刈刃,わら切刃,カッタ刃	● 刃の損傷はないか。	● 交換する。	170,174,176
	クローラ	● たるみや損傷はないか。	● 調整又は，交換する。	192
	防じんあみ	● 詰まりはないか。	● 掃除する。	144
	反射器	● 汚れや損傷はないか。	● 調整又は，交換する。	191
エンジン回りを確認して	エンジンオイル	● 油量は規定量（オイルゲージの**上限線と下限線の間**）あるか。	● 規定量まで補給する。 …クボタ純オイル **【60・70・80】** D30又は，D10W30 **【90・98】** D30スーパーCD又は D10W30スーパーCD	134
	ラジエータ 冷却水	● リザーブタンクの水量は規定量（タンクの**FULL線とLOW線の間**）あるか。	● 清水を規定量まで補給する。	140
	オイルクーラ フィン	● 詰まりはないか。	● 掃除する。	144
	コンデンサ【Q仕様】			
	プレクリーナ【HD・SD仕様】	● コレクタにほこりがたまっていないか。	● 掃除する。	141
	エアクリーナ	● エレメントが汚れたり，ほこりが詰まっていないか。	● 掃除又は，エレメントを交換する。	142
	ファン駆動ベルト	● たるみはないか。 ● 損傷はないか。	● 調整する。 ● 交換する。	156
	パイプ，ホース	● 油もれや水もれはないか。	● 取付部の締付け又は，交換する。	143
	配線コード	● コネクタの外れはないか。 ● 被覆の損傷はないか。	● 接続する。 ● 交換する。	188
メインスイッチを入れて	各ランプ	● 各スイッチを操作すると点灯又は，点滅するか。	● 球切れ，ヒューズ切れ，配線コードの外れを調べ交換又は，接続をする。 ● バッテリの充電又は交換する。	190 184
	液晶ディスプレイ	● 表示はされているか。 ● 切換えスイッチを押すと表示内容が変わるか。		
	燃料計	● 作業に必要な燃料はあるか。	● 軽油を補給する。	133
	ホーン	● スイッチを押すと鳴るか。	● ヒューズ切れ，配線コードの外れを調べ交換又は，接続をする。	188,190
	バックブザー	● 主変速レバーを**“後進”**位置にするとブザーが鳴るか		
エンジンを始動して	エンジン回転計	● 回転計の作動に異常はないか。	● 購入先に連絡してください。	—
	エンジンマフラ	● 異音はしないか。 ● 排気ガスの色に異常はないか。	● 購入先に連絡してください。	—
	各レバー	● 各レバーの作動に異常はないか。	● 調整する。	148
	駐車ブレーキ	● 機体は停止するか。また，遊び量は適正か。	● 調整する。	148
	エンジン停止スイッチ	● スイッチを押すと，ブザーが鳴りエンジンが停止するか。	● ヒューズ切れ，配線コードの外れを調べ交換又は，接続をする。	16,188

重 要

＊処置したあとに異常が直らないときは，購入先に連絡してください。

移動走行と輸送

新車時の扱いかた

新車時の上手な運転操作やメンテナンスがコンバインの寿命に影響を及ぼします。新車のコンバインは厳重な検査のもとに出荷されていますがコンバインの各部の部品はならし運転されていません。ならし運転期間中はコンバイン各部の部品がなじむまでは走行速度は低速で，過負荷となる刈取作業は避けてください。
コンバインの性能を最大に発揮させたり，長期にわたる耐久力を維持させるためには，適正なならし運転が重要です。
新車時の取扱いは次項を遵守してください。

■ならし運転について

＊急発進や急ブレーキ操作はしないでください。
＊寒い日や冬期，エンジンはじゅうぶん暖機運転をしてください。
＊エンジンは規定刈取作業回転数以上に回さないでください。
＊高速での刈取作業は避けてください。
＊整地されていない凹凸道路では低速走行をしてください。
以上はならし運転以降も必要な事項ですが，新車時は特に注意してください。

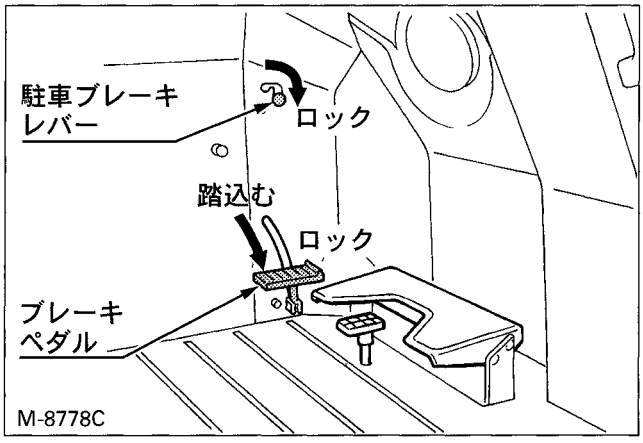
エンジンの始動と停止のしかた

注　意

＊この取扱説明書前編の黄色のページの“安全に作業をするために”の内容を必ずお読みいただいて安全作業を心掛けてください。
＊コンバインに貼ってある警告・注意ラベルの内容を必ずお読みください。
＊エンジン排気ガスによる，排気ガス中毒をさけるため，換気の悪い納屋・倉庫でエンジンを回さないでください。
＊始動操作は，ホーンなどで周囲の人に始動の合図をしてから行なってください。

■始動のしかた

1. 駐車ブレーキを掛けます。
❶駐車ブレーキレバーを**“ロック”**位置にします。
❷ブレーキペダルをロックするまでいっぱい踏込み駐車ブレーキを掛けます。



補　足

＊駐車ブレーキペダルを踏むと主変速レバーが**“停止”**位置に戻ります。また，ブレーキペダルが**“ロック”**位置の場合は，主変速レバーは動きません。

2. 各レバー位置の確認をします。

❶非常エンジン停止レバーが**始動**位置にあるか確認します。**停止**位置(引張っている状態)のときは，レバーを押込みます。

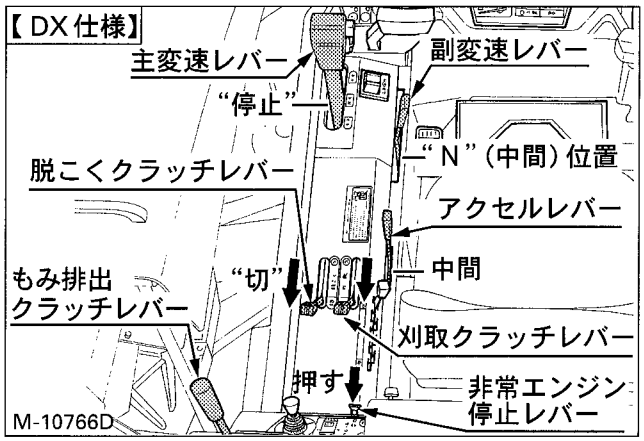
❷主変速レバーが**"停止"**位置にあるか確認したあと，副変速レバーを**"N"(中立)**位置**以外**の位置にします。

❸脱こく・刈取クラッチレバーを**"切"**位置にします。

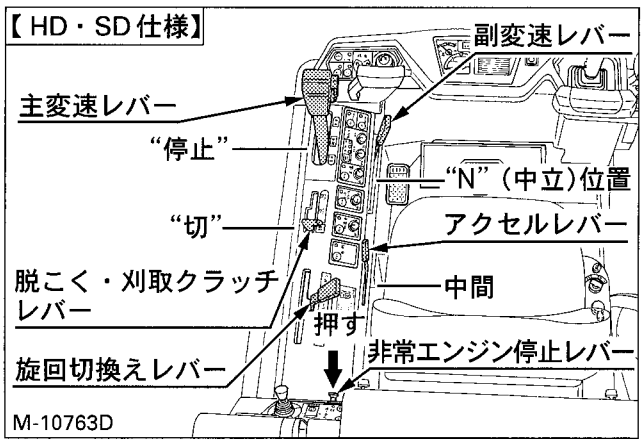
❹旋回切換えレバーを**"ブレーキ"／"スピン"／"ソフト"**のいずれかの位置にします。**【HD・SD仕様】**

❺アクセルレバーを中間ぐらいの位置まで引きます。

【DX仕様】



【HD・SD仕様】



補　足 **【HD・SD仕様】**

＊各レバーの位置がエンジンの始動条件に合っていないと，スイッチキーを回してもエンジンは始動せず液晶ディスプレイに下記の内容を表示します。

- **脱こくクラッチ切に**……脱こく・刈取クラッチレバーを**"切"**位置にする。
- **主変速中立に**……主変速レバーを**"停止"(中立)**位置にする。
- **ブレーキペダルを踏む**…駐車ブレーキペダルを踏込む。**【98】**

また，旋回切換えレバーが**"ブレーキ"／"スピン"／"ソフト"**のいずれかの位置にないと，エンジン始動後，発進するとエンジンが停止し，液晶ディスプレイに**旋回切換えを確実に**と表示します。

補　足 **【DX仕様】**

＊主変速レバーは**"停止"**位置にあり，脱こくクラッチレバー及びもみ排出クラッチレバーを**"切"**位置にし，ブレーキペダルを踏込まないと，エンジンは掛かりません。

3. エンジンを始動します。

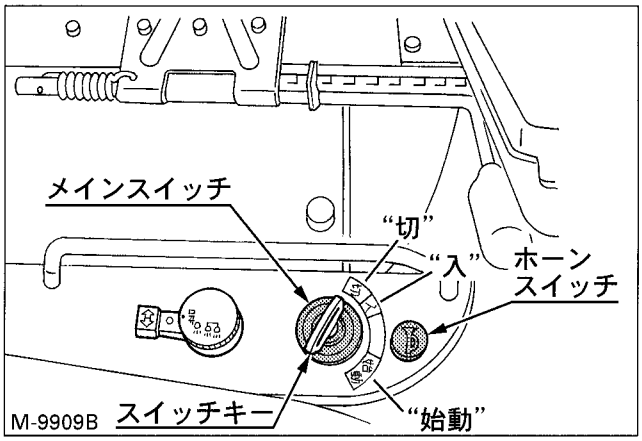
❶メインスイッチにスイッチキーを差込み**"入"**位置にしたあと，ホーンを鳴らすなどして始動の合図を周囲の人に送ります。

補　足 **【HD・SD仕様】**

＊スイッチキーを**"入"**位置にすると，エアロナビの液晶ディスプレイに**アワーメータ・オイル(図柄)・充電(図柄)**が表示されますが，オイル又は，充電の図柄が表示されないときは，購入先に連絡してください。

＊駐車ブレーキが掛かっている状態でスイッチキーを**"入"**位置にすると**駐車ブレーキ(P)**が優先して表示し，駐車ブレーキを解除すると表示は消えます。

❷スイッチキーを**"始動"**の位置に回してエンジンを始動します。始動後は，スイッチキーから手を離してください。



重　要

＊スイッチキーを**"始動"**位置に回して10秒たっても始動しないときは，いったんキーを**"切"**位置にして，30秒ほど休止してから，エンジンを再始動してください。10秒以上の使用は故障の原因になります。

＊エンジン回転中に，スイッチキーを**"始動"**位置に回すと故障の原因になります。

＊エンジン始動後，油圧ランプ，充電ランプが**消灯**しないときは，購入先へ連絡してください。

【DX仕様】

❸エンジン始動後，エンジン回転数を約1500rpmに合わせて約5～10分間は負荷をかけずに暖機運転を行なってください。

重　要

＊オイルを各部にじゅうぶんゆきわたらせるためで，始動してからすぐ負荷をかけると，エンジンの焼付きやミッションや油圧系統の故障の原因になります。

＊寒冷時は暖機運転を怠たるとパワーステアリングレバー操作ができなくなったり，ブレーキが効かなくなるなど**油圧系統の故障**につながりますので，下記の表を目安に暖機運転を行なってください。

気　温	暖機運転時間
0℃～－10℃	約10分
－10℃～－15℃	10～15分
－15℃～－20℃	15～20分
－20℃以下	20分以上

◆燃料切れ後の再始動のしかた

運転中に燃料切れで停止した場合は，

❶脱こく・刈取クラッチレバー及びスイッチキーを**“切”**位置にします。

❷燃料タンクに燃料を補給します。

❸**始動のしかた**の**1～3**を確認後，エンジンを始動します。

補　足

＊スイッチキーを**“入”**位置にすると約5～10秒で自動的にエア抜きされます。

◆バッテリが上がったときの始動のしかた

危　険

＊バッテリの近くに裸火(マッチ，ライタ，タバコの火など)を近づけたり，⊕端子と⊖端子が金属工具やブースタケーブルなどの接触によって起こるスパークをさせないでください。バッテリのガスで引火爆発するおそれがあります。

バッテリ上りによりエンジンが始動できなくなったときは，バッテリの補充電又は，交換を行なってください。(184ページ参照)

補充電や交換がすぐに行なえないときは，救援車のバッテリにブースタケーブルを接続して始動してください。

重　要

＊接続するバッテリは，必ず12Vのものを利用してください。故障の原因となります。

＊バッテリを直列につないで始動しないでください。電装品が破損するおそれがあります。

＊充電異常による場合(充電ランプ点灯)は購入先に連絡してください。

補　足

＊ブースタケーブルの取扱いは，ブースタケーブルの取扱説明書に従ってください。

❶ブースタケーブル(赤)をコンバイン側と救援車側のバッテリの**⊕端子**にそれぞれ接続したあと，ブースタケーブル(黒)を救援車側のバッテリの**⊖端子**に接続し，コンバイン側はバッテリから離れたところの金属部で塗装がされていないところに接続します。

❷利用するバッテリが車などの場合は，エンジン回転を上げます。

❸コンバインのエンジンを始動します。

❹ブースタケーブルを取付の逆の手順で取外します。

■停止のしかた

❶脱こく・刈取クラッチレバーを**“切”**位置にします。

❷アクセルレバーを**“🐢”(低回転)**位置にします。

❸スイッチキーを**“切”**位置にしてエンジンを停止します。

重　要

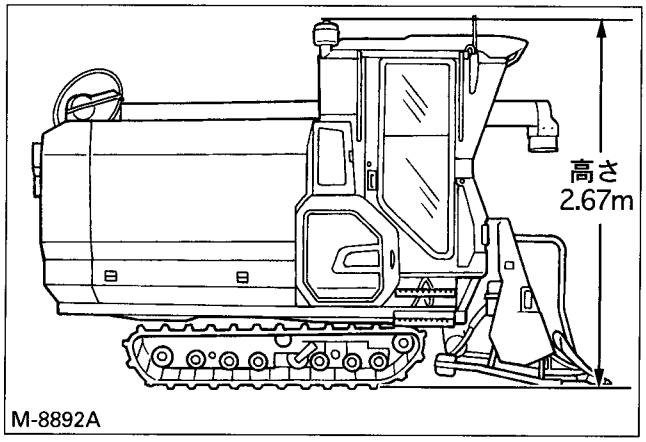
＊エンジン停止中でスイッチキーが**“入”**位置の状態のまま長時間放置すると**バッテリ上り**となります。

＊スイッチキーを**“切”**位置にしてもエンジンが停止しないときは**非常エンジン停止レバー**を引いてください。そのあと，購入先へ連絡してください。

移動走行について

注 意

＊グレンタンク内に残っているもみは全て排出してください。
＊安全のためヘルメットを着用してください。
＊運転者以外の人は乗せないでください。
＊10cm以上の段差(あぜやコンクリート畦畔など)のあるところではあゆみ板を使ってください。
＊水平操作レバーで機体をいっぱい下げた状態にしてください。【Q仕様】は高さ制限のあるところを走行するときは注意してください。



M-8892A

＊あぜごえや傾斜地(坂道やあゆみ板を使うとき)での走行は，副変速レバーを“倒伏”位置にし，低速で走行してください。
走行途中に停止するときは，主変速レバーを操作して停止してください。
＊あぜごえや傾斜地(坂道やあゆみ板を使うとき)の走行途中でパワーステアリングレバー・副変速レバー・ブレーキペダル・水平操作レバー・かき込みペダル・旋回切換えレバー【HD・SD仕様】を操作すると，機械の移動方向が変化したり，急降下，落下する危険がありますので操作しないでください。
＊あゆみ板を使うときや坂道を走行するときは，速度を最低速にし，あぜや傾斜方向に対して上り方向は前進，下り方向は後進で直角に走行してください。斜めに走行すると転倒してケガをするおそれがあります。
＊下記のようなところを走行するときは，転倒しケガをするおそれがあるので注意してください。
- 両側が傾斜していたり，溝のある道路の路肩
- 道幅に余裕がなく高いところにある道路(土手)
- 路肩の弱い道路
- 路面の凹凸(溝や穴・窪地など)の落差の大きいところや路面が草などでおおわれて良く見えないところ

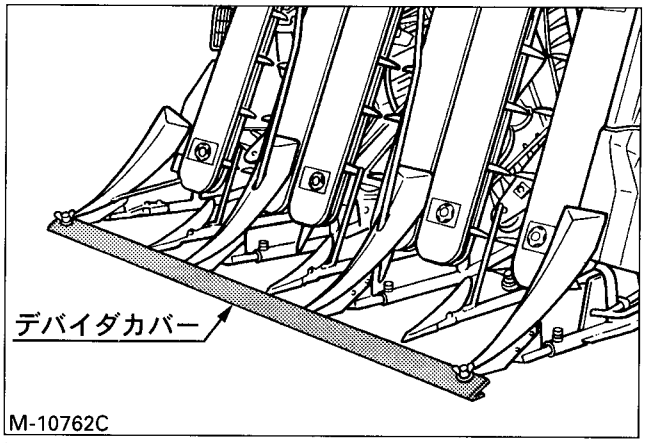
＊小型特殊自動車の標識(ナンバプレート)を取得していない場合や結束機を装着している場合は，“道路運送車両法”の違反となりますので公道を走行できません。必ずトラックなどに乗せて移動してください。

■走行前の準備

注 意

＊準備が終われば，カバー類などが確実に取付けられているか確認してください。

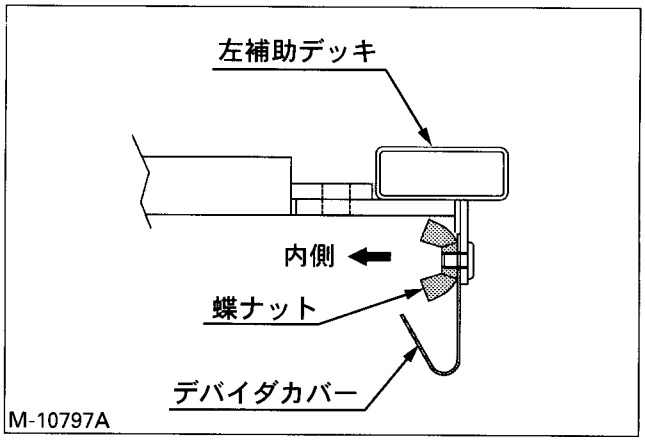
❶グレンタンク内に残っているもみは，すべて排出します。(75ページ参照)
❷デバイダカバーを取付けます。



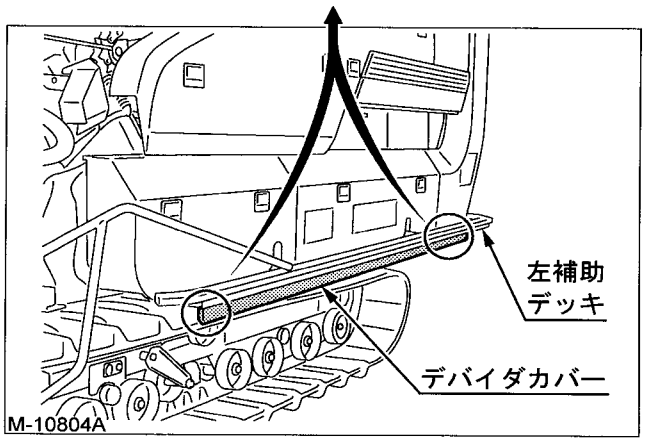
M-10762C

補 足

＊左補助デッキ内側に収納しているデバイダカバーを蝶ナットを外して取外し，デバイダに取付けてください。このとき，J形の金具は収納している工具箱から取出してください。

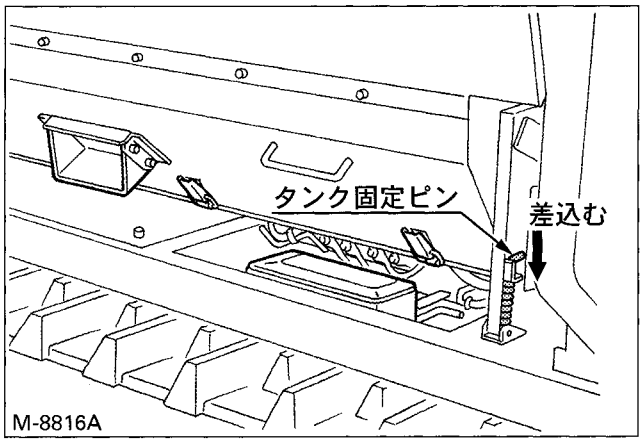


M-10797A

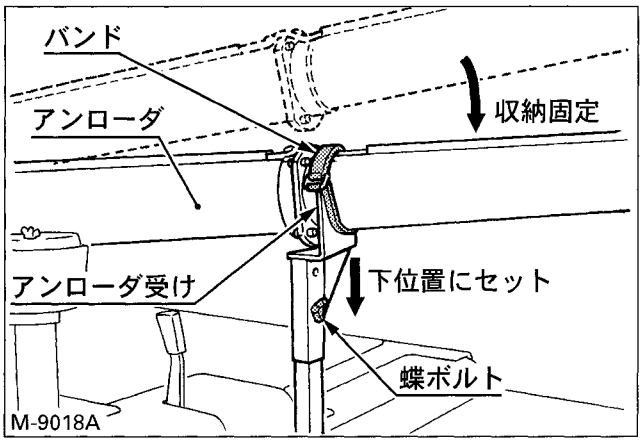


M-10804A

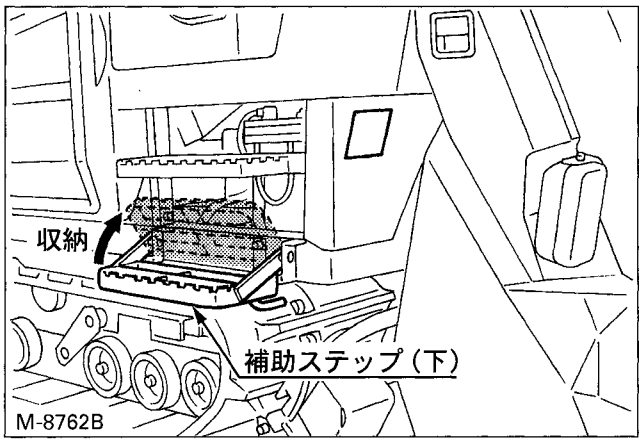
❸タンク固定ピンを差込んでグレンタンクを固定します。



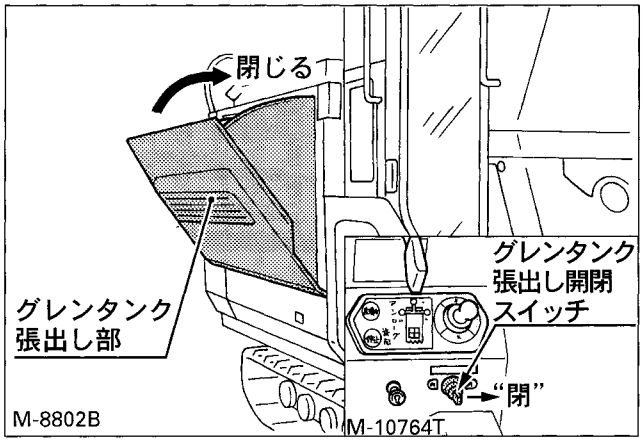
❹蝶ボルトを取外し，アンローダ受けを**下位置**(収納状態)にしたあと，アンローダを収納し，バンドで固定します。



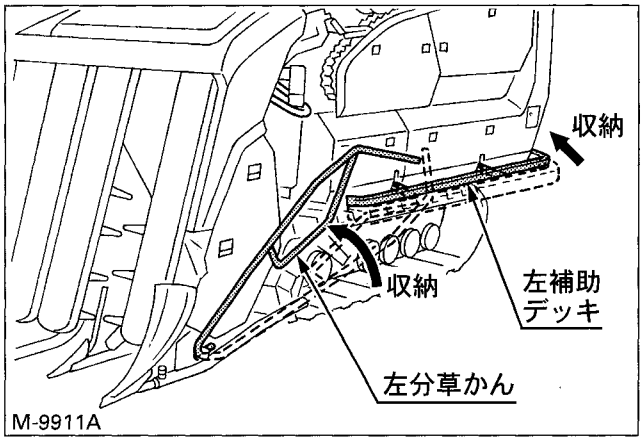
❺補助ステップ(下)を上側に倒して収納します。



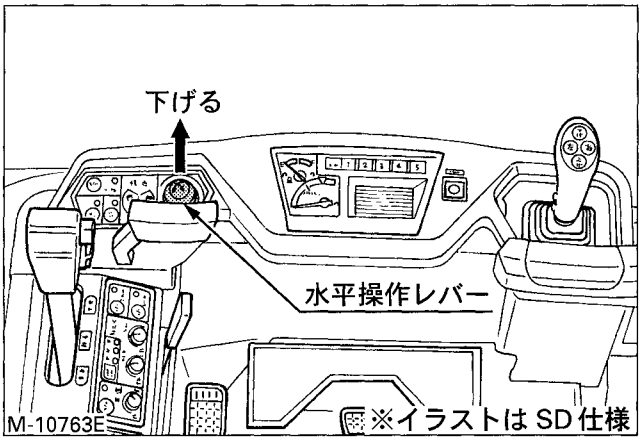
❻グレンタンク張出し開閉スイッチで張出し部を閉じます。**【80・90・98】**



❼左補助デッキ，分草かんを**収納**します。

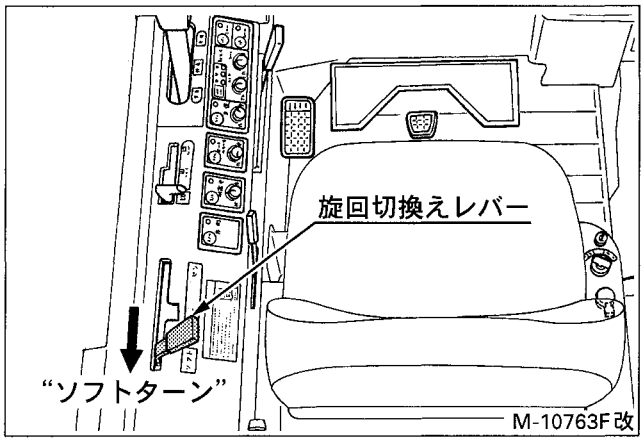


❽自動車体水平制御スイッチを**"切"**にし，水平操作レバーで機体をいっぱい下げた状態にします。



❾旋回切換えレバーを“ソフトターン”の位置にします。

【HD・SD仕様】



補　足

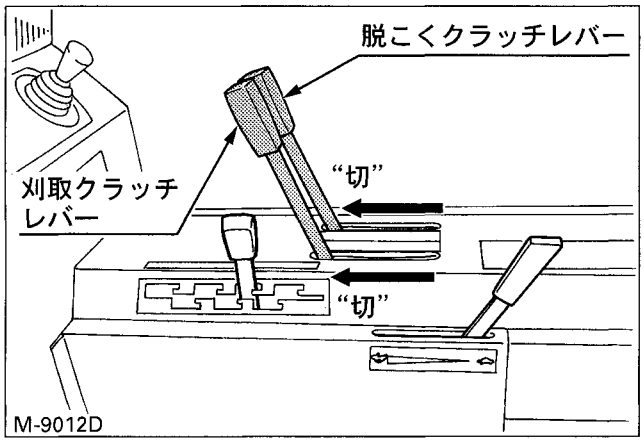
＊旋回切換えレバーが切換えにくいときは，刈取りかき込みペダルを踏込んでから切換えてください。

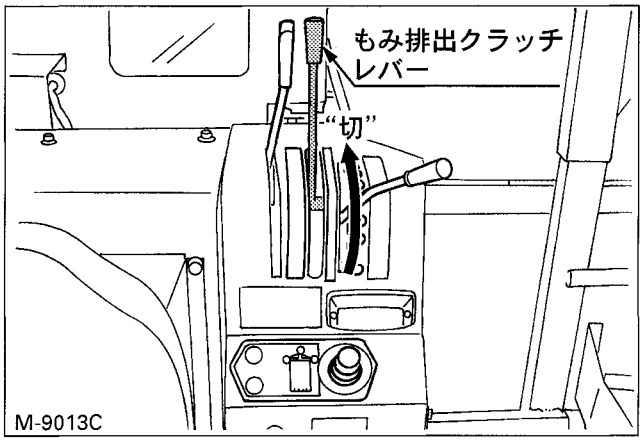
＊副変速レバーが“高速”のときは，“スピンターン”には入りません。また，“スピンターン”のときは，副変速レバーは“高速”には入りません。

＊“スピンターン”位置で作業を行なったとき，機体の振動が大きいときは，“ブレーキターン”又は，“ソフトターン”位置に切換えてください。

【DX仕様】

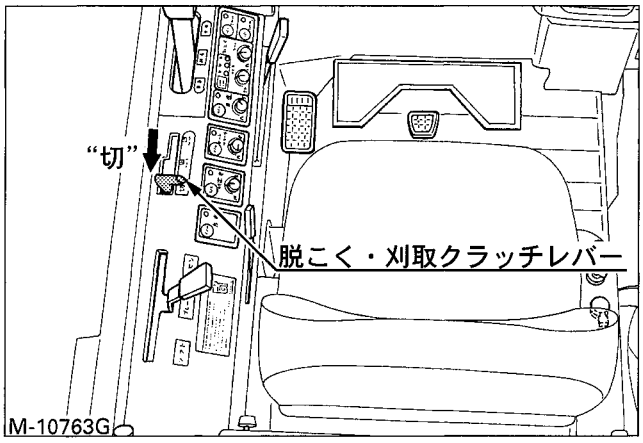
❿各作業クラッチ(刈取，脱こく，もみ排出各レバーを“切”位置にします。





【HD・SD仕様】

❿脱こく・刈取クラッチレバーを“切”位置にします。



■発進のしかた

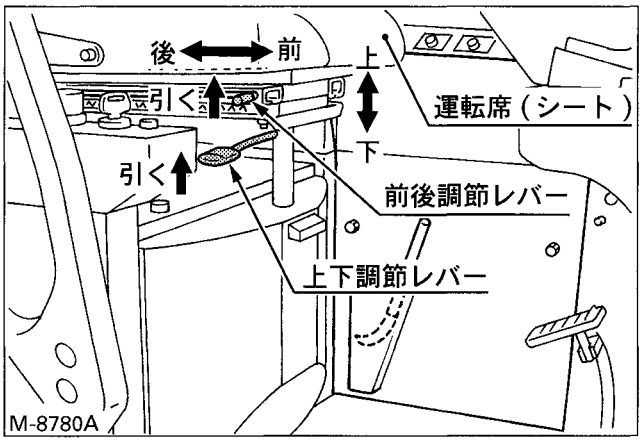
注　意

＊発進をするときは，周囲の安全を確かめてホーンなどで合図を行なってから発進してください。

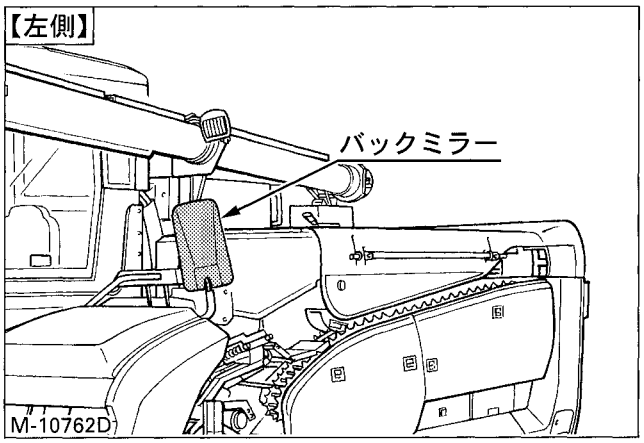
＊急発進は危険ですので，ゆっくりと発進してください。

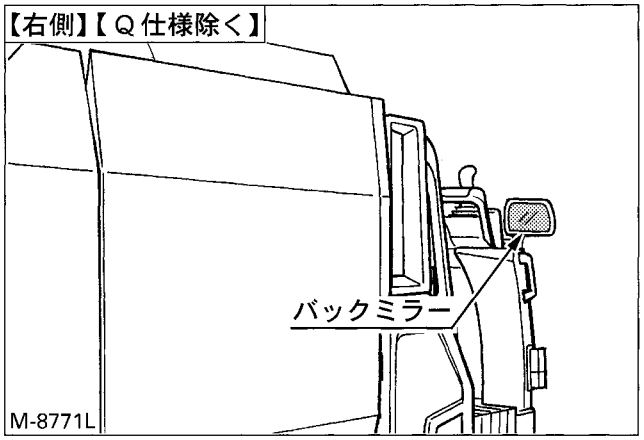
1. 運転席，バックミラーの調整を行ないます。

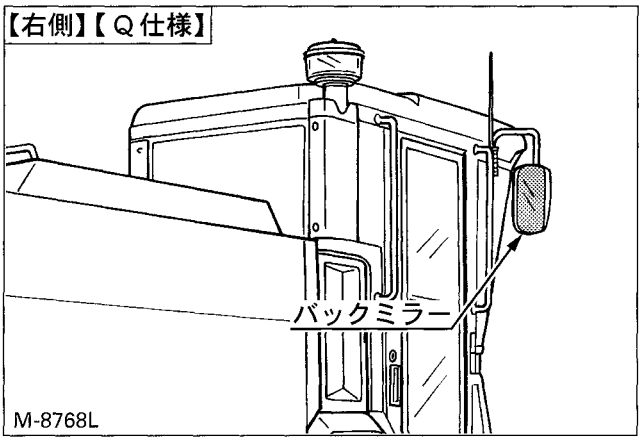
❶運転席の調整を行ないます。



❷後方の状況が分かるように左，右のバックミラーを調整します。

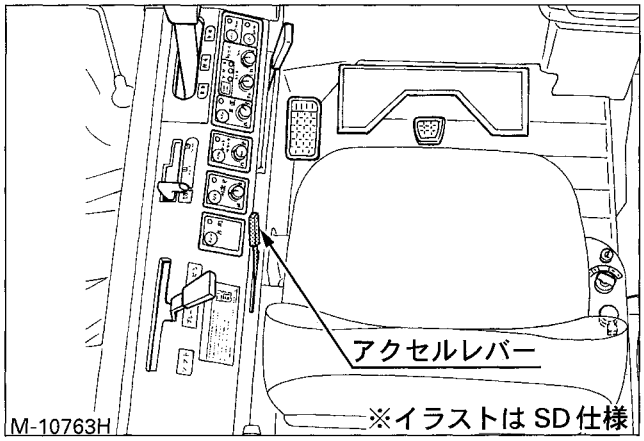






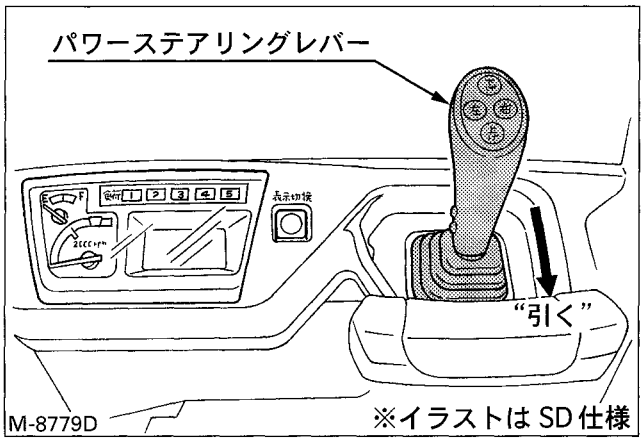
2. アクセルレバーを操作します。

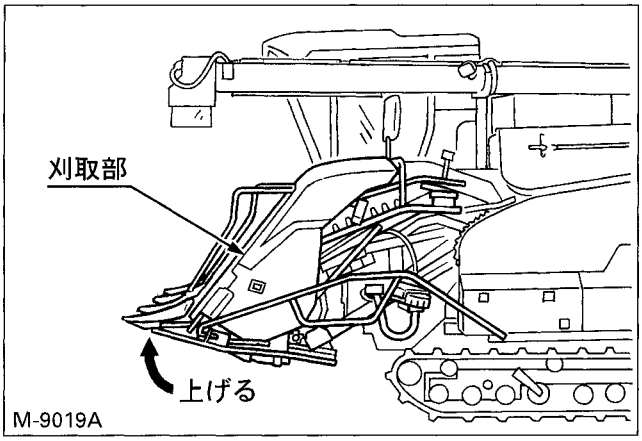
エンジンを始動したあと，アクセルレバーを操作してエンジン回転数を2000rpm以上に調整します。



3. 刈取部を上げます。

パワーステアリングレバーを引いて刈取部を**最上昇位置**まで上げます。





4. 走行速度を選んで発進します。

❶副変速レバーで速度を選びます。

❷ブレーキペダルを少し踏込んで駐車ブレーキロックレバーを引上げて駐車ブレーキを解除します。

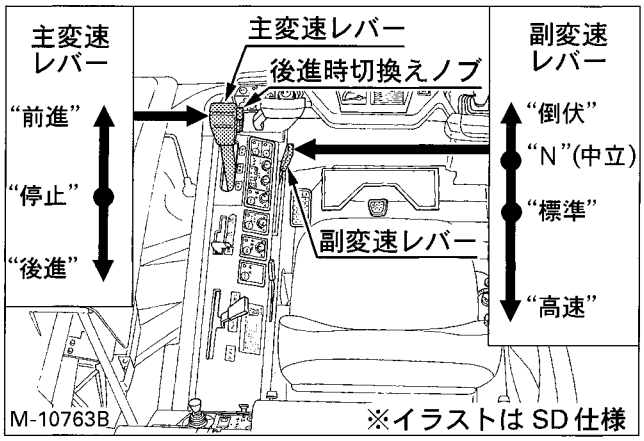
重　要

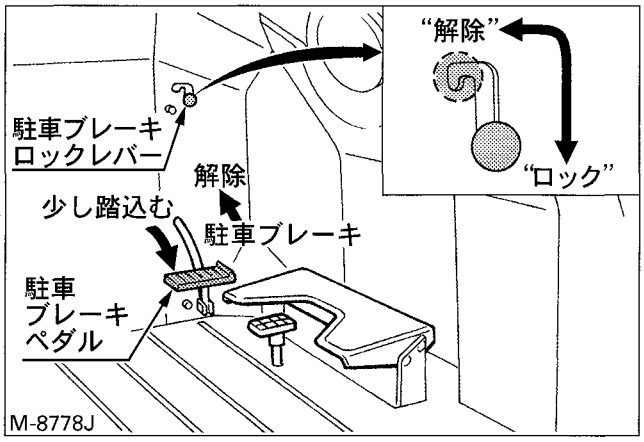
＊駐車ブレーキが掛かっているときは，主変速レバーを動かさないでください。無理に動かすと故障の原因となります。

補　足

＊副変速レバーが切換えにくいときは，刈取りかき込みペダルを踏込んでから切換えてください。

❸主変速レバーを**“停止”**位置より前に押すと**前進**し，後に引くと**後進**します。また，後進するときは，主変速レバーの後進時切換えノブを押しながら**“後進”**側に引きます。





重　要

＊副変速レバーの切換えは平たんな場所で主変速レバーを**“停止”**位置にし，ブレーキペダルをいっぱいまで踏込み走行をいったん止めてから行なってください。故障の原因となります。

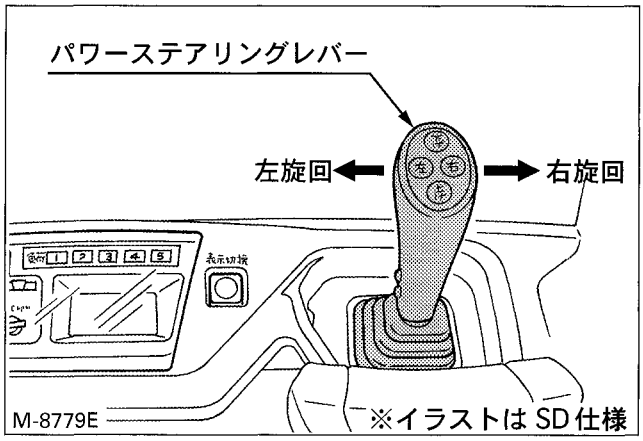
＊主変速レバーを**“前進”**側から**“停止”**側にするときは，後進時切換えノブを押さないでください。**“後進”**側に入り機体が後進するおそれがあります。

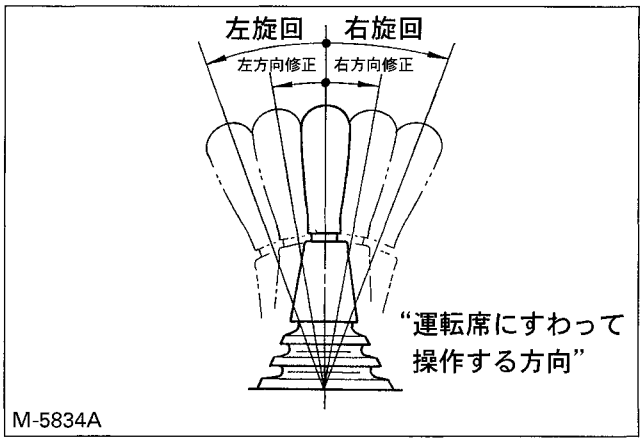
■旋回のしかた

注　意

＊高速走行時，パワーステアリングレバーを強く操作すると急旋回して危険ですので，旋回前に必ず減速してください。

旋回する方向にパワーステアリングレバーを倒します。倒す角度に応じて旋回半径が変わります。また，いっぱいまで倒すと急旋回します。





重　要

＊砂利道での急旋回は，クローラに石がかみこみ故障するおそれがありますので避けてください。

■停車・駐車のしかた

注　意

＊コンバインを離れるときは，平たんで安全な場所に置き，刈取部を降ろして駐車ブレーキを掛け，エンジンを止めてください。
＊かき込みペダルを踏込んで走行を停止しないでください。
＊やむをえず坂道で駐車するときは，木片などで車止めをし，暴走を防いでください。

❶主変速レバーを**“停止”**位置にします。
❷駐車ブレーキを掛けます。

重　要

＊駐車ブレーキが掛かっているときは，主変速レバーを動かさないでください。無理に動かすと故障の原因となります。

❸アクセルレバーを**“🐢”(低回転)**位置にします。
❹エンジンを停止してスイッチキーを抜きます。

■道路走行について

警　告

＊道路を走行するときは，大型特殊自動車の運転免許証を必ず携帯し，小型特殊自動車の法規を守り安全運転をしてください。

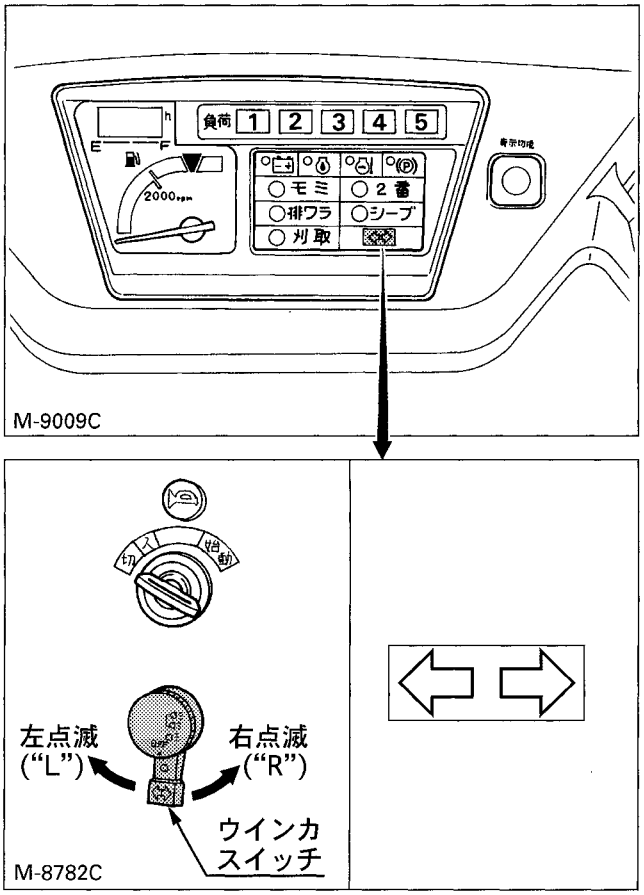
注　意

＊結束機【結束機付き仕様】を装着した状態で移動するときは，トラック輸送してください。
＊夜間など暗いときに移動走行するときは，ヘッドランプを必ず点灯し，作業灯は必ず消灯してください。
＊作業灯は“道路運送車両の保安基準”第42条(灯火の色などの制限)において，“走行中に使用しない灯火”とされ，点灯したまま道路走行すると他の交通車両の妨害となることから，道路走行中の点灯は禁止されています。

道路走行中，進路方向を変えるときは，ウインカ(方向指示器)で進路方向を他の自動車に知らせてください。

●ウインカスイッチ【DX仕様】

旋回方向に操作すると，ウインカランプが点滅し，メータユニット内のウインカ表示ランプが点滅します。

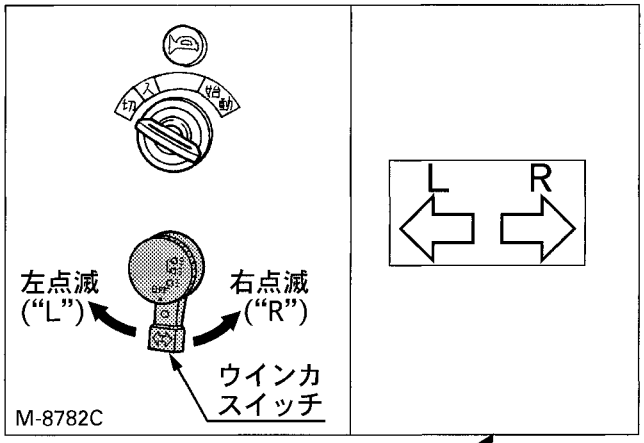


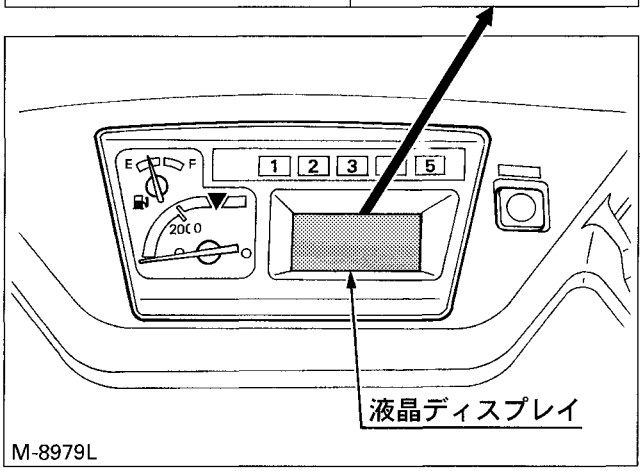
補　足

＊旋回が終わるとウインカスイッチは中央に戻してください。

●ウインカスイッチ【HD・SD仕様】

旋回方向に操作すると，ウインカランプが点滅し，エアロナビの液晶ディスプレイに**“L”(左方向)**又は，**“R”(右方向)**方向を示す矢印が点滅表示します。





補　足

＊旋回が終わるとウインカスイッチは中央に戻してください。

輸送について

■トラックとあゆみ板の準備

注　意

＊積込み・積降しは平たん地を選び，トラックの駐車ブレーキをしっかり掛けてください。

＊あゆみ板はフックが付いているもので，じゅうぶんな強度，幅(70cm以上)，長さ(高さの4倍以上)のある基準に合ったすべり止め付きのものを使用し，コンバインの重量であゆみ板が傾いたりしない場所を選んでください。

＊あゆみ板を荷台に掛けるときは，段差がなく平行で，左・右のあおりに機体が接触しない位置に合わせてください。

あゆみ板の基準

長　さ	トラックの荷台の高さの4倍以上
幅	70cm以上
数　量	2枚
強　度	1枚が3100kg以上の重量に耐えうる

■コンバインの準備

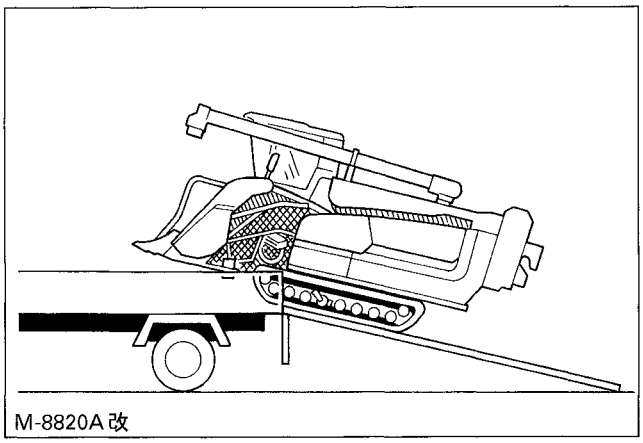
もみをすべて排出し，アンローダ受けを下(収納)位置にしてアンローダを収納後，グレンタンク張出し部を閉じ，脱こく・刈取クラッチレバー，もみ排出クラッチレバー【DX仕様】を**“切”**位置にし，自動車体水平制御(モンロー)を機体いっぱいまで下げ，左補助デッキや左分草かんをそれぞれ収納したあと，デバイダカバーを取付けます。(53ページ参照)

■コンバインの積込み・積降しのしかた

注 意

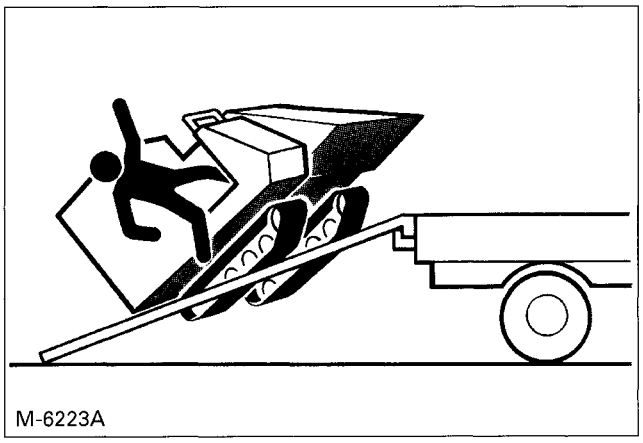
＊積込みは前進で，積降しは後進で行なってください。

＊平たん地を選び，できるだけ助手の立合い誘導のもとに行なってください。また，助手以外の人をコンバインの周辺に近づけないでください。特にコンバインの前に人を近づけないでください。



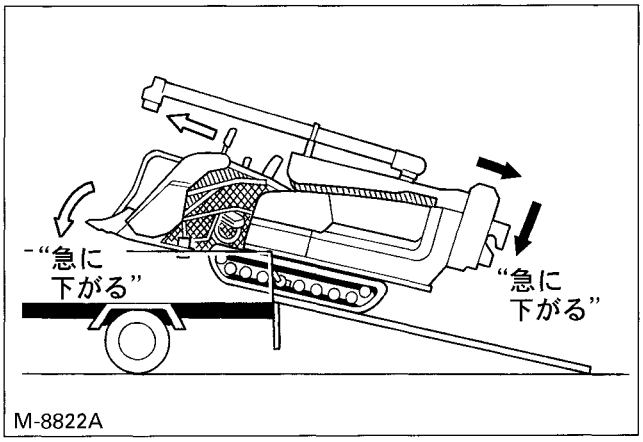
M-8820A改

＊あゆみ板の途中でパワーステアリングレバー・副変速レバー・ブレーキペダル・かき込みペダル・旋回切換えレバー【HD・SD仕様】を操作すると，機械が急降下し落下する危険がありますので，操作しないでください。方向を変えるときは，いったん地上又は荷台に戻って方向を修正し，再度上り下りし直してください。



M-6223A

＊機体が凸部を越えるときは，急にコンバインの姿勢が変わりますのでじゅうぶん注意してください。



M-8822A

◆操作のしかた

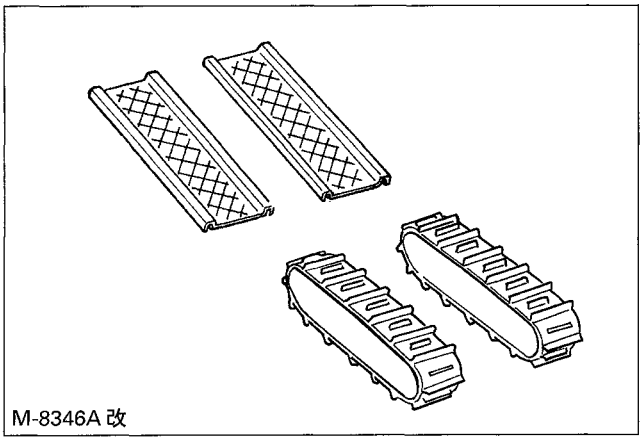
❶各作業クラッチレバーを**"切"**位置にします。

❷水平操作レバーで機体を**最下降位置**まで下げます。

❸パワーステアリングレバーで刈取部を上げます。

❹アクセルレバーを操作してエンジン回転数を2000rpm以上にし，副変速レバーを**"倒伏"**位置にしたあと，主変速レバーをゆっくり操作して，**低速**で走行します。

❺あゆみ板の前でいったん停止し，あゆみ板の中央に左右のクローラを合わせ，あゆみ板と平行になっているか確認してから積込み・積降しをしてください。



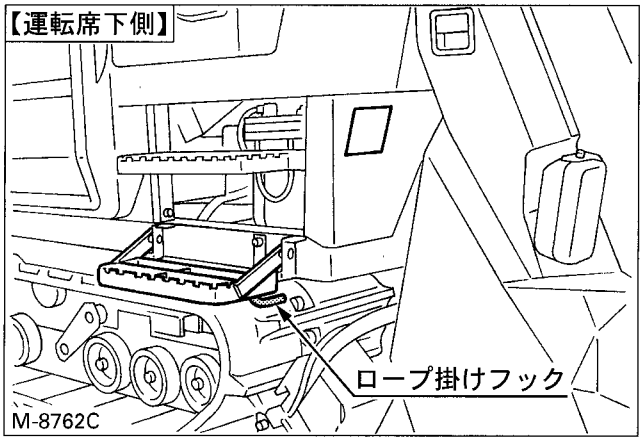
M-8346A改

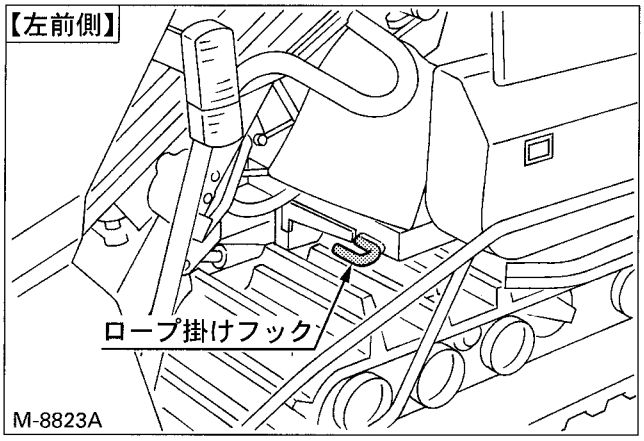
❻荷台に乗り終わると刈取部を接地させて駐車ブレーキを掛けます。

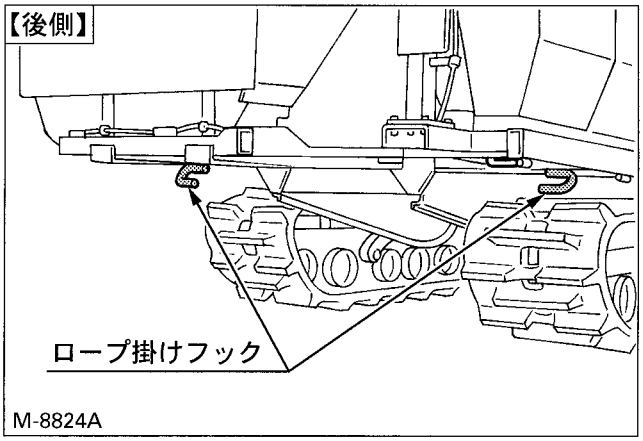
■トラック上での処置

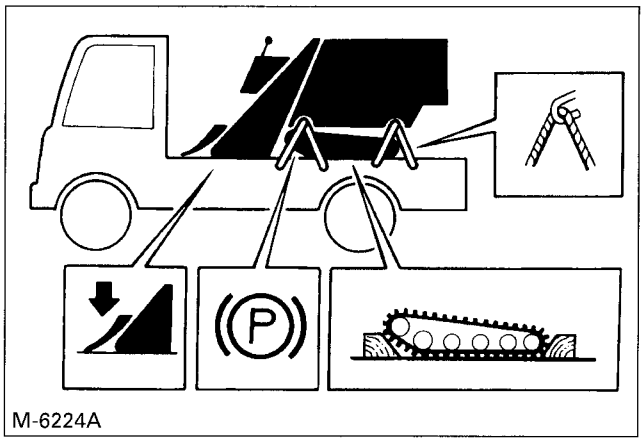
注　意

＊刈取部を床まで降し，駐車ブレーキを掛け，車止めをし，ロープでしっかりトラックに固定してください。





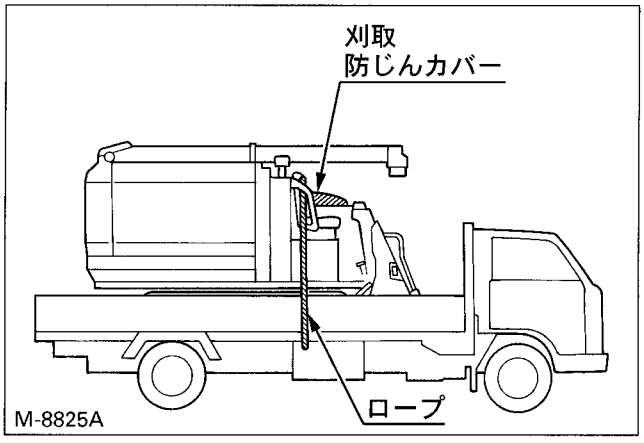




重　要

＊フック以外の所には，ロープを掛けないでください。

＊トラックで輸送する場合は，風圧で刈取防じんカバーが浮き破損・脱落し，ケガをさせるおそれがあるので，刈取部を下げて，刈取防じんカバーを閉じ，ロープなどで浮上がりを防いでください。



＊サイドシュートやリヤシュートをロープで押さえつけないでください。変形するおそれがあります。

収穫作業のしかた

作物とほ場の条件

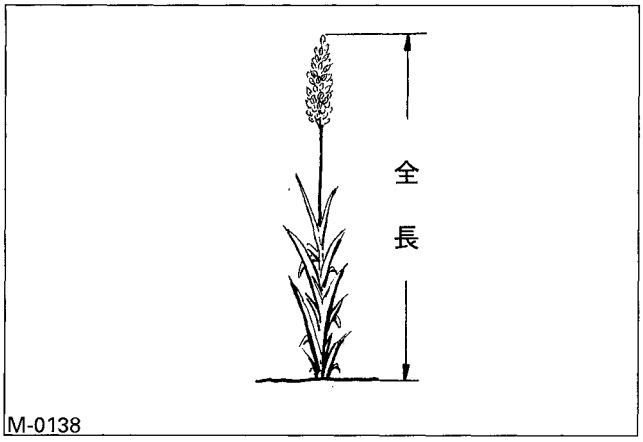
作物の状態やほ場の状態によっては，刈取作業ができない場合があります。作業を始める前によく確めて，収穫量が上がる能率のよい作業を行なってください。

■作物の条件

◆作物の長さ

刈取れる長さは，標準の刈高さで

……｛全長約55～130cm【標準仕様】
　　全長約50～120cm【H仕様(短かん用)】

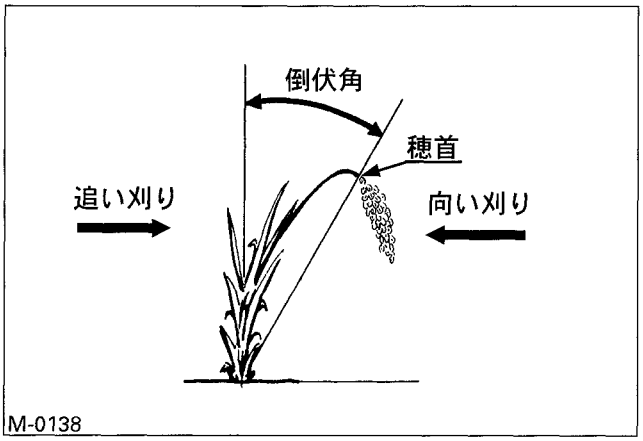


M-0138

◆作物の倒伏

作物の倒れかた(倒伏角)により，刈取り方向に注意してください。

刈取りかた（方向）	倒　伏　角
追い刈り	85度以下
向い刈り	70度以下



M-0138

◆作物のぬれ

作物は乾いて，手でしごいてぬれていない状態が適期です。

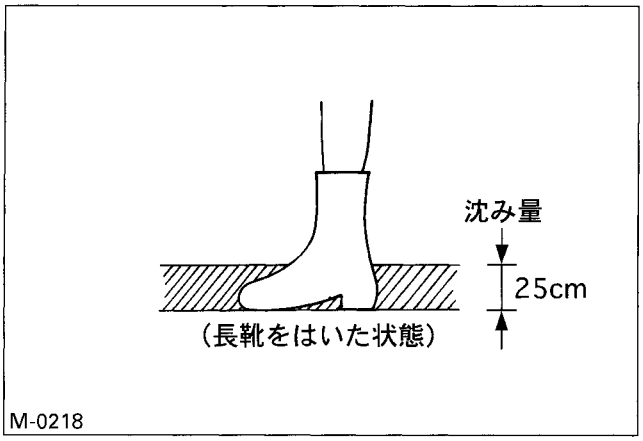
重　要

＊湿田の倒伏作物やぬれ作物の刈取作業を行なうとき，受けあみが目詰まりを起こすことがあります。この場合，排じんロス(もみの飛散)が多くなります。このような場合には作業をいったん中止し，受けあみの目詰まりを取除いてください。掃除を行なうときは，必要に応じて受けあみを取外してください。(107ページ参照)

■ほ場の条件

◆ほ場のぬかるみ

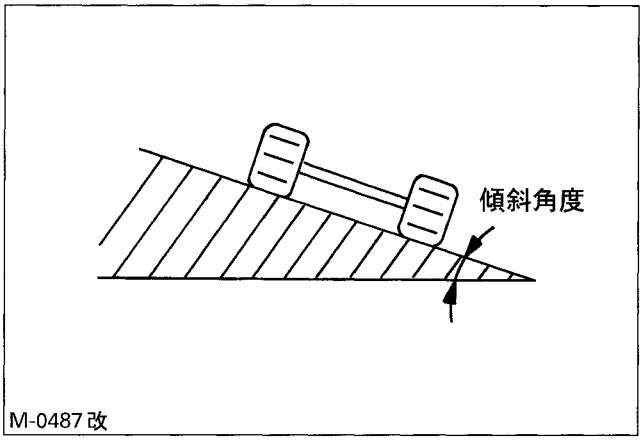
足の沈み量を測って目安にしてください。



M-0218

◆ほ場の斜き

傾斜角度５度以上では，作業できません。

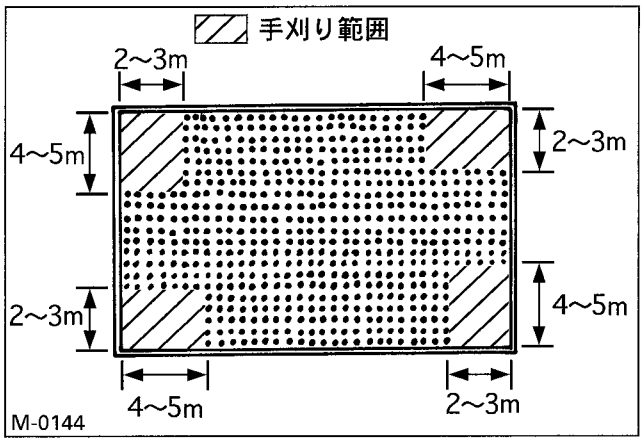


M-0487改

ほ場の準備

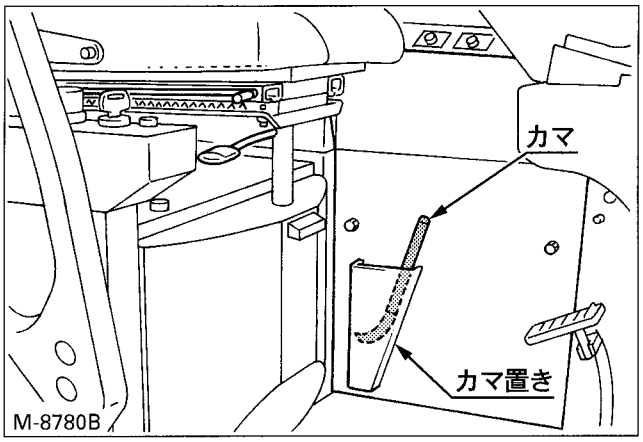
■ほ場の準備

コンバインをほ場に入れる前に，あぜぎわの四隅で旋回が楽に行なえるように，旋回ができる範囲(面積)の手刈り(枕刈り)をします。



補　足

＊カマの収納場所は下図の位置にあります。



コンバインの準備

警　告

＊平たんな場所に置き，エンジンは必ず止めてください。

＊取外したカバー類は必ず取付けてください。

■準備のしかた

1. 各部への注油

作業前に刈刃や各チェーンに注油を行なってください。

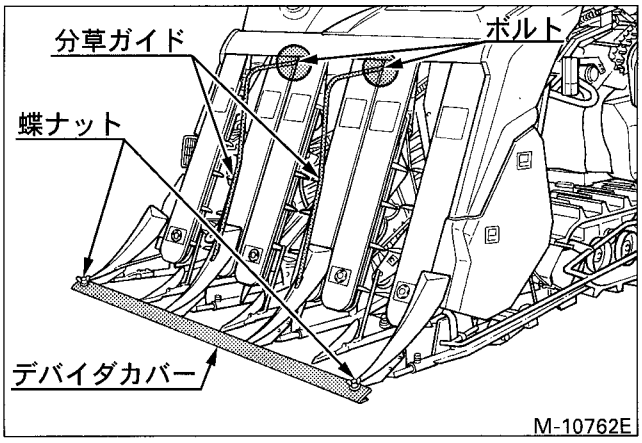
(117ページ参照)

2. 分草ガイドの取付け

長かんで倒伏した作物を刈取るときは，付属部品の分草ガイドをボルト(M8×14)で取付けてください。

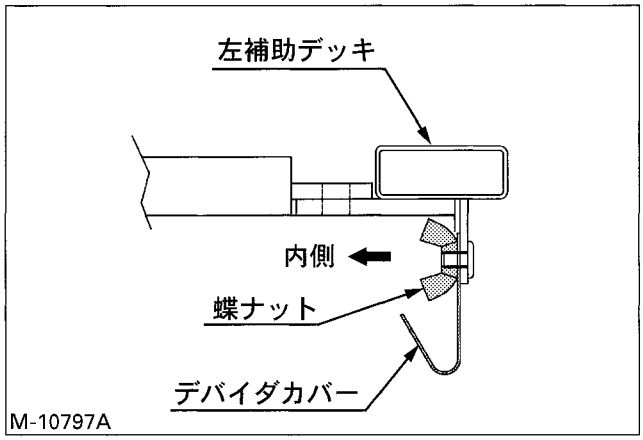
3. デバイダカバーの取外し

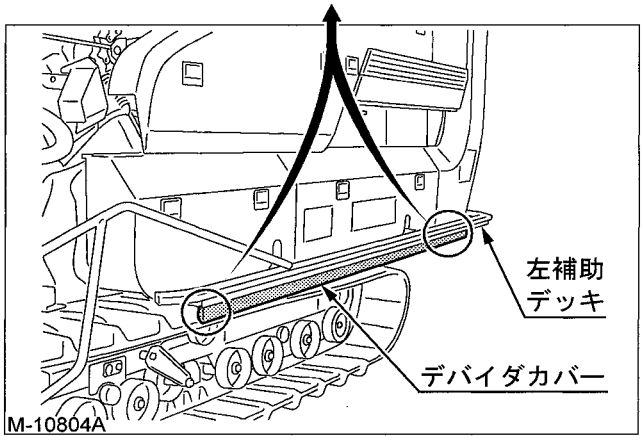
蝶ナット２箇所をゆるめてデバイダカバーを取外します。



補　足

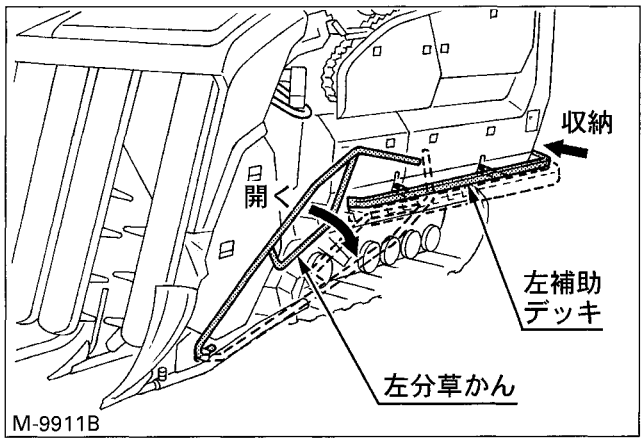
＊デバイダカバーを取外したあと，左補助デッキ内側にデバイダカバーを収納してください。収納するときは，左補助デッキ内側にある２箇所のボルトにデバイダカバーの取付穴を通し，取外した蝶ナットを締付けて取付けます。また，取外したJ形の金具は工具箱に保管してください。





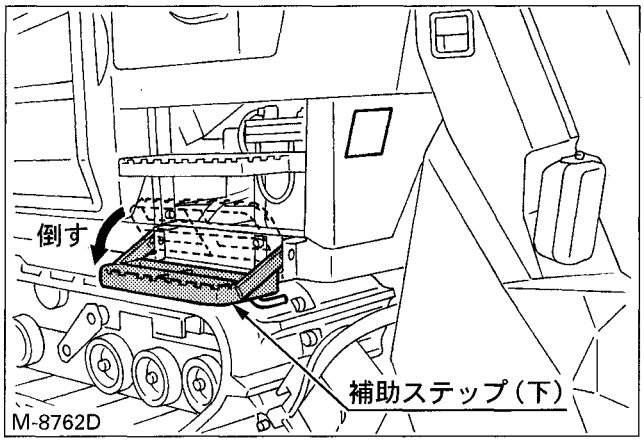
4. 左分草かんのセット

左補助デッキを収納し，左分草かんを開きます。



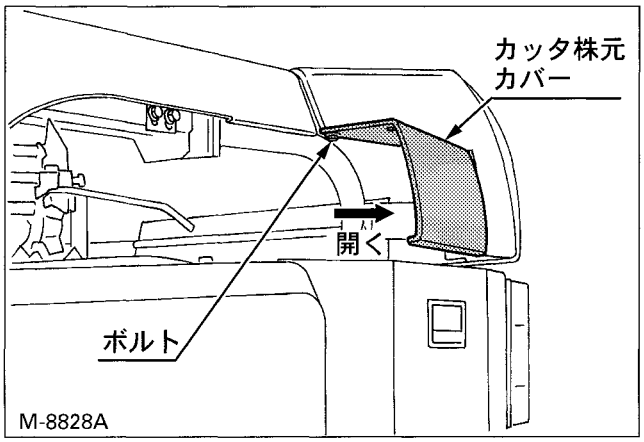
5.補助ステップ(下)のセット

補助ステップ(下)を下側へ倒します。



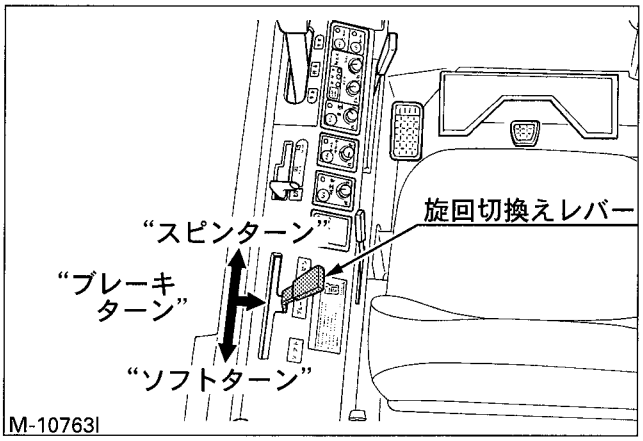
6.カッタ株元カバーの準備

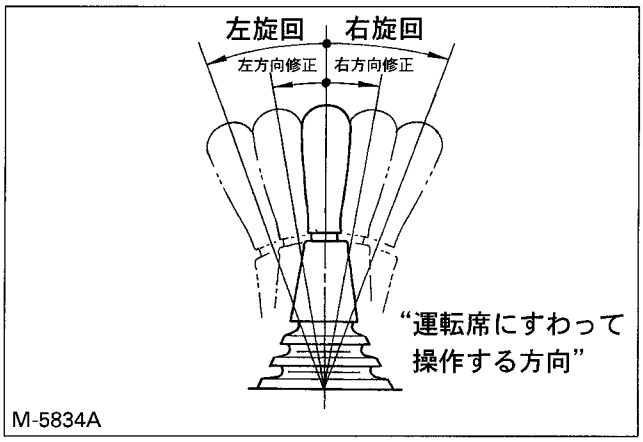
ボルトを取外し，カッタ株元カバーを開いたあと，ボルトを締付けます。



7. 旋回切換えレバーの選択【HD・SD仕様】

旋回切換えレバーで作業条件に応じて，**“ブレーキターン”／“スピンターン”／“ソフトターン”**の位置に切換えてください。





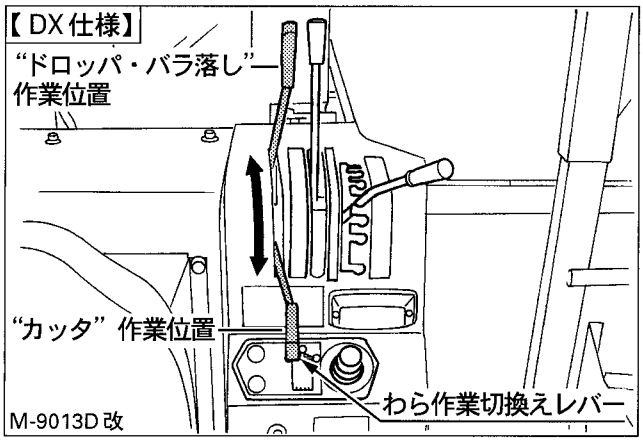
補　足

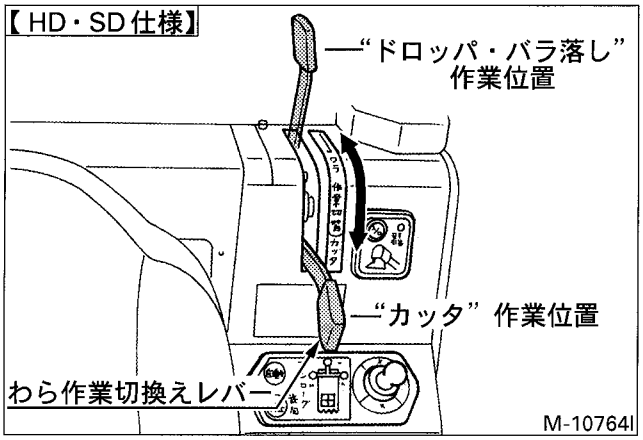
＊副変速レバーが**“高速”**のときは，**“スピンターン”**には入りません。また，**“スピンターン”**のときは，副変速レバーは**“高速”**には入りません。

＊**“スピンターン”**位置で作業を行なったとき，機体の振動が大きいときは，**“ブレーキターン”**又は，**“ソフトターン”**位置に切換えてください。

8. 排わら処理の選択

運転席(シート)左後部にあるわら作業切換えレバーを操作して，**カッタ作業⟷ドロッパ・バラ落し作業**の選択をします。





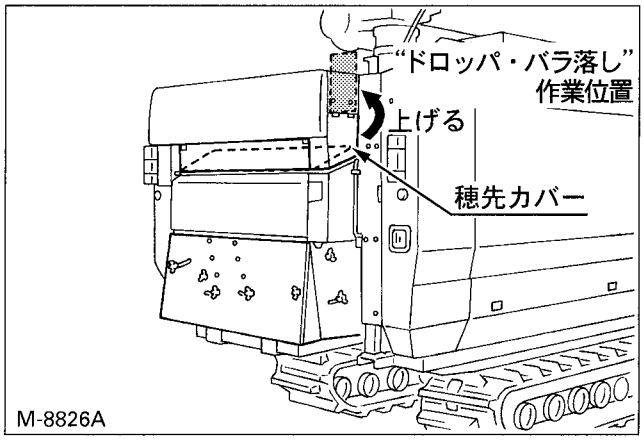
重　要

＊作業中に切換えレバーを切換えるときは，搬送されている作物が完全に流れ終わってから脱こく機が作動状態で行なってください。故障の原因となります。

補　足

＊ドロッパ・バラ落し作業のときは，穂先カバーを上げてください。

＊作業中に切換えレバーを切換えるときは，搬送されている作物が完全に流れ終わってから脱こく機が作動状態で行なってください。

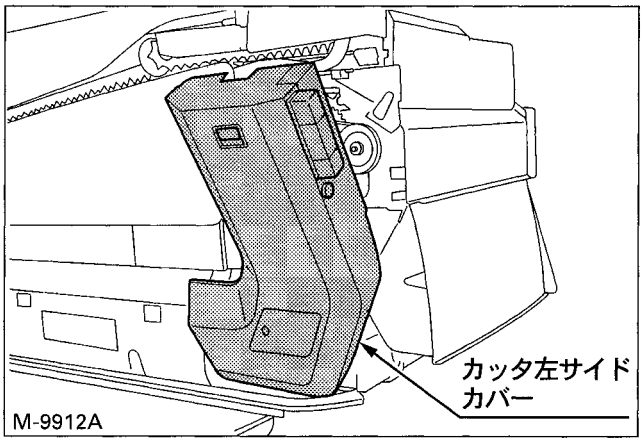


9. 排わら切断長さの選択

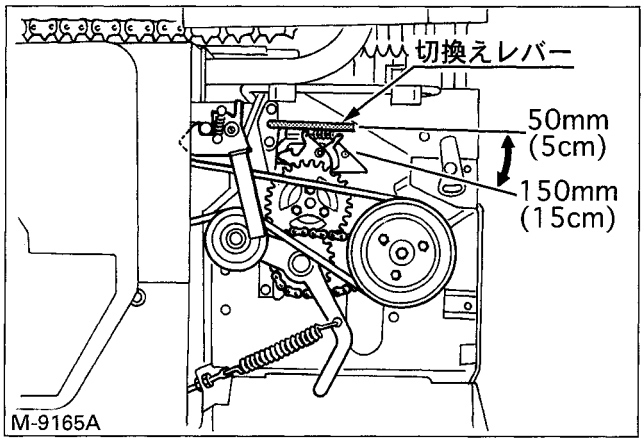
わらの切断長さの切換えを行なってください。

❶カッタ左サイドカバーを外します。

(109ページ参照)



❷サイドカバー内部の切換えレバーで**短切り(50mm)⇔長切り(150mm)**に切換えます。



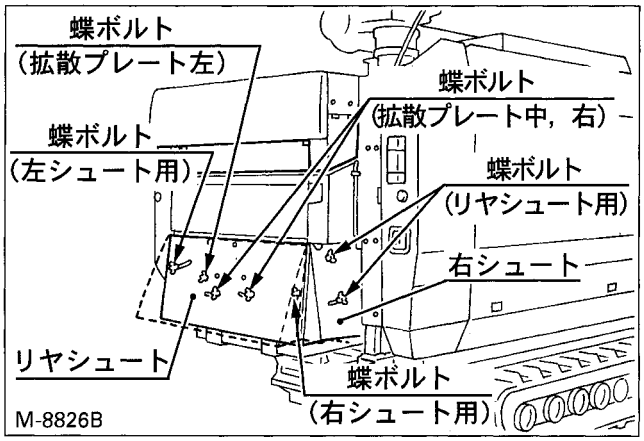
補　足

＊シュータ式拡散装置は，切断長さに応じてリヤシュートを前，後方向に調節してください。

10. リヤシュート・サイドシュートの準備

◆セットのしかた

排わらの切断長さや拡散又は，寄せ作業に応じてリヤシュート及びサイド（右，左）シュートの調整を行なってください。また，調整が終わったあとは，蝶ボルトを確実に締付けてください。



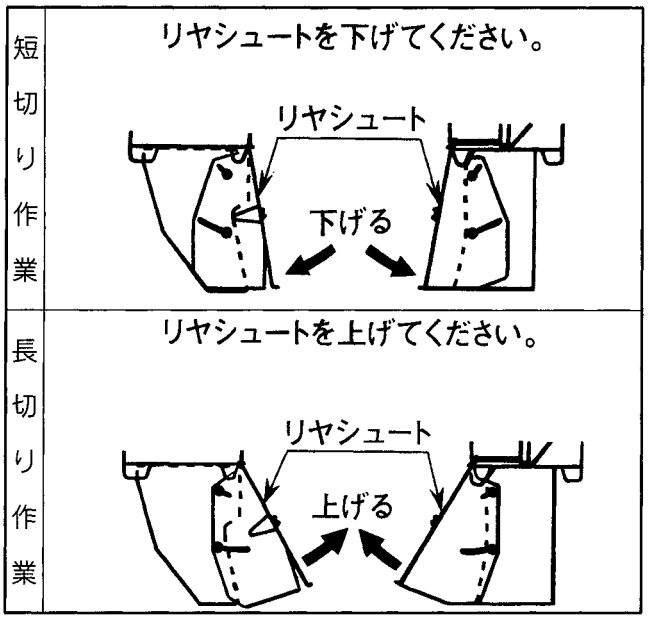
◆調整のしかた

● 切断長さ

左，右のシュートの蝶ボルト各２本をゆるめてリヤシュートを前後に調整してください。

短切り(50mm切断) …… リヤシュートを下げる

長切り(150mm切断) …… リヤシュートを上げる

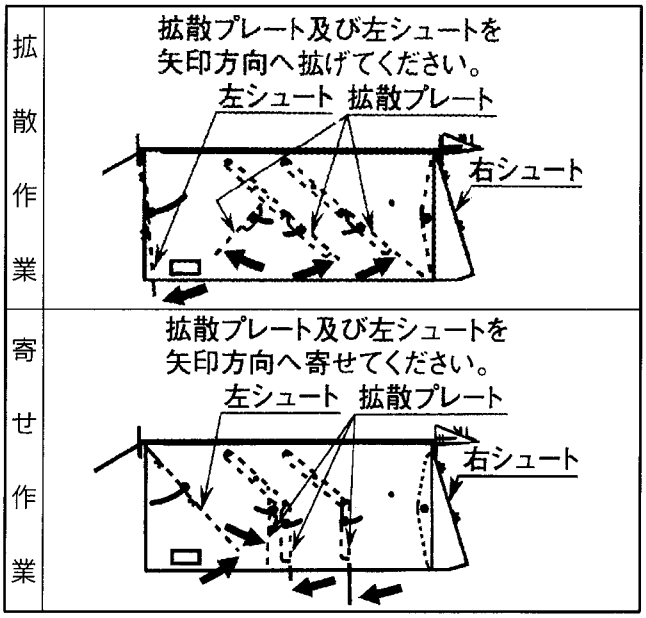


● 拡散作業⟷寄せ作業

リヤシュート側にある蝶ボルト５本をゆるめて，左，右のシュートと拡散プレートを調整してください。

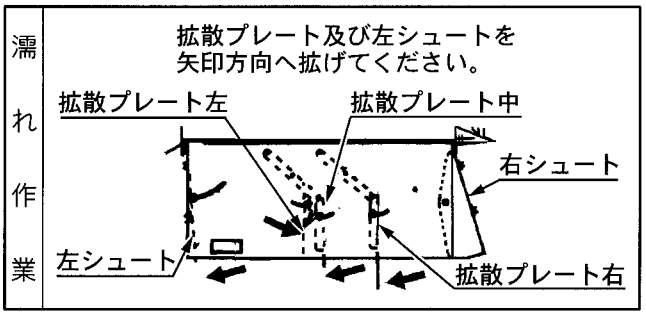
拡散作業…… 左，右のシュートを外側に広げたあと，拡散プレート左を左側，拡散プレート中，右を右側にします。

寄せ作業…… 左のシュートを内側に寄せたあと，拡散プレート左を右側，拡散プレート中，右を左側にします。



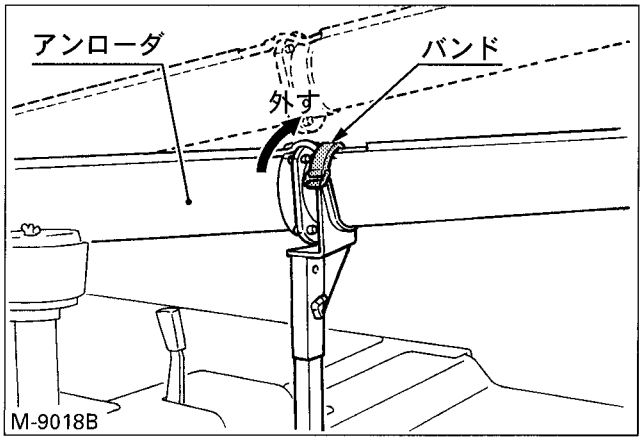
重 要

＊高水分作物や濡れ作物の拡散作業を行なうとき，右シュート付近で詰まりが発生する場合は，拡散プレート左を右側，拡散プレート中と右を左側にし，左シュートを左側にしてください。シュートやプレートが破損するおそれがあります。



11.アンローダの準備

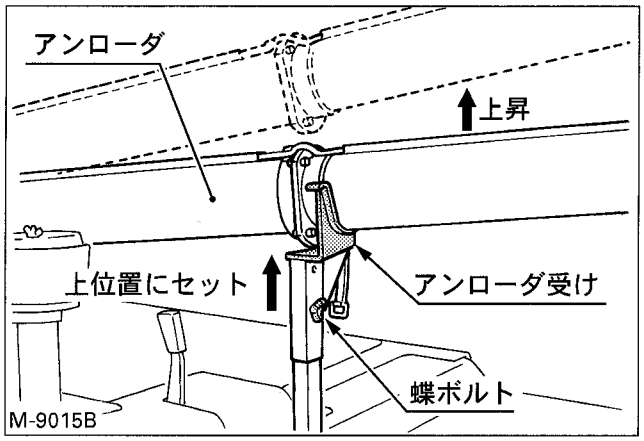
❶アンローダを固定しているバンドを取外します。

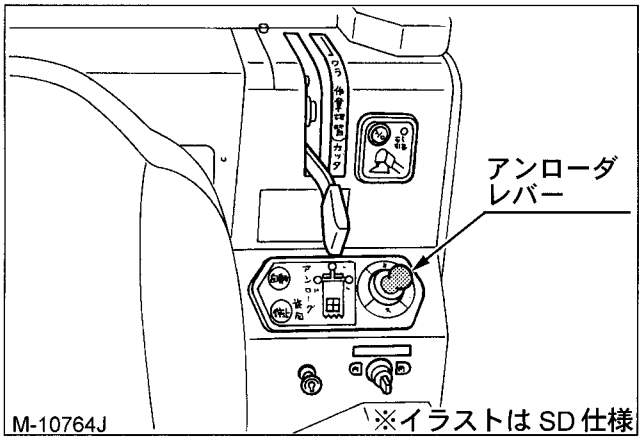


❷アンローダレバーでアンローダを上昇させます。

❸蝶ボルトを取外し，アンローダ受けを**上位置**(作業状態)にします。

❹アンローダレバーでアンローダを収納します。





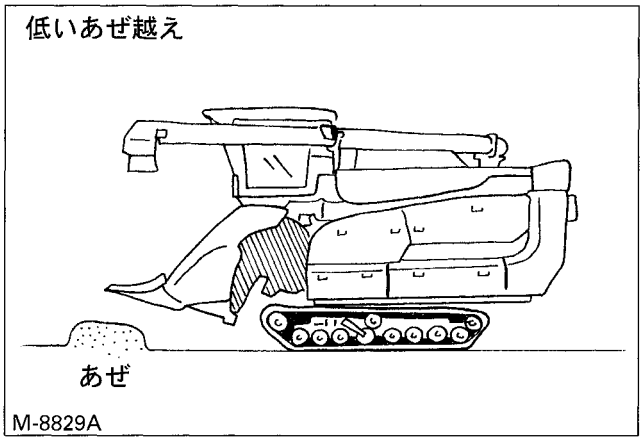
刈取作業のしかた

■ほ場の出入りのしかた

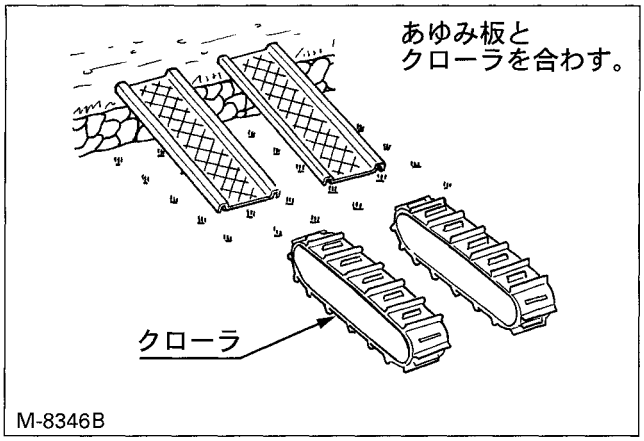
注 意

＊10cm以上の段差(あぜやコンクリート畦畔など)のあるところではあゆみ板を使ってください。
＊あゆみ板を使うときや前後左右とも10度をこえる傾斜地を走行するときは，速度を最低速にしてください。
＊あゆみ板を使うときは，速度を最低速にし，あぜに対して上り方向は前進，下り方向は後進で直角に走行してください。斜めに走行すると転倒してケガをするおそれがあります。
＊あぜ越えやあゆみ板を走行するときは，自動車体水平制御(モンロー)は，機体をいっぱい下げた状態にしてください。
＊後進する場合は後方の安全確認，また後方に川(用水路)やがけのある場合は転落しないよう後方にはじゅうぶん注意してください。
＊機体が，凸部を越えるときは，重心の位置が変わって機体が上向きから下向きに姿勢が変わるのでじゅうぶん注意してください。

❶副変速レバーを"倒伏"位置にし，アクセルレバーを操作してエンジン回転を2000rpm以上にし，主変速レバーをゆっくり操作して，低速であぜ越えしてください。

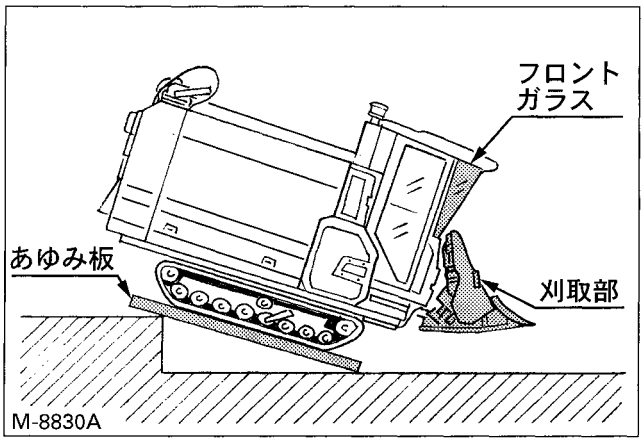


❷10cm以上の高いあぜの場合はあゆみ板を使用してください。



重 要

＊【Q仕様】は，あゆみ板を使用しないと刈取部が突上げられて，キャビンのフロントガラスが割れるおそれがあります。



■刈取作業の手順

警 告

＊コンバインを停止するときは，わらくずの上に止めないでください。マフラ排気口にわらくずが触れると，火災のおそれがあります。

注 意

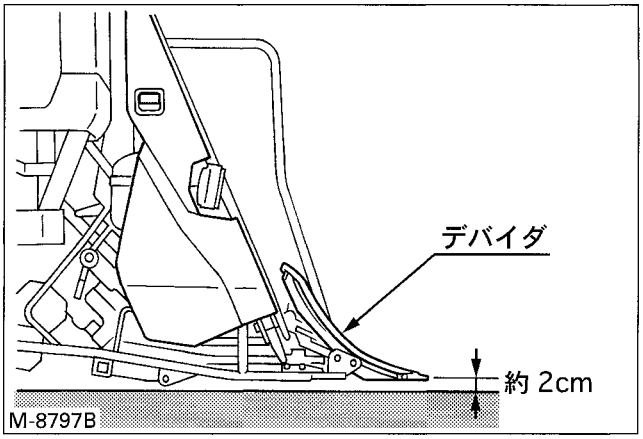
＊異常が発生したときは，エンジンを必ず止めてください。
＊小さなほ場や，ほ場のすみでは作業がしにくいので，安全のため低速で注意しながら作業を行なってください。
＊夜間など暗い場所で作業するときは，ヘッドランプや作業灯を必ず点灯してください。

重 要

＊作業中エンジン回りの防じんカバーにゴミの付着が多くなれば，そのつど掃除してください。
防じんあみ全面にゴミが付着したまま作業を続けますと，エンジンオーバヒートの原因になりますので注意してください。
＊副変速レバーを**"高速"**位置にして刈取作業はしないでください。トラブルの原因になります。

【DX仕様】

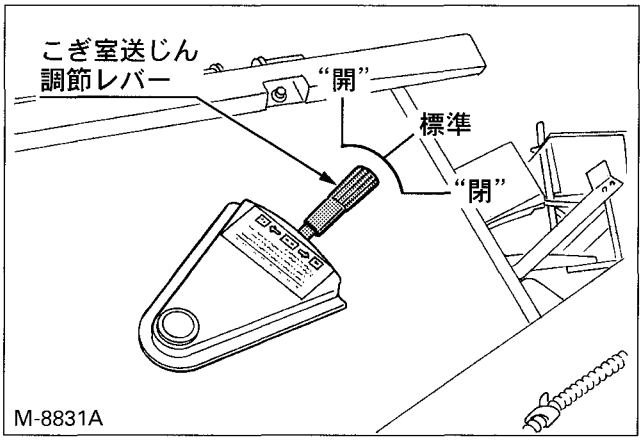
❶パワーステアリングレバーを操作し，通常はデバイダの先端を，地面すれすれ(約2cm程度)のところまで刈取部を下げます。



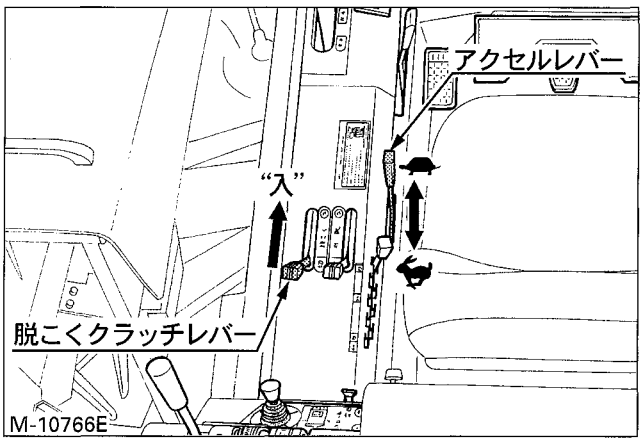
補 足

＊長かん作物，麦，雑草の多い作物は，高刈りしてください。

❷こぎ室送じん調節レバーを**"標準"**位置にします。
(84ページ参照)



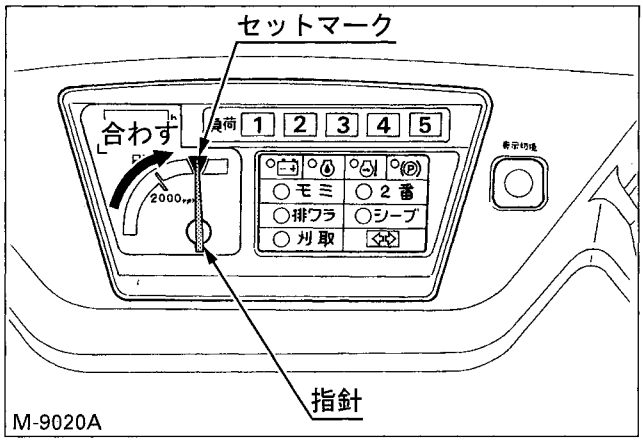
❸アクセルレバーを操作して，エンジン回転数を約2000rpmにします。
❹脱こくクラッチレバーをゆっくりと**"入"**位置にします。



重 要

＊エンジン回転数が2000rpm以上のとき，脱こくクラッチレバーを入れると駆動ベルトが破損するおそれがあります。

❺アクセルレバーを操作して，エンジン回転数を回転計の**セットマーク**の中央の位置に指針を合わせます。

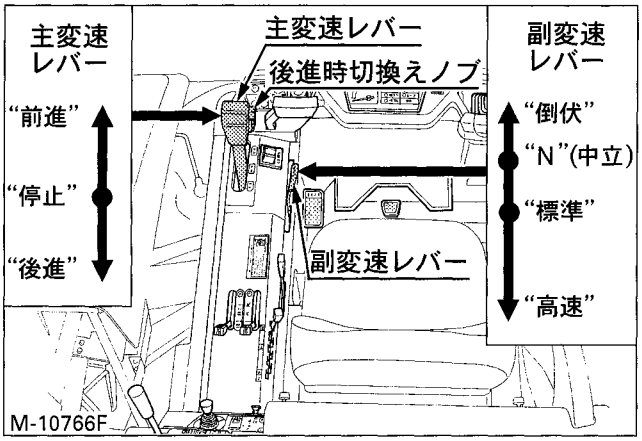


補　足

＊エンジン回転数は脱こくクラッチレバーを**“入”**位置にし，走行を停止した状態で合わせてください。

＊エンジン回転数が低すぎると，ブザーが鳴ります。

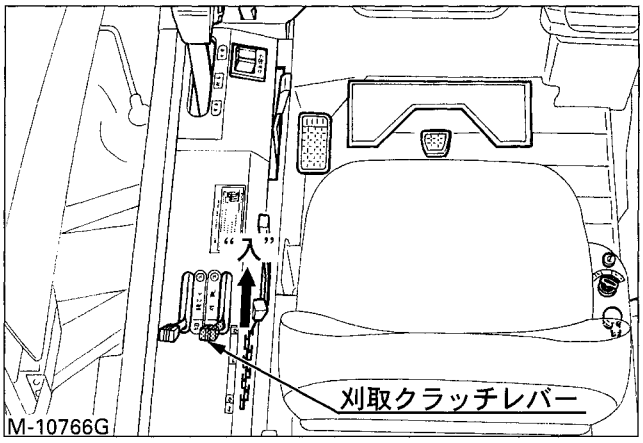
❻副変速レバーを作物の条件に合わせて，**“標準”**又は，**“倒伏”**の位置にします。(74ページ参照)



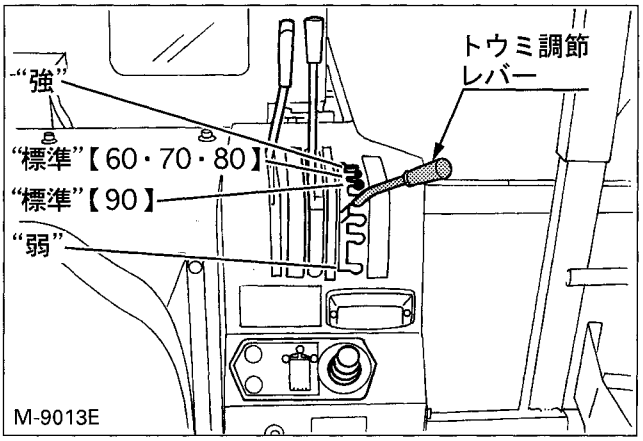
重　要

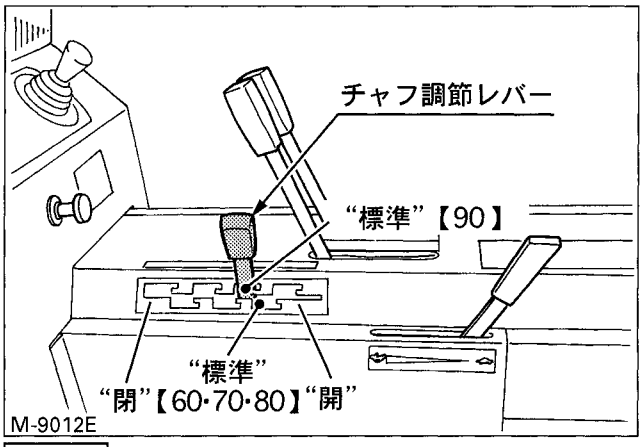
＊副変速レバーの切換えは平たんな場所で主変速レバーを**“停止”**位置にし，ブレーキペダルをいっぱいまで踏込み走行をいったん止めてから行なってください。故障の原因となります。

❼刈取クラッチレバーを**“入”**位置にします。



❽トウミ調節レバー及びチャフ調節レバーを**“標準”**位置にします。





補　足

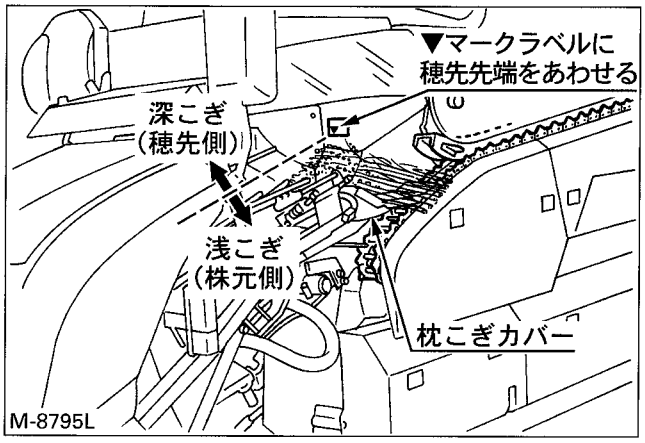
＊トウミの調節は，脱こく機を必ず回転させてから行なってください。

＊チャフの調節は，脱こく機内にこく粒が残っていないときに行なってください。

❾作物の長さを確認したあと，刈始めのこぎ深さの調節をします。調節するときは，主変速レバーにある手動こぎ深さスイッチで合わせます。そのあと，自動こぎ深さ切換えスイッチを**“入”**(ランプ点灯)にします。(28ページ参照)

❿作物の条件に合わせた速度に主変速レバーを合わせて刈始めます。(74ページ参照)

⓫作物の穂先先端を脱こく入口の**“▼マーク”**(こぎ深さ標準位置)に合うようにこぎ深さを調節します。
(28，29ページ参照)



補　足

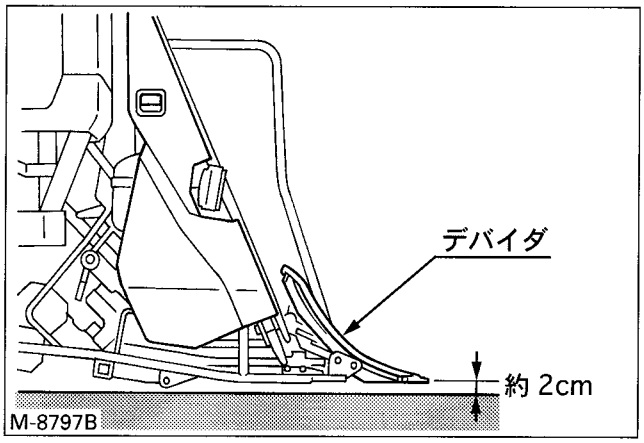
＊**浅こぎ状態**では，こぎ残しが出て収穫量が下がったり，**深こぎ状態**では，負荷が大きくなり作業能率が上がりません。

⓬刈取作業を少し行なったあと，選別状態やこぎ残しの有無を確認し，異常があれば各部の調節(84ページ参照)を行なってください。

⓭刈取作業が終わると，刈取クラッチレバーを**“入”**位置にし，脱こくが終わりもみが全て，グレンタンク内に入ったことを確認して，脱こくクラッチレバーを**“切”**位置にします。

【HD・SD仕様】

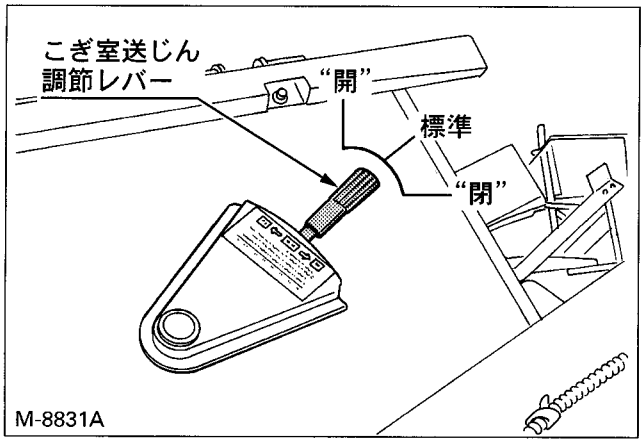
❶パワーステアリングレバー又は，ポジピタスイッチを操作し，通常はデバイダの先端を，地面すれすれ(約2cm程度)のところまで刈取部を下げます。



補　足

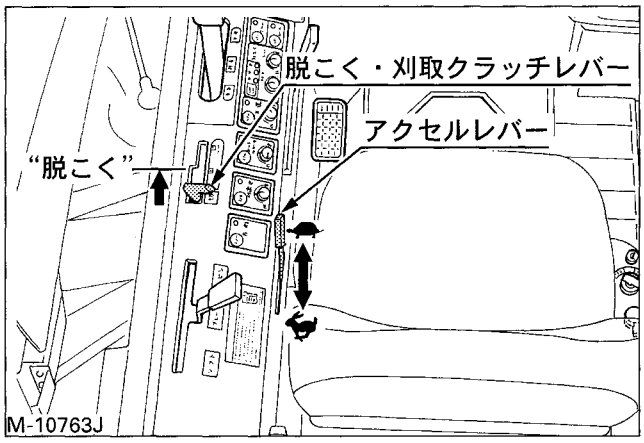
＊長かん作物，麦，雑草の多い作物は，高刈りしてください。

❷こぎ室送じん調節レバーを**“標準”**位置にします。
(84ページ参照)



❸アクセルレバーを操作して，エンジン回転数を約2000rpmにします。

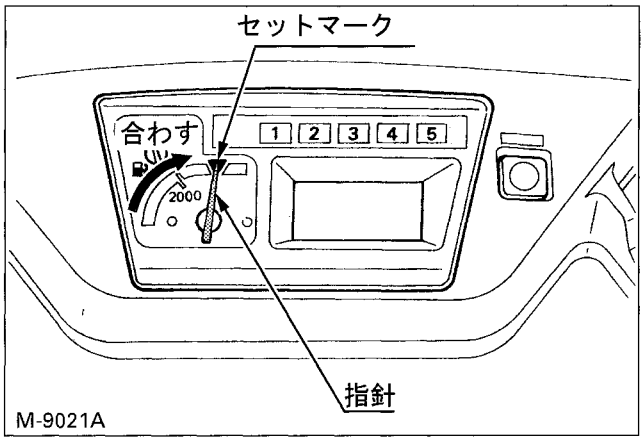
❹脱こく・刈取クラッチレバーを**“脱こく”**位置にします。



重　要

＊エンジン回転数が2000rpm以上のとき，脱こく・刈取クラッチレバーを入れると駆動ベルトが破損するおそれがあります。

❺アクセルレバーを操作して，エンジン回転数を回転計の**セットマーク**の中央の位置に指針を合わせます。

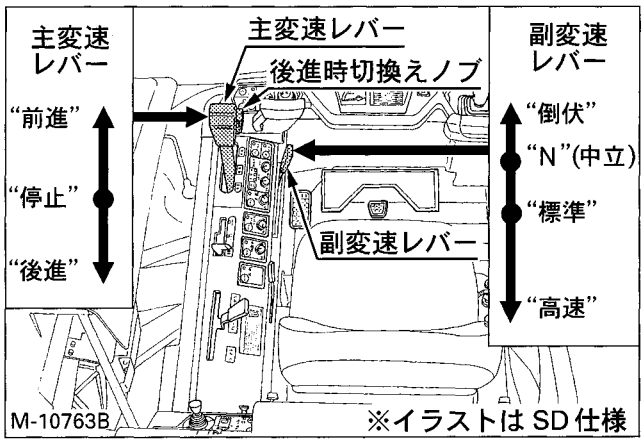


補　足

＊エンジン回転数は脱こく・刈取クラッチレバーを**“脱こく”**位置にし，走行を停止した状態で合わせてください。

＊エンジン回転数が低すぎると，ブザーが鳴ります。

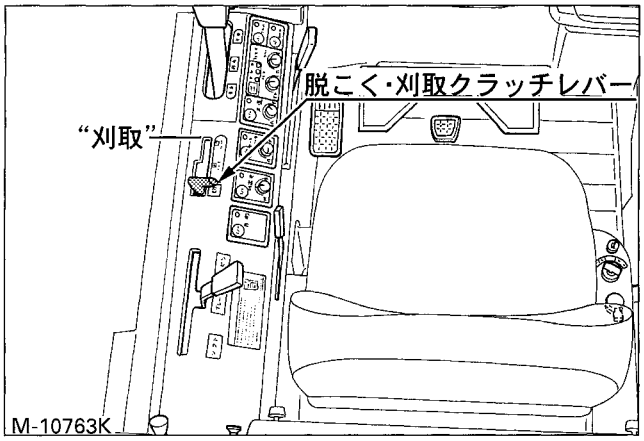
❻副変速レバーを作物の条件に合わせて，**“標準”**又は，**“倒伏”**の位置にします。(74ページ参照)



重　要

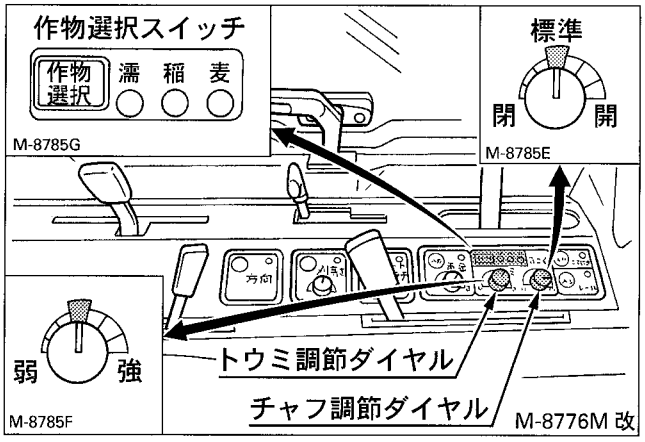
＊副変速レバーの切換えは平たんな場所で主変速レバーを**“停止”**位置にし，ブレーキペダルをいっぱいまで踏込み走行をいったん止めてから行なってください。故障の原因となります。

❼脱こく・刈取クラッチレバーを**“刈取”**位置にします。



❽自動脱こく制御装置の作物選択スイッチ(**濡／稲／麦**)を作物に合わせて設定します。(34ページ参照)

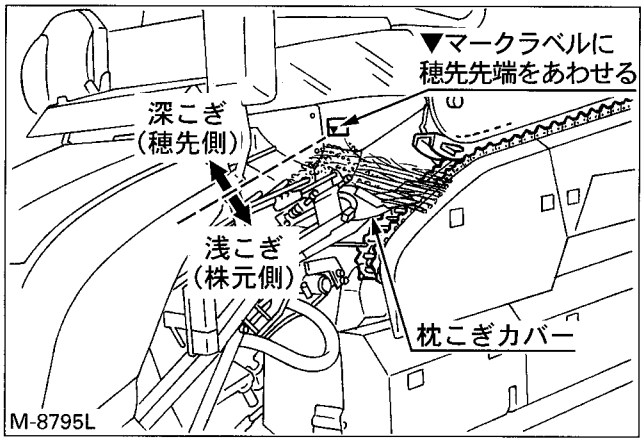
❾チャフ調節ダイヤルとトウミ調節ダイヤルを開と閉の中間(標準)位置にします。(34ページ参照)



❿作物の長さを確認したあと，刈始めのこぎ深さの調節をします。調節するときは，主変速レバーにある手動こぎ深さスイッチで合わせます。そのあと，自動こぎ深さ切換えスイッチを**"入"**(ランプ点灯)にします。(29ページ参照)

⓫作物の条件に合わせた速度に主変速レバーを合わせて刈始めます。(74ページ参照)

⓬作物の穂先先端を脱こく入口の**"▼マーク"**(こぎ深さ標準位置)に合うようにこぎ深さを調節します。(29，30ページ参照)



補　足

＊**浅こぎ状態**では，こぎ残しが出て収穫量が下がったり，**深こぎ状態**では，負荷が大きくなり作業能率が上がりません。

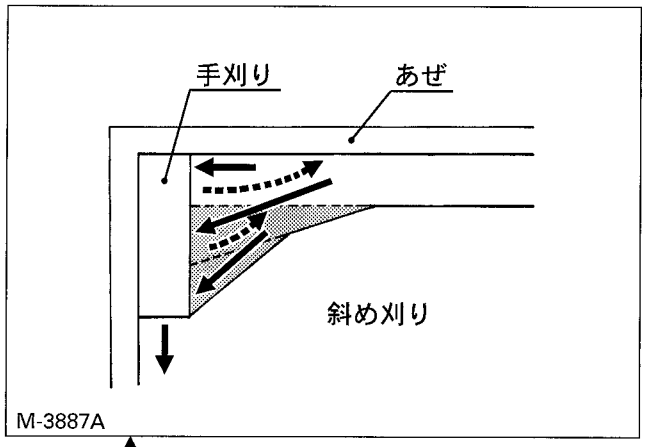
⓭刈取作業を少し行なったあと，選別状態やこぎ残しの有無を確認し，異常があれば各部の調節(85ページ参照)を行なってください。

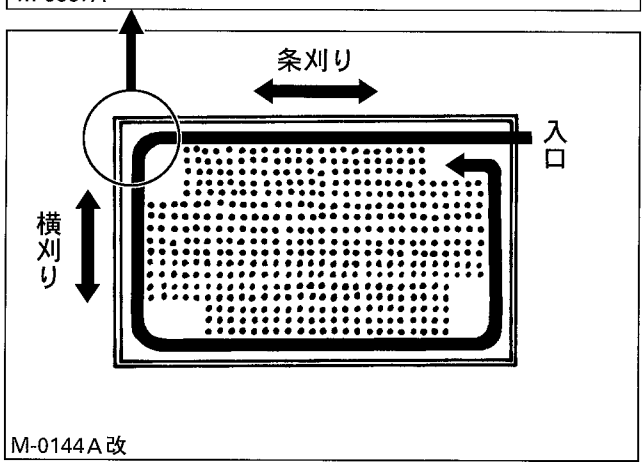
⓮刈取作業が終わると，脱こく・刈取クラッチレバーを**"脱こく"**位置にし，脱こくが終わりもみが全て，グレンタンク内に入ったことを確認して，脱こく・刈取クラッチレバーを**"切"**位置にします。

■ほ場の刈りかたと旋回のしかた

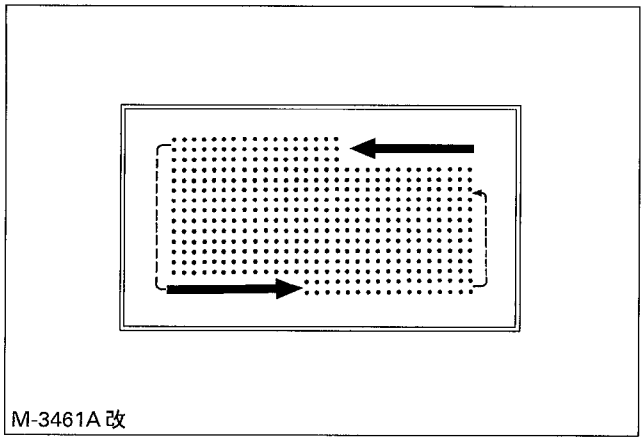
ほ場での作物の刈りかたは，作物・ほ場の状態や作業効率によって異なりますが，基本作業は，条刈りで左回りの２方向刈りを行なってください。

❶あぜは旋回できるまで２～４回斜め刈りします。





❷両端(枕地)を旋回できる範囲に刈取ったら２方向刈りを行なってください。

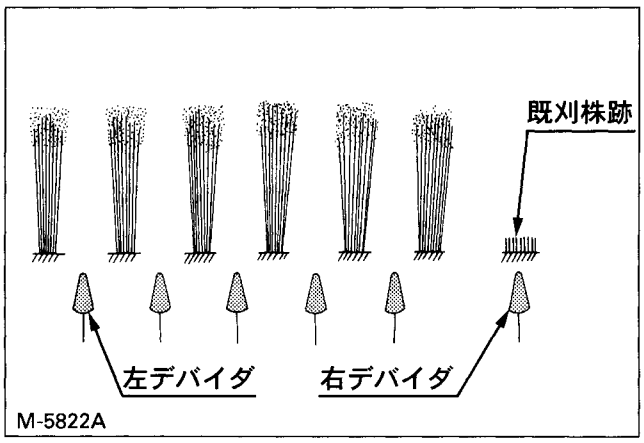


◆デバイダ(刈取部)の条合わせのしかた

作物の植幅に合せて，右デバイダも調節してください。

●通常の回り刈りのとき

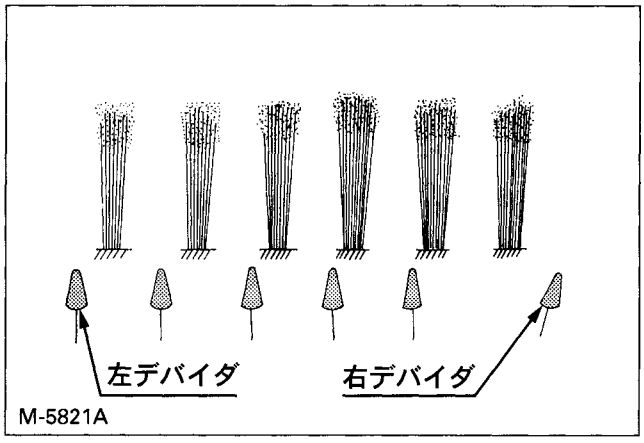
既刈側刈跡に右デバイダを合せる。



●中割り作業のとき

(1)右デバイダ基準で刈取ってください。

(2)植付け条間が広い場合は右デバイダを広げてください。



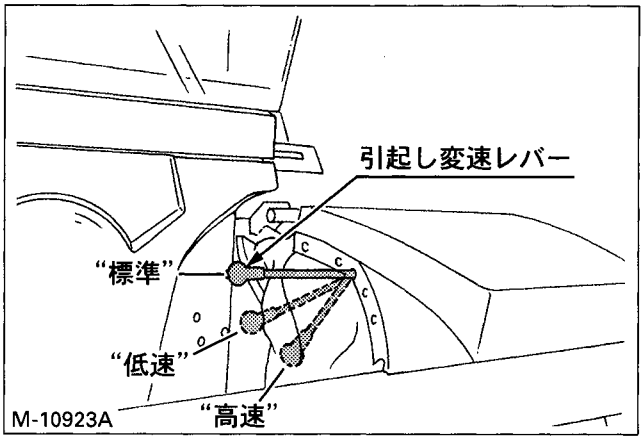
■作物に合わせた変速の選びかた

作物の状態により適正な速度の位置を選んでください。

◆副変速・引起し変速の選び方

刈取部の引起し及び搬送の速度を作物の状態に合わせて，下表を参考にして，副変速レバーと引起し変速レバー(**"標準"・"低速"・"高速"**の３段階)の変速を行なってください。

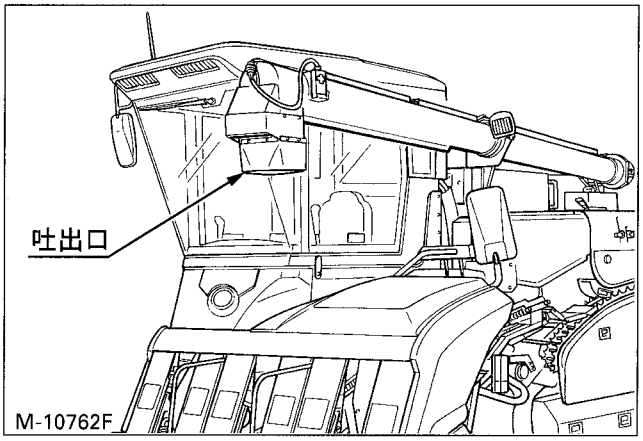
作物状態		変速レバー位置	
倒伏度合	その他の条件	副変速レバー位置	引起し変速レバー位置
直立	一般的作物	**"標準"**	**"標準"**
直立	周囲刈りなど低速走行作業	**"標準"**(又は,**"倒伏"**)	**"標準"**
直立	脱粒しやすい作物(麦穂切れ大も含む)	**"標準"**(又は,**"倒伏"**)	**"低速"**
倒伏	45度以下の倒伏作物	**"標準"**(又は,**"倒伏"**)	**"標準"**
倒伏	45度以上の倒伏作物 長かん作物	**"倒伏"**(又は,**"標準"**)	**"標準"**(又は,**"高速"**)



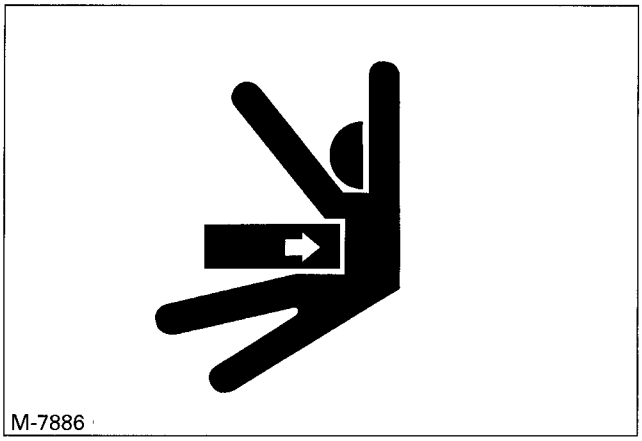
■もみの排出のしかた

注　意

＊コンバインを必ず停止してください。
＊吐出口に手は入れないでください。



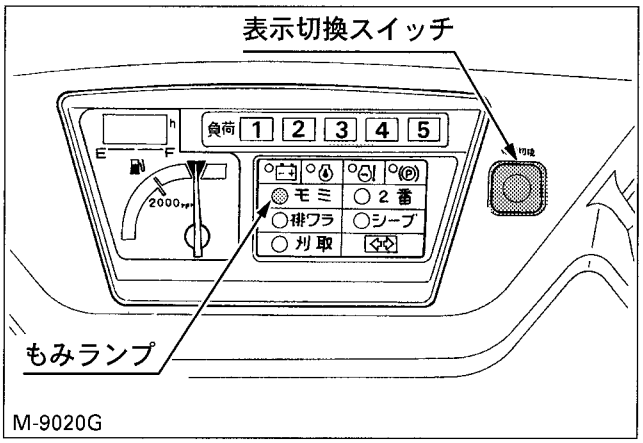
＊手をはさみ，ケガをするおそれがあるので，アンローダ受けの上に手を置かないでください。
＊アンローダ先端が大きく動き，ケガをするおそれがあるので，アンローダの旋回範囲に人がいるときは，アンローダを動かさないでください。



＊排出時は機体を水平な場所に停車させ，脱こく・刈取クラッチレバーを“切”位置にしてから排出作業を行なってください。

【DX仕様】

❶グレンタンクが満杯になると，メータユニットのもみランプが点灯すると同時にブザーが鳴ります。



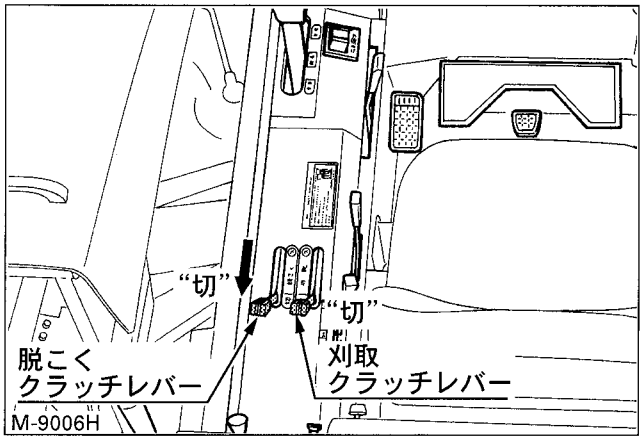
重　要

＊ブザーが鳴ったあとも刈取作業を行なうと，もみがあふれたり，１番スクリュが詰まったりして，故障の原因となります。

補　足

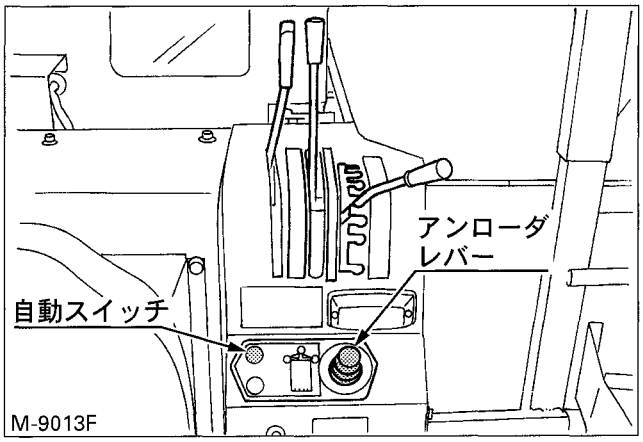
＊表示切換えスイッチを押すと，ブザーは停止します。
＊【80・90・98】は，グレンタンク張出し部を開くと作業が行なえます。

❷刈取作業をいったん中止し，30～60秒待ったあと，脱こくクラッチレバーを**“切”**位置にして，所定の排出位置に移動します。



❸主変速レバーを**“停止”**位置にして，駐車ブレーキを掛けます。

❹アンローダレバーを操作して，アンローダを排出位置まで動かします。



重　要

＊走行しながら，アンローダ旋回操作を行なわないでください。機械故障(油圧系統の作動不良)の原因になります。

＊自動スイッチを押す前に，アンローダの旋回範囲に障害物がないか確認してください。

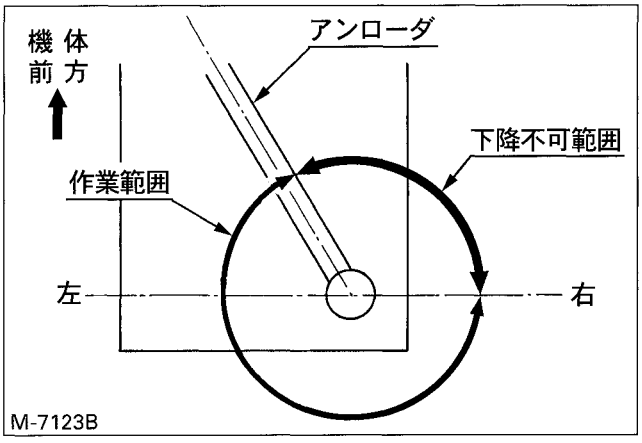
補　足

＊自動制御装置作動中に，停止スイッチを押すかアンローダレバーを操作すると，自動制御は停止します。停止状態から再度自動スイッチを押すと，アンローダの自動制御が作動します。

＊自動制御装置作動中でもアンローダレバーの操作が優先され，その後の自動旋回は停止します。

＊アンローダが最上昇位置のとき，**下降不可範囲**ではレバーを操作しても下降しません。

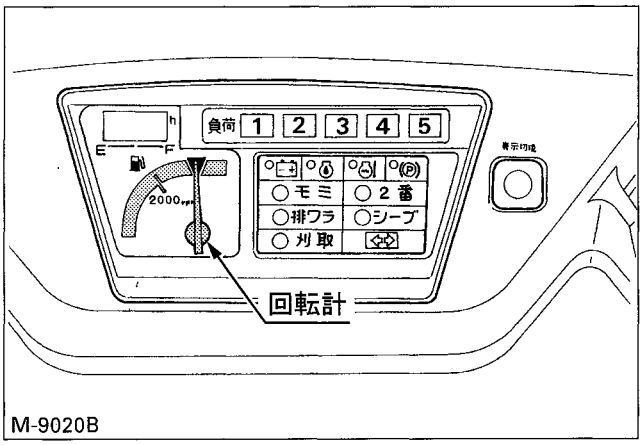
＊アンローダが作業範囲内で最上昇位置以外のとき，レバーを操作しても**下降不可範囲**内には旋回しません。



＊アンローダレバーを操作方向識別ラベルの**赤色**方向に操作するとアンローダは左旋回(ラベル赤色方向)し，アンローダレバーを**青色**方向に操作するとアンローダ右旋回(ラベル青色方向)します。

(36ページ参照)

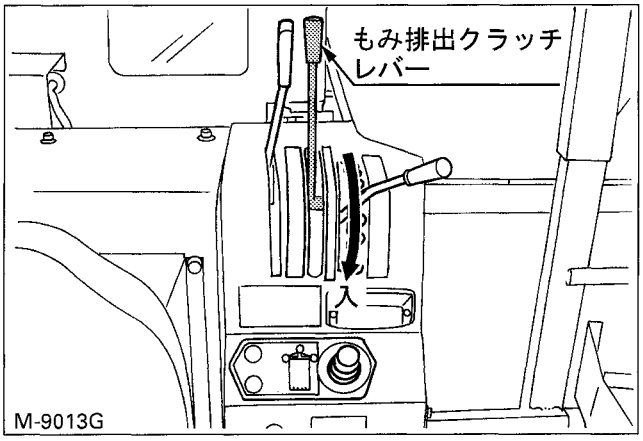
❺排出作業は刈取り作業時の回転のままでしてください。



補　足

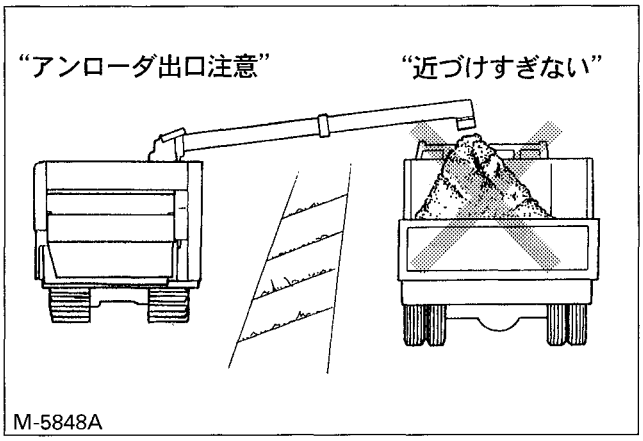
＊損傷しやすい作物は，エンジン回転数を約2000rpm程度まで下げてください。

❻もみ排出クラッチレバーを**"入"**位置にし，もみを排出します。

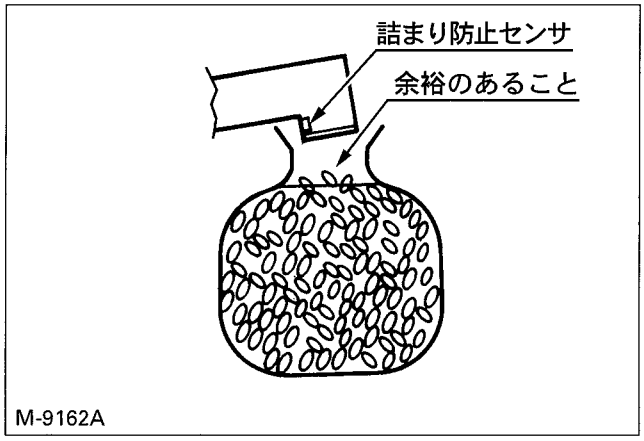


重　要

＊吐出口をふさがないようにアンローダの位置を調整してください。故障の原因となります。



＊アンローダには，絶対物を吊るさないでください。
＊アンローダで袋詰め作業を行なうとき，詰まり防止センサに一定時間もみが接触するとセンサがはたらいてもみの排出が停止しますが，詰まり防止のため，袋に余裕のある状態で，もみ排出クラッチレバーを切ってください。アンローダが詰まると，駆動系統の故障の原因になります。



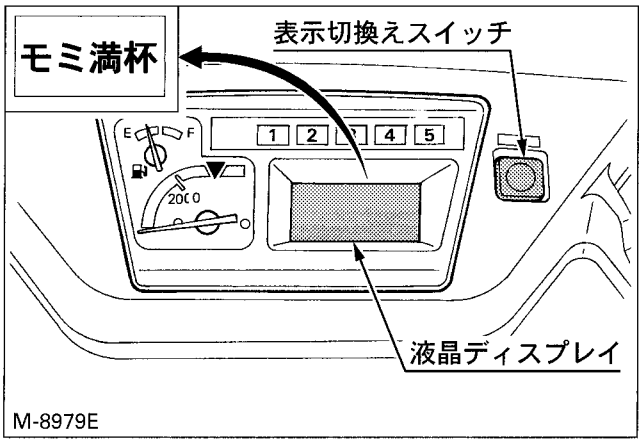
❼排出が終わると，もみ排出クラッチレバーを**“切”**位置にし，アンローダ自動スイッチ又は，アンローダレバーを操作してアンローダをアンローダ受けに収納します。

補　足

＊**【80・90・98】**は，グレンタンク張出し部を必要に応じて閉じてください。このとき，グレンタンク内にもみが残った状態でグレンタンク張出し開閉スイッチを**“閉”**側に操作しても張出し部は閉じません。必ずタンク内のもみを全て排出したあとに張出し部を閉じてください。
＊アンローダレバーで操作するときは，アンローダを最上昇位置にして旋回後，アンローダ受けに収納してください。
＊アンローダ内にもみが残っていると，もみがこぼれるのでアンローダを一度最上昇させて収納してください。

【HD・SD仕様】

❶グレンタンクが満杯になると，エアロナビの液晶ディスプレイが **モミ満杯** と表示すると同時にブザーが鳴ります。



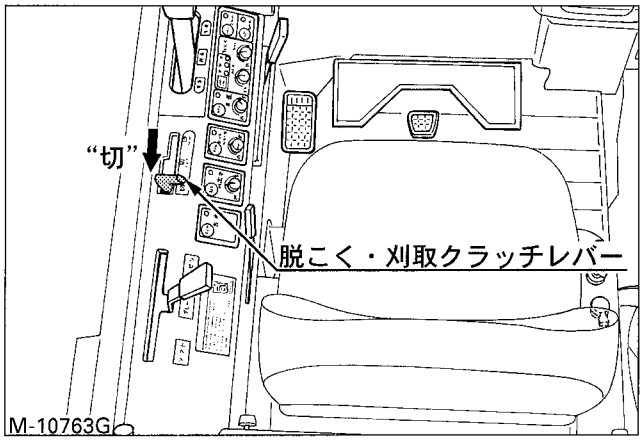
重　要

＊ブザーが鳴ったあとも刈取作業を行なうと，もみがあふれたり，１番スクリュが詰まったりして，故障の原因となります。

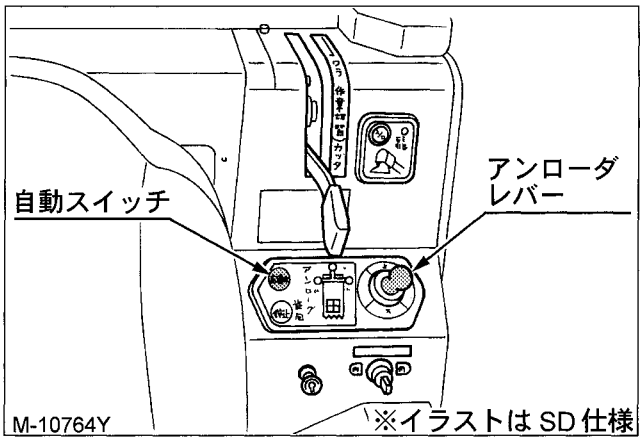
補　足

＊表示切換えスイッチを押すと，ブザーは停止します。
＊**【80・90・98】**は，グレンタンク張出し部を開くと作業が行なえます。

❷刈取作業をいったん中止し，30～60秒待ったあと，脱こく・刈取クラッチレバーを**“切”**位置にして，所定の排出位置に移動します。



❸主変速レバーを**“停止”**位置にして，駐車ブレーキを掛けます。
❹アンローダレバーを操作して，アンローダを排出位置まで動かします。



重　要

＊走行しながら，アンローダ旋回操作を行なわないでください。機械故障(油圧系統の作動不良)の原因になります。

＊自動スイッチを押す前に，アンローダの旋回範囲に障害物がないか確認してください。

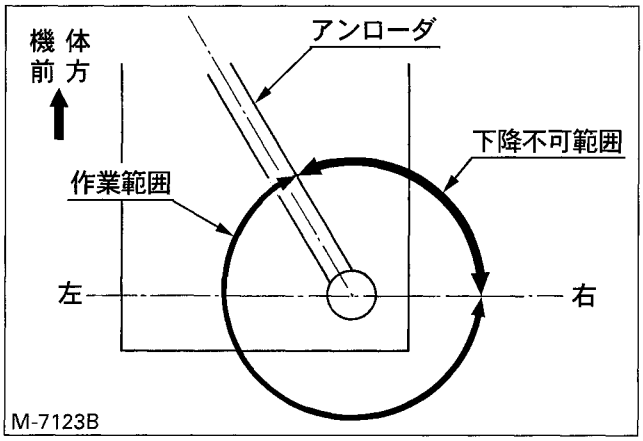
補　足

＊自動制御装置作動中に，停止スイッチを押すかアンローダレバーを操作すると，自動制御は停止します。停止状態から再度自動スイッチを押すと，アンローダの自動制御が作動します。

＊自動制御装置作動中でもアンローダレバーの操作が優先され，その後の自動旋回は停止します。

＊アンローダが最上昇位置のとき，**下降不可範囲**ではレバーを操作しても下降しません。また，このときに液晶ディスプレイに**アンローダを上げる**と表示しますので，アンローダを最上昇位置まで上げて旋回してください。

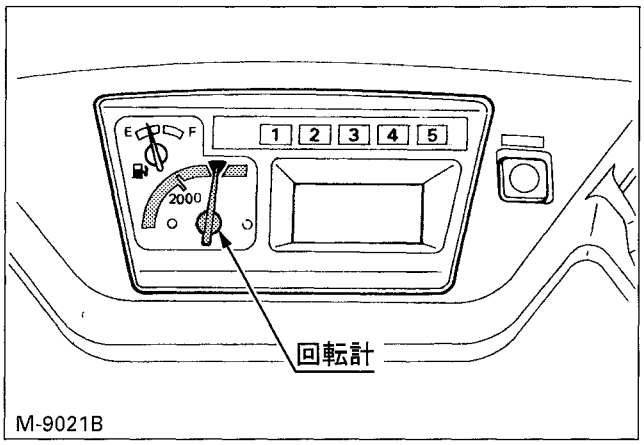
＊アンローダが作業範囲内で最上昇位置以外のとき，レバーを操作しても**下降不可範囲**内には旋回しません。また，このときに液晶ディスプレイに**アンローダを上げる**と表示します。



＊アンローダレバーを操作方向識別ラベルの**赤色**方向に操作するとアンローダは左旋回(ラベル赤色方向)し，アンローダレバーを**青色**方向に操作するとアンローダ右旋回(ラベル青色方向)します。

(36ページ参照)

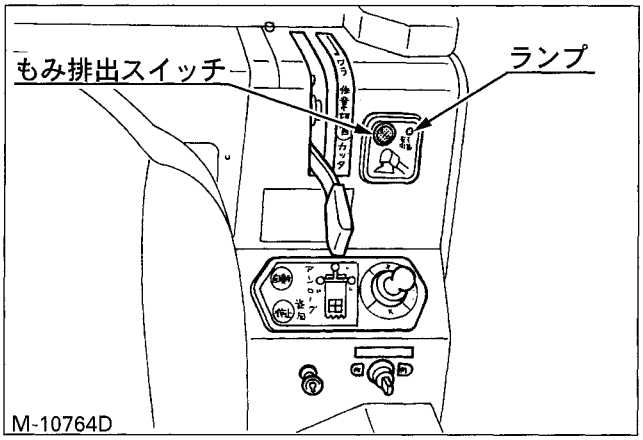
❺排出作業は刈取り作業時の回転のままでしてください。



補　足

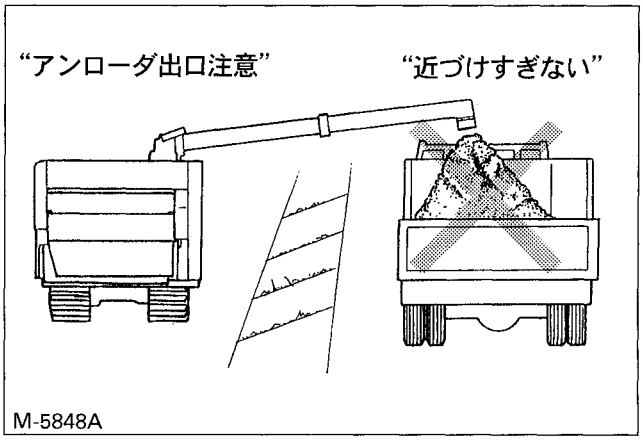
＊損傷しやすい作物は，エンジン回転数を約2000rpm程度まで下げてください。

❻もみ排出スイッチを押すとランプが点滅し(スイッチ**“入”**)，もみを排出します。

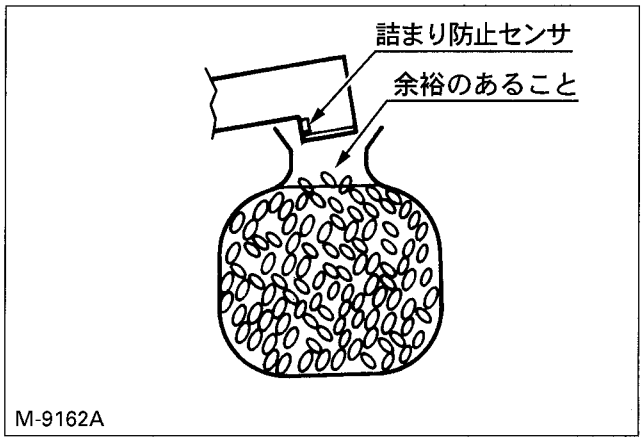


重　要

＊吐出口をふさがないようにアンローダの位置を調整してください。故障の原因となります。

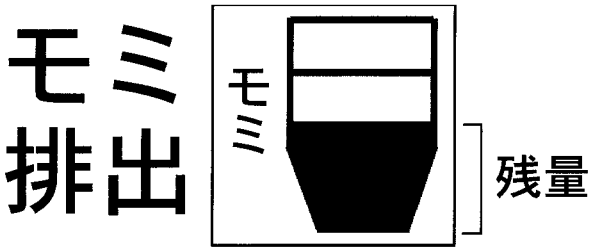


＊アンローダには，絶対物を吊るさないでください。
＊アンローダで袋詰め作業を行なうとき，詰まり防止センサに一定時間もみが接触するとセンサがはたらいてもみの排出が停止しますが，詰まり防止のため，袋に余裕のある状態で，もみ排出クラッチレバーを切ってください。アンローダが詰まると，駆動系統の故障の原因になります。



補　足

＊もみ排出中は，液晶ディスプレイにグレンタンク内のもみの残量を表示します。



❼排出が終わると，もみ排出スイッチを押し(**“切”**)，アンローダ自動スイッチ又は，アンローダレバーを操作してアンローダをアンローダ受けに収納します。

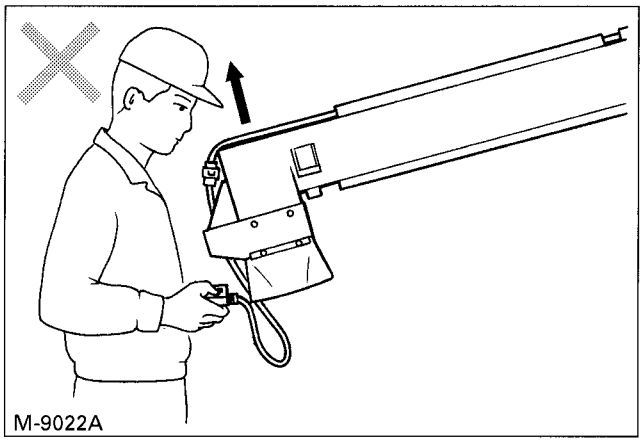
補　足

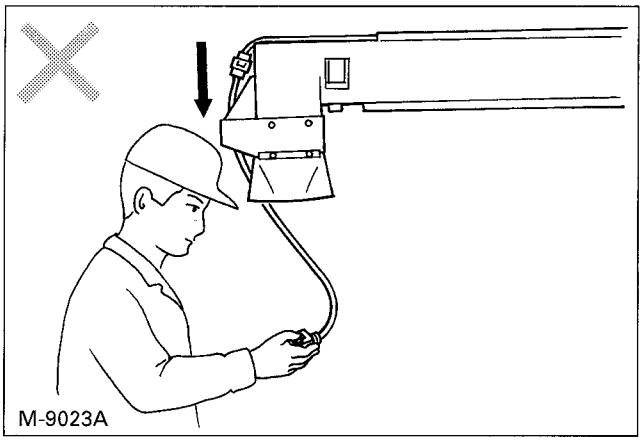
＊**【80・90・98】**は，グレンタンク張出し部を必要に応じて閉じてください。このとき，グレンタンク内にもみが残った状態でグレンタンク張出し開閉スイッチを**“閉”**側に操作すると，液晶ディスプレイに **もみが残っています** と表示しますので，タンク内のもみを全て排出したあとに張出し部を閉じてください。
＊アンローダレバーで操作するときは，アンローダを最上昇位置にして旋回後，アンローダ受けに収納してください。
＊アンローダ内にもみが残っていると，もみがこぼれるのでアンローダを一度最上昇させて収納してください。

◆アンローダリモコンについて【SD仕様】

警　告

＊共同作業を行なうときは，合図を徹底させて行なってください。
＊アンローダの先端部の位置を常に確認しながら作業を行なってください。リモコンスイッチの誤操作により，不意に動いてケガをするおそれがあります。



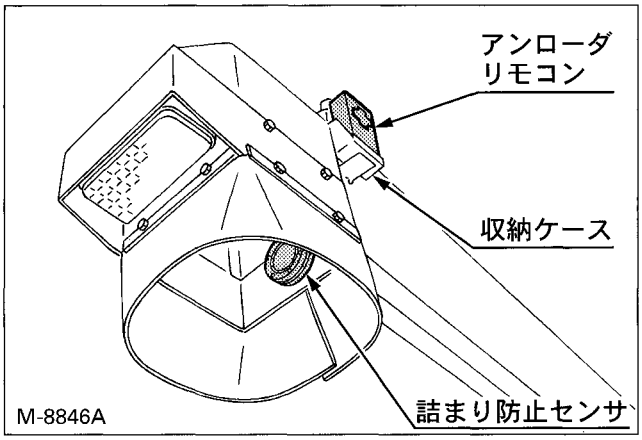


＊アンローダリモコンの操作中に，運転席左側の操作パネルの各スイッチやレバーは絶対に操作しないでください。

重　要

＊アンローダが水平位置より低いところで操作するときは，アンローダ受けに接触させないでください。

❶アンローダの自動スイッチ又は，アンローダレバーを操作して，アンローダを排出位置に移動します。
❷操作収納ケースからアンローダリモコンを取外したあと，アンローダ操作ボタンを操作します。
(37ページ参照)



補 足

＊詰まり防止センサは，排出時のもみの損傷を防止するためのセンサです。袋詰めするときは，余裕を持ってもみ排出スイッチを切るようにしてください。
＊もみ袋に排出するときは，もみ袋が倒れないように，共同作業者やもみ袋受け台などを準備してください。
＊アンローダをゆっくり動かすときは，スイッチを小刻みに押し，大きく動かすときは，スイッチを押し続けてください。

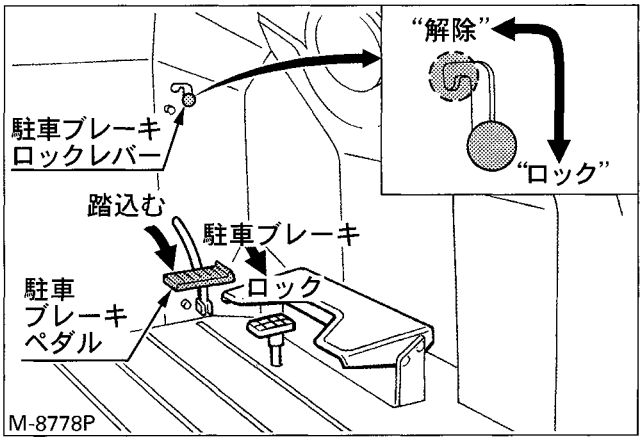
❸もみ排出ボタンの**"入"**を押すとランプが点滅し，もみを排出します。
❹もみの排出が終わると，もみ排出ボタンの**"切"**を押してもみの排出を止めます。このとき，ランプが消灯します。
❺作業が終わるとリモコンを収納ケースに収納します。

■手刈り(枕刈り)脱こくのしかた

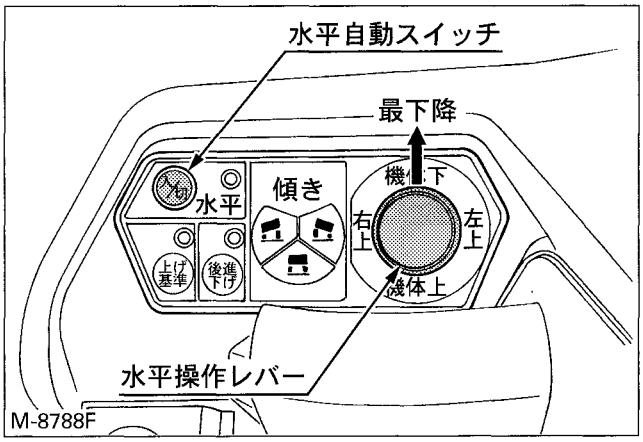
警 告

＊そで口はきっちり止めて，はち巻き，首巻き，腰タオルはしないでください。チェーンに巻込まれてケガをするおそれがあります。
＊コンバインは平たんな場所に止めて，駐車ブレーキを掛けてください。
＊刈取部は地面に接地させて，停止してください。
＊手刈り(枕刈り)脱こくするときは，手や腕の位置を必ずチェーンの外側(コンバインから離れる位置)にして，作物を少量ずつ供給してください。

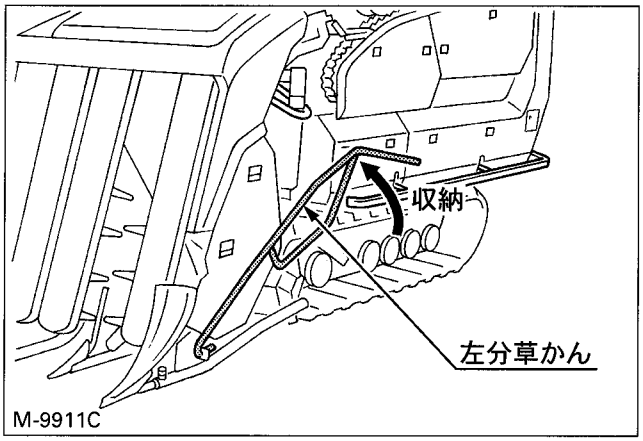
❶平たんな場所を選んで走行を停止したあと，主変速レバーを**"停止"**位置にし，駐車ブレーキを掛けます。



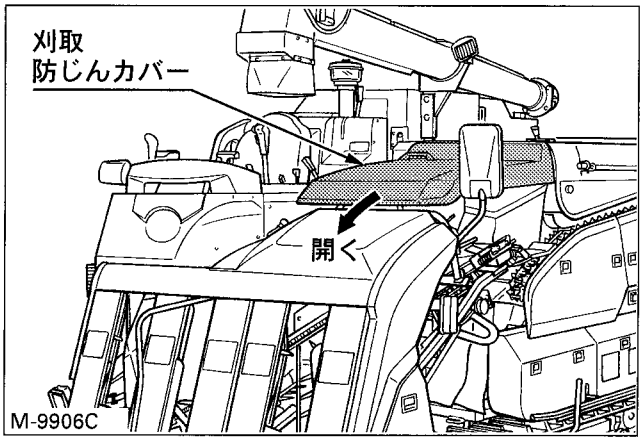
❷水平自動スイッチを**"切"**にし，水平操作レバーで機体を**最下降**位置にします。**【M仕様】**



❸刈取部を地面に接地させます。
❹左分草かんを収納します。



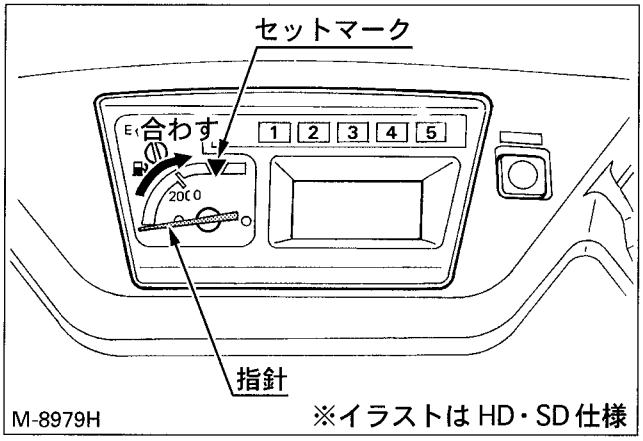
❺刈取防じんカバーを開きます。【SD仕様】



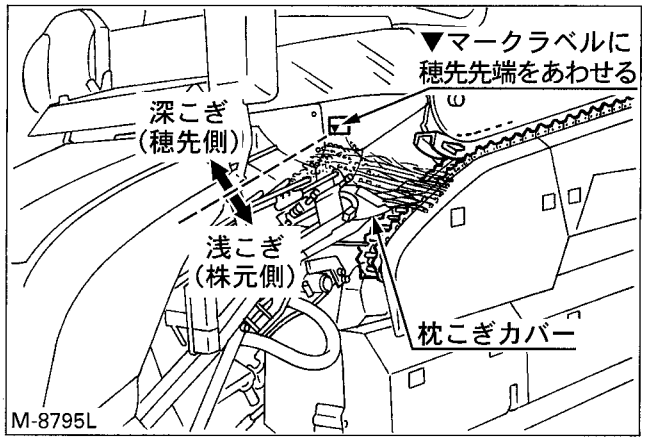
補　足

＊刈取防じんカバーは前方いっぱいまで開けてください。

❻脱こく・刈取クラッチレバーを**“脱こく”**位置にし，脱こく部だけを動かします。
❼アクセルレバーを操作して，エンジン回転数を回転計の**セットマーク**の中央の位置に指針を合わせます。



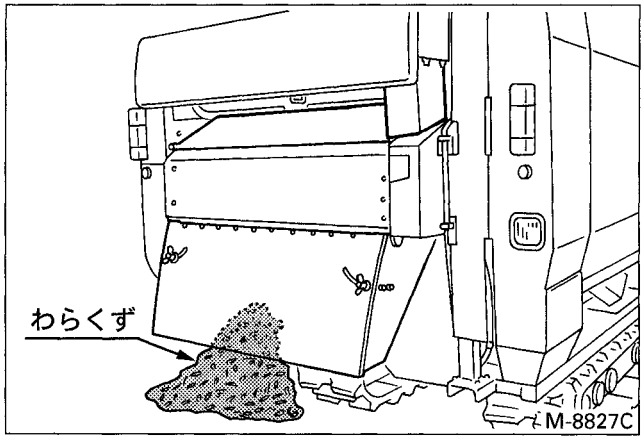
❽手刈り作物を枕こぎカバーに乗せたあと，作物の穂先先端を**“▼マーク”**に合わせ，少量ずつフィードチェーンに供給します。



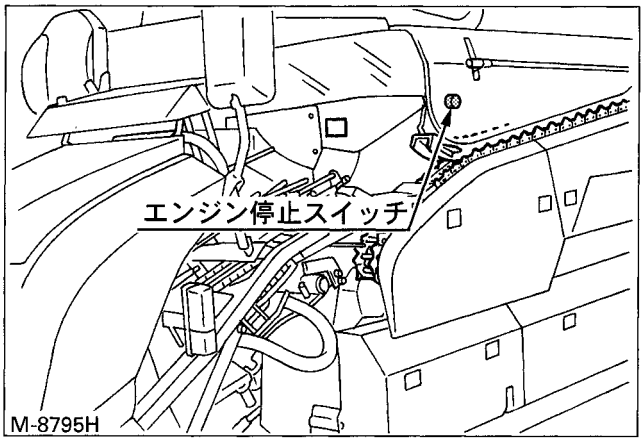
重　要

＊１箇所で多量の手こぎをする場合，カッタやドロッパの下に排わらや切断わらの堆積が原因で，カッタなどが詰まることがありますから，機体を定期的に移動させてください。

＊切断わらがカッタわら排出口に詰まった場合は，エンジンを必ず止めて取除いてください。



＊手刈り脱こく時に万一異物などのかみ込みが発生したときは，エンジン停止スイッチを押してください。



■作業に合わせた各部の調節・調整のしかた

警　告

＊調整時は必ずエンジンを止めてください。

＊衣服などが回転部に巻込まれ危険ですので，取外した回転部のカバー類は必ず取付けてください。

注　意

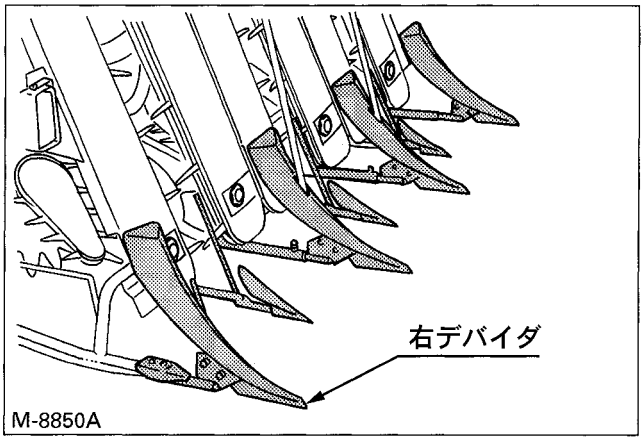
＊水平で平たんな場所で行なってください。

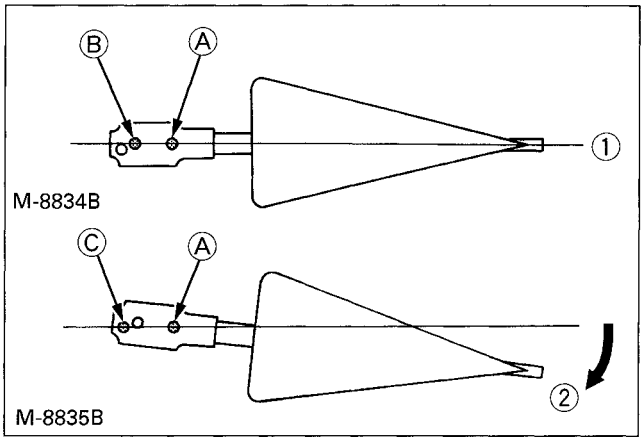
＊コンバインを停止するときは，わらくずの上に止めないでください。マフラ排気口にわらくずが触れると，火災のおそれがあります。

◆刈取部

1. 右デバイダの調節

右デバイダは，外側に広げる(約5.5cm)ことができます。調節のしかたは，ボルトⒶとⒷ又は，Ⓒ２箇所をゆるめたあとボルトⒷ又は，Ⓒの取付け位置を変更して下表を参照し調節を行なったあと，ボルト２箇所を締付けてください。。





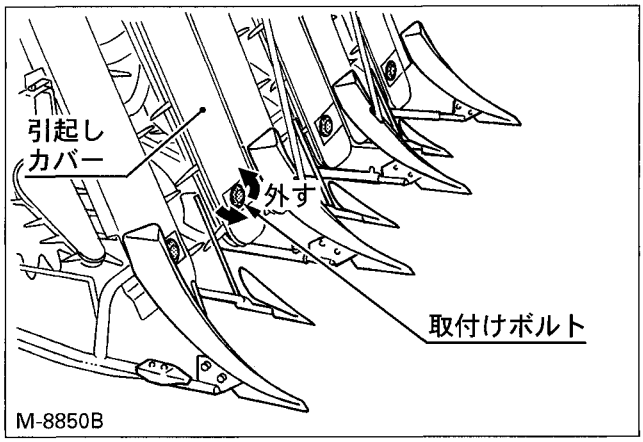
補　足

＊デバイダカバーを取付けるときは，①(標準)の位置にしてください。

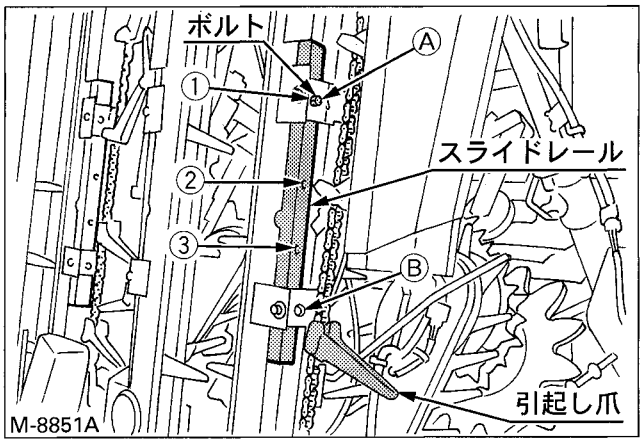
2. 引起し爪高さの調節

作物条件に応じて，引起し爪が収納される位置の調節を行なってください。調節は必ず**全条同じ位置**にしてください。

❶引起しカバーの取付ボルトを外したあと，引起しカバーを外します。



❷ボルトを外してスライドレールを**上下**に動かし調節したあと，ボルトを締付けます。



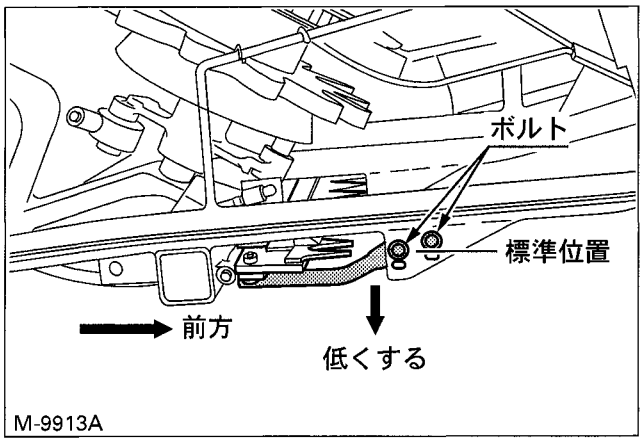
● 作物条件と調節位置

		スライドレール調節位置	ボルト取付位置
作物条件	標準の作物	①	Ⓐ
	極長かん(130cm以上)	②	Ⓐ
	脱粒しやすい品種わらちぎれの多い作物(過熟小麦など)	③	Ⓑ
	長かんで倒伏している作物	②	Ⓐ

❸引起しカバーを装着したあと，取付ボルトを締付けます。

3. 刈刃の高さ調節

作物の刈高さを低くするときに８本の(左，右と中央２箇所)ボルトを外して，行なってください。



重　要

＊下記条件のときは，作業のしかたにより刈刃に泥・土がかかり破損の原因となりますので**標準位置**(出荷時)で作業を行なってください。

- ほ場が湿田のとき
- 作物が麦などのうねのあるほ場のときや，雑草が多いとき

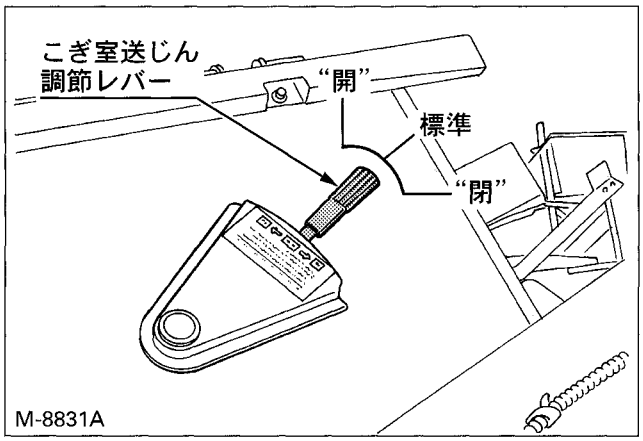
◆脱こく部

4. 脱こく状態に合わせた調節・調整

● こぎ室送じんレバーの調節

下表を参照してこぎ室送じん調節レバーで調節してください。

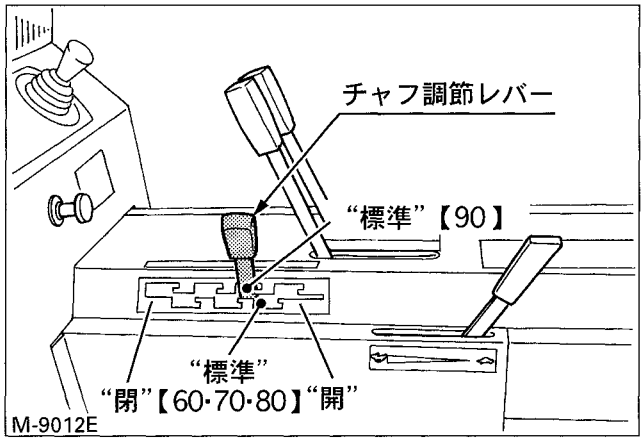
現　象（状　態）	調　節　方　向
●倒伏した作物を刈取るとき ●こぎ胴負荷が大きいとき	**"開"**の方へ
●通常作業	標　準
●排じんロスが多いとき ●ササリ粒が多いとき	**"閉"**の方へ

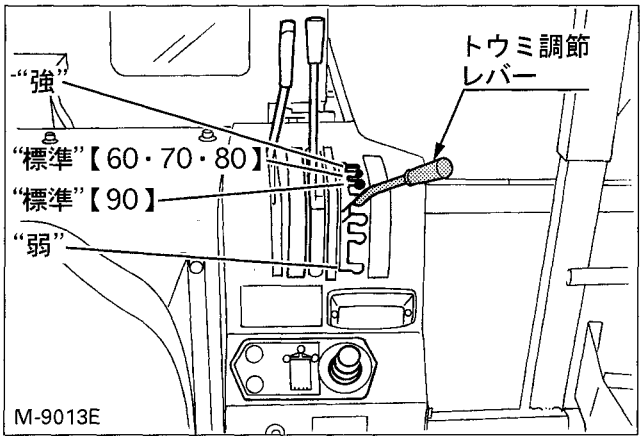


● トウミ風力とチャフの開度の調節

【DX仕様】

作物に合わせ，下表を参照してトウミ切換えレバー(トウミ風力)及びチャフ切換えレバーで調節してください。





[トウミ調節レバー]

調節方向	現　象（状　態）
"強" ↑ 標準位置	●選別が悪い
↓ "弱"	●排じんロス（もみの飛散）が多い

[チャフ調節レバー]

調節方向	現　象（状　態）
"開" ↑ 標準位置	●排じんロス（もみの飛散）が多い
↓ "閉"	●選別が悪い

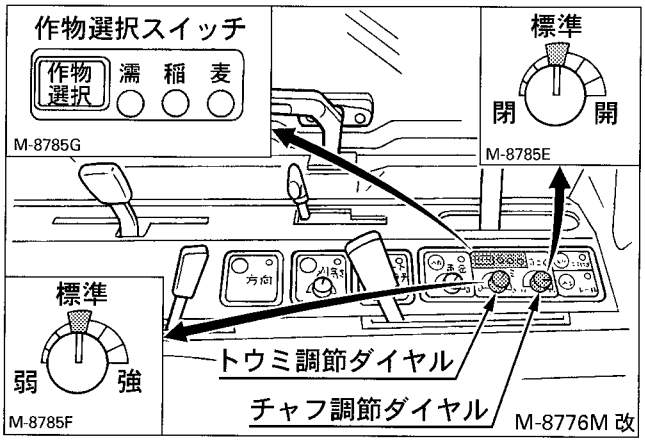
補　足

＊トウミの調節は，脱こく機を必ず回転させて行なってください。

＊チャフの調節は，脱こく機内にこく粒が残っていないときに行なってください。

【自動脱こく制御装置】【HD・SD仕様】

作物に合わせて作物選択スイッチで**"濡"／"稲"／"麦"**を設定したあと，下表を参照してトウミ調節ダイヤル(トウミ風力)及びチャフ調節ダイヤル(チャフの開度)で調節してください。



[トウミ調節ダイヤル]

調節方向	現　象（状　態）
"強" ↑ 標準位置 ↓ "弱"	●選別が悪い
	●排じんロス（もみの飛散）が多い

[チャフ調節ダイヤル]

調節方向	現　象（状　態）
"開" ↑ 標準位置 ↓ "閉"	●排じんロス（もみの飛散）が多い
	●選別が悪い

補　足

＊作物選択スイッチを**"濡"**位置に設定すると，チャフの開度は全開位置に固定されます。また，作物の状態に応じてトウミ調節ダイヤルを調節してください。

◆グレンタンク部

5. 排出調整板の調整

排出調整板を最上位置で，水分の多い小麦の刈取りを行なうと，スクリュに詰まりが発生するおそれがあります。その場合は，排出調整板の位置を**最下位置**にしてください。詰まりの原因になります。また，小麦以外の作物の刈取りを行なうときは，**最上位置**にしてください。

❶グレンタンクをオープンします。

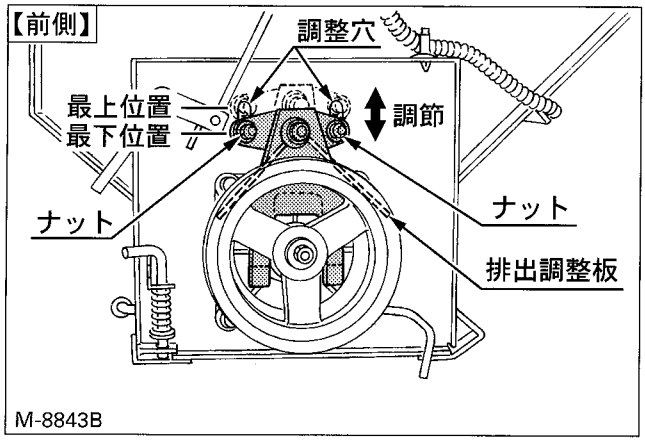
❷グレンタンクの前後の両側面にある排出調整板の上下調整を行ないます。

(1)ナットをゆるめます。

(2)排出調整板を最上又は，最下位置にします。

(3)ナットを締付けます。

❸グレンタンクを閉じます。



■メータユニットによる異常と処置【DX仕様】

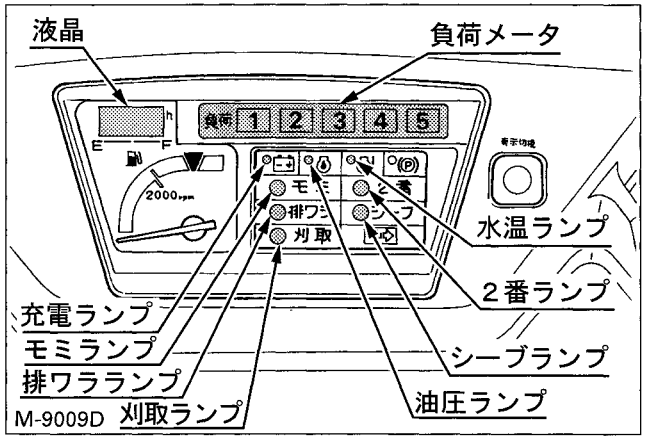
警 告

＊各部の点検やわら詰まりを取除くときは，エンジンを必ず止めてください。
＊各搬送チェーンやカッタ刃には注意してください。ケガをするおそれがあります。

注 意

＊エンジン停止直後は，エンジンにさわったり，ラジエータキャップを開けないでください。ヤケドをするおそれがります。
＊取外したカバー類は，必ず取付けてください。

メータユニットに警報が表示されたときは，下表を参照して処置してください。



警報の種類	警報 液晶表示	警報 ランプ/メータ表示	警報ブザー(吹鳴時間)	現象	処置	参照ページ
燃料警報	残り1目盛が点滅	—	○ 断続 (約5秒後停止)	●燃料が少なくなっています。 ●そのまま作業を続けると… **エンジンが停止します。**	●燃料を補給します。	133
油圧警報	—	油圧ランプ点灯	○ 断続 (処置後停止)	●エンジンオイルの圧力が不足しています。 ●そのまま作業を続けると… **エンジンが焼付きを起こし停止します。**	●エンジンを停止後，オイル量を点検します。 ●オイルドレーンゴムホースの点検と処置をします。 ●バンドの増締めをします。 ●購入先へ連絡してください。	134 — — —

警報の種類	警報 液晶表示	警報 ランプ/メータ表示	警報ブザー(吹鳴時間)	現象	処置	参照ページ
水温警報	水温ランプが点灯すると同時に，液晶目盛が全て点滅	水温ランプ点灯	○ 断続 (処置後停止)	●エンジンの冷却水温が上昇しています。	●エンジンを停止し，30分以上たってから点検と処置をします。 ①冷却水量の点検 不足……ラジエータ・リザーブタンクに清水を補給 水もれ……排水プラグ・ラジエータホースのバンドを増し締め ②ファン駆動ベルトの点検 ゆるみ……張り調整 破損など……交換・調整 ③防じんあみ・ラジエータフィンの点検 汚れ・詰まり…掃除して取除く	 140 140,143 156 156 144
				●そのまま作業を続けると… **エンジンが焼付きを起こし停止します。**	●購入先へ連絡してください。	—

警報の種類	警報 液晶表示	警報 ランプ/メータ表示	警報ブザー(吹鳴時間)	現象	処置	参照ページ
充電警報	—	充電ランプ点灯	○ 断続 (約5秒後停止)	●バッテリに充電されていません。	●エンジンを停止後，点検と処置をします。 ①ファン駆動ベルトの点検 ゆるみ……張り調整 破損など……交換・調整 ②バッテリ 電圧低下……充電	156 156
				●そのまま作業を続けると… **バッテリ上りとなり，エンジンの始動ができなくなります。**	●バッテリを充電してもエンジンが始動しないときは，交換してください。	183
負荷警報	—	負荷メータ全ランプが点滅	○ 断続 (処置後停止)	●エンジンや脱こく部に負担がかかっています。	●作業速度を落としてください。 ●作業条件に合った調節や調整を行なってください。	11,70 74,84
				●そのまま作業を続けると… **エンジンが停止します。**		—
もみ満杯警報	—	モミランプ点灯	○ 断続 (処置後停止又は，表示切換えスイッチを押すと停止)	●グレンタンク内のもみが満杯です。	●刈取作業を中止し，もみを排出します。	75
				●そのまま作業を続けると… **グレンタンクからもみがあふれます。又は，1番スクリュが詰まります。**		—

警報の種類	警報		警報ブザー（吹鳴時間）	現象	処置	参照ページ
	液晶表示	ランプ／メータ表示				
2番警報	—	2番ランプ点灯	○ 断続 （処置後停止）	● 1番縦スクリュケース内又は，2番処理胴（ツースバー），2番縦スクリュケース内が詰まっています。 ● そのまま作業を続けると… **エンジンが停止します。**	● 1番縦スクリュケース又は，2番処理胴（ツースバー），2番縦スクリュケースを掃除します。	114,115 —
シーブ警報	—	シーブランプ点灯	○ 断続 （処置後停止）	● シーブケース上に詰まりが発生しています。 ● 刈取量が処理能力をこえています。 ● そのまま作業を続けると… **エンジンが停止します。**	● 刈取作業を中止し，脱こく部を空運転します。 ⬇ ● チャフ調節レバーを開方向に調節します。（チャフのすき間を開く） ⬇ ● チャフの調節が全開位置でもシーブ警報が出たときは，作業速度を落とします。	11,18,70 84 —

警報の種類	警報 液晶表示	警報 ランプ／メータ表示	警報ブザー（吹鳴時間）	現象	処置	参照ページ
詰まり各警報	自動的にエンジンが停止すると同時に表示します。 ⬇			●わら詰まりをしています。	●異常の原因（詰まり）を取除いて復帰します。	—
刈取詰まり警報	—	刈取ランプ点灯	○ 断続 （処置後又は，メインスイッチ**“切”**で停止）	●刈取部の供給搬送部にわらが詰まっています。	●供給搬送部のわらを取除きます。	197
排ワラ詰まり警報	—	排ワラランプ点灯		●フィードチェーン終端部にわらが詰まっています。	●こぎ胴をオープンして，フィードチェーン終端部のわらを取除きます。	100,197
				●カッタ部にわらが詰まっています。	●カッタの切換えカバーを開いて，わらを取除きます。	198
				◆【結束機仕様の場合】 ●結束機のひもなし・ひも切れです。 ●結束機の結節部にわらやひもが巻付いています。また，結束部にわらが詰まっています。	●新しいひものセット・ひもの再セットをします。 ●わらやひもを取除きます。	— (※)

※結束機仕様は，別冊の結束機の取扱説明書を参照してください。

重 要

＊処置したあとに異常が直らないときは，購入先へ連絡してください。

■エアロナビによる異常と処置【HD・SD仕様】

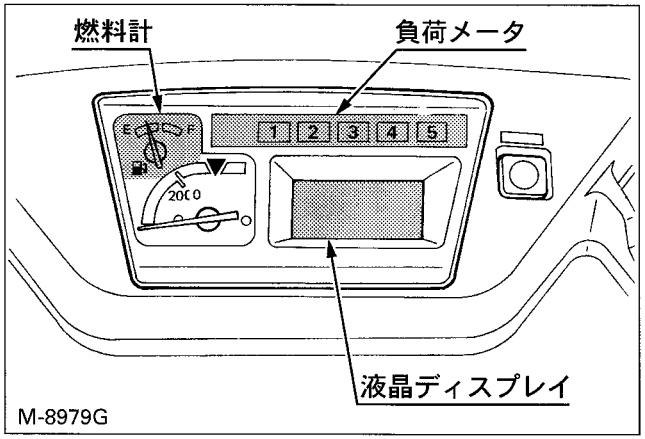
警 告

＊各部の点検やわら詰まりを取除くときは，エンジンを必ず止めてください。
＊各搬送チェーンやカッタ刃には注意してください。ケガをするおそれがあります。

注 意

＊エンジン停止直後は，エンジンにさわったり，ラジエータキャップを開けないでください。ヤケドをするおそれがります。
＊取外したカバー類は，必ず取付けてください。

エアロナビの液晶ディスプレイに警報が表示されたときは，下表を参照して処置してください。



警報の種類	液晶表示（液晶ディスプレイ） 異常内容（表示時間）	液晶表示（液晶ディスプレイ） 処置内容	警報ブザー（吹鳴時間）	現象	処置	参照ページ
燃料警報	燃料を給油（約５秒後消灯）		○ 断続（約５秒後停止）	●燃料が少なくなっています。 ●そのまま作業を続けると… エンジンが停止します。	●燃料を補給します。	133
油圧警報	エンジン油圧異常（処置後消灯）	—	○ 断続（処置後停止）	●エンジンオイルの圧力が不足しています。 ●そのまま作業を続けると… エンジンが焼付きを起こし停止します。	●エンジンを停止後，オイル量を点検します。 ●オイルドレーンゴムホースの点検と処置をします。 ●バンドの増締めをします。 ●購入先へ連絡してください。	134 — — —

警報の種類	液晶表示（液晶ディスプレイ） 異常内容（表示時間）	液晶表示（液晶ディスプレイ） 処置内容	警報ブザー（吹鳴時間）	現象	処置	参照ページ
オーバーヒート警報	⟵ 交互に表示 ⟶ **オーバーヒート** （処置後消灯）	**アイドリングに**	○ 断続 （処置後停止）	●エンジンの冷却水温が上昇しています。	●**アイドリングに**を表示すると… アクセルレバーを操作して，エンジン回転数を**最低回転**位置にします。	10
	⟵ 交互に表示 ⟶ **オーバーヒート** （処置後消灯）	**冷却後点検**			●**冷却後点検**を表示すると… エンジンを停止し，30分以上たってから点検と処置をします。	140
	⟵ 交互に表示 ⟶ **オーバーヒート** （処置後消灯）	**エンジンを停止する** ↕ **冷却後点検**			●**エンジンを停止する** ⟷ **冷却後点検**を表示すると… エンジンを**直ちに停止**し，30分以上たってから点検と処置をします。	140
					●**点検と処置** ①冷却水量の点検 不足……ラジエータ・リザーブタンクに清水を補給 水もれ……排水プラグ・ラジエータホースのバンドを増し締め ②ファン駆動ベルトの点検 ゆるみ……張り調整 破損など……交換・調整 ③防じんあみ・ラジエータフィンの点検 汚れ・詰まり…掃除して取除く	 140 140,143 156 156 144
				●そのまま作業を続けると… **エンジンが焼付きを起こし停止します。**	●購入先へ連絡してください。	—

警報の種類	液晶表示（液晶ディスプレイ） 異常内容（表示時間）	液晶表示（液晶ディスプレイ） 処置内容	警報ブザー（吹鳴時間）	現象	処置	参照ページ
充電警報	充電系異常 −+ （処置後消灯）	—	○ 断続（処置後停止）	●バッテリに充電されていません。 ●そのまま作業を続けると… **バッテリ上りとなり，エンジンの始動ができなくなります。**	●エンジンを停止後，点検と処置をします。 ①ファン駆動ベルトの点検 ゆるみ……張り調整 破損など……交換・調整 ②バッテリ 電圧低下……充電 ●バッテリを充電してもエンジンが始動しないときは，交換してください。	156 156 185
負荷警報	← 交互に表示 → 負荷 （処置後消灯）	速度を落とす	○ 断続（処置後停止）	●エンジンや脱こく部に負担がかかっています。 ●そのまま作業を続けると… **エンジンが停止します。**	●作業速度を落としてください。 ●作業条件に合った調節や調整を行なってください。	11,72 74,84 —
もみ満杯警報	モミ満杯 （処置後消灯）	—	○ 断続（処置後停止又は，表示切換えスイッチを押すと停止）	●グレンタンク内のもみが満杯です。 ●そのまま作業を続けると… **グレンタンクからもみがあふれます。又は，1番スクリュが詰まります。**	●刈取作業を中止し，もみを排出します。	75 —

警報の種類	液晶表示（液晶ディスプレイ） 異常内容（表示時間）	液晶表示（液晶ディスプレイ） 処置内容	警報ブザー（吹鳴時間）	現象	処置	参照ページ
2番警報	⟵ 交互に表示 ⟶ **2番** （処置後消灯）	**詰まりを取り除く**	○ 断続 （処置後停止）	● 1番縦スクリュケース内又は，2番処理胴（ツースバー），2番縦スクリュケース内が詰まっています。 ● そのまま作業を続けると… **エンジンが停止します。**	● 1番縦スクリュケース又は，2番処理胴（ツースバー），2番縦スクリュケースを掃除します。	114,115 —
浮きわら警報	⟵ 交互に表示 ⟶ **こぎ深さ** （処置後消灯）	**穂先センサ点検**	○ 断続 （処置後停止）	● 浮きわらや雑草が，穂先センサに長時間接触しています。 ● 自動制御が困難なとき。 ● そのまま作業を続けると… **選別不良となります。**	● 穂先センサを点検し，浮きわらや雑草を取除きます。 ● 自動こぎ深さ制御を解除し(切換えスイッチ **“切”** 位置)，手動で操作を行なってください。	30 29 —
シーブ警報	⟵ 交互に表示 ⟶ **シーブ** （処置後消灯）	**速度を落とす**	○ 断続 （処置後停止）	● シーブケース上に詰まりが発生しています。 ● 刈取量が処理能力をこえています。 ● そのまま作業を続けると… **エンジンが停止します。**	● 作業速度を落とします。 ⬇ ● 作業速度を落としても表示が消えないときは，チャフ調節ダイヤルを右（開）方向いっぱいまで回します。（チャフのすき間を全開） ⬇ ● 刈取作業を中止し，脱こく部を空運転します。	11,35,72 85 —

警報の種類	液晶表示（液晶ディスプレイ） 異常内容（表示時間）	液晶表示（液晶ディスプレイ） 処置内容	警報ブザー（吹鳴時間）	現象	処置	参照ページ
刈高センサ泥詰まり警報	←交互に表示→ 刈高（処置後消灯）	刈高センサ点検	—	●刈高センサに泥などの異物が付着しています。 ●そのまま作業を続けると… 自動刈高さ制御がはたらきません。	●刈高センサを掃除します。	31 —
詰まり各警報	自動的にエンジンが停止すると同時に表示します。			●わら詰まりをしています。	●異常の原因（詰まり）を取除いて復帰します。	—
刈取詰まり警報	←交互に表示→ 刈取（処置後消灯）	詰まりを取り除く	○ 断続（処置後又は，メインスイッチ“切”で停止）	●刈取部の供給搬送部にわらが詰まっています。	●供給搬送部のわらを取除きます。	197
排ワラ詰まり警報	←交互に表示→ 排ワラ（処置後消灯）	詰まりを取り除く		●フィードチェーン終端部にわらが詰まっています。	●こぎ胴をオープンして，フィードチェーン終端部のわらを取除きます。	100,197
カッタ詰まり警報	←交互に表示→ カッタ（処置後消灯）	詰まりを取り除く		●カッタ部にわらが詰まっています。 ◆【結束機仕様の場合】 ●結束機のひもなし・ひも切れです。 ●結束機の結節部にわらやひもが巻付いています。また，結束部にわらが詰まっています。	●カッタの切換えカバーを開いて，わらを取除きます。 ●新しいひものセット・ひもの再セットをします。 ●わらやひもを取除きます。	198 — (※)

※結束機仕様は，別冊の結束機の取扱説明書を参照してください。

■エアロナビによる故障と処置【HD・SD仕様】

故障が発生すると，液晶表示部に異常内容のみの表示と，故障しても応急的に手動操作可能な場合に，異常内容と処置内容を交互に表示します。故障が発生したときは，必ず購入先に連絡して処置してください。

1. 異常内容と処置内容を交互に表示した場合

液晶表示（液晶ディスプレイ） 交互に表示 異常内容 ⟷ 処置内容		異常内容	処置	参照ページ
車速 VR 異常	車速自動切に	車速制御がはたらきません。	主変速レバーの操作で作業を続けて行なうことができます。また，異常の表示は車速自動スイッチを**“切”**（ランプ消灯）にすると，通常表示に切換わります。	11,24
方向センサ 異常	方向自動切に	方向制御がはたらきません。	パワーステアリングレバーの操作で作業を続けて行なうことができます。また，異常の表示は方向自動スイッチを**“切”**（ランプ消灯）にすると，通常表示に切換わります。	12,25
刈高 VR 異常	刈高自動切に	刈高さ制御がはたらきません。	パワーステアリングレバーの操作で作業を続けて行なうことができます。また，異常の表示は刈高さ自動スイッチを**“切”**（ランプ消灯）にすると，通常表示に切換わります。	12,31
刈高センサ 異常	刈高自動切に		パワーステアリングレバーの操作で作業を続けて行なうことができます。また，異常の表示は刈高さ自動スイッチを**“切”**（ランプ消灯）にすると，通常表示に切換わります。	12,31
刈高レバー VR 異常	ポジピタ SW で操作	パワーステアリングレバーを操作しても刈取部が昇降しません。	ポジピタスイッチで刈取部の昇降操作を行なうことができます。また，異常の表示は表示切換えスイッチを押すと，通常表示に切換わります。	12,15
モンロ右センサ 異常	水平自動切に	水平制御が故障しています。	作業を続けて行なうことができます。また，異常の表示は水平自動スイッチを**“切”**（ランプ消灯）にすると，通常表示に切換わります。	26
モンロ左センサ 異常	水平自動切に			
ローリングセンサ 異常	水平自動切に			
オートクラッチ VR 異常	標準設定で作動中	刈取オートクラッチの停止位置の調節ができません。	作業を続けて行なうことができます。このとき，刈取オートクラッチの停止位置は標準位置ではたらきます。また，異常の表示は表示切換えスイッチを押すと，通常表示に切換わります。	33

液晶表示（液晶ディスプレイ） 交互に表示 異常内容 ⟷ 処置内容		異常内容	処置	参照ページ
オーガ位置異常	手動レバーで操作	アンローダ自動旋回制御が故障しています。	アンローダレバーの操作で作業を続けて行なうことができますが，運転席の上部（頭上）に注意してください。また，異常の表示は表示切換えスイッチを押すと，通常表示に切換わります。	36
オーガ上限異常	手動レバーで操作			
チャフVR異常	標準設定で作動中	チャフ調節ができません。	作業を続けて行なうことができますが，選別やロスに注意してください。また，異常の表示は表示切換えスイッチを押すと，通常表示に切換わります。	34
トウミVR異常	標準設定で作動中	トウミ調節ができません。。		

2. 異常内容のみの表示の場合

液晶表示 (液晶ディスプレイ) 異常内容	異常内容	処置	参照ページ
エンジン回転異常	車速制御及び，負荷警報制御が故障しています。	主変速レバーの操作で作業を続けて行なうことができますが，刈取速度に注意してください。また，異常の表示は車速自動スイッチを“切”（ランプ消灯）にし，表示切換えスイッチを押すと，通常表示に切換わります。	11,24
AES作動異常	わら詰まりが発生したときやメインスイッチ及びエンジン停止スイッチを押してもエンジンが停止しません。	直ちに購入先に連絡して処置してください。エンジンは，非常エンジン停止レバーを引くと停止します。	10
ファンセンサ異常 ファン作動異常	ラジエータの逆転ファンが作動しません。	直ちに購入先に連絡して処置してください。	—
シフトレバーSW異常	主変速レバーのスイッチに異常が発生しています。	作業を続けて行なうことができます。また，異常の表示は表示切換えスイッチを押すと，通常表示に切換わります。	19
車速センサ異常	車速制御，刈高さ制御，方向制御がはたらきません。	主変速レバー及びパワーステアリングレバー操作で作業を続けて行なうことができますが，刈取速度に注意してください。また，異常の表示は車速自動，刈高さ自動，方向自動の各スイッチを“切”（ランプ消灯）にすると，通常表示に切換わります。	11,12,24,25,31
クラッチセンサ異常	脱こく・刈取クラッチレバーの操作ができません。	直ちに購入先に連絡して処置してください。	—

液晶表示(液晶ディスプレイ) 異常内容	異常内容	処置	参照ページ
クラッチ作動異常	脱こく・刈取クラッチレバーの操作ができません。	直ちに購入先に連絡して処置してください。	—
方向位置異常	機体の操行操作ができません。		
刈取回転異常	車速制御，刈高さ制御，方向制御，こぎ深さ制御がはたらきません。	主変速レバー，手動こぎ深さスイッチ及びパワーステアリングレバーの操作で作業を続けて行なうことができますが，刈取速度や刈高さに注意してください。また，異常の表示は車速自動，刈高さ自動，方向自動，こぎ深さ自動の各スイッチを**“切”**（ランプ消灯）にすると，通常表示に切換わります。	11,12,24,25,27,31
刈取位置異常	刈高さ制御，レール制御，刈取オートクラッチがはたらきません。	パワーステアリングレバーの操作で作業を続けて行なうことができますが，刈高さに注意してください。また，異常の表示は刈取オートクラッチ切換え，及び刈高さ自動，レール自動の各スイッチを**“切”**（ランプ消灯）にすると，通常表示に切換わります。	12,29,32,33
コギ深センサ異常	こぎ深さ制御が故障しています。	手動こぎ深さスイッチの操作で作業を続けて行なうことができますが，こぎ深さに注意してください。また，異常の表示は表示切換えスイッチを押すと，通常表示に切換わります。	30
レール作動異常	レール制御が故障しています。	直ちに購入先に連絡して処置してください。	—
水平作動異常 水平ユニット異常	水平制御が故障しています。		
脱こくSW異常	脱こくスイッチに異常が発生しています。	作業を続けて行なうことができますが，２番スクリュに詰まりが発生しても警報（２番警報）が鳴りませんので注意してください。また，異常の表示は表示切換えスイッチを押すと，通常表示に切換わります。	19
チャフセンサ異常 チャフ作動異常	脱こく制御が故障しています。	直ちに購入先に連絡して処置してください。	—

液晶表示(液晶ディスプレイ) 異常内容	異常内容	処置	参照ページ
シーブセンサ異常	シーブセンサが故障しています。	作業を続けて行なうことができますが，選別やロスに注意してください。異常の表示は表示切換えスイッチを押すと，通常表示に切換わります。	19
トウミセンサ異常	脱こく制御が故障しています。	直ちに購入先に連絡して処置してください。	—
オーガ作動異常 オーガユニット異常	アンローダの昇降操作が行なえません。		
油圧作動異常	油圧装置が故障しています。		
パネルユニット異常 メータ・CU通信異常 CU・LU通信異常 LU1通信異常 LU2通信異常 機種設定異常 型式設定異常 微調データ異常 センサ電源異常	マイコンに異常が発生しています。		

メンテナンス

各部のオープン(開閉)と脱着のしかた

警 告

＊平たんで安全な場所で，エンジンを必ず止めてから行なってください。
＊取外したカバー類は，必ず取付けてください。

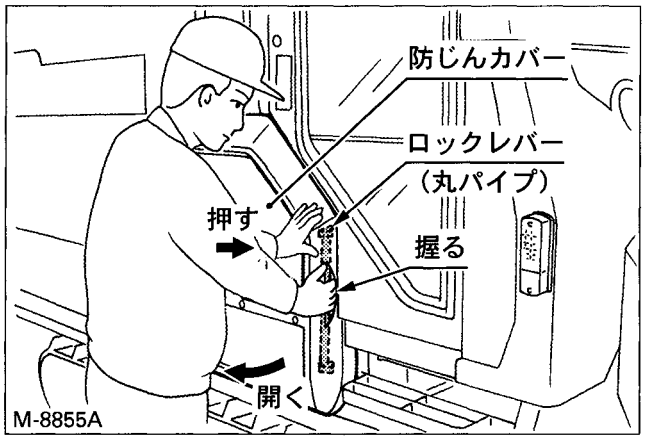
注 意

＊傾斜地では開閉や脱着を行なわないでください。

■防じんカバーオープン

◆開きかた

下図➡部を押しながら，ロックレバー（丸パイプ）を握りロックを解除して，防じんカバーを開いてください。



重 要

＊防じんカバーの網の部分を押すと網が変形します。

補 足

＊ロックレバーを強く握っても開かないときは，➡部をさらに強く押してください。
＊防じんカバーは，開いた状態で持上げると取外すことができます。

◆閉じかた

防じんカバーをロックするまで閉じてください。

■こぎ胴オープン

警 告

＊中でこぎ歯が高速で回転しているので接触するとケガをします。こぎ胴オープンするときは，エンジンを必ず止めてください。

注 意 【DX仕様】

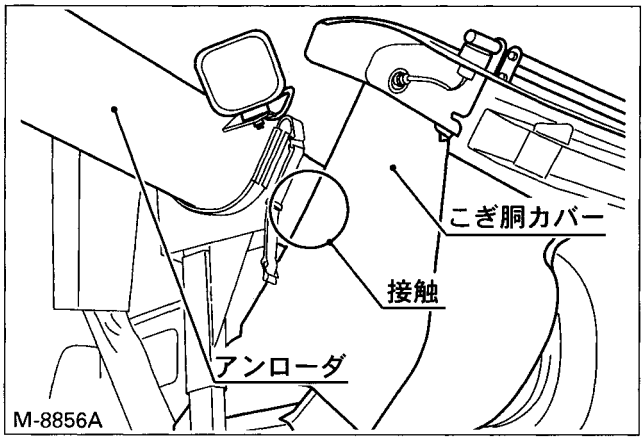
＊こぎ胴をオープンして，受あみの脱着やこぎ室の掃除をするときは，こぎ胴が落下して身体がはさまれるおそれがあるので，オープンストッパで必ず固定してください。

◆開きかた

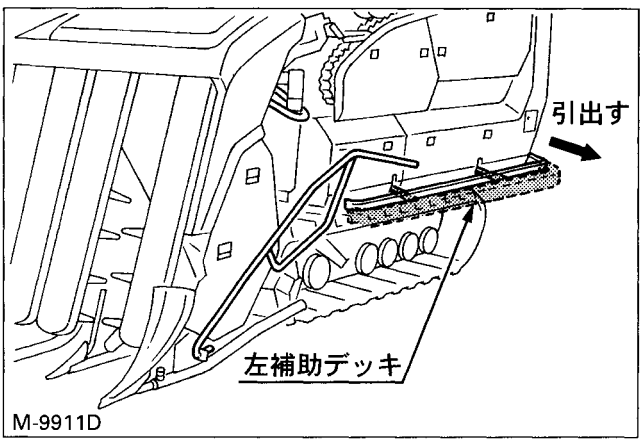
❶エンジンを始動し，アンローダを最上昇させたあと，エンジンを停止します。

重 要

＊アンローダが収納位置のときにこぎ胴をオープンすると，こぎ胴カバーがアンローダに接触します。



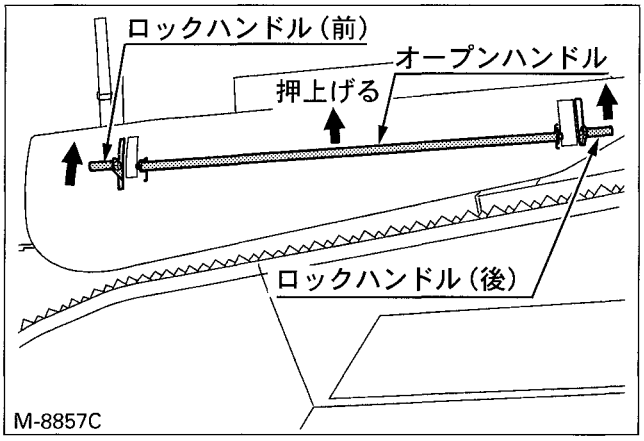
❷左補助デッキを引出します。



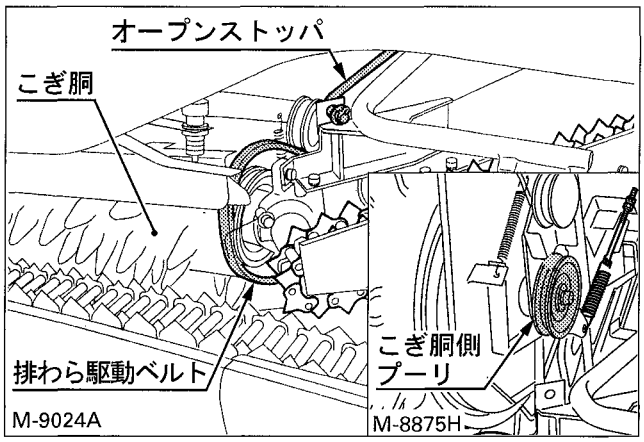
●【DX仕様】

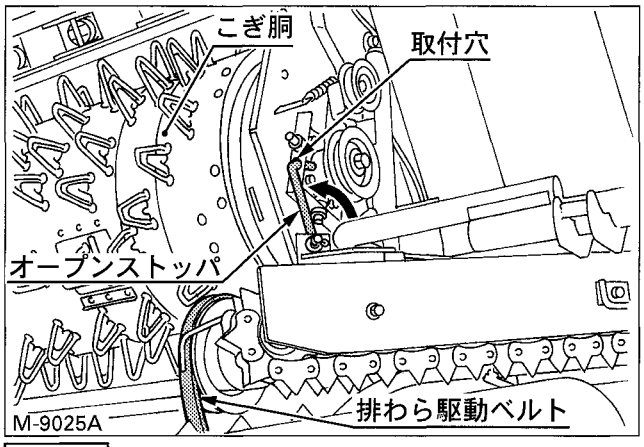
❸ロックハンドル前・後を上に上げます。

❹オープンハンドルを持って，こぎ胴カバーを押上げます。



❺こぎ胴のプーリ側から排わら駆動ベルトを外し，オープンストッパを取付穴に差込みます。





補　足

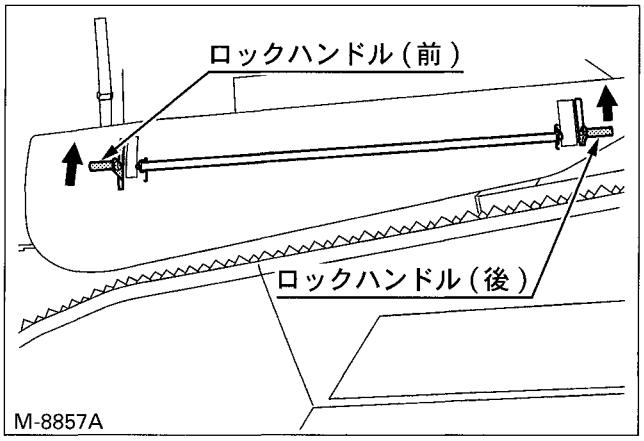
＊作物がこぎ胴で詰まり，ロックハンドル前・後を解除するのが困難(固い)な場合は，機体に装備しているロック解除レバーを使用して解除してください。

(198ページ参照)

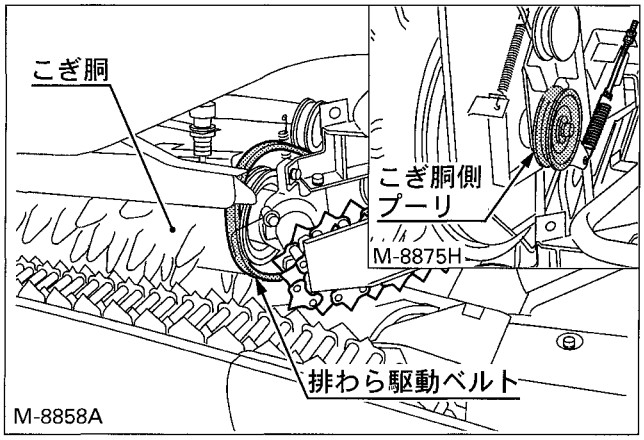
●【HD・SD仕様】

❸スイッチキーを**"入"**位置にします。

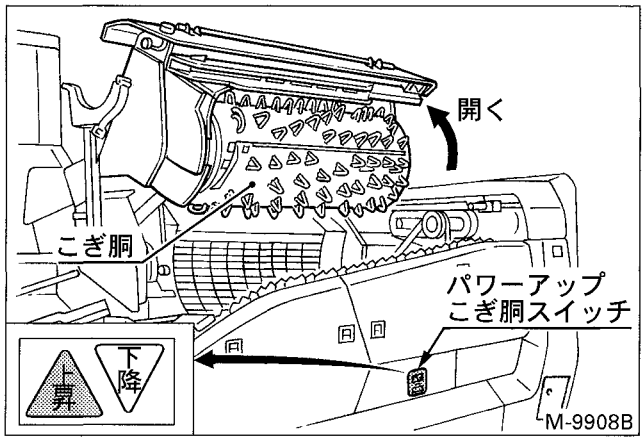
❹左補助デッキの中央部に乗り，ロックハンドル前・後を上げ，少しこぎ胴を開きます。



❺こぎ胴のプーリ側から排わら駆動ベルトを外します。



❻パワーアップこぎ胴スイッチの**"上昇"**を押してこぎ胴を開きます。



重　要

＊こぎ胴カバーが最上昇後もスイッチを押し続けるとシューと音が鳴ります。そのあともスイッチを押し続けると電動モータの故障の原因となります。

補　足

＊作物がこぎ胴で詰まり，ロックハンドル前・後を解除するのが困難(固い)な場合は，機体に装備しているロック解除レバーを使用して解除してください。

(198ページ参照)

◆閉じかた

●【DX仕様】

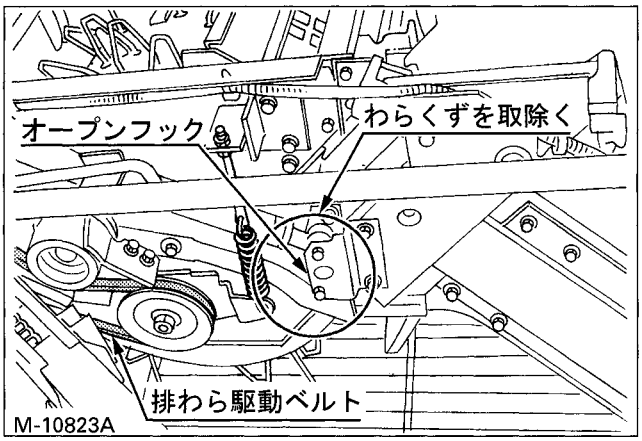
❶オープンストッパを取付穴から外します。

❷排わら駆動ベルトをプーリに掛けます。

重　要

＊ベルトを掛け忘れると故障の原因となります。

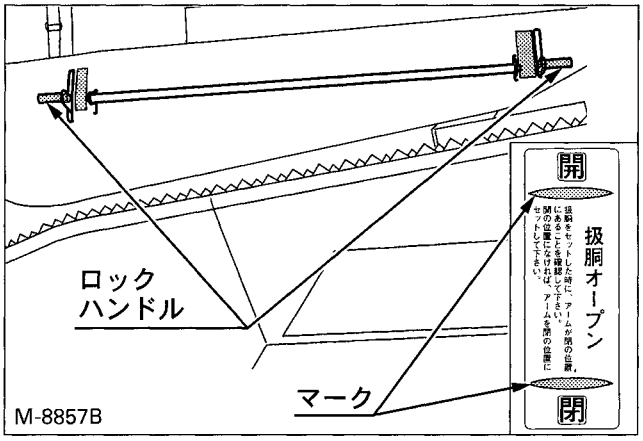
＊ベルトを掛けたあと，オープンフック上面及びローラ付近のわらくずを取除いてください。



❸オープンハンドルを持って，こぎ胴を押下げます。

重　要

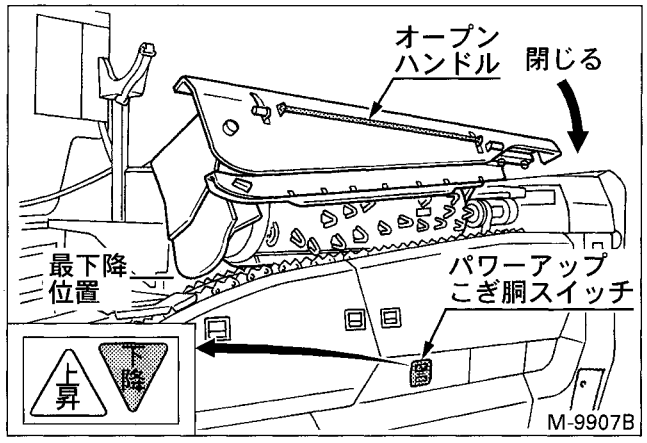
＊こぎ胴カバーを閉じたとき，ロックハンドル前，後の“⬭”マークが，ハンドル横の**“開”⟷“閉”**ラベルの**“閉”**の“⬭”マーク位置にあることを確認してください。**“閉”**の位置以外で作業を行なうと，こぎ室フレームが変形することがあります。



❹左補助デッキを収納したあと，アンローダを収納します。

●【HD・SD仕様】

❶パワーアップこぎ胴スイッチの**“下降”**を押して，こぎ胴を最下降するまで下げます。



重　要

＊こぎ胴が移動しなくなる位置まで下降すると，モータの作動音がシューと変わるので，その音を確認してから**“下降”**スイッチから手を離してください。最下降位置以外のときはこぎ胴を手で閉じることができません。また，無理に閉じると変形する原因となります。

補　足

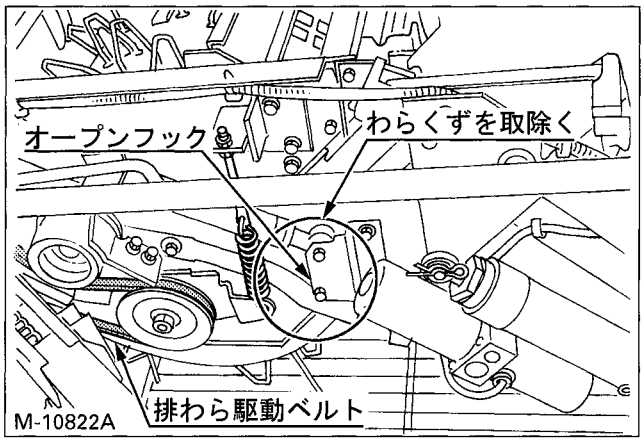
＊こぎ胴が最下降位置にないと，こぎ胴を手で押さえ込んで閉じることができません。

❷排わら駆動ベルトをプーリに掛けます。

重　要

＊ベルトを掛け忘れると故障の原因となります。

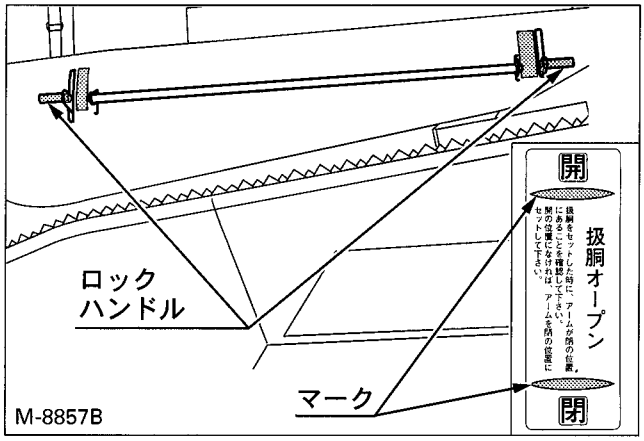
＊ベルトを掛けたあと，オープンフック上面及びローラ付近のわらくずを取除いてください。



❸オープンハンドルを持って，こぎ胴を押下げます。

重　要

＊こぎ胴カバーを閉じたとき，ロックハンドル前，後の“⬭”マークが，ハンドル横の**“開”⟷“閉”**ラベルの**“閉”**の“⬭”マーク位置にあることを確認してください。**“閉”**の位置以外で作業を行なうと，こぎ室フレームが変形することがあります。



❹左補助デッキを収納したあと，アンローダを収納します。

❺スイッチキーを**“切”**位置にします。

■カッタオープン

警　告

＊カッタを開いているときは，カッタの刃先に注意してください。

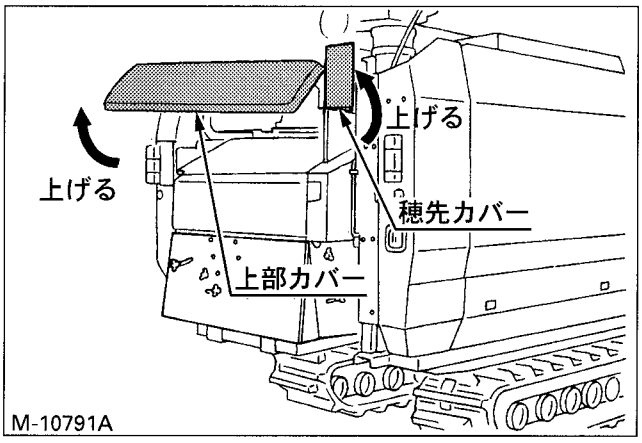
注　意

＊傾斜地では，カッタを開閉しないでください。

＊カッタをオープンして掃除をするときは，オープンスットパで必ず固定してください。

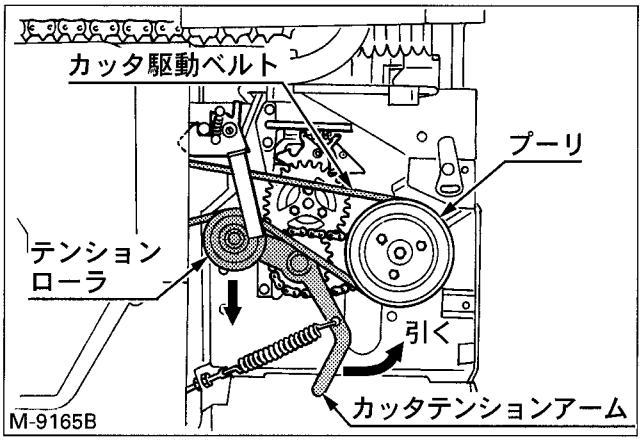
◆開きかた

❶上部カバーを上げたあと，穂先カバーを上げます。

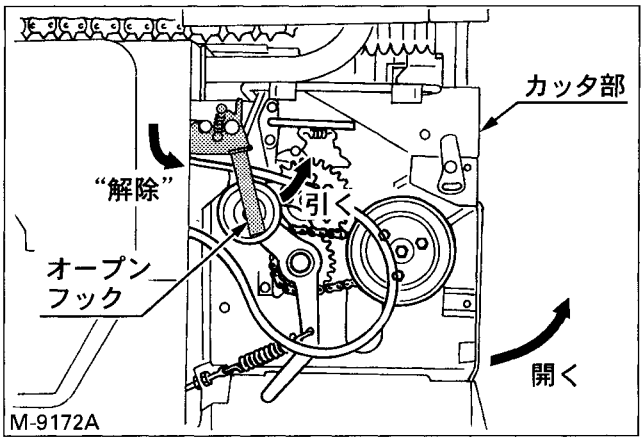


❷取手を引いてカッタ左サイドカバーを外します。
(109ページ参照)

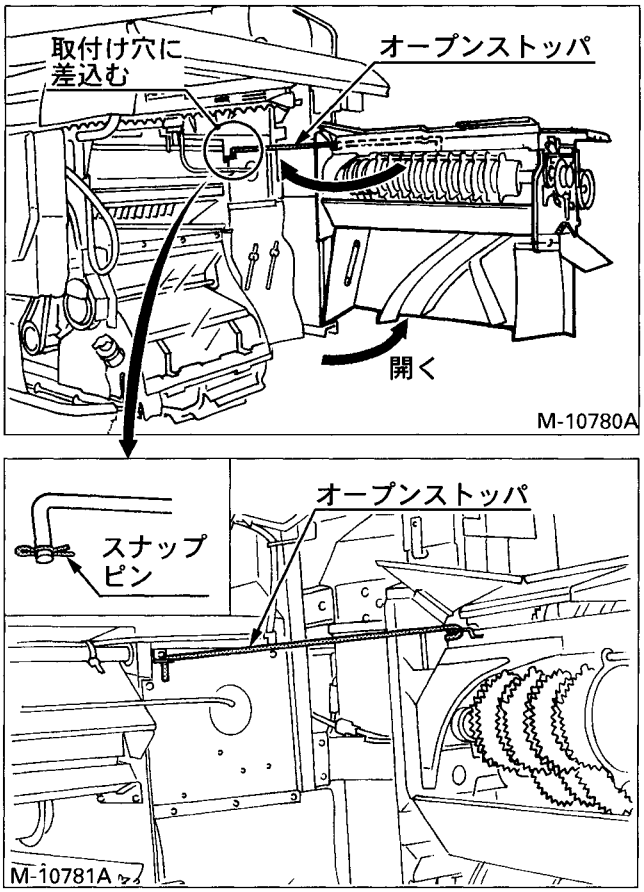
❸カッタテンションアームを引き，テンションローラを下げて，カッタ駆動ベルトをプーリから外します。



❹オープンフックを引き，カッタ部を開きます。



❺カッタ部を開いた(オープン)あと，オープンストッパを脱こく側の取付け穴にスナップピンを取外して差込んだあと，スナップピンを取付けます。



◆閉じかた

開き方と逆の手順で閉じます。

重　要

＊カッタ部を閉じたあとは，オープンフックが確実にロックされていることを確認してください。

＊ベルトをオープンフックの下側を通してください。掛け間違えると破損の原因となります。

■シーブケースの脱着

注　意

＊脱着作業は，合図を掛け合って３人以上で行なってください。

◆抜出しかた

●【DX仕様】

❶カッタをオープンします。

❷シーブケースを引出す準備をします。

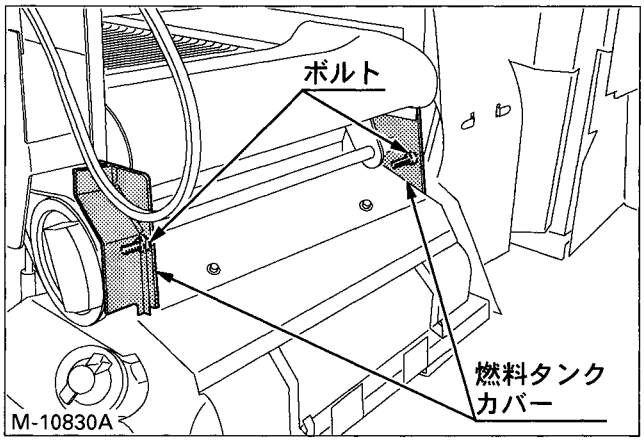
(1)後ろカバーハンプを固定しているクランプ３箇所を解除します。

(2)後ろカバーハンプをめくった状態で，チャフ操作ワイヤの垂直側終端部を連結しているスナップピンを外し，座金と共にワイヤをチャフ操作金具から外します。

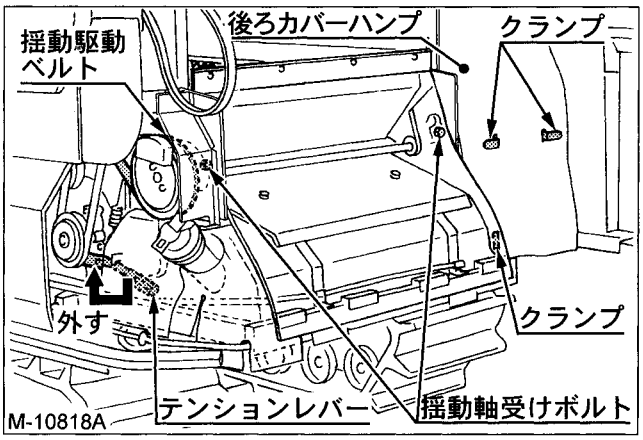
(3)ボルト２本を取外し，チャフ操作ワイヤ取付台を外し，シーブケースの上にのせます。

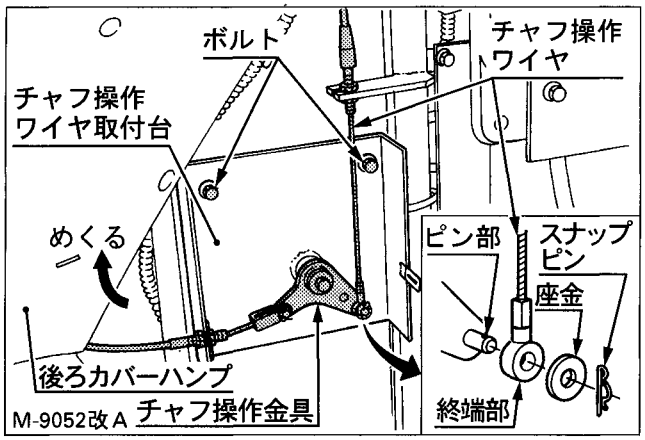
(4)テンションレバーを解除し，揺動駆動ベルトを外します。

(5)ボルトを取外して燃料タンクカバー左，右を外します。



(6)揺動軸受けのボルト(２本)を外します。





●【HD・SD仕様】

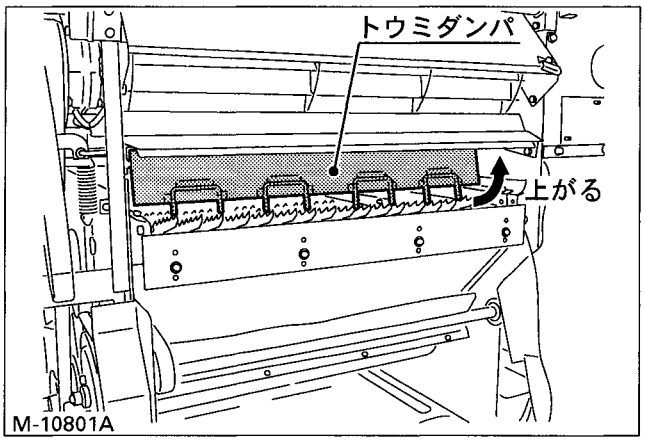
❶トウミダンパを上げます。【98】

(1)エンジンを始動し，脱こく・刈取クラッチレバーを“脱こく”位置にします。

(2)**濡／麦／稲**切換えスイッチを“濡”位置にします。

(3)エンジンを停止します。

❷カッタをオープンしトウミダンパが上がったことを確認します。

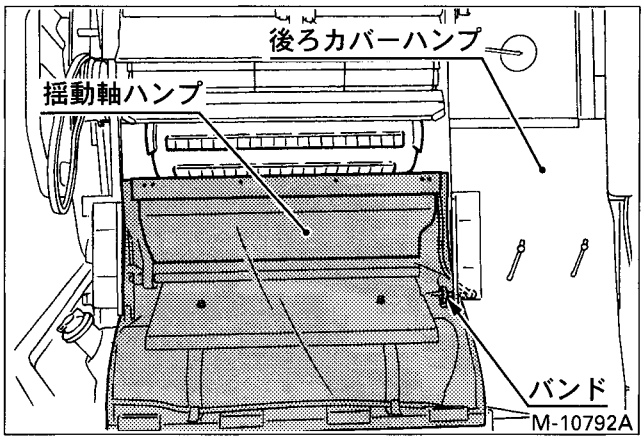


重 要

＊トウミダンパが下がっている状態でシーブケースの脱着を行なうと，シーブケース破損の原因となります。

❸シーブケースを引出す準備をします。

(1)揺動軸ハンプと後ろカバーハンプを固定しているバンドを取外します。



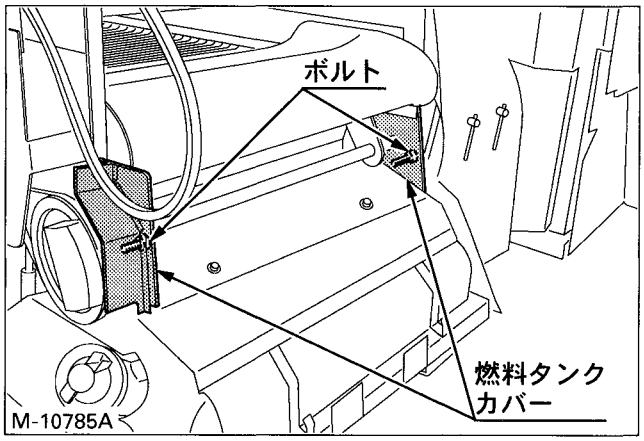
(2)ハーネスのカプラを外します。

(3)チャフ操作台取付けボルト(２本)を外します。

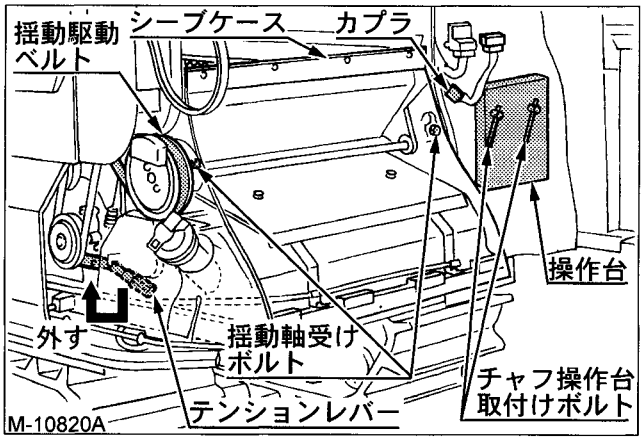
(4)チャフ操作台をシーブケースの上にのせます。

(5)テンションレバーを解除し，揺動駆動ベルトを外します。

(6)ボルトを取外して燃料タンクカバー左，右を外します。

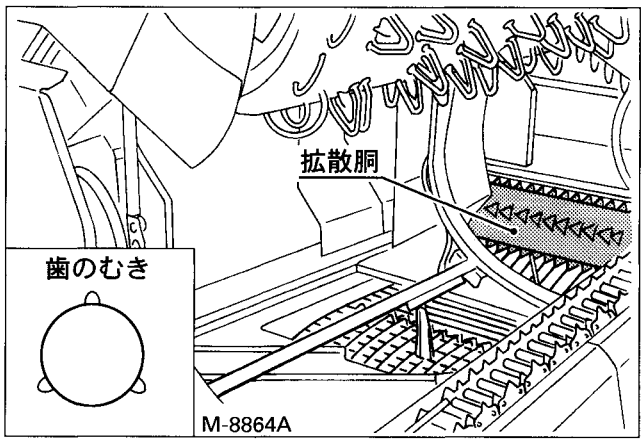


(7)揺動軸受けのボルト(２本)を外します。

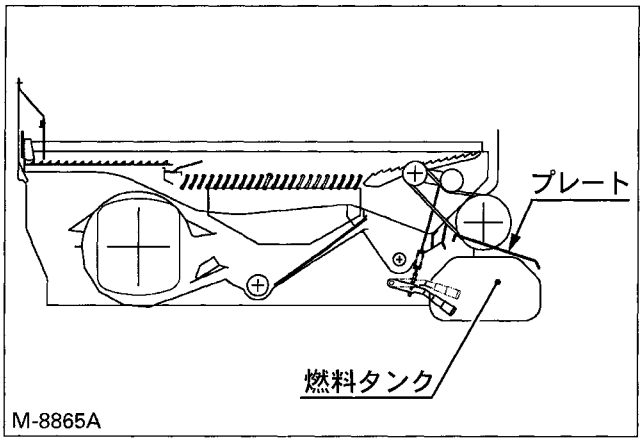


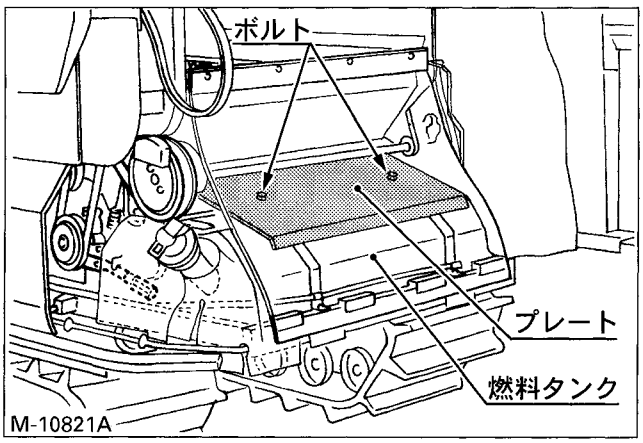
❹こぎ胴をオープンします。

❺こぎ胴を手で回転させて拡散胴の歯の向きを図のようにします。

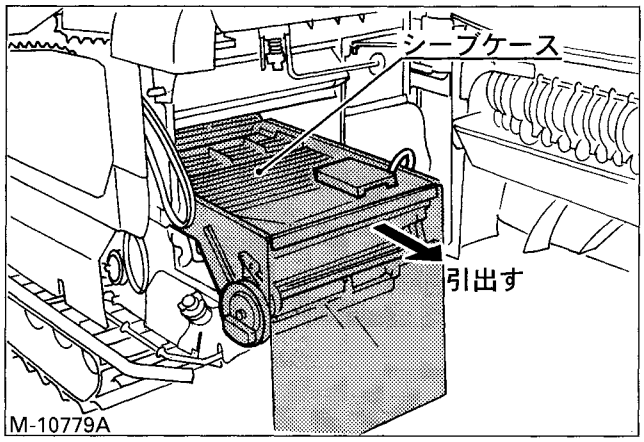


❻燃料タンク上にあるプレートのボルト２本を取外し，プレートを外します。





❼シーブケースを引出します。

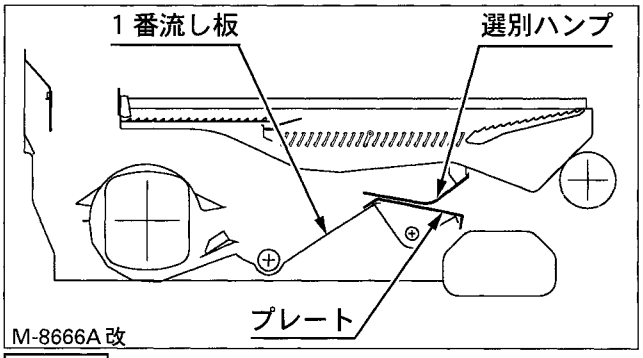


◆取付けかた

❶シーブケースの上にチャフ操作ワイヤ取付台**【DX仕様】**又は，チャフ操作台**【HD・SD仕様】**をのせます。

❷拡散胴の歯の向きを合せます。

❸選別ハンプを１番流し板にセットするために**抜出しかた**の❻の工程で取外したプレートを下図のようにセットします。



補　足

＊プレートは正しく取付けてください。

❹シーブケースの両サイドのベアリングをレールに乗せシーブケースをそう入します。

❺プレートを取外したあと，燃料タンク上にボルト２本でプレートを取付けます。

重　要

＊プレートを取忘れたまま脱こく部を動かすと，シーブケース及びプレートが破損するおそれがあります。

❻揺動軸受けのボルトを締付けます。

❼燃料タンクカバー左，右をボルトを締付けて取付けます。

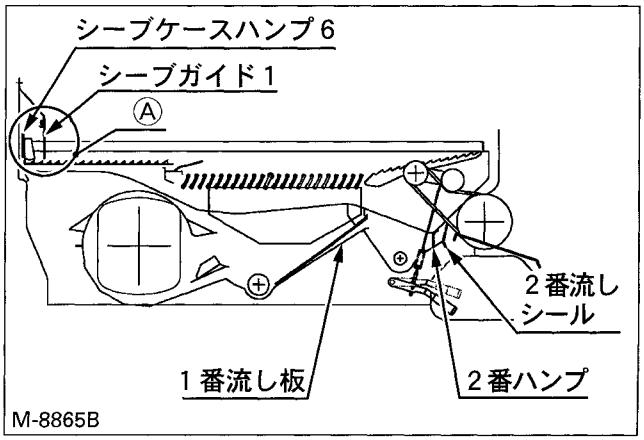
❽揺動駆動ベルトを掛けて，テンションレバーをセットします。

補　足

＊揺動軸プーリを回転させ，ウエイトを最下部にセットしてください。

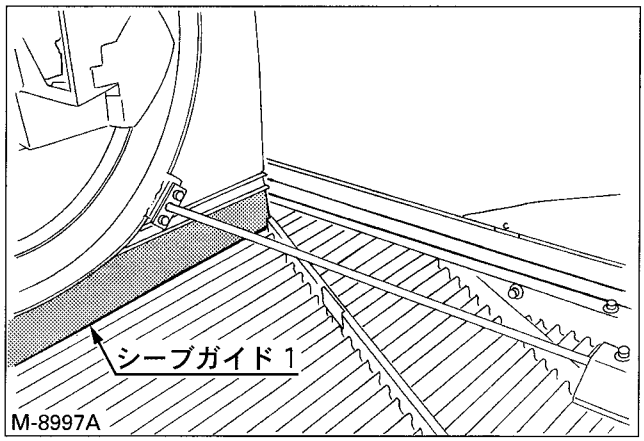
＊２番流しシールは後方(外側)へ引張り出してください。

＊こぎ胴をオープンして，こぎ胴受けあみを外し，Ⓐ部のハンプを下記の図のように組付けてください。



●A部のハンプの組付け

シーブガイド１はシーブケースハンプ６の後方へ引張り出してください。



●【DX仕様】

❾チャフ操作ワイヤを取付けます。

(1)後ろカバーハンプをめくった状態で，チャフ操作ワイヤ取付台をボルト２本で本機に取付けます。

(2)チャフ操作ワイヤの垂直側終端部を，チャフ操作金具のピン部に座金と共に取付けたあと，スナップピンを取付けて連結します。

(3)後ろカバーハンプを３箇所のクランプを折曲げて，後ろカバーハンプを固定します。

●【HD・SD仕様】

❾チャフ操作台を取付けます。

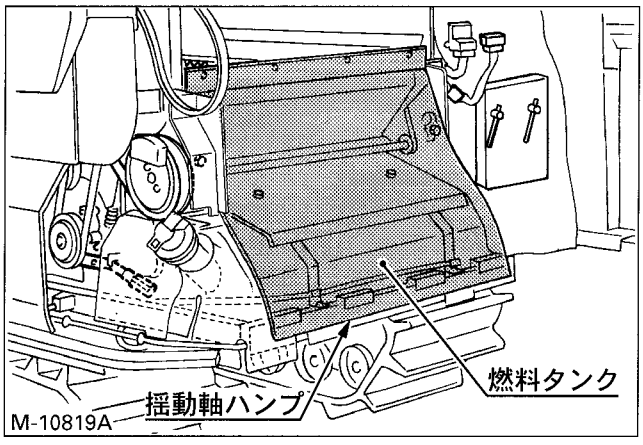
(1)ワイヤハーネスとリレーのカプラを接続します。

(2)チャフ操作台をボルトで締付けます。

重　要

＊後ろカバーハンプは，チャフ操作台取付けボルトで共締めしてください。

❿揺動軸ハンプが燃料タンクの後ろ側に垂れ下がっていることを確認します。

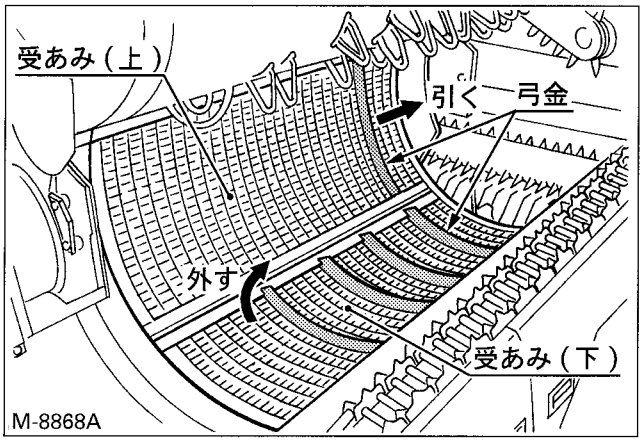


■受あみの脱着

❶こぎ胴をオープンします。(100ページ参照)

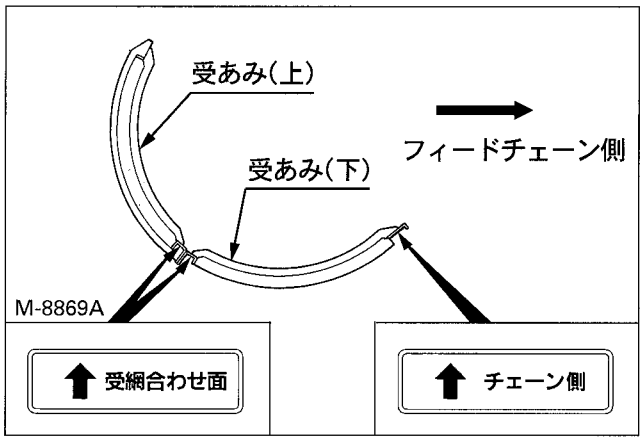
❷受あみ(上)の弓金を手前に引いて取外し，受あみ(下)も同じように，引上げて取外します。

❸取付けるときは，逆の手順で受あみ(下)から取付けます。



重　要

＊取付けたときに受あみ(上)，(下)の間にすき間があったり，受あみ(上)，(下)を逆に組付けると，脱こく部の故障の原因となります。組付けるときは，下図のように受あみ(上)，(下)の誤組付を防止するための取付方向ラベルを確認して取付けてください。

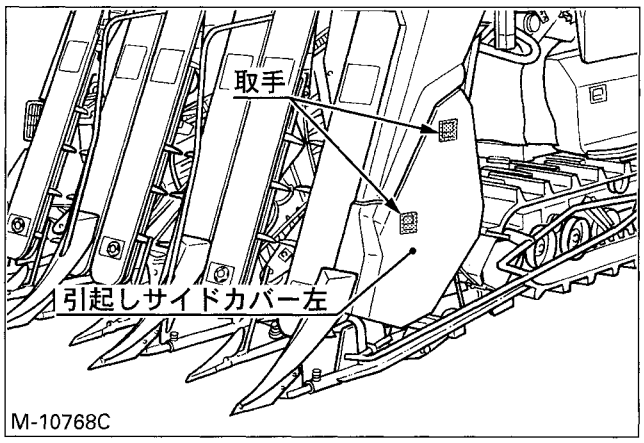


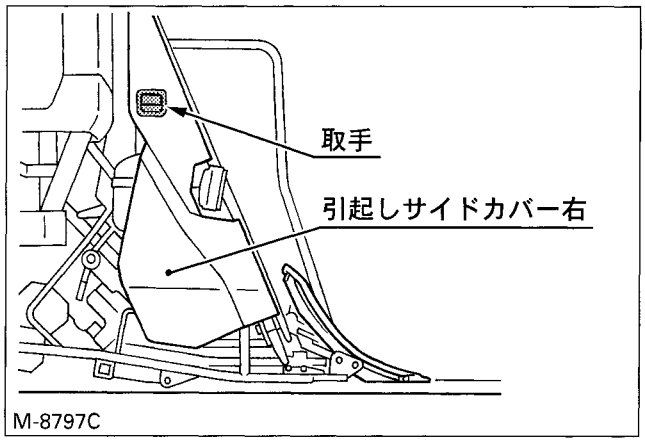
■引起しサイドカバー右・左の脱着

刈取部を地面に接地させて行なってください。

◆取外しかた

取手を引いて取外します。





◆取付けかた

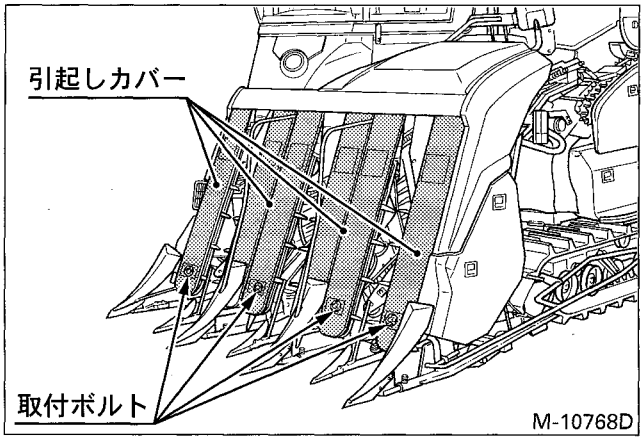
引起し爪を全て上側に倒したあと，引起しサイドカバーを取付けます。

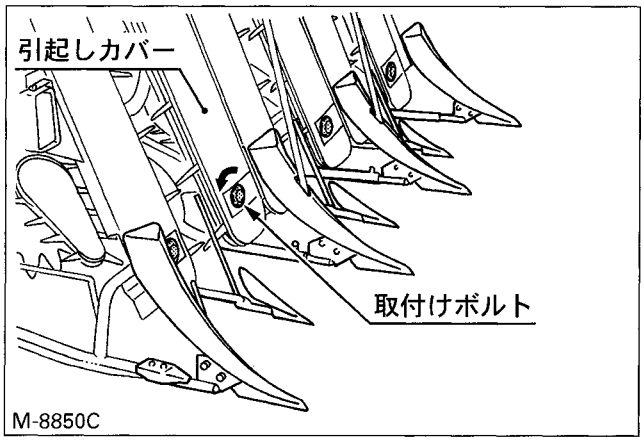
■引起しカバーの脱着

刈取部を地面に接地させて行なってください。

◆取外しかた

取付けボルトを外したあと，引起しカバーを少し持上げて取外します。



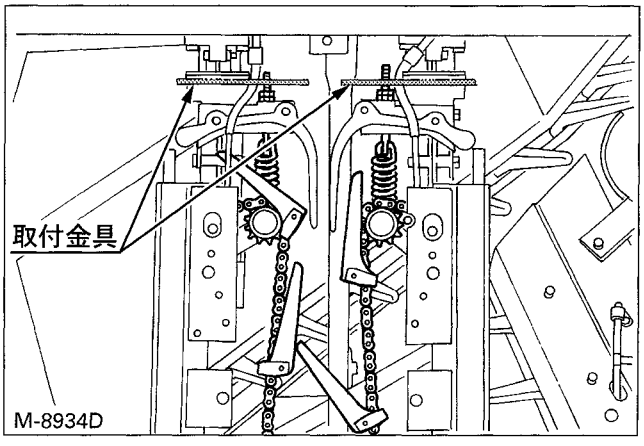


◆取付け方

引起しカバーを取付けて取付けボルトを締付けてロックします。

補　足

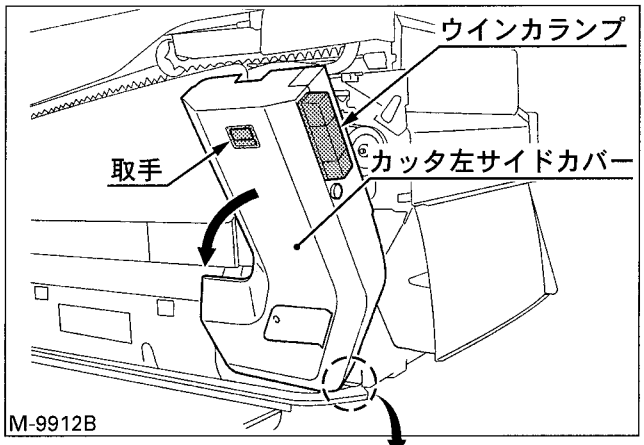
＊引起しカバーを取付けるとき，上部にある取付金具に引掛けてください。

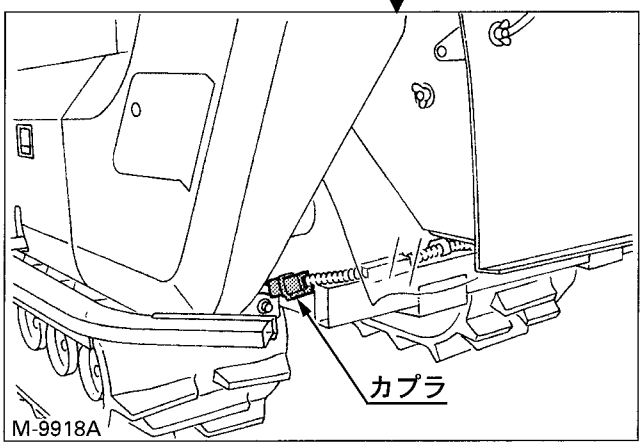


■カッタ左サイドカバーの脱着

◆取外しかた

❶燃料タンク(給油口)左下にあるウインカランプ・車幅灯・制動灯・後退灯のワイヤハーネスのカプラを外します。





❷取手を引き，カッタ左サイドカバーを取外します。

◆取付け方

取外し方の逆の手順で取付けてください。

■運転席下カバー及び運転席下側板の脱着

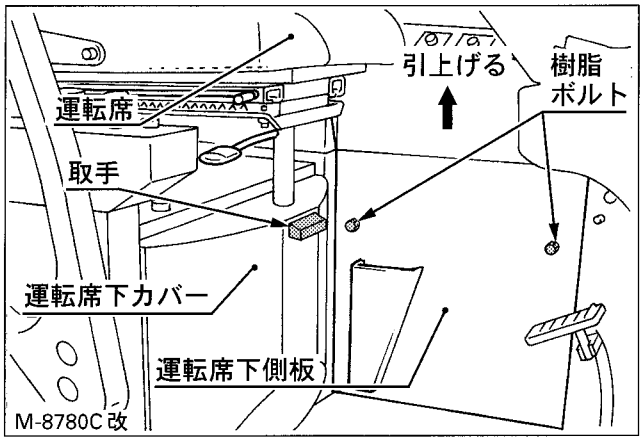
◆取外しかた

●運転席下カバー

取手を引いて外します。

●運転席下側板

樹脂ボルト２本を取外し，側板を引上げて外します。



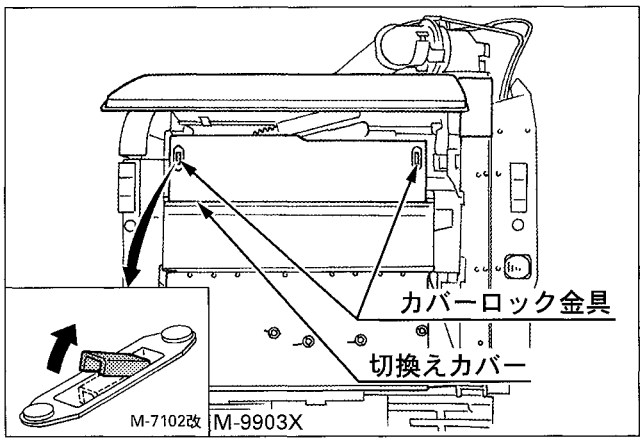
◆取付けかた

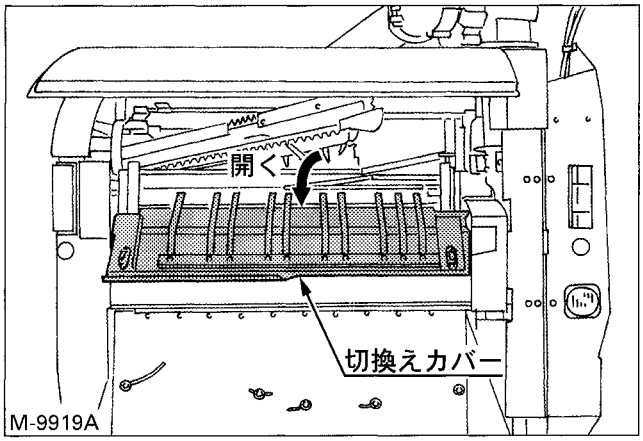
取外しかたと逆の手順で取付けます。

■カッタ切換えカバーのオープン

◆開きかた

カバーロック金具を引き，切換えカバーを後方へ倒して開いてください。





◆閉じかた

切換えカバーを閉じたあと，カバーロック金具を確実にロックしてください。

補　足

＊切換えカバーを開けたままでは，エンジンをかけても脱こく・刈取クラッチレバーを**“入”**位置にするとエンジンが止まります。点検・掃除後は，必ずカバーロック金具を引きながら切換えカバーを閉め，カバーロック金具を確実にロックしてください。

■グレンタンクオープン

注　意

＊グレンタンク開閉範囲内に人がいないことを確認してください。

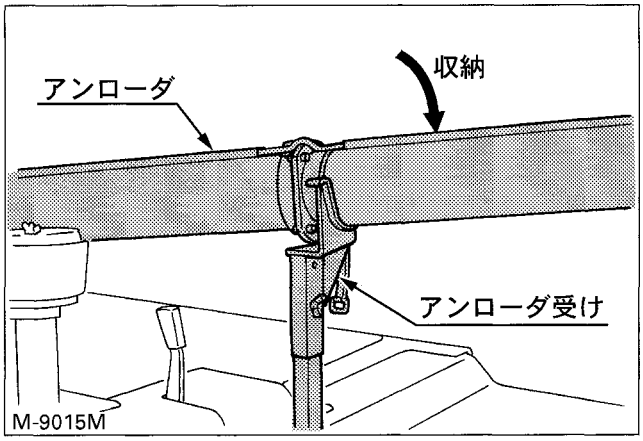
＊傾斜地では，グレンタンクを開閉しないでください。

◆開きかた

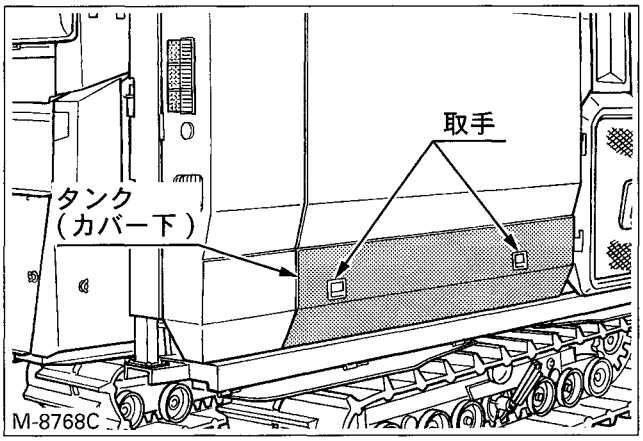
❶グレンタンク内に残っているもみは，すべて排出します。(75ページ参照)

❷主変速レバーを**“停止”**位置にし，脱こく・刈取クラッチレバーを**“切”**位置にします。

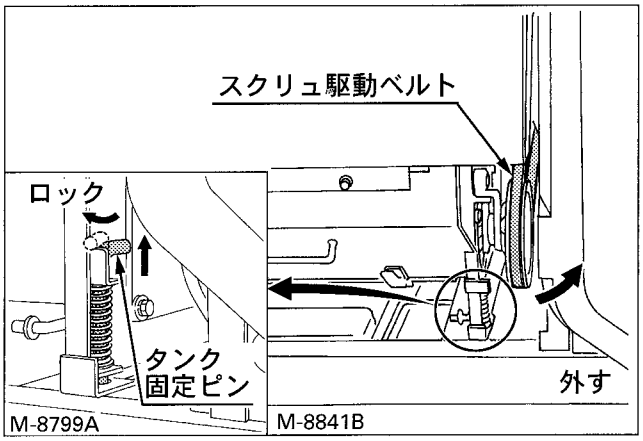
❸アンローダをアンローダ受けに収納し，エンジンを停止します。



❹取手を引き，タンク(カバー下)を外します。

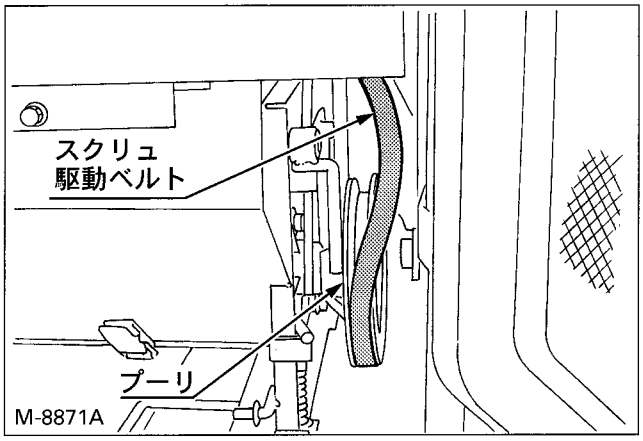


❺グレンタンク固定ピンを引いたあとロックし，スクリュ駆動ベルトを外します。

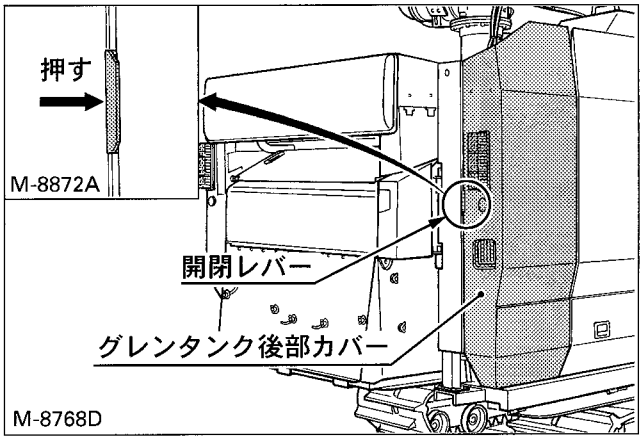


補　足

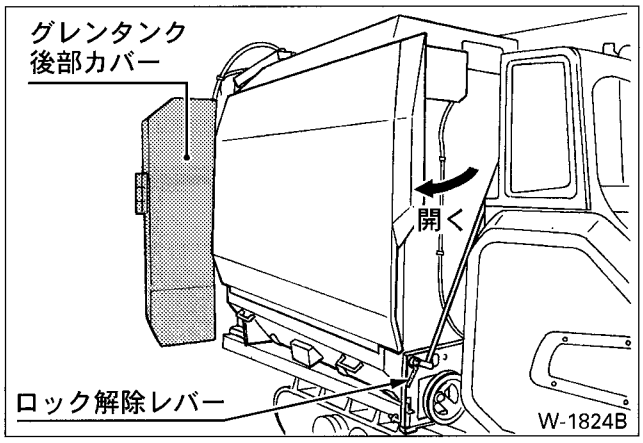
＊スクリュ駆動ベルトを外すときは，下図のようにプーリの上側から徐々に外してください。



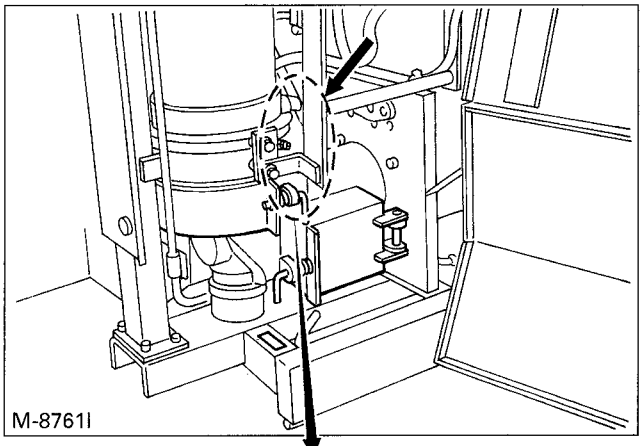
❻グレンタンク後部カバーを開きます。開くときは，開閉レバーを強く押します。

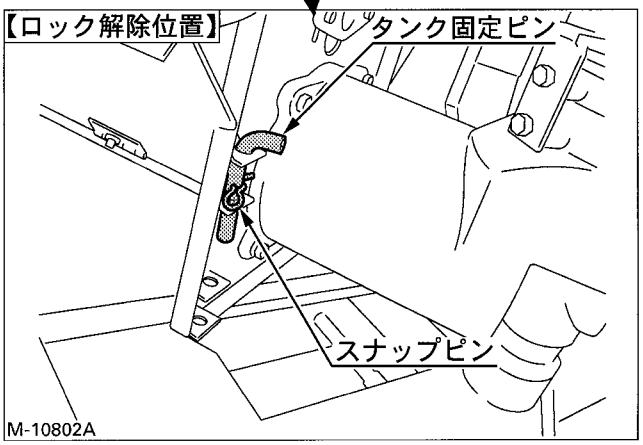


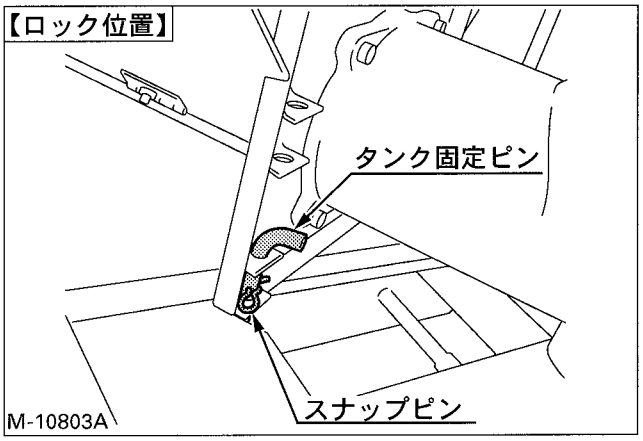
❼ロック解除レバーを引いてグレンタンクを開きます。



❽タンク後方に取付けてあるタンク固定ピンのスナップピンを外して，ロック位置の穴にタンク固定ピンを差込んだあと，スナップピンを取付けてタンクを固定します。







◆閉じかた

開き方と逆の手順で閉じます。

補　足

＊スクリュ駆動ベルトは確実に掛けてください。ベルトが掛かっていないと，もみを排出しません。

＊グレンタンクのロックや固定ピンの差込みは確実に行なってください。

各部の掃除と注油のしかた

機械の故障などトラブルが発生しないように，各部の手入れをじゅうぶん行なってください。

警　告

＊エンジンを必ず止めてください。

＊取外したり，オープンした回転部のカバー類は衣服などが巻込み危険ですので必ず取付けてください。

＊各搬送チェーンやカッタ刃には注意してください。ケガをするおそれがあります。

注　意

＊刈取部を上げた状態で作業するときは，刈取下降ロック装置で必ずロックしてください。さらに枕木などを使用して落下防止の歯止めをしてください。

＊空運転するときには必ずこぎ胴をセットして，カッタを閉じてください。

＊オイルがこぼれた場合は，きれいにふき取ってください。(クローラなどのゴム製品が劣化します。)

＊バッテリ，マフラやエンジン・燃料タンク周辺部にごみや燃料の付着，泥の堆積などがあると火災の原因になることがありますので，取除いてください。

＊刈刃やカッタの掃除・注油時は，手袋を着用し刃部に注意しながら行なってください。

重　要

＊水洗いするときは，電装品に水をかけないようにしてください。故障の原因になります。

＊掃除口を閉じるときは，掃除口にもみの付着がないことを確めてから閉じてください。また，掃除の後，ふたを忘れるともみが飛散します。

＊機内はよく乾燥させてから掃除してください。濡れているともみが機内に付着して残留もみが多くなります。

＊湿田で作業したあとは，必ずクローラ部分の泥を取除いてください。

＊取外したボルト・ナットは，必ず締付けてください。

■各部の掃除

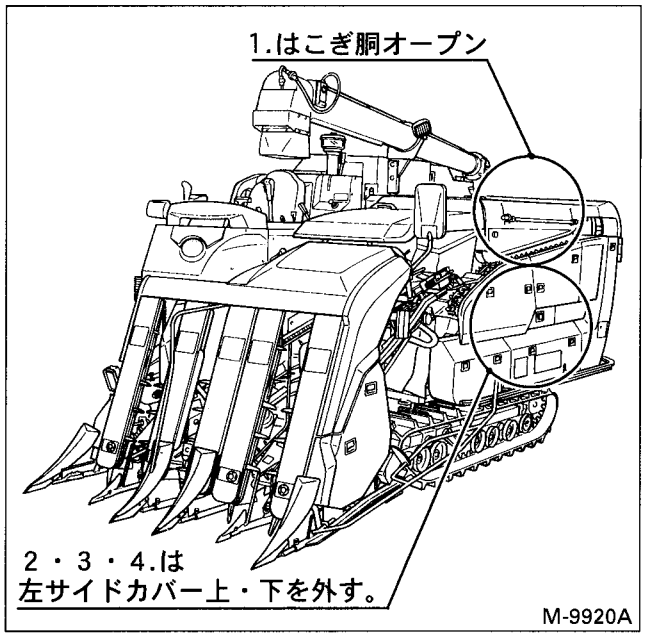
品種や稲・麦の混合を避けたいときや収穫シーズンが終わったときには，機内の残留こく粒をきれいに取除いておきましょう。

◆掃除のしかた

刈取作業が終わり，もみの排出がすべて終わったあと脱こく部を約３分間空運転します。そのあと，いったん機体各部を収納状態(53ページ参照)にし，脱こく・刈取クラッチレバーを**"切"**位置にしてエンジンを止めます。

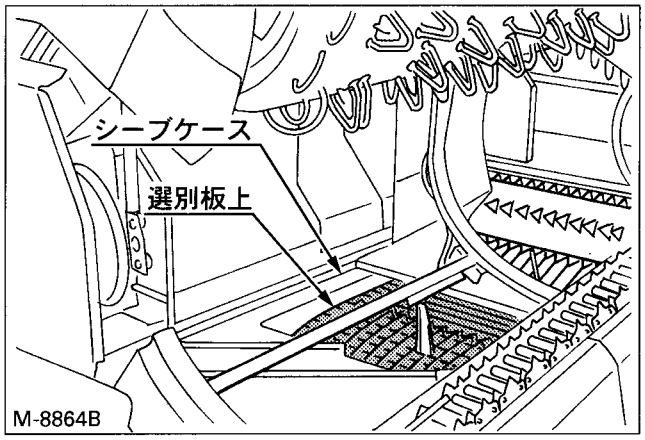
掃除をするときには，各部をオープン(開閉)又は，掃除口を開いてください。

◆掃除箇所



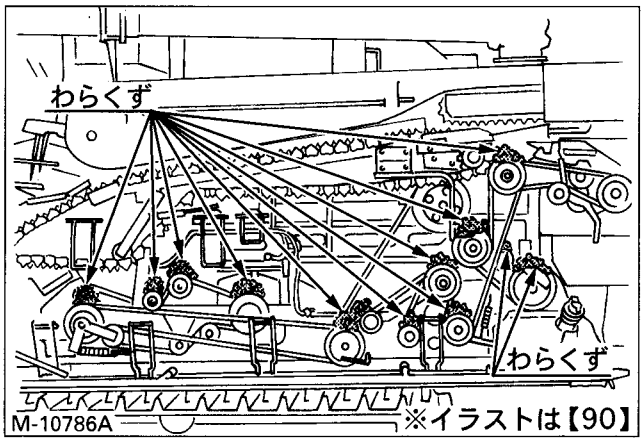
1. 脱こく部内(シーブケース選別板上)

受あみ(上，下)を取外してください。



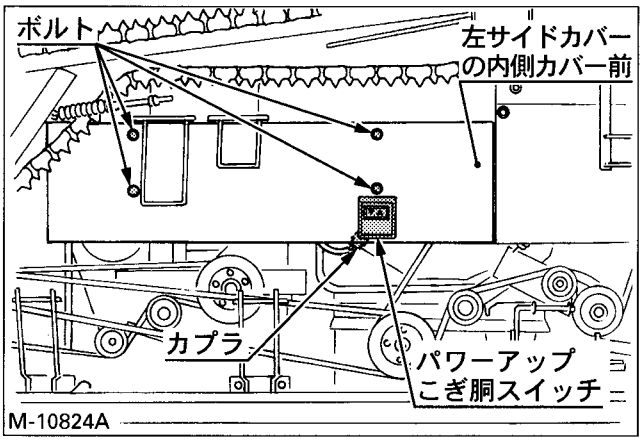
2. ベルトカバー内

左サイドカバー上１，上２，下１，下２，カッタ左サイドカバーを外したあと，左サイドカバーの内側カバー３箇所を取外してください。



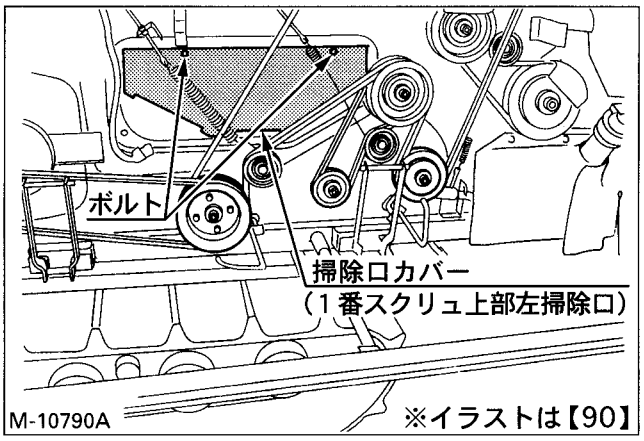
補　足 【HD・SD仕様】

＊左サイドカバーの内側カバー前を取外すときは，パワーアップこぎ胴スイッチのハーネスのカプラを外したあと，ボルト４本を取外してください。



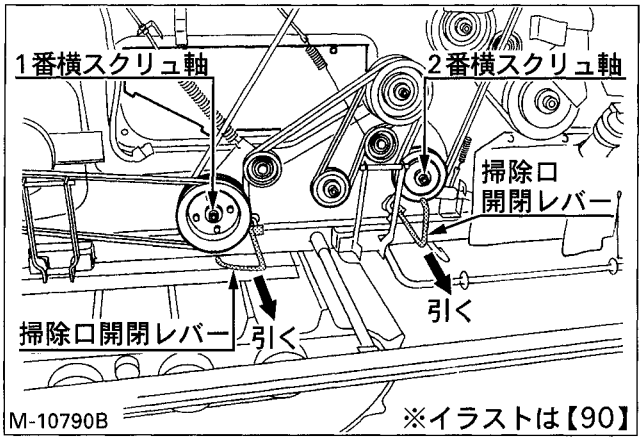
3. １番スクリュ上部左掃除口

ボルト２本を取外し，１番スクリュ上部の掃除口カバーを取外してください。



4. 1・2番横スクリュ下部掃除口

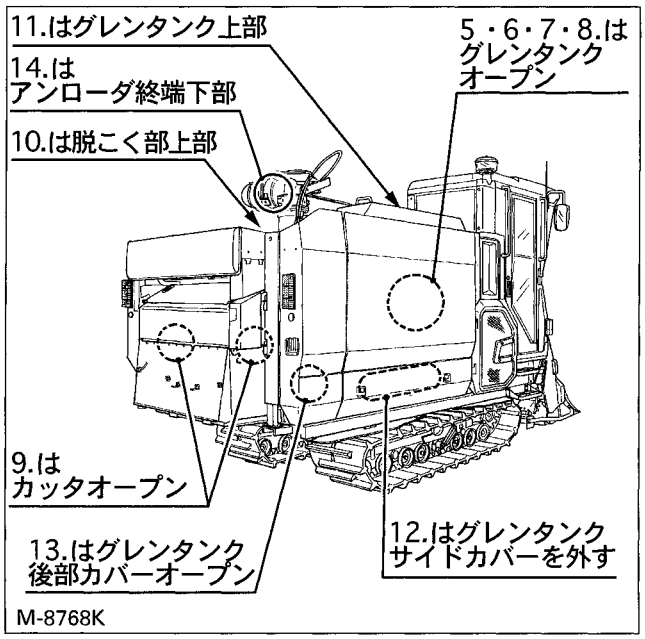
掃除口開閉レバーを引いて，1・2番横スクリュ下部にある掃除口の開閉カバーを開いてください。



補　足

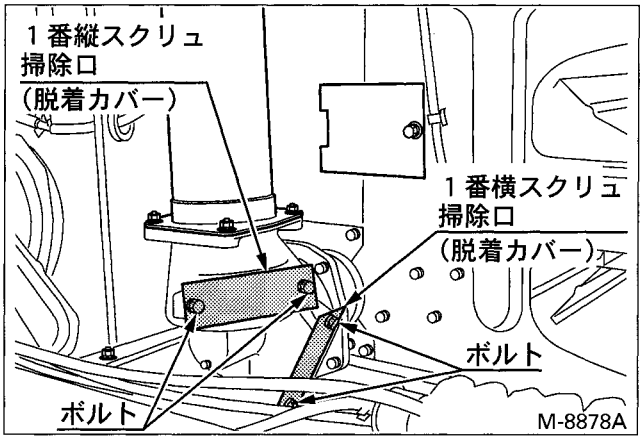
＊掃除口開閉レバーは2～3回繰り返して押し引きしてください。

＊掃除口の開閉カバーは横スクリュ軸下側にあります。



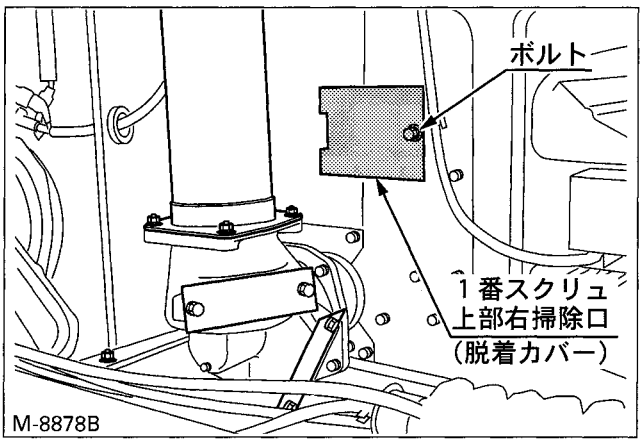
5. 1番縦・横スクリュ掃除口

1番縦・横スクリュ掃除口のボルト各2本を取外し，掃除口カバーを外してください。



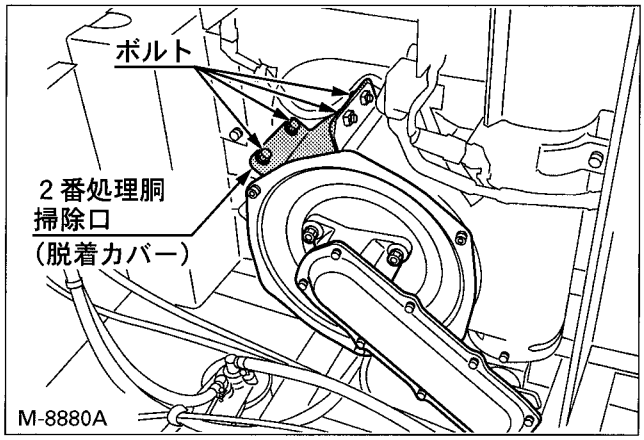
6. 1番スクリュ上部右掃除口

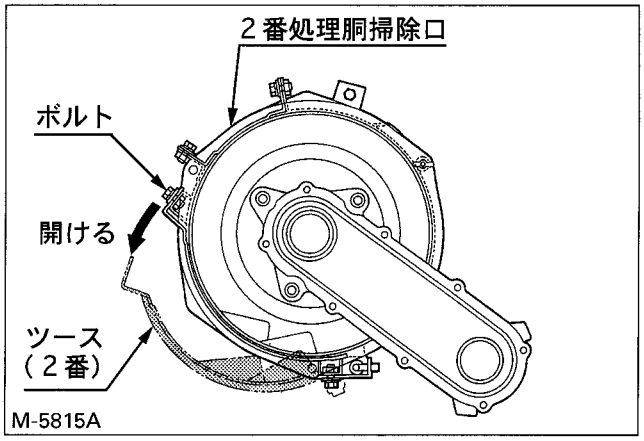
ボルトを取外し，1番スクリュ上部の掃除口カバーを取外してください。



7. 2番処理胴(ツースバー)・ツース(2番)掃除口

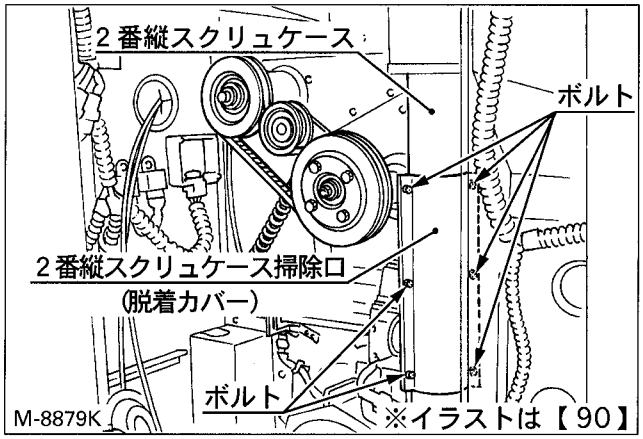
ボルト4本を取外して2番処理胴の掃除口カバーを取外してください。また，ボルト2本を取外してツース(2番)を開けてください。





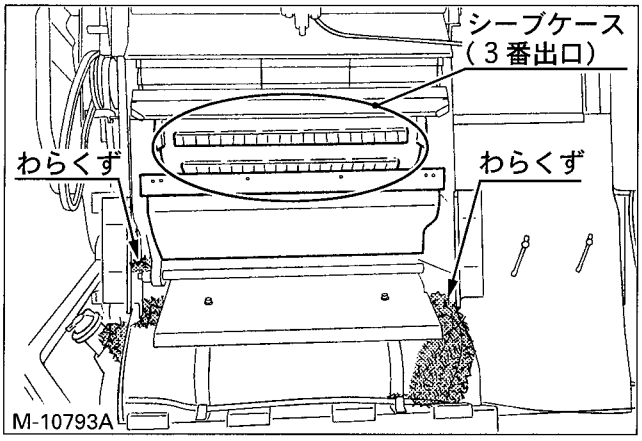
8. 2番縦スクリュケース掃除口

ボルト6本を取外して2番縦スクリュケースの掃除口カバーを取外してください。



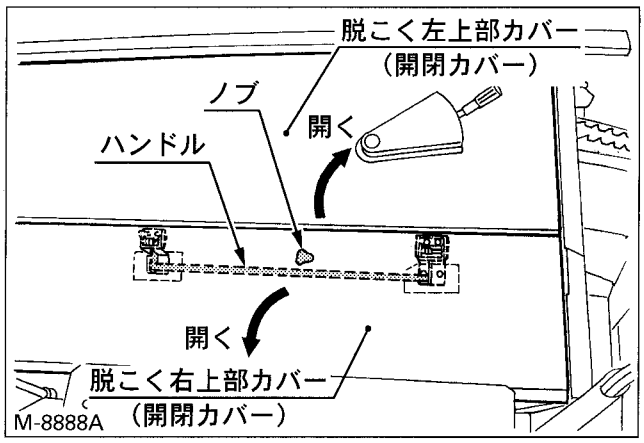
9. シーブケース後部(3番出口)

カッタをオープンしてください。



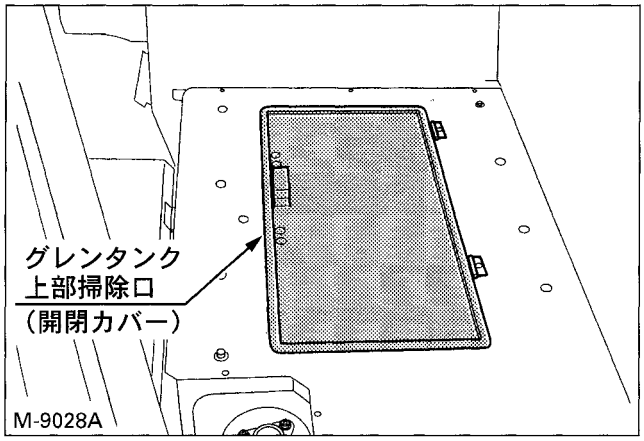
10. こぎ室内

脱こく右上部カバーのノブを持上げて開閉カバーを開き，脱こく左上部カバーのハンドルを持上げて開閉カバーを開きます。



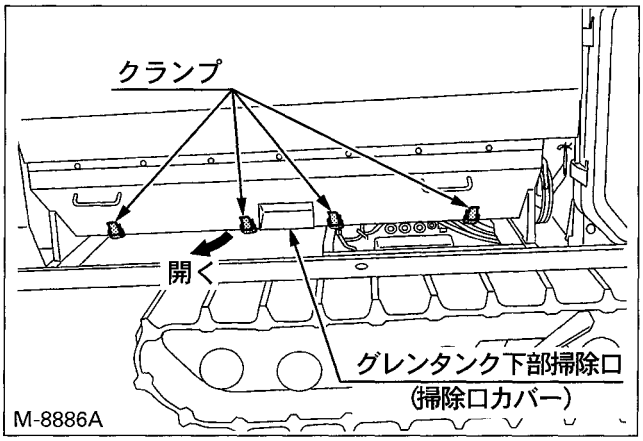
11. グレンタンク内

開閉カバーを開いてください。



12. グレンタンク下部掃除口

クランプ４本を取外すと，掃除口カバーが開きます。

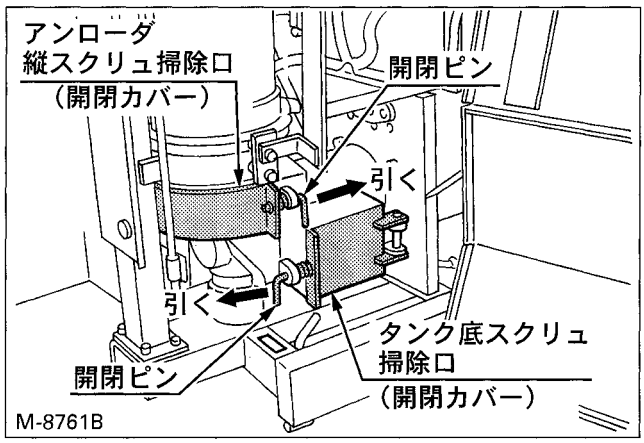


重　要

＊タンク下部掃除口を開いた状態で，グレンタンクオープンをしないでください。掃除口カバーが変形するおそれがあります。

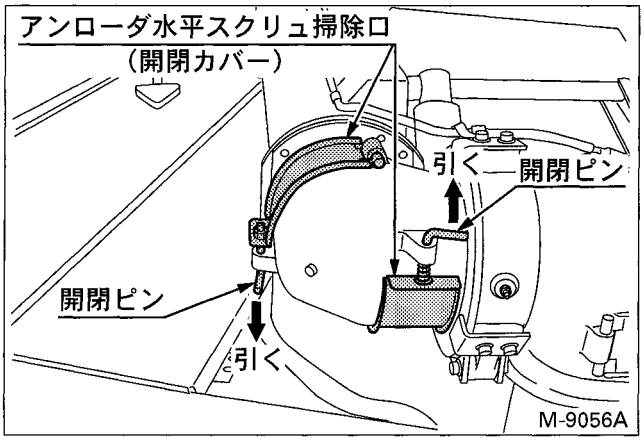
13. アンローダ縦スクリュ・タンク底スクリュ掃除口

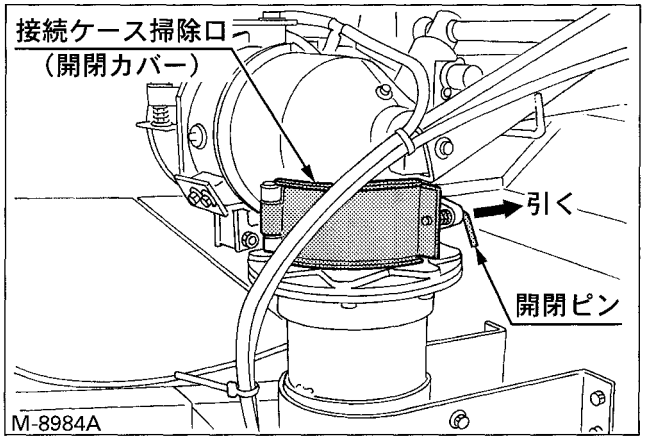
スクリュ掃除口の開閉ピンを引いて開閉カバーを開いてください。



14. アンローダ水平スクリュ・接続ケース掃除口

アンローダをいっぱいまで上昇させてから，アンローダ水平スクリュ及び接続ケース掃除口の開閉ピンを引いて開閉カバーを開いてください。





■各部の注油

機体各部の掃除が終わったあと又は，刈取作業を始める前には各部の注油やグリースの塗布を行なってください。

◆自動集中注油装置による注油

自動集中注油装置の注油スイッチを押して各作動部(刈刃や各チェーン)に注油してください。

補　足

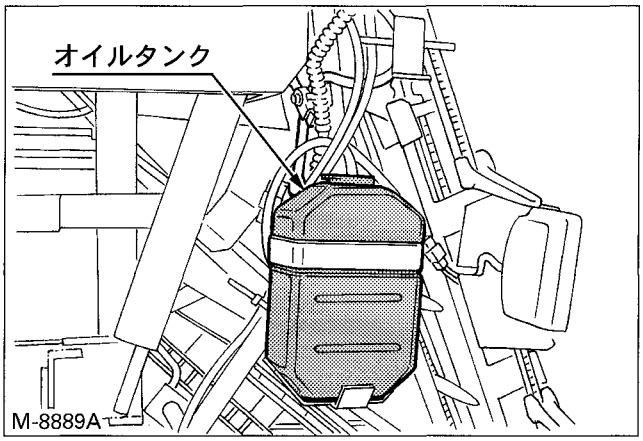
＊気温が10℃以下になると均等に注油されなくなります。寒い地域では，気温の上がる昼間に注油してください。

＊各チェーン部に巻付いたわらくずやごみは注油の前にきれいに取除いてください。

●注油のしかた

❶平たんな場所に刈取部を地面から５～15cmの位置にしたあと，エンジンを停止します。

❷引起しサイドカバー右を取外し，オイルタンクのオイル量を確認して不足しているときは補給します。



重　要

＊指定のオイル以外は使用しないでください。また，廃油などゴミの混入しているオイルを使用すると，ノズルの詰まりやバルブ不良の原因となります。

オイルの種類	オイルタンク容量
クボタ純オイル D10W30又は，D30	約４L

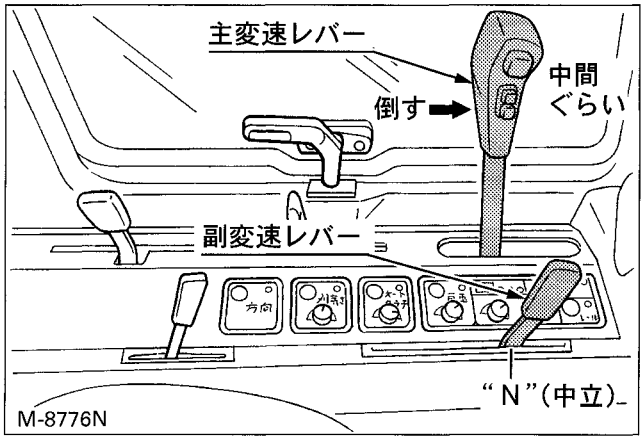
❸エンジンを再始動したあと，エンジン回転数を中速回転(約2000rpm)にし，脱こく・刈取クラッチレバーを**“入”**位置にして刈取部・脱こく部を動かします。

補　足

＊チェーンは中速回転で注油してください。その際，２番警報が出ますが，異常ではありません。

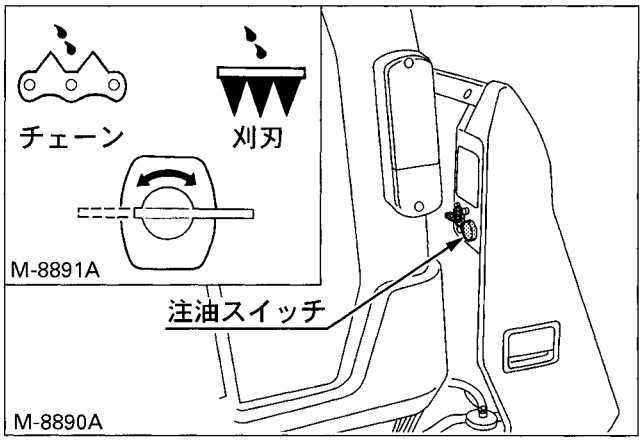
＊注油したときチェーンが停止していると，オイルが1箇所に集中するため，ベルトやカバーにオイルが付着したり，チェーンのスリップの原因となります。

❹副変速レバーを**“N”(中立)**位置にしたあと，駐車ブレーキを解除して主変速レバーを前進側へ中間の位置ぐらいまで倒します。



❺切換えコックの位置を確認(**チェーン**位置/**刈刃**位置)して注油スイッチを押します。注油は切換えコックを切換えて各部チェーン・刈刃の両方共に行ないます。

- チェーン位置…７～10秒間**連続**で押す。
- 刈刃位置……５～７秒間**断続**で押す。



重　要

＊オイルタンク内のオイルが空の状態で注油スイッチを押すとポンプモータの故障の原因となります。
＊万一ポンプとオイルタンク間のホースにエアが入り，注油スイッチを押してもオイルが送られない場合は，エア抜きキャップをゆるめ，エア抜きしてから作動してください。
＊必要以上に注油しないでください。機械が汚れるばかりでなく，故障の原因になります。

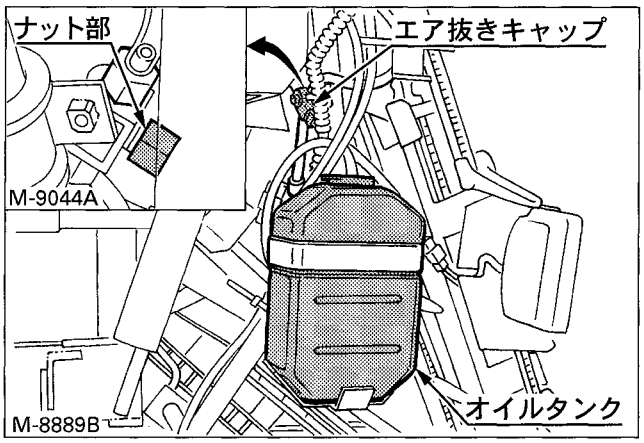
❻各部チェーンや刈刃に注油されていることを確認します。

補　足

＊注油されていないときは，各注油ホースのノズルの掃除を行なってください。
＊必要以上に注油しないでください。機械が汚れるばかりでなく，故障の原因になります。
＊最初の１回目は配管内部にオイルがゆきわたり，配管内部にオイルが充満したことを確認したあと注油してください。配管内にオイルがゆきわたるまで約30秒かかります。

◆エア抜きの方法

図示のエア抜きキャップのナット部分をゆるめてから，注油スイッチを押して，油を送出してください。



❻注油後２～３分間そのままの状態で運転します。
❼主変速レバーを**“停止”**位置にし，エンジンを止めたあと，引起しサイドカバー右を取付けます。

◆注油箇所・集中注油ノズルの掃除・グリース塗布

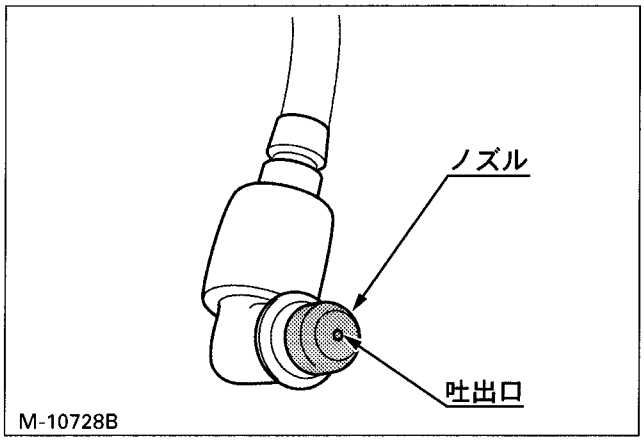
自動集中注油で注油が行なえる箇所以外の注油は，油差しで行なってください。

1. 自動集中注油箇所と掃除のしかた

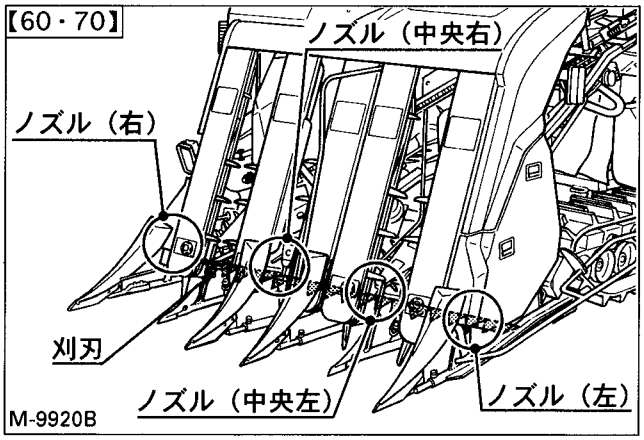
ノズルからオイルが出ていないときは，エンジンを必ず止めて，各ノズルの吐出口の掃除を行なってください。掃除を行なうときは，水洗い又は，圧縮空気などを使用してください。

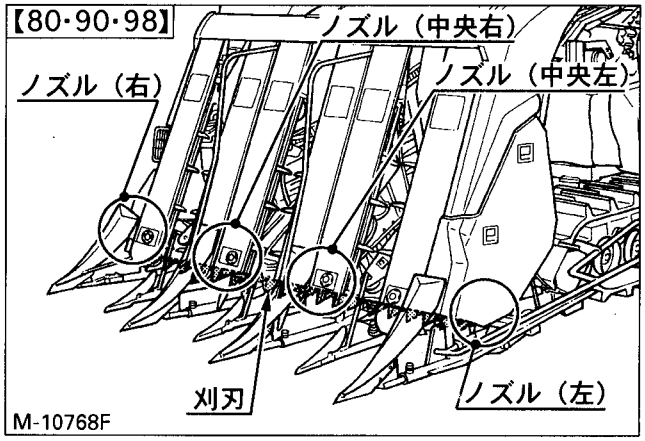
補　足

＊ノズル先端部の吐出口の掃除を行なうときは，つまようじなど折れやすい物を使用すると詰まりの原因となります。また，各ノズルの先端を固定している金具・ボルト・スナップピンなど各固定部品を取外すと掃除が容易に行なえます。



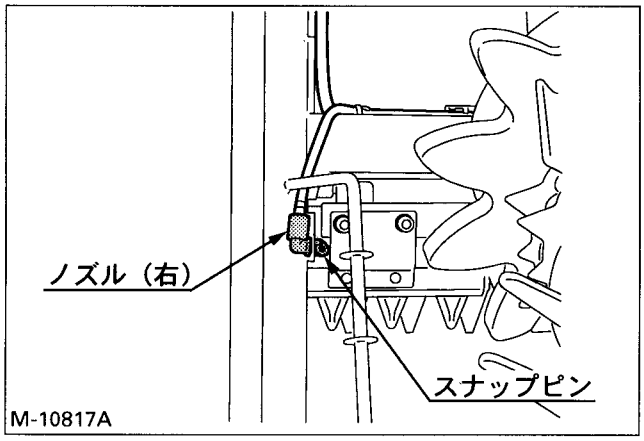
● 刈刃

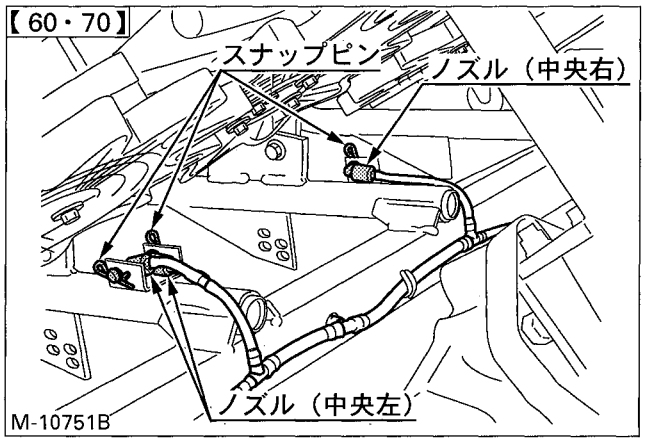


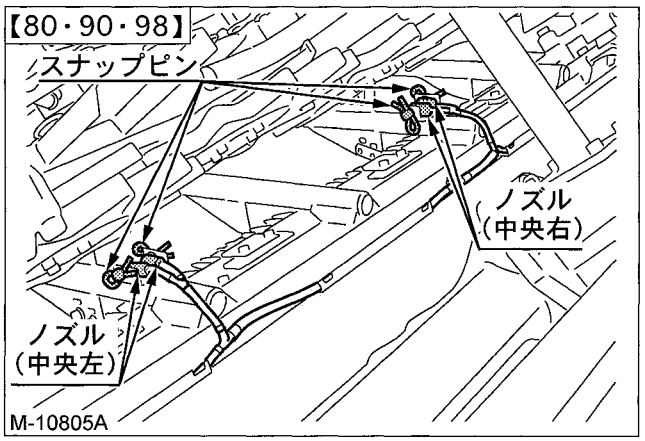


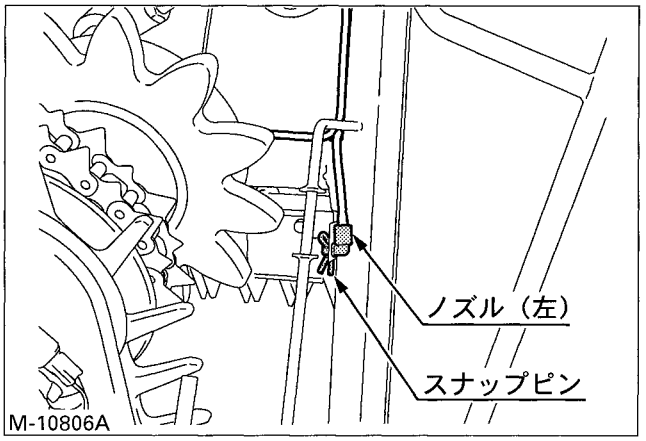
掃除箇所

刈取部を最上昇したあと刈取下降ロックをし，泥などの異物を取除いてください。また，引起しサイドカバー左右を取外したあと，スナップピンを取外してください。

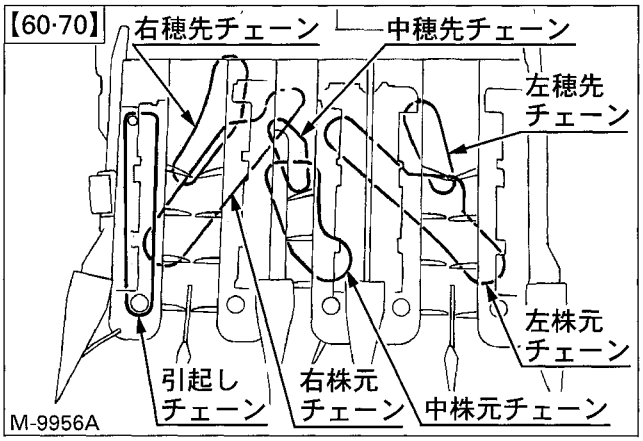


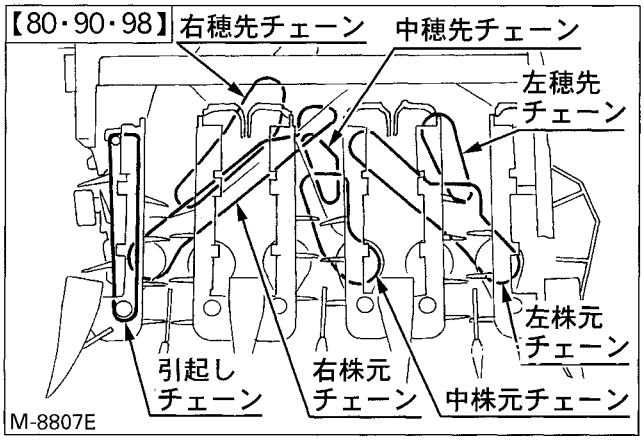


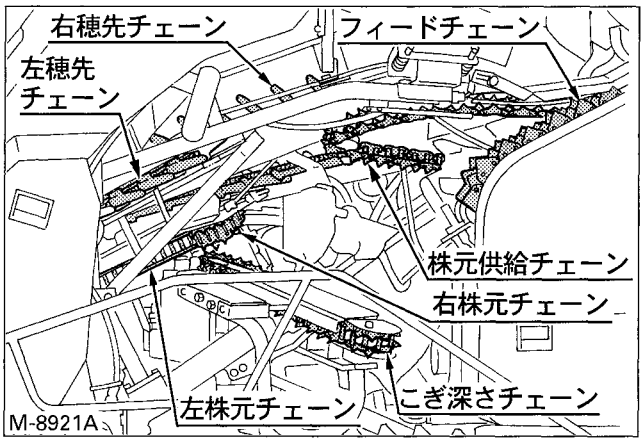




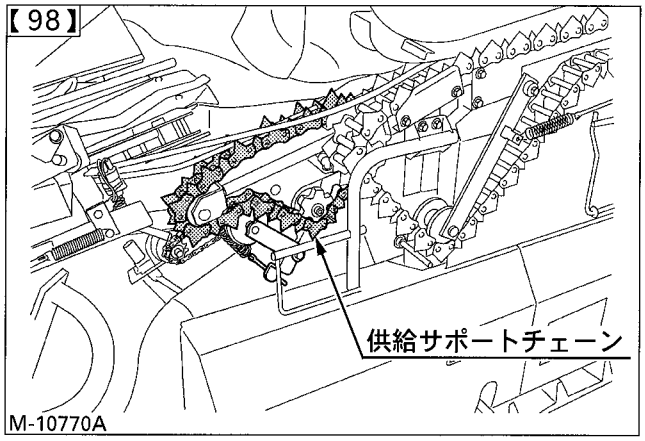
● 引起しチェーン・右穂先チェーン・右株元チェーン
中穂先チェーン・中株元チェーン・左穂先チェーン
左株元チェーン・株元供給チェーン
供給サポートチェーン【98】
こぎ深さチェーン・フィードチェーン
排わら穂先チェーン・排わら株元チェーン

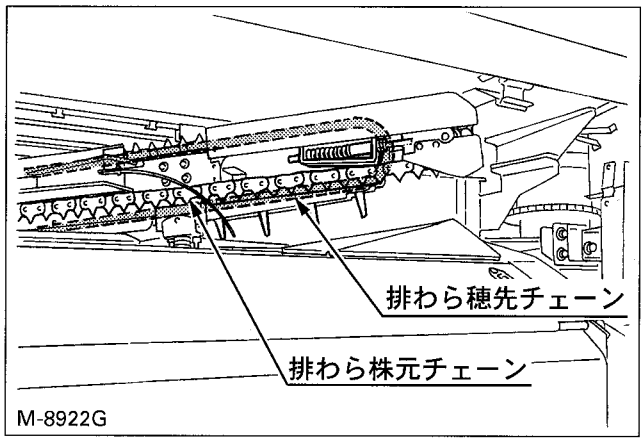






【98】

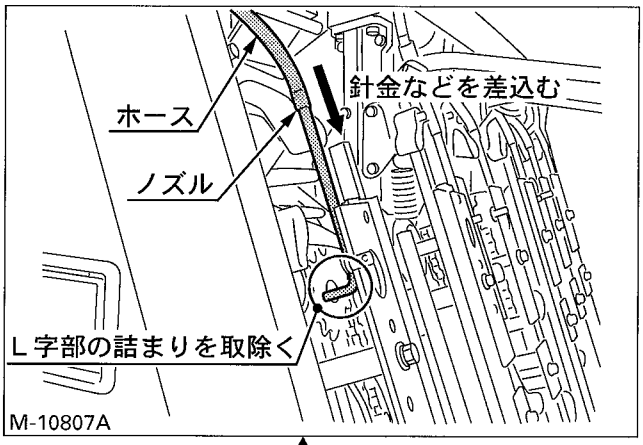


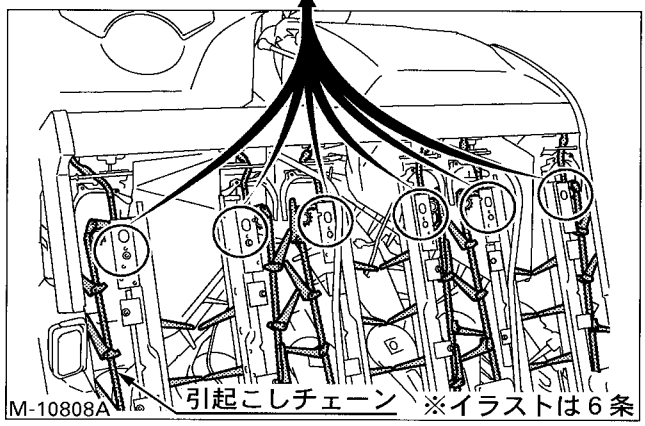


掃除箇所

●引起しチェーン

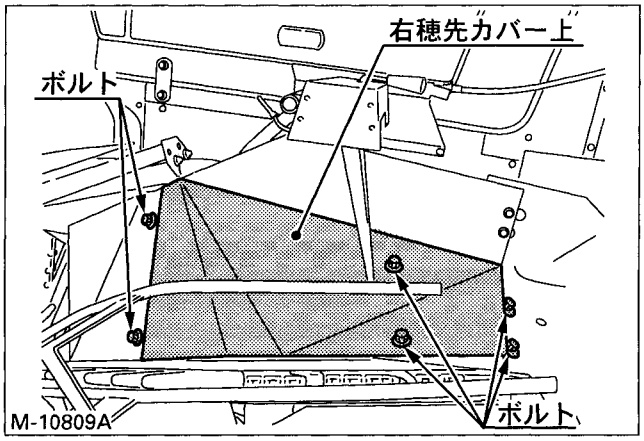
各引起しカバーを取外したあと，ホースをノズルから抜取り，針金などでL字部の詰まりを取除いてください。

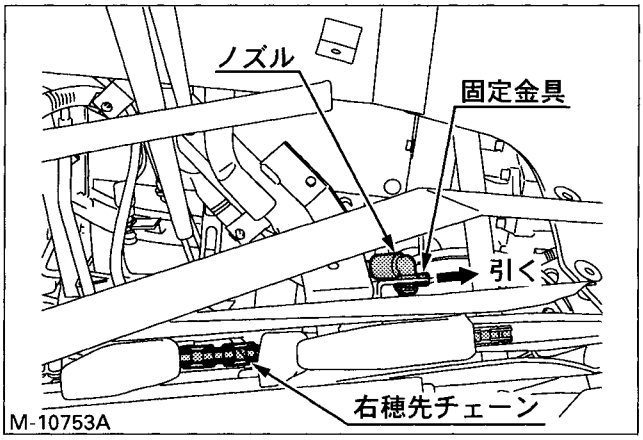




●右穂先チェーン

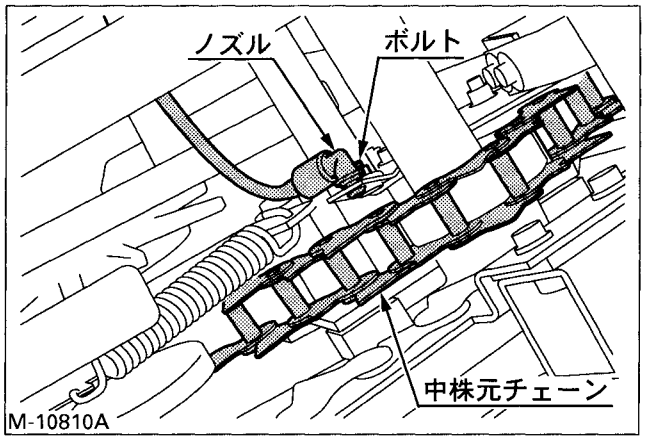
ボルト６本を取外して右穂先カバー上を外したあと，固定金具を取外してください。





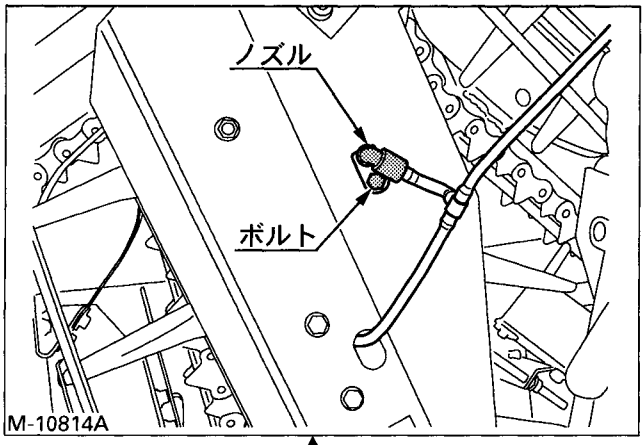
●中株元チェーン

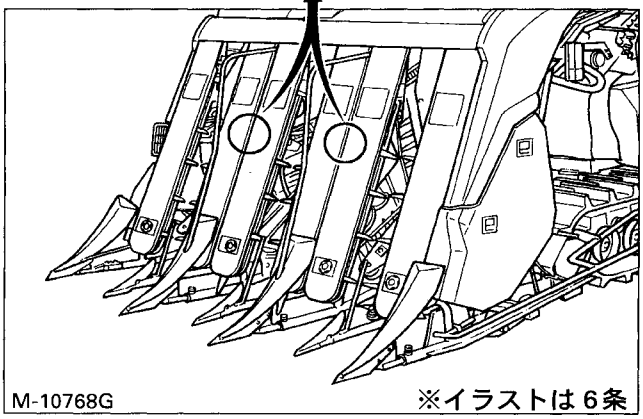
ボルトを取外してください。



●中穂先チェーン

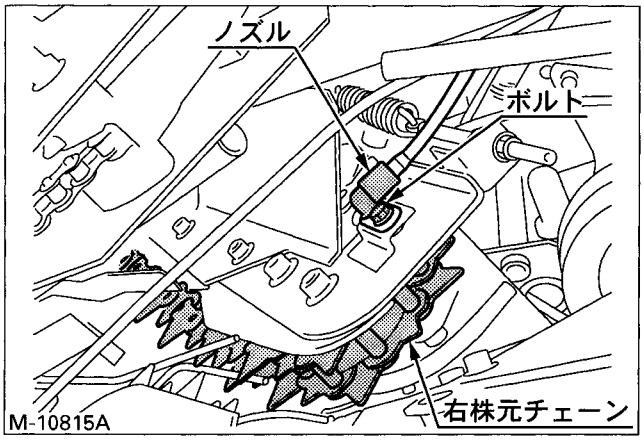
ボルトを取外してください。





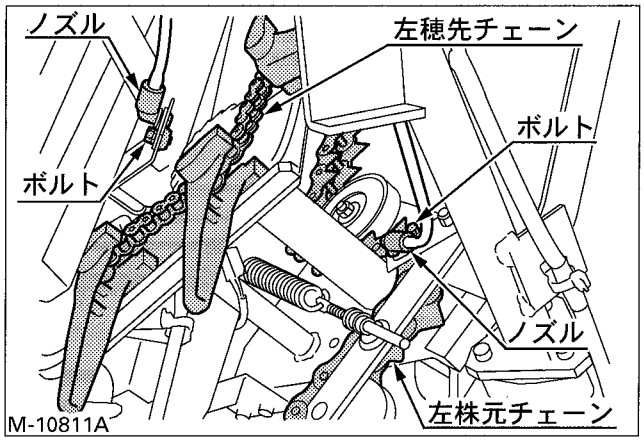
●右株元チェーン

ボルトを取外してください。



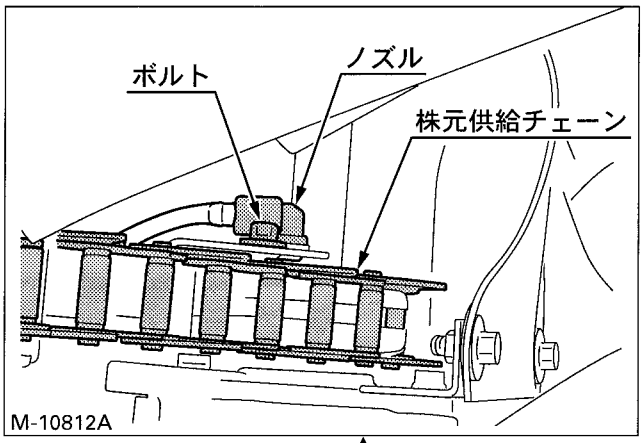
●左穂先チェーン・左株元チェーン

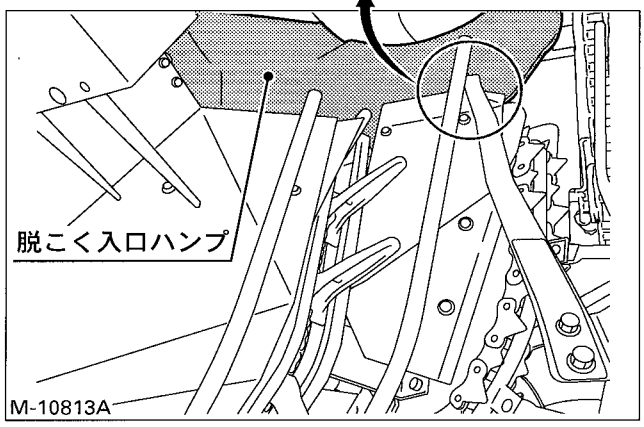
ボルトを取外してください。



●株元供給チェーン

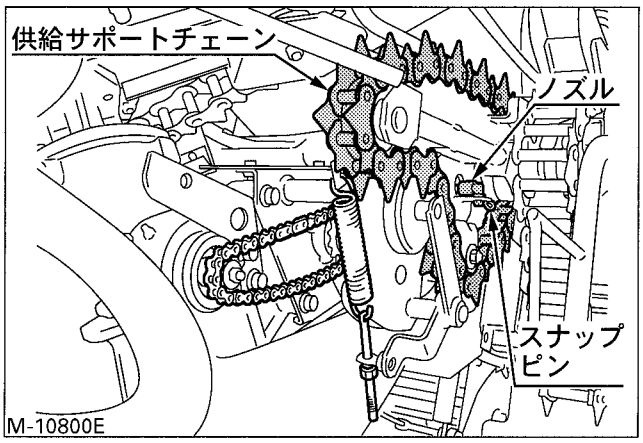
脱こく入口ハンプをめくり上げたあと，ボルトを取外してください。





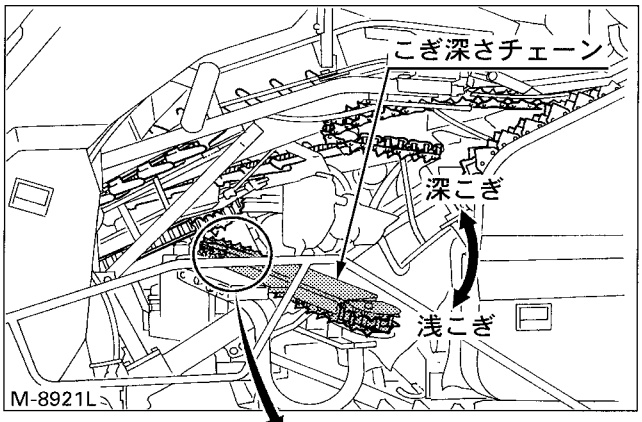
●供給サポートチェーン【98】

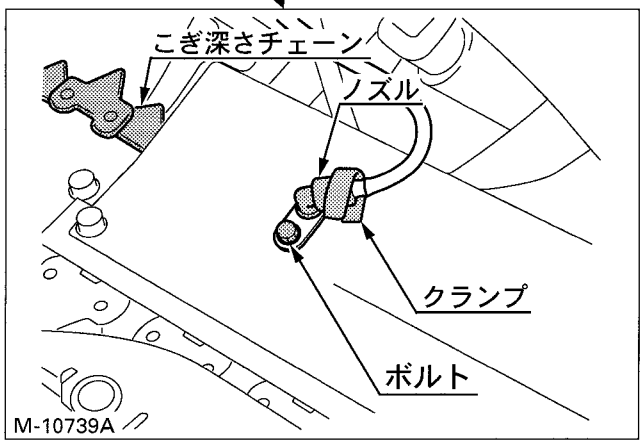
左サイドカバー上を外したあと，スナップピンを取外してください。



●こぎ深さチェーン

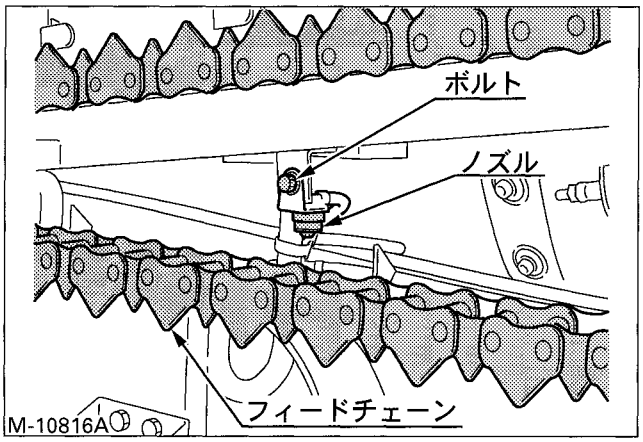
こぎ深さチェーンを浅こぎ位置にしたあと，クランプを外してボルトを取外してください。





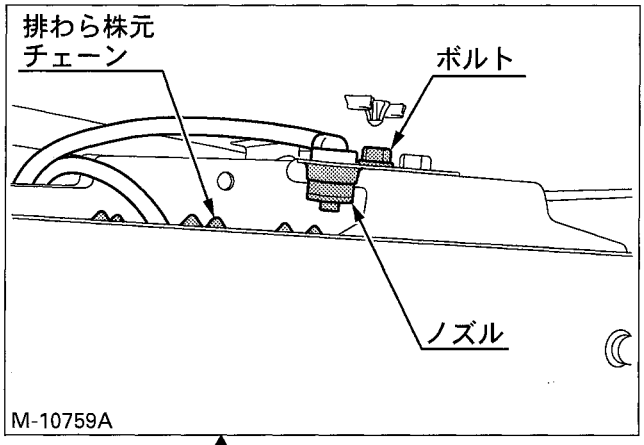
●フィードチェーン

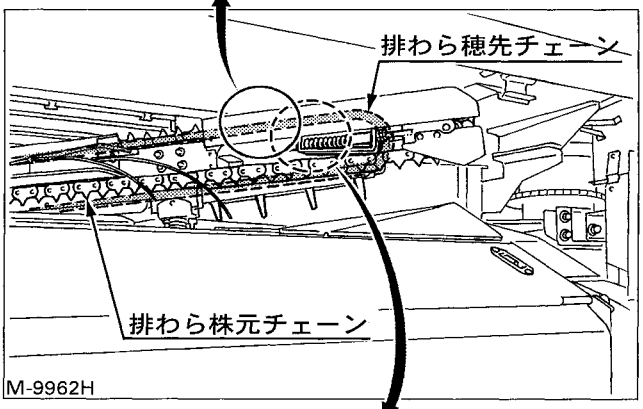
左サイドカバー上を外したあと，ボルトを取外してください。

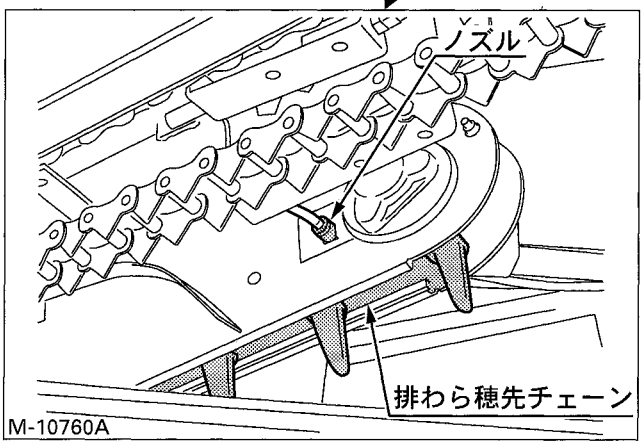


●排わら穂先チェーン・排わら株元チェーン

上部カバーを上げて，ボルトを取外してください。



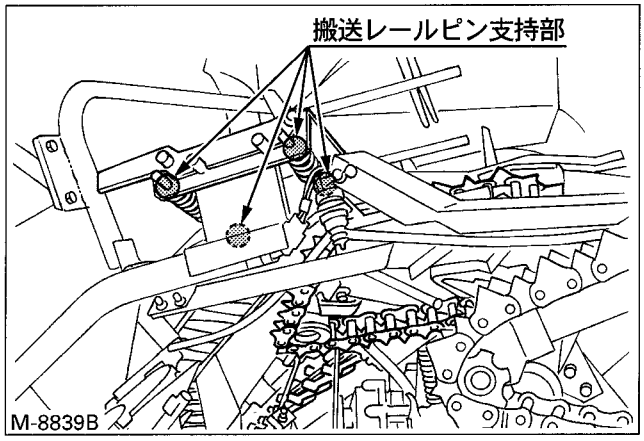




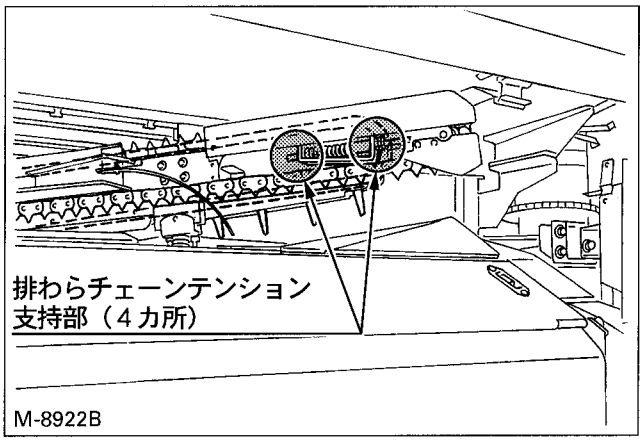
2.手差し注油

下記箇所は油差しを使用して行なってください。

● 搬送レールピン支持部



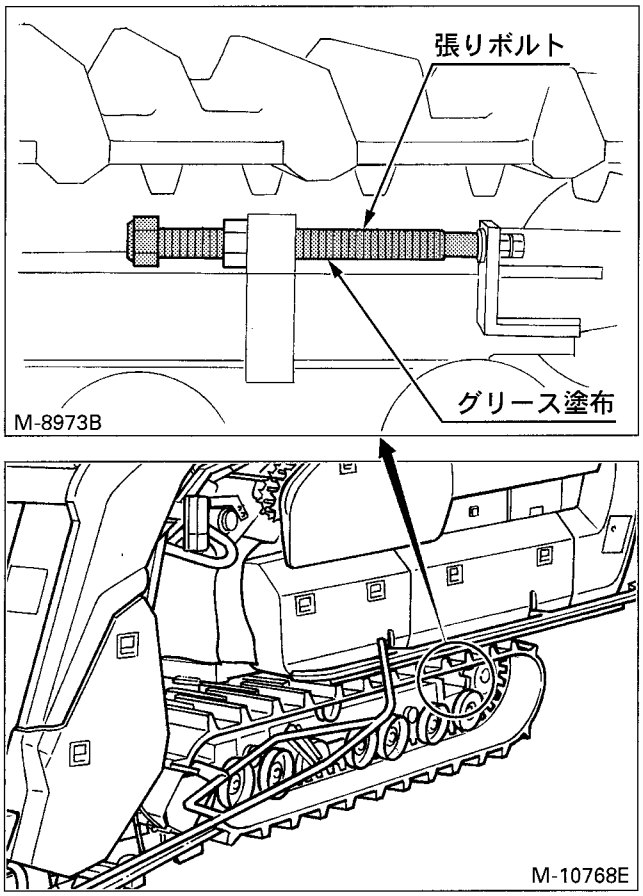
● 排わらチェーンテンション支持部



3.グリース塗布

グリースを塗布してください。

● クローラ張りボルト（左，右）



定期点検

定期点検は，コンバイン作業を行なう人が定期的に行なう点検です。
コンバインは，使用時間と使用状況に応じて劣化が進み，その構造や装置の性能が低下します。これを放置しておくと故障や事故の原因となり，ひいてはコンバインの寿命を短くしてしまいます。
コンバインの持つ性能がいつまでもじゅうぶん発揮できるよう，定期的に点検を行ないましょう。

警 告

＊各部の調整・点検・交換を行なうときは，エンジンを必ず停止させ，各レバー類を"切"位置にして，回転部を止めてから作業をしてください。
＊取外した回転部のカバー類は，衣服などが巻込み危険ですので，点検後は必ず取付けてから作業をしてください。

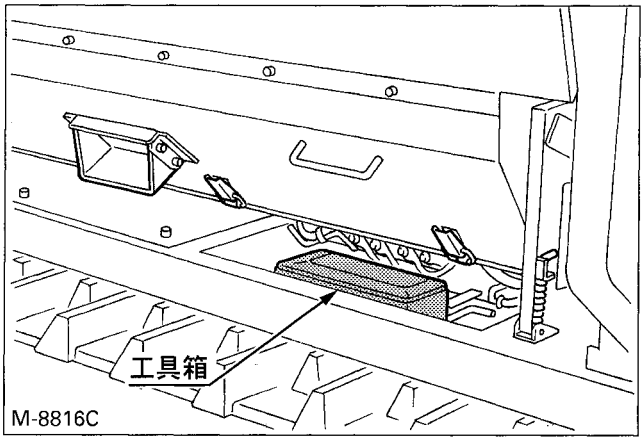
注 意

＊点検・作業するときは，駐車ブレーキを掛けてください。また刈取部は一番下まで降してください。もし刈取部を上げた状態で作業するときは，刈取下降ロックレバーで刈取部の下降防止を行なってください。さらに枕木などを使用して落下防止の歯止めをしてください。
＊エンジンルーム内の点検のためカバーを外すときは，内部がじゅうぶん冷え，ヤケドのおそれがないことを確認してください。
＊オイル交換中は火気厳禁。
＊刈刃やカッタの掃除や注油時は，手袋を着用し刃部に注意しながら行なってください。
＊機械は平たんで，回りにわらくずなどの燃えやすいごみのない場所へおいてください。バッテリ，マフラやエンジン周辺部にごみや燃料の付着，泥の堆積などがあると火災の原因となります。
＊燃料，オイルがこぼれた場合は，きれいにふき取ってください。

補 足

＊専門的な技術や特殊工具を必要とする場合及び定期点検一覧表の参照ページ欄に☆印のある項目は，購入先にご相談ください。
＊点検・交換の時期は，使用条件や環境に大きく左右されます。従ってひとつの目やすとして早目の点検をお願いします。

＊工具箱は下図の位置にあります。



■オイル・フィルタ類の交換とチェーン・ベルト・クローラの張り調整

＊新車時はコンバインの回転・しゅう動部の各部品はなじみがついていませんのでならし運転期間中に細かい金属粉が生じ，部品の極度な摩耗につながるおそれがあります。よって，オイル・フィルタ類は初期50時間で交換してください。
＊チェーンやベルト類・クローラはならし運転中に初期伸びが発生します。初期20又は，50時間で張り調整をしてください。（交換したときも同様です。）

■廃棄物の処理について

警 告

廃棄物をみだりに捨てたり，焼却すると，環境汚染につながり，法令により処罰されることがあります。
廃棄物を処理するときは
＊機械から廃液を抜く場合は，容器に受けてください。
＊地面へのたれ流しや河川，海洋への投棄はしないでください。
＊廃油，燃料，冷却水（不凍液），冷媒，溶剤，フィルタ，バッテリ，ゴム類，その他の有害物を廃棄，又は焼却するときは，購入先，又は産業廃棄物処理業者などに相談して，所定の規則に従って処理してください。

■使用者が行なってはいけない修理

下記部品に異常があるときは購入先に連絡してください。
- 電気系統（自動制御関係）
- 結束部（ケッセツブカンビ）
- エンジン本体
- トランスミッションケース
- ギヤ（ベベルギヤを含む）を内蔵したケース類
- 油圧系統
- 電気部品と電気系統
- 刈取部の動力伝達系統

■定期点検一覧表

○：点検と調整・掃除・締付け(バンド)　　●：ならし運転後の点検と調整
△：交換　　▲：ならし運転後の交換

	点検箇所・項目	時間 点検と処置	点検・交換時期 アワメータ表示時間(時間) 20	50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	550	600	650	700	750	800	850	900	950	1000	それ以降(時間:H) 点検	交換	参照ページ
エンジン部	ファン駆動ベルト【60・70・80】	調整/交換		●		○		○		○		○	△	●		○		○		○		○	△	50H又は,100Hごと	注1	156 ☆
			(注1：使用時間が500時間又は，2年ごとの早いほうで交換)																							
	ファン駆動ベルト(1)【90・98】	−/交換											△										△	—	500Hごと	157 ☆
	ファン駆動ベルト(2)【90・98】	調整/交換		●		○		○		○		○	△	●		○		○		○		○	△	50H又は,100Hごと	注2	
			(注2：使用時間が500時間又は，2年ごとの早いほうで交換)																							
	エアクリーナエレメント(内,外)	掃除/交換		○	○	○	○	○	△	○	○	○	○	○	△	○	○	○	○	○	△	○	○	50Hごと	300Hごと	142
			(掃除は外側のみ。内側は外側と同時交換)																							
	インレットパイプ(エアクリーナ)	締付け/交換				○			△			○			△			○			△			注3	注4	143
			(注3：使用時間が150時間又は，6ヵ月ごとの早いほうで点検) (注4：使用時間が300時間又は，2年ごとの早いほうで交換)																							
	フューエルフィルタカートリッジ	−/交換									△								△					—	400Hごと	146
	油水分離器	掃除/−			○		○		○		○		○		○		○		○		○		○	100Hごと	—	145
	オイルフィルタカートリッジ	−/交換		▲				△				△				△				△				—	200Hごと	146
			(エンジンオイルの交換と同時に交換)																							
	フューエルパイプ	締付け/交換				○			△			○			△			○			△			注5	注6	143 ☆
			(注5：使用時間が150時間又は，6ヵ月ごとの早いほうで点検) (注6：使用時間が300時間又は，2年ごとの早いほうで交換)																							
	燃料こしあみ	掃除/−			○		○		○		○		○		○		○		○		○		○	100Hごと	—	133
	オイルドレーンゴムホース	締付け/交換				○			△			○			△			○			△			注7	注8	134 ☆
			(注7：使用時間が150時間又は，6ヵ月ごとの早いほうで点検) (注8：使用時間が300時間又は，2年ごとの早いほうで交換)																							
	ラジエータホース	締付け/交換					○				△				○				△		△		○	注9	注10	143 ☆
			(注9：使用時間が200時間又は，6ヵ月ごとの早いほうで点検) (注10：使用時間が400時間又は，2年ごとの早いほうで交換)																							
	防じんあみ，ラジエータフィン，オイルクーラフィン，コンデンサフィン【Q仕様】	掃除/−		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50Hごと	—	144
走行・操作部	ミッション駆動ベルト	調整/交換	●		○		○		○		○		△/●(520)		○		○		○		○		△/●(1020)	20H又は,100Hごと	500Hごと	158 ☆
	(駐車)ブレーキワイヤ	調整/交換		●	○	○	○	○	△	○	○	○	○	○	△	○	○	○	○	○	△	○	○	50Hごと	300Hごと	148 ☆
	パワーブレーキワイヤ	調整/交換		●	○	○	○	○	△	○	○	○	○	○	△	○	○	○	○	○	△	○	○	50Hごと	300Hごと	☆
	ブレーキシュー	−/交換											△										△	—	注11	☆
			(注11：使用時間が500時間又は，2年ごとの早いほうで交換)																							
	HSTオイルフィルタカートリッジ	−/交換		▲					△						△						△			—	300Hごと	147 ☆
			(油圧オイルタンクオイルの交換と同時に交換)																							
	HST吸入フィルタ	洗浄/交換							○						△						○			300Hごと	600Hごと	147 ☆
	油圧オイルタンクフィルタカートリッジ	−/交換		▲					△						△						△			—	300Hごと	147 ☆
			(油圧オイルタンクオイルの交換と同時に交換)																							
	クローラ	調整/交換		●	○		○		○		○		○		○		○		△	●	○		○	50H又は,100Hごと	800Hごと	192 ☆

＊参照ページに☆印のある整備項目(交換)については，購入先又は，整備工場で行なってください。
＊上記の時間は作業・作物条件やメンテナンス(保守・点検)により，異なる場合があります。

○：点検と調整・掃除・締付け(バンド)　　●：ならし運転後の点検と調整
△：交換　　▲：ならし運転後の交換

点検箇所・項目		時間 / 点検と処置	点検・交換時期 アワメータ表示時間(時間) 20	50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	550	600	650	700	750	800	850	900	950	1000	それ以降(時間:H) 点検	交換	参照ページ
走行・操作部	カムクラッチ(刈取り駆動プーリ)	–/交換																					△	—	1000Hごと	☆
	クローラガイド(前・後)	–/交換																	△					—	800Hごと	☆
	トラックローラ	–/交換																	△					—	800Hごと	193 ☆
	キャリアローラ，可動ローラ，ボールベアリング及びシール，モンローリンク部のブッシュ，フローティングシール	–/交換																	△					—	800Hごと	☆
	車軸のオイルシール	–/交換																					△	—	1000Hごと	☆
	ドライブローラ(スプロケット)	–/交換									△								△					—	400Hごと	193 ☆
刈取部	刈取駆動ベルト	点検/交換	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△/●(520)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△/●(1020)	20H又は，50Hごと	500Hごと	158 ☆
	補助搬送(突起付)ベルト	調整/交換		●	○		○		○		○		△	●	○		○		○		○		△	50H又は，100Hごと	500Hごと	159 ☆
	刈取クラッチワイヤ	調整/交換	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△/●(520)	●	○	○	○	○	○	○	○	○	△/●(1020)	20H又は，50Hごと	500Hごと	149,151 ☆
	引起し チェーン	調整/交換		●	○		○		△	●	○		○		△	●	○		○		△	●	○	50H又は，100Hごと	300Hごと	164 ☆
	引起し 爪	–/交換							△						△						△			—	300Hごと	
	引起し65ローラのベアリング	–/交換											△										△	—	500Hごと	☆
	引起しテンションスプロケット	–/交換																					△	—	1000Hごと	☆
	引起しフレーム，引起しカバー	–/交換																					△	—	1000Hごと	☆
	引起しスプロケット，スライドレール，クッションゴム	–/交換																					△	—	1000Hごと	☆
	供給サポートチェーン【98】	調整/交換		●	○		○		△	●	○		○		△	●	○		○		△	●	○	50H又は，100Hごと	300Hごと	168 ☆
	供給サポートチェーン駆動チェーン【98】	–/交換							△						△						△			—	300Hごと	168 ☆
	供給サポートチェーンのローラテンション，ローラベアリング【98】	–/交換											△										△	—	500Hごと	☆
	供給サポートチェーンの駆動スプロケット【98】	–/交換											△										△	—	500Hごと	☆
	右穂先 チェーン	調整/交換		●	○		○		△	●	○		○		△	●	○				△	●	○	50H又は，100Hごと	300Hごと	164 ☆
	右穂先 爪	–/交換							△						△						△			—	300Hごと	
	右株元チェーン	調整/交換		●	○		○		△	●	○		○		△	●	○		○		△	●	○	50H又は，100Hごと	300Hごと	166,167 ☆

＊参照ページに☆印のある整備項目(交換)については，購入先又は，整備工場で行なってください。
＊上記の時間は作業・作物条件やメンテナンス(保守・点検)により，異なる場合があります。

○：点検と調整・掃除・締付け(バンド)　　●：ならし運転後の点検と調整
△：交換　　▲：ならし運転後の交換

点検箇所・項目		時間	点検 · 交換時期 アワメータ表示時間(時間)																						それ以降(時間:H)		参照ページ
		点検と処置	20	50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	550	600	650	700	750	800	850	900	950	1000		点検	交換	
刈取部	右株元チェーンのローラボールベアリング	–/交換											△										△		—	500Hごと	☆
	右穂先チェーンのローラボールベアリング，アイドルスプロケット	–/交換											△										△		—	500Hごと	☆
	右穂先カバー，右穂先フレーム	–/交換																					△		—	1000Hごと	☆
	右株元当て板，左穂先フレーム(上,下)	–/交換																					△		—	1000Hごと	☆
	左株元レール，中株元レール，供給フレームガイド，供給ガイド，株元押え	–/交換																	△						—	800Hごと	☆
	中穂先 チェーン	調整/交換		●	○		○		△	●	○		○		△	●	○		○		△	●	○		50H又は，100Hごと	300Hごと	165 ☆
	中穂先 爪	–/交換							△						△						△				—	300Hごと	
	中株元チェーン	調整/交換		●	○		○		△	●	○		○		△	●	○		○		△	●	○		50H又は，100Hごと	300Hごと	166,167 ☆
	中株元チェーンのローラボールベアリング	–/交換											△										△		—	500Hごと	☆
	中穂先チェーンのローラボールベアリング，アイドルスプロケット	–/交換											△										△		—	500Hごと	☆
	中穂先フレーム	–/交換																					△		—	1000Hごと	☆
	株元供給チェーン	調整/交換		●	○		○		○		△	●	○		○		○		△	●	○		○		50H又は，100Hごと	400Hごと	165 ☆
	株元供給チェーンのローラボールベアリング，テンションローラボールベアリング	–/交換											△										△		—	500Hごと	☆
	左穂先 チェーン	調整/交換		●	○		○		△	●	○		○		△	●	○		○		△	●	○		50H又は，100Hごと	300Hごと	164 ☆
	左穂先 爪	–/交換							△						△						△				—	300Hごと	
	左株元チェーン	調整/交換		●	○		○		△	●	○		○		△	●	○		○		△	●	○		50H又は，100Hごと	300Hごと	166,167 ☆
	左株元チェーンのローラボールベアリング	–/交換											△										△		—	500Hごと	☆
	左穂先チェーンのローラボールベアリング，アイドルスプロケット	–/交換											△										△		—	500Hごと	☆
	こぎ深さチェーン	調整/交換		●	○		○		△	●	○		○		△	●	○		○		△	●	○		50H又は，100Hごと	300Hごと	168 ☆
	こぎ深さテンションローラのボールベアリング	–/交換											△										△		—	500Hごと	☆
	こぎ深さチェーン押え	–/交換																	△						—	800Hごと	☆

＊参照ページに☆印のある整備項目(交換)については，購入先又は，整備工場で行なってください。
＊上記の時間は作業・作物条件やメンテナンス(保守・点検)により，異なる場合があります。

○：点検と調整・掃除・締付け(バンド)　　●：ならし運転後の点検と調整
△：交換　　▲：ならし運転後の交換

点検箇所・項目		時間 点検と処置	点検・交換時期 アワメータ表示時間(時間) 20	50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	550	600	650	700	750	800	850	900	950	1000	それ以降(時間:H) 点検	交換	参照ページ
刈取部	こぎ深さフレームガイド	–/交換																					△	—	1000Hごと	☆
	刈刃	調整/交換			○		△		○		△		○		△		○		△		○		△	100Hごと	200Hごと	170
	刈刃クランクピン,ローラ,ベアリング,ベアリングホルダ,オイルシール	–/交換											△										△	—	500Hごと	☆
	株元センサ	–/交換											△										△	—	500Hごと	☆
	穂先センサ(株元側,穂先側)	–/交換											△										△	—	500Hごと	☆
	パッカ	–/交換																	△					—	800Hごと	☆
こく脱部	こぎ胴駆動ベルト	調整/交換	●		○		○		○		○		△●(520)		○		○		○		○		△●(1020)	20H又は,100Hごと	500Hごと	159 ☆
	脱こく駆動ベルト	点検/交換	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△●(520)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△●(1020)	20H又は,50Hごと	500Hごと	158 ☆
	脱こくクラッチワイヤ	調整/交換	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△●(520)	●	○	○	○	○	○	○	○	○	△●(1020)	20H又は,50Hごと	500Hごと	149,150 ☆
	フィードチェーンクラッチワイヤ【HD・SD仕様】	–/交換	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△●(520)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△●(1020)	20H又は,50Hごと	500Hごと	149 ☆
	トウミ駆動ベルト	–/交換											△										△	—	500Hごと	160 ☆
	1番駆動ベルト	調整/交換	●		○		○		○		○		△●(520)		○		○		○		○		△●(1020)	20H又は,100Hごと	500Hごと	160 ☆
	2番駆動ベルト	調整/交換	●		○		○		○		○		△●(520)		○		○		○		○		△●(1020)	20H又は,100Hごと	500Hごと	160 ☆
	2番トウミ駆動ベルト【90】	調整/交換	●		○		○		○		○		△●(520)		○		○		○		○		△●(1020)	20H又は,100Hごと	500Hごと	160 ☆
	揺動駆動ベルト	調整/交換	●		○		○		○		○		△●(520)		○		○		○		○		△●(1020)	20H又は,100Hごと	500Hごと	161 ☆
	排じんファン駆動ベルト【90】	–/交換											△										△	—	500Hごと	161 ☆
	排わらチェーン駆動ベルト	調整/交換	●		○		○		○		○		△●(520)		○		○		○		○		△●(1020)	20H又は,100Hごと	500Hごと	161 ☆
	フィードチェーン	調整/交換		●	○		○		○		○		△	●	○		○		○		○		△	50H又は,100Hごと	500Hごと	168 ☆
	排わら穂先 チェーン	調整/交換		●	○		○		○		○		△	●	○		○		○		○		△	50H又は,100Hごと	500Hごと	169 ☆
	排わら穂先 搬送爪	–/交換				△			△			△			△			△			△			—	150Hごと	
	排わら株元チェーン	調整/交換		●	○		○		○		○		△	●	○		○		○		○		△	50H又は,100Hごと	500Hごと	169 ☆
	わら切刃 株元側	–/交換					△				△				△				△				△	—	200Hごと	174
	わら切刃 穂先側	組換え/交換			○		△		○		△		○		△		○		△		○		△	100Hごと	200Hごと	175
	こぎ歯	–/交換							△						△						△			—	300Hごと	173
	受けあみ	–/交換									△								△					—	400Hごと	☆
	フロントハンプ	–/交換									△								△					—	400Hごと	☆
	1番縦スクリュ	–/交換																					△	—	1000Hごと	☆
	1番スクリュ	–/交換																					△	—	1000Hごと	☆
	2番縦スクリュ	–/交換																					△	—	1000Hごと	☆
	2番スクリュ	–/交換																					△	—	1000Hごと	☆

＊参照ページに☆印のある整備項目(交換)については，購入先又は，整備工場で行なってください。
＊上記の時間は作業・作物条件やメンテナンス(保守・点検)により，異なる場合があります。

○：点検と調整・掃除・締付け(バンド)　●：ならし運転後の点検と調整
△：交換　▲：ならし運転後の交換

点検箇所・項目		時間 点検と処置	点検・交換時期 アワメータ表示時間(時間) 20	50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	550	600	650	700	750	800	850	900	950	1000	それ以降(時間:H) 点検	交換	参照ページ
脱こく部	2番スクリュ	–/交換																					△	—	1000Hごと	☆
	2番処理ケース	–/交換																					△	—	1000Hごと	☆
	ツース(2番固定歯)	–/交換											△										△	—	500Hごと	☆
	ツース(2番回転歯)	–/交換											△										△	—	500Hごと	☆
	排わらチェーン押さえ	調整/交換						○					△					○					△	250Hごと	500Hごと	182 ☆
	打抜きあみ	–/交換											△										△	—	500Hごと	☆
	チャフ操作ワイヤ	調整/交換			○		○		○		○		△		○		○		○		○		△	100Hごと	500Hごと	☆
	各ベアリング	–/交換																					△	—	1000Hごと	☆
	揺動ベアリングホルダ	–/交換																					△	—	1000Hごと	☆
	揺動アーム	–/交換																					△	—	1000Hごと	☆
グレンタンク部	タンク駆動ベルト	調整/交換	●		○		○		○		○		△/●(520)		○		○		○		○		△/●(1020)	20H又は,100Hごと	500Hごと	162 ☆
	タンククラッチ駆動ベルト(もみ排出クラッチベルト)	調整/交換	●		○		○		○		△/●(420)		○		○		○		△/●(820)		○		○	20H又は,100Hごと	400Hごと	162 ☆
	各スクリュ軸	–/交換																					△	—	1000Hごと	☆
	もみ排出クラッチワイヤ【DX仕様】	点検/交換		●	○		○		○		○		△	●	○		○		○		○		△	50H又は,100Hごと	500Hごと	151 ☆
カッタ部	カッタ駆動ベルト	調整/交換	●		○		○		○		△/●(420)		○		○		○		△/●(820)		○		○	20H又は,100Hごと	400Hごと	161 ☆
	排わら切換えワイヤ	調整/交換		●	○		○		○		○		△	●	○		○		○		○		△	50H又は,100Hごと	500Hごと	151 ☆
	カッタ刃	調整/交換							○				△						○				△	300Hごと	500Hごと	175 ☆
	供給軸と切断軸のナット増締め	調整/–		●			○				○				○				○				○	50H又は,200Hごと	—	179
	各ベアリング	–/交換																					△	—	1000Hごと	☆
キャビン	内気フィルタ・外気フィルタ	掃除/–	(注12：使用時間が30時間ごとで掃除)																					注12	—	182
	コンプレッサ駆動ベルト	調整/交換	(注13：作業シーズン前又は,後に調整)																					注13	2年ごと	158 ☆
	冷媒ガス	点検/–	(注14：作業シーズン前又は,後に点検)																					注14	—	183 ☆
電装部	バッテリ	充電/交換	(注15：作業前に点検し,ハイドロメータが黒いとき充電) (注16：ハイドロメータが透明のときに交換)																					注15	注16	184
	ワイヤハーネス・バッテリコード	点検/交換	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50Hごと	注17	185,188 ☆
			(注17：破損しているとき交換)																							
	ヒューズ・スローブローヒューズ	点検/交換		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		100Hごと	注18	188,189 ☆
			(注18：破損しているとき交換)																							
	ランプ（電球）	点検/交換		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		100Hごと	注19	190 ☆
			(注19：破損しているとき交換)																							
	ホーンスイッチ	点検/交換		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		100Hごと	注20	190 ☆
			(注20：破損しているとき交換)																							

＊参照ページに☆印のある整備項目(交換)については，購入先又は，整備工場で行なってください。
＊上記の時間は作業・作物条件やメンテナンス(保守・点検)により，異なる場合があります。

重要

＊各ベルト・各チェーン・各ワイヤを交換したあとは，ならし運転後の点検と調整(●印)を行なってください。

■給・注油(水)点検一覧表

種類	点検箇所		処置	点検・交換時期(アワメータ表示時間) 点検	交換	容量・規定量(L)	種類	参照ページ
燃料	燃料タンク		給油	作業前又は，作業後	—	●容量……約100	ディーゼル軽油	134
オイル	エンジン		補給・交換		●初回…50時間目 ●2回目以降…200時間ごと又は,1年ごとの早いほうで交換	●容量……約12 ＊規定量 オイルゲージの**下限**と**上限**の間	クボタ純オイル **【60・70・80】**…D30又は,D10W30 **【90・98】**…D30スーパーCD又は,D10W30スーパーCD	134
	集中注油オイルタンク		補給		—	●容量……約4		117
	トランスミッションケース		補給・交換	50時間ごと	●初回…50時間目 ●2回目以降…300時間ごと	＊規定量……約11.5 検油口からオイルがにじむまで	クボタ純オイル NEW·UDT又は，スーパーUDT	135
	油圧オイルタンク		補給			＊規定量……約26 検油口からオイルがにじむまで		136
	HST入力フランジ		交換	—	分解時	●容量……約0.2		137☆
	刈刃駆動ケース		給油	—		●容量 **【60・70】**……0.8～0.9 **【80・90・98】**…1.0～1.1		136☆
	フィードチェーン駆動ケース					●容量……約0.6		137☆
	各トラックローラ部		注油	作業シーズン終了後	—	適量	クボタ純オイル D30又は,D10W30又は,M80B又は,M90	138☆
	レール台ブッシュ部							138☆
	搬送レールピン支持部			作業前又は，作業後				125
	排わらチェーンテンション部(株元，穂先)							
水・液	冷却水(リザーブタンク)		補水	作業前又は，作業後	冬期停止時は排出又は，不凍液を入れる	＊規定量 タンク側面のL(下限)とF(上限)の間 L(LOW)……0.15 F(FULL)……1.1	清水	140
グリース	エンジン部	エンジン正逆転ファン部**【90・98】**	補給	500時間ごと	—	適量	クボタスペアグリース	139
	走行部	スイングアーム部		作業シーズン終了後				
		ボス支点部						
	刈取部	刈取部各ケース		分解時				☆
		刈取軸受						
	脱こく部	排わらベベルケース						
		1番・2番各ケース						
		フィードチェーン変速ケース						
		トウミプーリ部		200時間ごと				
		フィードチェーン変速プーリ部						
	グレンタンク部	グレンタンク駆動ケース		分解時				
		アンローダケース1，2，3						
		縦スクリュケース アンローダブラケット部		200時間ごと				139
		縦スクリュケース 旋回モータベース部						
		アンローダケース1，2						

＊参照ページに☆印のある整備項目(交換)については，購入先又は，整備工場で行なってください。

＊上記の時間は作業・作物条件やメンテナンス(保守・点検)により，異なる場合があります。

重要 〔各部への補給と交換〕

＊点検するときは機体を水平な場所において行なってください。傾いていると正確な量を示しません。

＊使用するオイル・グリースは，指定の**クボタ純オイル・スペアグリース**を使用してください。

＊補給や交換の際は，ゴミや水が混入しないようにしてください。

■燃料・オイル・グリースの点検・補給・交換

注 意

＊燃料やオイル補給中は火気厳禁です。
＊燃料を補給する前に給油口やタンク周辺のごみを取除いてください。

重 要

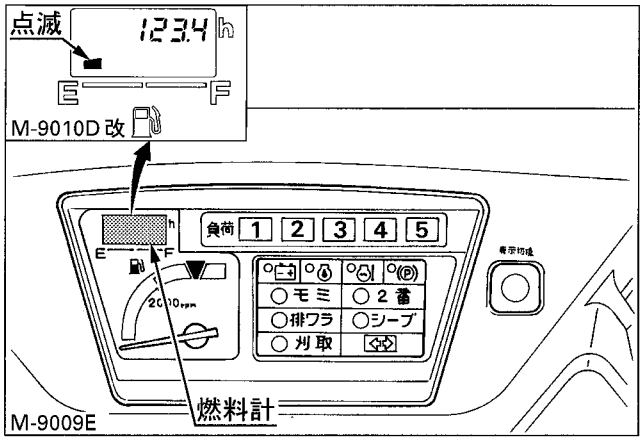
＊補給・交換を行なうときは，機械の故障の原因となりますので下記事項を守ってください。
- 廃油は使用しないでください。
- 給油口やその周辺からゴミなど異物や水の混入を防ぐため掃除してください。
- 使用するオイル・グリースは**クボタ純オイル・スペアグリース**を使用してください。

＊点検するときは機体を水平な場所に置いて行なってください。傾いていると正確な量を示しません。

1.燃料

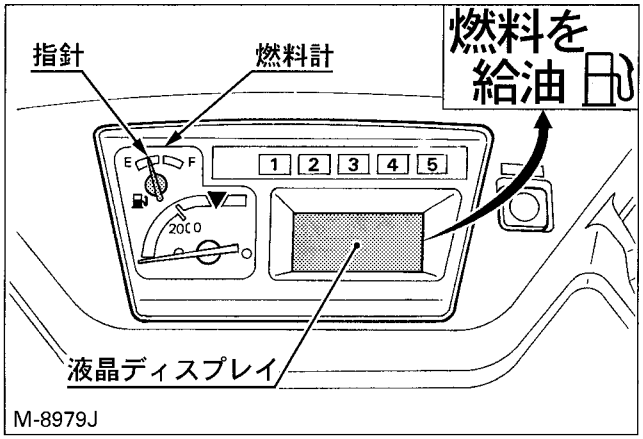
●【DX仕様】

メータユニットの燃料計の最後の１目盛が点滅し，ブザーが鳴ったとき(燃料警報)は給油してください。



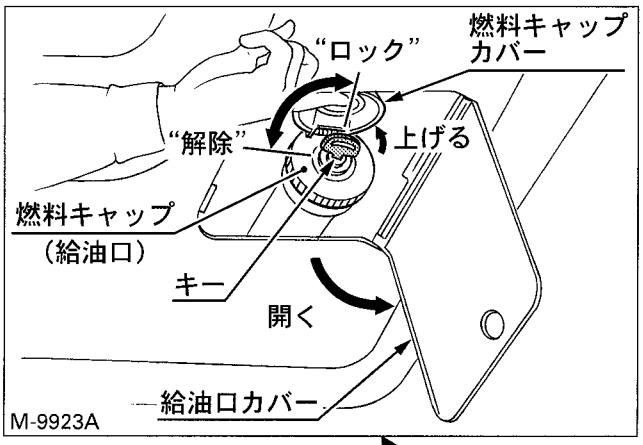
●【HD・SD仕様】

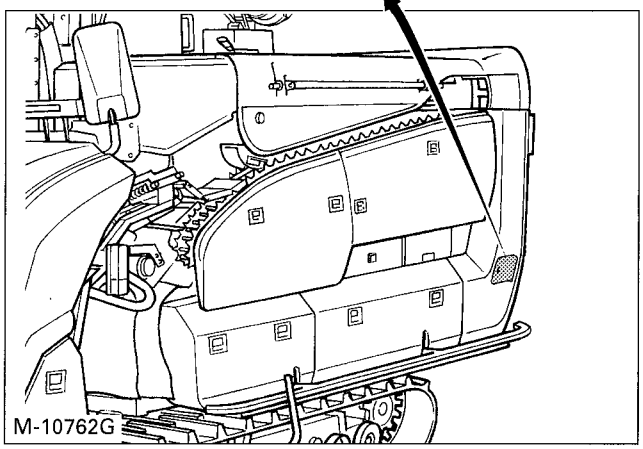
燃料計の指針が**"E"**(空)に近づくと，エアロナビの液晶ディスプレイに **燃料を給油** と表示し，ブザーが鳴ったとき(燃料警報)は給油してください。



◆給油

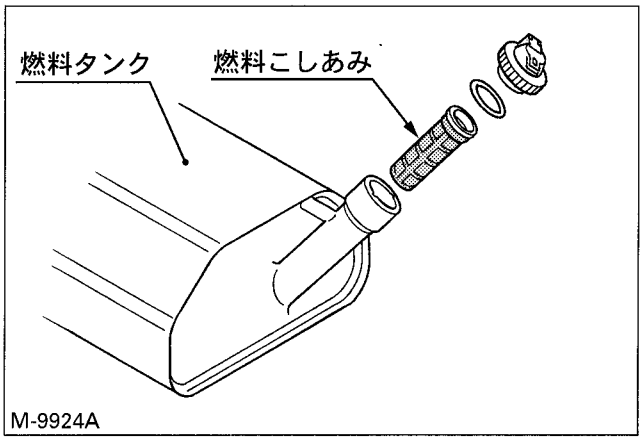
給油を行なうときは，給油口カバーを開き，燃料キャップのカバーを上げたあと，キーを左に90度回してロックを解除してから燃料キャップを外してください。





重 要

＊給油口の燃料こしあみは外さないでください。燃料タンクにゴミなどの異物が混入するとエンジンの故障の原因となります。



補 足

＊燃料キャップのキーは，ロックが解除された位置では取外すことができません。
＊給油が終わったあとは，必ずキーを抜取ってください。

◆給油

燃料を給油するときは平たんな場所でエンジンを止め，燃料キャップを外してください。また，メインスイッチのキーを**"入"**位置にすると燃料が満タン近くになったとき満タンお知らせ機能がはたらきます。また**【HD・SD仕様】**は，ブザーが鳴ると同時に液晶ディスプレイに**燃料満タン**と表示します。

補　足

＊**満タンお知らせ機能**は，ブザーが5回鳴ると停止します。

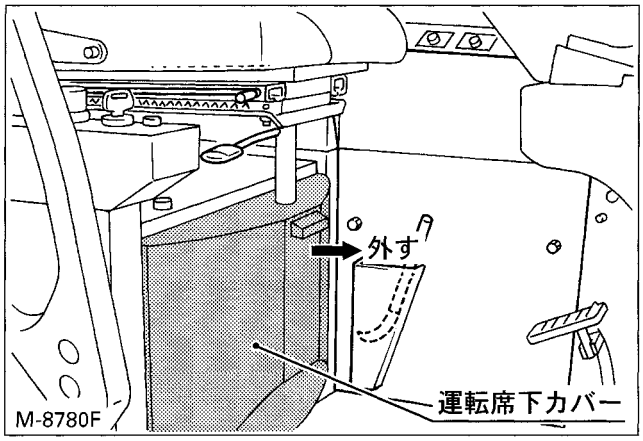
＊ブザーが鳴ったあと，あふれさせないように注意してください。

＊**満タンお知らせ機能**は下記の条件のとき，はたらかない場合があります。

- エンジン停止後約20秒間
- 給油中に機体を揺らしたり，急激に給油したとき
- 給油量が少ないとき

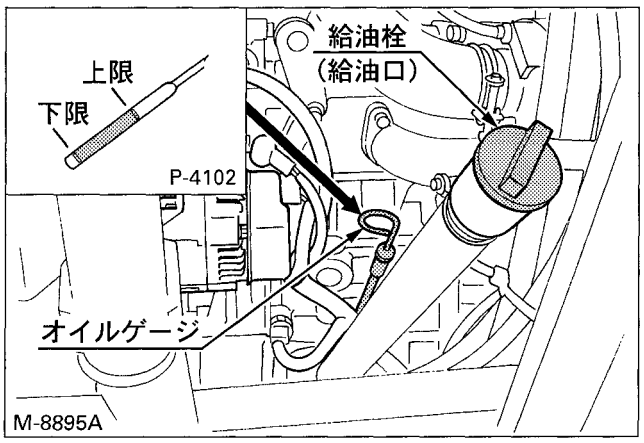
2. エンジンオイル

運転席下カバーを取外してください。



◆点検・補給

エンジン停止後，数分たってからオイルゲージを抜いて，先端をきれいにふき取ります。もう一度差し込んでから抜き，ゲージの**上限**と**下限**の間にオイルがあるか点検します。不足しているときは，給油口から規定量になるまで給油してください。さらに，油もれのないことも調べてください。



◆交換

補　足

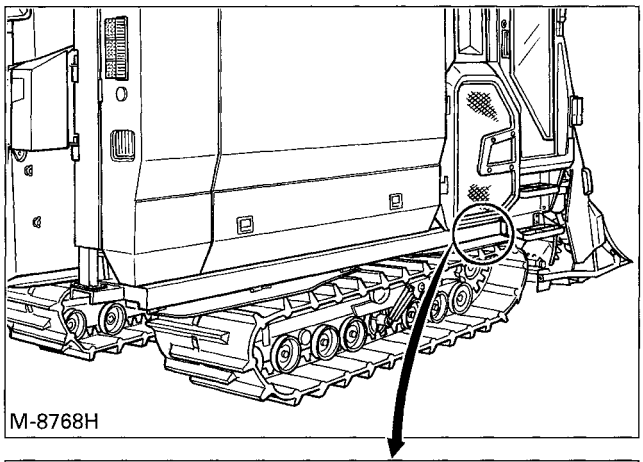
＊オイルの交換と同時に，エンジンオイルフィルタカートリッジも交換してください。

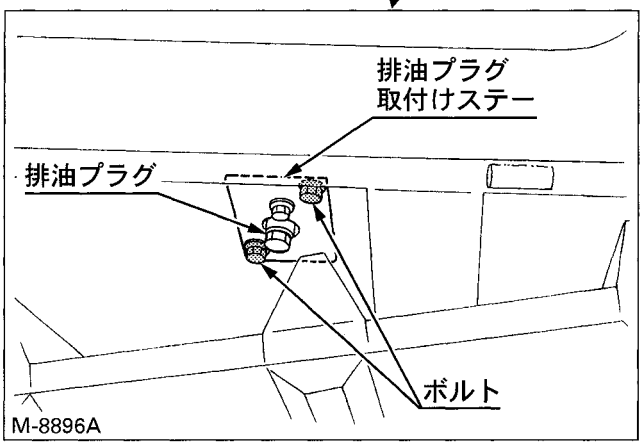
●排油のしかた

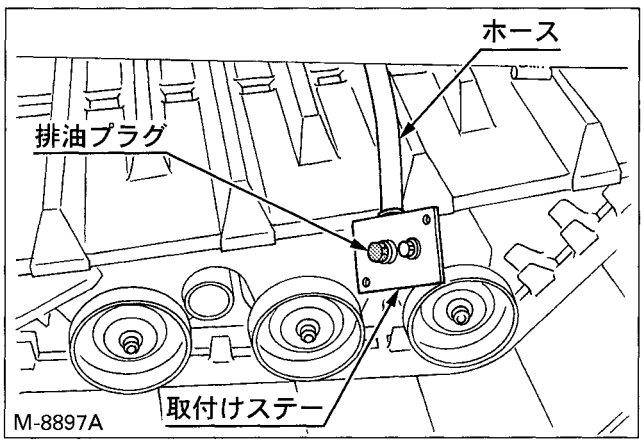
❶エンジン下部にある排油プラグを油が出ない程度に少しゆるめます。

❷排油プラグ取付けステーを固定しているボルトを外します。

❸取付けステーを引出したあと，準備している容器の上で排油プラグを外し，オイルを排出します。







❹排油プラグ取付けステーを取付けます。
❺排油プラグを取付けます。

重　要

＊排油プラグを締め忘れると油もれが発生したり，取付けステーを付け忘れると，ホースがクローラと接触して破損するおそれがあります。

●給油のしかた

排油プラグを締付けて，給油口から規定量のオイルを給油し，給油栓を締付けてください。

重　要

＊指定以外のオイルを使用すると，出力が低下したり，エンジンオイルが異常に消耗又は劣化し，エンジントラブルの原因となります。また，気温によりオイルを選んでください。

気温	オイルの種類	規定オイル容量
15℃未満のとき	クボタ純オイル ディーゼルエンジン用 **【60・70・80】…** D30又はD10W30 **【90・98】…** D30スーパーCD又は， D10W30スーパーCD	約12 L
15℃以上のとき	クボタ純オイル ディーゼルエンジン用 **【60・70・80】…** D10W30 **【90・98】…** D10W30スーパーCD	

＊クボタ純オイルの入手が困難な場合は，API分類でCC級以上**【60・70・80】**，CD級以上**【90・98】**のオイルをお使いください。
この場合は気温により下表のように使い分けてください。

気　温	オイルの種類	
	【60・70・80】	**【90・98】**
15℃未満	10W-30	10W-30(CD級)
15℃以上	SAE30又は， 10W-30	SAE30(CD級)又は， 10W-30(CD級)

※10W-30はオールシーズン用です。

3. トランスミッションケースオイル

警　告

＊点検・補給・交換するときは，刈取部を上げ，刈取下降ロック装置で必ずロックして，刈取部の下降防止を行なってください。さらに枕木などを使用して落下防止の歯止めをしてください。

◆点検・補給

検油ボルトを外してオイルが検油口から出てくれば適正量です。不足しているときは，給油口から規定量になるまで給油してください。さらに，油もれのないことも調べてください。

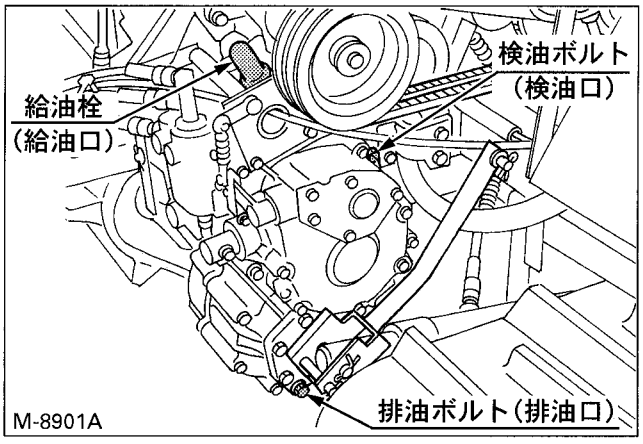
◆交換

●排油のしかた

給油栓を外してから，排油プラグを外し，オイルを排出してください。

●給油のしかた

排油プラグを締付けて，検油口からオイルが出てくるまで給油口から規定量のオイルを給油し，給油栓と検油ボルトを締付けてください。



オイルの種類	規定オイル容量
クボタ純オイルNEW･UDT又は， スーパーUDT	約11.5L

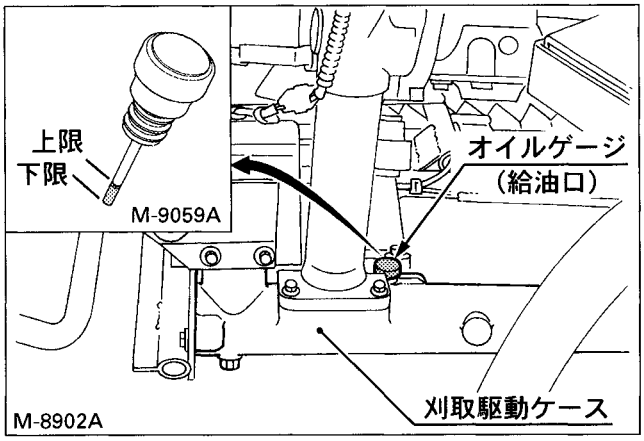
重　要

＊給油したあとエンジンを約１分回転させて，再度点検を行ない検油口からオイルが出ないときは，オイルを追加補給してください。

4. 刈刃駆動ケース

◆給油

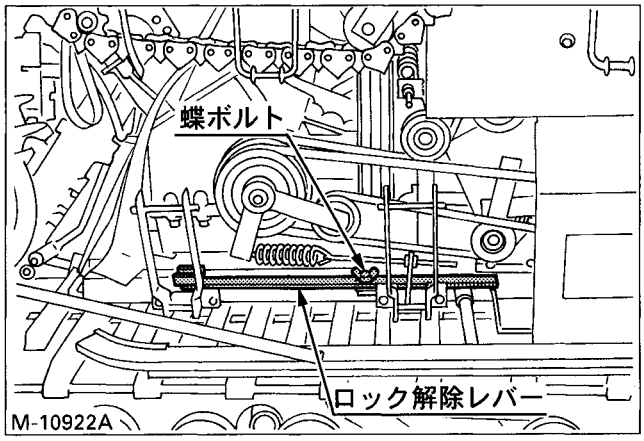
刈取部を接地させたあと，オイルゲージを抜いて，先端をきれいにふき取ります。もう一度差し込み，オイルゲージをいっぱいまで押込んでから抜き，ゲージの**上限**と**下限**の間にオイルがあるか点検します。不足しているときは，給油口から規定量になるまで給油してください。さらに，油もれのないことも調べてください。



オイルの種類	オイル容量
クボタ純オイルNEW･UDT 又は，スーパーUDT	【60・70】……0.8～0.9L 【80・90・98】…1.0～1.1L

5. 油圧オイルタンクオイル

左サイドカバー上，左サイドカバー下１を取外したあと，蝶ボルトを取外してこぎ胴ロック解除レバーを外してください。



◆点検・補給

検油ボルトを外してオイルが検油口から出てくれば適正量です。不足しているときは，給油口から規定量になるまで給油してください。さらに，油もれのないことも調べてください。

◆交換

補　足

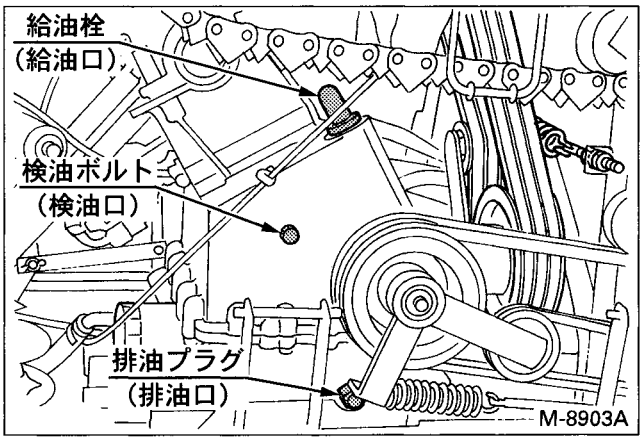
＊オイルの交換と同時に，HSTオイルフィルタカートリッジ・油圧オイルタンクフィルタカートリッジも交換してください。

●排油のしかた

給油栓を外してから，排油プラグを外し，オイルを排出してください。

●給油のしかた

排油プラグを締付けて，検油口からオイルが出てくるまで給油口から給油し，給油栓と検油ボルトを締付けてください。



オイルの種類	規定オイル容量
クボタ純オイルNEW･UDT又は，スーパーUDT	約26L

重　要

＊オイル交換後，エンジン回転数を約1500rpmに合わせて1分間以上は負荷をかけずに運転を行なってください。

補　足

＊規定オイル量は工場出荷時の給油量です。オイル交換後の実際に補給するオイル量は，ホース内などに残っているオイルにより，少なく(約５L)なりますので，検油口からオイルがにじみ出たときに補給を停止してください。

6. HST入力フランジのオイル

警 告

＊点検・補給・交換するときは，刈取部を上げ，刈取下降ロック装置で必ずロックして，刈取部の下降防止を行なってください。さらに枕木などを使用して落下防止の歯止めをしてください。

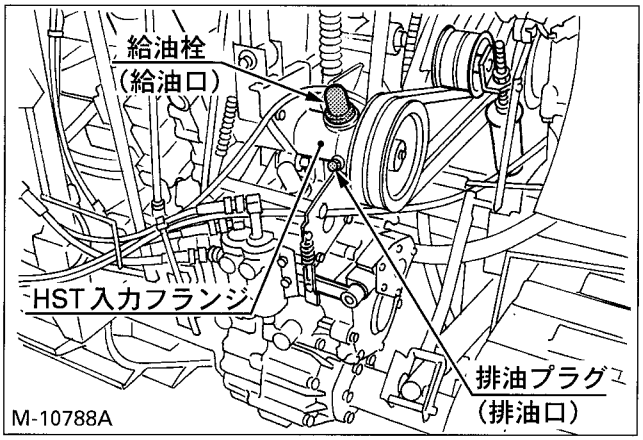
◆交換

●排油のしかた

給油栓を外してから，排油プラグを外し，オイルを排出してください。

●給油のしかた

排油プラグを締付けて，給油口から規定量のオイルを給油し，給油栓を締付けてください。



オイルの種類	規定オイル容量
クボタ純オイルNEW･UDT又は，スーパーUDT	約0.2L

7. フィードチェーン駆動ケースオイル

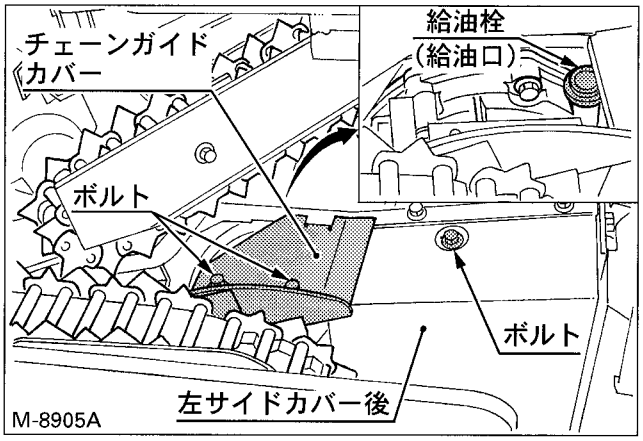
警 告

＊中でこぎ歯が高速で回転しているので接触するとケガをします。こぎ胴オープンするときは，エンジンを必ず止めてください。

こぎ胴をオープンしたあと，ボルトを取外してチェーンガイドカバーと左サイドカバー後を外します。

◆補給

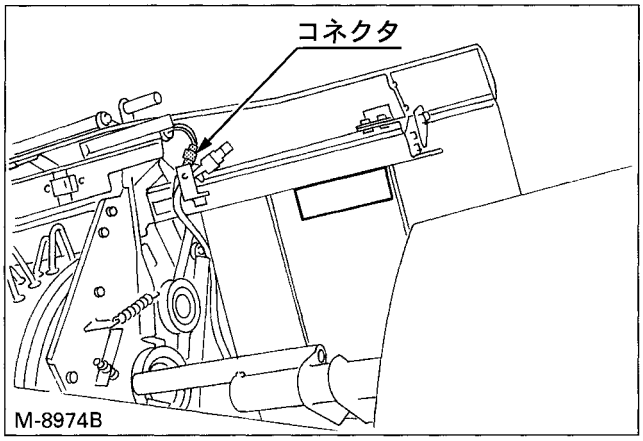
給油栓を外して，オイルを適量補給してください。



オイルの種類	オイル容量
クボタ純オイルNEW･UDT又は，スーパーUDT	約0.6L

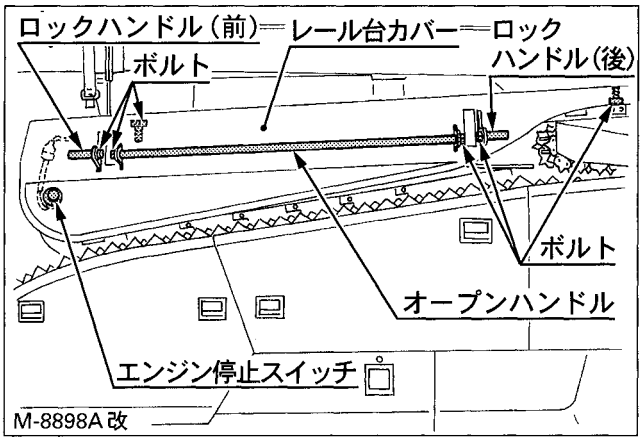
8. レール台ブッシュ部への注油

❶こぎ胴をオープンし，エンジン停止スイッチのコネクタを外したあと，こぎ胴を閉じます。

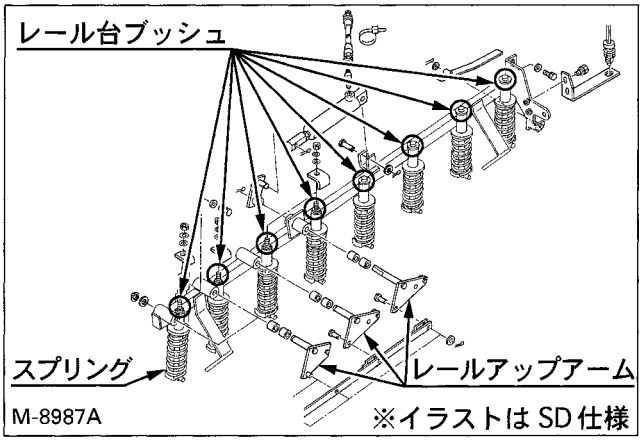


❷ロックハンドル前，後とオープンハンドルの取付ボルトを取外し，各ハンドルを外します。

❸レール台カバーの取付ボルト２本を取外してレール台カバーを外します。



❹レール台ブッシュに注油します。



❺取外しと逆の手順でレール台カバー及び各ハンドルを取付けます。

9. トラックローラ部への注油

❶トラックローラのプラグを最上位置にして機体を止めます。

❷付属部品の７ボックススパナ(四角)を使用してプラグを取外します。

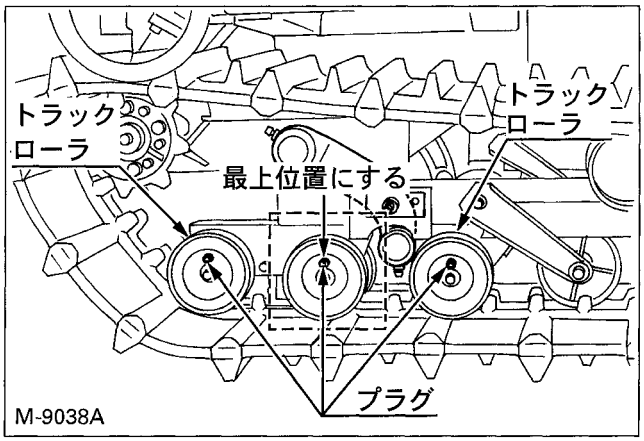
❸油差しでオイルが少しあふれるまで注油します。

❹プラグのネジ部に油漏れ防止のシールテープを巻付けます。

補　足

＊シールテープは購入先に連絡して入手してください。

❺プラグを締付けます。



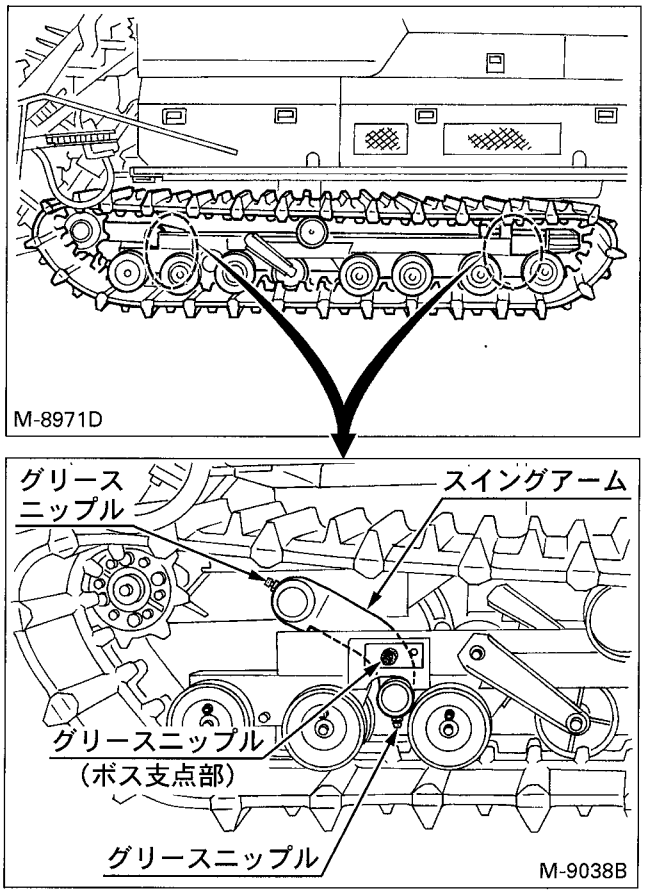
オイルの種類	規定オイル容量
クボタ純オイルD30又は，D10W30又は，M80B又は，M90	約0.1L

❻同じ要領で他のトラックローラにも給油します。

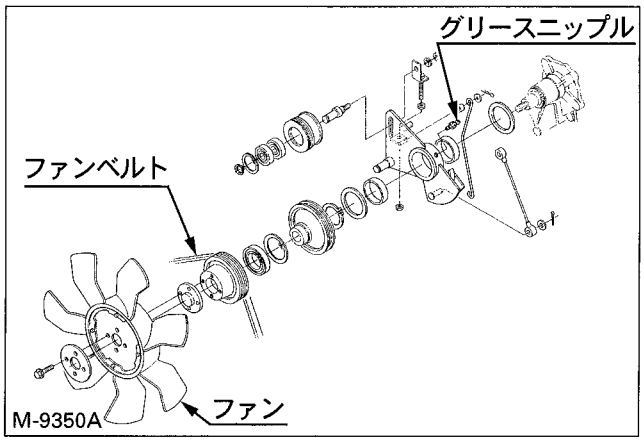
10. 各部のグリース

クボタスペアグリースをグリースニップルから補給してください。

◆スイングアーム部(左，右 8 箇所)
◆ボス支点部(左，右 2 箇所)

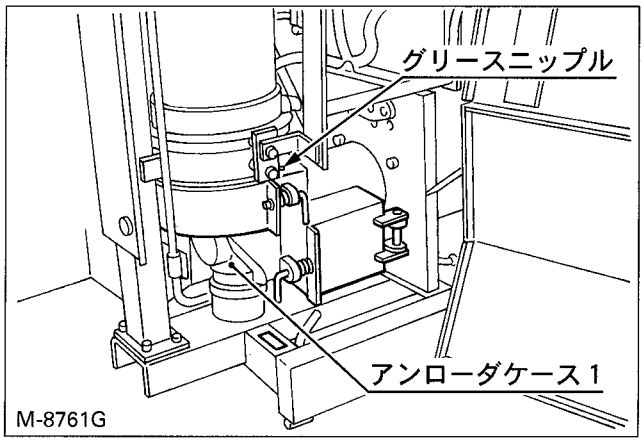


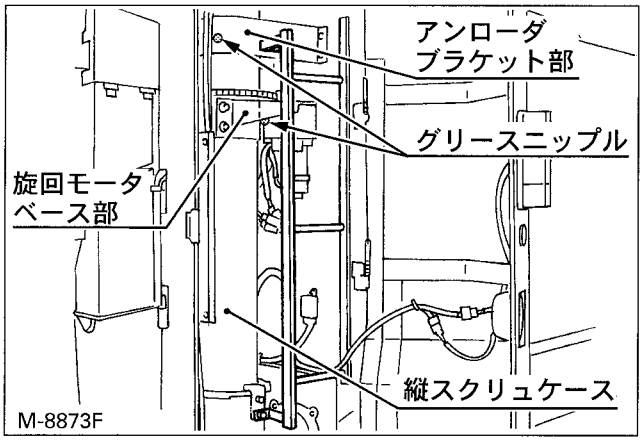
◆エンジン正逆転ファン部【90・98】

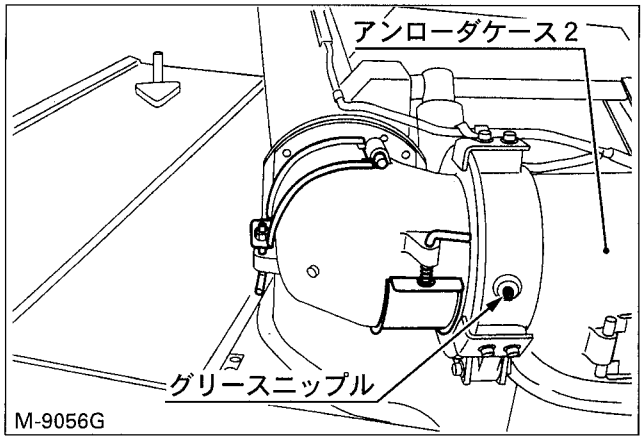


◆アンローダ部

旋回モータベース部のグリースの補給は，グレンタンクをオープンして行なってください。







■ラジエータ冷却水の点検・交換

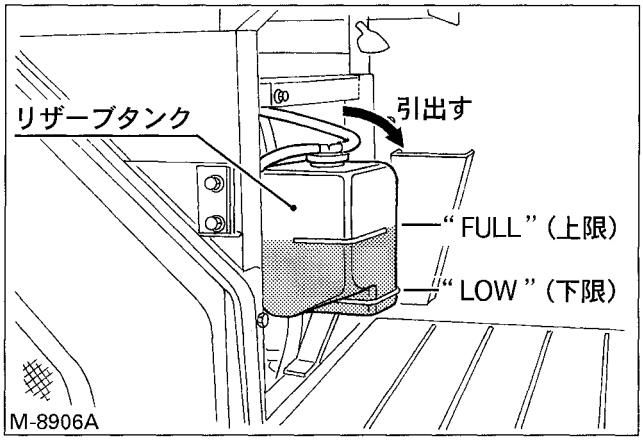
注 意

＊ラジエータキャップやリザーブタンクは，エンジン運転中及び停止直後に開けると，熱湯が噴出することがありますので，エンジン停止後じゅうぶん冷えてからにしてください。

＊異なるメーカの不凍液を混用しないでください。

◆点検

運転席下カバーを外したあと，水量が**“LOW”**(下限)と**“FULL”**(上限)の間にあるか確かめます。**“LOW”**(下限)の線より下にあるときは，リザーブタンクを引出し，リザーブタンクのキャップを外して清水を補給してください。



重 要

＊冷却水が自然に不足したときは，必ず清水を補給してください。不凍液を補給すると濃度が濃くなりエンジンやラジエータの故障の原因となります。

補 足

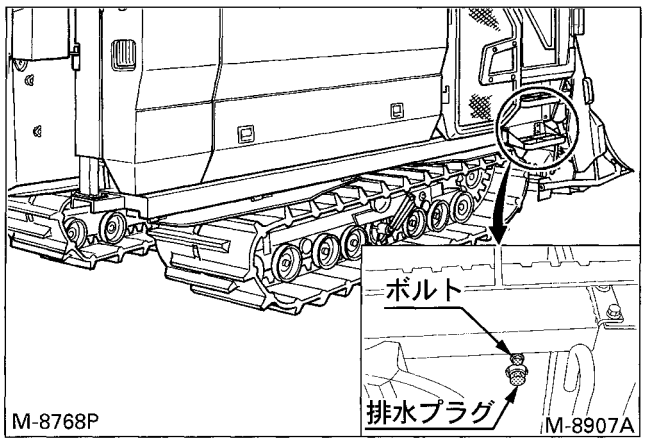
＊**“FULL”**(上限)の線以上は補給しないでください。

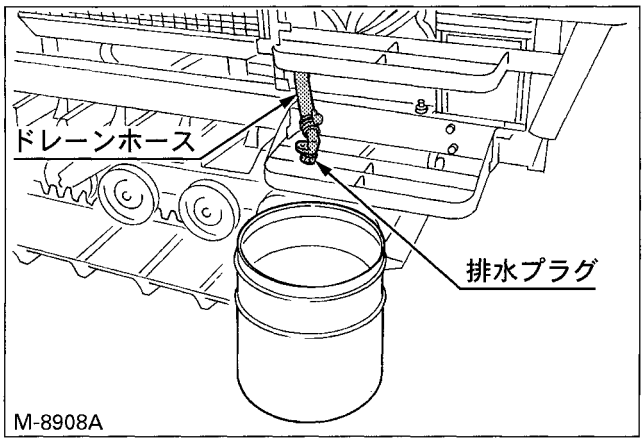
◆交換

❶右前側のロープ掛けフック後側にある排水プラグを水が出ない程度に少しゆるめます。

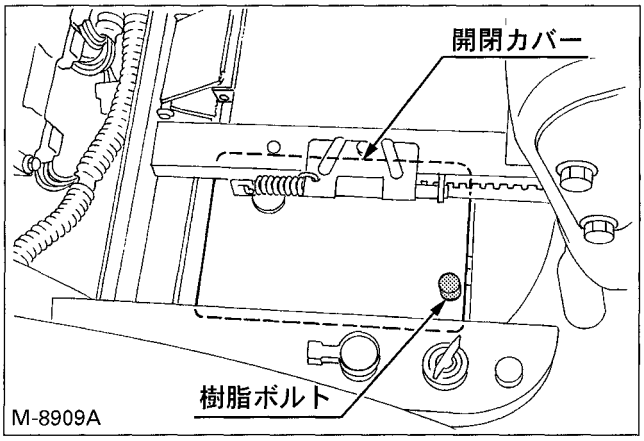
❷排水プラグを固定しているボルトを外します。

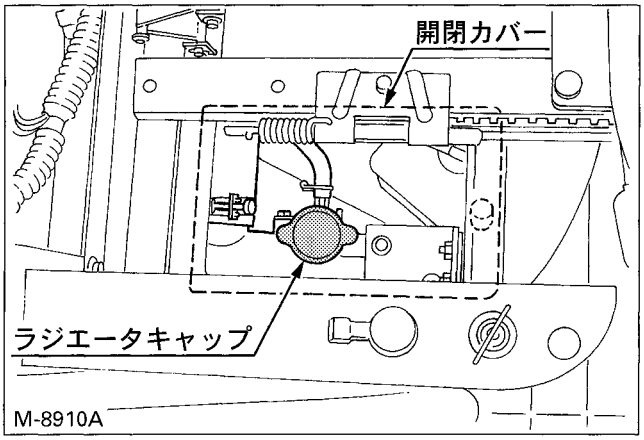
❸排水プラグをドレーンホースといっしょに引出したあと，準備している容器の上で排水プラグを外し，排水します。



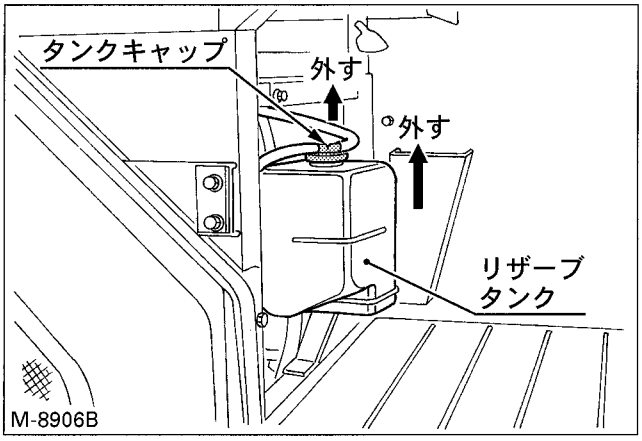


❹運転席下にあるラジエータ冷却水の点検カバーの樹脂ボルトを外して，カバーを取外し，ラジエータキャップを外します。





❺リザーブタンクの冷却水はタンクのキャップ(吸引パイプ付)を取外したあと，ステーからリザーブタンクを外して排水します。



❻水道水でごみやさびが出なくなるまで洗います。

❼排水口をボルトで取付けて，排水プラグを締付けたあと，目標温度(外気温)の比率分(混合比)の不凍液をラジエータ及びリザーブタンクに入れます。

重　要

＊不凍液の混合比を誤まると，冬期には冷却水の凍結，夏期にはエンジンの故障やラジエータの破損の原因になります。

＊不凍液を使用する場合は，ラジエータ保浄剤を投入しないでください。不凍液には防錆剤が入っていますので，保浄剤を混入するとエンジン部品に悪影響を与えます。

＊クボタ不凍液(ロングライフクーラント)の有効使用期間は２年間です。必ず２年で交換してください。

＊排水プラグを締め忘れると水もれが発生したり，排水プラグ部を機体に取付け忘れると，ホースが破損するおそれがあります。

補　足

＊不凍液混合比は，寒冷地ほど高くなります。購入先に相談して，下表を参照して混合比を決めてください。また，不凍液はエチレングリコール(EG)タイプの**ロングライフクーラント**をご使用ください。

●不凍液混合比率表

外気温度　(℃)		-11.5	-15	-20	-25	-30	-35	-40
比率	水　(%)	75	70	65	60	55	50	45
	不凍液 (%)	25	30	35	40	45	50	55

※出荷標準　不凍液50%

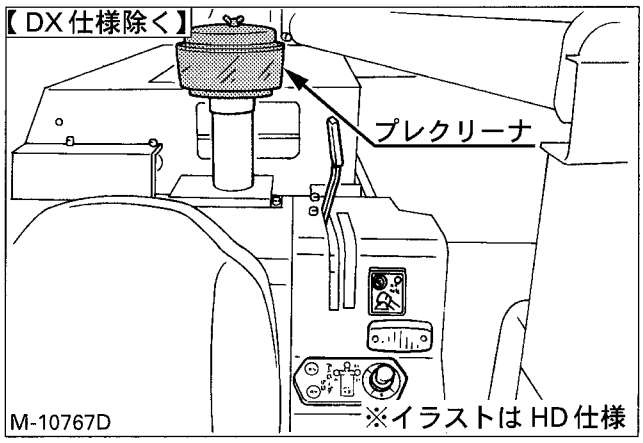
※ラジエータ容量……7.9L

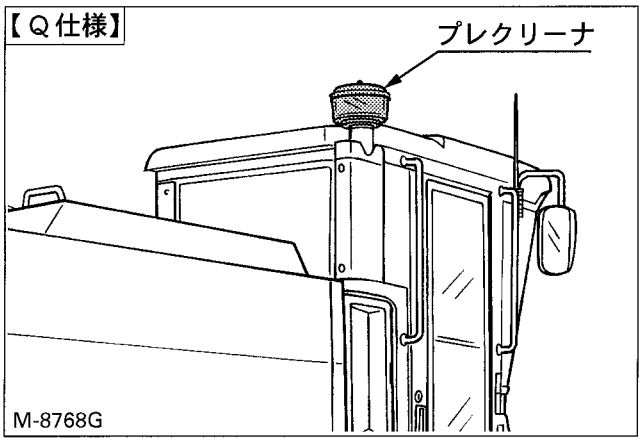
※新しい冷却水と交換を行なったあとは，必ず不凍液を入れて，５分間エンジンを空回転し，不凍液の混合を早めてください。そのあと，リザーブタンクの水量を確かめておいてください。

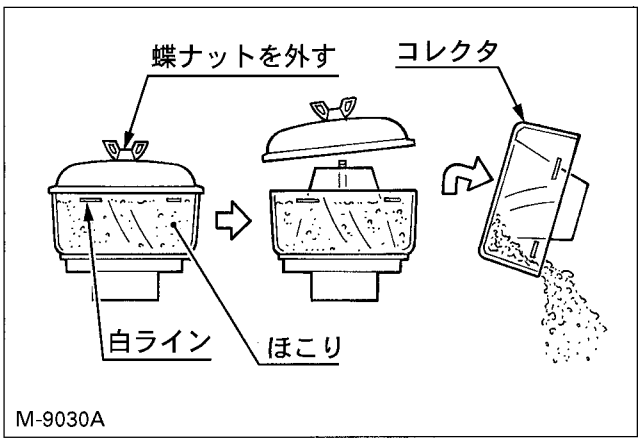
❽ラジエータキャップ及びリザーブタンク，キャップを取付けます。

■プレクリーナの点検・掃除【HD・SD仕様】

ほこりの量がプレクリーナのコレクタ側面の白ラインを越えているときは，蝶ナットを取外して次の要領でほこりを取除いてください。







重　要

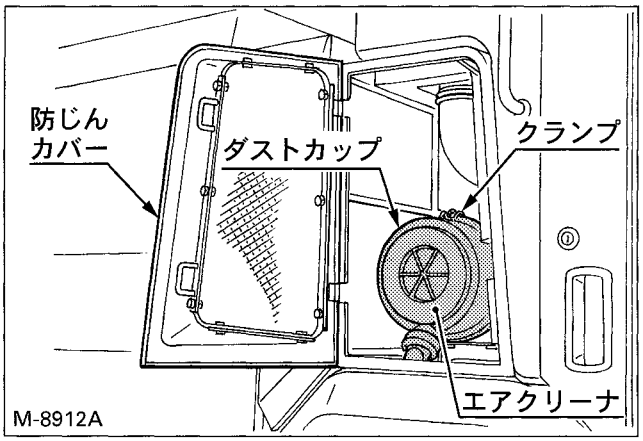
＊乾式のフィルタなのでオイルは入れないでください。

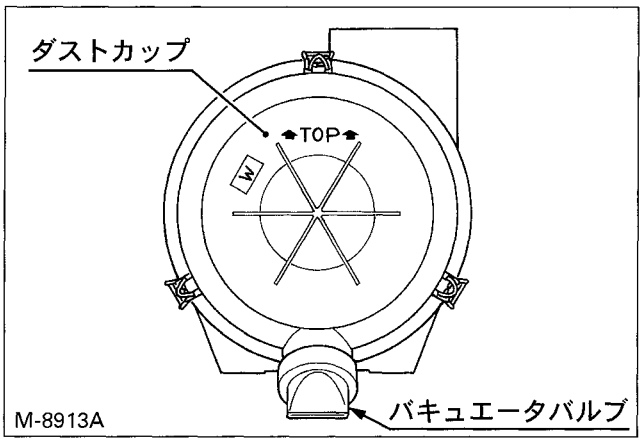
補　足

＊ほこりが溜まるとエアクリーナの詰まりの原因となります。

■エアクリーナの点検・掃除・交換

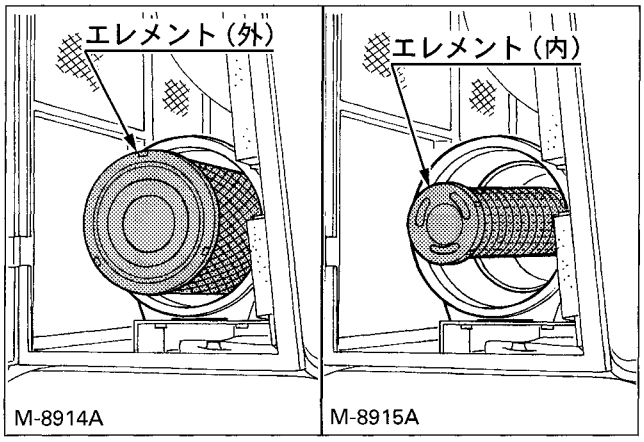
エアクリーナの防じんカバーを開き，クランプ３箇所を外してダストカップを取外してください。ダストカップ内側のゴミはバキュエータバルブをつまんで取除いてください。





◆点検・掃除・交換

エレメントの点検を行ない，掃除又は，交換を行なってください。掃除は，エレメント（外）のみを行なってエレメント（内）は，エレメント（外）を交換するとき，同時に交換してください。エレメント（外）の掃除は，エレメントの内側から空気を吹きつけるか，又は軽く振ってゴミを取除いてください。汚れのひどい場合や300時間経過しているときは，交換してください。



重　要

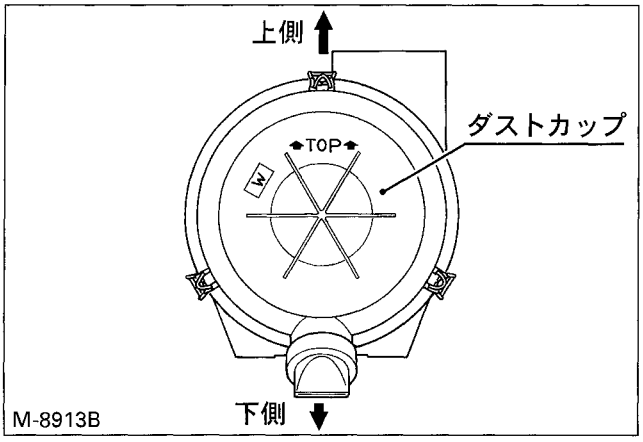
＊高性能サイクロン併用乾式エレメントを使用していますので，オイルを使用しないでください。

＊エアクリーナにほこりが詰まったまま運転すると，エンジンの出力が低下したり，エンジンオイルが異常に消耗又は劣化し，エンジントラブルの原因となります。点検は運転前に欠かさず行なってください。

＊エレメント(内)は，交換するとき以外は触らないでください。掃除時に取外すとゴミの混入により，エンジンの故障の原因となります。

＊エレメントは傷がつかないように取扱ってください。特に掃除時は，たたいたり固い物に当てて変形させるとエンジンの故障の原因となりますのでしないでください。

＊エレメントを取付けたあと，ダストカップの取付け方向に注意してください。



＊エレメントを掃除する場合，エアの圧力は0.69Mpa(7.0kgf/㎠)をこえないよう注意し，エアーガンのノズルとエレメントの間は適当にあけてください。

＊カーボンや油分が付着しているときは，クボタ指定の純正エレメント洗浄剤で洗浄してください。

補　足

＊エレメント洗浄剤
ND-1500(品番：15221-8665-1)

■パイプ・ホース類の点検・交換

注　意

＊運転中ラジエータホースが外れると熱湯が吹き出し，ヤケドをするおそれがあります。

＊燃料系ゴムホースが破損していると燃料もれを起し火災の原因となります。

◆点検

エンジン，エアクリーナ，ラジエータ，燃料タンク各部にある各パイプやホースを点検し，油もれや水もれが発生しているときは，パイプやホースの交換やバンドを締付けてください。

重　要

＊オイルドレーンゴムホースが破損していると，エンジンが焼付を起します。

＊油もれや水もれをしていなくても，**2年経過しているときや劣化の激しい場合**は交換してください。

◆交換

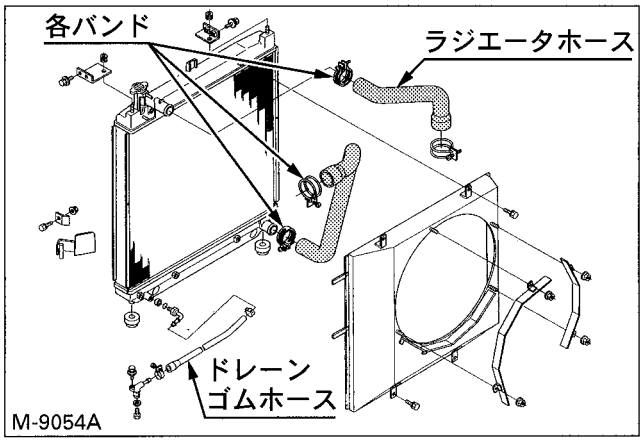
交換時の取付け不良やバンドの締付忘れ，締付不足がないよう取付けてください。

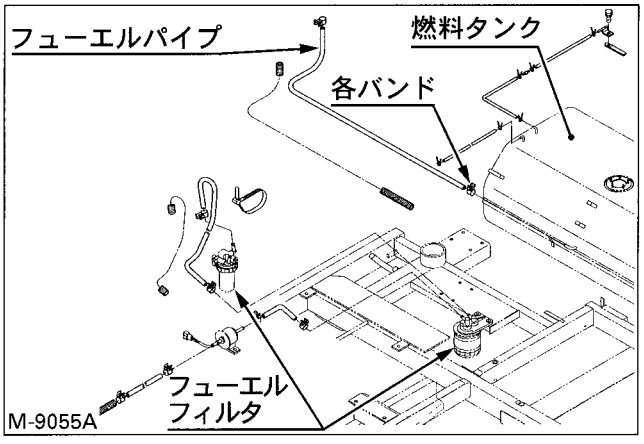
重　要

＊交換時にパイプや噴射ポンプなどにゴミが入らないように注意してください。

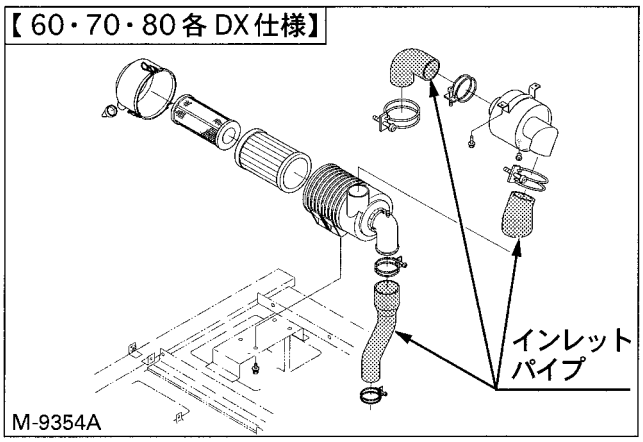
補　足

＊フューエルパイプ交換後は，スイッチキーを**“入”**位置にすると５～10秒で自動的にエア抜きされます。

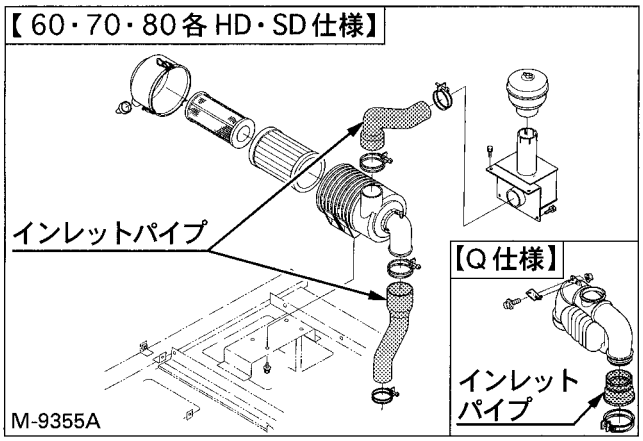




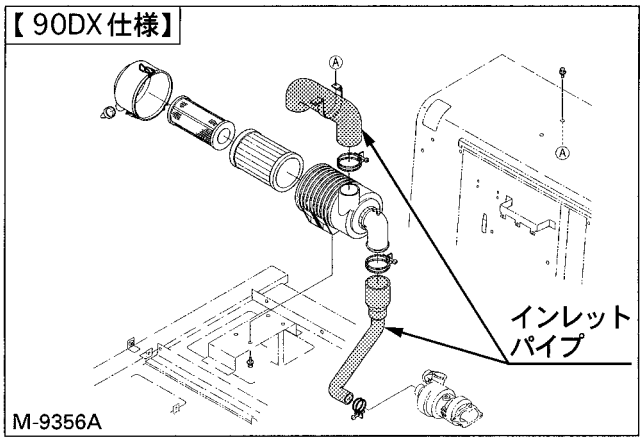
【60・70・80各DX仕様】



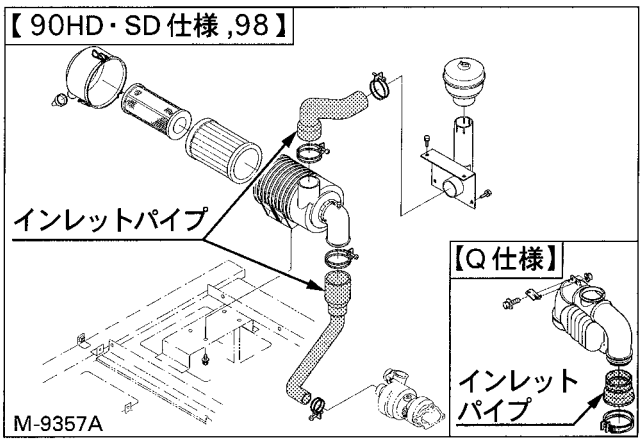
【60・70・80各HD・SD仕様】



【90DX仕様】



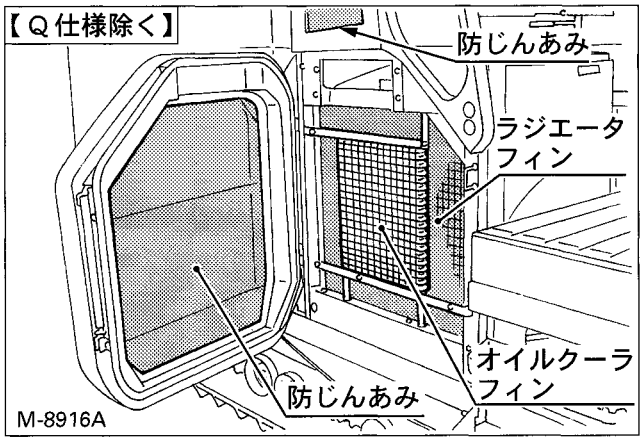
【90HD・SD仕様,98】

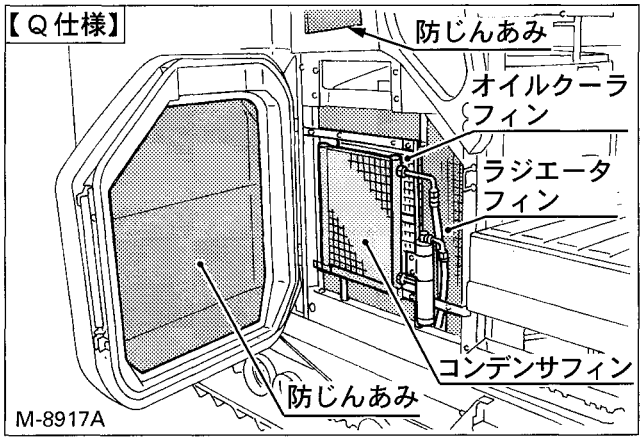


■防じんあみ，ラジエータフィンの掃除
■オイルクーラフィンの掃除
■コンデンサフィンの掃除【Q仕様】

◆掃除

防じんカバーをオープンしたあと，圧縮空気を使用するなどして防じんあみやラジエータ部及びエンジンに付着しているゴミなどを掃除してください。





重 要

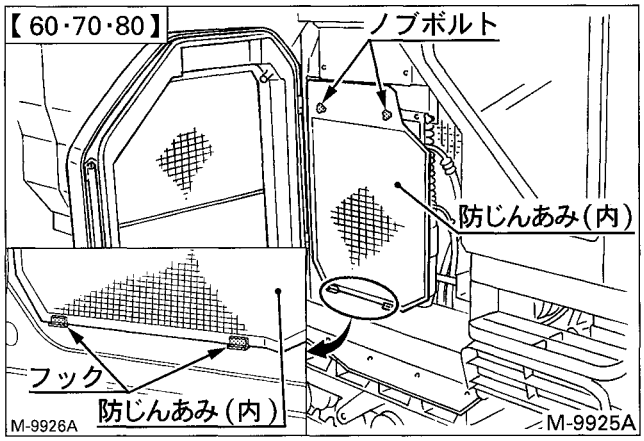
＊ヘラやドライバなど固いものや高圧洗車機を使用して，ラジエータフィンやオイルクーラは掃除しないでください。ラジエータフィンを傷め，ラジエータの機能を低下させる原因になります。

補 足

＊ラジエータフィンのほこりが取れにくい場合は，コンデンサフィン【Q仕様】やオイルクーラを手前に倒してから掃除してください。

●倒しかた

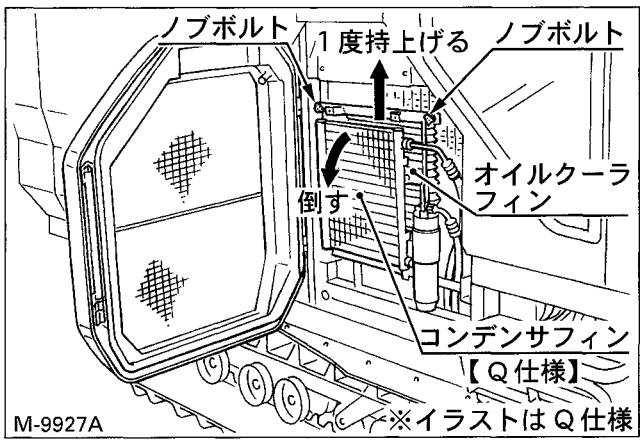
❶【60・70・80】は，ノブボルト２個を取外して防じんあみ(内)を取外します。



補 足

＊取付けるときは，防じんあみをフックに掛けてください。

❷コンデンサフィン【Q仕様】，オイルクーラフィンのノブボルト２個を取外したあと，オイルクーラフィンを１度持上げて手前に倒します。



❸逆の手順で取付けます。

■油水分離器(セパレータ)の点検・排水

注 意

＊グレンタンク開閉範囲内に人がいないことを確認してください。

＊傾斜地では，グレンタンクを開閉しないでください。

グレンタンクをオープンしてください。

◆点検

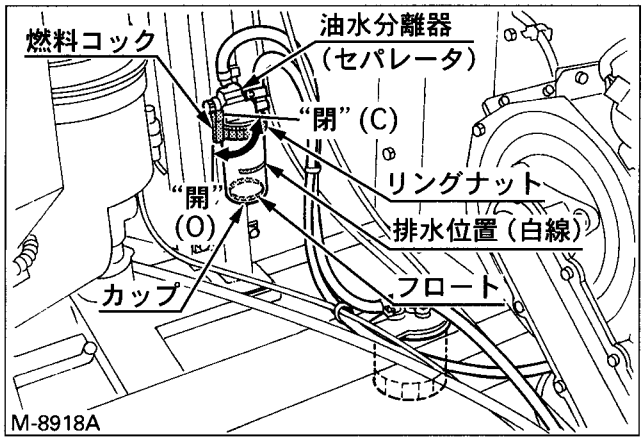
セパレータのカップに水が貯まり，赤いフロート(浮輪)が排水位置(白線)まで上昇したときは排水してください。

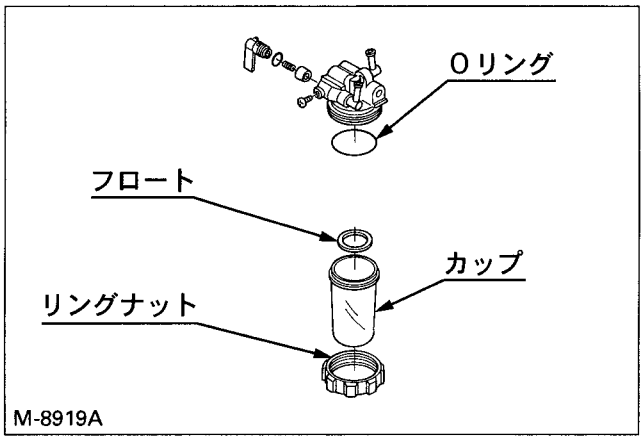
◆排水

❶セパレータの燃料コックを**"閉"(C)**位置にします。

❷リングナットをゆるめてカップを取外し，排水及びゴミの排出をします。

❸カップをリングナットで取付けたあと，燃料コックを**"開"(O)**位置にします。





重 要

＊Oリングは傷付けないようにしてください。また，カップに正しく入れて組付けてください。

補 足

＊エレメントを破らないようにしてください。

＊赤いフロートを捨てないでください。

＊交換後は，スイッチキーを**"入"**位置にすると5～10秒で自動的にエア抜きされます。

■フューエルフィルタカートリッジの交換

注 意

＊グレンタンク開閉範囲内に人がいないことを確認してください。

＊傾斜地では，グレンタンクを開閉しないでください。

グレンタンクをオープンしてください。また，交換は燃料を給油する前に行なってください。

重 要

＊燃料内にゴミなどの異物や水が混入すると，フィルタの目詰まりが早くなったり，フィルタ内に水が溜まりやすくなります。また燃料ポンプや噴射ノズルが摩耗し，エンジンの故障の原因となります。

補 足

＊交換後は，スイッチキーを**"入"**位置にすると5～10秒で自動的にエア抜きされます。

◆交換

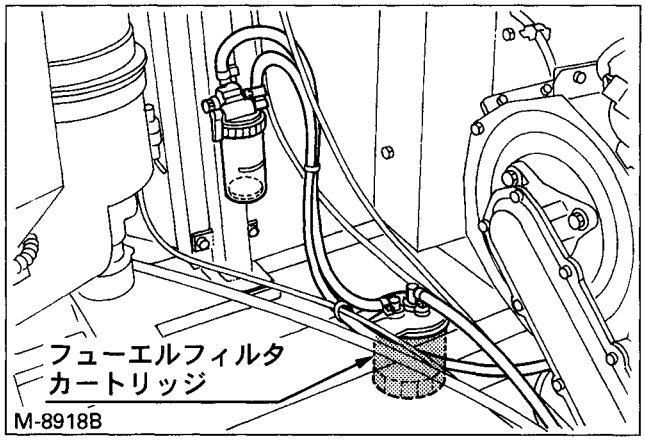
❶セパレータの燃料コックを"閉"位置にします。

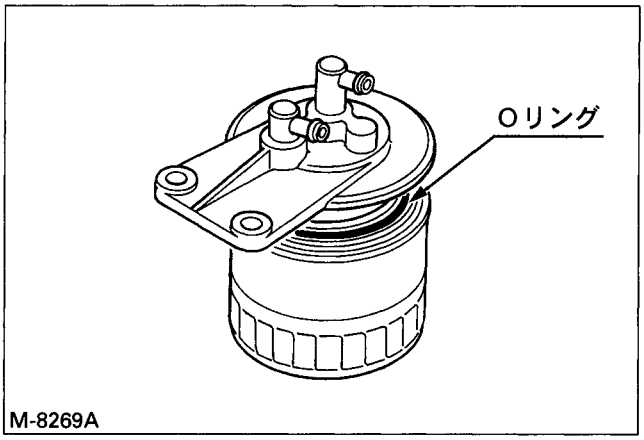
❷専用工具を使ってカートリッジを取外します。

補 足

＊取外しかたや専用工具については，購入先にご相談ください。

❸新しいフィルタカートリッジを取付けます。





重 要

＊新しいカートリッジはOリングに燃料を薄く塗布してから，フィルタレンチを使用せず手で締付けてください。

＊Oリングは傷つけないようにしてください。また，溝にきちんと入れて組付けてください。

❹セパレータの燃料コックを"開"位置にします。

■エンジンオイルフィルタ カートリッジの交換

注 意

＊グレンタンク開閉範囲内に人がいないことを確認してください。

＊傾斜地では，グレンタンクを開閉しないでください。

エンジンオイルの交換(134ページ参照)と同時に交換してください。交換するときは，グレンタンクをオープンしてください。

◆交換

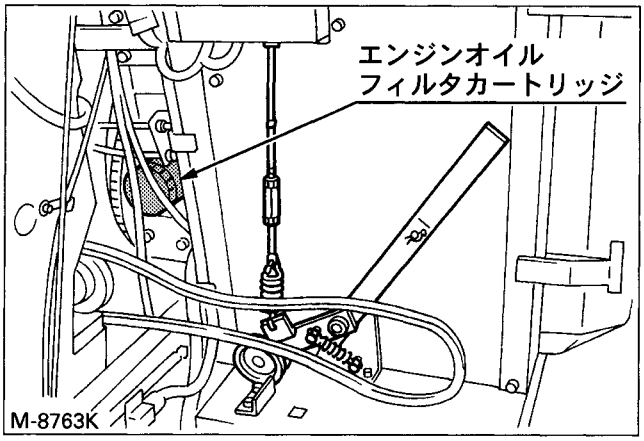
❶専用工具を使ってカートリッジを取外します。

補 足

＊取外しかたや専用工具については，購入先にご相談ください。

❷新しいフィルタカートリッジを取付けます。

❸オイルゲージの上限線までオイルを補給したあと，5分程度エンジンを運転して各部及び油圧(オイルランプ)に異常がないことを確認してから，エンジンを止め，再度油面がオイルゲージの規定内にあることを確めておいてください。



重 要

＊新しいカートリッジはOリングにオイルを薄く塗布してから，フィルタレンチを使用せず手で締付けてください。

＊エンジンオイルフィルタカートリッジを交換するときに，ゴミなどの異物が混入するとフィルタの目詰まりが早くなったり，エンジンの故障の原因となります。

補 足

＊オイルフィルタカートリッジを交換すると，オイルフィルタカートリッジに入る量だけエンジンオイルの油面が下がります。

■HSTオイルフィルタカートリッジ・油圧オイルタンクフィルタカートリッジの交換，HST吸入フィルタの洗浄・交換

警　告

＊点検・補給・交換するときは，刈取部を上げ，刈取下降ロック装置で必ずロックして，刈取部の下降防止を行なってください。さらに枕木などを使用して落下防止の歯止めをしてください。

HSTオイルフィルタカートリッジと油圧オイルタンクフィルタカートリッジは同時に交換を行なってください。また，HST吸入フィルタの洗浄又は，交換も同時に行なってください。

◆交換

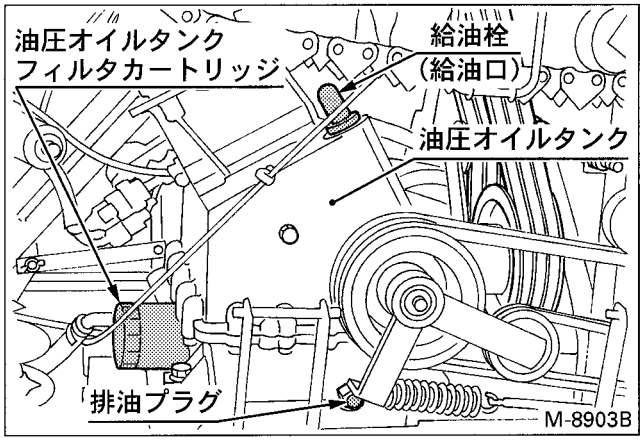
❶左サイドカバー上，左サイドカバー下１を取外します。

❷油圧オイルタンクの給油栓を外してから，排油プラグを外し，オイルを排出します。

❸専用工具を使って油圧オイルタンクフィルタカートリッジを取外します。

補　足

＊ 取外しかたや専用工具については，購入先にご相談ください。



❹新しいフィルタカートリッジを取付けます。

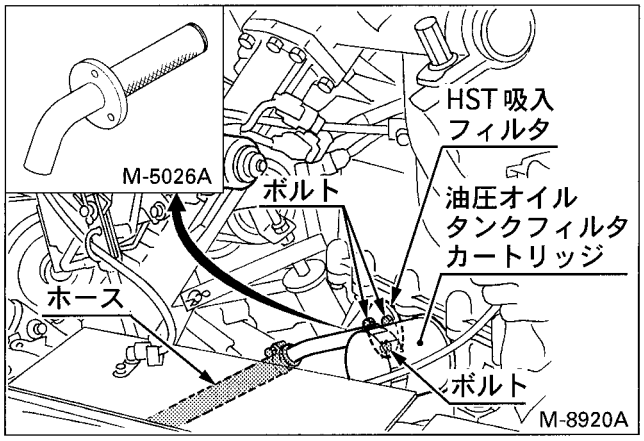
重　要

＊新しいカートリッジはOリングにオイルを薄く塗布してから，フィルタレンチを使用せず手で締付けてください。

❺排油プラグを締付けます。

❻HST吸入フィルタのホースを取外したあと，ボルト３本を取外して吸入フィルタを抜きます。

❼HST吸入フィルタが汚れているときは，軽油などで洗浄し，破損しているときは交換します。

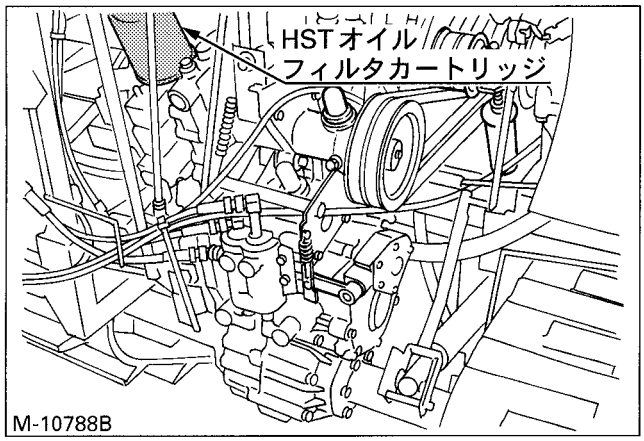


❽取外した逆の手順でHST吸入フィルタを取付けます。

❾専用工具を使ってHSTオイルフィルタカートリッジを取外します。

補　足

＊取外しかたや専用工具については，購入先にご相談ください。



重　要

＊給油したあとエンジンを約1分間以上負荷をかけずに回転させて，オイルゲージで点検を行ない，下限より少ないときは，オイルを追加補給してください。

＊新しいカートリッジはOリングにオイルを薄く塗布してから，フィルタレンチを使用せず手で締付けてください。

＊HSTオイルフィルタカートリッジを交換するときに，ゴミなどの異物が混入するとフィルタの目詰まりが早くなったり，HSTの故障の原因となります。

❿136ページの項を参照し，オイルを規定量給油します。

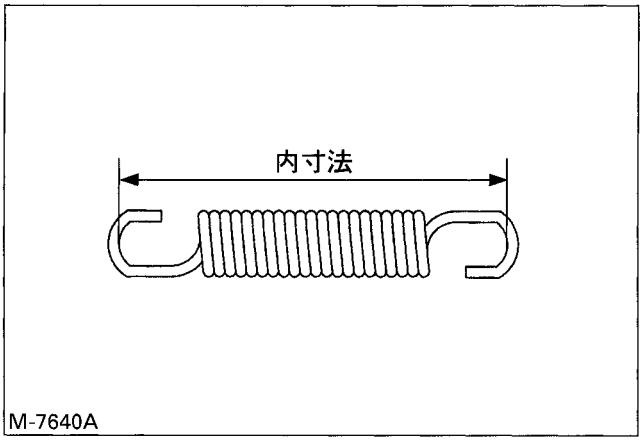
補　足

＊ オイルフィルタカートリッジを交換すると，オイルフィルタカートリッジに入る量だけエンジンオイルの油面が下がります。

■各部ワイヤの点検・調整

補　足

＊スプリングの取付け長さは，フックの内寸法を測定してください。



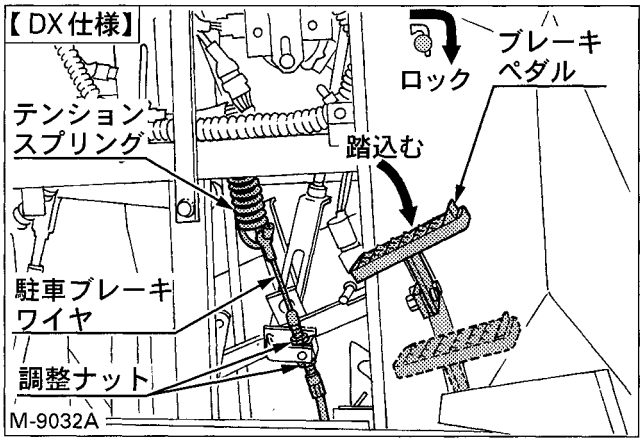
● 駐車ブレーキワイヤ

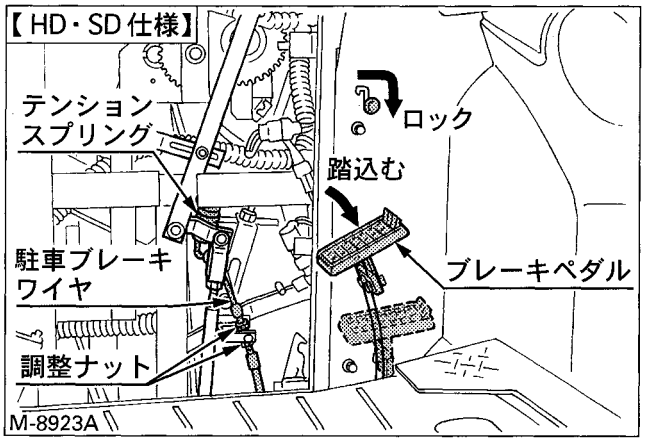
テンションスプリングの長さを115～119mmに調整します。

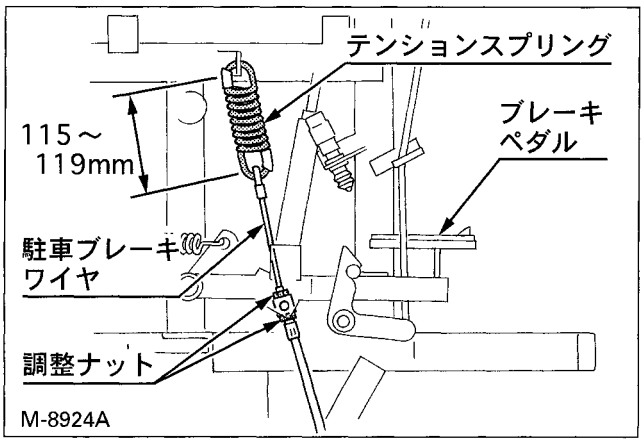
❶駐車ブレーキを掛けます。

❷樹脂ボルト２本を外し，運転席下の左側板を取外します。

❸調整ナット２個をゆるめて，調整します。







❹調整ナットを締付け，左側板を取付けます。

❺駐車ブレーキを解除します。

● フィードチェーンオートクラッチワイヤ
【HD・SD仕様】

刈取部を上げたとき，刈取部がフィードチェーンと同時か少し早く停止する又は，刈取部を下げたとき，フィードチェーンが刈取部と同時か少し早く作動するようにワイヤを調整します。

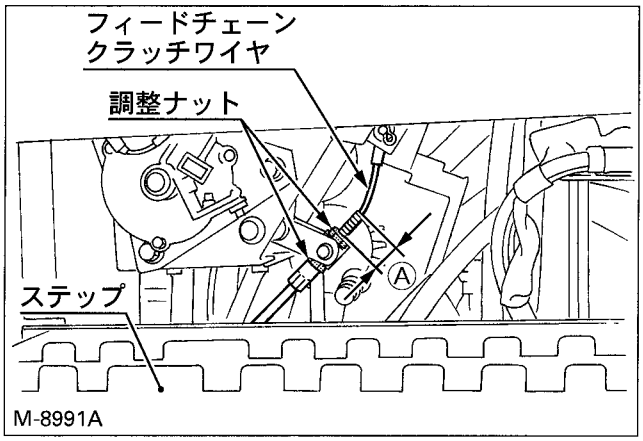
❶平たんな場所で副変速レバーを“N”(中立)位置にし，エンジンを始動したあと刈取オートクラッチを“入”にします。

❷刈取クラッチワイヤの調整を行ないます。
(150ページ参照)

❸脱こく・刈取クラッチレバーを“入”位置にし，主変速レバーを前進側に倒して刈取部を作動したあと，刈取部を上げ下げし，作動状態を確認します。

❹脱こく部及び刈取部を止め，エンジンを停止します。

❺ステップ下にあるクラッチワイヤの調整ナット２個をゆるめて下図Ⓐ寸法を調整します。
- 早くフィードチェーンが切れる場合…伸ばします。
- 遅くフィードチェーンが切れる場合…縮めます。



❻調整ナットを締付けたあと，再度確認を行ないます。

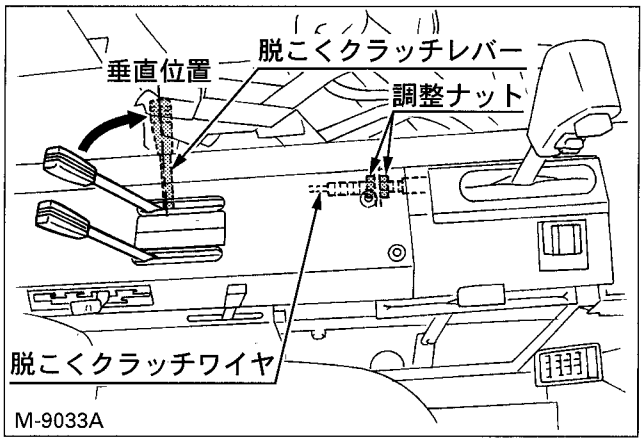
● 脱こくクラッチワイヤ【DX仕様】
● 刈取クラッチワイヤ【DX仕様】

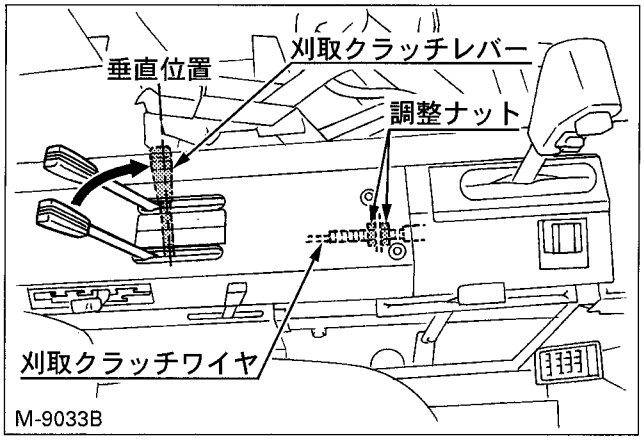
脱こく・刈取各クラッチレバーが垂直位置で重たく（荷重がかかる）なるように調整してください。

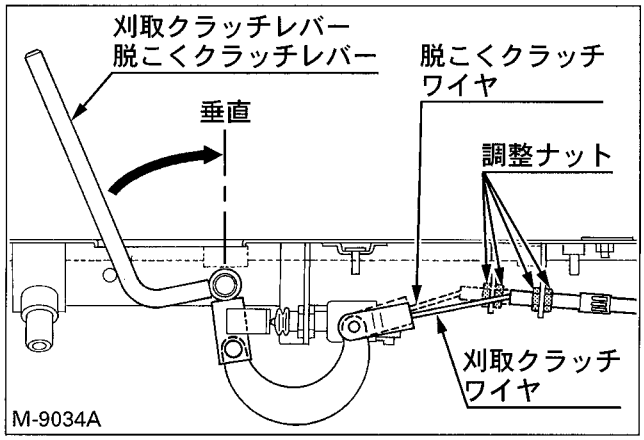
❶刈取クラッチワイヤの場合は，刈取部を地面に接地させます。

❷樹脂ボルト２本を外し，運転席下の左側板を取外します。

❸調整ナット２個をゆるめて，調整します。







❹調整ナットを締付け，左側板を取付けます。

- **脱こくクラッチワイヤ【HD・SD仕様】**
- **刈取クラッチワイヤ【HD・SD仕様】**

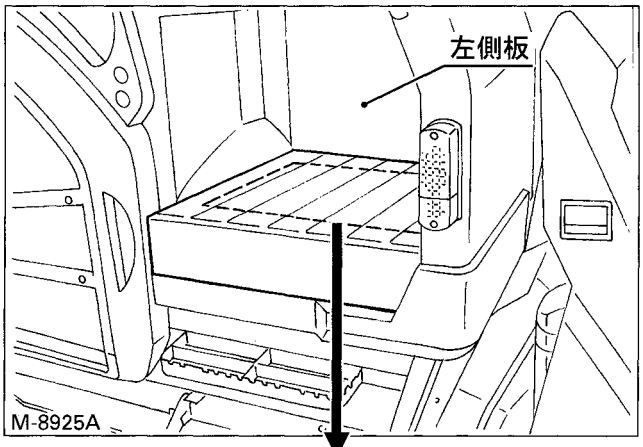
❶メインスイッチのスイッチキーを**"入"**位置にしたあと，脱こく・刈取クラッチレバーを**"刈取"**位置にします。

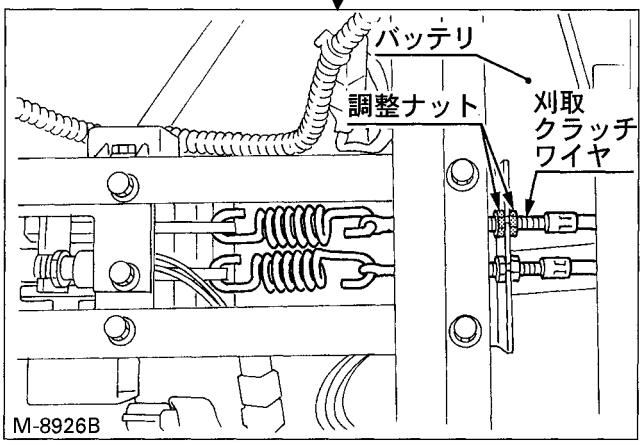
❷スイッチキーを**"切"**位置にしたあと，ステップのゴムカバーをめくり，バッテリ点検用の開閉カバーを開きます。(182ページ参照)

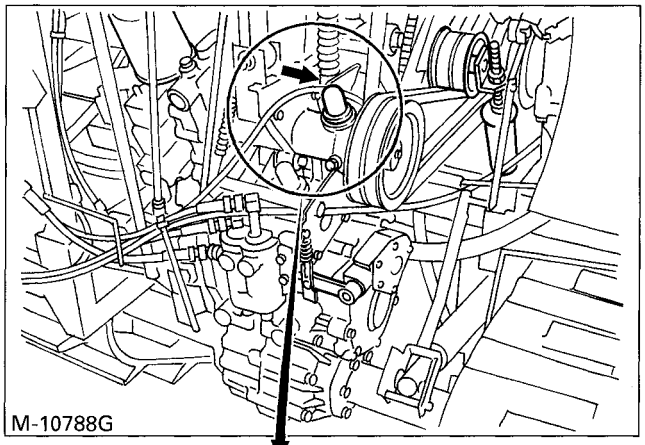
❸運転席下の左側板を取外します。

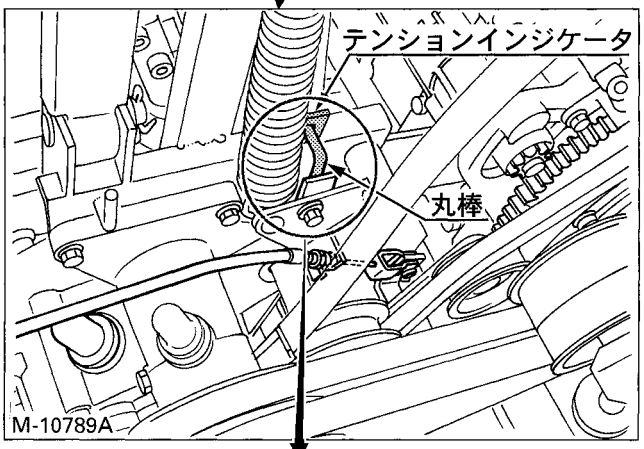
❹ワイヤの調整を行ないます。

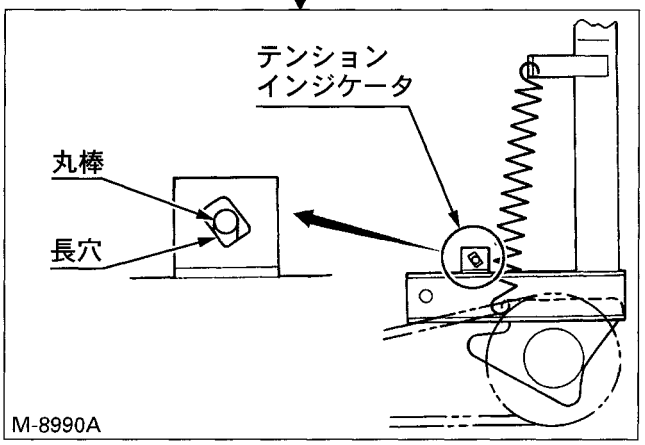
(1)刈取クラッチワイヤの調整は刈取クラッチワイヤの調整ナット２個をゆるめ，運転席左下の奥にあるテンションインジケータ部の丸棒を長穴の中央に合わせます。



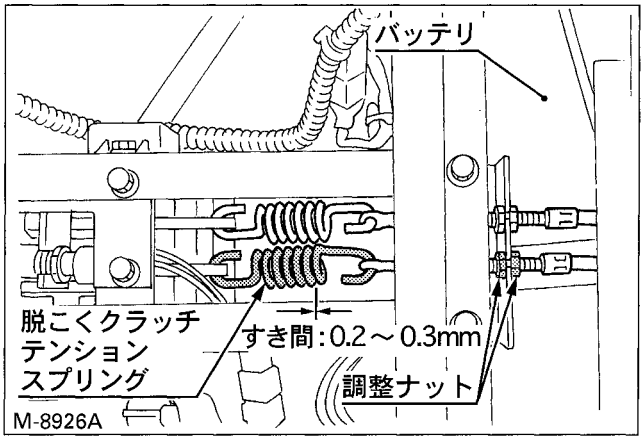








(2)脱こくクラッチワイヤの調整は，脱こくクラッチのテンションスプリングのすき間を0.2～0.3mmの範囲内に，調整ナット２個をゆるめて調整します。



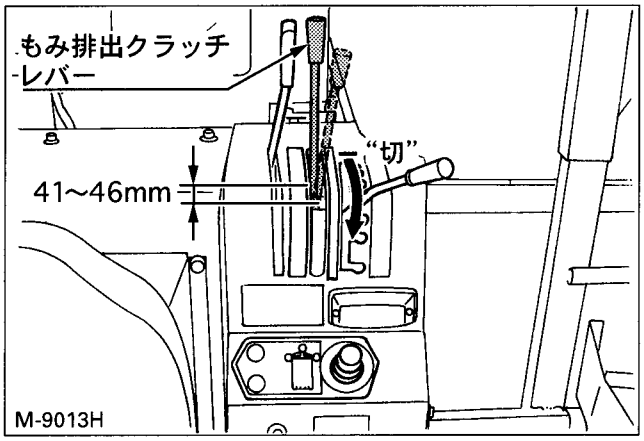
❹調整ナットを締付けたあと，開閉カバーを閉じてステップのゴムカバーを元の状態にします。

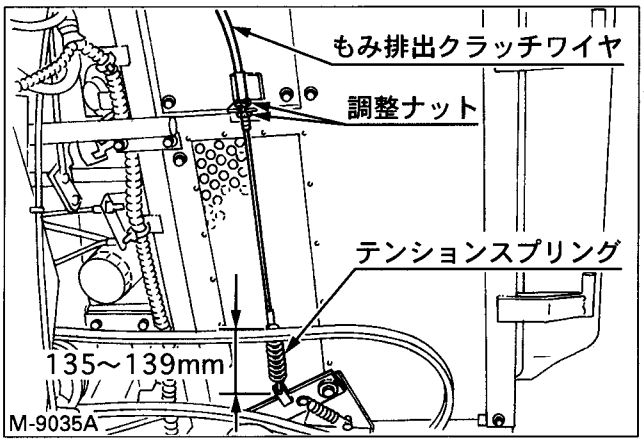
◆もみ排出クラッチワイヤ【DX仕様】

もみ排出クラッチレバーを**“切”**位置から**“入”**位置方向へ41～46mm動かした位置で重たく（荷重がかかる）なるように調整してください。

❶もみ排出クラッチレバーを**“入”**位置方向に動かして重たくなる位置を確認します。

❷グレンタンクをオープンし，もみ排出クラッチワイヤの調整ナット２個をゆるめて調整を行ないます。





補　足

＊もみ排出時のテンションスプリングの長さは135～139mmです。

❸調整ナットを締付けたあと，グレンタンクを閉じます。

● 排わら切換えワイヤ

テンションスプリングの長さを185～188mmに調整します。

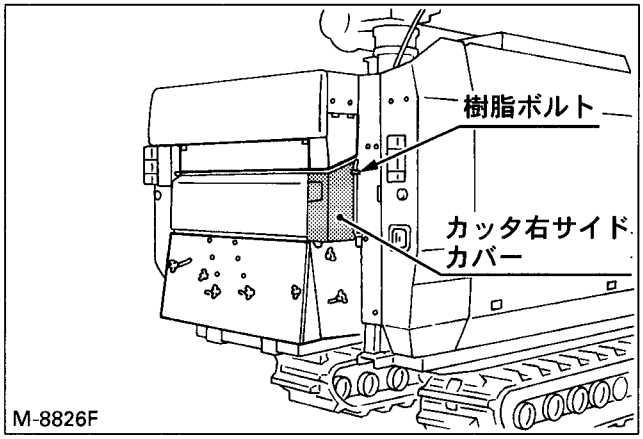
❶カッタ切換えレバーを**“カッタ”作業位置**にして切換えカバーを開きます。

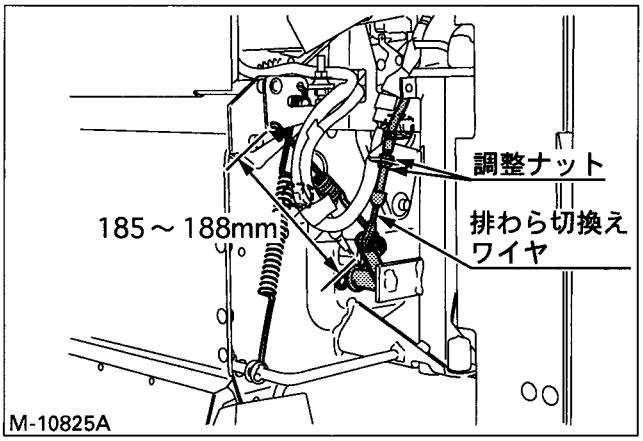
❷樹脂ボルトを取外し，カッタ右サイドカバーを外します。

❸調整ナット２個をゆるめて，調整を行ないます。

❹調整ナットを締付けます。

❺カッタ右サイドカバーを取付けます。





■各部ベルトの点検・調整

下表を参照して，各部ベルトの張り調整を行なってください。

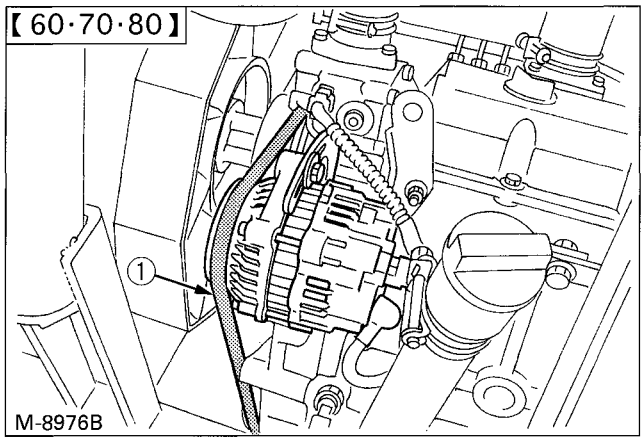
点検箇所	図番	名称	適応機種	サイズ	本数(本/台)	張り調整				たわみ量(mm)
						テンションスプリング取付け長さ(mm)				
運転席・刈取部周辺	①	ファン駆動ベルト	【60・70・80】	34ブイベルト(コグ)	1	—				10～12
	②	ファン駆動ベルト(1)	【90】	ブイリブドベルト(1315mm)						—
	③	ファン駆動ベルト(2)		ブイリブドベルト(670mm)						3～4
	④	コンプレッサ駆動ベルト	【Q仕様】	A37	1	—				5～8
	⑤	ミッション駆動ベルト	【60】	特C60	2	A	27～33(テンションロッドの出代)			—
			【70】	特C59						
			【80】	特C60(コグ)						
			【90・98】	特C59(コグ)						
	⑥	脱こく駆動ベルト	【60】	特B44	3	B	【HD・SD仕様】	【DX仕様】		—
			【70・80・90・98】	特B44コグ			0.2～0.3(すき間)(150ページ参照)	脱こくクラッチワイヤのアジャストを調整(149ページ参照)		
	⑦	刈取駆動ベルト	【60・70・80・90】	特C57	1	【HD・SD仕様】	【DX仕様】			—
			【98】	特C58		テンションインジケータの丸棒の位置を調整(150ページ参照)	刈取クラッチワイヤのアジャストを調整(149ページ参照)			
	⑧	補助搬送(突起付)ベルト	【60・70】	—	5	—				5～10
			【80・90・98】		6					
脱こく部・カッタ周辺部	⑨	こぎ胴駆動ベルト	【60・70・80・90】	特B153	3	C	324～339			—
			【98】	特B154						
	⑩	トウミ駆動ベルト	【60・70・80】	特殊B80	1	—				—
			【90】	特殊B84						
			【98】	特殊B86						
	⑪	1番駆動ベルト	【60・70・80・90】	特C113	1	D	170～180			—
			【98】	特C117						
	⑫	2番駆動ベルト	【60・70・80・98】	特C149	1	E	166～171			—
			【90】	特C161			261～266			
	⑬	揺動駆動ベルト	【全機種】	特B43	1	F	293～298			—
	⑭	2番トウミ駆動ベルト	【90】	特B37	1	G	293～298			—
	⑮	排じんファン駆動ベルト	【90】	特殊B41	1	—				—
	⑯	排わらチェーン駆動ベルト	【全機種】	特B39	1	H	145～150			—
	⑰	カッタ駆動ベルト	【全機種】	特B55	1	J	163～167			—
タンクレクン部	⑱	タンク駆動ベルト	【60・70・80・90】	特C62（コグ）	1	K	33～37			—
			【98】	特C65（コグ）						
	⑲	タンククラッチ駆動ベルト	【全機種】	特C68	1	L	【HD・SD仕様】	【DX仕様】		—
							154～158	※1 135～139		

※1：もみ排出クラッチレバーを**"切"**位置から**"入"**位置へ41～46mmの位置で荷重がかかること。

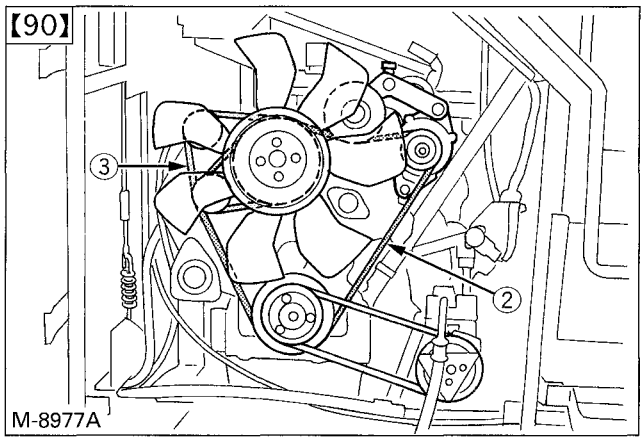
重要

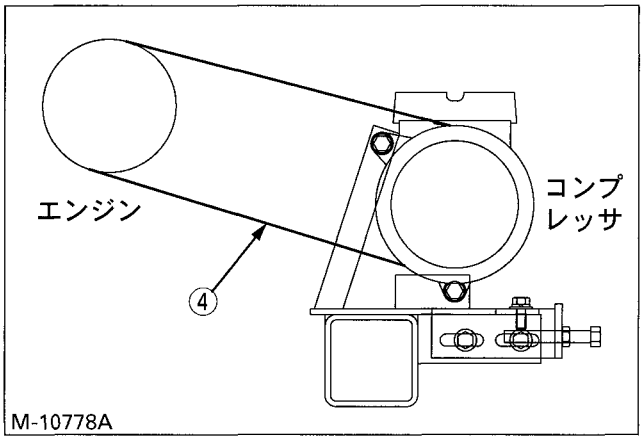
＊ミッション駆動ベルト，脱こく駆動ベルト，こぎ胴駆動ベルトの交換を行なうときは，2本又は，3本同時に交換してください。単品で交換すると，新しく交換したベルトの寿命が短くなるおそれがあります。

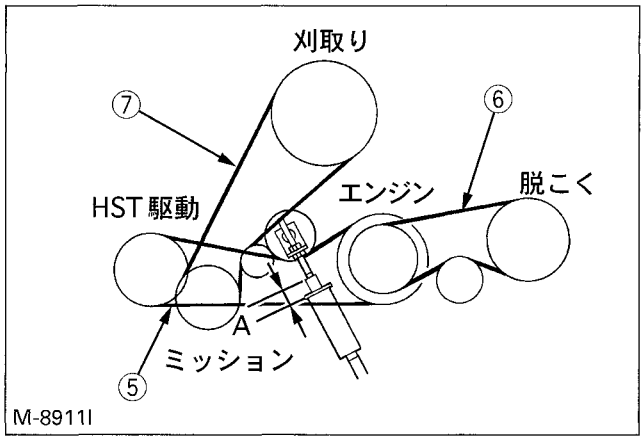
【60・70・80】



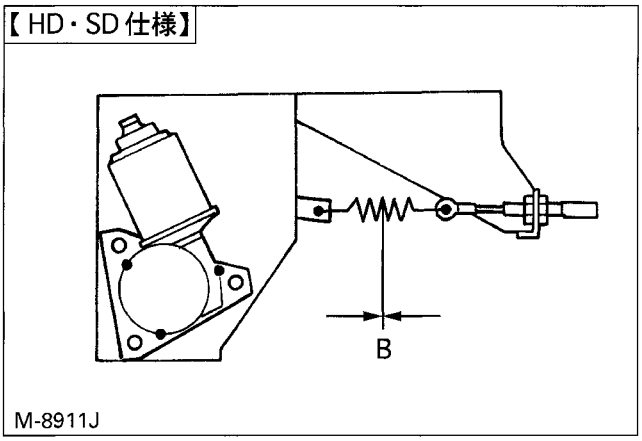
【90】



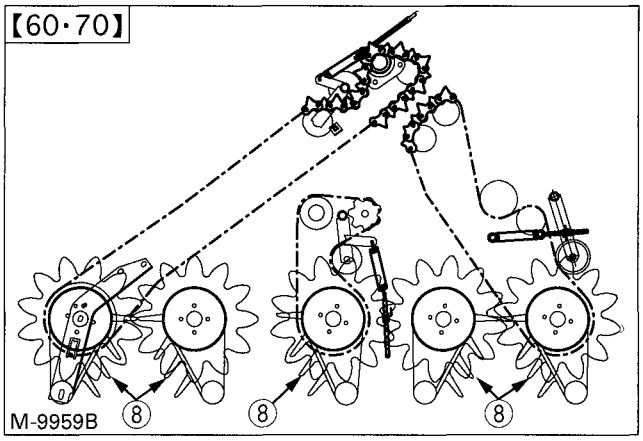




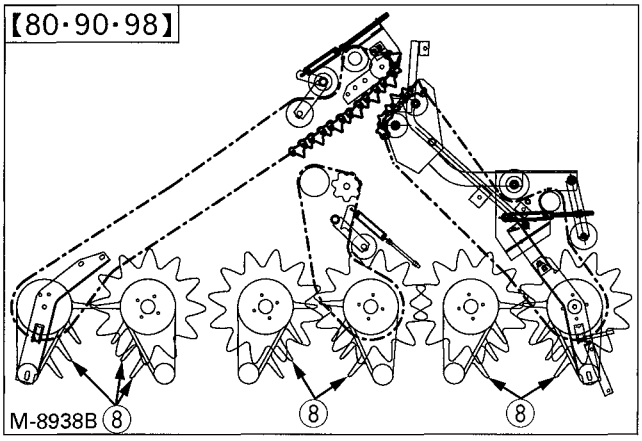
【HD・SD仕様】

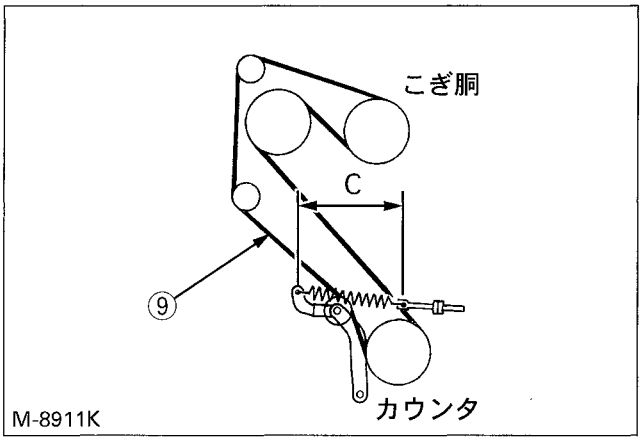


【60・70】

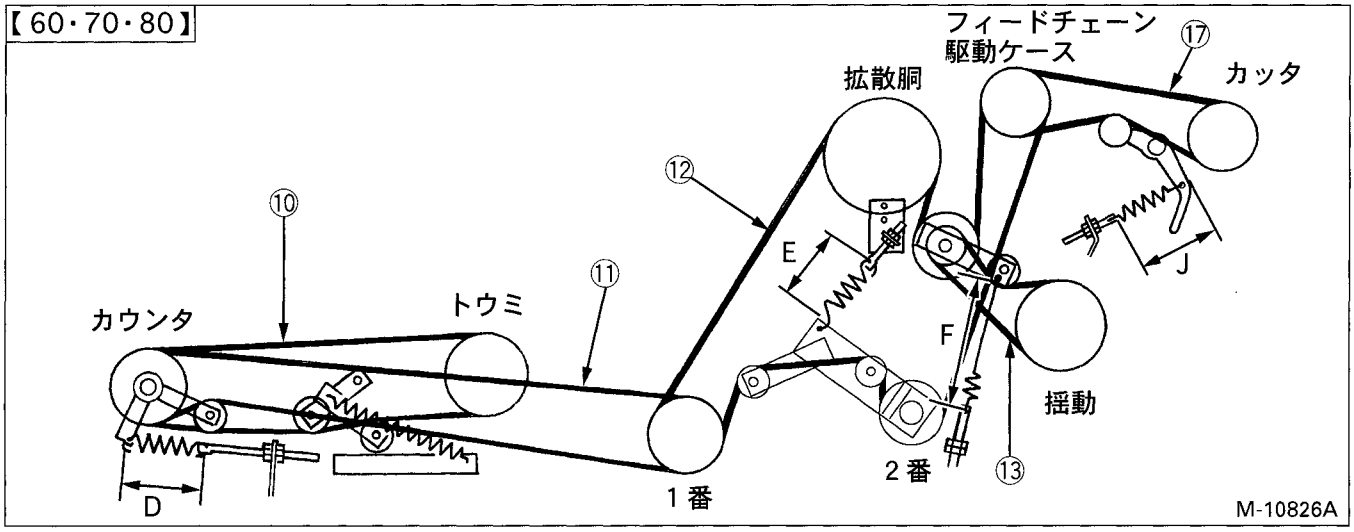


【80・90・98】

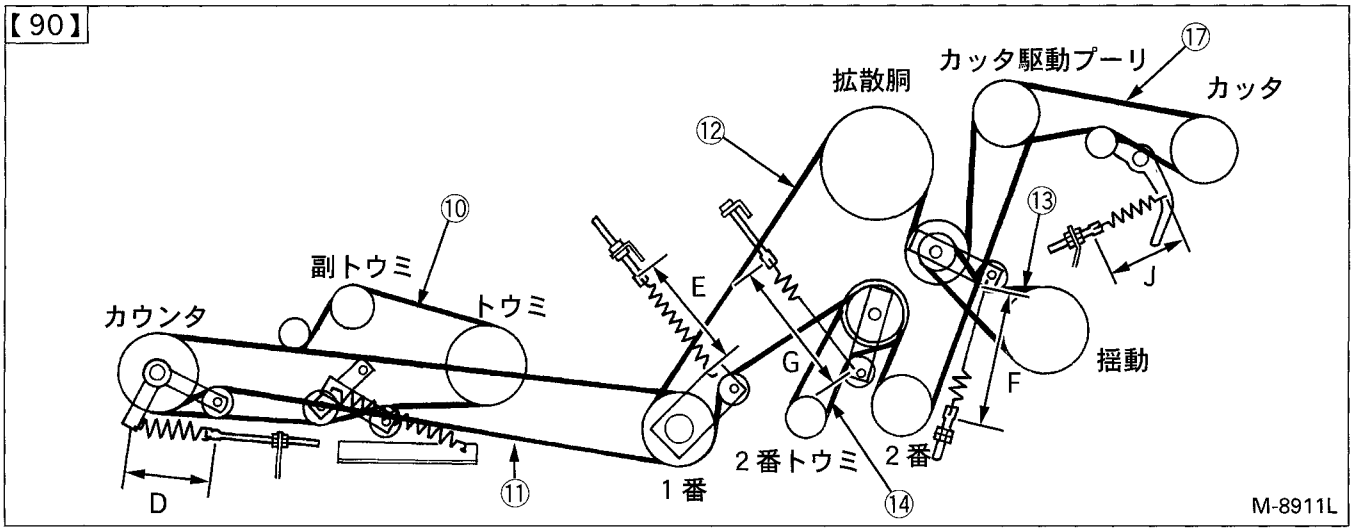




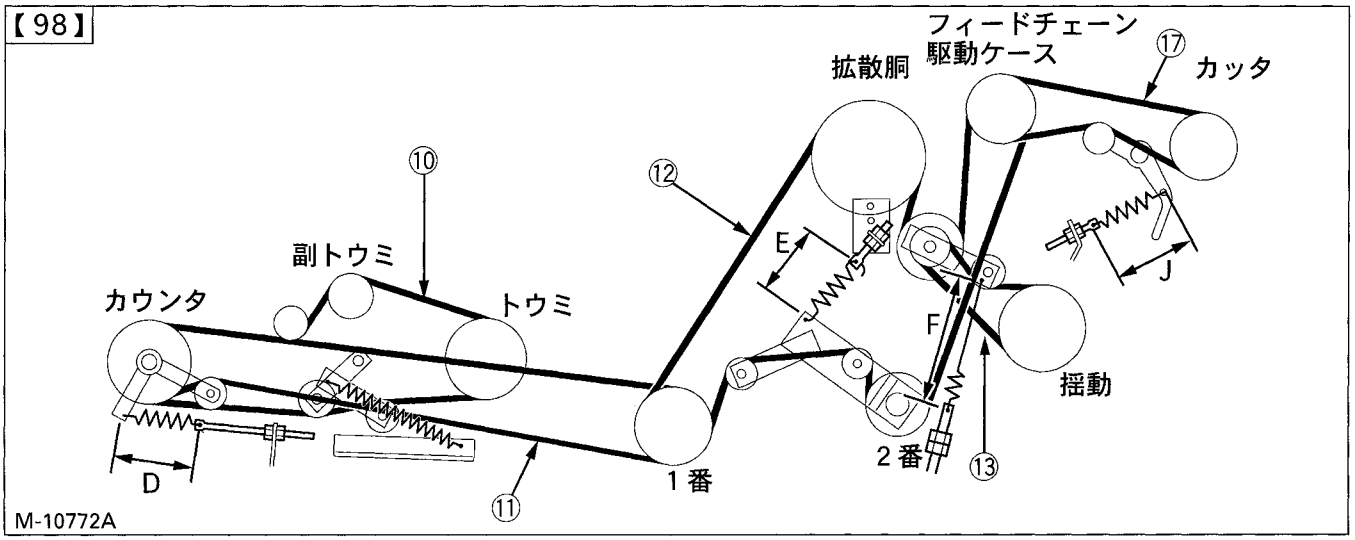
【60・70・80】


フィードチェーン
駆動ケース
⑰
カッタ
拡散胴
⑫
⑩
⑪
カウンタ
トウミ
E
J
F
揺動
D
1番
2番
⑬
M-10826A

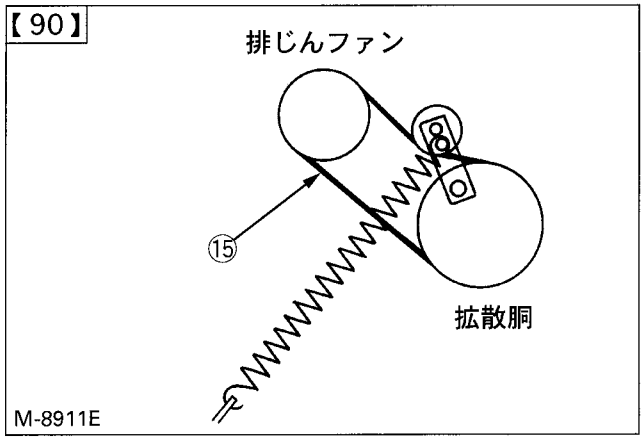
【90】


⑰
カッタ駆動プーリ
カッタ
拡散胴
⑫
⑩
副トウミ
トウミ
カウンタ
E
G
⑬
J
F
揺動
D
⑪
1番
2番トウミ
2番
⑭
M-8911L

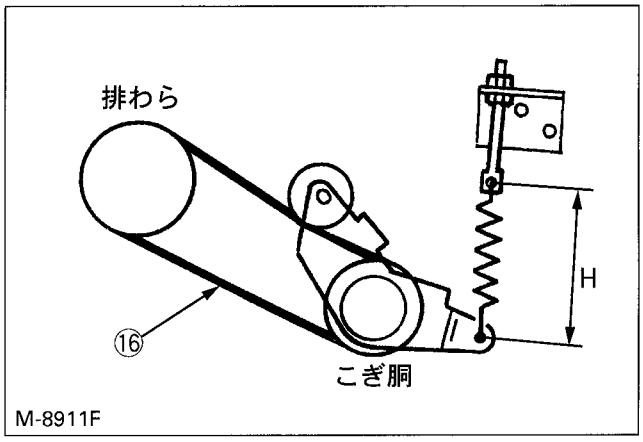
【98】


フィードチェーン
駆動ケース
⑰
カッタ
拡散胴
⑫
⑩
副トウミ
トウミ
カウンタ
E
J
F
揺動
D
1番
2番
⑬
⑪
M-10772A

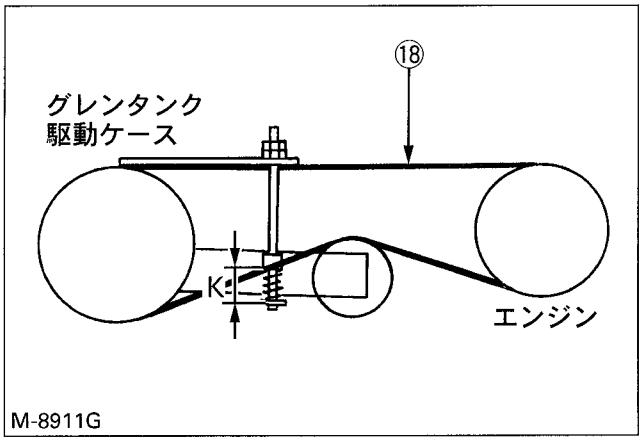
【90】



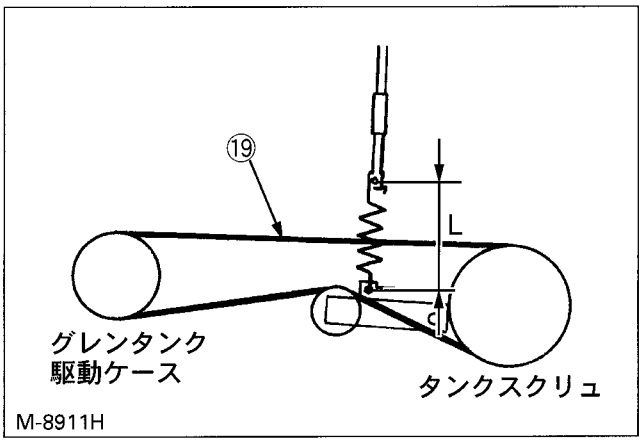
M-8911E



M-8911F



M-8911G

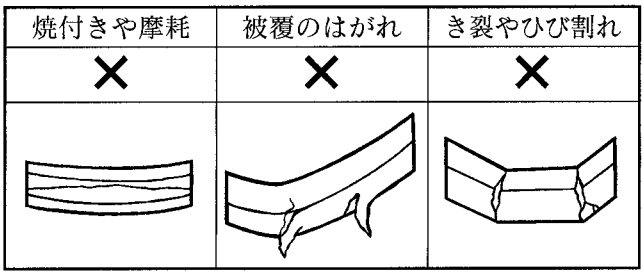


M-8911H

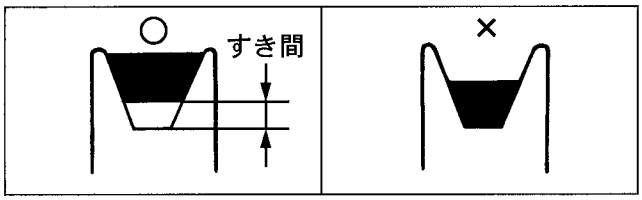
◆点検

各部のベルトを点検するときは，下記の事項をよく確認してください。

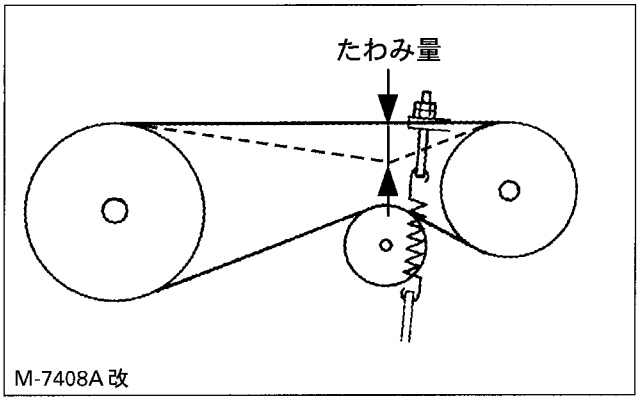
1. ベルトの焼付きや摩耗，被覆のはがれ，き裂やひび割れ



2. ベルトの底部とプーリ溝部のすき間



3. ベルトの伸び(たわみ量)



M-7408A 改

上記の事項を確認したとき，異常があればベルト交換又は，ベルトの張り調整を行なってください。ベルトの交換は購入先へ連絡して行なってください。

重　要

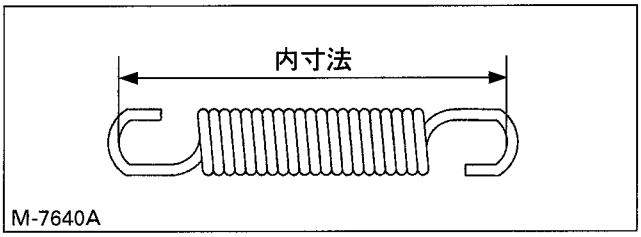
＊ベルトは必ずクボタ純正品を使用してください。

◆調整

ベルトが伸びているとき(スリップが発生しやすい)は，張り調整を行なってください。

補　足

＊スプリングの取付け長さは，フックの内寸法を測定してください。



M-7640A

●ファン駆動ベルト

【60・70・80】

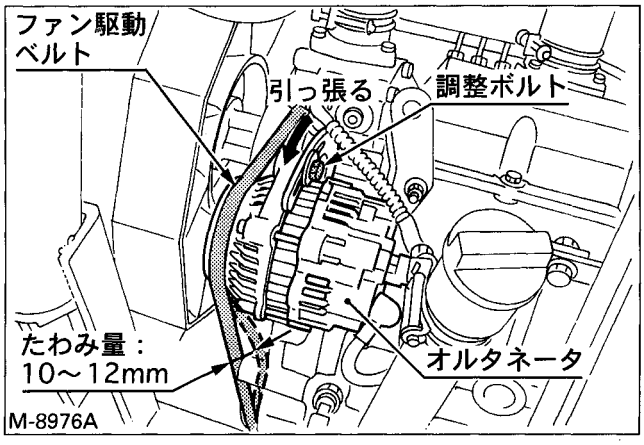
指先でベルトの中央部を押したとき(約60～70N{6～7kg}の荷重)のたわみ量を10～12mmに調整します。

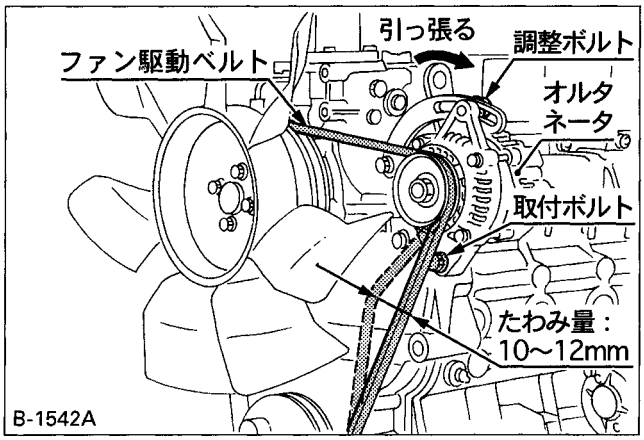
❶運転席下カバーを取外します。

❷オルタネータの取付けボルトと調整ボルトをゆるめます。

❸オルタネータを引っ張ります。

❹調整ボルトを締付けたあと取付けボルトを締付けます。





【90・98】

注　意

＊グレンタンク開閉範囲内に人がいないことを確認してください。

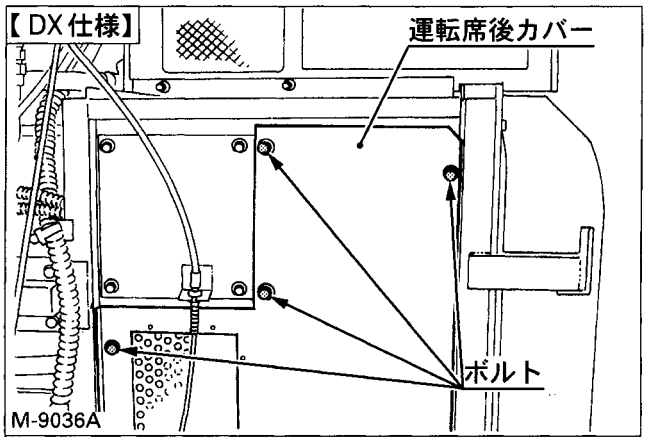
＊傾斜地では，グレンタンクを開閉しないでください。

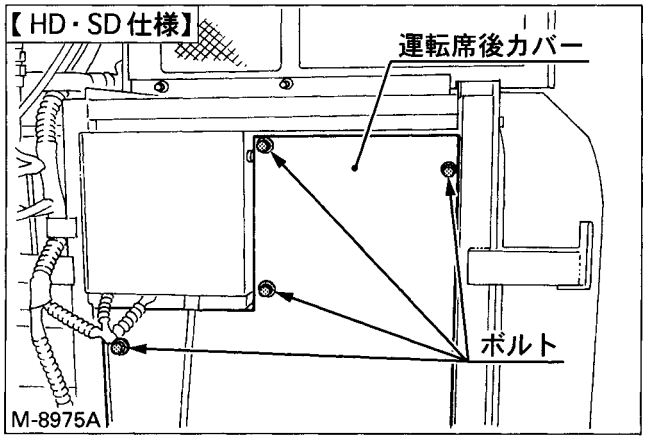
指先でファン駆動ベルト(2)の中央部を押したとき(約98N{10kg}の荷重)のたわみ量を3～4mmに調整します。

補　足

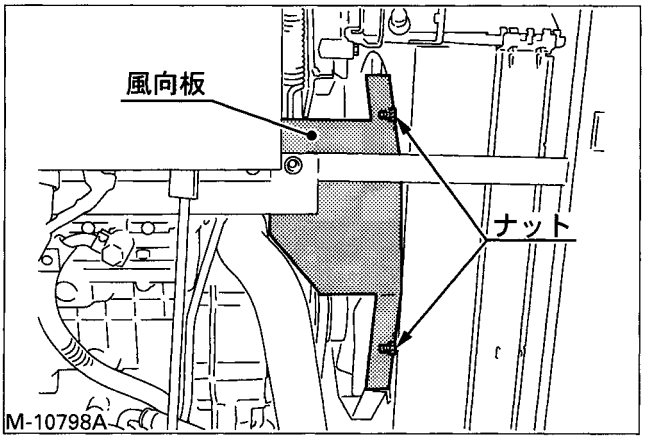
＊ファン駆動ベルト(1)は自動テンションのため，調整は不要です。

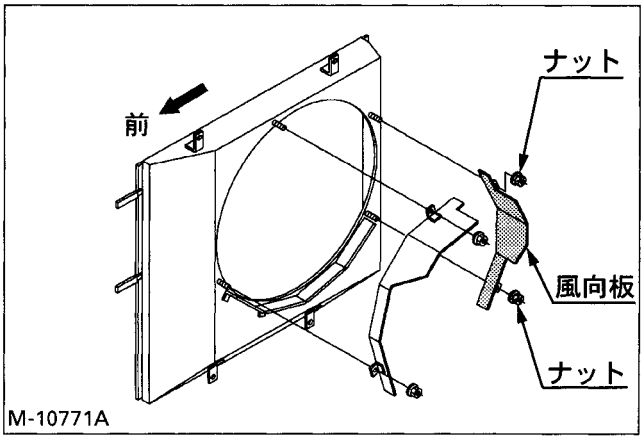
❶グレンタンクをオープンしたあと，ボルト4本を取外して運転席後カバーを外します。





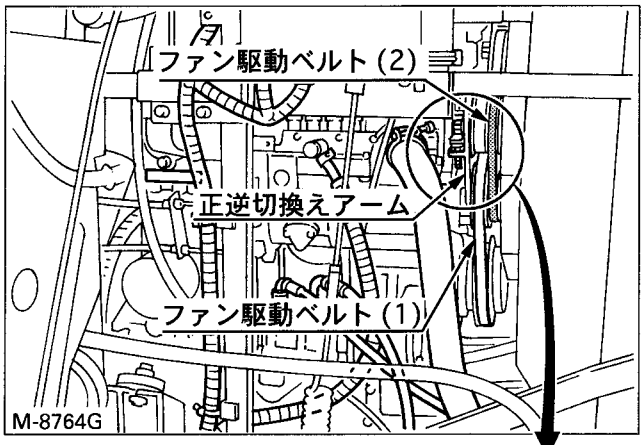
❷ナット2個を取外して風向板を外します。

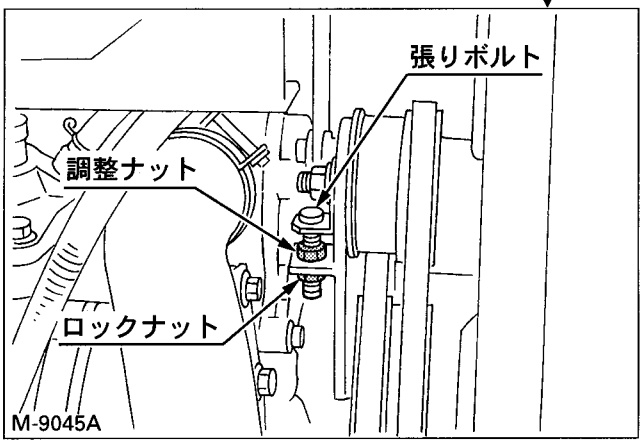


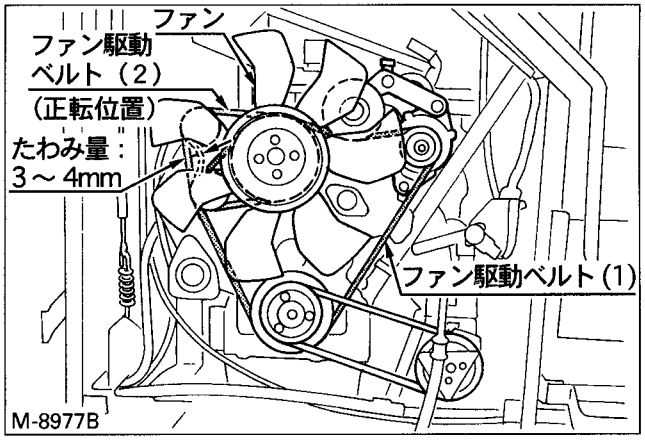


❸張りボルトのロックナットをゆるめ，調整ナットで調整します。

❹ロックナットを締付けます。

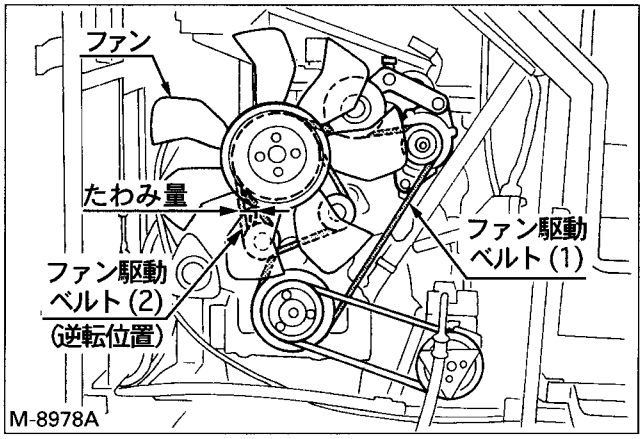






補　足

＊ファン駆動ベルト(2)は，エンジン冷却ファンの正転・逆転を切換えるベルトですが，エンジンを停止したとき逆転位置のときは下図のようになります。



＊エンジン正逆転ファンは，一定時間エンジンを冷却したあと，防じんカバーに付着した塵やゴミを吹き飛ばすため，ファンが一定時間逆転します。

❺風向板を取付けたあと，運転席後カバー下側をきちんとはめ込んでから後カバーを取付けます。

● ミッション駆動ベルト

警　告

＊点検・補給・交換するときは，刈取部を上げ，刈取下降ロック装置で必ずロックして，刈取部の下降防止を行なってください。さらに枕木などを使用して落下防止の歯止めをしてください。

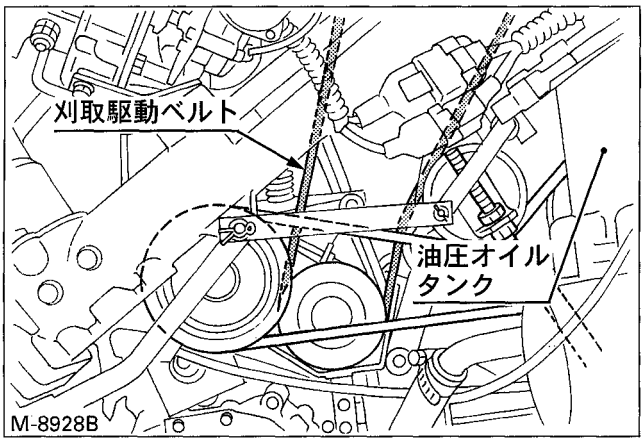
テンションロッドの出代を27～33㎜に調整します。

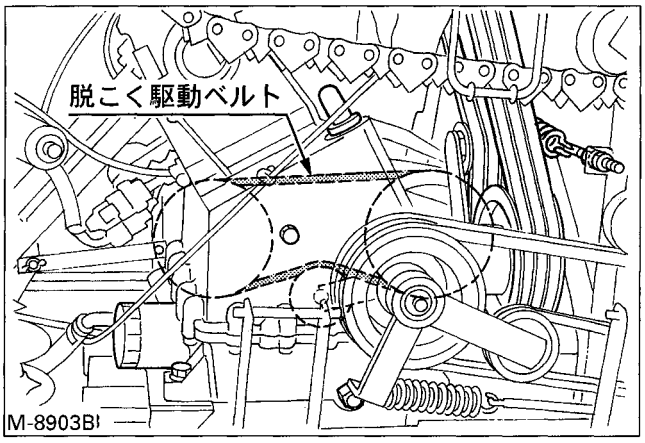
❶調整ナット２箇所をゆるめて，調整を行ないます。

❷調整ナットを締付けます。

● 刈取駆動ベルト・脱こく駆動ベルト

調整については，149，150ページを参照してください。
（ワイヤとベルトの張り調整は同じです。）

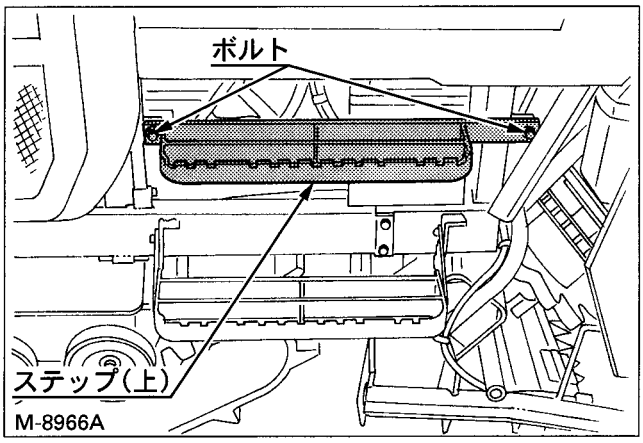




●コンプレッサ駆動ベルト【Q仕様】

指先でベルトの中央部を押したとき(約60～70N{6～7kg}の荷重)のたわみ量を5～8㎜に調整します。

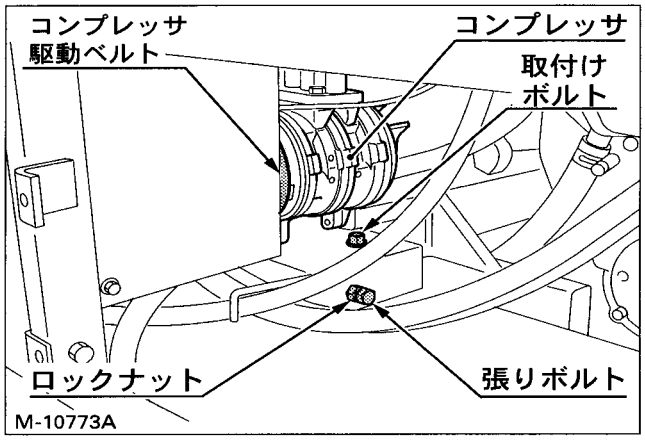
❶ボルトを取外して，ステップ(上)を取外します。

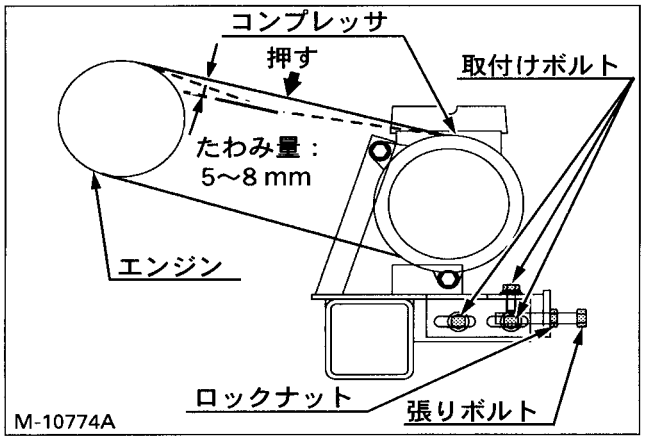


❷コンプレッサの取付けボルトをゆるめます。

❸張りボルトのロックナットをゆるめ，張りボルトで調整します。

❹張りボルトのロックナットを締付け，コンプレッサの取付けボルトを締付けたあと，ステップ(上)を取付けます。





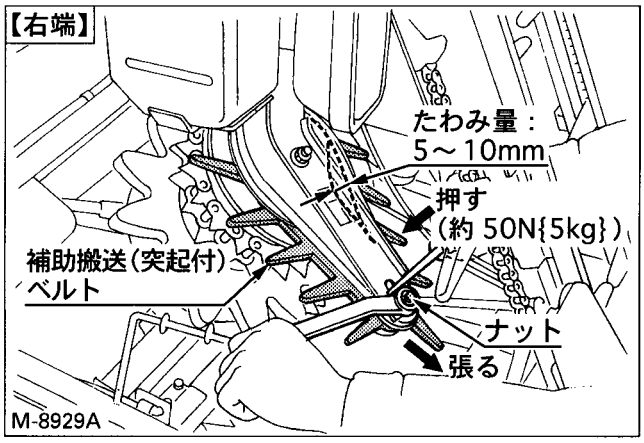
●補助搬送(突起付)ベルト

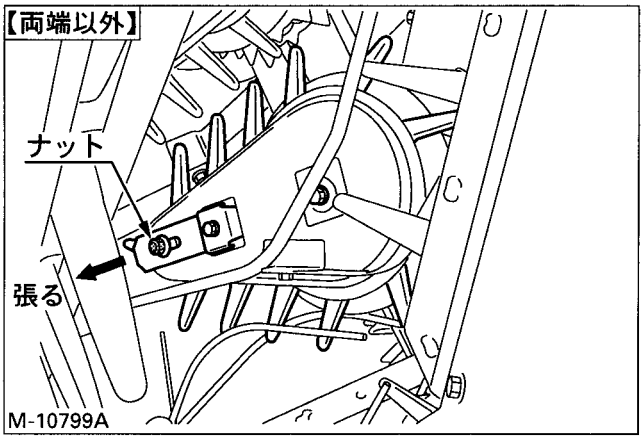
指先でベルトの中央部を押したとき(約50N{5kg}の荷重)のたわみ量を5～10㎜に調整します。

❶ナットをゆるめます。

❷下図のように固い棒(鉄の棒など)を切欠き部に差込み，張り方向に押しながらレンチでナットを締付けます。

❸同じ要領で全てのベルトの調整を行ないます。

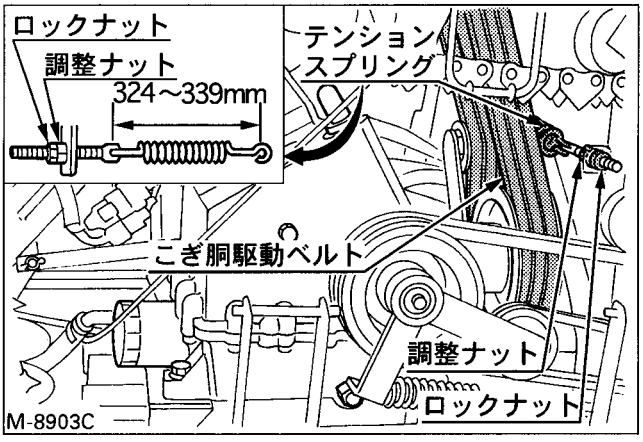




●こぎ胴駆動ベルト

テンションスプリングの長さを324～339㎜に調整します。

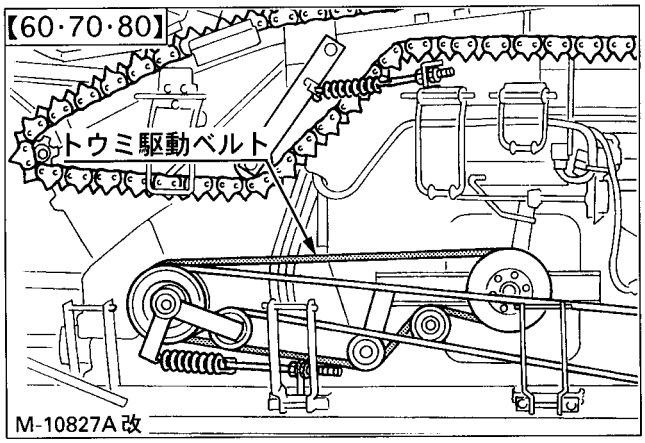
❶ロックナットと調整ナットをゆるめて，調整ナットで調整を行ないます。

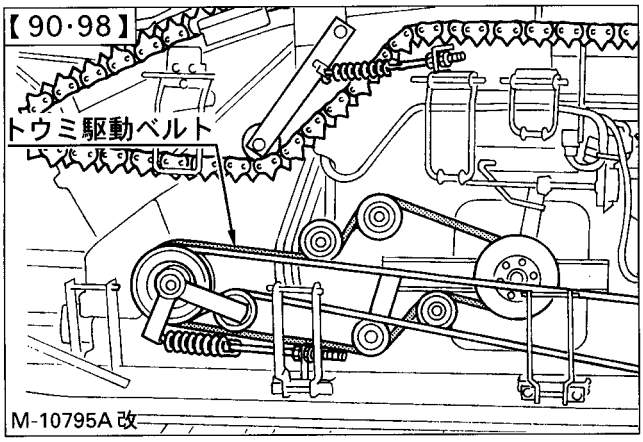


❷ロックナットと調整ナットを締付けます。

● トウミ駆動ベルト

トウミ駆動ベルトの張り調整は自動(自動テンション)で行ないますが，伸びたときは，購入先に連絡して交換してください。





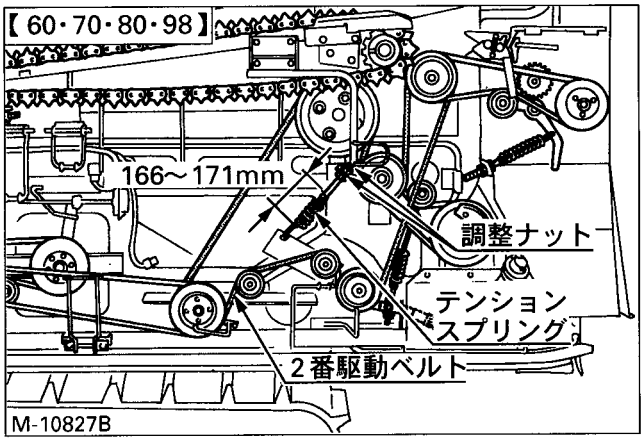
● 2番駆動ベルト

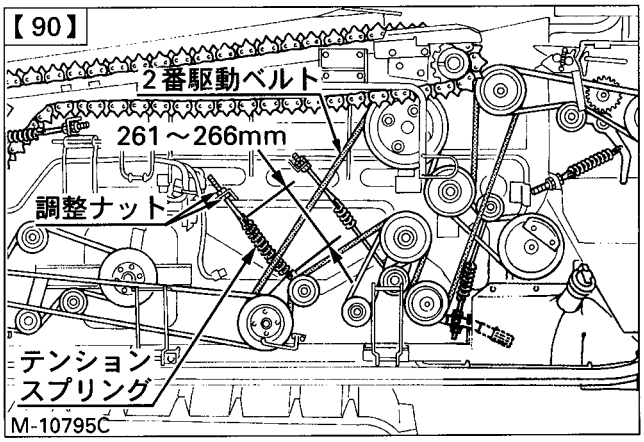
テンションスプリングの長さを166～171㎜【60・70・80・98】・261～266㎜【90】に調整します。

❶左サイドカバー上，下2と左サイドカバー内側を取外します。

❷調整ナット2個をゆるめて調整を行ないます。

❸調整ナットを締付けたあと，左サイドカバー内側と左サイドカバー上1，上2，下2を取付けます。





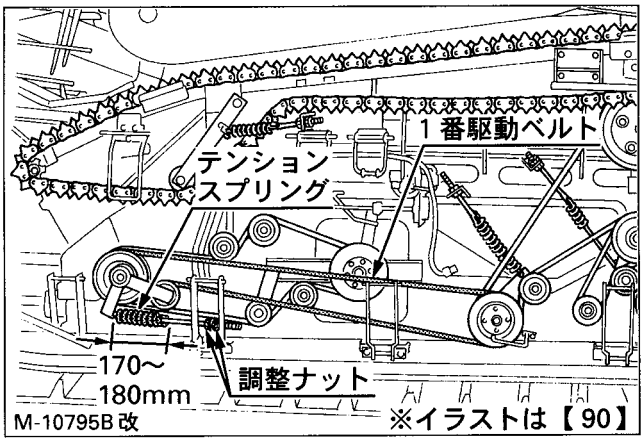
● 1番駆動ベルト

テンションスプリングの長さを170～180㎜に調整します。

❶左サイドカバー上，下1，下2を取外します。

❷調整ナット2個をゆるめて調整を行ないます。

❸調整ナットを締付けたあと，左サイドカバー上・下1，下2を取付けます。



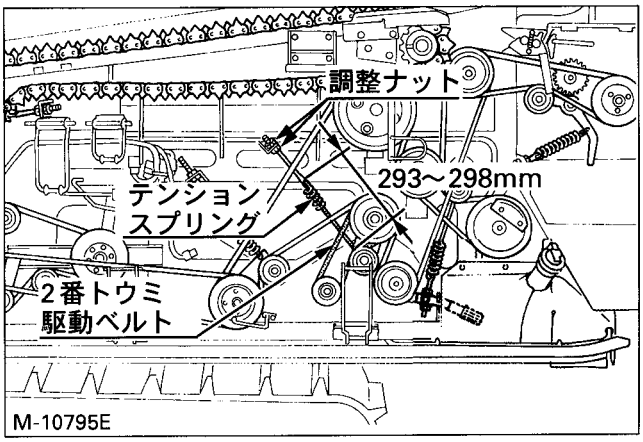
● 2番トウミ駆動ベルト【90】

テンションスプリングの長さを293～298㎜に調整します。

❶左サイドカバー上，下1，下2と左サイドカバー内側を取外します。

❷調整ナット2個をゆるめて調整を行ないます。

❸調整ナットを締付けたあと，左サイドカバー内側と左サイドカバー上，下1，下2を取付けます。



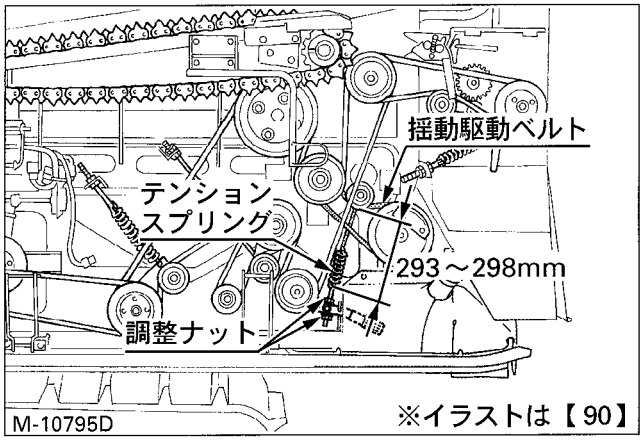
●揺動駆動ベルト

テンションスプリングの長さを293～298㎜に調整します。

❶左サイドカバー上・下２とカッタ左サイドカバー及び左サイドカバー内側を取外します。

❷調整ナット２個をゆるめて調整を行ないます。

❸調整ナットを締付けたあと，左サイドカバー内側と左サイドカバー上・下２及びカッタ左サイドカバーを取付けます。



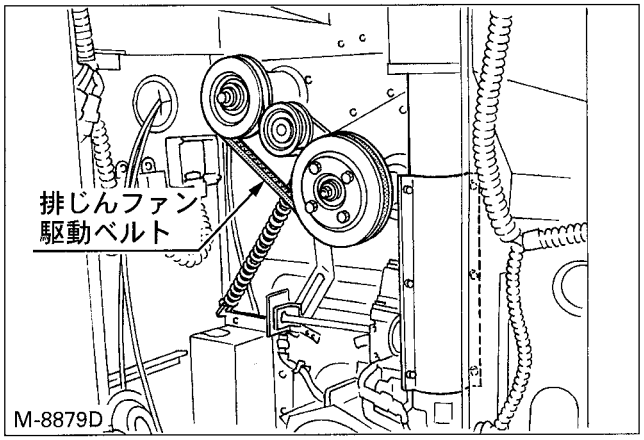
●排じんファン駆動ベルト【90】

注　意

＊グレンタンク開閉範囲内に人がいないことを確認してください。

＊傾斜地では，グレンタンクを開閉しないでください。

点検・交換を行なうときは，グレンタンクをオープンしてください。排じんファン駆動ベルトの張り調整は自動(自動テンション)で行ないますが，伸びたときは，購入先に連絡して交換してください。



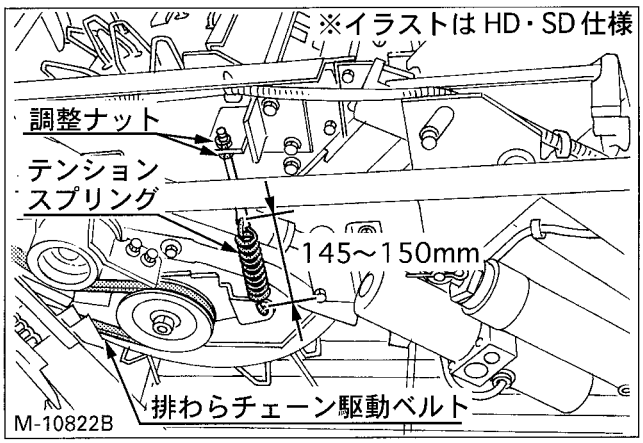
●排わらチェーン駆動ベルト

テンションスプリングの長さを145～150㎜に調整します。

❶脱こく上部カバーの左，右を開きます。

❷調整ナット２個をゆるめて調整を行ないます。

❸調整ナットを締付けたあと，脱こく上部カバー左，右を閉じます。



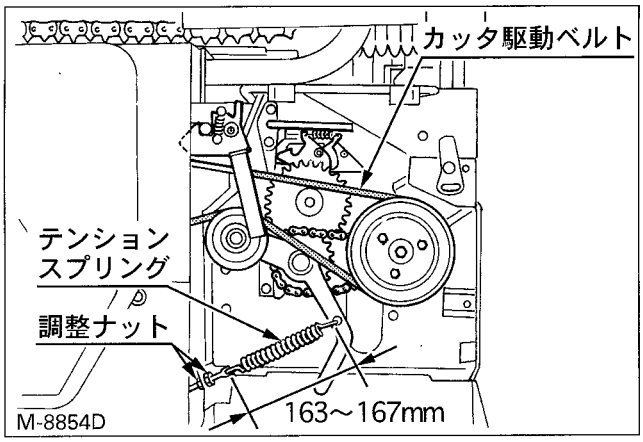
●カッタ駆動ベルト

テンションスプリングの長さを163～167㎜に調整します。

❶カッタ左サイドカバーを取外します。

❷調整ナット２個をゆるめて調整を行ないます。

❸調整ナットを締付けたあと，カッタ左サイドカバーを取付けます。



● タンククラッチ駆動ベルト【HD・SD仕様】

注 意

＊グレンタンク開閉範囲内に人がいないことを確認してください。

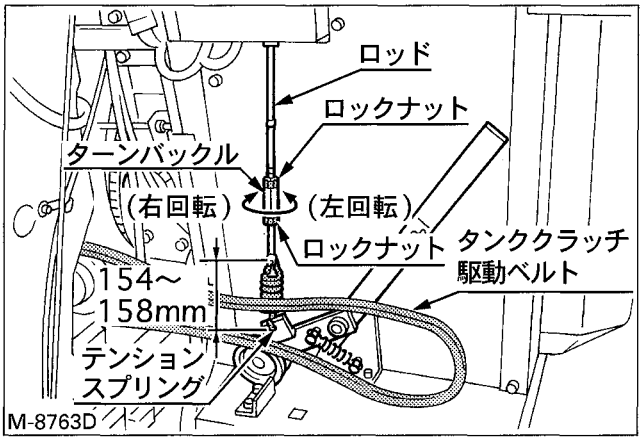
＊傾斜地では，グレンタンクを開閉しないでください。

グレンタンクを閉じた状態のときのテンションスプリングの長さを154～158㎜に調整します。

❶エンジンを始動し，もみ排出スイッチを**“入”**(ランプ点灯)にしたあとエンジンを停止します。

❷ターンバックルのロックナット２個をゆるめて，ロッドの長さの調整を行ないます。ターンバックルは右方向に回すとロッドが縮み，左方向に回すとロッドは伸びます。

❸ターンバックルのロックナットを締付けたあと，グレンタンクを閉じます。



補 足

＊**【DX仕様】は“もみ排出クラッチワイヤ”**の項(151ページ)を参照してください。

● タンク駆動ベルト

注 意

＊グレンタンク開閉範囲内に人がいないことを確認してください。

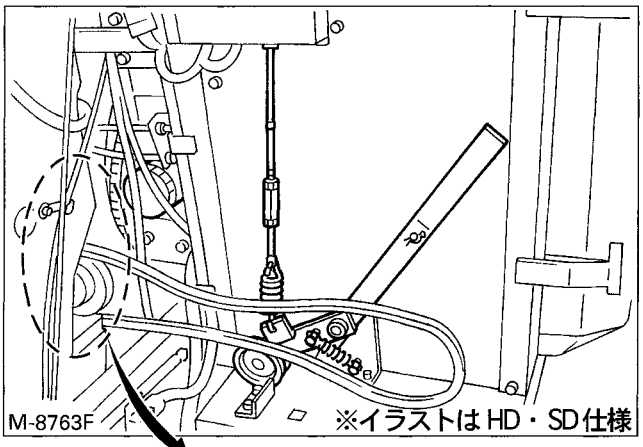
＊傾斜地では，グレンタンクを開閉しないでください。

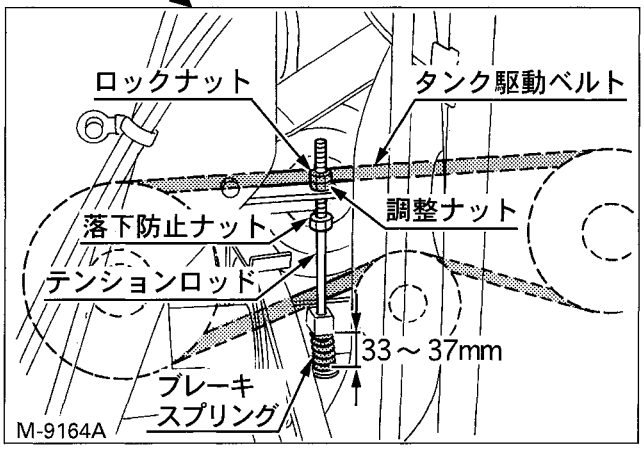
ブレーキスプリングの長さを33～37㎜に調整します。

❶グレンタンクをオープンします。

❷ロックナットと調整ナットをゆるめて，調整ナットで調整を行ないます。

❸ロックナットを締付けたあと，グレンタンクを閉じます。





補 足

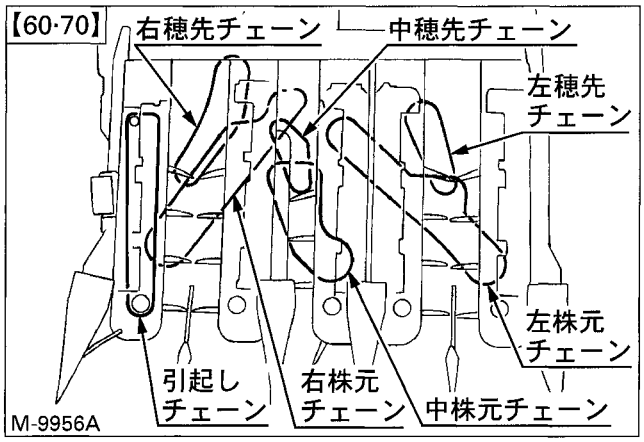
＊落下防止ナットはテンションロッドの落下を防止します。

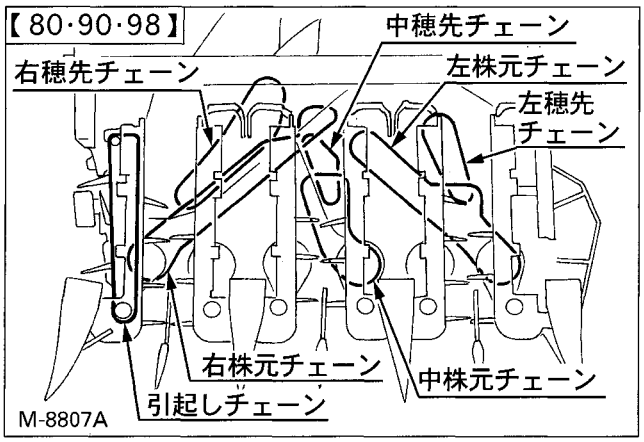
■各部チェーンの点検・調整

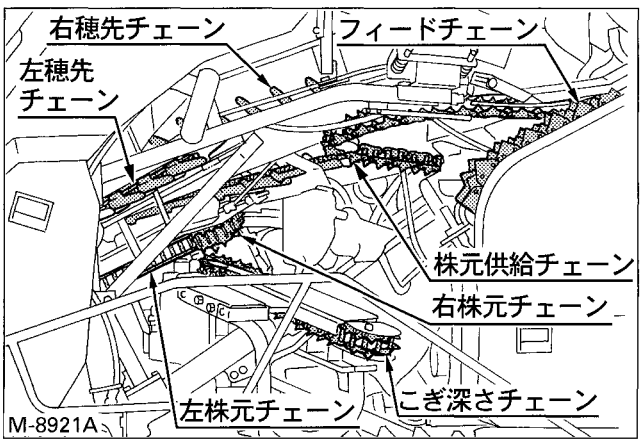
◆点検

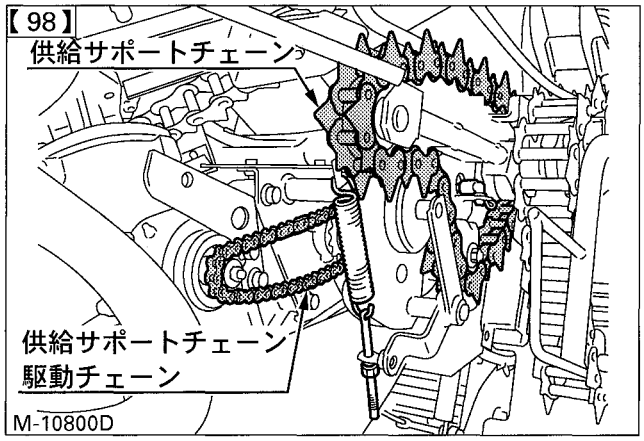
各部のチェーンを点検して，ゆるみがあるときは調整してください。

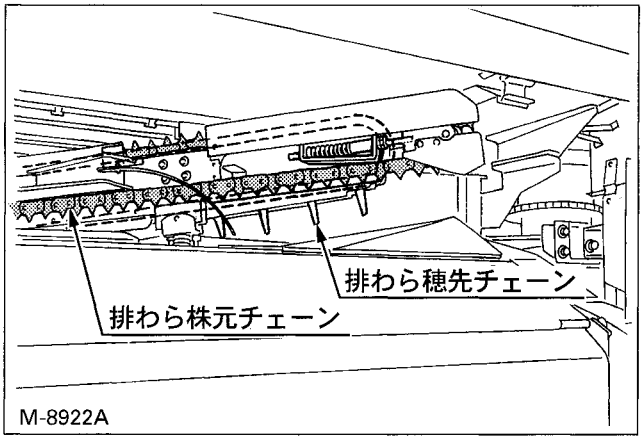
● 点検箇所









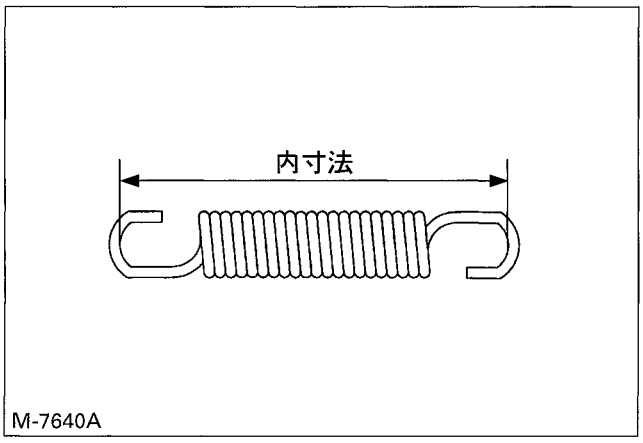


◆調整

チェーンが伸びているときは，張り調整を行なってください。

補　足

＊スプリングの取付け長さは，フックの内寸法を測定してください。

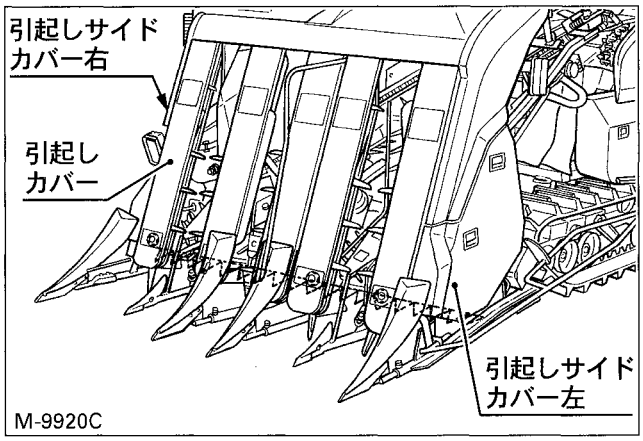


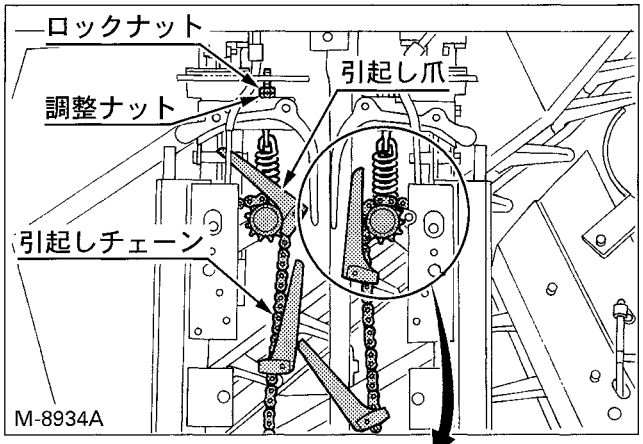
●引起しチェーン

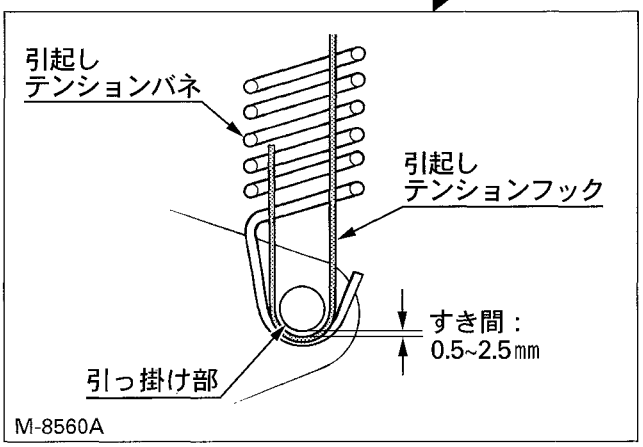
引起しテンションフックと引っ掛け部のすき間を0.5～2.5㎜に調整します。引起しチェーンの調整を行なうときは，引起しカバー及び引起しサイドカバー左・右を取外してください。

❶ロックナットと調整ナットをゆるめて，調整ナットで調整します。

❷ロックナットを締付けます。

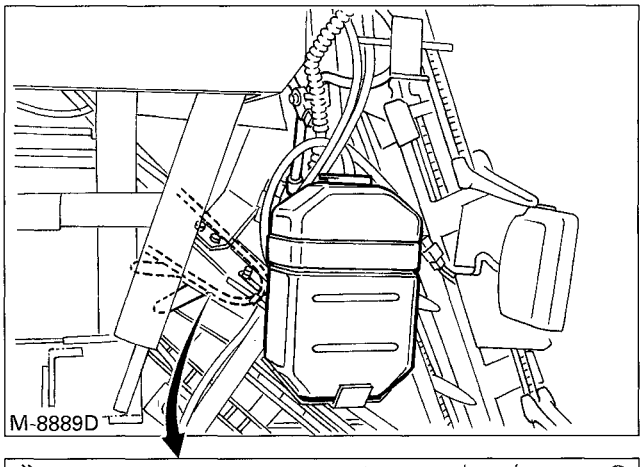


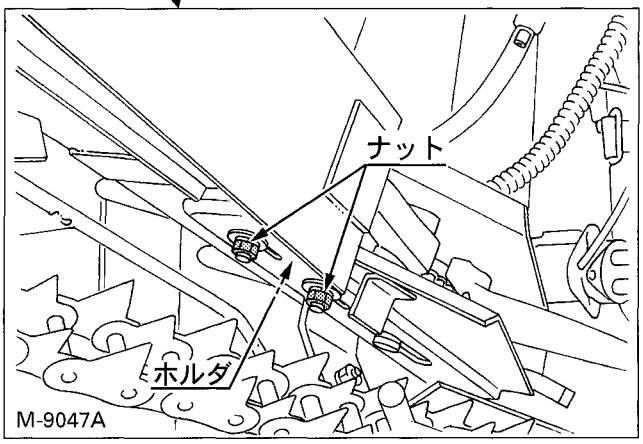




●右穂先チェーン

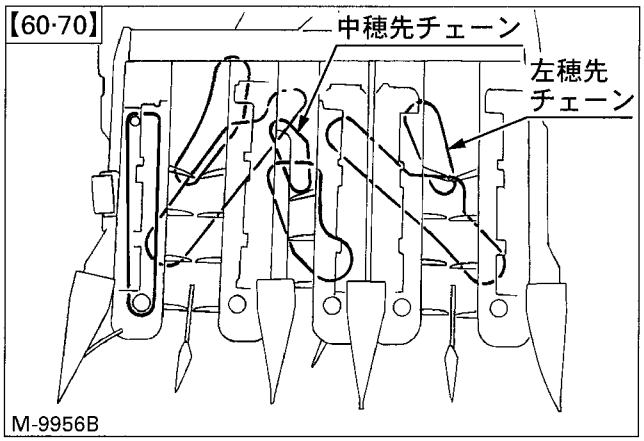
自動テンションになっていますがチェーンが伸びたときは，２箇所のナットをゆるめてホルダを前方に張ってください。また，ホルダの調整ができなくなったときは，購入先に連絡してください。

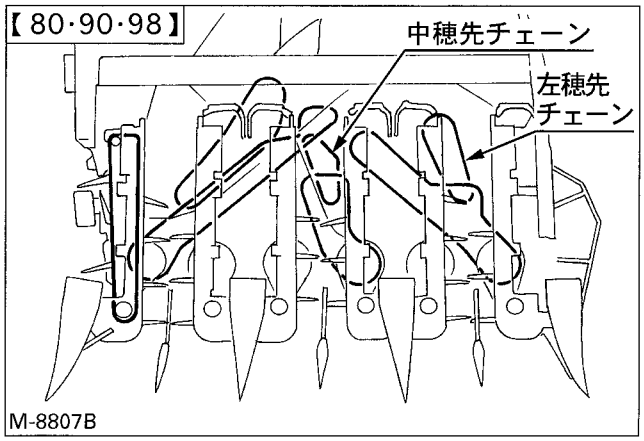




● 中穂先チェーン・左穂先チェーン

自動テンションになっていますがチェーンが伸びたときは，購入先に連絡してください。



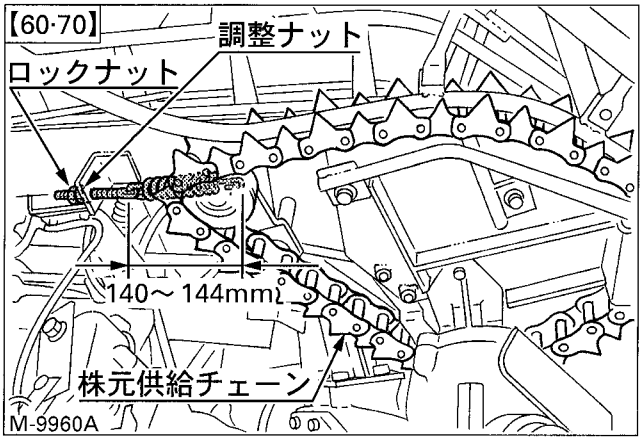


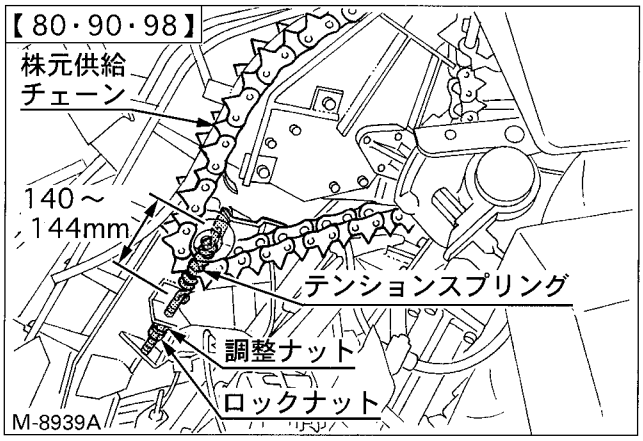
● 株元供給チェーン

テンションスプリングの長さを140～144㎜に調整します。

❶ロックナットと調整ナットをゆるめて，調整ナットで調整を行ないます。

❷ロックナットを締付けます。



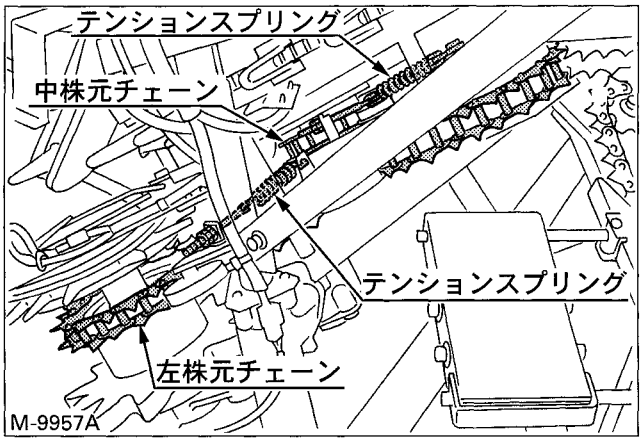


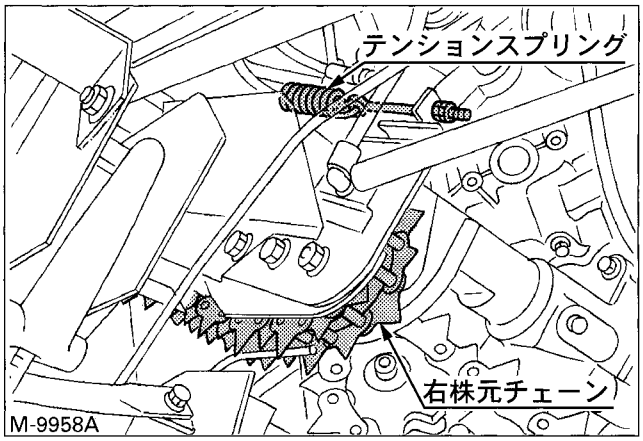
●右株元チェーン・中株元チェーン・左株元チェーン【60・70】

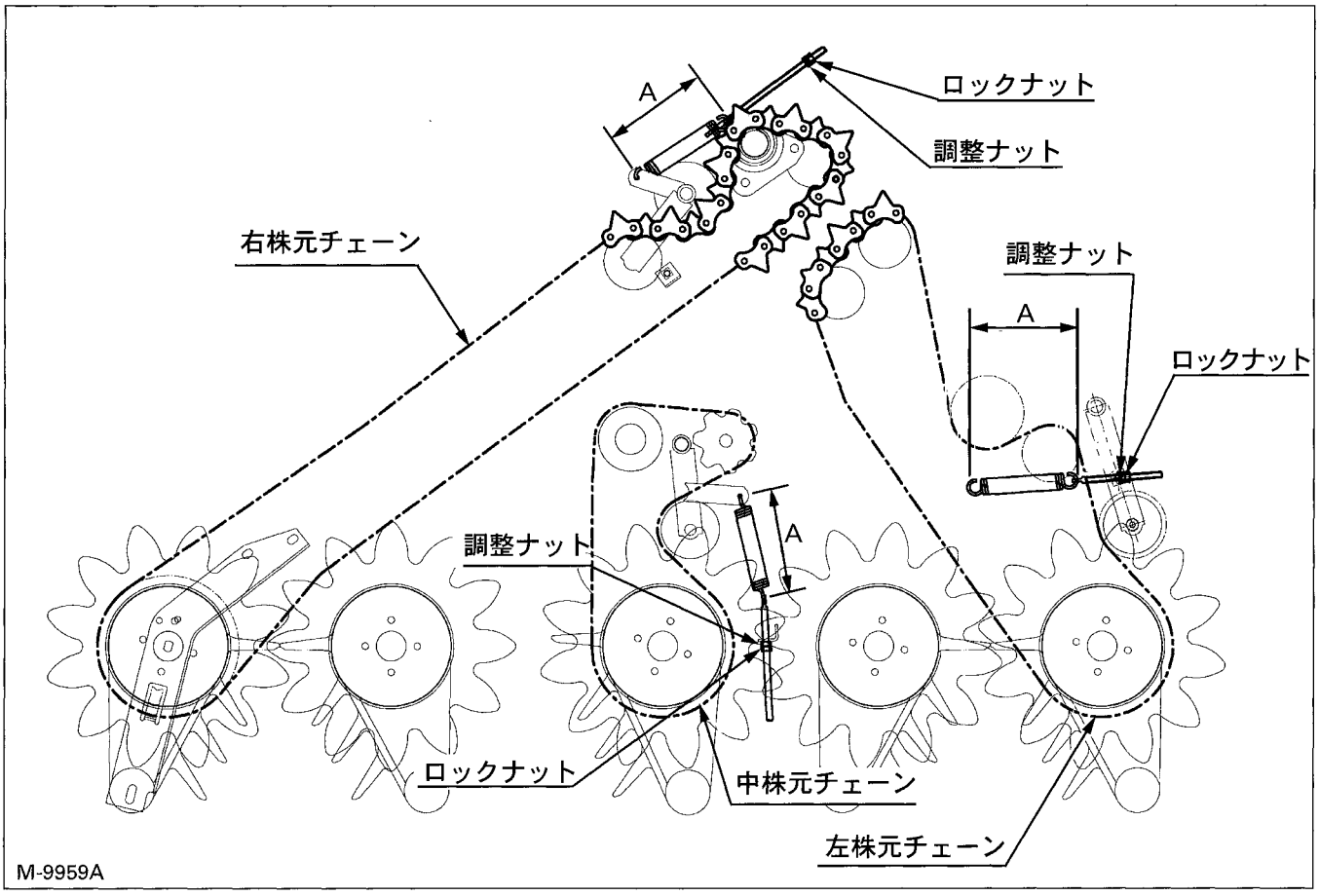
テンションスプリングの長さA寸法を140～144㎜に調整します。

❶ロックナットと調整ナットをゆるめて，調整ナットで調整を行ないます。

❷ロックナットを締付けます。





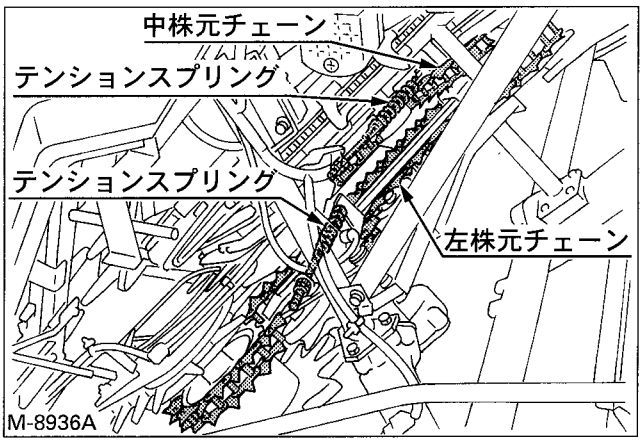


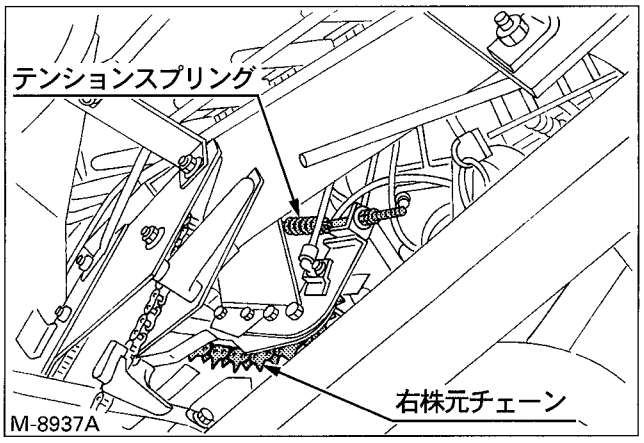
●右株元チェーン・中株元チェーン・左株元チェーン【80・90・98】

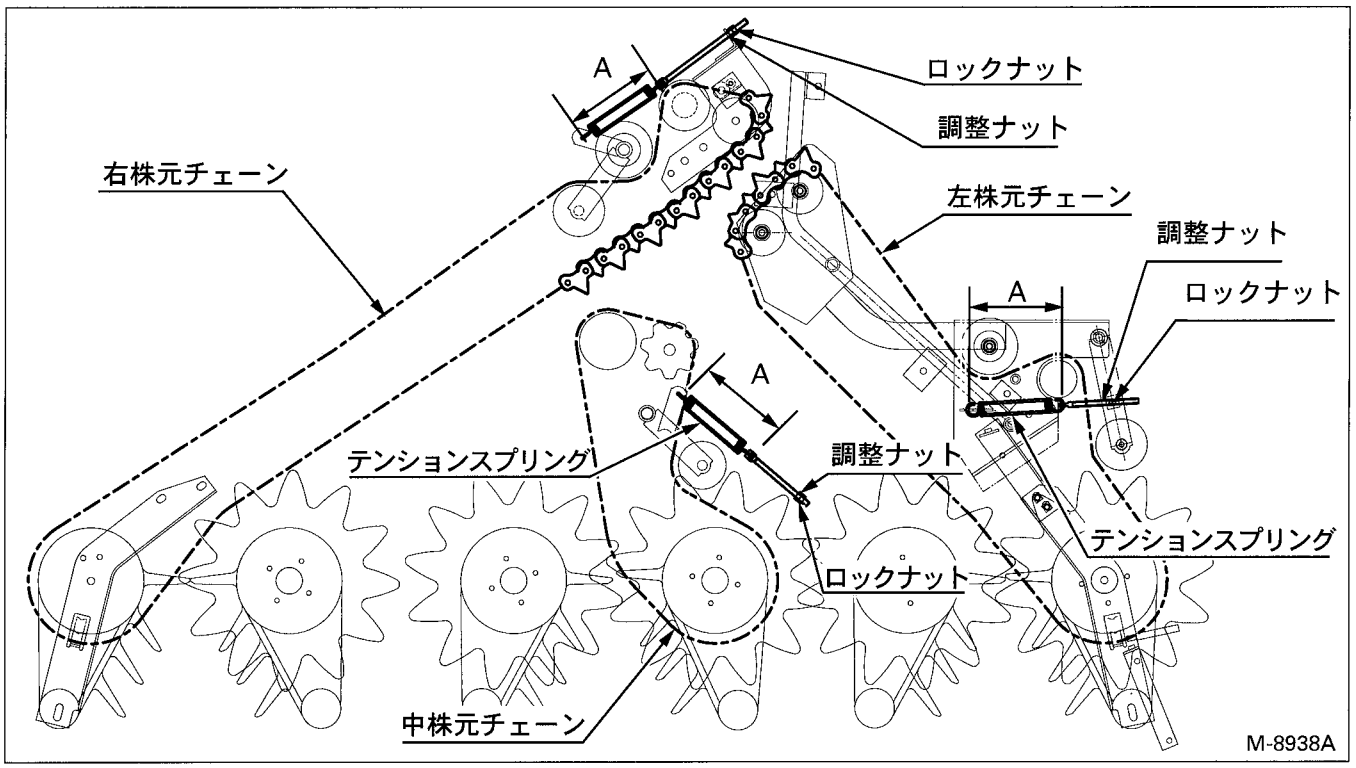
テンションスプリングの長さA寸法を140～144㎜に調整します。

❶ロックナットと調整ナットをゆるめて，調整ナットで調整を行ないます。

❷ロックナットを締付けます。







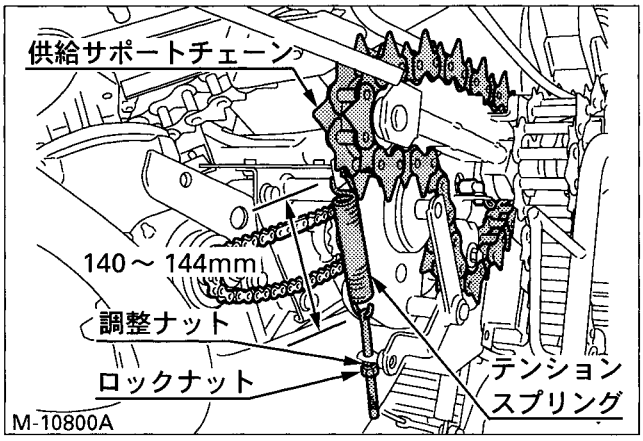
●供給サポートチェーン【98】

テンションスプリングの長さを140～144㎜に調整します。

❶左サイドカバー上1を取外します。

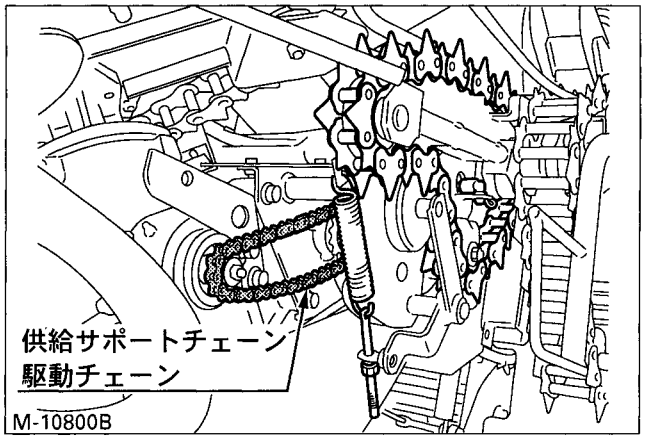
❷ロックナットと調整ナットをゆるめて，調整ナットで調整を行ないます。

❸ロックナットを締付けたあと，左サイドカバー上1を取付けます。



●供給サポートチェーン駆動チェーン【98】

チェーンが伸びたときは，購入先に連絡してください。

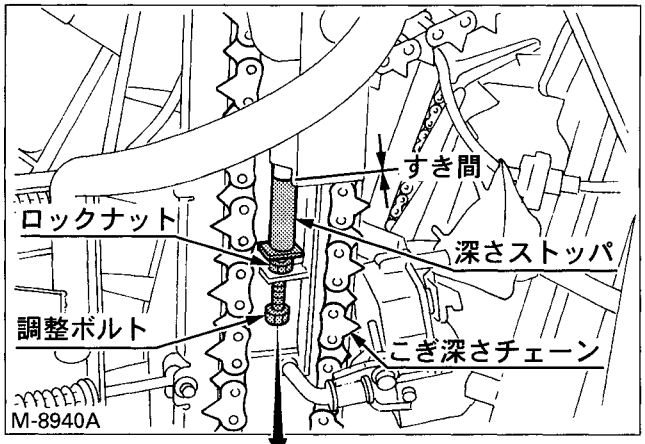


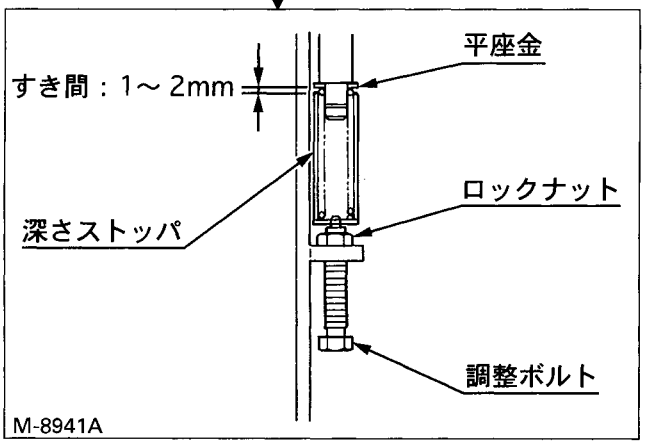
●こぎ深さチェーン

深さストッパとテンションアームの平座金のすき間を1～2㎜に調整します。

❶ロックナットをゆるめて調整ボルトで調整を行ないます。

❷ロックナットを締付けます。





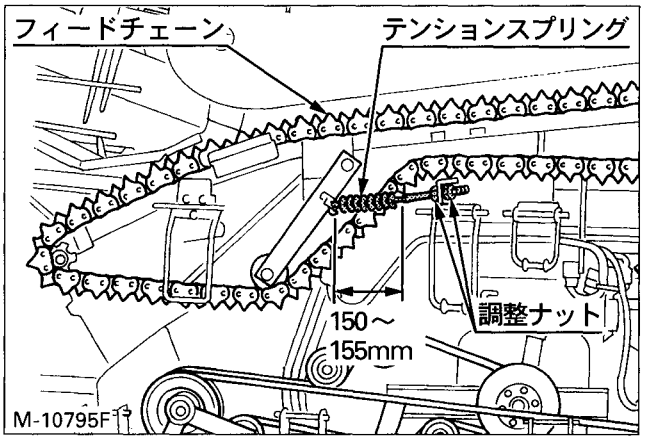
●フィードチェーン

テンションスプリングの長さを150～155㎜に調整します。

❶左サイドカバー上を取外します。

❷調整ナットをゆるめて調整を行ないます。

❸調整ナットを締付けたあと，左サイドカバー上を取付けます。



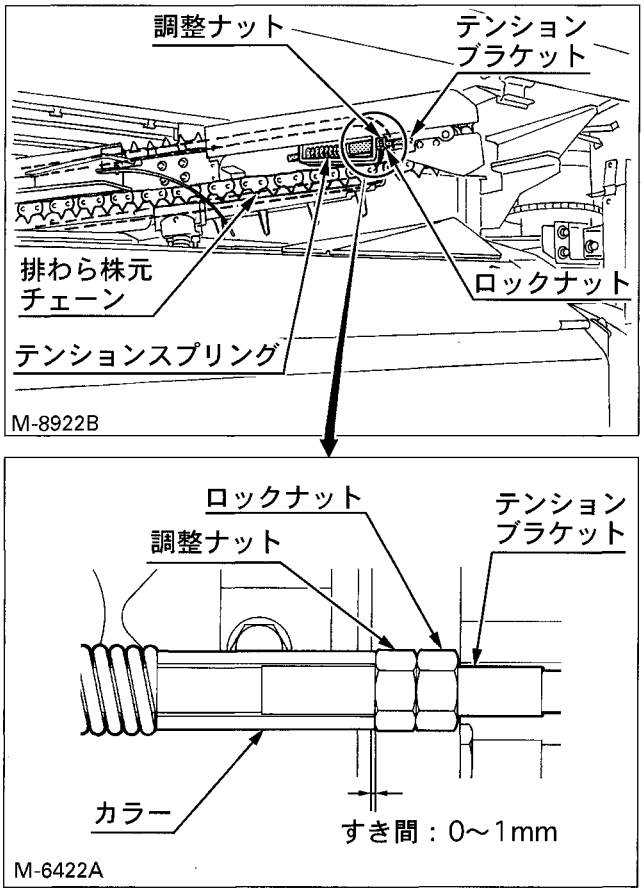
●排わら株元チェーン

❶カッタ上部カバーを上げます。

❷テンションブラケットを取付けているブラケットガイドの端面と調整ナットのすき間(カラーの出代)を0～1㎜に調整します。調整は株元側と穂先側が連結しているため同時に行ないます。

(1)ロックナットと調整ナットをゆるめて，調整ナットで調整を行ないます。

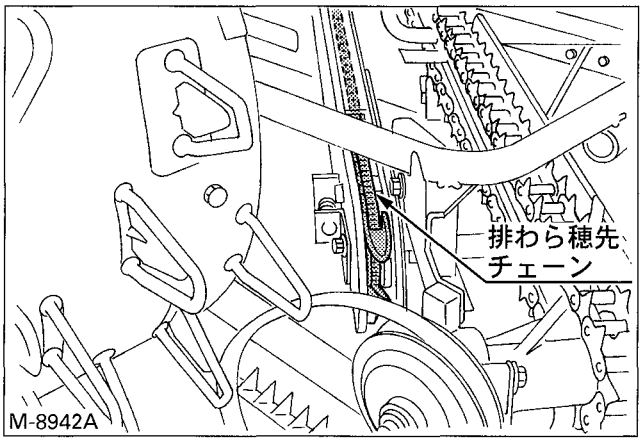
(2)ロックナットを締付けます。



❸カッタ上部カバーを閉じます。

●排わら穂先チェーン

排わら穂先チェーンの張り調整は自動(自動テンション)で行ないますが，チェーンが伸びたときは，購入先に連絡してください。



■刈刃の点検・調整

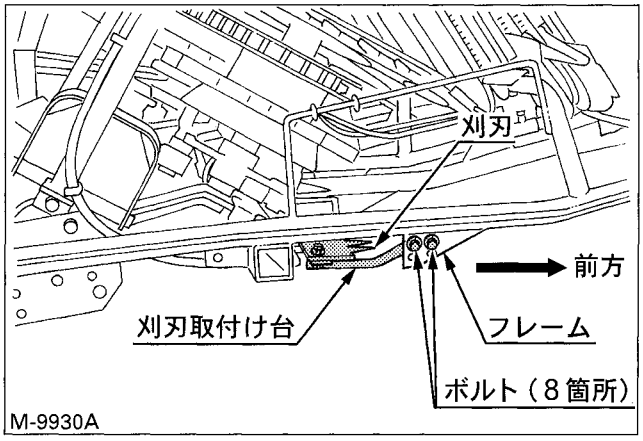
注　意

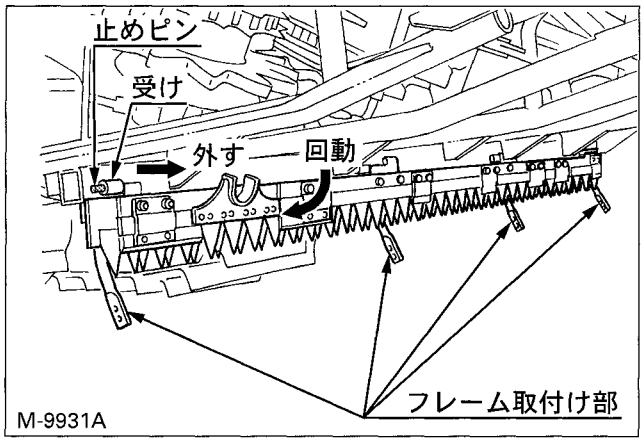
＊平たんな場所で刈取部を上げて，刈取り下降ロックレバーを“ロック”位置にして刈取部を必ずロックし，落下防止の歯止めをしてください。
＊刃部に手を掛けないでください。不用意に刃が動くと危険です。
＊脱着作業は手袋をして，２人で刈刃の両端を持って行なってください。

刈刃の刃先が磨耗してきたり，欠けてくると作物の刈跡が悪くなったり，引抜きを起こすことがありますので，早目の点検・調整・交換を行なってください。

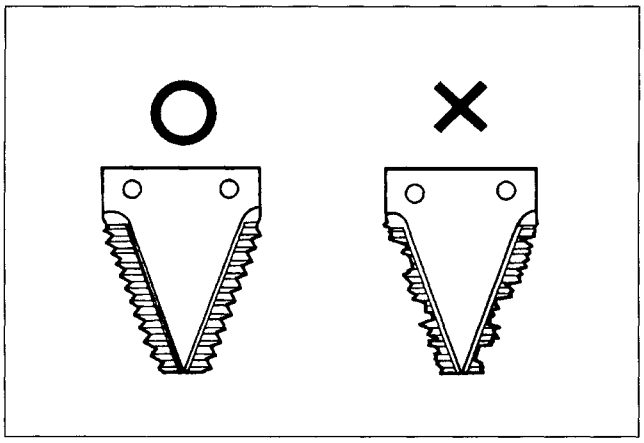
◆点検・取外し

❶刈取部を最上昇位置にし，刈取部の下降ロックをして，下降防止をします。
❷刈刃取付け台をフレームに取付けている８本のボルト(４箇所)を外すと，刈刃が垂直に回動します。
❸２人作業で刈刃取付け台を左側に移動して，止めピンを受けから外し刈刃を取外します。





❹刈刃の刃先と刈刃の動きを確認し，動きがかたいときは，注油，グリース塗布やすき間調整を行ないます。また，刃先が磨耗したり，欠けているときは購入先に連絡して交換してください。



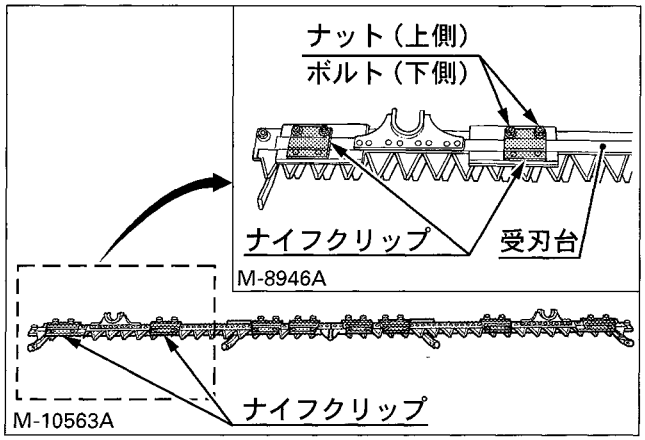
◆すき間調整

すき間を測定するときは，すき間ゲージを使用してください。

補　足

＊専用工具については，購入先にご相談ください。

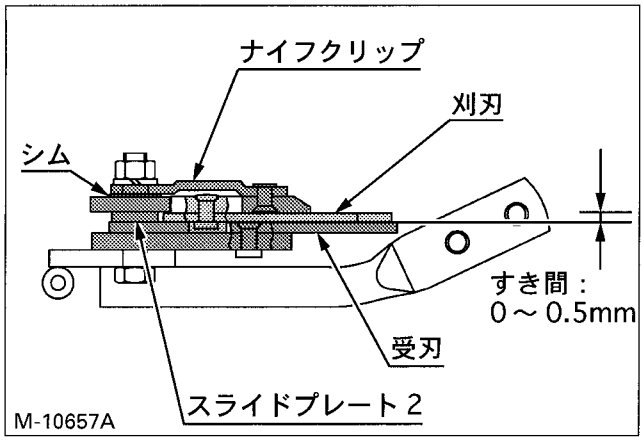
❶ボルト・ナットを取外して各ナイフクリップを受刃台から外します。



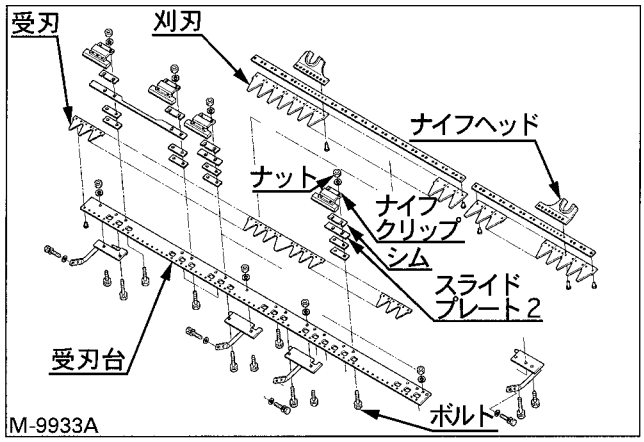
❷刈刃を取外したあと，ワイヤブラシなどで泥やさびを取除きます。

❸刈刃と受刃のすき間が0～0.5㎜になるよう調整します。

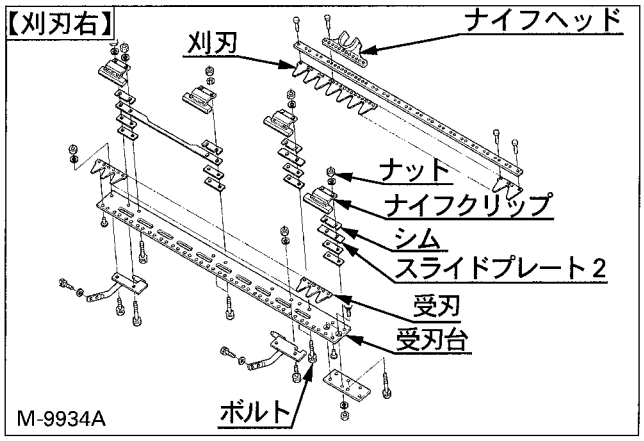
(1)ナイフクリップとスライドプレート2の間にあるシムを増減して調整したあと，ボルト・ナットを締付けたときの刈刃と受刃のすき間を0～0.5㎜に調整します。

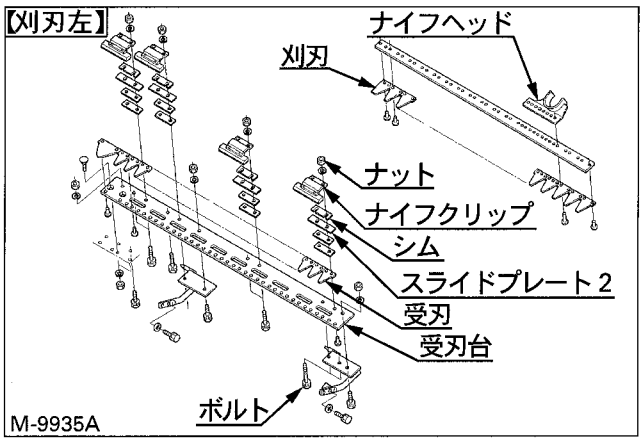


●【60・70】

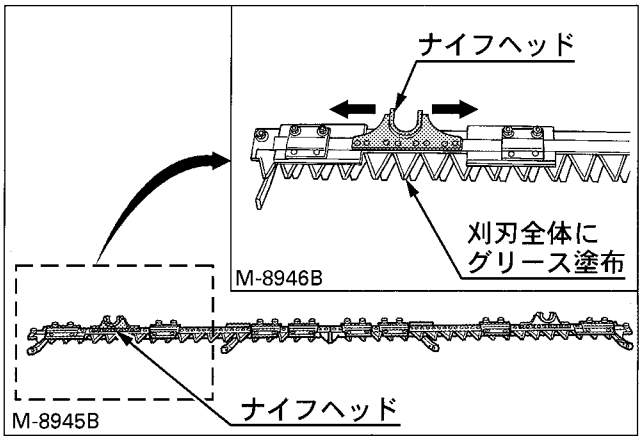


●【80・90・98】





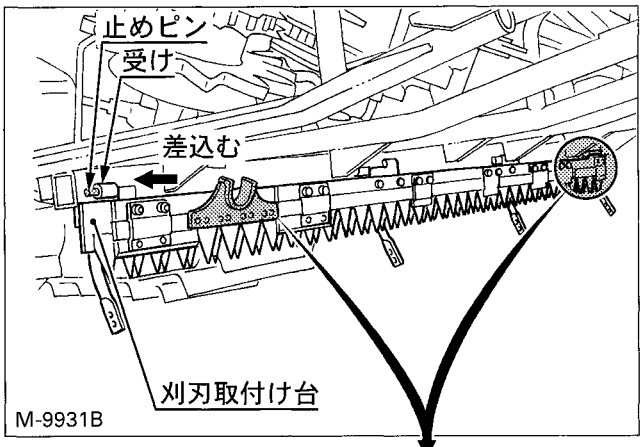
(2)ナイフヘッドを持ち，刈刃を左，右に動かします。動かないときや軽く動くときは再調整を行ない，異常がなければ刈刃全体にグリースを塗布します。

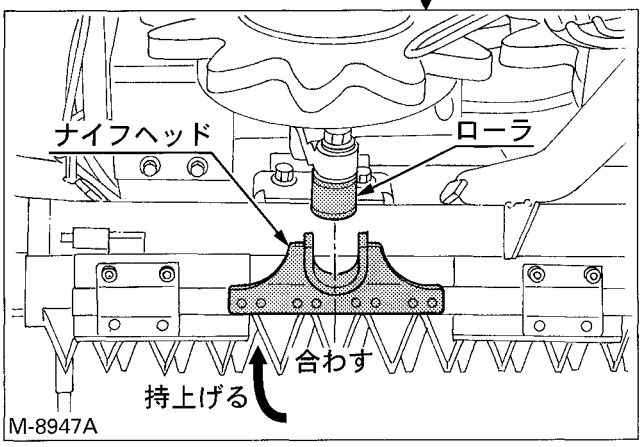


◆取付け

❶２人作業で刈刃を垂直の状態にして，右側の止めピンから受けに差込み，中央・左側の順に穴に合せてから，刈刃全体を右側に移動させます。

❷刈刃取付け台の前を持上げ，左右のナイフヘッドとローラの位置を合せてから，ボルト穴まで持上げて，ボルト８本(４箇所)で取付けます。

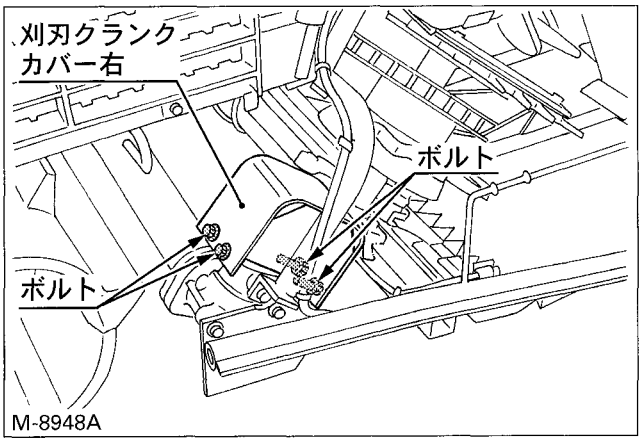




◆刈刃クランクロッドの調整

❶刈刃左を右端，刈刃右を左端に移動させたあと，刈取部の回転を停止します。

❷刈刃クランクカバー右のボルト４個を外し，カバーを取外します。



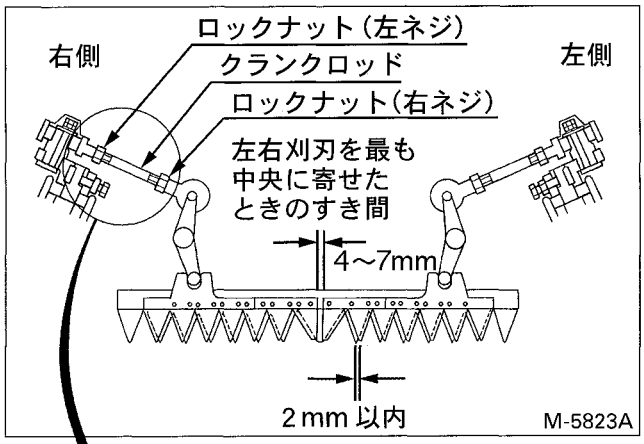
❸クランクロッドのロックナット２個をゆるめます。(左・右ネジがあるので注意してください)

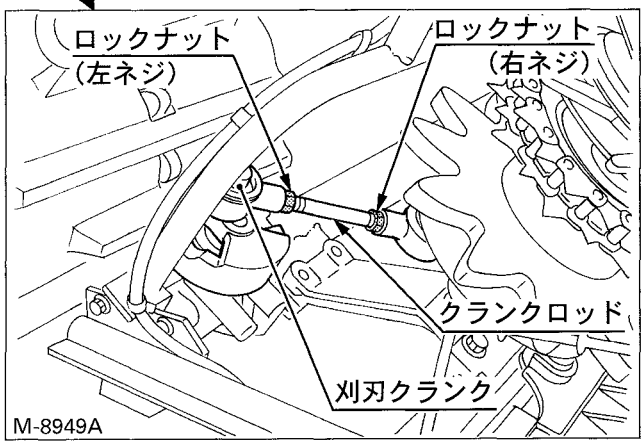
❹右側と同じ要領で左側にある刈刃クランクカバー左を取外し，クランクロッドの左，右のロックナット２個をゆるめます。

❺クランクロッドを回して，刈刃と受刃のセンタずれが２㎜以内になるよう，調整してください。

❻刈刃中央部で，左右の刈刃のすき間が４～７㎜になっていることを確認してください。
すき間が少なければ，再度❸の調整をして，４～７㎜になるように調整してください。

❼ロックナットを締付けます。ネジロックを塗布してください。





補　足

＊ネジロックは，購入先に連絡して入手してください。

❽刈刃クランクカバー左，右を取付けます。

■こぎ歯の点検・交換

警　告

＊中でこぎ歯が高速で回転しているので接触するとケガをします。こぎ胴オープンするときは，エンジンを必ず止めてください。

注　意

＊平たんな場所でエンジンを必ず停止して，こぎ歯の点検・交換を行なってください。

こぎ歯の歯先が摩耗してくると，受あみとのすき間が大きくなり，こぎ残しが発生する原因となりますので歯先の線径が2.5㎜以下になったときは組換え又は，交換を行なってください。

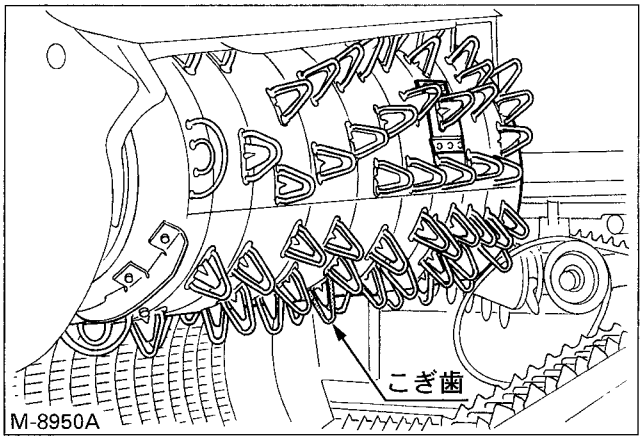
重　要

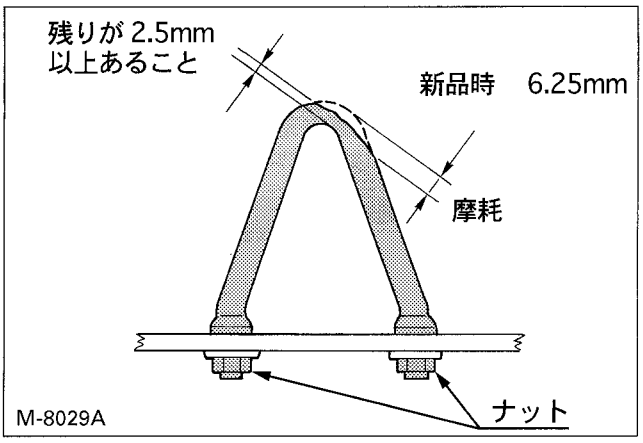
＊歯先の線径が2.5㎜以下になると，こぎ歯が変形したり，歯先が割れて故障の原因となります。

◆点検

❶左補助デッキを引出したあと，こぎ胴をオープンします。

❷こぎ歯の歯先の摩耗量を測定し，線径が2.5㎜以下のときは交換します。





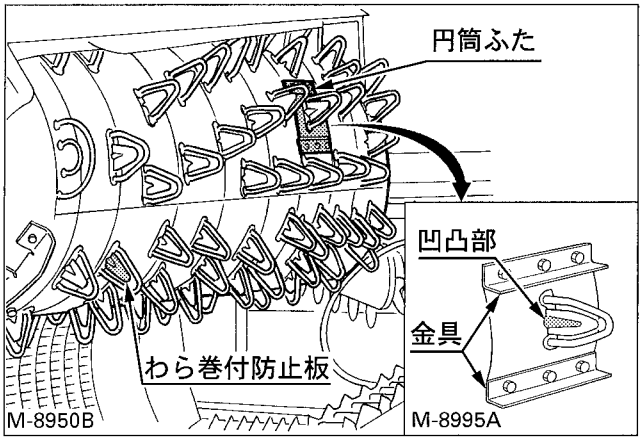
◆交換

❶ボルト６本を取外し，ボルト摩耗防止の金具(上，下各１個)と共に円筒ふたを取外します。

❷円筒ふたから手を入れて，こぎ胴の内側からナット２個を取外し，こぎ歯を取外します。

❸新しいこぎ歯をナット２個で取付けます。

❹円筒ふたを金具と共にボルト６本で取付けます。このとき，金具は２個ともL字部を下側に向けて取付けます。



重　要

＊円筒ふたの金具のL字部を下側にして取付けてください。

補　足

＊円筒ふたは４箇所あります。

＊わら巻付防止板を取付けるときは，凹凸部の凸側を左側にして取付けてください。

■わら切刃の点検・組換え・交換

注　意

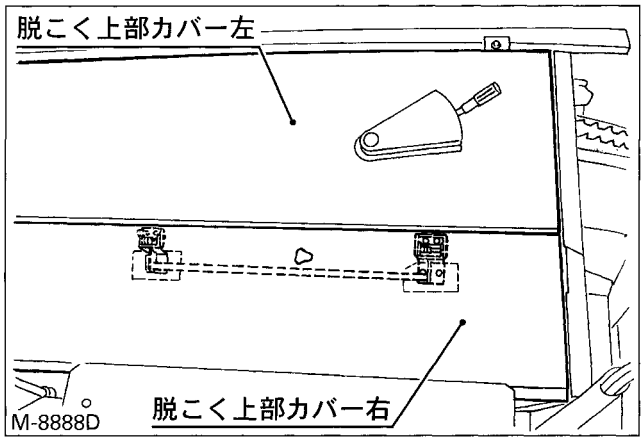
＊刃部に手を掛けないでください。

＊危険ですので，手袋をして，脱着作業をしてください。

わら切刃が切れなくなると，こぎ胴室内に発生するわらくずを細かく切断できなくなるため，わらくずの移動が悪くなります。また，必要以上の動力を消費するばかりでなく，排じん選別室に送られたわらくずが２番スクリュに巻きついたり，２番処理胴に詰まったりします。

◆点検・組換え・交換

点検するときは，アンローダを上昇し，脱こく上部カバー右，左を開いてください。



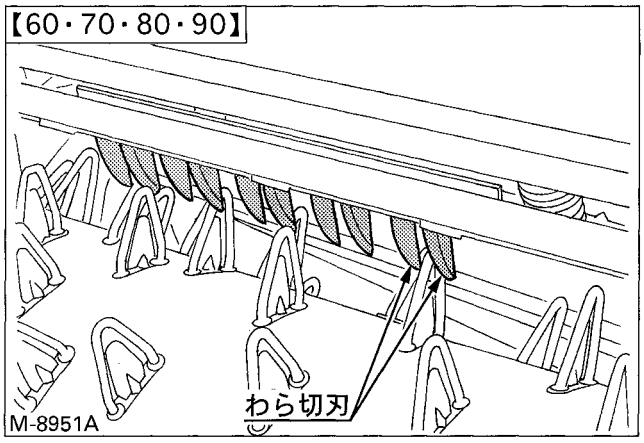
●株元側

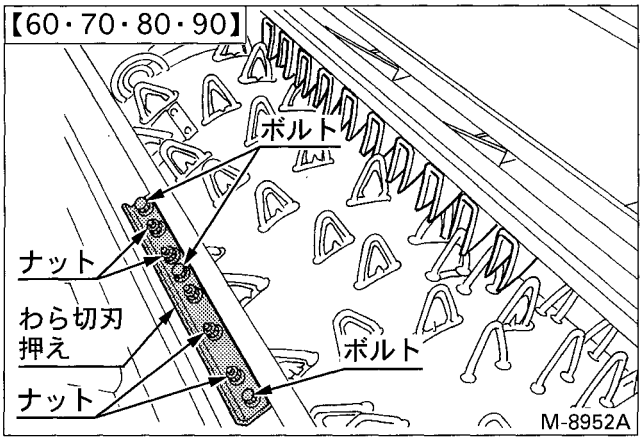
❶わら切刃のナットを少しゆるめておきます。

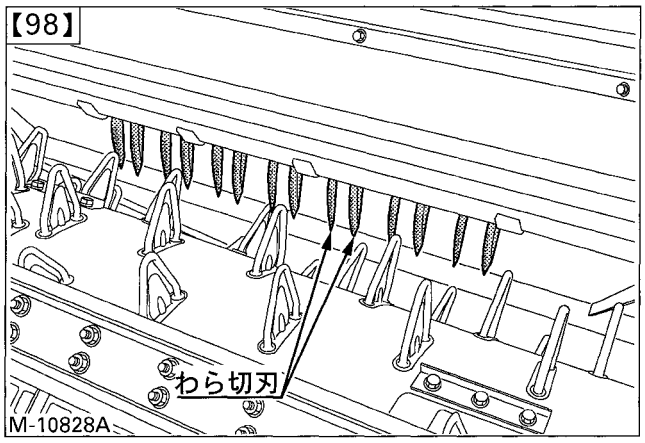
❷わら切刃押えのボルト３本**【60・70・80・90】**，ボルト４本**【98】**を外します。

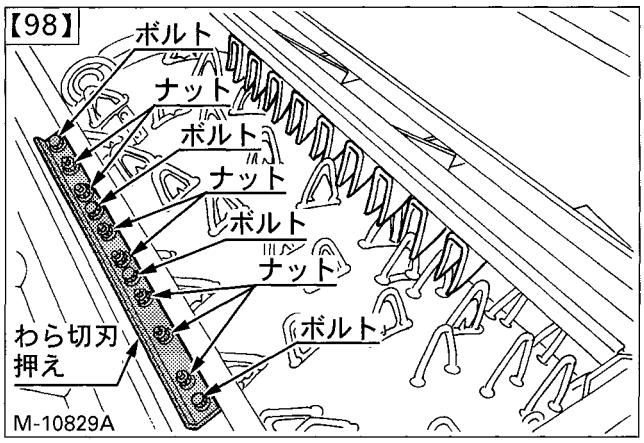
❸わら切刃押えを取外します。

❹わら切刃押えを取出したあと，わら切刃の刃先を確認します。刃先が摩耗したり，欠けているときはナットを取外して交換してください。

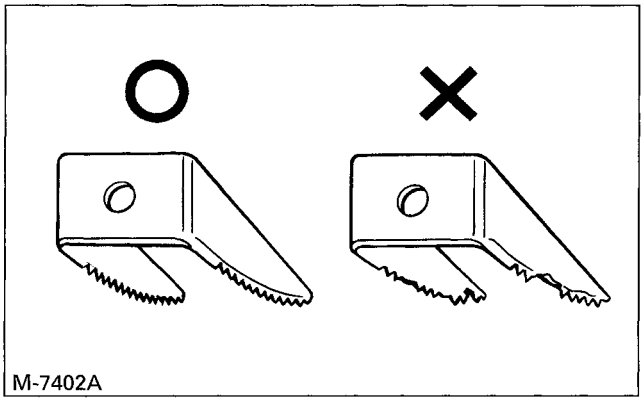








❺交換したあと，ナット取付け部にネジロックを塗布してナットを締付けたあと，ボルト３本**【60・70・80・90】**，ボルト４本**【98】**でわら切刃押えを締付けます。



重　要

＊わら切刃を取付けるときは，刃面を上向きにし，傾きの出ないように注意して取付けてください。

補　足

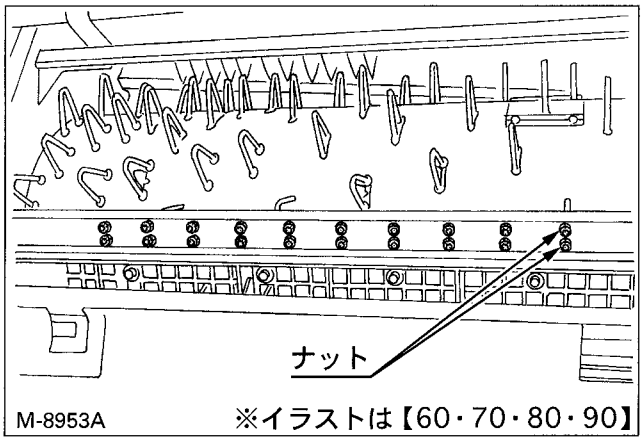
＊ネジロックは購入先に連絡してください。

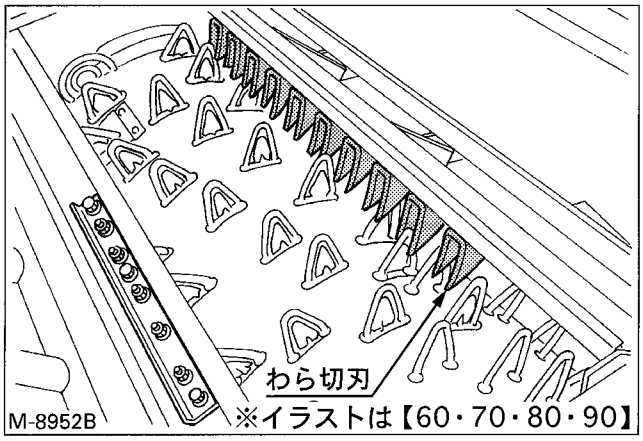
●穂先側

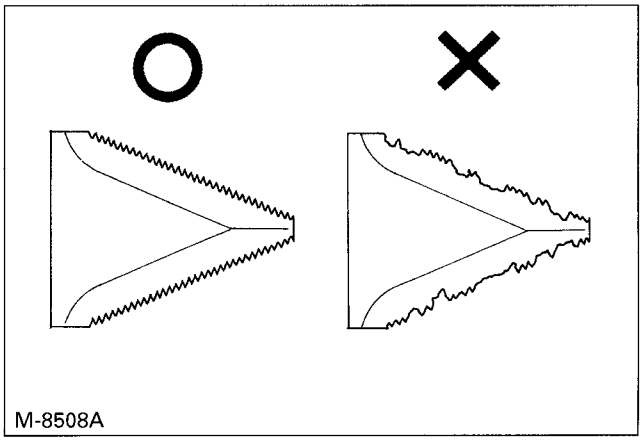
❶わら切刃の刃先を確認します。刃先が摩耗しているときは，取外して180度回して組換えます。両刃とも摩耗や欠けが大きいときは交換してください。

❷ナット２個を取外し，わら切刃を抜きます。

❸組換え又は，交換を行ないます。







重　要

＊わら切刃を取付けるときは，傾きの出ないように注意して取付けてください。

補　足

＊わら切刃は**【60・70・80・90】**は10個，**【98】**は９個です。

❹脱こく上部カバー上，下を閉じて，アンローダをアンローダ受けに収納します。

■カッタ部の点検・調整

警　告

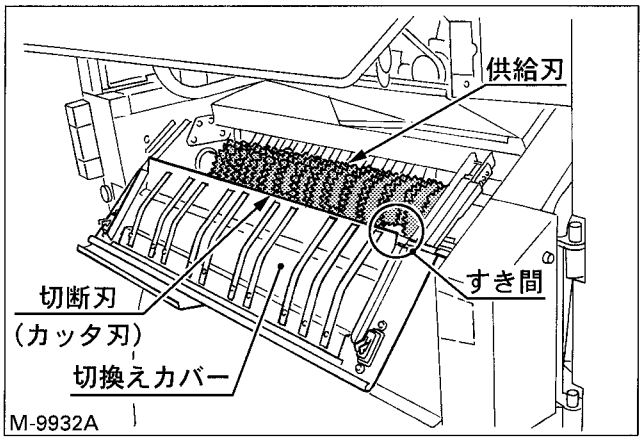
＊平たんな場所でエンジンを必ず停止して行なってください。

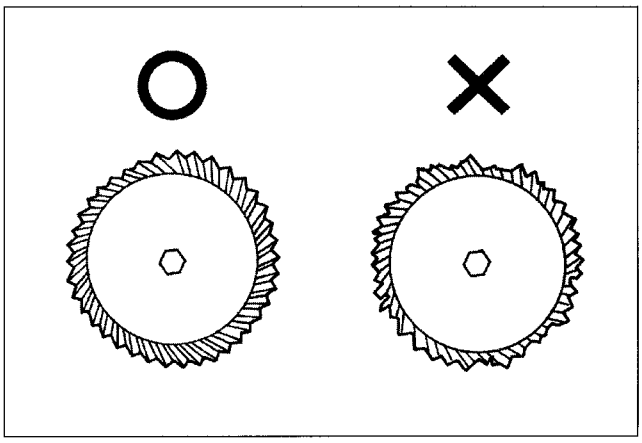
＊手袋を使用し，直接カッタ刃に触れないでください。

補　足

＊わらくずなどは取除いてください。

カバーロック金具を引き，切換えカバーを開いて切断刃(カッタ刃)と供給刃のラップ代とすき間を確認します。刃先が摩耗したり，欠けているときは交換してください。また，切断刃(カッタ刃)と供給刃のラップ代やすき間が大きかったり，小さかったりする場合は調整してください。。





補　足

＊切換えカバーをきちんと閉じないと，自動エンジン停止装置がはたらき，エンジンが始動しません。

◆切断刃と供給刃のラップ代の点検・調整

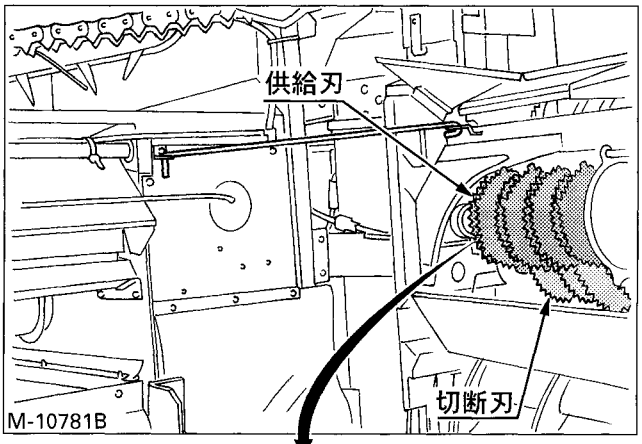
警 告

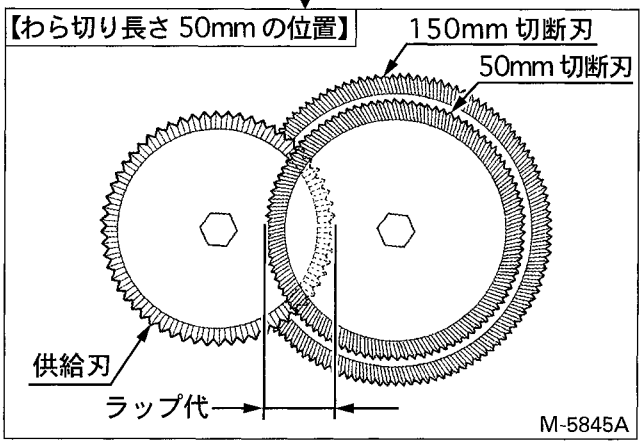
＊カッタを開いているときは，カッタの刃先に注意してください。

注 意

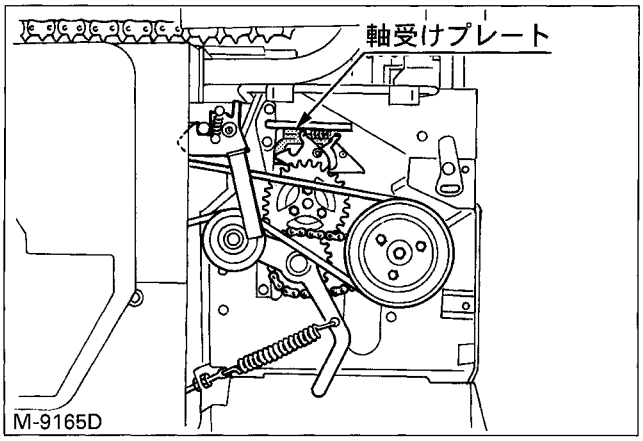
＊傾斜地では，カッタを開閉しないでください。
＊カッタをオープンして掃除をするときは，オープンストッパで必ず固定してください。

❶カッタオープンをします。
❷切断刃(カッタ刃)と供給刃のラップ代を測定し，9㎜以下のときは軸受けプレートを調整します。

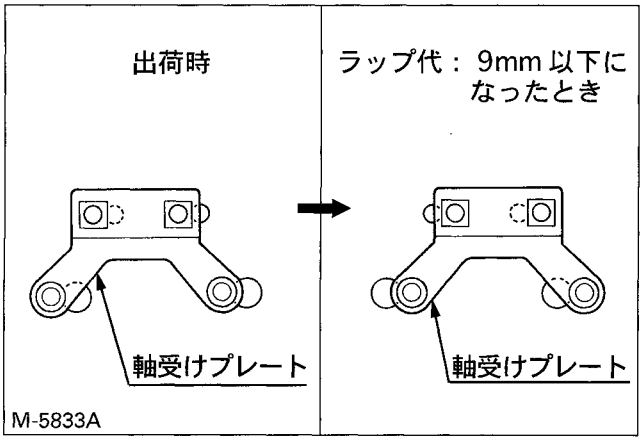




(1)ボルト４本を内側から取外し，軸受けプレートを取外します。



(2)下図のように調整します。(左側の場合)



(3)右側も同様に後側に調整します。

補 足

＊切断刃(カッタ刃)を交換したときは，出荷時の位置に戻してください。

◆切断刃と供給刃のすき間の点検・調整

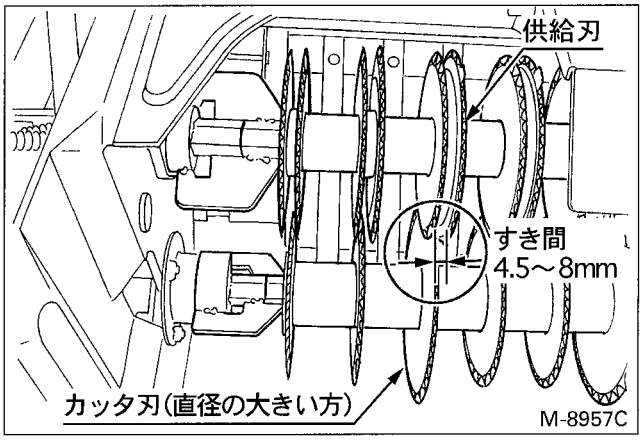
供給刃と切断刃(カッタ刃)のすき間を確認し，すき間が4.5～8mmの範囲から外れているときは，すき間調整を行ないます。

●点検

❶カッタ切換えカバーを開きます。

❷排わら切断長さの切換えレバーを短切り(50mm)の位置にします。

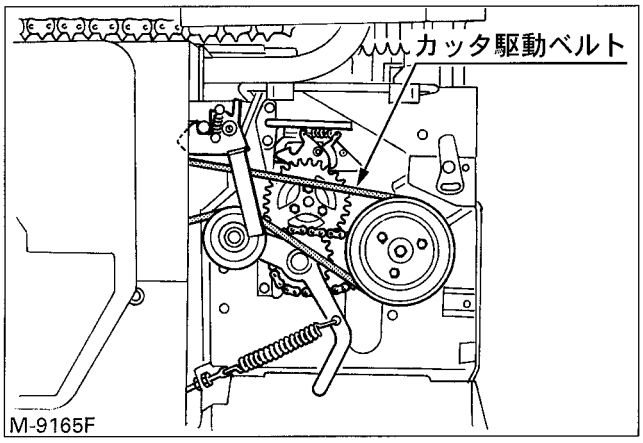
❸カッタ刃の直径の大きい方と供給刃のすき間を確認し，4.5～8mmの範囲から外れているときは調整を行ないます。



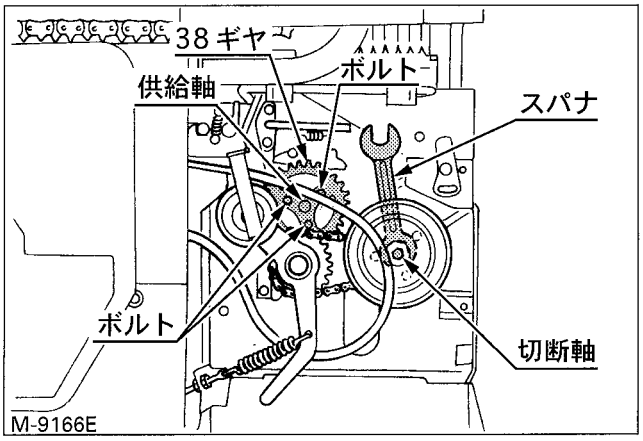
●調整

❶カッタ左サイドカバーを取外します。

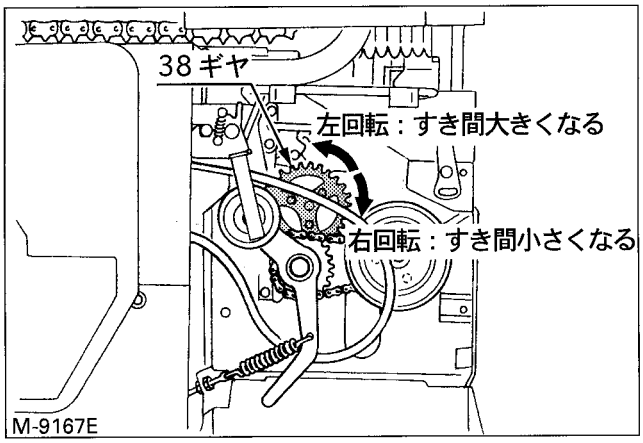
❷カッタ駆動ベルトを外します。



❸切断軸側のプーリ内側にスパナを掛け，切断軸を固定した状態で供給軸側の38ギヤ固定ボルト３本を取外します。



❹スパナを取外し，供給軸側の38ギヤを左又は，右回して切断刃(カッタ刃)と供給刃すき間を調整します。すき間は，左に回すと大きくなり，右に回すと小さくなります。

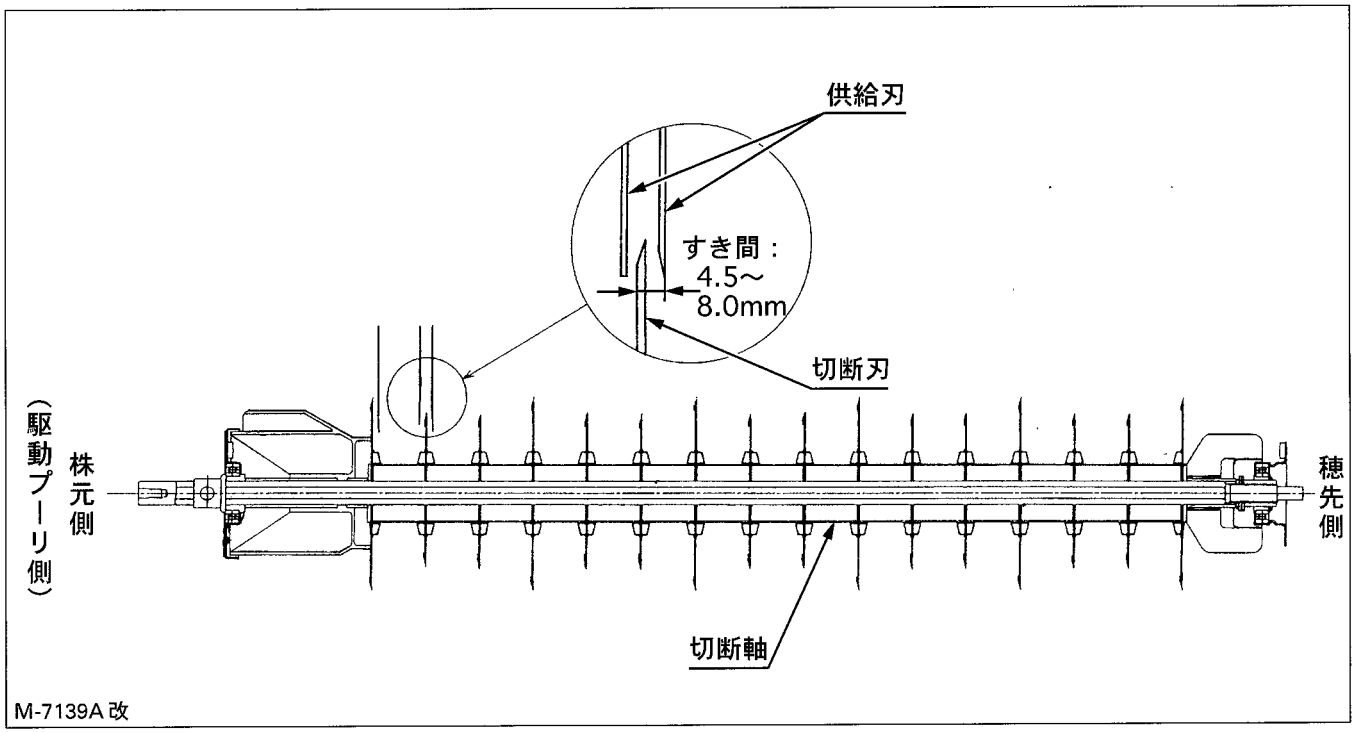


重　要

＊すき間が適正範囲(4.5～8.0㎜)外になると，刃物の接触が発生し破損するおそれがあります。また，わらの切断精度が悪くなります。

＊38ギヤを左に回した場合(すき間を大きくした場合)は，38ギヤとボス部にすき間ができるため，38ギヤを軸方向に必ず押込んだ状態ですき間を調整してください。

＊すき間は，株元側と穂先側の両端部で測定してください。



◆切断刃（カッタ刃），供給刃の増締め

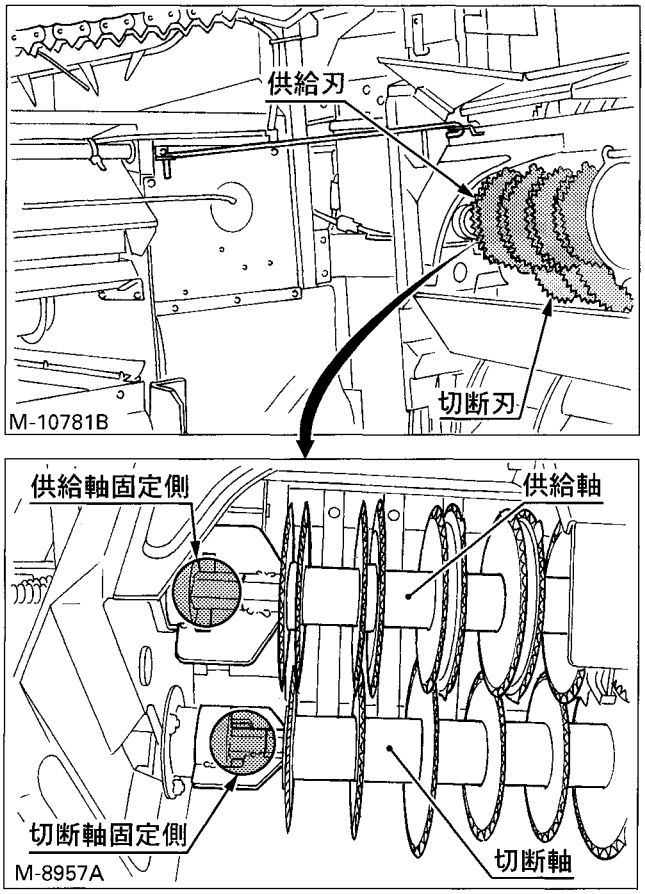
❶樹脂ボルトを取外し，カッタ右サイドカバーを取外します。

❷切換えカバーを開きます。

❸カッタオープンをします。

❹２人作業で切断軸と供給軸を増締めします。

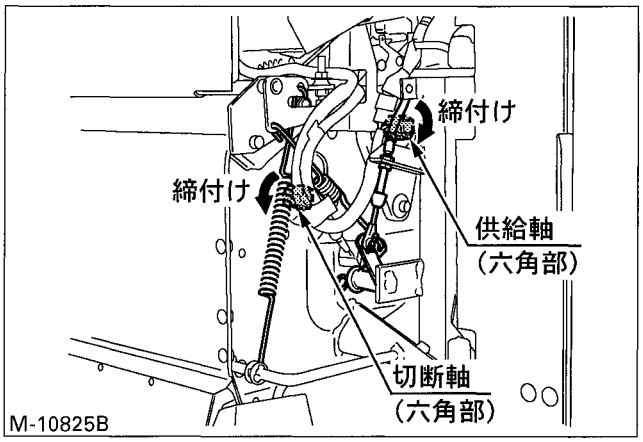
(1)内側より切断軸及び供給軸の下図の位置にそれぞれスパナを掛けます。(固定側)



(2)下図の六角部にスパナを掛けて締付けます。このとき，供給軸は時計方向，切断軸は反時計方向に締付けます。

重　要

＊軸の締付けトルクは98.0～117.6N·m(1000～1200kgf·cm)です。確実に締付けてください。組付け時，刃物・パイプ端面に砂など異物が付着しますと，刃物間寸法が出ない場合がありますので注意してください。



❺カッタ部を閉じます。

❻カッタ右サイドカバーを取付けたあと，切換えカバーを閉じます。

■カッタ刃の交換

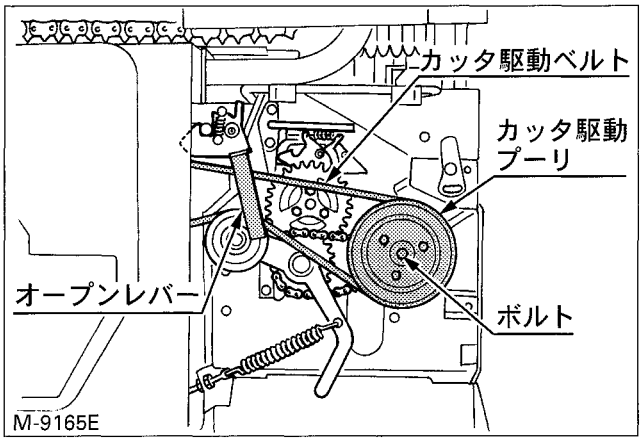
警 告

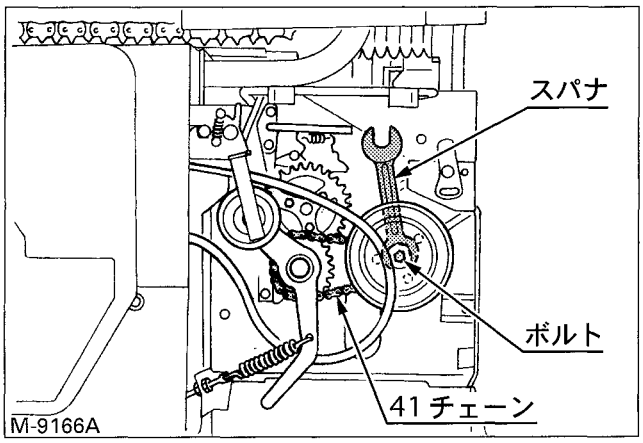
＊カッタ刃を交換するときは，エンジンを必ず止めてください。
＊手袋を使用し，直接カッタ刃に触れないでください。
＊切断軸完備を外すときは，２人でカッタ刃のない両端を持って脱着作業をしてください。

重 要

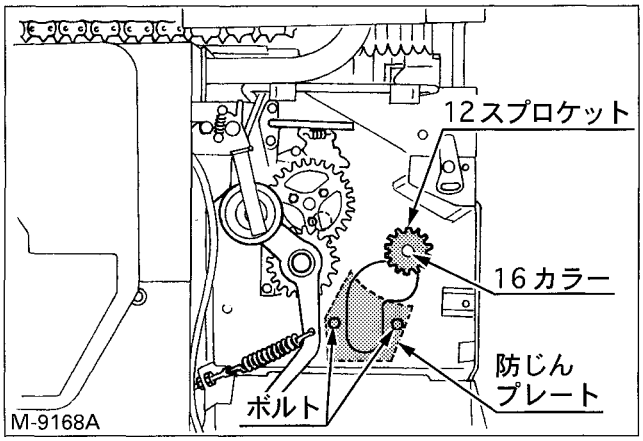
＊軸の締付けトルクは98.0～117.6N·m(1000～1200kgf·cm)です。確実に締付けてください。組付け時，刃物・パイプ端面に砂など異物が付着しますと，刃物間寸法が出ない場合がありますので注意してください。
＊軸を垂直に立てて組んでください。組付け後の軸振れが無くなります。
＊刃の向き，組合せが逆にならないよう回転方向に注意してください。
＊組付け後，刃と刃が接触していないか軽く回して確かめてください。
＊カッタ駆動ベルトを組付けるときは，オープンレバーの下側を通してください。

❶カッタ左サイドカバーとカッタ右サイドカバーを外します。
❷カッタ駆動ベルトを外します。
❸カッタ駆動プーリのボルトを外します。ボルトを外すときは，図の位置（カッタ駆動プーリ側）にスパナを掛けてください。

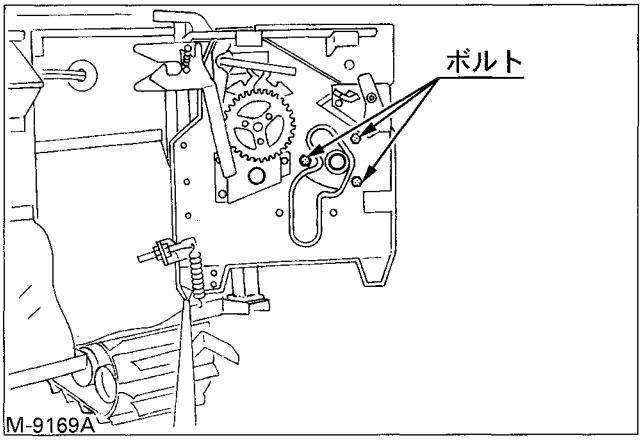




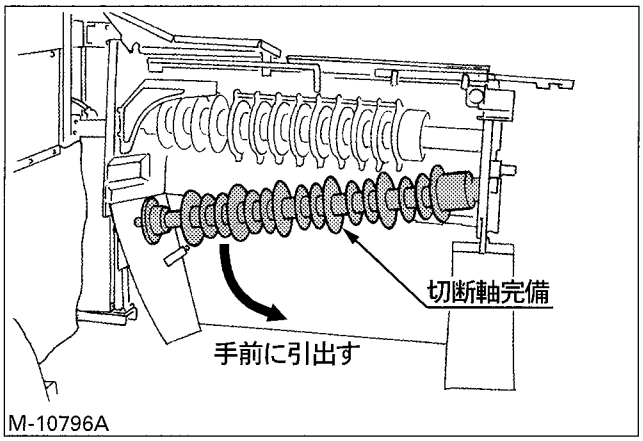
❹ボルト２本を取外し，防じんプレートを外します。
❺41チェーンを外し，12スプロケット，16カラーを外します。



❻切断長切換えレバーを15cmの位置にします。
❼カッタをオープンします。
❽軸受けを固定しているボルトを外します。
（株元側３本，穂先側３本）



❾穂先側の軸受けを下にずらしながら，切断軸完備を外します。

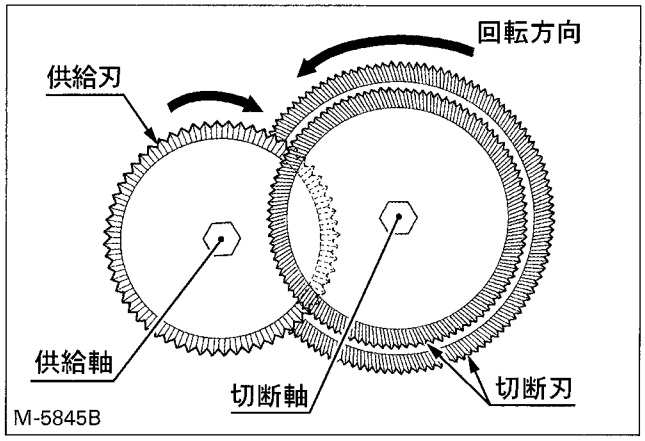


❿軸を安定した所に置き，六角ナット左をゆるめ（左ネジ），順番に分解します。

⓫刃の交換が終わると，逆の手順で組付けます。

重　要

＊刃の向きと回転方向は下図のようになります。



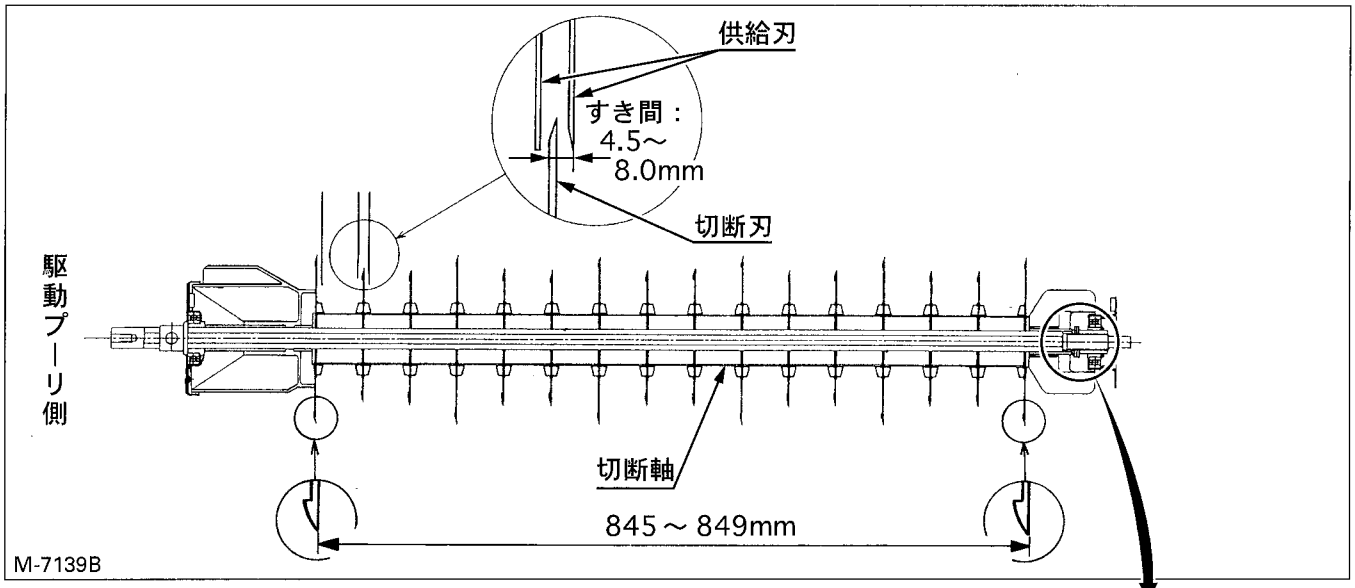
＊すき間調整は，177ページを参照してください。

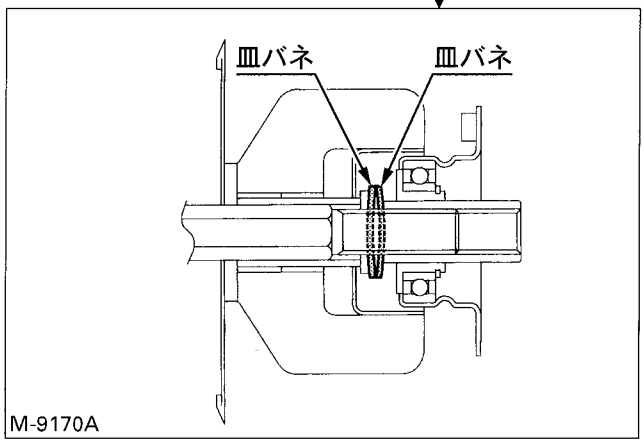
重　要

＊交換後は，必ず軸受けプレートを出荷時組付け位置に組付けてください。（176ページ参照）

＊組付後に下図のように切断刃（カッタ刃）の両端の寸法を確認し，845～849㎜の範囲から外れているときは，調整を行なってください。

＊皿バネは，下図のように凹面を内側に合わせて組付けてください。





■排わらチェーン押えの点検・調整・交換

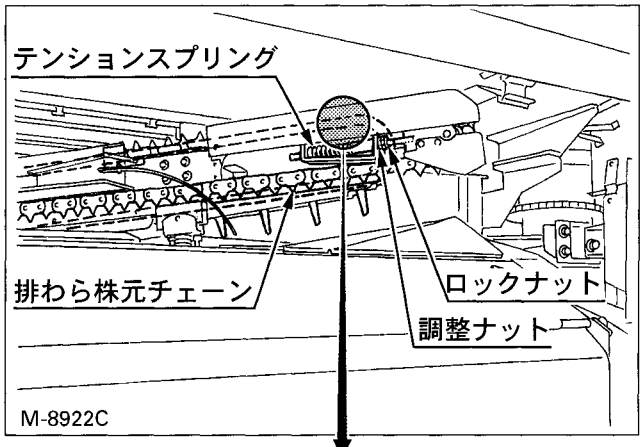
排わら６スプロケットと排わらチェーン押えのすき間が2.5㎜以上になったら調整用のシムを抜いて調整してください。

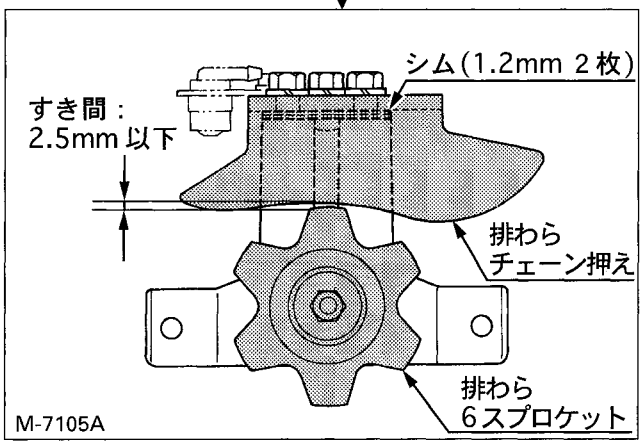
◆点検・調整

❶排わら株元チェーンのテンションスプリングのロックナットと調整ナットをゆるめて排わら株元チェーンを取外します。

❷排わら６スプロケットと排わらチェーン押えのすき間を調整します。

❸すき間が2.5㎜以上あるときは，ボルト３本を取外し，排わらチェーン押えを外してシムを１枚抜取ります。





補　足

＊シムは厚さが1.2㎜のものが２枚あります。また，シムは抜取ったあとも保管しておいてください。排わらチェーン押えを交換したときに再使用します。

＊シムを２枚抜取った状態で，すき間が2.5㎜以上になったときは，排わらチェーン押えを交換してください。

❹ボルト３本で排わらチェーン押えを取付けます。

❺テンションスプリングの張り調整を行ないます。

(169ページ参照)

■フィルタの掃除・交換【Q仕様】

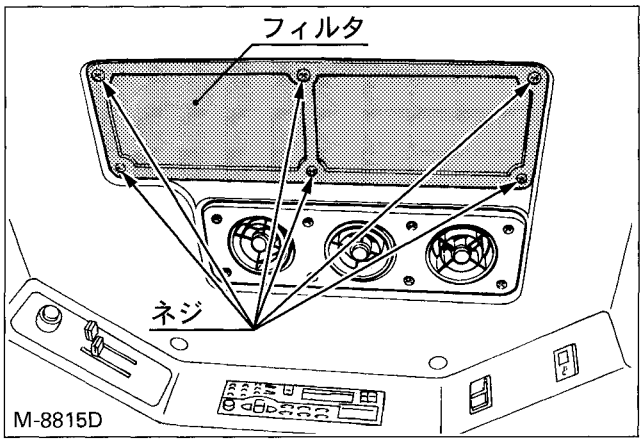
フィルタが目詰まりするとエアコンの効率が低下します。フィルタを損傷させないように掃除してください。

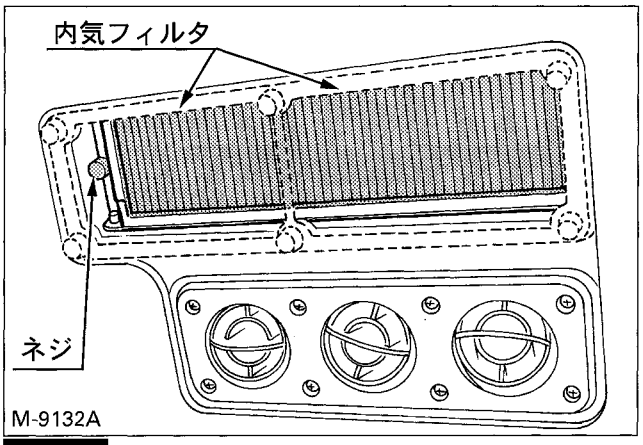
◆内気フィルタの掃除・交換

❶フィルタの取付ネジを取外して，フィルタを取外します。そのあと，内気フィルタの取付ネジを取外して内気フィルタを取外します。

❷フィルタと内気フィルタを掃除します。掃除を行なっても汚れの取れないときや，損傷しているときは交換してください。

❸内気フィルタとフィルタを取付けます。





重　要

＊洗浄にガソリン，シンナなどを使用しないでください。

補　足

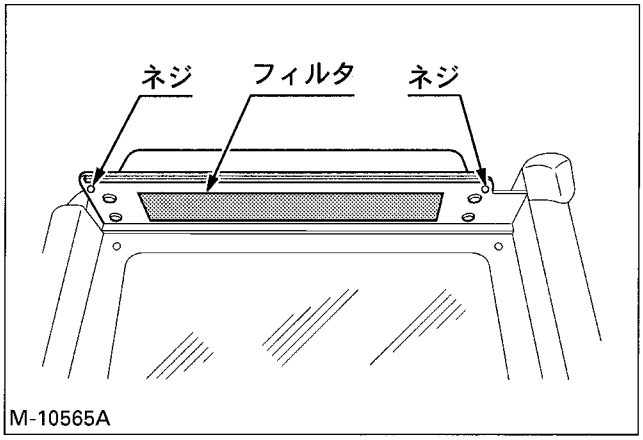
＊風の流れ方向の逆方向よりエアブローしてください。

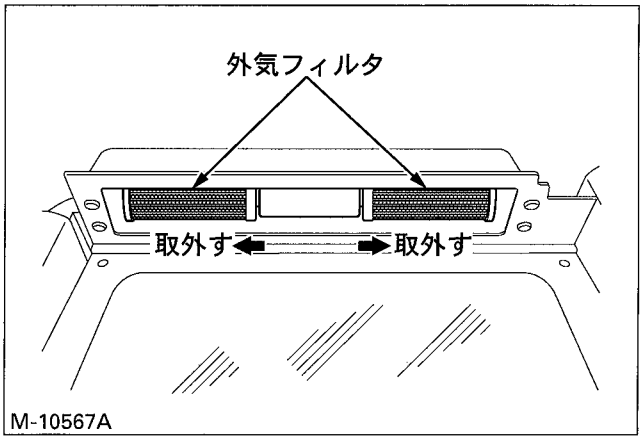
＊汚れが著しいときは，家庭用中性洗剤を溶かしたぬるま湯につけて上下左右に動かしながら洗浄し，清水でよくすすいだ後，完全に自然乾燥させてください。

◆外気フィルタの掃除・交換

❶フィルタの取付ネジを取外して，フィルタを取外します。そのあと，２箇所ある外気フィルタを取外します。

❷フィルタと外気フィルタを掃除します。掃除を行なっても汚れの取れないときや，損傷しているときは交換してください。





❸外気フィルタとフィルタを取付けます。

重　要

＊洗浄にガソリン，シンナなどを使用しないでください。

＊外気フィルタを取付けるときは，傾きが出ないように確実に取付部に差込んでください。

補　足

＊風の流れ方向の逆方向よりエアブローしてください。

＊汚れが著しいときは，家庭用中性洗剤を溶かしたぬるま湯につけて上下左右に動かしながら洗浄し，清水でよくすすいだ後，完全に自然乾燥させてください。

■冷媒（ガス）量の点検【Q仕様】

冷媒が不足するとエアコンが冷えなくなります。下記要領で点検し，冷媒が不足しているときは，購入先に連絡して補充してください。

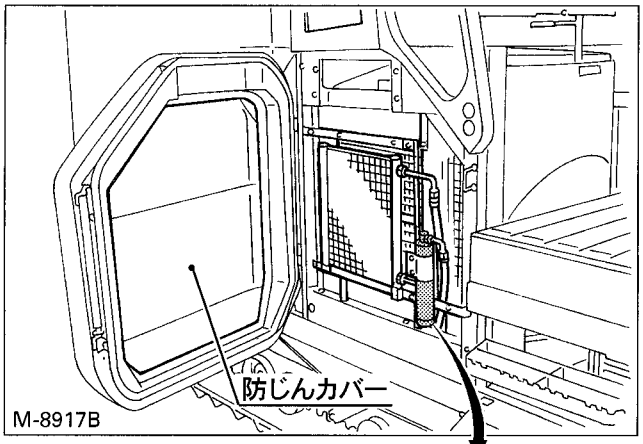
◆点検

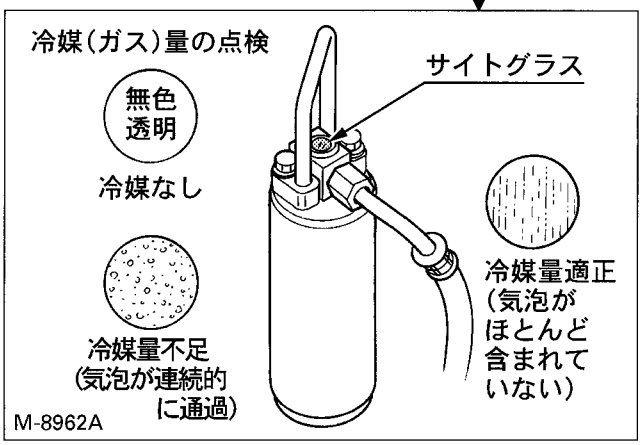
❶エアコンを以下の条件で運転します。

- エンジン回転数　：約1500rpm
- 温度コントロールレバー　：左端(**“COOL”**側)
- ファンスイッチ　：**“HI”**(強)位置
- エアコンスイッチ　：**“入”**位置
- 窓（左，後）を全開，ドア全開

❷防じんカバーを開きます。

❸サイトグラスから流れている冷媒の状態を確認します。





❹エンジンを停止し，ファンスイッチとエアコンスイッチを**“切”**位置にします。

❺防じんカバーを閉じます。

❻窓（左，後）とドアを閉じます。

■吐出口ブーツの点検・交換

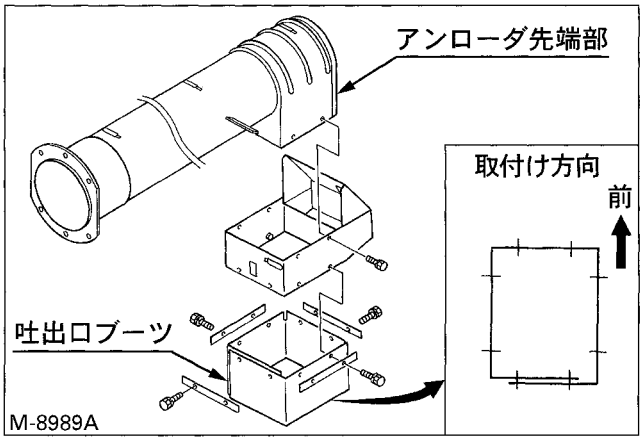
アンローダ先端部の吐出口ブーツが破損したときは交換してください。

◆交換

❶ブーツを取付けているボルト８本を外します。
❷破損したブーツを取外し，新しいブーツを取付けます。

補　足

＊ブーツを取付けるとき，ブーツの重なりに注意し，正しく取付けてください。

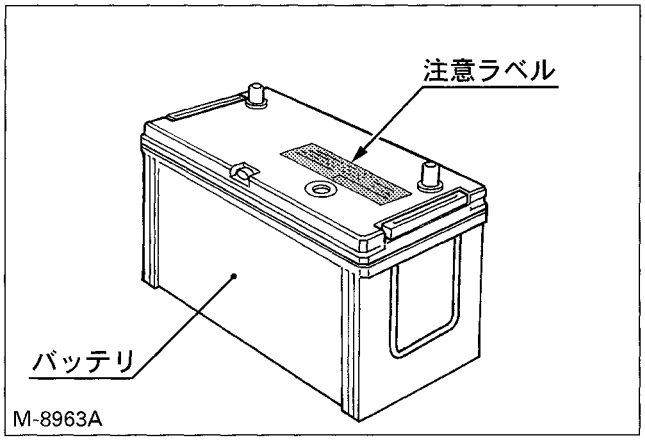


重　要

＊ブーツ（品番：5G200-3159-0）は必ずクボタ純正品を使用してください。

■バッテリの点検・交換

バッテリ上面に貼ってある取扱いの注意ラベルをよく読んでください。



危　険

＊バッテリの近くに裸火(マッチ，ライター，タバコの火など)を近づけたり，⊕端子と⊖端子が金属工具などの接触によって起こるスパークをさせないでください。バッテリのガスで引火爆発するおそれがあります。
＊バッテリを取扱うときは，必ず保護メガネとゴム手袋を着用してください。バッテリに入っている電解液(希硫酸)により，失明やヤケドの原因となります。
＊充電器やブースターケーブルを使用するときの取扱いは，それぞれの取扱説明書に従って行なってください。取扱いを誤まると引火爆発するおそれがあります。
＊この12Vバッテリはエンジン始動用ですから，他の用途には使用しないでください。
＊急速充電は厳禁です。
＊開封は厳禁です。(密封タイプ)

警　告

＊バッテリを乾いた布などで掃除しないでください。静電気により引火爆発するおそれがあります。

補　足

＊出荷時は，補水不要のバッテリです。

◆点検

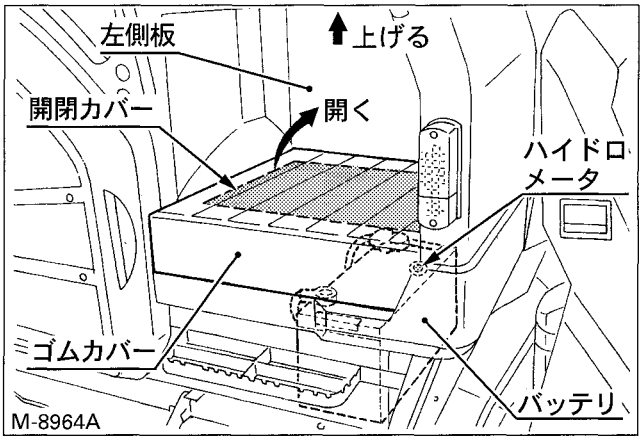
危 険

バッテリが破損や傾いたりして，液もれが発生しているとき……

＊バッテリ液が身体や衣服に付かないようにしてください。付着したときは，すぐに水で洗い流してください。電解液(希硫酸)によってヤケドすることがあります。

＊バッテリの電解液(希硫酸)が目に入った場合は，ただちに多量の清水で洗浄したあと，速やかに医師(眼科医)の治療を受けてください。失明の原因となります。

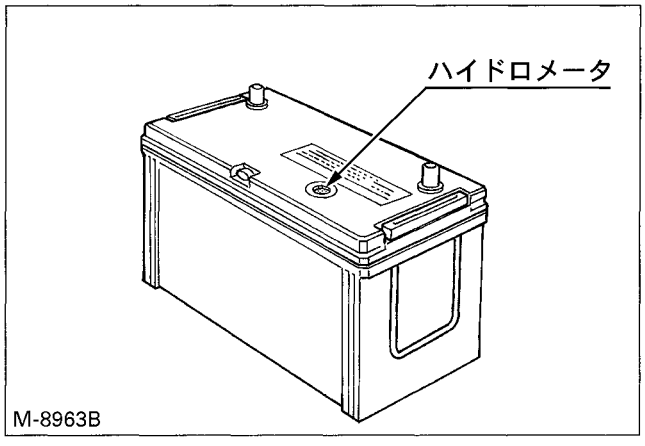
❶ステップの左側板を少し引上げたあと，ステップのゴムカバーをめくり,点検用の開閉カバーを開きます。



❷バッテリの状態を点検し，異常があれば処置します。

(1)バッテリ上面にあるハイドロメータの色で充電状態を確認します。下表を参照し，処置を行なってください。

表示の色	充電状態	処　　置
緑	正常	使用可能
黒	放電している	補充電
透明	液減り	交換



補 足

＊真上から確認してください。

(2)バッテリが破損して液もれが発生しているときは，交換してください。

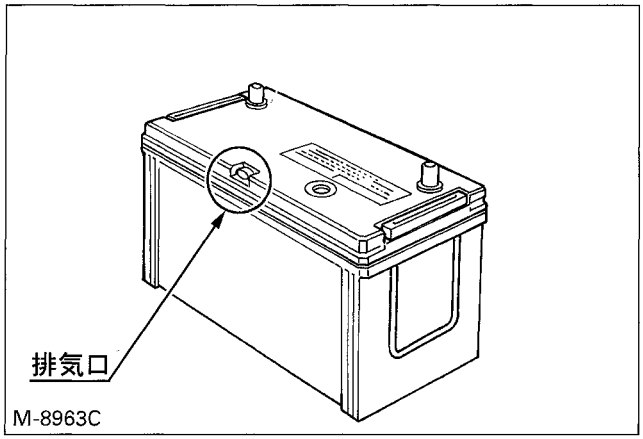
重 要

＊液もれが発生すると車体が腐食する原因となります。

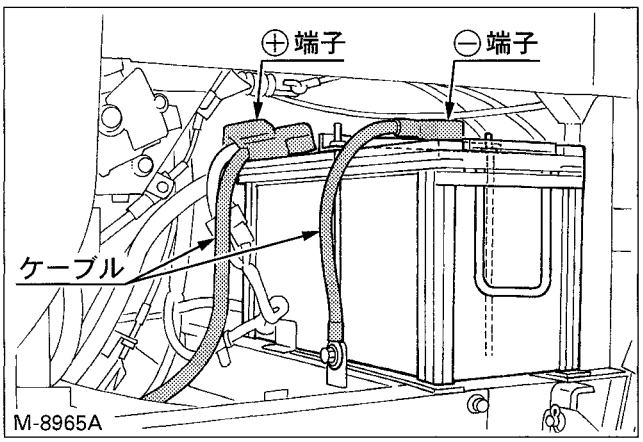
(3)ふたの排気口にゴミなどが付着しているときは掃除してください。

重 要

＊排気口をふさぎますと，バッテリ内部で発生するガスによりバッテリの内圧が上がり，破損する原因となります。



(4)バッテリケーブルの破損や⊕端子，⊖端子にゆるみや腐食がないか確認し，ケーブルの交換や端子の増締めや掃除を行ないます。



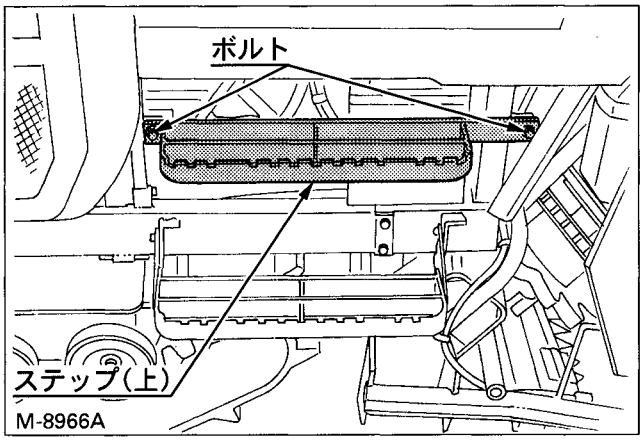
◆補充電・交換

警 告

＊バッテリは，以下の順序で取換えてください。順序を誤まると，ショートによるスパークで引火爆発するおそれがあります。
・取外し…⊖端子側(アース側)から外す。
・取付け…⊖端子側(アース側)を最後に接続する。
＊バッテリを転倒させたり，衝撃を与えたりしないでください。電解液(希硫酸)のもれにより，失明やヤケドをするおそれがあります。
＊バッテリを機体に取付けた状態での充電は避けてください。バッテリの引火爆発や機体損傷の原因となるおそれがあります。
＊バッテリの取付け方向を間違えないでください。⊕と⊖が逆に取付けられると接続ケーブルが損傷し，火災の原因となるおそれがあります。
＊バッテリを投げたり，落としたり，斜めにしたり，衝撃を与えたりしないでください。バッテリに入っている電解液(希硫酸)により，失明やヤケドの原因となることがあります。

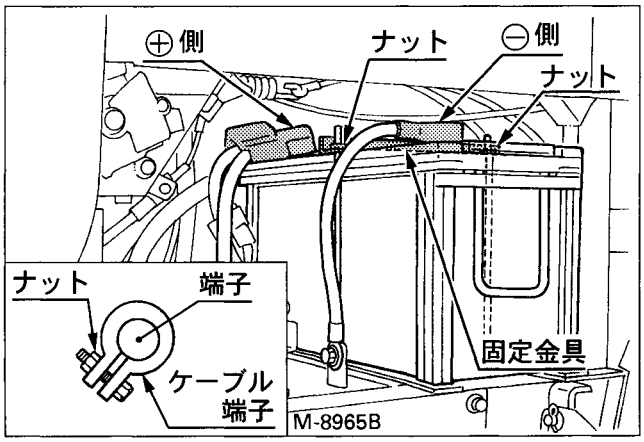
次のような状態が発生したときは補充電を行なってください。また，補充電を行なっても短時間で再発するときや状態が良くならないときは，バッテリの寿命ですので交換を行なってください。
- スタータモータの回転が，いつもより弱い。
- アクセルの加減で，ヘッドランプの明るさが変わる。
- ホーンの音が，いつもより低い。

❶バッテリを機体から取外します。
(1)ボルト２本を取外し，ステップ（上）を外します。

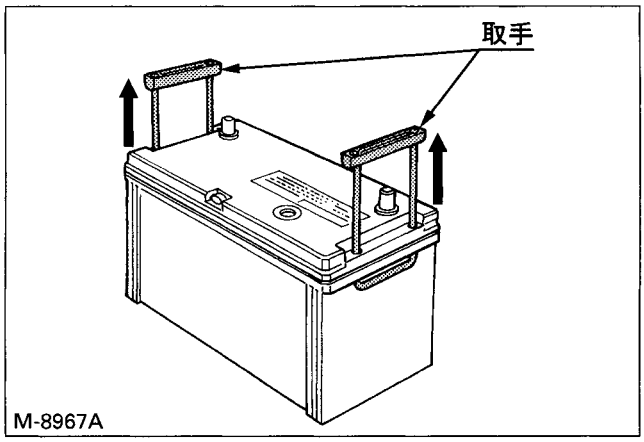


(2)ケーブル端子のナットをゆるめて，端子からケーブル端子を取外します。取外すときは，必ず⊖側から取外してください。

(3)ナットを取外し，バッテリ固定金具を外します。



(4)バッテリの両端にある取手付きのひもを持上げてバッテリを取外します。



重 要

＊バッテリを斜めにしたり，横倒しにして運ばないでください。電解液（希硫酸）がこぼれ，衣服の損傷の原因となります。

❷補充電を行なうときは，平たんで風通しの良い場所を選んで行ないます。また，充電は，バッテリの⊕を充電器の⊕側に，バッテリの⊖を充電器の⊖側にそれぞれ接続して，普通の充電方法で行なってください。
❸補充電が終わると取外したときと逆の手順でバッテリを取付けます。

重 要

＊バッテリを交換するとき，バッテリは下記指定のバッテリを使用してください。電圧や容量が違うと故障の原因となります。
バッテリ形式：**95E41R**
＊バッテリはきちんと取付けてください。傾いたりすると転倒や液もれの原因となります。

補水が必要なバッテリの場合

(補水が不要なバッテリの説明と異なる部分の説明です。)

◆点検・補水

注 意

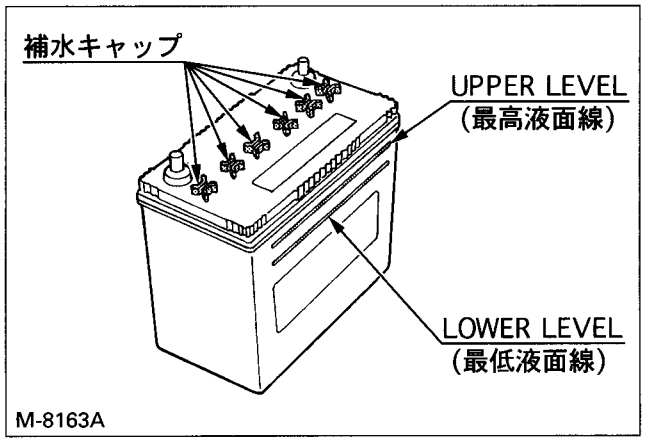
バッテリには補水不要なタイプと補水が必要なバッテリの2種類があります。補水が必要なバッテリについては，以下の事を守ってください。

＊バッテリは液面がLOWER(最低液面線)以下になったままで使用や充電をしないでください。LOWER以下で使用を続けると電池内部の部位の劣化が促進され，バッテリの寿命を縮めるばかりでなく，爆発の原因となることがあります。すぐにUPPER LEVELとLOWER LEVELの間に補水してください。

＊バッテリ液が身体や衣服に付かないようにしてください。付着したときは，すぐに水で洗い流してください。電解液(希硫酸)によってヤケドすることがあります。

バッテリの状態を点検し，異常があれば処置します。

(1)バッテリ液の量を点検し，**"UPPER LEVEL"**(最高液面線)と**"LOWER LEVEL"**(最低液面線)の間に液量があるか確認し，不足しているときは補水キャップを外して補水します。



重 要

＊バッテリ液が不足して極板が空気中に露出しますと，バッテリの寿命は著しく短くなります。

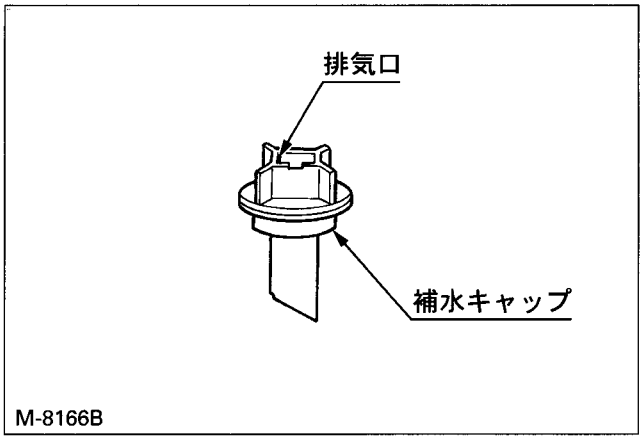
＊バッテリ液を補充する場合は，必ず精製水を補充してください。希硫酸・井戸水・泥水などは絶対に入れないでください。

＊バッテリに精製水を入れ過ぎないでください。液もれして機体を傷めるおそれがあります。

(2)補水キャップの排気口にゴミなどが付着しているときは掃除してください。

重 要

＊排気口をふさぎますと，バッテリ内部で発生するガスによりバッテリの内圧が上がり，破損する原因となります。



◆補充電・交換

注 意

＊補充電中は補水キャップ全てを取外して行ないますので裸火は近づけないでください。引火爆発するおそれがあります。

❶補充電を行なうときは，平たんで風通しの良い場所を選んで補水キャップを全て取外した状態で行ないます。

また，充電は，バッテリの⊕を充電器の⊕側に，バッテリの⊖を充電器の⊖側にそれぞれ接続して，普通の充電方法で行なってください。

❷補充電が終ると補水キャップを全て取付けてください。

■電気の各配線コード・各ヒューズの点検・交換

注 意

＊配線コード被覆の損傷やコネクタ（端子）の接触不良によるろう電やショート（短絡）は火災の原因となります。

◆各配線コードの点検・交換

各配線コードのコネクタ（端子）の接続状態を点検し，ゆるみや外れがあるときは確実に差込んでください。また，被覆の損傷状態を点検し，被覆が破れているときは，販売店へ連絡して交換してください。

◆各ヒューズの交換

ヒューズ切れによる異常が発生したときは，ヒューズを交換してください。

重 要

＊新しいヒューズは必ず指定容量のヒューズを使用してください。異なる容量のヒューズを使用すると故障の原因となります。

＊ヒューズを交換してもすぐ切れてしまう場合は，針金や銀紙などで代用せず，購入先に連絡してください。

補 足

＊ヒューズを交換するときは，ヒューズケースのカバーに設置しているヒューズプーラ（ヒューズ抜き）を使用してください。

●本機

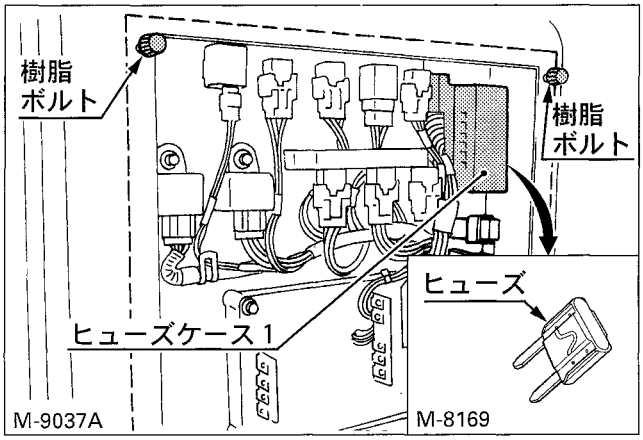
❶刈取部を地面に接地させエンジンを止めます。

❷樹脂ボルト２本を取外して運転席後面のカバーを外します。

❸ヒューズケースのカバーを取外します。

❹ヒューズが切れた箇所に同じ容量のヒューズと交換します。

●【DX仕様】

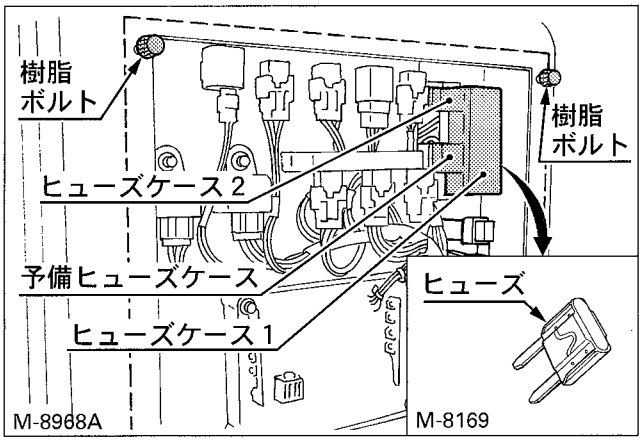


●ヒューズケース（上から）

回　　路	容量(A)	対象型式	回　　路	容量(A)	対象型式
こぎ深さモータ 注油モータ	20	全型式	マイコン（直B)	5	全型式
アンローダモータ	25	全型式	前照灯， ウインカ（直B)	20	全型式
結束機	15	全型式	作業灯（直B)	25	全型式
タンク開閉モータ	20	全型式	――	―	―
逆転ファンモータ	20	90・98	エンジン停止(吸引側)	15	全型式
フィードチェーン変速モータ	15	全型式	マイコン，リレーコイル，チェッカ	5	全型式
――	―	―	メータスイッチユニット	5	全型式
予備ヒューズ	15	全型式	油圧バルブ（作業機，操行）	15	全型式
予備ヒューズ	20	全型式	エンジン停止（保持側） 燃料ポンプ， オルタネータ	7.5	全型式
予備ヒューズ	25	全型式	ブザー，アンローダブレーキ	5	全型式

●予備ヒューズは，ヒューズケース１のカバー裏側に５A１本，7.5A１本が入っております。

● 【HD・SD仕様】



●ヒューズケース１（上から）

回　　路	容量(A)	対象型式	回　　路	容量(A)	対象型式
こぎ深さモータ 注油モータ	20	全型式	マイコン（直B)	5	全型式
アンローダモータ	25	全型式	前照灯， ウインカ（直B)	20	全型式
結束機	15	全型式	作業灯（直B)	25	全型式
タンク開閉モータ	20	全型式	キャビン（直B)	20	Q仕様
逆転ファンモータ	20	90・98	エンジン停止(吸引側)	15	全型式
フィードチェーン変速モータ	15	全型式	マイコン，リレーコイル，チェッカ	5	全型式
刈脱モータ	20	全型式	メータ，リモコンスイッチユニット	5	全型式
トウミモータ	15	全型式	油圧バルブ（作業機，操行）	15	全型式
チャフモータ	15	全型式	エンジン停止（保持側） 燃料ポンプ， オルタネータ	7.5	全型式
車速モータ	15	全型式	ブザー，アンローダブレーキ	5	全型式

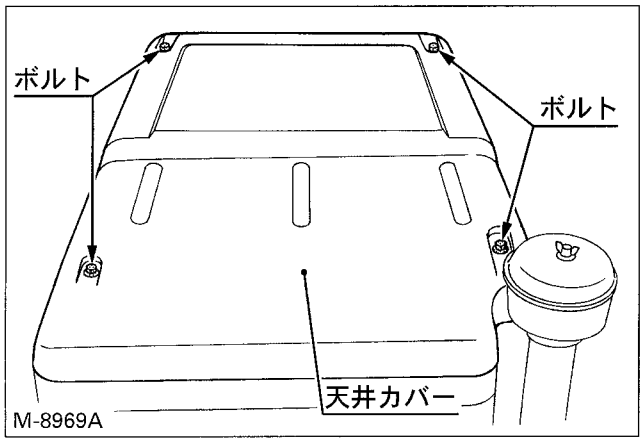
●ヒューズケース２（上から）

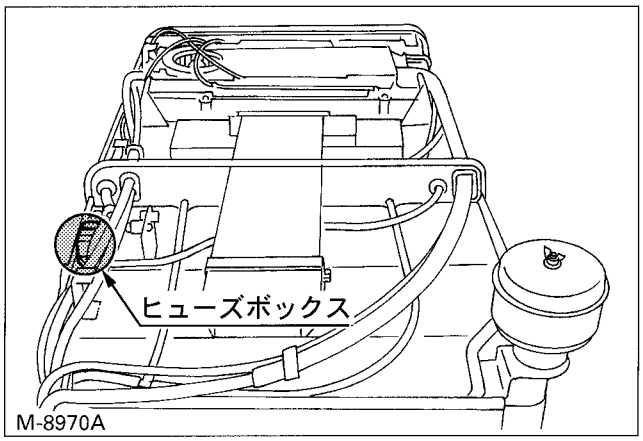
回　　路	容量（A）	対象型式
モミ排出クラッチモータ	20	全型式
こぎ胴オープン	20	全型式
キャビン	20	Q仕様

●予備ヒューズは，予備のヒューズケースとヒューズケース１のカバー裏側に５A１本，7.5A１本，15A１本，20A１本，25A１本が入っております。

● 【Q仕様】

❶ボルト４本を外して天井カバーを取外します。
❷ヒューズボックスのふたを開きます。
❸ヒューズが切れた箇所に同じ容量のヒューズと交換します。
❹天井カバーを取付ます。





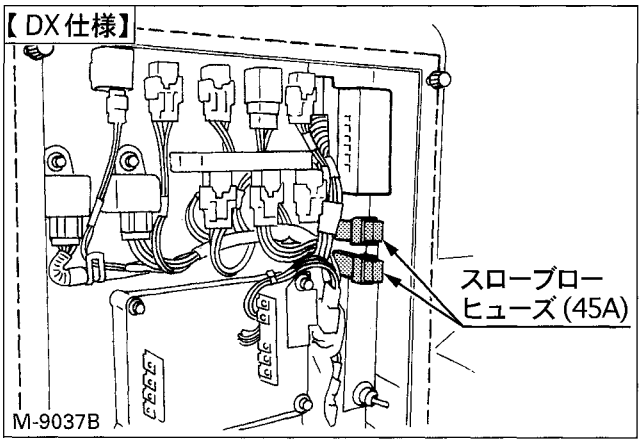
回　　路	容　量（A）
ラジオ（直B)	5
ブロワ（直B)	15
キャビン作業灯（直B)	7.5
ラジオ	7.5
コンプレッサ	7.5
ワイパ	15

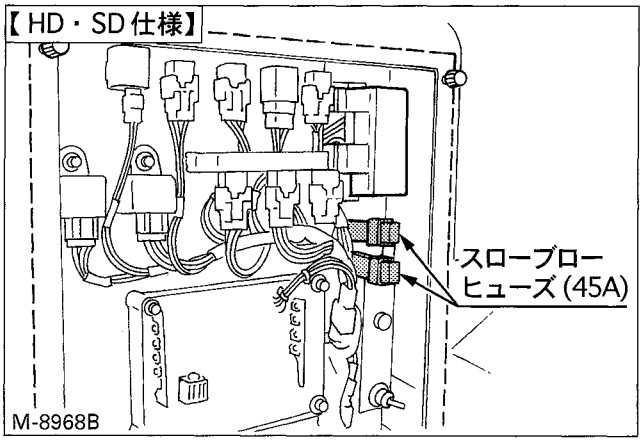
補　足

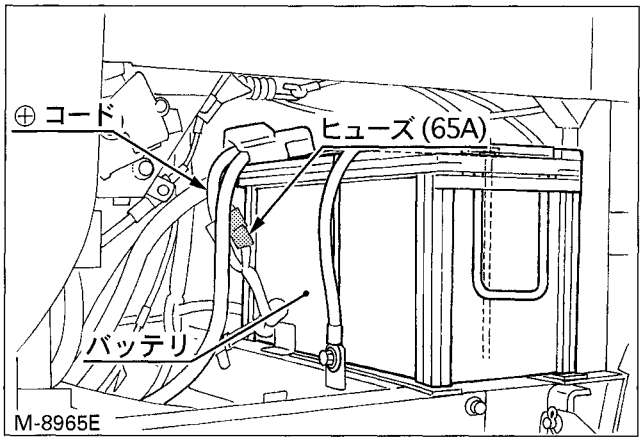
＊ヒューズボックス本体に５A，7.5A，15Aの予備ヒューズが入っています。

●スローブローヒューズ・バッテリ⊕コードヒューズの点検・交換

スローブローヒューズは，過電流が流れたときに各配線が損傷しないように保護するためのものです。エンジンがかからないときは点検し，切れているときは新しいヒューズと交換してください。



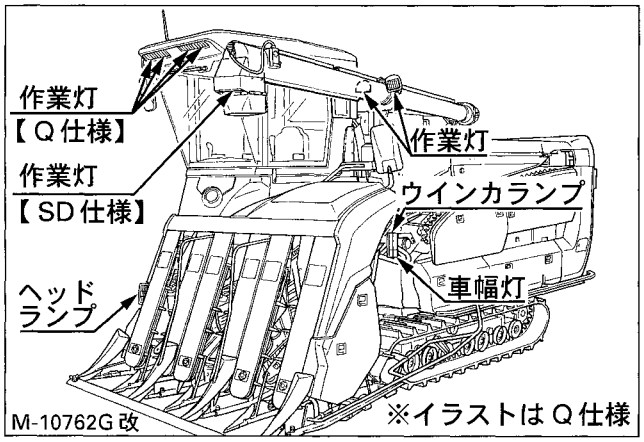


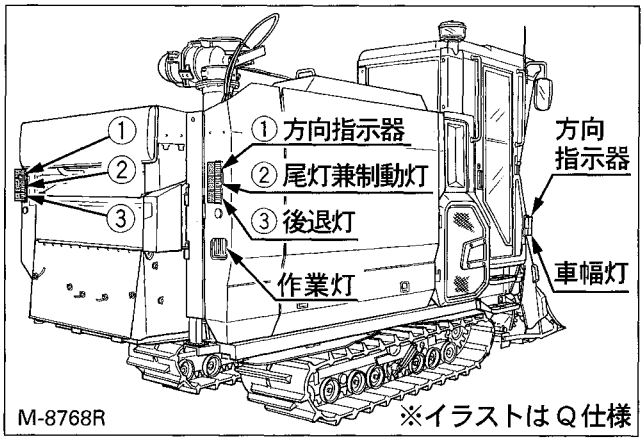


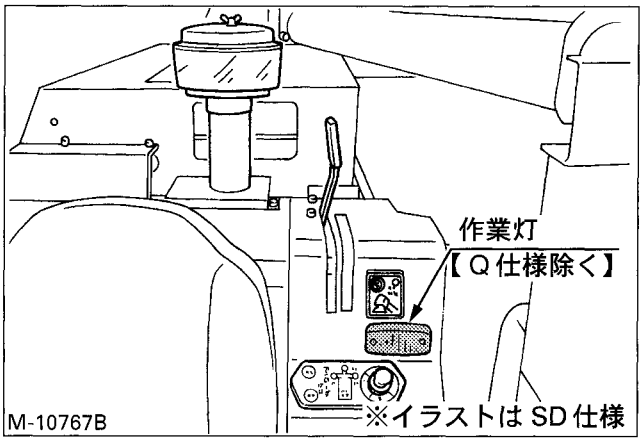
■ランプ（電球）の点検・交換

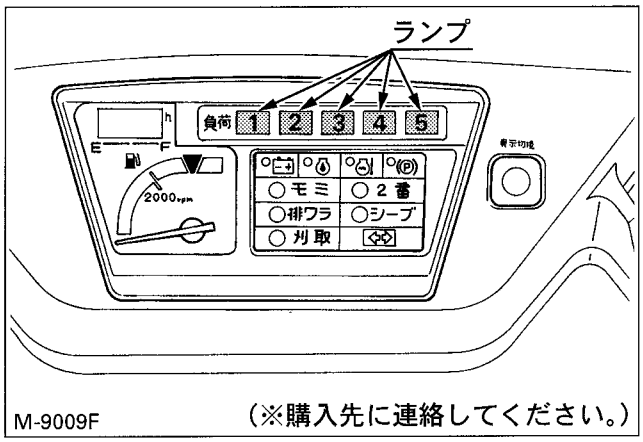
■ホーンスイッチの点検

ランプ(電球)切れがないか点検し，切れているときは交換してください。また，ホーンスイッチを押して点検し，鳴らないときは，配線やヒューズを確認してください。

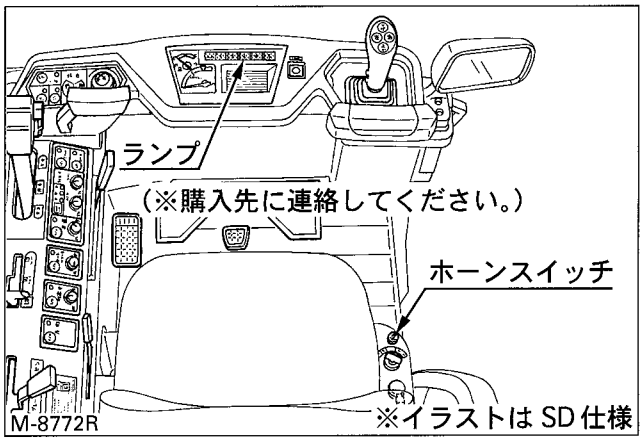








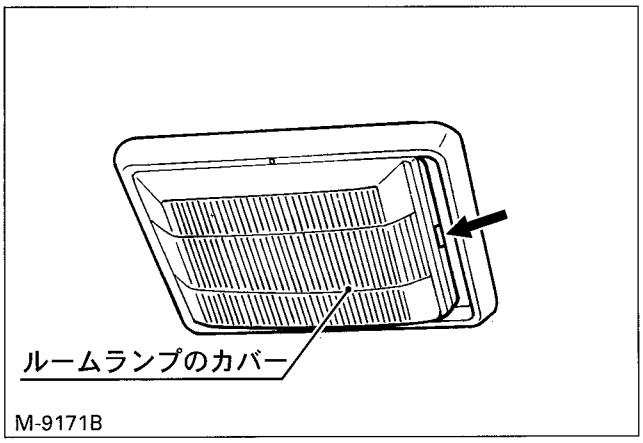
M-9009F （※購入先に連絡してください。）



M-8772R

●ルームランプ【Q仕様】

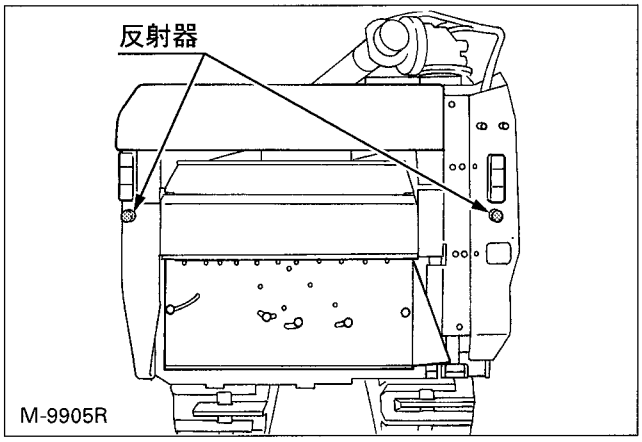
カバーを➡の凹部にマイナスドライバなどの先端部を差込み，下方向に押して取外して，電球を交換してください。



M-9171B

■反射器の点検・交換

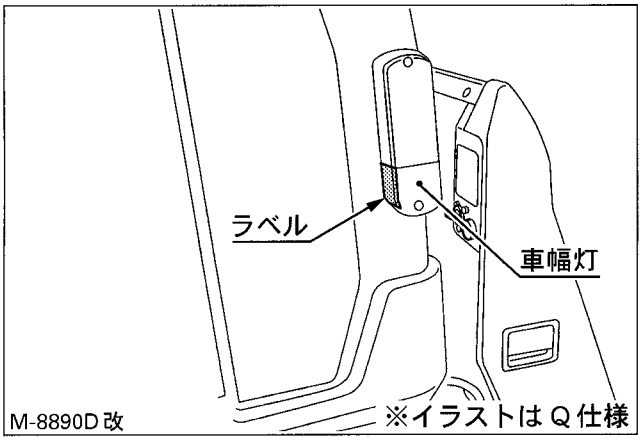
汚れや破損がないか点検し，掃除又は，交換を行なってください。



M-9905R

■車幅灯ラベルの点検・交換

前側の車幅灯(２箇所)の後部に貼っている黒いラベルを点検し，破損しているときは，交換してください。



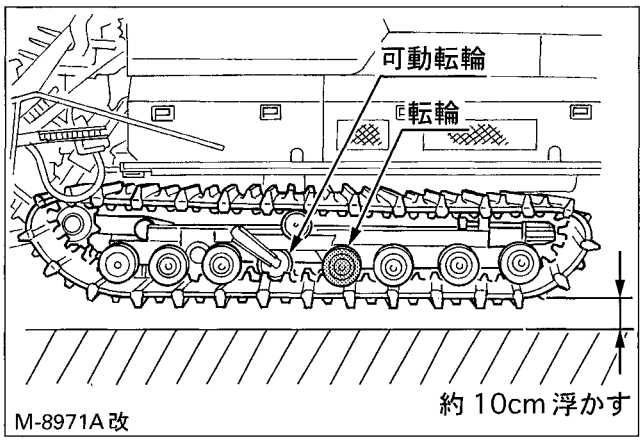
M-8890D改

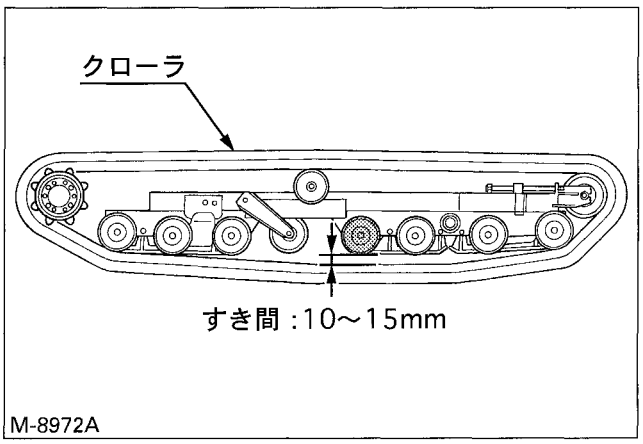
■クローラの点検・調整

注 意

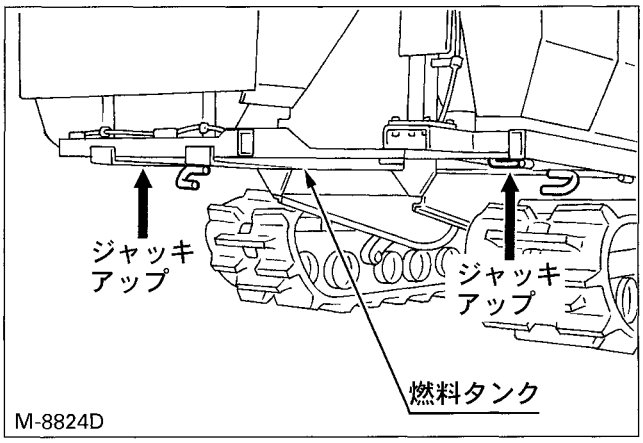
＊平たんな場所でエンジンを必ず止めて行なってください。
＊ジャッキアップを行なうときは，所定の場所でバランスのとれた位置にして作業してください。
＊機体にセットする木材やブロックなどは，じゅうぶんな強度があるもので，セットするときは機体から外れないように注意しながら行なってください。

地面からクローラを約10cm浮かした状態で，車体水平制御を最下降位置にし，クローラ下側上面と可動転輪のすぐ後の転輪下端のすき間を10～15㎜に調整してください。また，調整は片側ずつ行なってください。





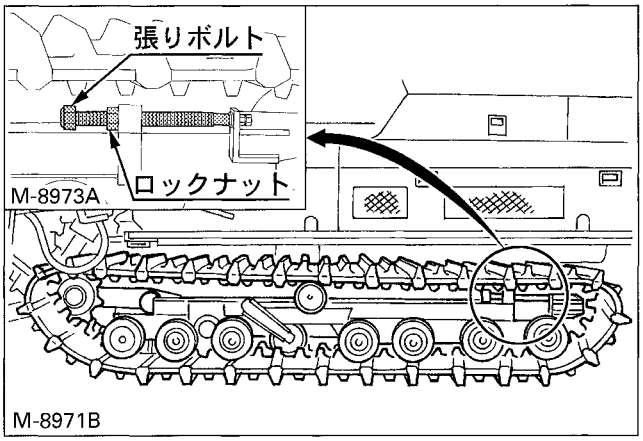
❶機体フレームの下図位置をジャッキアップし，クローラを地面から10cm程度浮かせます。



重 要

＊燃料タンクにジャッキを当てないでください。破損し燃料漏れを起こすおそれがあります。

❷クローラ後部にある張りボルトのロックナットをゆるめます。
❸張りボルトでクローラを張りながら，すき間の調整を行ないます。



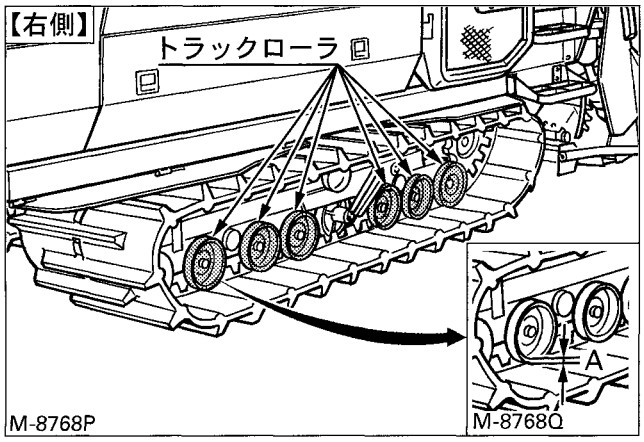
❹左，右両方共に行ない調整後は，回り止めのロックナットを締付けます。
❺ジャッキ及びブロックや木材を取外します。

重 要

＊クローラを張り過ぎるとクローラや車軸の折損の原因になります。
＊クローラがゆるみ過ぎると脱輪したりスプロケット及び芯金が早期に摩耗することがあります。初期伸びがあるため初期20時間目に点検してください。

■トラックローラ（転輪）の点検

トラックローラの下図A寸法が，2mm以下になったとき又は，使用時間が800時間経過したときの早いほうで交換してください。



補　足

＊購入先に連絡して交換してください。

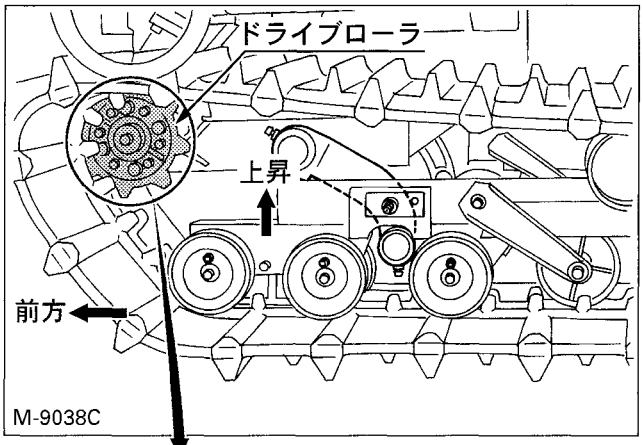
■ドライブローラの交換

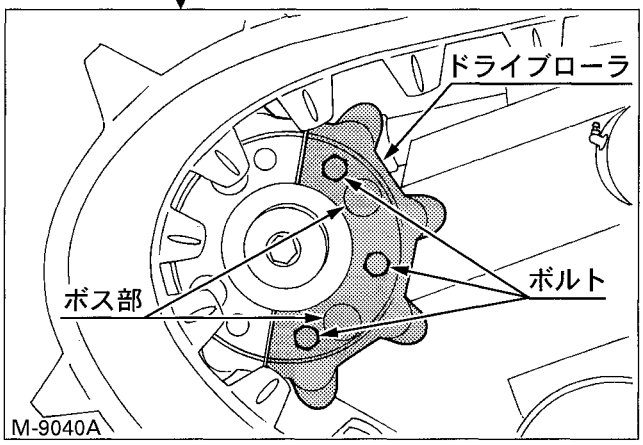
注　意

＊平たんな場所で交換時は，エンジンを必ず止めて行なってください。

❶エンジンを始動し，水平操作レバーを操作して機体を**最上昇**位置にします。

❷刈取部を上げ，2分割式ドライブローラの位置が下図の位置になるように機体を前進させます。





❸刈取部を降してエンジンを停止します。

❹クローラに接触していない側のドライブローラのボルト3本を外して，ドライブローラを外します。

❺ボス部側面に泥など異物が付着しているときは，異物を取除きます。

❻外したところに新しいドライブローラをボルト3本で取付けます。

重　要

＊ボルトにはネジロック（スリーボンド#1234B又は，1305）を塗布し，締付トルクは1600kgf･cmのトルクレンチで締付けてください。また，1600kgf･cmを締付けるトルクレンチがないときの交換は，購入先又は，整備工場で行なってください。

＊ドライブローラの左側と右側を同時に交換してください。締付けトルクが不足（締付不足）すると，ボルトやドライブローラの脱落の原因となります。

❼同じ要領でもう片側のドライブローラを交換します。

刈取作業後の手入れ

刈取作業が終わったあとは，機械の点検・整備を怠らず翌日又は，翌年の刈取作業に備えてください。

■毎日の作業後

注　意

＊機体に本機カバーをかけるときは，エンジン・マフラが冷えてからかけてください。停止直後にカバーをかけると火災のおそれがあります。

❶平たんな場所にコンバインを停めます。
❷機体各部のわらくずを取除いたあと，必要なときは各部に注油を行ないます。（117ページ参照）
❸アンローダを収納します。
❹刈取部を地面に接地させます。
❺メインスイッチのスイッチキーを抜取ります。
❻キャビン仕様はバックミラーを収納します。
❼本機カバーをかけます。

■長期格納時

刈取のシーズンが終了して翌年まで長期間使用しないとき，格納する前の各部の点検・整備を念入りに行なってください。

◆各部の掃除・注油と補修

機体を平たんな場所に停めて下記事項を行なってください。

- 各部に付着した泥などの汚れをきれいに水洗いし，乾いた布で水分をふき取ってください。
- 各回転部分や切刃部・ベルト・チェーンなどに巻付いた雑草やわらくずを，完全に取除いてください。

重　要

＊機体を洗う場合は，電装部品に水がかからないようにしてください。
＊作業シーズン終了後及び長期格納する前には，メンテナンスの**“給・注油(水)一覧表”**を参照して，各部の給・注油(水)を行なってください。

補　足

＊各部にもみやわらくずが残っていると，ネズミの巣になったり，配線部をかじられて，故障の原因となるのできれいに取除いてください。
＊各チェーン，各回転部分や摩擦しゅう動部分には，さびが発生しないようにじゅうぶん注油してください。
＊塗料のはがれた所には補修塗料を塗って，さびが発生しないようにしてください。

◆ラジエータ冷却水

ラジエータ冷却水は冬期のエンジン凍結割れを防止するため，排水又は，不凍液（ロングライフクーラント）を清水に混ぜた冷却水を入れておいてください。

●排水しておくとき

❶ラジエータ及びリザーブタンクの冷却水を排水します。(140ページ参照)
❷ラジエータキャップに**水なし**と書いた札を掛けておいてください。

●不凍液を入れておくとき

冷却水の補給・交換を行なって，ラジエータ及びリザーブタンクには，不凍液の混ざった適正な混合比の冷却水を規定量入れておきます。(140ページ参照)

重　要

＊冷却水には，不凍液（ロングライフクーラント）を適正量入れ（混合比は最高でも50%以下），よく水と混ぜ合せてからお使いください。
（ラジエータ容量……7.9L）
＊不凍液の混合比を誤ると，冬期には冷却水の凍結，夏期にはエンジンの故障やラジエータの破損の原因になります。
＊不凍液を使用する場合は，ラジエータ保浄剤を投入しないでください。不凍液には防錆剤が入っていますので，保浄剤を混入するとエンジン部品に悪影響を与えます。
＊クボタ不凍液（ロングライフクーラント）の有効使用期間は2年間です。必ず２年で交換してください。

◆バッテリ

危　険

＊保管や持運びの際にバッテリに火気を近付けたり，ショートさせると爆発の危険がありますので注意してください。

注　意

＊バッテリを点検するときには，エンジンを停止し，メインスイッチを“切”にしてください。

長期間使用しない場合は，できるだけバッテリを機体から取外してください。また，以下の点に注意して保管してください。

- 保管前に点検し，必要に応じて補充電を行なってください。（バッテリ液補水タイプは，補水してから補充電を行なってください。）
- バッテリは保管中でも自己放電するので夏は１カ月，冬は２カ月に１回それぞれ点検し，必要に応じて補充電を行なってください。
- 次のような場所に保管してください。

(1)直射日光が当らない（温度が低く変化の少ない）乾燥している場所
(2)雨露が少なく，水没のおそれがない場所
(3)バッテリの有害なガスや液，粉じんの発生が起こらない場所

機体に取付けている場合は，⊖側のケーブルを必ず取外してください。

◆各レバー・その他

重　要

＊サイドシュートやリヤシュートをロープで押さえないでください。変形するおそれがあります。
＊刈取部を地面に降ろしたとき，刈取部の下に物が置かれているとトラブルの原因となります。

点検・整備が終わったあと，納屋などに停めておくときは地面に物を置いていないことを確認して刈取部を地面に接地させて，下記事項を行なってください。

- デバイダカバーを取付けたあと，分草かんを収納します。
- アンローダ受けを下げてアンローダを収納します。
- アクセルレバーをいっぱい戻して（“🐢”位置）止めておいてください。
- 駐車ブレーキを掛けます。
- 脱こく・刈取クラッチレバーは“切”位置にしておいてください。
- 車体水平制御は，機体いっぱいまで下げてください。
- メインスイッチのスイッチキーは，必ず抜取って保管してください。
- 本機カバーをかけます。

コンバインの不調と処置

次のようなトラブルが起こったら！

ページ

わらが詰まる 197

もみが詰まる 199

その他 200

わらが詰まる

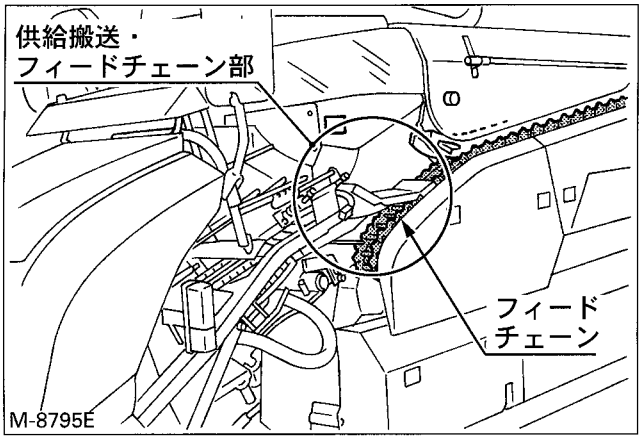
注　意

＊必ずエンジンを停止してから行なってください。

◆自動エンジン停止装置がはたらいたとき

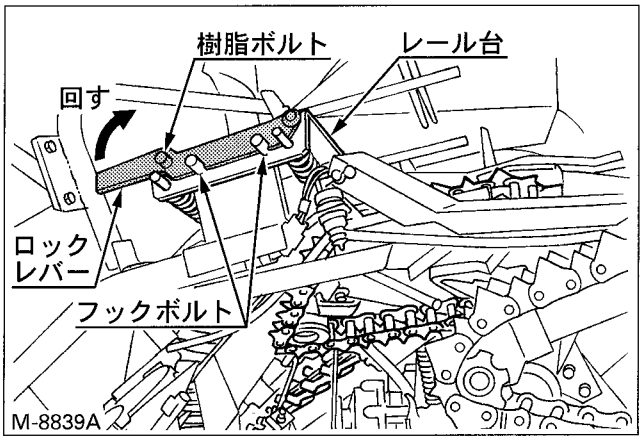
◖ 供給搬送・フィードチェーン部

(1)自動エンジン停止装置がはたらき，【DX仕様】はメータユニットの刈取ランプが点灯，【HD・SD仕様】は液晶ディスプレイに刈取 ⟷ 詰まりを取り除く と表示したときには，掃除してください。



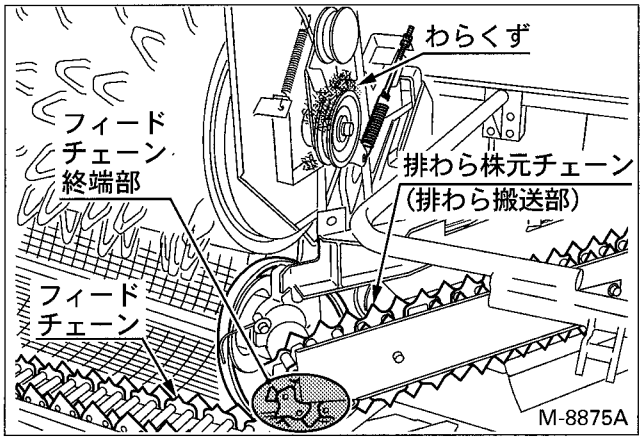
(2)供給搬送部のチェーンにわらが詰まったときは，わら詰まりのロックレバーを解除して，わらを取除いてください。

❶こぎ胴のロックハンドル前・後を上げて，こぎ胴を少し開きます。
❷樹脂ボルトを取外します。
❸ロックレバーを上側に回したあと，レール台を手前に引きながら上側に上げて取外します。
❹わらを取除きます。
❺レール台をレール台受けに取付けたあと，ロックレバーを回してフックボルトの溝に引掛けてロック状態にし，樹脂ボルトを締付けます。
❻こぎ胴を閉じてロックします。



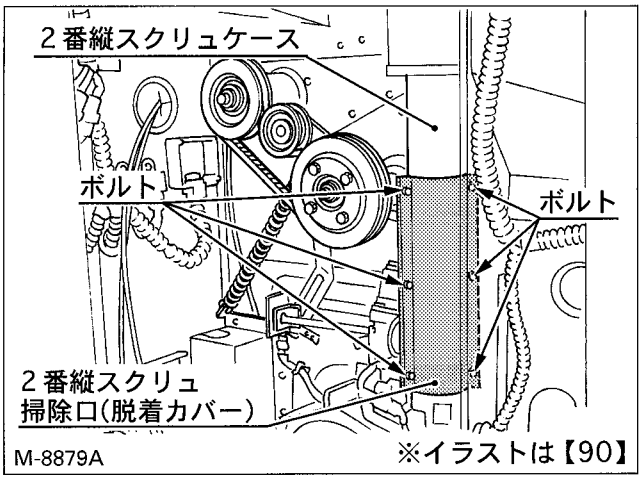
● フィードチェーン終端部・排わら搬送部

自動エンジン停止装置がはたらき，【DX仕様】はメータユニットの排ワラランプが点灯，【HD・SD仕様】は液晶ディスプレイに 排ワラ ⟷ 詰まりを取り除く と表示したときには，掃除してください。



● 2番縦スクリュ掃除口

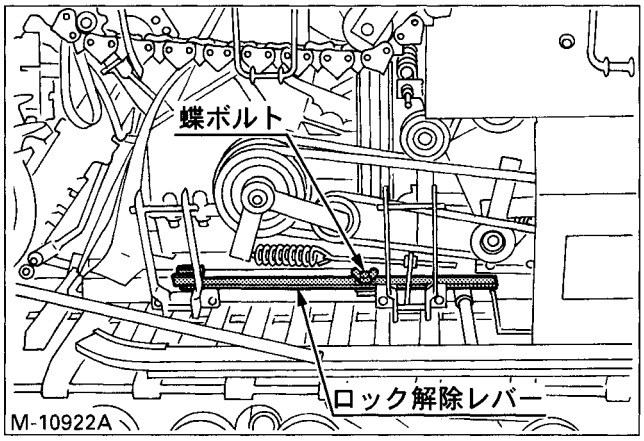
【DX仕様】はメータユニットの2番ランプが点灯，【HD・SD仕様】は液晶ディスプレイに 2番 ⟷ 詰まりを取り除く と表示したときには，縦スクリュ掃除口のボルト6本を取外して脱着カバーを外してください。



●こぎ胴ロック解除レバーの取扱いについて

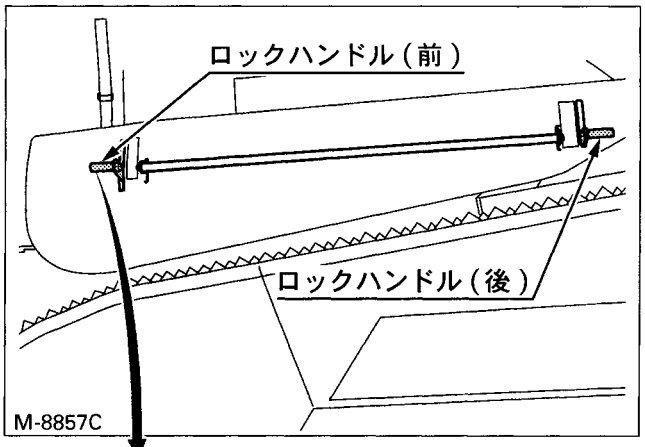
作物がこぎ胴で詰まり，ロックハンドル前・後を解除するのが困難（固い）な場合は，機体に装備しているロック解除レバーを使用して解除してください。

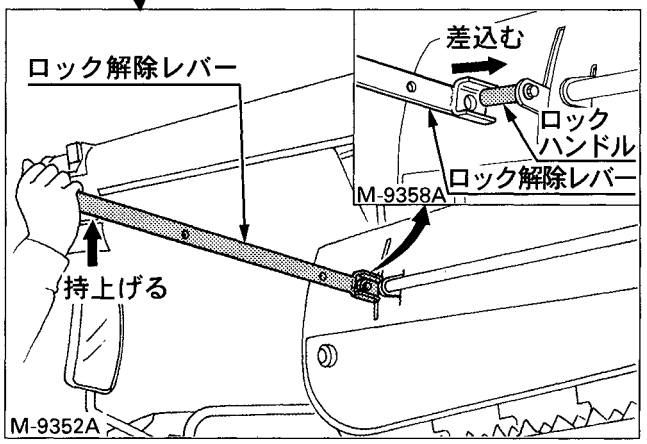
❶左サイドカバー下１を外したあと，蝶ボルト２個を取外してロック解除レバーを外します。



❷ロックハンドル前又は，後にロック解除レバーの取付方向に注意しながらレバーを差込みます。

❸ロック解除レバーを持上げてロックハンドルのロックを解除します。（前・後共解除します。）





❹こぎ胴をオープンして詰まったわらを取除いたあと，こぎ胴を閉じます。

❺ロック解除レバーを元の位置に蝶ボルトで固定したあと，左サイドカバー下１を取付けます。

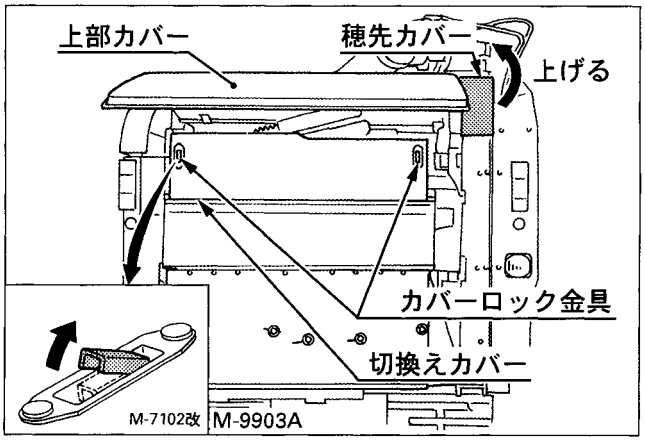
●カッタ部・排わらチェーン部

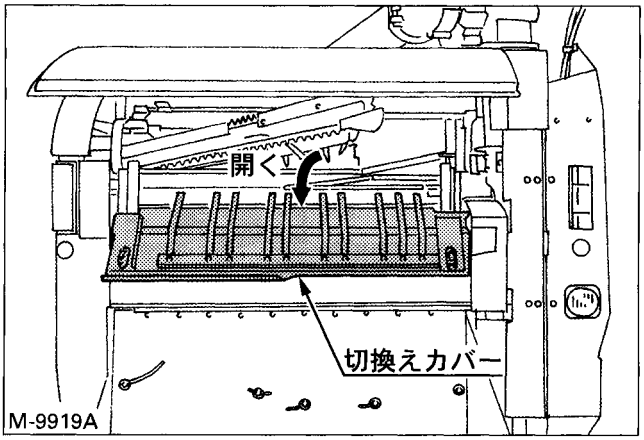
自動エンジン停止装置がはたらき，【DX仕様】はメータユニットの排ワラランプが点灯，【HD・SD仕様】は液晶ディスプレイに カッタ ⟷ 詰まりを取り除く と表示したときには，次の手順で掃除してください。

❶切換えカバーを開きます。

❷上部カバーを上げて，穂先カバーを上に開きます。。

❸カバーロック金具を引き，切換えカバーを後方へ倒します。





補　足

＊必要に応じて，このあとカッタオープンして掃除を行なってください。

＊切換えカバーを開けたままでは，エンジンをかけても脱こく・刈取クラッチレバーを“入”位置にするとエンジンが止まります。点検・掃除後は，必ずカバーロック金具を引きながら切換えカバーを閉め，カバーロック金具を確実にロックしてください。

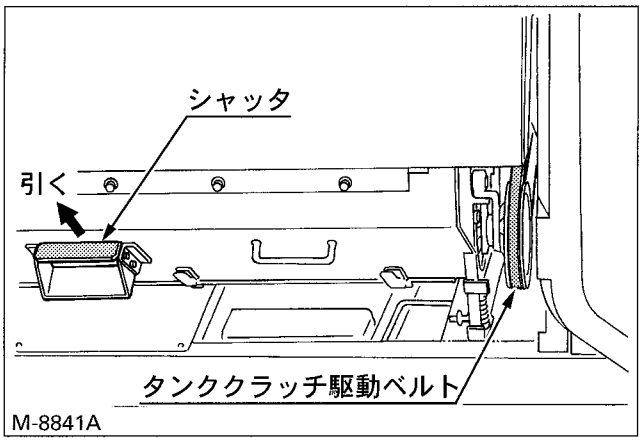
もみが詰まる

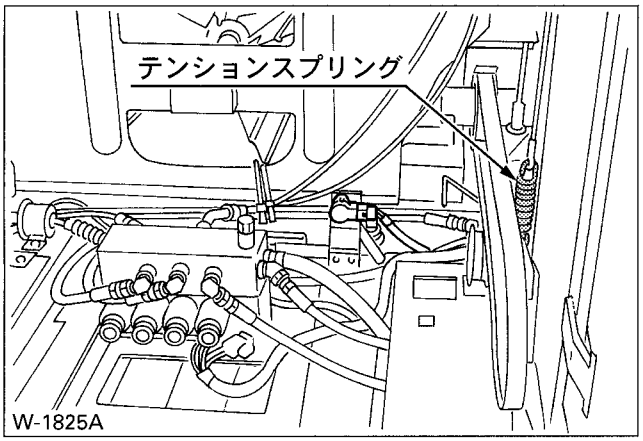
◆アンローダからもみが排出されないとき

下記事項を点検し，もみ排出クラッチレバーを**“切”**位置にしたあと，エンジンを必ず止めてから処置してください。

(1)異物がかみ込んでいるときは，アンローダの各掃除口を点検（116ページ参照）し，異物があれば取除きます。

(2)タンク駆動ベルトがスリップしているときは，シャッタを引きもみを排出したあと，グレンタンクをオープン（110ページ参照）し，タンククラッチ駆動ベルトのテンションスプリングの調整（151，162ページ参照）をします。調整を行なってもスリップが止まらないときは，ベルト交換を行なってください。

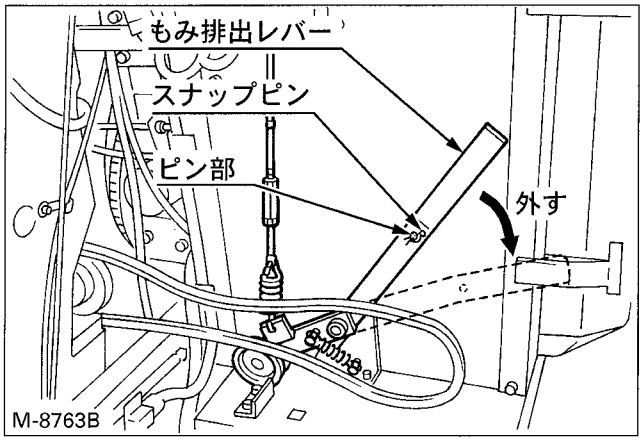




【HD・SD仕様】

(3)もみ排出スイッチを押しても，もみを排出しないときは，もみ排出レバーを押して排出してください。

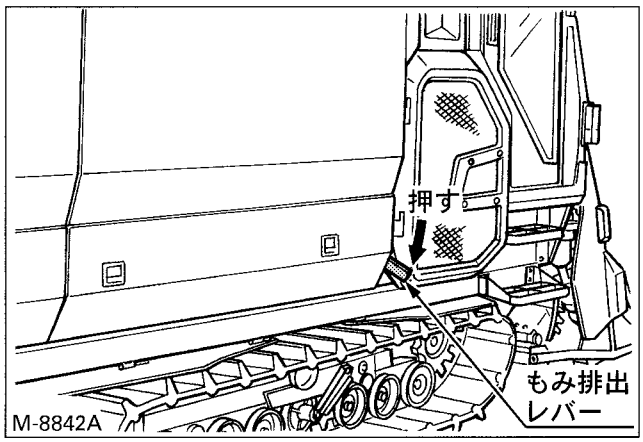
1. エンジンを停止します。
2. グレンタンクと防じんカバーのすき間から手を入れて，もみ排出レバーを固定しているピン部のスナップピンを取外したあと，もみ排出レバーをピン部から外します。



補　足

＊取外したスナップピンは，失くさないようにピン部に差込んでおいてください。

3. エンジンを始動したあと，エンジン回転を調整します。
4. もみ排出レバーを押してもみを排出します。



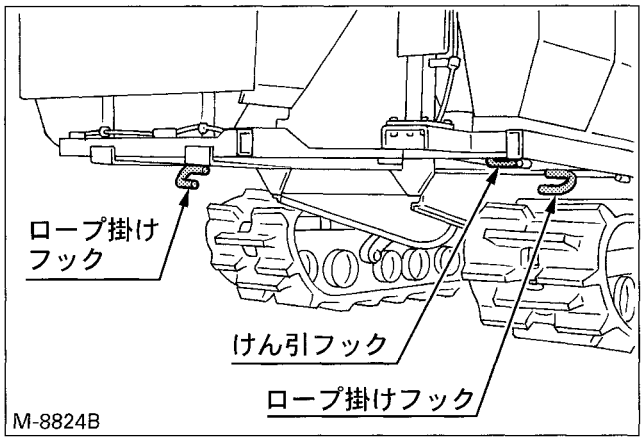
5. ヒューズや配線を点検し，もみ排出スイッチがはたらかない原因を調べ処置します。

補　足

＊処置しても直らないときは，購入先に連絡してください。

◆けん引フックについて

コンバインが自力で動けずけん引作業を必要とする場合は，機体の右側後方のけん引フックを使用してください。このときにロープ掛け用フックは，けん引作業には使用しないでください。

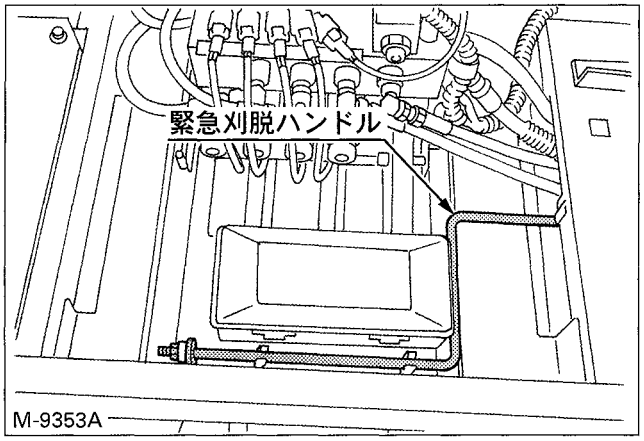


重　要

＊自重より重い車両のけん引作業は避けてください。

◆緊急刈脱ハンドルについて【HD・SD仕様】

グレンタンクをオープンしたとき，工具箱横にあるレバーは，エアロナビに**クラッチセンサ異常**又は，**クラッチ作動異常**と表示すると同時に刈取・脱こくクラッチレバーが操作できなくなったときに使用する緊急用のハンドルです。（刈取・脱こくクラッチレバーが操作できなくなったときは，必ず購入先に直ちに連絡してください。）



付　表

主要諸元

農機型式名			クボタ　R0004				クボタ　R0003			
商品名			AR60				AR70			
区分			DXM	HDMT	SDMT	SDMTSQ	DXM	HDMT	SDMT	SDMTSQ
機体寸法	全長(mm)		4720							
	全幅(mm)		1945			2095	1945			2095
	全高(mm)		2380			2670	2380			2670
機体質量(kg)			3240	3255	3270	3420	3240	3255	3270	3420
エンジン	型式名		V3300DI-C-L1				V3300DI-C			
	類種		水冷４サイクル４気筒立形ディーゼル							
	総排気量(L{cc})		3.318{3318}							
	出力/回転速度(kW{PS}/rpm)		44.1{60}/2600				51.5{70}/2600			
	使用燃料		ディーゼル軽油							
	燃料タンク容量(L)		100							
	始動方式		セルモータ式							
	バッテリ(V・Ah)		12・95							
走行部	クローラ 中心距離(mm)		1155							
	クローラ 幅×接地長(mm)		450×1780							
	クローラ 平均接地圧(kPa{kgf/cm²})		19.8{0.20}	19.9{0.20}	20.0{0.20}	20.9{0.21}	19.8{0.20}	19.9{0.20}	20.0{0.20}	20.9{0.21}
	最低地上高(mm)		185～275							
	変速方式		油圧モータ式〔HST〕							
	変速段数		前進無段・後進無段〔副変速各３段〕							
	走行速度(m/s)〔エンジン定格回転速度時〕	前進	倒伏：0～0.95 〔副変速〕標準：0～1.45 高速：0～2.57				倒伏：0～0.98 〔副変速〕標準：0～1.56 高速：0～2.89			
		後進								
	旋回方式		ブレーキターン	ブレーキ・スピン・ソフトターン			ブレーキターン	ブレーキ・スピン・ソフトターン		
刈取部	刈取条数(条)		5							
	刈幅[デバイダ先端間隔](mm)		1720～1770							
	刈取装置形式		往復動刃式〔ツイン刈刃〕							
	刃幅(mm)		1690							
	変速段数(段)		走行副変速同調２段＋引起し３段							
	刈高さ範囲(mm)		35～150							
	こぎ深さ調節方式		電動モータ式							
脱こく部	脱こく方式		下こぎ・単胴・軸流式							
	こぎ胴	径×幅(mm)	424×1100							
		回転速度(rpm)	505							
	処理胴(1)	径×幅(mm)	240×100〔２番処理胴〕							
		回転速度(rpm)	1245							
	処理胴(2)	径×幅(mm)	140×800〔拡散胴〕							
		回転速度(rpm)	563							
	２番還元方式		スクリュ式							
	揺動板	幅×長さ(mm)	800×1700							
	選別方式		揺動・圧風・全幅吸引							

＊この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

農機型式名			クボタ　R0004				クボタ　R0003			
商品名			AR60				AR70			
区分			DXM	HDMT	SDMT	SDMTSQ	DXM	HDMT	SDMT	SDMTSQ
こく粒処理部	タンク容量(L{袋})		1550{約31袋}〔1袋約50L〕							
	排出方式		スクリュコンベア式							
	旋回範囲(度)・旋回方式		365〔右,左〕・電動モータ							
	昇降範囲(度)・昇降方式		0〔水平〕～45・油圧							
	排出高さ〔作業時〕(mm)		2000～5100							
	排出長さ〔作業時〕(mm)		2900～4300							
わら処理部	工場出荷仕様		●カッタ　又は，●カッタ＋標準結束機 カッタ切断長さ：50/150mm切換え式〔切断刃：セラミック切断刃〕 ●シュータ式拡散装置							
	オプション		●カッタ後部標準結束機　●カッタ後部ドロッパ　●カッタ後部ストンパ結束機 ●標準結束機後部集束ドロッパ　●スクリュ式拡散装置							
諸装置	自動化装置	自動車速制御	—	○	○	○	—	○	○	○
		自動方向制御	—	△	○	○	—	△	○	○
		自動刈高さ制御	—	—	○	○	—	—	○	○
		自動こぎ深さ制御	○	○	○	○	○	○	○	○
		自動車体水平制御	○	○	○	○	○	○	○	○
		自動レール制御	—	—	○	○	—	—	○	○
		自動脱こく制御	—	○	○	○	—	○	○	○
		アンローダ自動旋回制御	○	○	○	○	○	○	○	○
		自動エンジン停止	○	○	○	○	○	○	○	○
	刈取オートクラッチ[刈取部上昇時搬送駆動停止機能]		—	○	○	○	—	○	○	○
	ポジピタ[刈取部ワンタッチ昇降機能]		—	○	○	○	—	○	○	○
	こぎ胴パワーオープン		—	○	○	○	—	○	○	○
	バイブロシャッタ		—	○	○	○	—	○	○	○
	アンローダリモコン		—	△	○	○	—	△	○	○
	パワークラッチ〔脱こく・刈取・もみ排出〕		—	○	○	○	—	○	○	○
	集中注油		○	○	○	○	○	○	○	○
	刈取防じんカバー		—	△	○	—	—	△	○	—
	キャビン		—	—	—	○	—	—	—	○
	警報装置	【HD・SD】	燃料，充電，油圧，オーバーヒート，もみ満杯，こぎ深さ，負荷，刈取詰まり，刈高さセンサ泥詰まり，2番詰まり，チャフ詰まり，排わら詰まり，エンジン停止，カッタ詰まり〔結束機わら詰まり/ひも詰まり/ひも切れ**【結束機付き仕様】**〕							
		【DX】	燃料，充電，油圧，オーバーヒート，もみ満杯，負荷，刈取詰まり，2番詰まり，排わら詰まり〔結束機わら詰まり/ひも詰まり/ひも切れ**【結束機付き仕様】**〕，チャフ詰まり，エンジン停止							
適応作物範囲〔全長〕(mm)			550～1300〔H仕様：500～1200〕							
倒伏適応性(度)			追刈り：85以下・向刈り：70以下							
作業能率〔計算値〕(a/hr{分/10a})			60～35{10～17}				67～43{9～14}			

＊この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

※諸装置について　○：標準装備　—：非装備(後付け不可)　△：オプション(後付け可)

農機型式名			クボタ　R0002				クボタ　R0001			
商品名			AR80				AR90			
区分			DXM	HDMT	SDMT	SDMTSQ	DXM	HDMT	SDMT	SDMTSQ
機体寸法	全長 (mm)		4750							
	全幅 (mm)		2070			2150	2070			2150
	全高 (mm)		2380			2670	2380			2670
機体質量 (kg)			3350	3365	3380	3530	3410	3425	3440	3590
エンジン	型式名		V3300DI-C1				V3300DIT-C			
	類種		水冷４サイクル４気筒立形ディーゼル				水冷４サイクル４気筒立形ディーゼル(ターボ)			
	総排気量 (L{cc})		3.318{3318}							
	出力／回転速度 (kW{PS}/rpm)		59 {80} / 2600				66.2 {90} / 2600			
	使用燃料		ディーゼル軽油							
	燃料タンク容量 (L)		100							
	始動方式		セルモータ式							
	バッテリ (V・Ah)		12・95							
走行部	クローラ	中心距離 (mm)	1155				1205			
		幅×接地長 (mm)	500×1780				550×1780			
		平均接地圧 (kPa{kgf/cm²})	18.5 {0.19}	18.5 {0.19}	18.6 {0.19}	19.4 {0.20}	17.1 {0.17}	17.2 {0.17}	17.2 {0.18}	18.0 {0.18}
	最低地上高 (mm)		185～275							
	変速方式		油圧モータ式〔HST〕							
	変速段数		前進無段・後進無段〔副変速各３段〕							
	走行速度(m/s) 〔エンジン定格回転速度時〕	前進	〔副変速〕 倒伏：0～0.95 標準：0～1.45 高速：0～2.57				〔副変速〕 倒伏：0～0.98 標準：0～1.56 高速：0～2.89			
		後進								
	旋回方式		ブレーキターン	ブレーキ・スピン・ソフトターン			ブレーキターン	ブレーキ・スピン・ソフトターン		
刈取部	刈取条数 (条)		6							
	刈幅[デバイダ先端間隔](mm)		1975～2030							
	刈取装置形式		往復動刃式〔ツイン刈刃〕							
	刃幅 (mm)		1940							
	変速段数 (段)		走行副変速同調２段＋引起し３段							
	刈高さ範囲 (mm)		35～150							
	こぎ深さ調節方式		電動モータ式							
脱こく部	脱こく方式		下こぎ・単胴・軸流式							
	こぎ胴	径×幅(mm)	424×1100							
		回転速度(rpm)	505							
	処理胴(１)	径×幅(mm)	240×100〔２番処理胴〕							
		回転速度(rpm)	1245							
	処理胴(２)	径×幅(mm)	140×800〔拡散胴〕							
		回転速度(rpm)	563							
	２番還元方式		スクリュ式							
	揺動板	幅×長さ(mm)	800×1700							
	選別方式		揺動・圧風・全幅吸引							

＊この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

農機型式名			クボタ　R0002				クボタ　R0001			
商品名			AR80				AR90			
区分			DXM	HDMT	SDMT	SDMTSQ	DXM	HDMT	SDMT	SDMTSQ
こく粒処理部	タンク容量(L{袋})		1900{約38袋}〔1袋約50L〕							
	排出方式		スクリュコンベア式							
	旋回範囲(度)・旋回方式		365〔右,左〕・電動モータ							
	昇降範囲(度)・昇降方式		0〔水平〕～45・油圧							
	排出高さ〔作業時〕(mm)		2000～5100							
	排出長さ〔作業時〕(mm)		2900～4300							
わら処理部	工場出荷仕様		●カッタ　又は，●カッタ＋標準結束機 カッタ切断長さ：50/150mm切換え式〔切断刃：セラミック切断刃〕 ●シュータ式拡散装置							
	オプション		●カッタ後部標準結束機　●カッタ後部ドロッパ　●カッタ後部ストンパ結束機 ●標準結束機後部集束ドロッパ　●スクリュ式拡散装置							
装置	自動化装置	自動車速制御	—	○	○	○	—	○	○	○
		自動方向制御	—	△	○	○	—	△	○	○
		自動刈高さ制御	—	—	○	○	—	—	○	○
		自動こぎ深さ制御	○	○	○	○	○	○	○	○
		自動車体水平制御	○	○	○	○	○	○	○	○
		自動レール制御	—	—	○	○	—	—	○	○
		自動脱こく制御	—	○	○	○	—	○	○	○
		アンローダ自動旋回制御	○	○	○	○	○	○	○	○
		自動エンジン停止	○	○	○	○	○	○	○	○
		エンジン正逆転ファン制御	—	—	—	—	○	○	○	○
	刈取オートクラッチ[刈取部上昇時搬送駆動停止機能]		—	○	○	○	—	○	○	○
	ポジピタ[刈取部ワンタッチ昇降機能]		—	○	○	○	—	○	○	○
	こぎ胴パワーオープン		—	○	○	○	—	○	○	○
	グレンタンク張出し開閉		○	○	○	○	○	○	○	○
	バイブロシャッタ		—	○	○	○	—	○	○	○
	アンローダリモコン		—	△	○	○	—	△	○	○
	パワークラッチ〔脱こく・刈取・もみ排出〕		—	○	○	○	—	○	○	○
	集中注油		○	○	○	○	○	○	○	○
	刈取防じんカバー		—	△	○	—	—	△	○	—
	キャビン		—	—	—	○	—	—	—	○
	警報装置	【HD・SD】	燃料，充電，油圧，オーバーヒート，もみ満杯，こぎ深さ，負荷，刈取詰まり，刈高さセンサ泥詰まり，2番詰まり，チャフ詰まり，排わら詰まり，エンジン停止，カッタ詰まり〔結束機わら詰まり/ひも詰まり/ひも切れ**【結束機付き仕様】**〕							
		【DX】	燃料，充電，油圧，オーバーヒート，もみ満杯，負荷，刈取詰まり，2番詰まり，排わら詰まり〔結束機わら詰まり/ひも詰まり/ひも切れ**【結束機付き仕様】**〕，チャフ詰まり，エンジン停止							
適応作物範囲〔全長〕(mm)			550～1300〔H仕様：500～1200〕							
倒伏適応性(度)			追刈り：85以下・向刈り：70以下							
作業能率〔計算値〕{a/hr{分/10a}}			75～50{8～12}				86～60{7～10}			

＊この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

※諸装置について　○：標準装備　—：非装備(後付け不可)　△：オプション(後付け可)

農機型式名			クボタ　R0302			
商品名			AR98			
区分			HDMT	HDMTSQ	SDMT	SDMTSQ
機体寸法	全長 (mm)		4780			
	全幅 (mm)		2070	2150	2070	2150
	全高 (mm)		2380	2670	2380	2670
機体質量 (kg)			3525	3675	3540	3690
エンジン	型式名		V3800DI-TE2-C			
	類種		水冷４サイクル４気筒立形ディーゼル(ターボ)			
	総排気量 (L{cc})		3.769{3769}			
	出力/回転速度 (kW{PS}/rpm)		72.1 {98.0} / 2600			
	使用燃料		ディーゼル軽油			
	燃料タンク容量 (L)		100			
	始動方式		セルモータ式			
	バッテリ (V・Ah)		12・95			
走行部	クローラ 中心距離 (mm)		1205			
	クローラ 幅×接地長 (mm)		550×1780			
	クローラ 平均接地圧 (kPa{kgf/cm²})		17.7 {0.18}	18.4 {0.19}	17.7 {0.18}	18.5 {0.19}
	最低地上高 (mm)		185～275			
	変速方式		油圧モータ式〔HST〕			
	変速段数		前進無段・後進無段〔副変速各３段〕			
	走行速度(m/s) 〔エンジン定格回転速度時〕	前進	〔副変速〕 倒伏：0～1.07 標準：0～1.72 高速：0～3.19			
		後進				
	旋回方式		ブレーキ・スピン・ソフトターン			
刈取部	刈取条数 (条)		6			
	刈幅[デバイダ先端間隔](mm)		1975～2030			
	刈取装置形式		往復動刃式〔ツイン刈刃〕			
	刃幅 (mm)		1940			
	変速段数 (段)		走行副変速同調２段＋引起し３段			
	刈高さ範囲 (mm)		35～150			
	こぎ深さ調節方式		電動モータ式			
脱こく部	脱こく方式		下こぎ・単胴・軸流式			
	こぎ胴	径×幅(mm)	424×1130			
		回転速度(rpm)	519			
	処理胴(1)	径×幅(mm)	240×100〔２番処理胴〕			
		回転速度(rpm)	1237			
	処理胴(2)	径×幅(mm)	140×800〔拡散胴〕			
		回転速度(rpm)	613			
	２番還元方式		スクリュ式			
	揺動板	幅×長さ(mm)	800×1730			
	選別方式		揺動・圧風・全幅吸引			

＊この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

農機型式名			クボタ　R0302			
商品名			AR98			
区分			HDMT	HDMTSQ	SDMT	SDMTSQ
こく粒処理部	タンク容量(L{袋})		1900{約38袋}〔1袋約50L〕			
	排出方式		スクリュコンベア式			
	旋回範囲(度)・旋回方式		365〔右,左〕・電動モータ			
	昇降範囲(度)・昇降方式		0〔水平〕～45・油圧			
	排出高さ〔作業時〕(mm)		2000～5100			
	排出長さ〔作業時〕(mm)		2900～4300			
わら処理部	工場出荷仕様		●カッタ　又は，●カッタ＋標準結束機 カッタ切断長さ：50/150mm切換え式〔切断刃：セラミック切断刃〕 ●シュータ式拡散装置			
	オプション		●カッタ後部標準結束機　●カッタ後部ドロッパ　●カッタ後部ストンパ結束機 ●標準結束機後部集束ドロッパ　●スクリュ式拡散装置			
諸装置	自動化装置	自動車速制御	○	○	○	○
		自動方向制御	△	△	○	○
		自動刈高さ制御	—	—	○	○
		自動こぎ深さ制御	○	○	○	○
		自動車体水平制御	○	○	○	○
		自動レール制御	—	—	○	○
		自動脱こく制御	○	○	○	○
		アンローダ自動旋回制御	○	○	○	○
		自動エンジン停止	○	○	○	○
		エンジン正逆転ファン制御	○	○	○	○
	刈取オートクラッチ[刈取部上昇時搬送駆動停止機能]		○	○	○	○
	ポジピタ[刈取部ワンタッチ昇降機能]		○	○	○	○
	こぎ胴パワーオープン		○	○	○	○
	グレンタンク張出し開閉		○	○	○	○
	バイブロシャッタ		○	○	○	○
	アンローダリモコン		△	△	○	○
	パワークラッチ〔脱こく・刈取・もみ排出〕		○	○	○	○
	集中注油		○	○	○	○
	刈取防じんカバー		△	—	○	—
	キャビン		—	○	—	○
	警報装置		燃料，充電，油圧，オーバーヒート，もみ満杯，こぎ深さ，負荷，刈取詰まり，刈高さセンサ泥詰まり，2番詰まり，チャフ詰まり，排わら詰まり，エンジン停止，カッタ詰まり〔結束機わら詰まり/ひも詰まり/ひも切れ**【結束機付き仕様】**〕			
適応作物範囲〔全長〕(mm)			550～1300			
倒伏適応性(度)			追刈り：85以下・向刈り：70以下			
作業能率〔計算値〕(a/hr{分/10a})			96～67{6～9}			

＊この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

※諸装置について　○：標準装備　—：非装備(後付け不可)　△：オプション(後付け可)

付属部品

次の部品が付属していますのでお調べください。

＊サービスブック　1
＊取扱説明書　1
＊取扱説明書収納ビニール袋　1
＊本機カバー　1
＊ほこりよけカバー　1
＊分草ガイド　1
＊反射シート　1
＊７ボックススパナ(四角)　1
(138ページ参照)

オプション(別売品)
(純正品を使いましょう)

◆刈取部

■スイスイデバイダ

倒伏した作物を能率よく刈取りできます。

品　番	品　名	対象型式
5H623-00000	ARM70（３連）	60・70
5H624-00000	ARM70-R（右１連）	60・70
5H621-00000	ARM90（３連）	80・90・98
5H622-00000	ARM90-R（右１連）	80・90・98

■自動方向制御装置

刈取作業中に自動的に方向を修正する装置です。

品　番	品　名	対象型式
5H601-96010	センサ,アッシ（ホウコウ）	HD仕様

■刈取スタンド

刈取部を安定した状態で取外すためのスタンドです。

品　番	品　名	対象型式
5H601-87100	スタンド,アッシ（カリトリ）	全型式

■刈取防じんカバー

運転席側へ飛散してくるゴミやちりを防ぐカバーです。

品　番	品　名	対象型式
5H603-95010	カバー,アッシ（ボウジン）	60・70HD仕様
5H601-95010	カバー,アッシ（ボウジン）	80・90・98HD仕様

◆脱こく部

■キャノピ

グレンタンク装置型の雨よけ，日よけです。

品　番	品　名	対象型式
5H625-00000	CP-90　キャノピ	全型式

■種子用交換部品

品　番	品　名	対象型式
5K190-91300	交換部品,アッシ（シュシヨウ）	全型式

◆こく粒処理部

■アンローダリモコン

アンローダの昇降，旋回やもみの排出の操作がアンローダの先端で行なえます。

品　番	品　名	対象型式
5G200-95010	リモコン,アッシ（アンローダ）	HD仕様

■バックミラー

機体後方確認用のバックミラーです。

品　番	品　名	対象型式
5H601-92100	ミラー,キット（コウホウ）	全型式

※結束機又は，ドロッパ装着時は取付けられません。

◆排わら処理部

■カッタ後部標準結束機

品　番	品　名	対象型式
57993-00000	NK-A70SY	60・70
57940-00000	K-A98SY	80・90・98

■カッタ後部ストンパ結束機

品　番	品　名	対象型式
57976-00000	NK-A70SR	60・70
57975-00000	NK-A90SR	80・90
57945-00000	K-A98SR	98

■スクリュ式拡散装置

品　番	品　名	対象型式
57258-00000	W-61	全型式

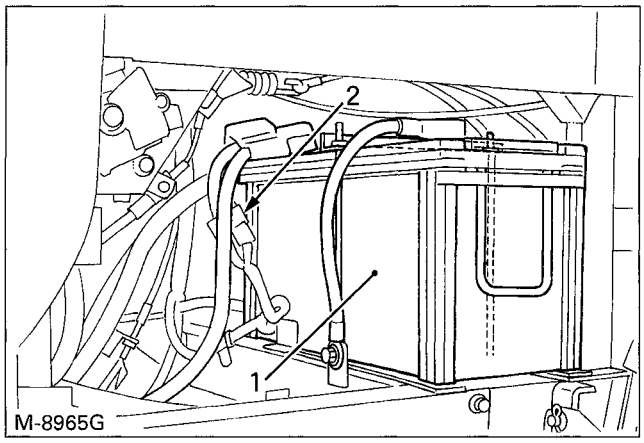
■カッタ後部ドロッパ

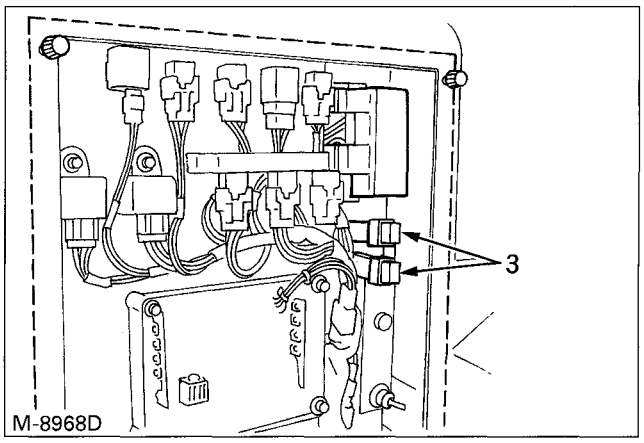
長わらのまま，一定量をきれいに集束落下させます。

品　番	品　名	対象型式
57248-00000	D-61	60・70・80・90
57269-00000	DAR98ドロッパ	98

消耗部品(純正部品を使いましょう)

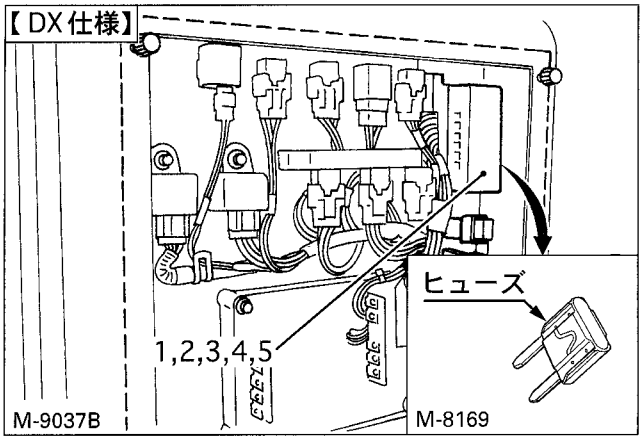
◆バッテリ・スローブローヒューズ

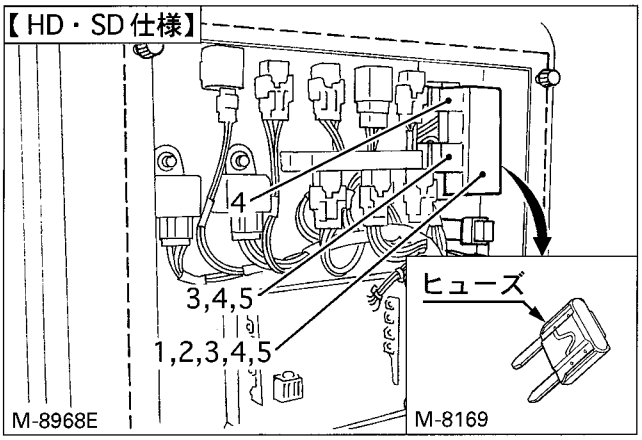


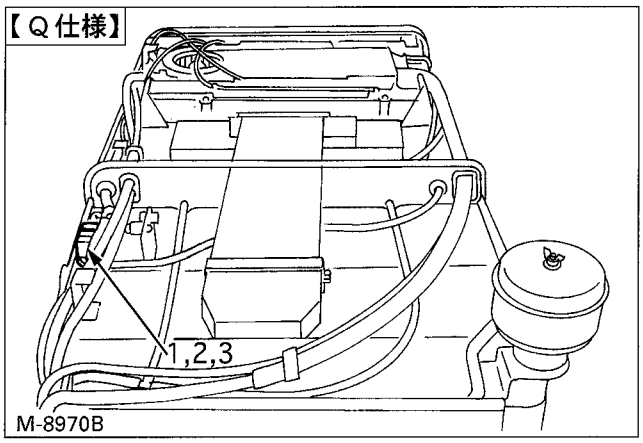


図番	品　名	品　番	対象型式
1	バッテリ(95E41R)	5H601-4111-0	全型式
2	スローブローヒューズ(65A)	33780-7555-0	
3	スローブローヒューズ(45A)	5H601-4166-0	

◆ヒューズ

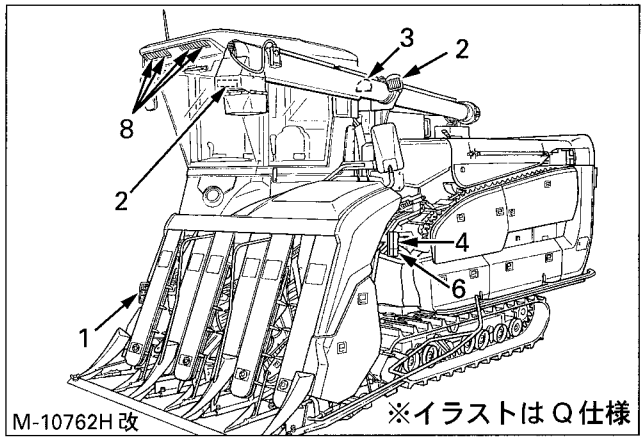


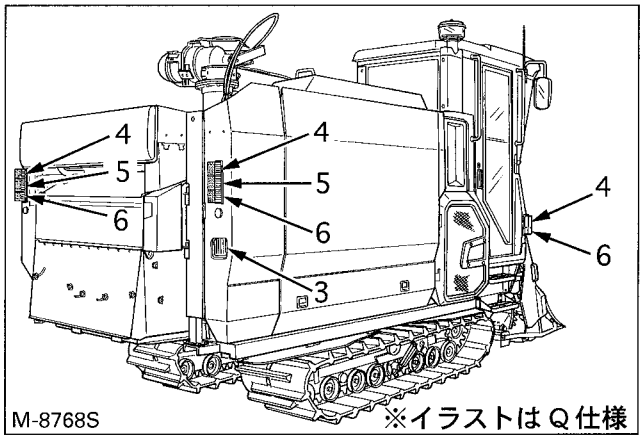


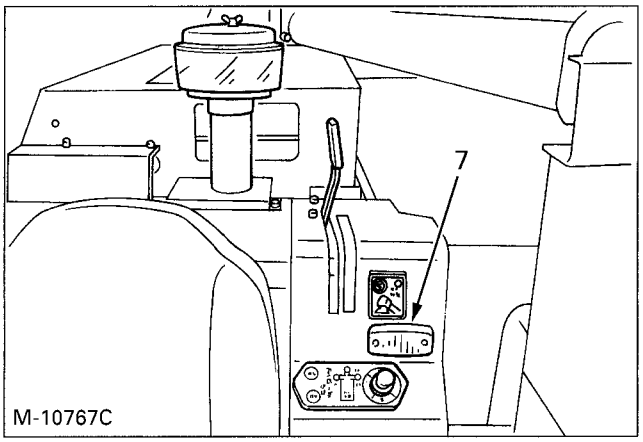


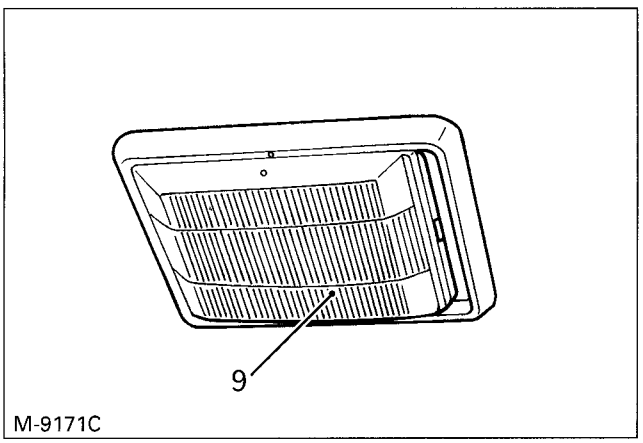
図番	品　　名	品　　番	対象型式
1	ヒューズ5A	37410-5552-0	全型式
2	ヒューズ7.5A	58622-4148-0	
3	15Aオートヒューズ	35820-7556-0	
4	20Aオートヒューズ	36919-5665-0	
5	25Aオートヒューズ	56605-4215-0	

◆ランプ(電球)



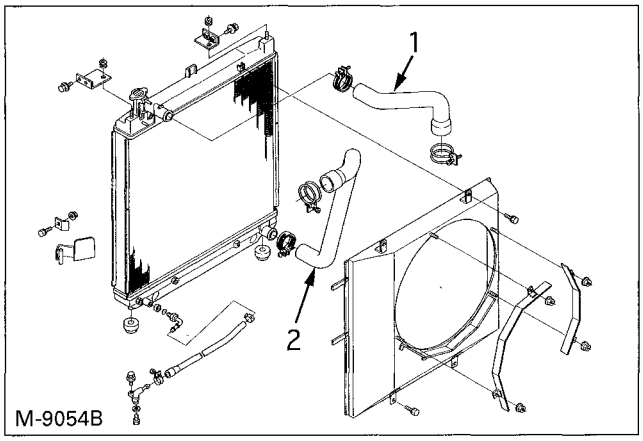






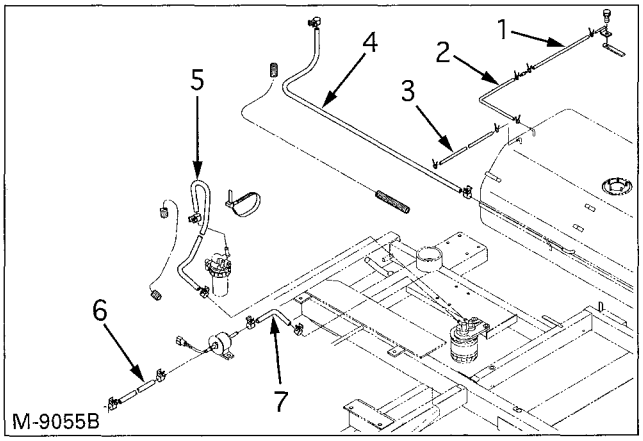
図番	品　　名	品　　番	対象型式
1	ランプバルブ(35W)	5H601-7553-0	全型式
2	ランプバルブ(12V55W)	3G710-7590-0	
3	ランプバルブ	34150-3421-2	
4	デンキュウ	38450-3421-0	
5	バルブ(12V23/8W)	31301-3437-0	
6	バルブ(12V10W)	5H601-4187-0	
7	バルブ(12V10W)	5H601-4179-0	Q仕様除く
8	ランプ，アッシ	5H690-4183-0	Q仕様
9	ルームランプ　タマ	T0180-7422-0	

◆ラジエータホース



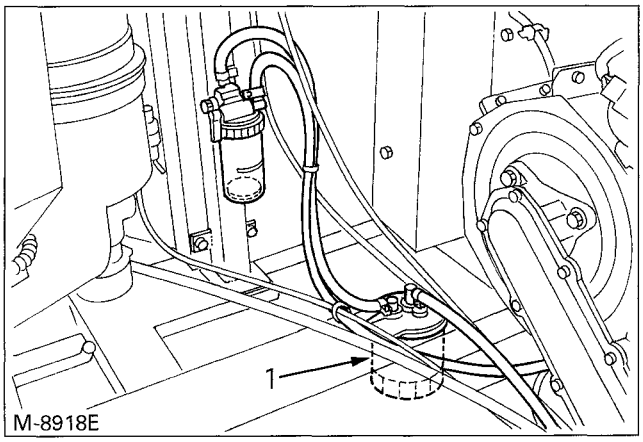
図番	品　　名	品　　番	対象型式
1	ホース(1，ウォータ)	5H601-2555-0	全型式
2	ホース(2，ウォータ)	5H601-2556-0	

◆フューエルパイプ



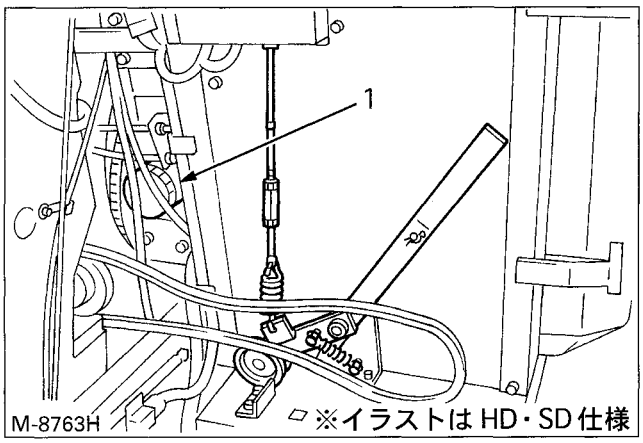
図番	品　　名	品　　番	対象型式
1	フューエルパイプ	09661-40800	全型式
2	フューエルパイプ	09661-40700	
3	フューエルパイプ	09661-42200	
4	フューエルパイプ	09661-81400	
5	フューエルチューブ	09661-80550	
6	フューエルチューブ	09661-82500	
7	フューエルチューブ	09661-80130	

◆フューエルフィルタカートリッジ



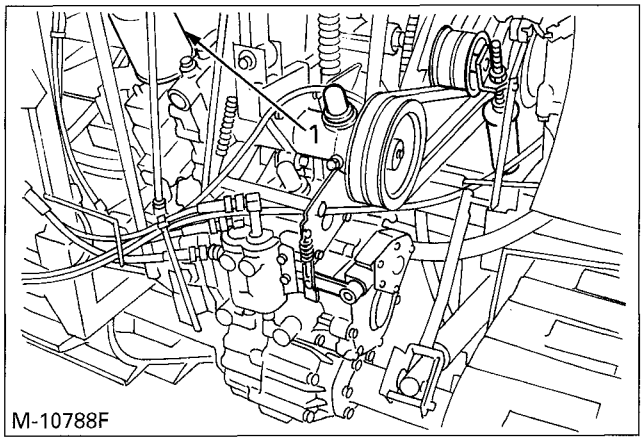
図番	品　　名	品　　番	対象型式
1	フィルタエレメント	15221-4317-0	全型式

◆エンジンオイルィルタカートリッジ



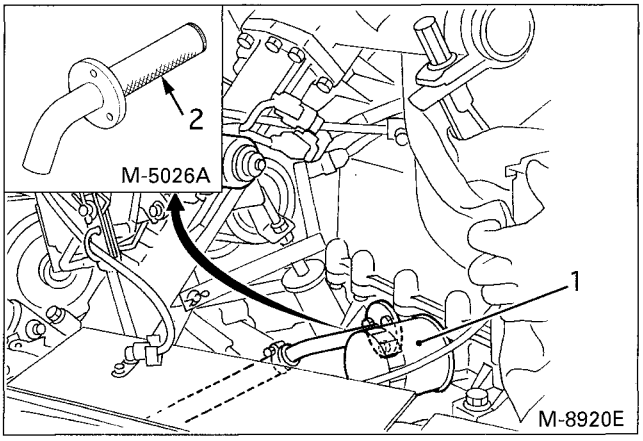
図番	品　　名	品　　番	対象型式
1	フィルタ(オイル，カートリッジ)	1C020-3243-0	全型式

◆HSTオイルフィルタカートリッジ



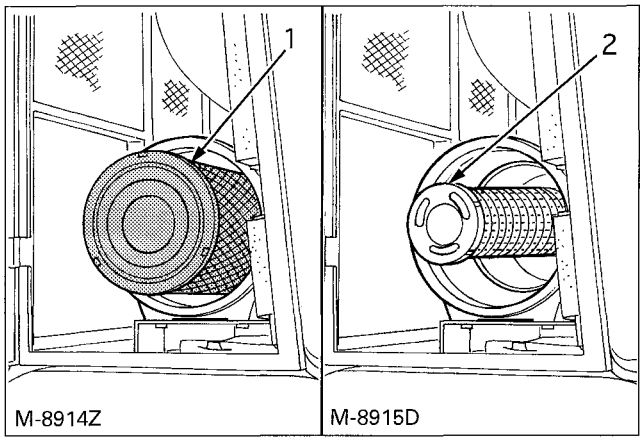
図番	品　　名	品　　番	対象型式
1	フィルタ(オイル)	32701-3795-0	全型式

◆油圧オイルフィルタカートリッジ
◆HST吸入フィルタ



図番	品　　名	品　　番	対象型式
1	フィルタ	5H601-1224-0	全型式
2	フィルタ(HSTスイコミ)	5H601-1219-0	

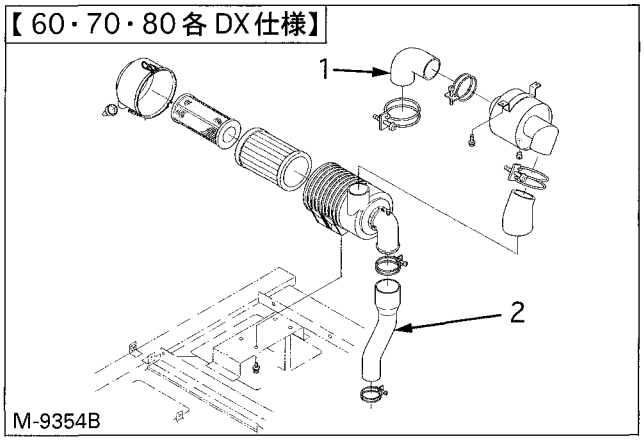
◆エアクリーナ



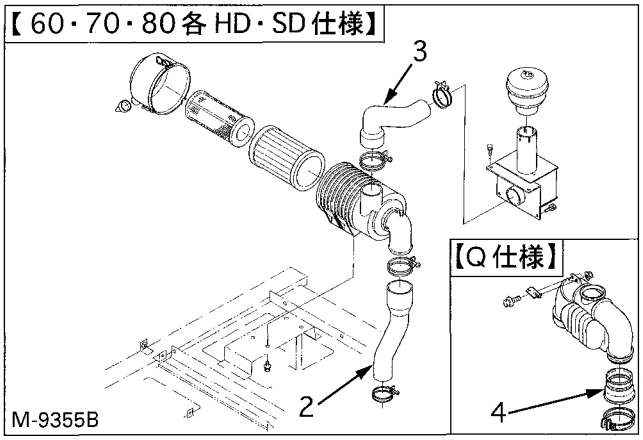
図番	品　　名	品　　番	対象型式
1	エアクリーナエレメントアッシ	59700-2611-2	全型式
2	エレメント(インナー)	55231-2615-0	

◆インレットパイプ

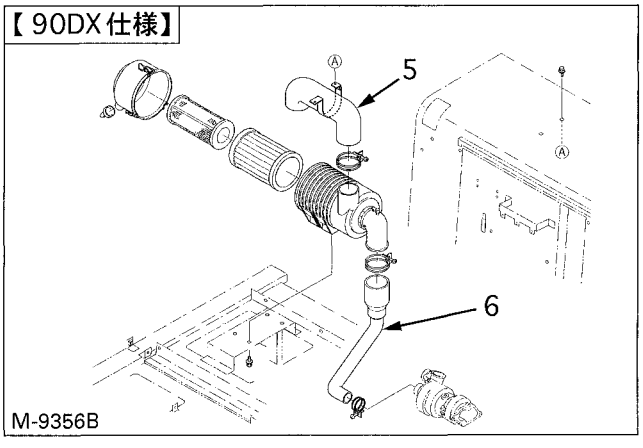
【60・70・80各DX仕様】

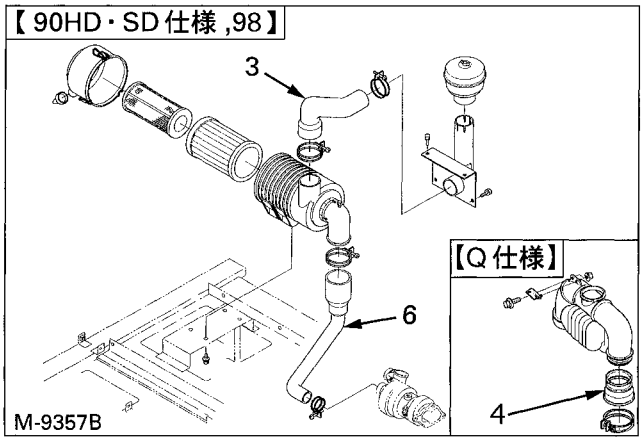


【60・70・80各HD・SD仕様】



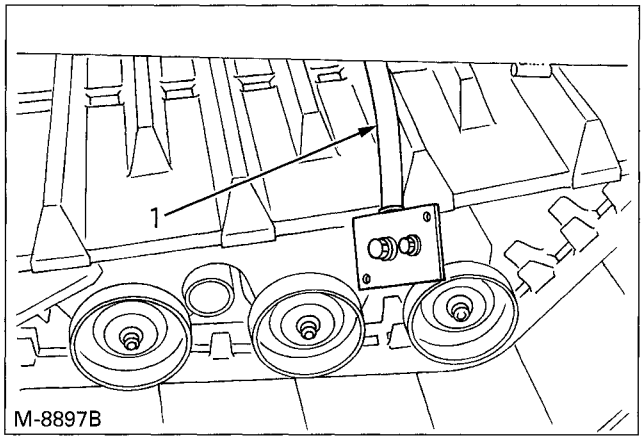
【90DX仕様】





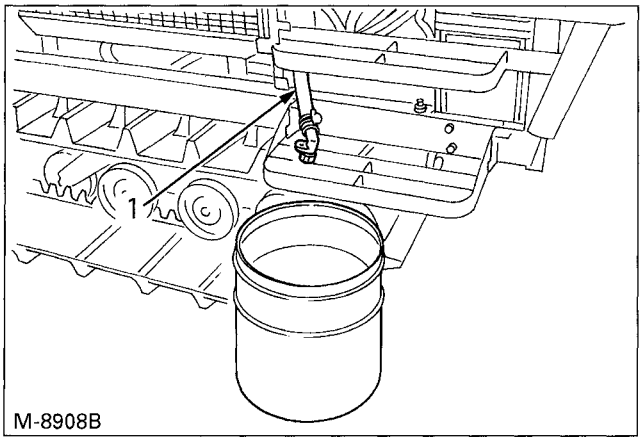
図番	品　　名	品　番	対象型式
1	ホース（1,インレット）	59800-2541-0	60・70・80 各DX仕様
2	ホース（2,インレット）	5H602-2624-0	60・70・80
3	ホース（1,インレット）	5H601-2623-0	Q仕様除く
4	ホース（90Q,インレット）	5H690-2632-0	Q仕様
5	ホース（1,インレット）	59700-2623-2	90DX仕様
6	ホース（2,インレット）	5H601-2624-0	90・98

◆オイルドレーンゴムホース



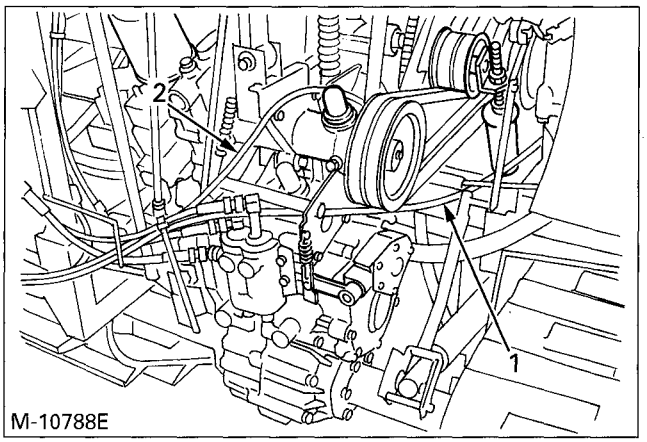
図番	品　　名	品　番	対象型式
1	ホース(オイルドレーン)	5H601-2521-0	全型式

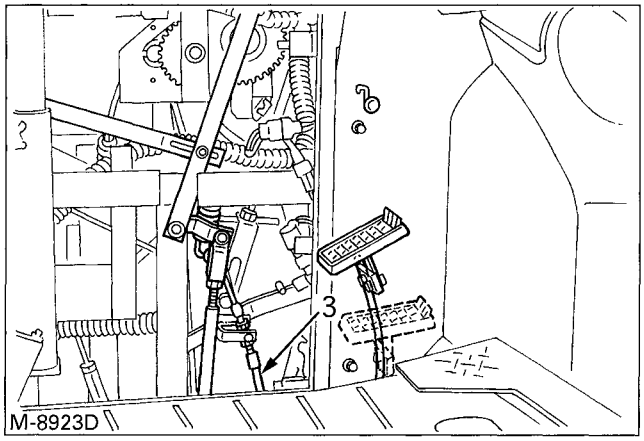
◆排水ホース



図番	品　　名	品　番	対象型式
1	ホース(ドレーン，ウォータ)	5H601-2554-0	全型式

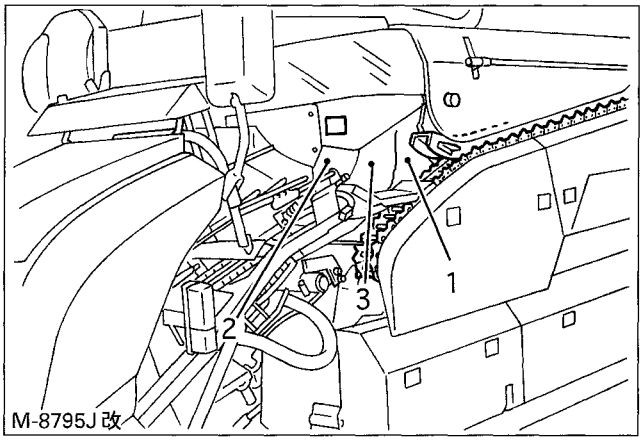
◆各ワイヤ





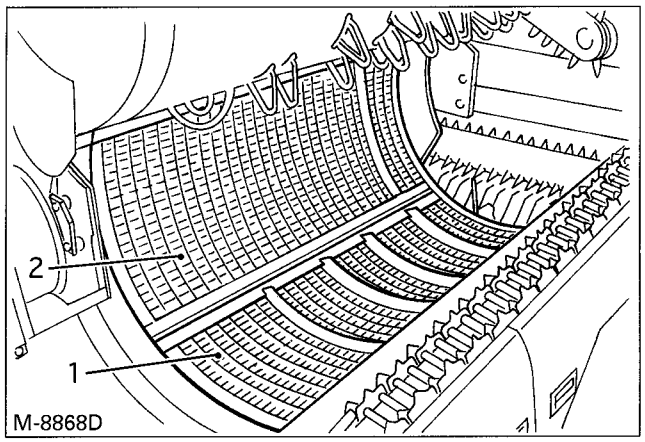
図番	品　　名	品　番	対象型式
1	ケーブル(ダッコククラッチ)	5H601-3165-0	全型式
2	ケーブル(カリトリクラッチ)	5H601-3164-0	
3	ケーブル(ブレーキ)	5H601-3216-0	

◆フロントハンプ



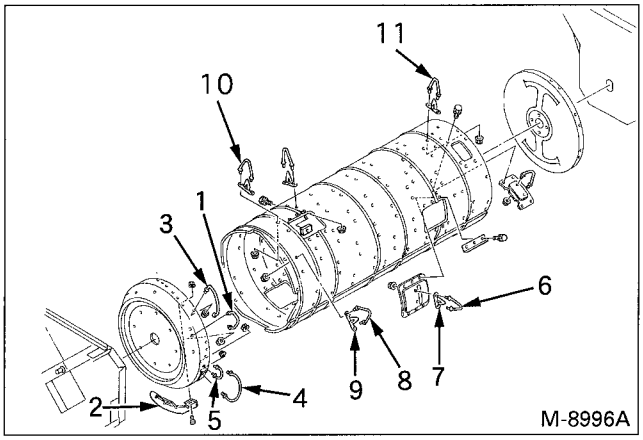
図番	品　　名	品　番	対象型式
1	ハンプ(1，フロント)	5K190-6112-0	全型式
2	ハンプ(2，フロント)	5K190-6113-0	
3	ハンプ(3，フロント)	5K190-6114-0	

◆受あみ



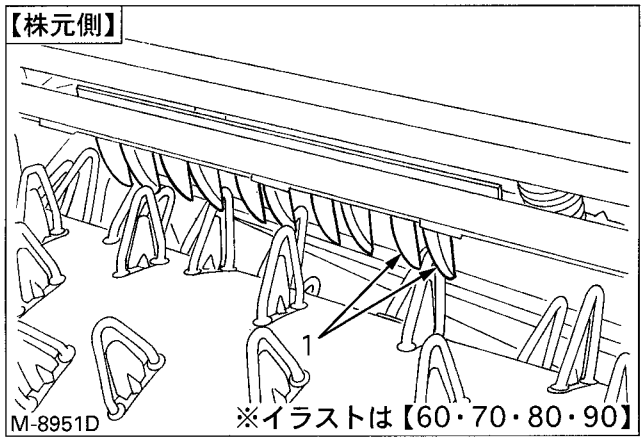
図番	品　　名	品　　番	対象型式
1	コンケーブ(コウシ10, シタ)	5K190-2111-0	60・70・80・90
1	コンケーブ(コウシ８, シタ)	5K198-2111-0	98
2	コンケーブ(コウシ10, ウエ)	5K190-2112-0	60・70・80・90
2	コンケーブ(コウシ８, ウエ)	5K198-2112-0	98

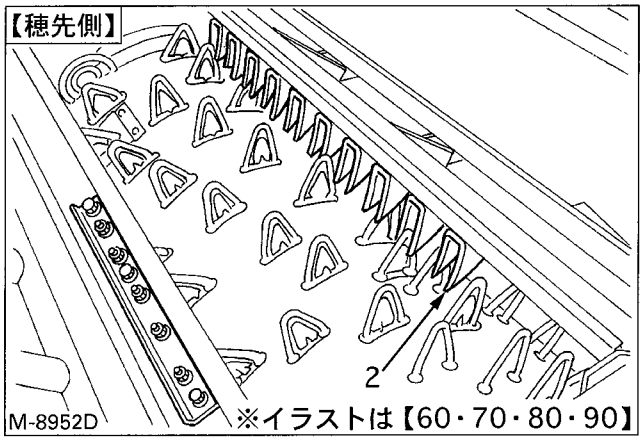
◆こぎ歯



図番	品　　名	品　　番	対象型式
1	セイソシ(1)	5K190-2234-0	全型式
2	セイソシ(イタ1)	5K190-2235-0	
3	セイソシ(2, ヘンケイ)	5K190-2237-0	
4	セイソシ(2)	5K190-2238-0	
5	ダイ3セイソシシヨウ	53551-2174-0	
6	ナミハ	53821-2248-3	
7	イタコキハ	53821-2249-0	
8	ダイ1ホキョウシ	53821-2244-0	
9	イタホキョウシ	53821-2246-0	
10	ダイ2ホキョウシ	53821-2247-0	
11	コキハ(ヘンケイ)	53981-2251-0	

◆わら切刃

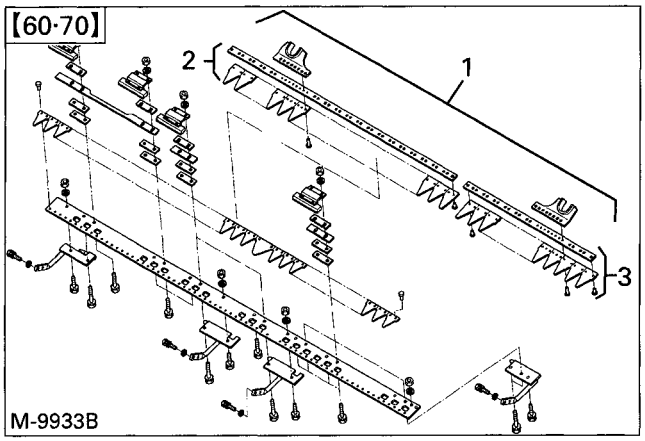




図番	品　　名	品　　番	対象型式
1	セツダンバ	53981-1319-0	全型式
2	セツダンバ	53981-2123-0	

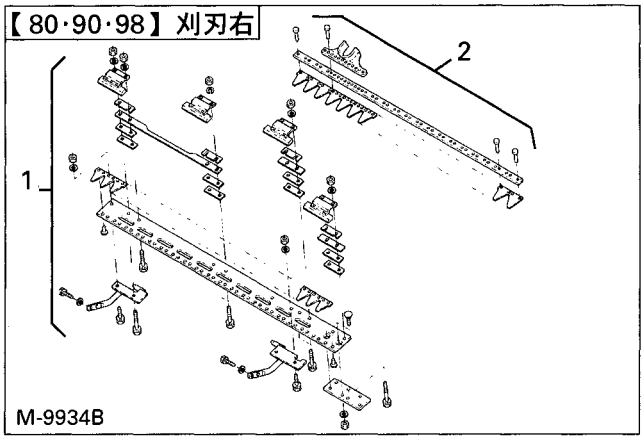
◆刈刃

【60·70】



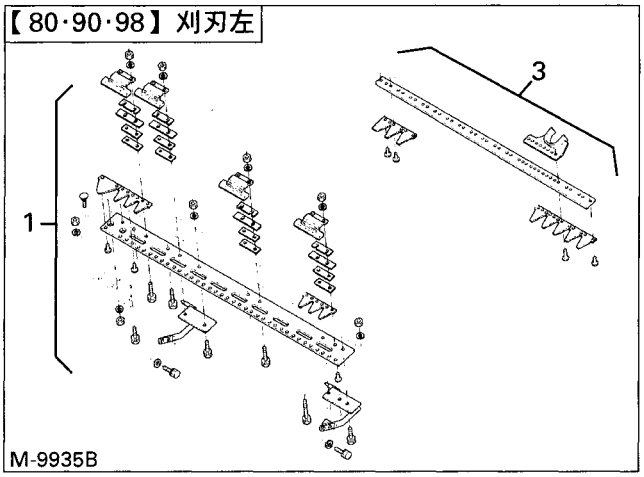
M-9933B

【80·90·98】刈刃右



M-9934B

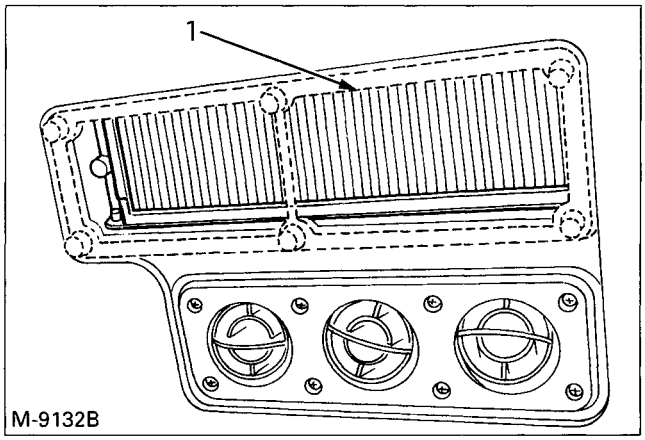
【80·90·98】刈刃左



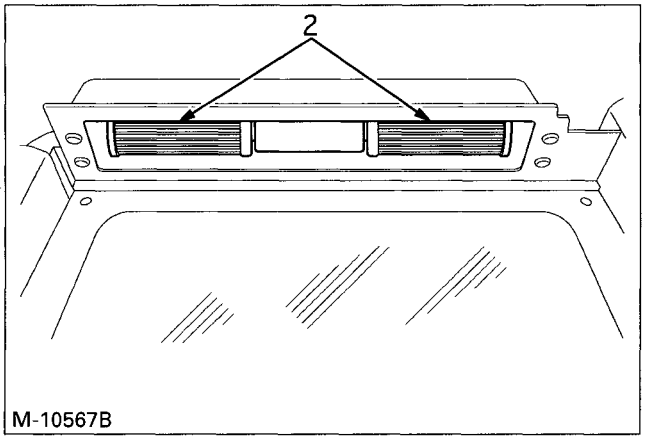
M-9935B

図番	品　　名	品　　番	対象型式
1	刈刃アッシ	5H603-5960-0	60・70
1	刈刃アッシ	5H672-5905-0	80・90・98
2	刈刃コンプ(R)	5H603-5985-0	60・70
2	刈刃アッシ(R)	5H672-5906-0	80・90・98
3	刈刃コンプ(L)	5H603-5970-0	60・70
3	刈刃アッシ(L)	5H672-5907-0	80・90・98

◆エアコンフィルタ[Q仕様]



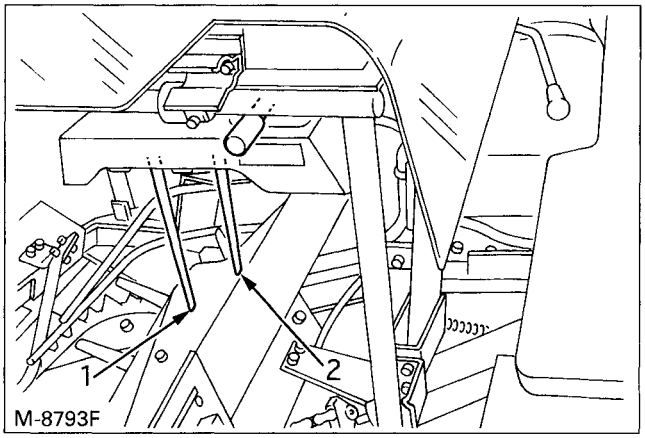
M-9132B



M-10567B

図番	品　　名	品　　番	対象型式
1	フィルタ(ナイキ)	5H690-3728-0	全型式
2	フィルタ(ガイキ)	5H690-3745-0	

◆穂先センサ



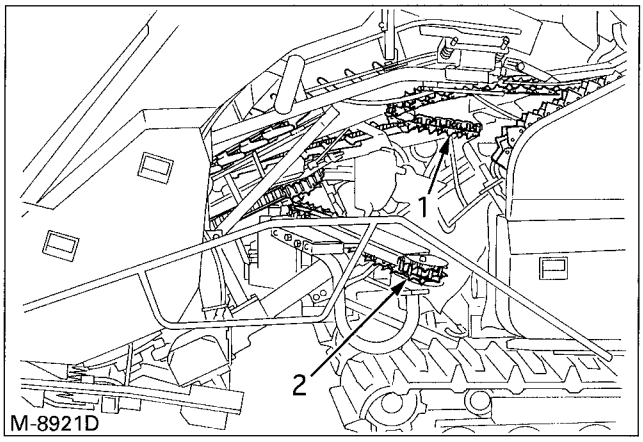
M-8793F

図番	品　　名	品　　番	対象型式
1	スイッチ,アッシ(ホサキ,250)	5H601-7560-0	全型式
2	スイッチ,アッシ(ホサキ,210)	5H601-7570-0	

◆各チェーン

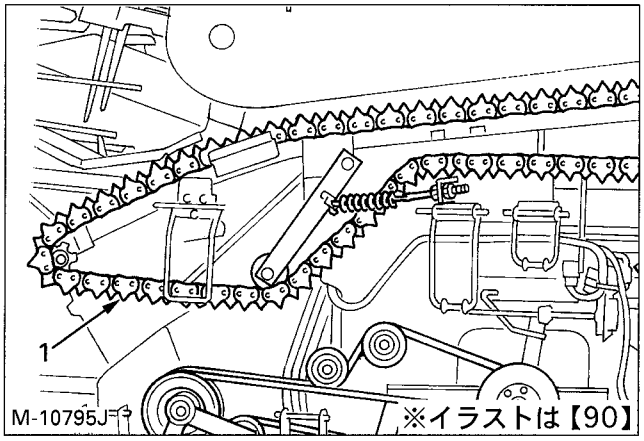
●株元供給チェーン

●こぎ深さチェーン



図番	品　　名	品　　番	対象型式
1	チェーン,アッシ(39,キョウキュウ)	5H601-6610-0	全型式
2	チェーン,アッシ(46,フカサ)	5H601-7130-0	

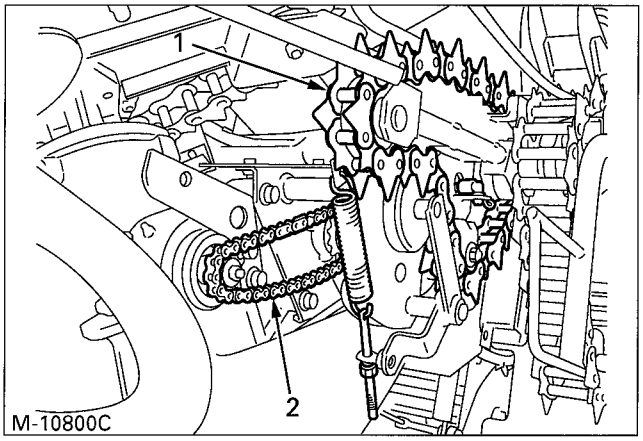
●フィードチェーン



図番	品　　名	品　　番	対象型式
1	チェーン,アッシ(フィード)	5K190-4211-0	60・70・80・90
1	チェーン,アッシ(フィード)	5K198-4211-0	98

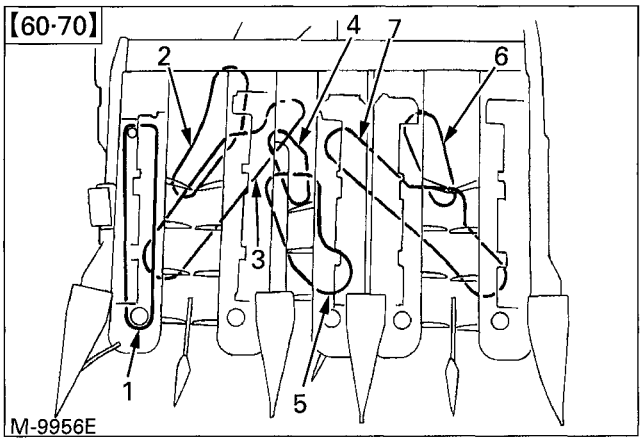
●供給サポートチェーン

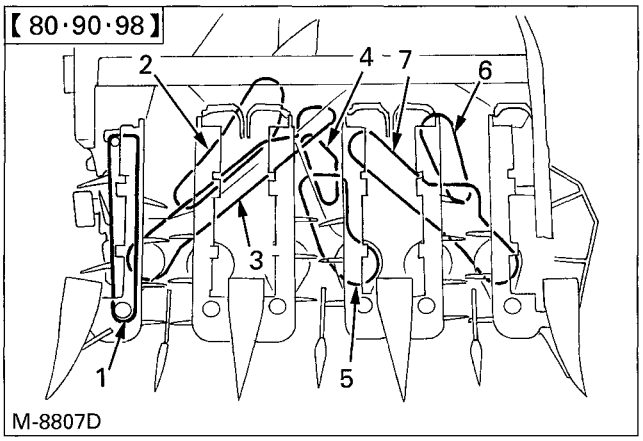
●供給サポートチェーン駆動チェーン



図番	品　　名	品　　番	対象型式
1	チェーン,アッシ(31,サポート)	5H658-6680-0	98
2	チェーン,アッシ(サポートクドウ)	5H658-6660-0	98

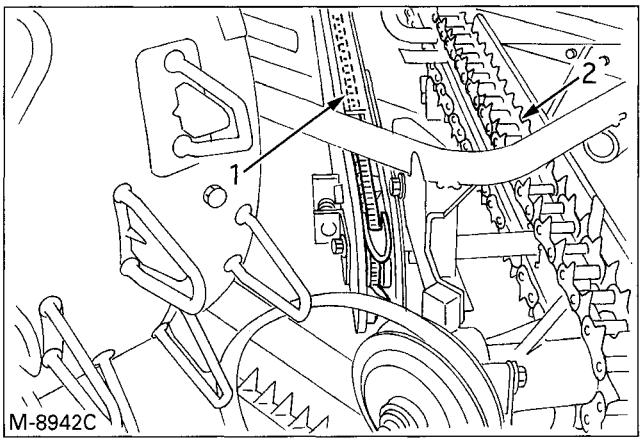
●引起しチェーン
●右穂先・株元チェーン
●中穂先・株元チェーン
●左穂先・株元チェーン





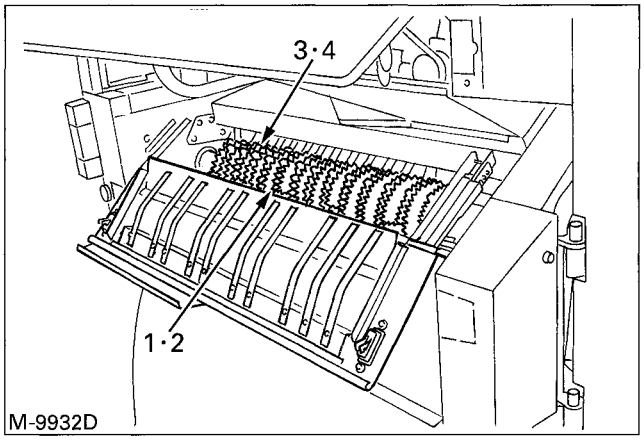
図番	品　　名	品　　番	対象型式
1	引起しチェーン爪アッシ	52200-5401-0	全型式
2	チェーン,アッシ (R,ホサキツメ)	5H603-6701-0	60・70
		5H601-6701-0	80・90・98
3	チェーン,アッシ(81,ミギ)	5H603-6360-0	60・70
	チェーン,アッシ(88,ミギ)	5H601-6360-0	80・90・98
4	チェーン,アッシ (C,ホサキツメ)	5H603-6905-3	60・70
		5H601-6905-0	80・90・98
5	チェーン,アッシ(35,ナカ)	5H603-6910-3	60・70
	チェーン,アッシ(41,ナカ)	5H601-6910-0	80・90・98
6	チェーン,アッシ (L,ホサキツメ)	5H603-6501-0	60・70
		5H601-6501-0	80・90・98
7	チェーン,アッシ(56,ヒダリ)	5H603-6320-2	60・70
	チェーン,アッシ(64,ヒダリ)	5H601-6320-2	80・90・98

●排わら穂先・株元チェーン



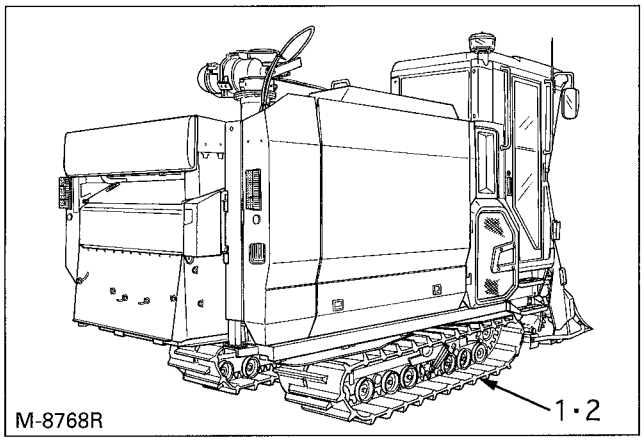
図番	品　　名	品　　番	対象型式
1	ハイワラホサキチェーン,アッシ	53961-4410-0	全型式
2	チェーン(ハイワラ)	53981-4311-0	

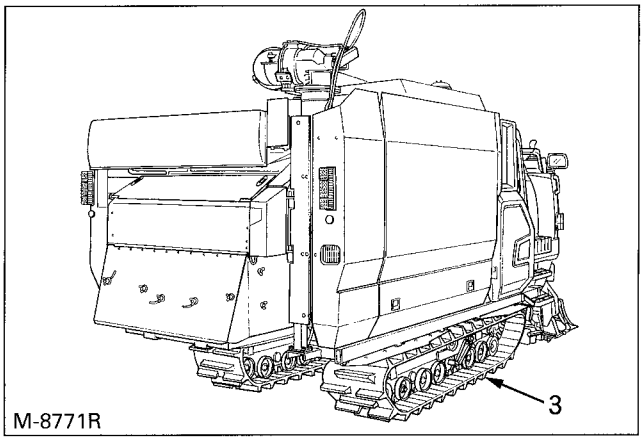
◆カッタ刃・供給刃



図番	品　　名	品　　番	対象型式
1	セツダンバ(200×21セラミックD)	57745-5248-0	全型式
2	セツダンバ(170×21セラミックD)	57745-5246-0	
3	カキコミバ160	57781-5212-0	
4	ロータ(160)	57745-5612-0	

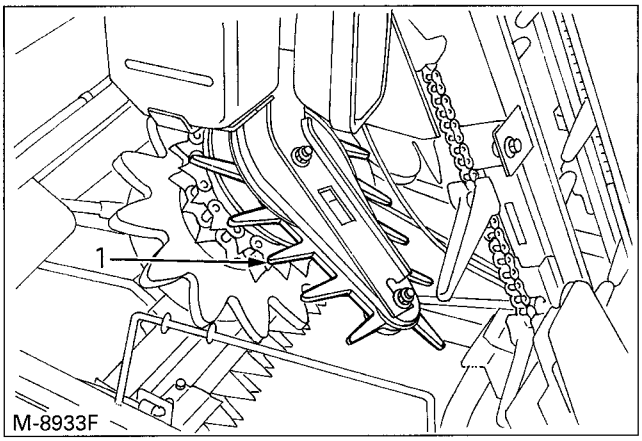
◆クローラ





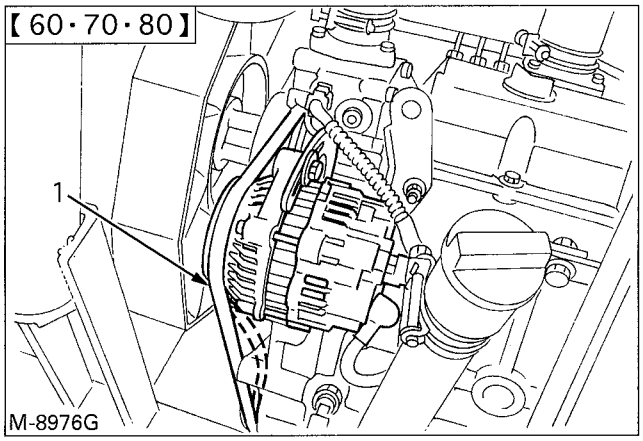
図番	品　　名	品　番	対象型式
1	クローラ(550, 56)	5H601-2312-0	90・98
2	クローラ(500, 56)	5H602-2312-0	80
3	クローラ(450, 56)	5H603-2312-0	60・70

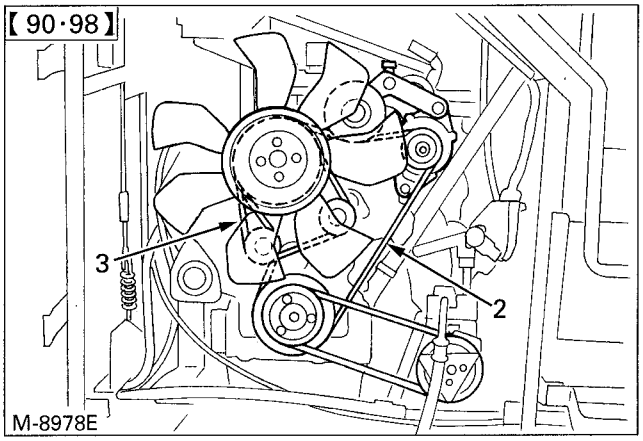
◆突起付ベルト



図番	品　　名	品　番	対象型式
1	ベルト(突起付)	5H601-6212-1	全型式

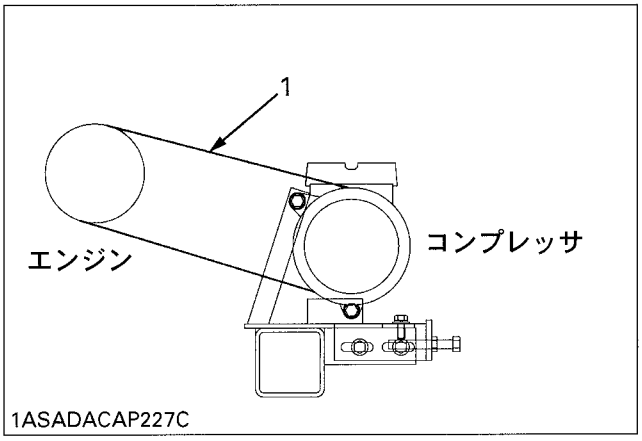
◆ファン駆動ベルト

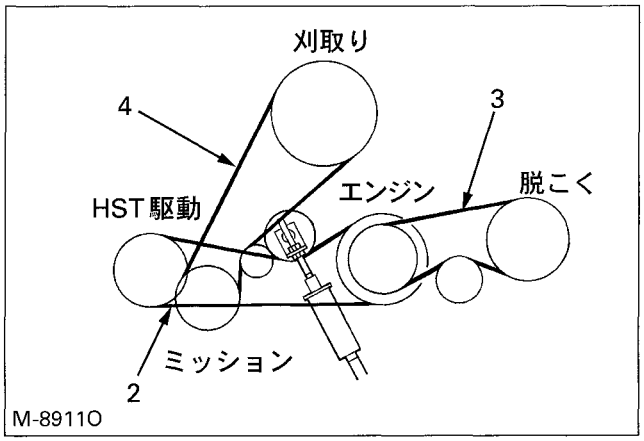


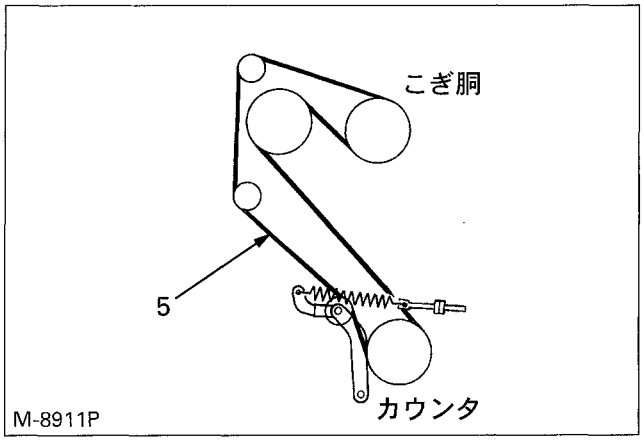


図番	品　　名	品　番	対象型式
1	Vベルト	1G541-9701-0	60・70・80
2	ベルト(Vリブド, 1315)	5H601-2598-0	90・98
3	ベルト(Vリブド, 670)	5H601-2599-0	

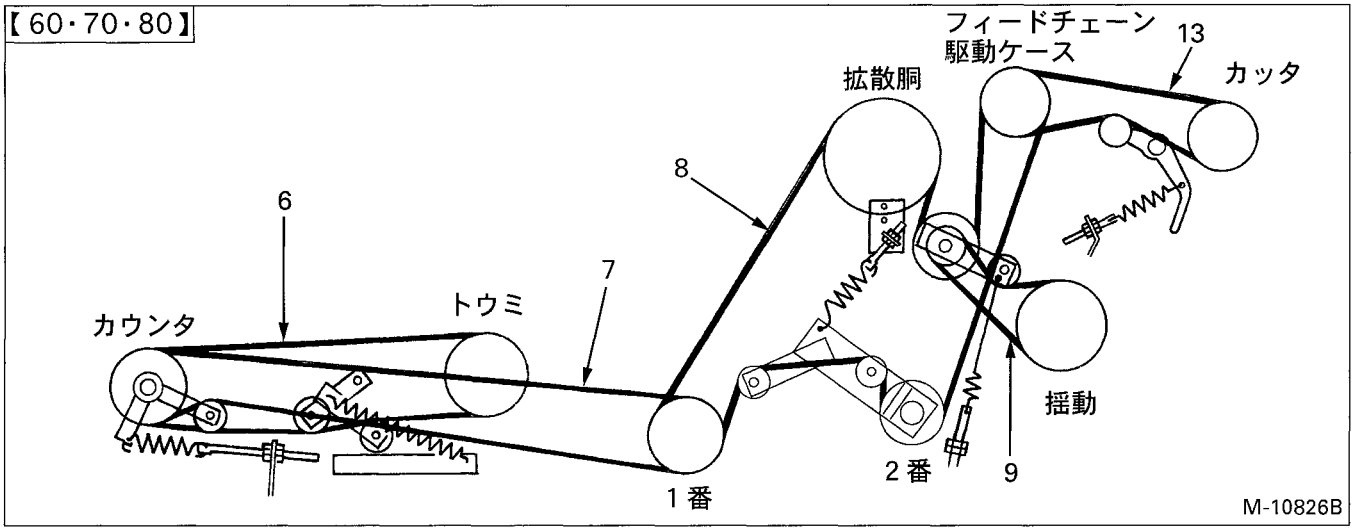
◆各ベルト



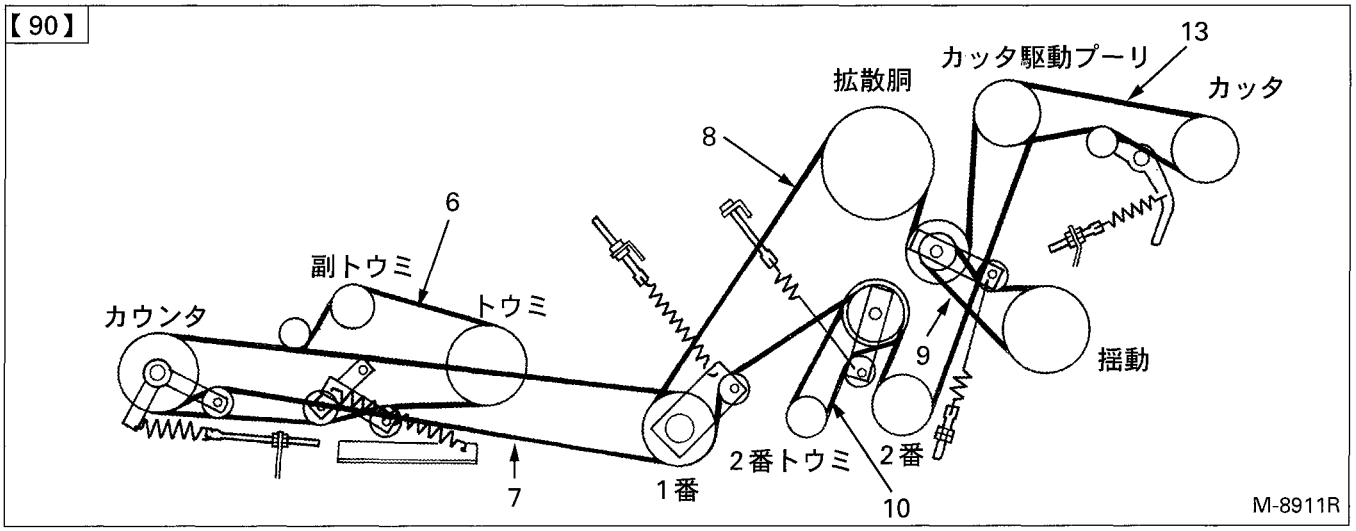

刈取り
4
3
HST駆動
エンジン
脱こく
ミッション
2
M-8911O


こぎ胴
5
カウンタ
M-8911P

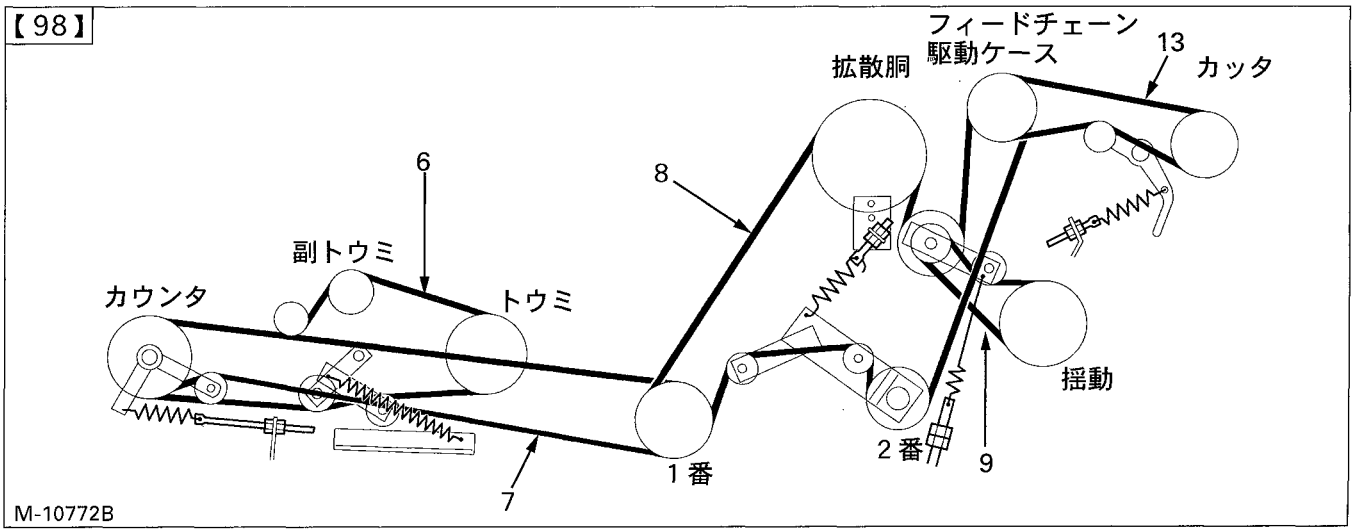
【60・70・80】


フィードチェーン
駆動ケース
13
カッタ
拡散胴
8
6
7
カウンタ
トウミ
揺動
1番
2番
9
M-10826B

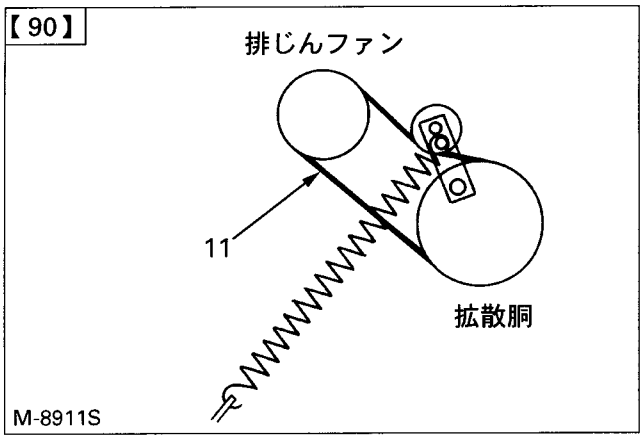
【90】

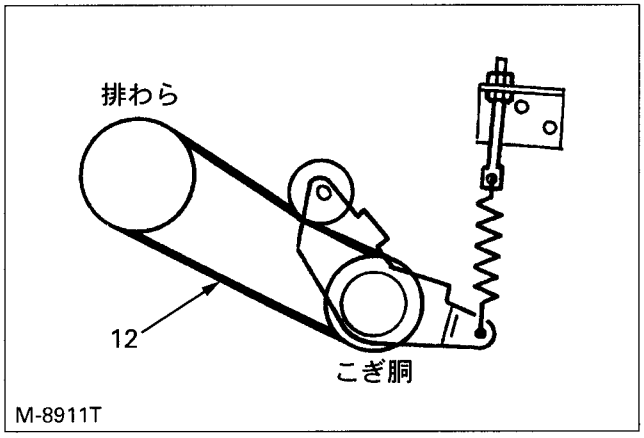

13
カッタ駆動プーリ
カッタ
拡散胴
8
6
副トウミ
トウミ
カウンタ
揺動
9
7
1番
2番トウミ
2番
10
M-8911R

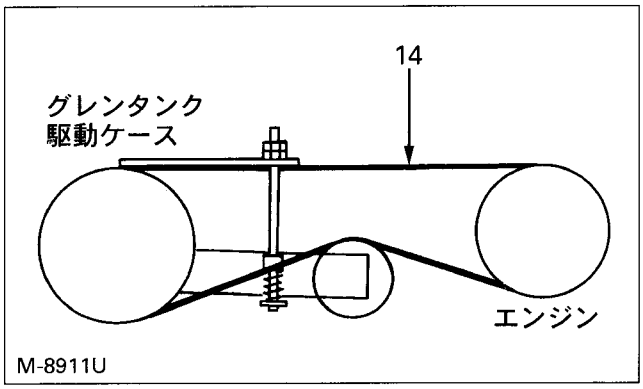
【98】


フィードチェーン
駆動ケース
13
カッタ
拡散胴
6
8
副トウミ
トウミ
カウンタ
揺動
2番
9
1番
7
M-10772B

【90】







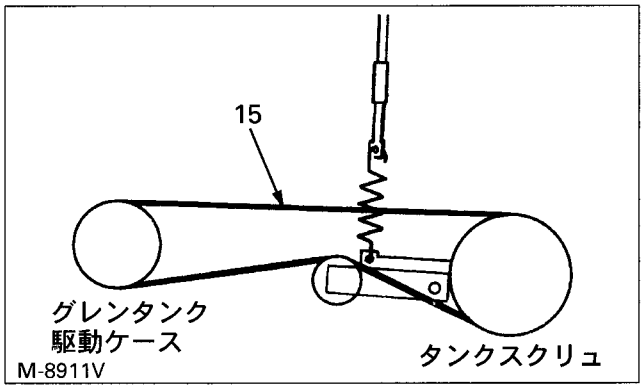
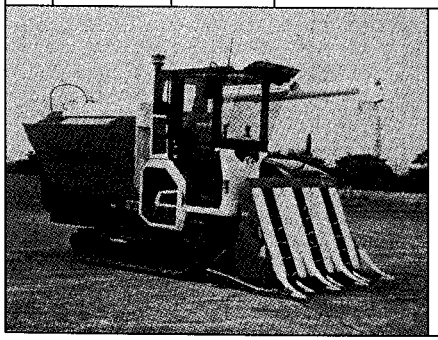


図　番	品　　名	品　　番	対　象　型　式
1	Vベルト(A37)	5H690-3627-0	Q仕様
2	Vベルト(C60)	5H604-1146-0	60
	Vベルト(C59)	5H603-1146-0	70
	Vベルト，アッシ(コグC60)	5H602-1140-0	80
	Vベルト，アッシ(コグC59)	5H601-1140-0	90・98
3	Vベルト(B44)	5H602-1157-0	60
	Vベルト，アッシ(コグB44)	5H601-1150-0	70・80・90・98
4	Vベルト(C57)	5H601-1175-0	60・70・80・90
	Vベルト(C58)	5H658-1175-0	98
5	Vベルト(B153)	5K190-7111-0	60・70・80・90
	Vベルト(B154)	5K198-7111-0	98
6	Vベルト(トクB80)	5K180-7114-0	60・70・80
	Vベルト(トクB84)	5K190-7114-0	90
	Vベルト(トクB86)	5K198-7114-0	98
7	Vベルト(C113)	5K190-7112-0	60・70・80・90
	Vベルト(C117)	5K198-7112-0	98
8	Vベルト(C149)	5K180-7113-0	60・70・80・98
	Vベルト(C161)	5K190-7113-0	90
9	Vベルト(B43)	53985-7115-0	全型式
10	Vベルト(B37)	5K190-7122-0	90
11	コグベルト(トクB41)	5K190-7121-0	90
12	Vベルト(B39)	53973-7117-0	全型式
13	Vベルト(B-55)	5K190-7115-0	全型式
14	Vベルト(C62)	5G200-8126-0	60・70・80・90
	Vベルト(コグC65)	5G217-8126-0	98
15	Vベルト(C68)	5G200-8137-0	全型式

コンバイン(自脱型)検査成績表

合格番号	200032	型式名	クボタR0001
		依頼者名	株式会社クボタ
		住所	大阪府大阪市浪速区敷津東１丁目２番47号

平成12年12月 生物系特定産業技術研究推進機構



- 乗用型、６条刈
- 穀粒処理方式：タンク式
- 機関出力：66.2kW {90PS} /2600rpm
- 走行変速方式：ＨＳＴによる無段変速（主変速）ギヤ変速３段（副変速）
- 走行速度：前進 0～2.69m/s，後進 0～2.69m/s
- 自動車速制御装置、自動車体水平制御装置、自動方向制御装置、自動刈高さ制御装置、自動こぎ深さ制御装置、フィードチェーン変速制御装置、自動レール制御装置、自動選別制御装置

Ⅰ 主要諸元・構造

１．機体の大きさ（作業状態、カッタ・結束機付き）
- 全長：541cm（デバイダ～結束機後部）
- 全幅：303cm（左分草桿～タンク張り出し部）
- 全高：286cm（アンテナ先端部）
- 質量：3890kg

２．機関
- 型式名：クボタＶ３３００ ＤＩ－Ｔ－Ｃ
- 種類：水冷４サイクル４気筒立形ディーゼル
- 出力：66.2kW {90PS} /2600rpm
- 始動方式：セルモータ式

３．走行部
- 形式：ゴムクローラ
- 主変速：ＨＳＴ（無段）
- 副変速：３段
- 走行速度：前進 0～2.69m/s，後進 0～2.69m/s

４．前処理部
- デバイダ最外側先端間隔：203cm
- 昇降方式：油圧式（刈刃の高さ-1.8～51cm）

(1) 引起し装置
- 形式：タインドチェーン方式

(2) 刈取装置
- 形式：往復動刃
- 刃幅：193.9cm

(3) 搬送装置

突起付Ｖベルト、スターホイル
タインドチェーン、搬送チェーン

５．脱穀・選別部

こぎ胴、処理胴、揺動板（篩）、圧風ファン、吸引ファン
- 脱穀形式：下こぎ式
- こぎ胴の径と幅：42×110cm
- こぎ胴回転速度：504rpm

６．穀粒処理部
- 処理方式：タンク式
- 呼称容量：1900L（満杯容量）

７．排わら処理装置

ディスク型カッタ、結束装置

Ⅱ 検査成績

１．作業の性能

(1)能率試験（試験場所：埼玉県北足立郡吹上町）

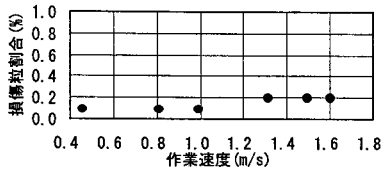
供試作物・品種	作物条件 条間×株間	作物全長	含水率 穀粒	含水率 わら	概略もみ収量（含水率15%換算）
水稲 朝の光	29×18cm	93cm	28.5%	66.9%	600kg/10a

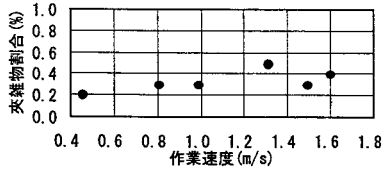
供試ほ場区画	機械刈面積	作業方法	作業速度	穀粒口流量	正味ほ場作業量	ほ場作業量
80.2×57.7	4612 ㎡	６条左回り刈り	1.60m/s	7105kg/h	76.4a/h	57.5a/h 1) 2)

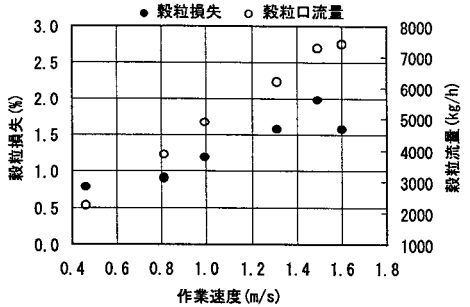
1) 排出場所をほ場の長辺上に設定せざるを得なかったため、短辺上に設定した場合と比較して、ほ場作業量が若干低下した。
2) ほ場４隅の手刈時間とその手こぎ時間を含めた場合の作業量は、47.0a/h であった。

(2)精度試験（試験場所：埼玉県北足立郡吹上町）

供試作物・品種	作物条件 条間×株間	作物全長	含水率 穀粒	含水率 わら	概略もみ収量（含水率15%換算）
水稲 朝の光	30×16cm	100cm	21.0%	70.0%	700kg/10a







注）自動選別制御装置を装備しない仕様があるため、この装置を動作させずに試験を行った。

２．騒　　音：89dB(A)

３．安全装備：可動部・高温部・突起部の防護カバー、昇降部の落下防止装置、その他の装置

４．そ の 他：自動車速制御装置、自動車体水平制御装置、自動方向制御装置、自動刈高さ制御、自動こぎ深さ制御装置、フィードチェーン変速制御装置、自動レール制御装置、自動選別制御装置は円滑に動作した。

正味ほ場作業量：機械刈面積を正味作業時間（刈取及びそれに伴う回行に要する時間）で除した単位時間当たりの作業面積をいう。

ほ 場 作 業 量：機械刈面積を収穫開始から終了までの全時間で除した単位時間作当たりの作業面積をいう。なお、作業人員は運転者１名である。

騒　　音：刈取作業時の運転者耳元での騒音レベル値。

Ⅲ 付　　記

本機は、高性能農業機械等の試験研究、実用化の促進及び導入に関する基本方針（平成10年７月29日農林水産大臣公表）に定められたコンバインの第Ⅲ類自脱型に属するものである。

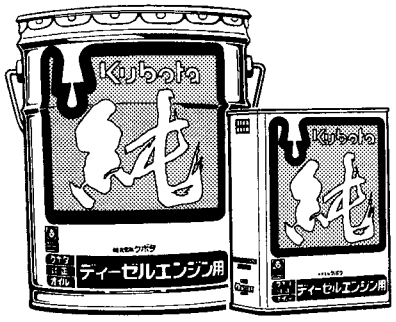
クボタ純オイル

■オイルは クボタ純オイル をお使いください。

オイルは，コンバインの開発研究から生まれたクボタ純オイルを，必ずお使いください。
市販のオイルをご使用になりますと，あなたの大切なコンバインの寿命を縮めることがあります。

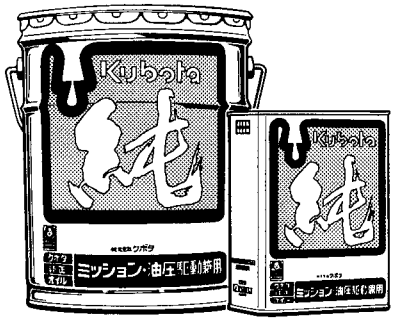
お買求めは，販売店またはＪＡ農協へご用命ください。

● D30又はD10W30（ディーゼルエンジン用）
D10W30スーパーCD又はD30スーパーCD
（ターボ付きエンジン）



Z-1025　　20ℓ　　4ℓ

● スーパーUDT
（油圧駆動・ミッション油圧　・各ギヤ兼用）

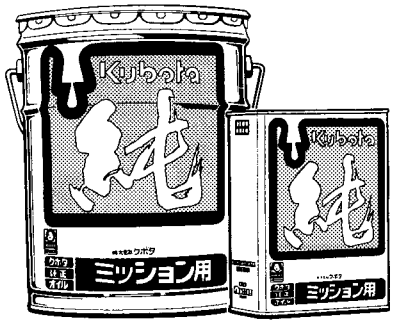


Z-1021　　20ℓ　　4ℓ

● M80B（ミッション油圧兼用）

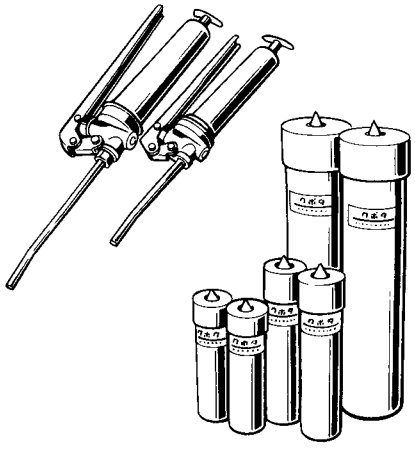
Z-1024　　20ℓ　　4ℓ

● M90（一般ミッション・各ギヤ用）



Z-1023　　20ℓ　　4ℓ

■ クボタスペアグリース



Z-1026　　60　100　400

修理・取扱い・手入れなどでご不明の点はまず，購入先へ ご相談ください

おぼえのため，記入されると便利です

購入先名	担当	電話（　　）　　－
ご購入日	型式名	区分
車台番号(製造番号)	エンジン型式	エンジン番号

万一ご購入先でご不明の点がございましたら，下記にお問合わせください。

株式会社クボタ

機械札幌事務所：電(011)662-2121	〒063-0061	札幌市西区西町北16丁目1番1号
機械東日本事務所：電(048)862-1121	〒338-0832	さいたま市桜区西堀5丁目2番36号
機械西日本事務所：電(06)6470-5970	〒661-8567	尼崎市浜1丁目1番1号
機械福岡事務所：電(092)606-3161	〒811-0213	福岡市東区和白丘1丁目7番3号

クボタ機械サービス株式会社

本社営業技術部：電(072)241-8092	〒590-0823	堺市石津北町64番地
北海道営業技術推進部：電(011)662-2121	〒063-0061	札幌市西区西町北16丁目1番1号
秋田営業技術推進部：電(018)845-1644	〒011-0901	秋田市寺内字大小路207-54
仙台営業技術推進部：電(022)384-5162	〒981-1221	名取市田高字原182番地の1
東京営業技術推進部：電(048)862-1588	〒338-0832	さいたま市桜区西堀5丁目2番36号
新潟営業技術推進部：電(025)285-1263	〒950-0992	新潟市上所上1丁目14番15号
金沢営業技術推進部：電(076)275-1121	〒924-0038	松任市下柏野町956-1
名古屋営業技術推進部：電(0586)24-5111	〒491-0031	一宮市観音町1番地の1
大阪営業技術推進部：電(06)6470-5860	〒661-8567	尼崎市浜1丁目1番1号
米子営業技術推進部：電(0859)33-5011	〒683-0804	米子市米原7丁目1番1号
岡山営業技術推進部：電(086)279-4511	〒703-8216	岡山市宍甘275番地
株式会社四国クボタ 営業技術課：電(087)874-8500	〒769-0102	香川県綾歌郡国分寺町国分字向647-3
福岡営業技術推進部：電(092)606-3725	〒811-0213	福岡市東区和白丘1丁目7番3号
熊本営業技術推進部：電(096)357-6181	〒861-4147	熊本県下益城郡富合町大字廻江846-1

株式会社クボタアグリ東日本

東北系統推進部：電(018)845-1601	〒011-0901	秋田市寺内字大小路207-54
関東・甲信越系統推進部：電(048)862-1124	〒338-0832	さいたま市桜区西堀5丁目2番36号

株式会社クボタアグリ西日本

中部・近畿系統推進部：電(06)6470-5850	〒661-8567	尼崎市浜1丁目1番1号
株式会社四国クボタ 系統推進部：電(087)874-8500	〒769-0102	香川県綾歌郡国分寺町国分字向647-3

株式会社クボタアグリ九州

九州系統事業推進部：電(092)606-3166	〒811-0213	福岡市東区和白丘1丁目7番3号

AR60/70/80/90/98
AI.E.13－14.5.K

安全はクボタの願い

このマークは「お客様」「ディーラ」「クボタ」の三者
が一体となって安全宣言を行うための統一マークです。

株式会社クボタ

本　社　　大阪市浪速区敷津東１丁目２番47号　　〒556-8601

品番　5H601-8552-5

Kubota